



IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

RSTSYSINF (システム情報復元) での開始～

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

RSTSYSINF (システム情報復元) での開始～

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、921 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、i5/OS (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems - iSeries
i5/OS Commands
Starting with RSTSYSINF (Restore System Information)
Version 5 Release 4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

システム情報の復元 (RSTSYSINF) 1

パラメーター	1
装置 (DEV)	2
ボリューム識別コード (VOL)	2
順序番号 (SEQNBR)	3
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	3
保管ファイル (SAVF)	4
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	4
出力 (OUTPUT)	4
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	5
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	5
例	6
エラー・メッセージ	6

ユーザー・プロファイル復元 (RSTUSRPRF) 7

パラメーター	8
装置 (DEV)	9
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	9
ボリューム識別コード (VOL)	10
順序番号 (SEQNBR)	10
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	11
保管ファイル (SAVF)	11
メール (MAIL)	11
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	12
除外するユーザー・プロファイル (OMITUSRPRF)	13
機密保護データ (SECDDTA)	14
出力 (OUTPUT)	14
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	14
保管元ASP装置 (SAVASPDEV)	15
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	15
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	16
例	16
エラー・メッセージ	17

サブルーチンからの戻り (RTNSUBR) . . . 19

パラメーター	19
戻り値 (RTNVAL)	19
例	20
エラー・メッセージ	20

権限リスト項目検索 (RTVAUTLE) 21

パラメーター	21
権限リスト (AUTL)	22
ユーザー (USER)	22
*ALLのCL変数 (10) (ALL)	22
*CHANGEのCL変数 (10) (CHANGE)	22
*USEのCL変数 (10) (USE)	22
*EXCLUDEのCL変数 (10) (EXCLUDE)	23
*OBJALTERのCL変数 (10) (OBJALTER)	23

*OBJEXISTのCL変数 (10) (OBJEXIST)	23
*OBJMGTのCL変数 (10) (OBJMGT)	23
*OBJOPRのCL変数 (10) (OBJOPR)	23
*OBJREFのCL変数 (10) (OBJREF)	24
*READのCL変数 (10) (READ)	24
*ADDのCL変数 (10) (ADD)	24
*UPDのCL変数 (10) (UPDATE)	24
*DLTのCL変数 (10) (DELETE)	24
*EXECUTEのCL変数 (10) (EXECUTE)	25
*AUTLMGTのCL変数 (10) (AUTLMGT)	25
例	25
エラー・メッセージ	25

バックアップ・オプション検索 (RTVBCKUP) 27

パラメーター	27
バックアップ・オプション (BCKUPOPT)	27
DEVのCL変数 (43) (DEV)	28
TAPSETのCL変数 (34) (TAPSET)	28
CLRTAPのCL変数 (4) (CLRTAP)	28
SBMJOBのCL変数 (4) (SBMJOB)	28
CHGONLYのCL変数 (4) (CHGONLY)	28
PRTRPTのCL変数 (4) (PRTRPT)	28
LIBのCL変数 (10) (LIB)	29
FLRのCL変数 (10) (FLR)	29
DIRのCL変数 (10) (DIR)	29
SECDDTAのCL変数 (4) (SECDDTA)	29
CFGのCL変数 (4) (CFG)	29
MAILのCL変数 (4) (MAIL)	29
CALのCL変数 (4) (CAL)	30
EXITPGMのCL変数 (10) (EXITPGM)	30
EXITPGMLIBのCL変数 (10) (EXITPGMLIB)	30
例	30
エラー・メッセージ	30

バインダー・ソース検索 (RTVBNDSRC) 31

パラメーター	32
モジュール (MODULE)	32
サービス・プログラム (SRVPGM)	33
ソース・ファイルのエクスポート (SRCFILE)	33
ソース・メンバーのエクスポート (SRCMBR)	34
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	34
例	35
エラー・メッセージ	35

構成ソースの検索 (RTVCFGSRC) 37

パラメーター	37
構成記述 (CFGD)	37
タイプ (CFGTYPE)	38
ソース・ファイル (SRCFILE)	39
ソース・メンバー (SRCMBR)	39

検索オプション (RTVOPT)	40
メンバー・オプション (MBROPT)	40
テキスト記述 (TEXT)	40
例	41
エラー・メッセージ	41

構成状況検索 (RTVCFGSTS) 43

パラメーター	43
構成記述 (CFGD)	43
タイプ (CFGTYPE)	43
状況コードのCL変数 (STSCDE)	44
例	45
エラー・メッセージ	45

Cロケール記述の検索 (RTVCLDSRC) . . . 47

エラー・メッセージ: RTVCLDSRC	47
パラメーター	47
ロケール名 (CLD)	48
ソース・ファイル (SRCFILE)	48
ソース・メンバー (SRCMBR)	48
テキスト記述 (TEXT)	49
例	49
エラー・メッセージ	49

クリーンアップの検索 (RTVCLNUP) . . . 51

パラメーター	51
ALWCLNUPのCL変数 (4) (ALWCLNUP)	51
STRTIMEのCL変数 (10) (STRTIME)	51
USRMSGのCL変数 (5) (USRMSG)	52
SYSMSGのCL変数 (5) (SYSMSG)	52
CRITSYSMSGのCL変数 (5) (CRITSYSMSG)	52
SYSVRTのCL変数 (5) (SYSVRT)	52
SYSLOGのCL変数 (5) (SYSLOG)	52
JOBQ名のCL変数 (10) (JOBQ)	52
JOBQライブラリーのCL変数(10) (JOBQLIB)	53
RUNPTYのCL変数 (2 0) (RUNPTY)	53
JRNRCVSIZのCL変数 (7 0) (JRNRCVSIZ)	53
CALITMのCL変数 (5) (CALITM)	53
例	53
エラー・メッセージ	54

ソースCL検索 (RTVCLSRC) 55

パラメーター	55
プログラム (PGM)	55
ソース・ファイル (SRCFILE)	56
ソース・メンバー (SRCMBR)	56
例	56
エラー・メッセージ	57

現行ディレクトリーの検索 (RTVCURDIR) 59

パラメーター	59
RTNDIRのCL変数 (9999) (RTNDIR)	59
DIRNAMLENのCL変数 (7 0) (DIRNAMLEN)	60
例	60
エラー・メッセージ	60

ディレクトリー情報の検索 (RTVDIRINF) 61

パラメーター	61
ディレクトリー (DIR)	61
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	62
情報ファイルの接頭部 (INFFILEPFX)	62
情報ライブラリー (INFLIB)	62
例	63
エラー・メッセージ	63

DLO権限の検索 (RTVDLOAUT) 65

パラメーター	65
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	66
フォルダー (FLR)	66
文書識別コード (DOCID)	66
LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)	67
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	67
開始ユーザー権限項目 (STRUSRAUTE)	67
OWNERのCL変数 (10) (OWNER)	68
AUTLのCL変数 (10) (AUTL)	68
SENSITIVのCL変数 (20) (SENSITIV)	68
PUBAUTのCL変数 (10) (PUBAUT)	68
CHKOUTUSRのCL変数 (32) (CHKOUTUSR)	69
ACCのCL変数 (220) (ACC)	69
USRAUTのCL変数 (1020) (USRAUT)	69
GRPAUTのCL変数 (340) (GRPAUT)	70
PGPのCL変数 (10) (PGP)	70
例	70
エラー・メッセージ	70

DLO名の検索 (RTVDLONAM) 71

パラメーター	71
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	71
フォルダー (FLR)	72
文書識別コード (DOCID)	72
LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)	73
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	73
オブジェクト・クラス (OBJCLS)	73
RTNDLOのCL変数 (12) (RTNDLO)	74
RTNFLRのCL変数 (63) (RTNFLR)	74
RTNDOCIDのCL変数 (24) (RTNDOCID)	74
RTNLADNTSPのCL変数 (16) (RTNLADNTSP)	74
RTNOBJNAMのCL変数 (10) (RTNOBJNAM)	74
RTNOBJCLSのCL変数 (8) (RTNOBJCLS)	74
RTNASPのCL変数 (2 0) (RTNASP)	75
RTNOVRFLWのCL変数 (1) (RTNOVRFLW)	75
例	75
エラー・メッセージ	75

文書検索 (RTVDOC) 77

パラメーター	77
取り出し文書 (FROMDOC)	78
取り出しフォルダー (FROMFLR)	78
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	78
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	79
出力のデータ・タイプ (OUTDTATYP)	79
ユーザー識別コード (USRID)	81

文書識別コード (DOCID)	81	LOGCLPGMのCL変数 (10) (LOGCLPGM)	106
検査 (CHKOUT)	82	LOGOUTPUTのCL変数 (10) (LOGOUTPUT)	107
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	82	JOBMSGQMXのCL変数 (2 0) (JOBMSGQMX)	107
例	82	JOBMSGQFLのCL変数 (10) (JOBMSGQFL)	107
エラー・メッセージ	83	INQMSGRPYのCL変数 (10) (INQMSGRPY)	107
ディスク情報の検索 (RTVDSKINF)	85	STSMSGのCL変数 (7) (STSMSG)	107
パラメーター	85	BRKMSGのCL変数 (7) (BRKMSG)	107
ASP装置 (ASPDEV)	85	DEVRCYACNのCL変数 (13) (DEVRCYACN)	108
例	86	RTNCDEのCL変数 (5 0) (RTNCDE)	108
エラー・メッセージ	86	ENDSTSのCL変数 (1) (ENDSTS)	108
データ域検索 (RTVDTAARA)	87	PRTDEVのCL変数 (10) (PRTDEV)	108
パラメーター	88	OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)	108
データ域指定 (DTAARA)	88	OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)	109
戻された値のCL変数 (RTNVAR)	89	SPLFACNのCL変数 (10) (SPLFACN)	109
例	90	PRTTXTのCL変数 (30) (PRTTXT)	109
エラー・メッセージ	90	PRTKEYFMTのCL変数 (10) (PRTKEYFMT)	109
グループ属性検索 (RTVGRPA)	93	SRTSEQのCL変数 (10) (SRTSEQ)	109
パラメーター	93	SRTSEQLIBのCL変数 (10) (SRTSEQLIB)	109
GRPJOBのCL変数 (10) (GRPJOB)	93	LANGIDのCL変数 (3) (LANGID)	110
GRPJOB リストのCL変数(1056) (GRPJOB)	94	CNTRYIDのCL変数 (2) (CNTRYID)	110
GRPJOBCNTのCL変数 (3 0) (GRPJOBCNT)	94	CCSIDのCL変数 (5 0) (CCSID)	110
MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)	94	DFTCCSIDのCL変数 (5 0) (DFTCCSID)	110
MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)	94	CHRIDCTLのCL変数 (10) (CHRIDCTL)	110
PRVGRJOBのCL変数 (16) (PRVGRJOB)	94	DECfmtのCL変数 (1) (DECfmt)	110
CTLCDEのCL変数 (3 0) (CTLCDE)	95	DATfmtのCL変数 (4) (DATfmt)	110
例	95	DATSEPのCL変数 (1) (DATSEP)	111
エラー・メッセージ	96	TIMSEPのCL変数 (1) (TIMSEP)	111
イメージ・カタログの検索 (RTVIMGCLG)	97	DATEのCL変数 (6) (DATE)	111
パラメーター	97	CYMDDATEのCL変数 (7) (CYMDDATE)	111
イメージ・カタログ (IMGCLG)	97	DATETIMEのCL変数 (20) (DATETIME)	111
仮想装置 (DEV)	97	TIMZONのCL変数 (10) (TIMZON)	111
DEVLODのCL変数(10) (DEVLOD)	98	TIMZONABBRのCL変数 (10) (TIMZONABBR)	112
IMGCLGLODのCL変数(10) (IMGCLGLOD)	98	TIMZONFULLのCL変数 (50) (TIMZONFULL)	112
例	98	TIMOFFSETのCL変数 (3 0) (TIMOFFSET)	112
エラー・メッセージ	98	ACGCDEのCL変数 (15) (ACGCDE)	112
ジョブ属性検索 (RTVJOBA)	101	SWSのCL変数 (8) (SWS)	112
パラメーター	103	RUNPTYのCL変数 (2 0) (RUNPTY)	112
JOBのCL変数 (10) (JOB)	104	TIMESLICEのCL変数 (7 0) (TIMESLICE)	113
USERのCL変数 (10) (USER)	104	PURGEのCL変数 (10) (PURGE)	113
NBRのCL変数 (6) (NBR)	104	DFTWAITのCL変数 (7 0) (DFTWAIT)	113
CURUSERのCL変数 (10) (CURUSER)	105	SBMMSGQのCL変数 (10) (SBMMSGQ)	113
TYPEのCL変数 (1) (TYPE)	105	SBMMSGQLIBのCL変数 (10) (SBMMSGQLIB)	113
SUBTYPEのCL変数 (1) (SUBTYPE)	105	DDMCNVのCL変数 (5) (DDMCNV)	113
SYSLIBLのCL変数 (165) (SYSLIBL)	105	TSEPOOLのCL変数 (10) (TSEPOOL)	114
CURLIBのCL変数 (10) (CURLIB)	105	THDRSCAFNのCL変数 (20) (THDRSCAFN)	114
USRLIBLのCL変数 (2750) (USRLIBL)	106	RSCAFNGRPのCL変数 (10) (RSCAFNGRP)	114
ASPGRPのCL変数 (10) (ASPGRP)	106	例	114
LOGLVLのCL変数 (1) (LOGLVL)	106	エラー・メッセージ	115
LOGSEVのCL変数 (2 0) (LOGSEV)	106	ジャーナル項目検索 (RTVJRNE)	117
LOGTYPEのCL変数 (10) (LOGTYPE)	106	パラメーター	118
		ジャーナル (JRN)	120
		ジャーナルされた物理ファイル (FILE)	120
		オブジェクト (OBJ)	122
		オブジェクト (OBJPATH)	124
		ファイル識別コード (OBJFID)	126

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	126
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	127
名前パターン (PATTERN)	128
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	129
開始日および時刻 (FROMTIME)	129
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	130
終了日および時刻 (TOTIME)	130
検索 (SEARCH)	131
ジャーナル・コード (JRNCD)	131
ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)	132
ジョブ名 (JOB)	132
プログラム (PGM)	133
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	133
大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)	133
従属項目 (DEPENT)	134
入力様式 (ENTFMT)	134
最小化データの形式設定 (FMTMINDTA)	135
ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)	135
項目の組み込み (INCENT)	136
開始順序番号 (FROMENT)	136
終了順序番号 (TOENT)	137
コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)	137
RTNSEQLRGのCL変数 (20) (RTNSEQLRG)	138
RTNJRNCDのCL変数 (1) (RTNJRNCD)	138
RTNENTTYPのCL変数 (2) (RTNENTTYP)	138
RTNRCVのCL変数 (10) (RTNRCV)	138
RTNRCVLIBのCL変数 (10) (RTNRCVLIB)	138
RTNJRNEのCL変数 (1) (RTNJRNE)	139
RTNSEQNBRのCL変数 (10 0) (RTNSEQNBR)	144
例	144
エラー・メッセージ	145

ライブラリー記述の検索 (RTVLIBD) 147

パラメーター	147
ライブラリー (LIB)	147
TYPEのCL変数 (10) (TYPE)	148
ASPのCL変数 (2 0) (ASP)	148
ASPDEVのCL変数 (10) (ASPDEV)	148
ASPGRPのCL変数 (10) (ASPGRP)	148
CRTAUTのCL変数 (10) (CRTAUT)	149
CRTOBJAUDのCL変数 (10) (CRTOBJAUD)	149
TEXTのCL変数 (50) (TEXT)	149
例	149
エラー・メッセージ	149

メンバー記述の検索 (RTVMBRD) 151

パラメーター	151
ファイル (FILE)	152
メンバー (MBR)	153
RTNSYSTEMのCL変数 (4) (RTNSYSTEM)	153
RTNLIBのCL変数 (10) (RTNLIB)	154
RTNMBRのCL変数 (10) (RTNMBR)	154
FILEATRのCL変数 (3) (FILEATR)	154
FILETYPEのCL変数 (5) (FILETYPE)	154
SRCTYPEのCL変数 (10) (SRCTYPE)	154
SRCCHGDATEのCL変数 (13) (SRCCHGDATE)	155

CRTDATEのCL変数 (13) (CRTDATE)	155
EXPDATEのCL変数 (7) (EXPDATE)	155
TEXTのCL変数 (50) (TEXT)	155
NBRCURRCDのCL変数(10 0) (NBRCURRCD)	155
NBRDLTRCDのCL変数(10 0) (NBRDLTRCD)	156
SHAREのCL変数 (4) (SHARE)	156
DTASPCSIZEのCL変数(15 0) (DTASPCSIZE)	156
ACCPHYSIZEのCL変数(12 0) (ACCPHYSIZE)	156
CHGDATEのCL変数 (13) (CHGDATE)	156
SAVDATEのCL変数 (13) (SAVDATE)	157
RSTDATEのCL変数 (13) (RSTDATE)	157
NBRDTAMBRのCL変数(2 0) (NBRDTAMBR)	157
USEDATEのCL変数 (7) (USEDATE)	157
USECOUNTのCL変数 (5 0) (USECOUNT)	157
RESETDATEのCL変数 (7) (RESETDATE)	158
例	158
エラー・メッセージ	159

メッセージ検索 (RTVMSG) 161

パラメーター	161
メッセージ識別コード (MSGID)	162
メッセージ・ファイル (MSGF)	162
メッセージ・データ・フィールドの値 (MSGDTA)	162
第1 レベル・テキストのCL変数 (MSG)	162
MSGLENのCL変数 (5 0) (MSGLEN)	163
第2 レベル・テキストのCL変数 (SECLVL)	163
SECLVLENのCL変数 (5 0) (SECLVLEN)	163
SEVのCL変数 (2 0) (SEV)	163
ALROPTのCL変数 (9) (ALROPT)	163
LOGPRBのCL変数 (1) (LOGPRB)	163
CCSIDへの変換 (CCSID)	164
メッセージ・データCCSID (MDTACCSID)	164
テキスト CCSIDのCL変数(5 0) (TXTCCSID)	165
データ CCSIDのCL変数(5 0) (DTACCSID)	165
例	165
エラー・メッセージ	166

ネットワーク属性検索 (RTVNETA) 167

パラメーター	167
SYSNAME のCL 変数 (8) (SYSNAME)	168
PNDSYSNAMEのCL変数 (8) (PNDSYSNAME)	168
LCLNETIDのCL変数 (8) (LCLNETID)	168
LCLCPNAMEのCL変数 (8) (LCLCPNAME)	168
LCLLOCNAMEのCL変数 (8) (LCLLOCNAME)	169
DFTMODEのCL変数 (8) (DFTMODE)	169
NODETYPEのCL変数 (8) (NODETYPE)	169
DTACPRのCL変数 (10 0) (DTACPR)	169
DTACPRINMのCL変数(10 0) (DTACPRINM)	170
MAXINTSSNのCL変数 (5 0) (MAXINTSSN)	170
RARのCL変数 (5 0) (RAR)	170
NETSERVERのCL変数 (85) (NETSERVER)	170
ALRSTSのCL変数 (10) (ALRSTS)	171
ALRPRIFPのCL変数 (10) (ALRPRIFP)	171
ALRDFTFPのCL変数 (10) (ALRDFTFP)	171
ALRLOGSTSのCL変数 (7) (ALRLOGSTS)	172
ALRBCKFPのCL変数 (16) (ALRBCKFP)	172

ALRRQSFPPのCL変数 (16) (ALRRQSFPP)	172
ALRCTLDDのCL変数 (10) (ALRCTLDD)	172
ALRHLCNTのCL変数 (5 0) (ALRHLCNT)	173
ALRFTRのCL変数 (10) (ALRFTR)	173
ALRFTRLIBのCL変数 (10) (ALRFTRLIB)	173
MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)	173
MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)	174
OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)	174
OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)	174
JOBACNのCL変数 (10) (JOBACN)	174
MAXHOPのCL変数 (5 0) (MAXHOP)	175
DDMACCのCL変数 (10) (DDMACC)	175
DDMACCLIBのCL変数 (10) (DDMACCLIB)	175
PCSACC用CL変数 (10) (PCSACC)	176
PCSACCLIBのCL変数 (10) (PCSACCLIB)	176
DFTNETTYPEのCL変数 (10) (DFTNETTYPE)	176
DFTCNLSTのCL変数 (10) (DFTCNLST)	176
ALWANYNETのCL変数 (10) (ALWANYNET)	177
NWSDOMAINのCL変数 (8) (NWSDOMAIN)	177
ALWVRTAPPNのCL変数 (10) (ALWVRTAPPN)	177
ALWHPRTWRのCL変数 (10) (ALWHPRTWR)	177
VRTAUTODEVのCL変数 (5 0) (VRTAUTODEV)	177
HPRPHTMRのCL変数 (40) (HPRPHTMR)	177
ALWADDCLUのCL変数 (10) (ALWADDCLU)	178
MDMCNTRYIDのCL変数 (2) (MDMCNTRYID)	178
例	178
エラー・メッセージ	179

オブジェクト記述の検索 (RTVOBJD) 181

パラメーター	181
オブジェクト (OBJ)	183
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	184
ASP装置 (ASPDEV)	184
RTNLIBのCL変数 (10) (RTNLIB)	185
OBJATRのCL変数 (10) (OBJATR)	185
USRDFNATRのCL変数 (10) (USRDFNATR)	185
TEXTのCL変数 (50) (TEXT)	185
OWNERのCL変数 (10) (OWNER)	186
PGPのCL変数 (10) (PGP)	186
ASPのCL変数 (2 0) (ASP)	186
LIBASPのCL変数 (5 0) (LIBASP)	186
OBJASPDEVのCL変数 (10) (OBJASPDEV)	186
OBJASPGRPのCL変数 (10) (OBJASPGRP)	187
LIBASPDEVのCL変数 (10) (LIBASPDEV)	187
LIBASPGRPのCL変数 (10) (LIBASPGRP)	187
OVFASPのCL変数 (1) (OVFASP)	187
CRTDATEのCL変数 (13) (CRTDATE)	188
CHGDATEのCL変数 (13) (CHGDATE)	188
SAVDATEのCL変数 (13) (SAVDATE)	188
SAVACTDATEのCL変数 (13) (SAVACTDATE)	188
RSTDATEのCL変数 (13) (RSTDATE)	188
CRTUSERのCL変数 (10) (CRTUSER)	189
CRTSYSTEMのCL変数 (8) (CRTSYSTEM)	189
OBJDMNのCL変数 (2) (OBJDMN)	189
USEUPDのCL変数 (1) (USEUPD)	189
USEDATEのCL変数 (7) (USEDATE)	189

USECOUNTのCL変数 (5 0) (USECOUNT)	190
RESETDATEのCL変数 (7) (RESETDATE)	190
STGのCL変数 (10) (STG)	190
CPRのCL変数 (1) (CPR)	190
SIZEのCL変数 (15 0) (SIZE)	190
SPCSIZEのCL変数 (15 0) (SPCSIZE)	191
SPCALIGNのCL変数 (1) (SPCALIGN)	191
SAVSIZEのCL変数 (15 0) (SAVSIZE)	191
SAVCMDのCL変数 (10) (SAVCMD)	191
SAVSEQNBRのCL変数 (4 0) (SAVSEQNBR)	191
SAVLRGSEQのCL変数 (10 0) (SAVLRGSEQ)	191
SAVVOLのCL変数 (71) (SAVVOL)	192
SAVDEVのCL変数 (10) (SAVDEV)	192
SAVVFのCL変数 (10) (SAVVF)	192
SAVFLIBのCL変数 (10) (SAVFLIB)	192
SAVLABELのCL変数 (17) (SAVLABEL)	193
SRCFのCL変数 (10) (SRCF)	193
SRCFLIBのCL変数 (10) (SRCFLIB)	193
SRCMBRのCL変数 (10) (SRCMBR)	193
SRCDATEのCL変数 (13) (SRCDATE)	193
SYSLVLのCL変数 (9) (SYSLVL)	194
COMPILERのCL変数 (16) (COMPILER)	194
OBJLVLのCL変数 (8) (OBJLVL)	194
ALWAPICHGのCL変数 (1) (ALWAPICHG)	194
APICHGのCL変数 (1) (APICHG)	194
USRCHGのCL変数 (1) (USRCHG)	195
LICPGMのCL変数 (16) (LICPGM)	195
PTFのCL変数 (10) (PTF)	195
APARのCL変数 (10) (APAR)	195
OBJAUDのCL変数 (10) (OBJAUD)	196
OBJSIGのCL変数 (1) (OBJSIG)	196
SYSSIGのCL変数 (1) (SYSSIG)	196
MLTSIGのCL変数 (1) (MLTSIG)	196
JRNSTSのCL変数 (1) (JRNSTS)	196
JRNのCL変数 (10) (JRN)	197
JRNLIBのCL変数 (10) (JRNLIB)	197
JRNIMGのCL変数 (1) (JRNIMG)	197
JRNOMTEのCL変数 (1) (JRNOMTE)	197
JRNSTRDATEのCL変数 (13) (JRNSTRDATE)	198
STRJRNRCVのCL変数 (10) (STRJRNRCV)	198
JRNRCVLIBのCL変数 (10) (JRNRCVLIB)	198
RCVLIBASPのCL変数 (10) (RCVLIBASP)	198
RCVLIBGRPのCL変数 (10) (RCVLIBGRP)	198
例	199
エラー・メッセージ	199

PDGプロファイル検索 (RTVPDGPRF) 203

パラメーター	203
ユーザー・プロファイル (USER)	203
RTNUSER用CL変数 (RTNUSER)	203
PDG用CL変数 (PDG)	204
PDGLIB用CL変数 (PDGLIB)	204
PRTD用CL変数 (PRTD)	204
例	204
エラー・メッセージ	204

電源スケジュール項目の検索

(RTVPWRSCDE)	207
パラメーター	207
日 (DAY).	207
PWRONTIMEのCL変数 (6) (PWRONTIME)	208
PWROFFTIMEのCL変数 (6) (PWROFFTIME)	208
DAYDESCのCL変数 (38) (DAYDESC)	208
MSGITVのCL変数 (2 0) (MSGITV)	208
例	208
エラー・メッセージ	209

QUERY管理機能書式の検索

(RTVQMFORM)	211
パラメーター	211
QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)	211
ソース・ファイル (SRCFILE)	212
ソース・メンバー (SRCMBR)	212
QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)	212
例	213
エラー・メッセージ	213

QUERY管理機能プログラム検索

(RTVQMQR)	215
パラメーター	215
QUERY管理機能プログラム (QMQR)	215
ソース・ファイル (SRCFILE)	216
ソース・メンバー (SRCMBR)	216
QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)	216
例	217
エラー・メッセージ	217

S/36環境属性の検索 (RTVS36A)

パラメーター	219
環境名 (ENV)	220
SLIBのCL変数 (8) (SLIB)	220
FLIBのCL変数 (10) (FLIB)	220
LIBLのCL変数 (4) (LIBL)	220
DATDIFFのCL変数 (4) (DATDIFF)	220
S36SHAREのCL変数 (4) (S36SHARE)	221
RCDBLKのCL変数 (4) (RCDBLK)	221
CACHEDLTFのCL変数 (4) (CACHEDLTF)	221
LPPAGEのCL変数 (3) (LPPAGE)	221
FORMTYPEのCL変数 (4) (FORMTYPE)	221
DFTMSGACNのCL変数 (9) (DFTMSGACN)	221
HALTOPTのCL変数 (4) (HALTOPT)	222
EVKJOBINITのCL変数 (6) (EVKJOBINIT)	222
EVKJOBPOLのCL変数 (8) (EVKJOBPOL)	222
EVKJOBPTYのCL変数 (10) (EVKJOBPTY)	222
SRCRCLENのCL変数 (3) (SRCRCLEN)	222
CHGACT用CL変数(4) (CHGACT)	222
ADDS36ONLY用CL変数(4) (ADDS36ONLY)	223
ICFSUBST用CL変数(4) (ICFSUBST)	223
MRTUSRPRFのCL変数 (8) (MRTUSRPRF)	223
MRTAUTのCL変数 (8) (MRTAUT)	223
MRTDLYのCL変数 (5) (MRTDLY)	223

MRTJOBINITのCL変数 (6) (MRTJOBINIT)	223
MRTJOBPOLのCL変数 (8) (MRTJOBPOL)	223
MRTJOBPTYのCL変数 (10) (MRTJOBPTY)	224
例	224
エラー・メッセージ	224

サービス・エージェントの検索

(RTVSRVAGT)	225
パラメーター	225
1番目の日のCL変数(DAY1)	225
2番目の日のCL変数(DAY2)	225
3番目の日のCL変数(DAY3)	226
例	226
エラー・メッセージ	226

停止語句リスト・ソースの検索

(RTVSWLSRC)	227
パラメーター	227
言語識別コード (LANGID)	227
ソース・ファイル (SRCFILE)	227
ソース・メンバー (SRCMBR)	228
停止語句リスト・タイプ (TYPE)	228
例	228
エラー・メッセージ	228

システム情報の検索 (RTVSYINF)

パラメーター	231
ライブラリー (LIB)	231
例	231
エラー・メッセージ	231

システム値検索 (RTVSYVAL)

パラメーター	234
システム値 (SYSVAL)	235
戻された値のCL変数 (RTNVAR)	263
例	266
エラー・メッセージ	266

テーブル・ソースの検索 (RTVTBLSRC) 267

パラメーター	267
テーブル (TBL).	267
ソース・ファイル (SRCFILE)	267
ソース・メンバー (SRCMBR)	268
UCS-2への変換 (CVTTOUCS)	268
テキスト'記述' (TEXT)	268
例	269
エラー・メッセージ	269

ユーザー・プロファイル検索

(RTVUSRPRF)	271
パラメーター	271
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	272
RTNUSRPRFのCL変数 (10) (RTNUSRPRF)	273
SPCAUTのCL変数 (100) (SPCAUT)	273
MAXSTGのCL変数 (11 0) (MAXSTG)	273

STGUSEDのCL変数 (15 0) (STGUSED)	273
PTYLMTのCL変数 (1) (PTYLMT)	273
INLPGMのCL変数 (10) (INLPGM)	274
INLPGMLIBのCL変数 (10) (INLPGMLIB)	274
JOBDDのCL変数 (10) (JOBDD)	274
JOBDLIBのCL変数 (10) (JOBDLIB)	274
GRPPRFのCL変数 (10) (GRPPRF)	274
OWNERのCL変数 (10) (OWNER)	274
GRPAUTのCL変数 (10) (GRPAUT)	275
ACGCDEのCL変数 (15) (ACGCDE)	275
MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)	275
MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)	275
OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)	275
OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)	275
TEXTのCL変数 (50) (TEXT)	276
PWDCHGDATのCL変数 (6) (PWDCHGDAT)	276
USRCLSのCL変数 (10) (USRCLS)	276
ASTLVLのCL変数 (10) (ASTLVL)	276
SPCENVのCL変数 (10) (SPCENV)	276
CURLIBのCL変数 (10) (CURLIB)	276
INLMNUのCL変数 (10) (INLMNU)	277
INLMNULIBのCL変数 (10) (INLMNULIB)	277
LMTCPBのCL変数 (10) (LMTCPB)	277
DLVRYのCL変数 (10) (DLVRY)	277
SEVのCL変数 (2 0) (SEV)	277
PRTDEVのCL変数 (10) (PRTDEV)	277
ATNPGMのCL変数 (10) (ATNPGM)	278
ATNPGMLIBのCL変数 (10) (ATNPGMLIB)	278
USROPTのCL変数 (240) (USROPT)	278
DSPSGNINFのCL変数 (7) (DSPSGNINF)	278
PWDEXPITVのCL変数 (5 0) (PWDEXPITV)	278
PWDEXPのCL変数 (4) (PWDEXP)	279
STATUSのCL変数 (10) (STATUS)	279
PRVSNのCL変数 (13) (PRVSN)	279
NOTVLDSIGNのCL変数(11 0) (NOTVLDSIGN)	279
LMTDEVSSNのCL変数 (7) (LMTDEVSSN)	279
KBDBUFのCL変数 (10) (KBDBUF)	279
LANGIDのCL変数 (10) (LANGID)	280
CNTRYIDのCL変数 (10) (CNTRYID)	280
CCSIDのCL変数 (5 0) (CCSID)	280
SRTSEQのCL変数 (10) (SRTSEQ)	280
SRTSEQLIBのCL変数 (10) (SRTSEQLIB)	280
OBJAUDのCL変数 (10) (OBJAUD)	281
AUDLVLのCL変数 (640) (AUDLVL)	281
GRPAUTYPのCL変数 (10) (GRPAUTYP)	281
SUPGRPPRFのCL変数 (150) (SUPGRPPRF)	281
UIDのCL変数 (10 0) (UID)	282
GIDのCL変数 (10 0) (GID)	282
SETJOBATR CL変数 (160) (SETJOBATR)	282
文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)	282
LCLPWDGMTのCL変数 (10) (LCLPWDGMT)	282
例	283
エラー・メッセージ	283

ユーザー印刷情報の検索 (RTVUSRPTI) 285

パラメーター	285
ユーザー (USER)	285
RTNTEXTのCL変数 (RTNTEXT)	285
例	285
エラー・メッセージ	286

WSCSTソースの検索 (RTVWSCST) 287

パラメーター	287
装置タイプ (DEVTYPE)	287
キーボード言語タイプ (KBDTYPE)	288
メーカー・タイプ、型式 (MFRTPMDL)	288
ソース・メンバー(SRCMBR)	288
接続されたキーボード (KBD)	288
ソース・ファイル (SRCFILE)	289
テキスト'記述' (TEXT)	289
例	290
エラー・メッセージ	290

バックアップの実行 (RUNBCKUP) . . . 291

パラメーター	291
バックアップ・オプション (BCKUPOPT)	291
装置 (DEV)	291
例	292
エラー・メッセージ	292

LPDA-2の実行 (RUNLPDA) 295

パラメーター	295
行 (LINE)	296
オプション (OPTION)	296
ローカルDCEアドレス (LCLDCEADR)	297
リモートDCEアドレス (RMTDCEADR)	297
電話番号 (TELNR)	298
リレー接続 (CONTACT)	298
送信速度 (SPEED)	298
DTEポート (DTEPORT)	299
DCE再試行 (DCERTY)	299
例	299
エラー・メッセージ	300

QUERY実行 (RUNQRY) 305

パラメーター	306
QUERY (QRYパラメーター)	306
QUERYファイル (QRYFILEパラメーター)	307
報告出力のタイプ (OUTTYPEパラメーター)	308
出力書式 (OUTFORMパラメーター)	309
レコード選択 (RCDSLTPARメーター)	309
QUERY定義の印刷 (PRTDFNパラメーター)	309
印刷装置 (PRTDEVパラメーター)	310
用紙サイズ (FORMSIZEパラメーター)	310
用紙タイプ (FORMTYPEパラメーター)	311
コピー枚数 (COPIESパラメーター)	311
行送り (LINESPACEパラメーター)	312
出力ファイル (OUTFILEパラメーター)	312
権限 (AUTパラメーター)	314
例	314
エラー・メッセージ	315

リモート・コマンド実行 (RUNRMTCMD)	317
パラメーター	317
コマンド (CMD)	317
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	318
リモート・ユーザーID (RMTUSER)	319
リモート・パスワード (RMTPWD)	319
モード (MODE)	319
コード化文字セットID (CCSID)	320
待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	320
例	321
エラー・メッセージ	321

SQLステートメントの実行 (RUNSQLSTM)	323
パラメーター	323
ソース・ファイル (SRCFILE)	324
ソース・メンバー (SRCMBR)	324
コミットメント制御 (COMMIT)	324
命名規則 (NAMING)	325
重大度レベル (ERRLVL)	325
日付形式 (DATFMT)	326
日付区切り文字 (DATSEP)	326
時刻形式 (TIMFMT)	327
時刻区切り文字 (TIMSEP)	327
省略時のコレクション (DFTRDBCOL)	327
IBM SQLフラグづけ (SAAFLAG)	328
ANSフラグ付け (FLAGSTD)	328
小数点 (DECMPT)	328
ソート順序 (SRTSEQ)	328
言語識別コード (LANGID)	329
印刷ファイル (PRTFILE)	329
ステートメント処理 (PROCESS)	330
データのコピー可能 (ALWCPYDTA)	330
ブロック化可能 (ALWBLK)	330
SQL規則 (SQLCURRULE)	331
10進数結果オプション (DECRESULT)	331
出力リスト (OUTPUT)	332
ターゲット・リリース (TGTRLS)	332
デバッグ・ビュー (DBGVIEW)	333
SQLカーソルのクローズ (CLOSQLCSR)	333
PREPARE遅延 (DLYPRP)	334
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	334
動的ユーザー・プロファイル (DYNUSRPRF)	335
例	335
エラー・メッセージ	335

アクセス・コード権限取り消し (RVKACCAUT)	337
パラメーター	337
文書アクセス・コード (ACC)	337
ユーザー・プロファイル (USER)	337
例	338
エラー・メッセージ	338

オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT)	341
パラメーター	342
オブジェクト (OBJ)	342
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	344
ASP装置 (ASPDEV)	344
ユーザー (USER)	345
権限(AUT)	345
権限リスト (AUTL)	347
例	347
エラー・メッセージ	348

共通認可の取り消し (RVKPUBAUT)	351
パラメーター	351
ライブラリー (LIB)	351
例	352
エラー・メッセージ	352

ユーザー認可取り消し (RVKUSRPMN)	353
パラメーター	353
FROMユーザー・プロファイル (FROMUSER)	353
ユーザー・プロファイル (FORUSER)	353
例	354
エラー・メッセージ	354

ワークステーション・オブジェクト権限取消 (RVKWSOAUT)	355
パラメーター	355
ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)	356
ユーザー (USER)	357
権限(AUT)	358
権限リスト (AUTL)	360
例	360
エラー・メッセージ	360

オブジェクトの保管 (SAV)	361
パラメーター	361
装置 (DEV)	362
オブジェクト (OBJ)	363
名前パターン (PATTERN)	364
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	364
活動状態保管 (SAVACT)	365
活動状態保管オプション (SAVACTOPT)	365
出力 (OUTPUT)	365
ボリューム識別コード (VOL)	366
ラベル (LABEL)	366
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	367
順序番号 (SEQNBR)	367
ファイル満了日 (EXPDATE)	367
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	368
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	368
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	368
出力情報のタイプ (INFYTYPE)	369
システム (SYSTEM)	369

最終変更の期間 (CHGPERIOD)	369
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	370
ターゲット・リリース (TGTRLS).	371
履歴更新 (UPDHST).	371
消去 (CLEAR)	372
データ圧縮 (DTACPR)	372
データ短縮 (COMPACT).	373
ASP装置 (ASPDEV)	374
オブジェクト・スキャン (SCAN).	374
例	375
エラー・メッセージ	377

APARデータの保管 (SAVAPARDTA) 381

パラメーター	381
問題識別コード (PRBID)	381
例	381
エラー・メッセージ	382

構成の保管 (SAVCFG) 383

パラメーター	383
装置 (DEV)	384
ボリューム識別コード (VOL)	385
順序番号 (SEQNBR)	385
ファイル満了日 (EXPDATE)	385
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	386
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	386
保管ファイル (SAVF).	386
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	387
消去 (CLEAR)	387
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	388
データ圧縮 (DTACPR)	388
データ短縮 (COMPACT).	389
出力 (OUTPUT)	390
出力を受け取るファイル (OUTFILE).	390
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	390
例	391
エラー・メッセージ	391

変更されたオブジェクトの保管 (SAVCHGOBJ) 395

パラメーター	396
オブジェクト (OBJ)	398
ライブラリー (LIB)	398
装置 (DEV)	400
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	400
ジャーナル処理されたオブジェクト (OBJJRN)	401
参照日付 (REFDATE).	401
参照時刻 (REFTIME).	401
ボリューム識別コード (VOL)	402
順序番号 (SEQNBR)	402
ラベル (LABEL)	403
ファイル満了日 (EXPDATE)	403
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	403
開始ライブラリー (STRLIB)	404
保管ファイル (SAVF).	404
媒体定義 (MEDDFN)	405

光ディスク・ファイル (OPTFILE)	405
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	406
ターゲット・リリース (TGTRLS).	406
履歴更新 (UPDHST).	407
消去 (CLEAR)	407
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	408
活動状態保管 (SAVACT)	409
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	409
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	411
アクセス・パス保管 (ACCPH)	412
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	412
待ち行列データ (QDTA).	412
データ圧縮 (DTACPR)	413
データ短縮 (COMPACT).	414
除外するライブラリー (OMITLIB)	414
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	414
ASP装置 (ASPDEV)	415
出力 (OUTPUT)	416
出力を受け取るファイル (OUTFILE).	416
出力メンバー・オプション (OUTMBR).	417
情報のタイプ (INFTYPE)	417
コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)	417
例	418
エラー・メッセージ	418

文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO) 423

パラメーター	424
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	425
フォルダー (FLR)	426
装置 (DEV)	427
検索タイプ (SRCHTYPE)	428
マークの検査 (CHKFORMRK)	428
満了日 (CHKEXP)	428
作成日 (CRTDATE)	429
文書クラス (DOCCLS)	430
所有者プロファイル (OWNER)	430
最終変更日 (REFCHGDATE)	431
最終変更時刻 (REFCHGTIME).	431
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	432
文書リスト (DOCL)	432
ボリューム識別コード (VOL)	432
順序番号 (SEQNBR)	433
ファイル満了日 (EXPDATE)	433
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	433
ラベル (LABEL)	434
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	434
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	434
保管ファイル (SAVF).	435
除外するフォルダー (OMITFLR)	435
出力 (OUTPUT)	436
出力を受け取るファイル (OUTFILE).	436
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	436
消去 (CLEAR)	437
記憶域 (STG)	438
データ圧縮 (DTACPR)	438

データ短縮 (COMPACT)	439
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	440
ターゲット・リリース (TGTRLS)	440
活動状態保管 (SAVACT)	441
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	441
ASP番号 (ASP)	441
例	442
エラー・メッセージ	443
ライブラリー保管 (SAVLIB)	447
パラメーター	448
ライブラリー (LIB)	450
装置 (DEV)	451
ボリューム識別コード (VOL)	452
順序番号 (SEQNBR)	452
ラベル (LABEL)	453
ファイル満了日 (EXPDATE)	453
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	453
開始ライブラリー (STRLIB)	454
保管ファイル (SAVF)	454
媒体定義 (MEDDFN)	455
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	455
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	456
ターゲット・リリース (TGTRLS)	456
履歴更新 (UPDHST)	457
消去 (CLEAR)	458
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	459
活動状態保管 (SAVACT)	459
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	460
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	461
アクセス・パス保管 (ACCPH)	462
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	462
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	463
待ち行列データ (QDTA)	463
記憶域 (STG)	463
データ圧縮 (DTACPR)	464
データ短縮 (COMPACT)	464
除外するライブラリー (OMITLIB)	465
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	465
ASP装置 (ASPDEV)	466
出力 (OUTPUT)	467
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	467
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	467
情報のタイプ (INFTYPE)	468
コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)	468
例	469
エラー・メッセージ	470

ライセンス・プログラムの保管 (SAVLICPGM)	475
パラメーター	475
プロダクト (LICPGM)	476
装置 (DEV)	476
保管される任意選択部分 (OPTION)	477
リリース (RLS)	477
ライセンス・プログラムの言語 (LNG)	477

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	478
署名の検査 (CHKSIG)	478
ボリューム識別コード (VOL)	478
順序番号 (SEQNBR)	479
ファイル満了日 (EXPDATE)	479
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	479
保管ファイル (SAVF)	480
ターゲット・リリース (TGTRLS)	480
消去 (CLEAR)	481
データ圧縮 (DTACPR)	482
ライセンス受諾が必要である (LICACPRQD)	482
例	482
エラー・メッセージ	484

オブジェクト保管 (SAVOBJ)	485
パラメーター	486
オブジェクト (OBJ)	488
ライブラリー (LIB)	488
装置 (DEV)	489
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	489
ボリューム識別コード (VOL)	490
順序番号 (SEQNBR)	490
ラベル (LABEL)	490
ファイル満了日 (EXPDATE)	491
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	491
保管ファイル (SAVF)	491
媒体定義 (MEDDFN)	492
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	492
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	493
ターゲット・リリース (TGTRLS)	493
履歴更新 (UPDHST)	494
消去 (CLEAR)	495
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	496
活動状態保管 (SAVACT)	496
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	497
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	498
ファイル・メンバー (FILEMBR)	499
アクセス・パス保管 (ACCPH)	500
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	501
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	501
待ち行列データ (QDTA)	501
記憶域 (STG)	501
データ圧縮 (DTACPR)	502
データ短縮 (COMPACT)	502
除外するライブラリー (OMITLIB)	503
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	503
ASP装置 (ASPDEV)	504
出力 (OUTPUT)	505
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	505
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	506
情報のタイプ (INFTYPE)	506
コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)	506
例	507
エラー・メッセージ	508

保管復元 (SAVRST)	513
----------------------	------------

パラメーター	514
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	515
オブジェクト (OBJ)	516
名前パターン (PATTERN)	516
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	517
最終変更の期間 (CHGPERIOD)	517
ターゲット・リリース (TGTRLS)	519
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	519
活動状態保管 (SAVACT)	519
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	520
ASP装置 (ASPDEV)	520
オプション (OPTION)	520
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	521
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	522
オブジェクト・スキャン (SCAN)	523
親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)	524
親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)	524
例	524
エラー・メッセージ	525

構成の保管復元 (SAVRSTCFG) 527

パラメーター	528
オブジェクト (OBJ)	528
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	529
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	529
システム資源管理 (SRM)	530
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	530
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	530
例	531
エラー・メッセージ	532

変更オブジェクトの保管復元 (SAVRSTCHG) 533

パラメーター	534
オブジェクト (OBJ)	536
保管されたライブラリー (LIB)	536
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	537
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	537
ジャーナル処理されたオブジェクト (OBJJRN)	538
参照日付 (REFDATE)	538
参照時刻 (REFTIME)	538
開始ライブラリー (STRLIB)	539
除外するライブラリー (OMITLIB)	539
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	540
ASP装置 (ASPDEV)	541
ターゲット・リリース (TGTRLS)	541
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	541
活動状態保管 (SAVACT)	542
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	542
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	544
アクセス・パス保管 (ACCPH)	545
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	545
待ち行列データ (QDTA)	545
復元先ライブラリー (RSTLIB)	546
復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	546
復元先ASP番号 (RSTASP)	546

オプション (OPTION)	547
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	547
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	548
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	550
例	550
エラー・メッセージ	551

DOC/LIBオブジェクト保管復元 (SAVRSTDLO) 553

パラメーター	554
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	555
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	556
フォルダー (FLR)	556
除外するフォルダー (OMITFLR)	557
検索タイプ (SRCHTYPE)	558
満了日 (CHKEXP)	558
作成日 (CRTDATE)	558
文書クラス (DOCCLS)	560
所有者プロファイル (OWNER)	560
最終変更日 (REFCHGDATE)	560
最終変更時刻 (REFCHGTIME)	561
文書リスト (DOCL)	561
ターゲット・リリース (TGTRLS)	561
記憶域 (STG)	562
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	563
活動状態保管 (SAVACT)	563
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	563
ASP番号 (ASP)	564
オブジェクト名生成 (NEWOBJ)	564
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	564
復元先ASP番号 (RSTASP)	565
例	565
エラー・メッセージ	566

ライブラリーの保管復元 (SAVRSTLIB) 567

パラメーター	568
ライブラリー (LIB)	569
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	571
開始ライブラリー (STRLIB)	571
除外するライブラリー (OMITLIB)	571
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	572
ASP装置 (ASPDEV)	573
ターゲット・リリース (TGTRLS)	573
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	573
活動状態保管 (SAVACT)	574
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	574
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	576
アクセス・パス保管 (ACCPH)	576
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	577
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	577
待ち行列データ (QDTA)	578
記憶域 (STG)	578
オプション (OPTION)	578
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	579
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	579
復元先ライブラリー (RSTLIB)	581

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	581
復元先ASP番号 (RSTASP)	582
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	582
例	583
エラー・メッセージ	583

オブジェクトの保管復元 (SAVRSTOBJ) 585

パラメーター	585
オブジェクト (OBJ)	587
保管されたライブラリー (LIB)	588
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	588
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	589
開始ライブラリー (STRLIB)	589
除外するライブラリー (OMITLIB)	590
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	590
ASP装置 (ASPDEV)	591
ターゲット・リリース (TGTRLS)	592
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	592
活動状態保管 (SAVACT)	592
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	593
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	594
ファイル・メンバー (FILEMBR)	595
アクセス・パス保管 (ACCPH)	596
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	597
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	597
待ち行列データ (QDTA)	597
記憶域 (STG)	598
オプション (OPTION)	598
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	599
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	599
復元先ライブラリー (RSTLIB)	601
復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	601
復元先ASP番号 (RSTASP)	601
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	602
例	603
エラー・メッセージ	603

S/36ファイル保管 (SAVS36F) 605

パラメーター	607
FROMファイル (FROMFILE)	608
FROMライブラリー (FROMLIB)	608
装置 (DEV)	608
ファイル・グループ修飾子 (GROUP)	608
セット識別コード (SET)	609
ファイル・ラベル (TOLABEL)	609
順序番号 (SEQNBR)	609
ボリューム識別コード (VOL)	610
保存日数 (RETAIN)	610
テープ終了オプション (ENDOPT)	611
データ圧縮 (DTACPR)	611
物理ファイル (PHYFILE)	611
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	612
作成日 (CRTDATE)	612
例	612
エラー・メッセージ	614

S/36 ライブラリー・メンバー保管 (SAVS36LIBM) 617

パラメーター	618
FROMメンバー (FROMMBR)	619
FROMライブラリー (FROMLIB)	619
装置 (DEV)	619
S/36ソース・メンバー (SRCMBRS)	620
ファイル・ラベル (TOLABEL)	620
順序番号 (SEQNBR)	620
ボリューム識別コード (VOL)	621
保存日数 (RETAIN)	621
ディスク・ファイル交換タイプ (EXCHTYPE)	621
テープ終了オプション (ENDOPT)	621
物理ファイル (PHYFILE)	622
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	622
レコード長 (RCDLEN)	622
例	623
エラー・メッセージ	623

保管ファイル・データの保管 (SAVSAVFDTA) 625

パラメーター	625
保管ファイル (SAVF)	626
装置 (DEV)	627
ボリューム識別コード (VOL)	627
順序番号 (SEQNBR)	627
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	628
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	628
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	628
消去 (CLEAR)	629
ファイル満了日 (EXPDATE)	630
データ短縮 (COMPACT)	630
出力 (OUTPUT)	630
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	631
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	631
例	632
エラー・メッセージ	632

機密保護データの保管 (SAVSECDTA) 635

パラメーター	635
装置 (DEV)	636
ボリューム識別コード (VOL)	637
順序番号 (SEQNBR)	637
ファイル満了日 (EXPDATE)	637
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	638
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	638
保管ファイル (SAVF)	638
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	639
ASP装置 (ASPDEV)	639
消去 (CLEAR)	640
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	641
データ圧縮 (DTACPR)	641
データ短縮 (COMPACT)	642
出力 (OUTPUT)	642
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	642

出力メンバー・オプション (OUTMBR)	643
例	643
エラー・メッセージ	644

記憶域の保管 (SAVSTG) 647

パラメーター	648
テープ装置 (DEV)	648
ファイル満了日 (EXPDATE)	648
消去 (CLEAR)	648
例	649
エラー・メッセージ	649

システム保管 (SAVSYS) 651

パラメーター	651
装置 (DEV)	652
ボリューム識別コード (VOL)	653
ファイル満了日 (EXPDATE)	653
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	653
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	654
除外 (OMIT)	654
出力 (OUTPUT)	655
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	655
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	655
ASP装置 (ASPDEV)	656
消去 (CLEAR)	656
データ圧縮 (DTACPR)	657
データ短縮 (COMPACT)	658
例	658
エラー・メッセージ	659

システム情報の保管 (SAVSYSINF) 661

パラメーター	662
装置 (DEV)	662
ボリューム識別コード (VOL)	663
順序番号 (SEQNBR)	663
ファイル満了日 (EXPDATE)	664
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	664
保管ファイル (SAVF)	664
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	665
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	665
消去 (CLEAR)	666
データ圧縮 (DTACPR)	666
データ短縮 (COMPACT)	667
出力 (OUTPUT)	668
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	668
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	668
例	669
エラー・メッセージ	669

データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB) 671

パラメーター	671
データベース・ファイル (FILE)	672
メンバー (MBR)	672
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	672
投入ジョブ・リストに表示 (DSPSBMJOB)	673

例	673
エラー・メッセージ	673

金融機関ジョブ投入 (SBMFNCJOB) 675

パラメーター	675
装置テーブル (DEVTBL)	676
プログラム・テーブル (PGMTBL)	676
ユーザー・テーブル (USRTBL)	676
ジョブ名 (JOB)	676
ジョブ記述 (JOBID)	676
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	677
例	678
エラー・メッセージ	678

ジョブ投入 (SBMJOB) 679

パラメーター	680
実行するコマンド (CMD)	681
ジョブ名 (JOB)	682
ジョブ記述 (JOBID)	682
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	682
ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)	683
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	683
印刷装置 (PRTDEV)	683
出力待ち行列 (OUTQ)	684
ユーザー (USER)	685
印刷テキスト (PRTTXT)	685
経路指定データ (RTGDTA)	686
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	686
システム・ライブラリー・リスト (SYSLIBL)	687
現行ライブラリー (CURLIB)	687
初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)	687
初期ASPグループ (INLASPGRP)	688
メッセージのロギング (LOG)	688
CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)	690
ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)	690
ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)	691
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)	691
照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)	692
ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)	692
スケジュール日 (SCDDATE)	692
スケジュール時刻 (SCDTIME)	693
ジョブ日付 (DATE)	694
ジョブ・スイッチ (SWS)	694
WRKSBMJOBによる表示可能 (DSPSBMJOB)	694
投入 (SBMFOR)	694
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	695
分類順序 (SRTSEQ)	696
言語識別コード (LANGID)	696
国別または地域ID (CNTRYID)	697
コード化文字セットID (CCSID)	697
環境変数コピー (CPYENVVAR)	697
マルチスレッド使用可能 (ALWMLTTHD)	698
スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)	698
例	698

エラー・メッセージ 699

**ネットワーク・ジョブ投入
(SBMNETJOB) 701**

パラメーター 701
ファイル (FILE) 702
ユーザー識別コード (TOUSRID) 702
メンバー (MBR) 702
送信優先順位 (PTY) 703
例 703
エラー・メッセージ 703

NWSコマンドの投入 (SBMNWSCMD) 705

パラメーター 705
コマンド (CMD) 705
サーバー (SERVER) 706
コマンド (ログに記録されない) (NOLOGCMD) 706
サーバー・タイプ (SVRTYPE) 706
コマンド・タイプ (CMDTYPE) 707
ユーザー・プロファイルのロード (LODUSRPRF) 707
認証ドメイン (AUTDMN) 707
コマンド標準出力 (CMDSTDOOUT) 708
標準出力の変換 (CVTSTDOOUT) 708
例 709
エラー・メッセージ 709

**リモート・コマンド投入
(SBMRMTCMD) 711**

パラメーター 712
実行するコマンド (CMD) 712
DDMファイル (DDMFILE) 712
例 713
エラー・メッセージ 714

選択 (SELECT) 715

パラメーター 715
例 715
エラー・メッセージ 716

ASPグループの設定 (SETASPGRP) 717

パラメーター 718
ASPグループ (ASPGRP) 718
システム・ライブラリー・リスト (SYSLIBL) 718
現行ライブラリー (CURLIB) 719
現行スレッドのライブラリー (USRLIBL) 719
例 720
エラー・メッセージ 720

**アテンション・プログラムのセット
(SETATNPGM) 721**

パラメーター 721
プログラム (PGM) 721
アテンション・キーのセット (SET) 722
例 722
エラー・メッセージ 723

**カスタマイズ・データ設定
(SETCSTDTA) 725**

エラー・メッセージ: SETCSTDTA 725
パラメーター 725
ユーザー・プロファイル (USRPRF) 726
使用するカスタマイズ・データ (VALUE) 726
カスタマイズ・データ置き換え (REPLACE) 726
例 727
エラー・メッセージ 727

**キーボード・マップのセット
(SETKBDMAP) 729**

パラメーター 729
装置 (DEV) 734
PF1キーの値 (PF1) 734
PF2キーの値 (PF2) 736
PF3キーの値 (PF3) 737
PF4キーの値 (PF4) 738
PF5キーの値 (PF5) 739
PF6キーの値 (PF6) 741
PF7キーの値 (PF7) 742
PF8キーの値 (PF8) 743
PF9キーの値 (PF9) 744
PF10キーの値 (PF10) 746
PF11キーの値 (PF11) 747
PF12キーの値 (PF12) 748
PF13キーの値 (PF13) 749
PF14キーの値 (PF14) 751
PF15キーの値 (PF15) 752
PF16キーの値 (PF16) 753
PF17キーの値 (PF17) 754
PF18キーの値 (PF18) 756
PF19キーの値 (PF19) 757
PF20キーの値 (PF20) 758
PF21キーの値 (PF21) 759
PF22キーの値 (PF22) 761
PF23キーの値 (PF23) 762
PF24キーの値 (PF24) 763
PA1-PF1キーの値 (PA1PF1) 764
PA1-PF2キーの値 (PA1PF2) 766
PA1-PF3キーの値 (PA1PF3) 767
PA1-PF4キーの値 (PA1PF4) 768
PA1-PF5キーの値 (PA1PF5) 769
PA1-PF6キーの値 (PA1PF6) 771
PA1-PF7キーの値 (PA1PF7) 772
PA1-PF8キーの値 (PA1PF8) 773
PA1-PF9キーの値 (PA1PF9) 774
PA1-PF10キーの値 (PA1PF10) 776
PA1-PF11キーの値 (PA1PF11) 777
PA1-PF12キーの値 (PA1PF12) 778
PA2-PF1キーの値 (PA2PF1) 779
PA2-PF2キーの値 (PA2PF2) 781
PA2-PF3キーの値 (PA2PF3) 782
PA2-PF4キーの値 (PA2PF4) 783
PA2-PF5キーの値 (PA2PF5) 784

PA2-PF6キーの値 (PA2PF6)	786
PA2-PF7キーの値 (PA2PF7)	787
PA2-PF8キーの値 (PA2PF8)	788
PA2-PF9キーの値 (PA2PF9)	789
PA2-PF10キーの値 (PA2PF10)	791
PA2-PF11キーの値 (PA2PF11)	792
PA2-PF12キーの値 (PA2PF12)	793
例	794
エラー・メッセージ	795

オブジェクト・アクセスのセット (SETOBJACC) 797

パラメーター	797
オブジェクト (OBJ)	798
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	799
記憶域プール (POOL)	799
メンバー (MBR)	800
メンバー・データ (MBRDATA)	800
例	800
エラー・メッセージ	801

プログラム情報セット (SETPGMINF) 803

エラー・メッセージ: SETPGMINF	803
パラメーター	803
ルート・プログラム (ROOTPGM)	804
サブプログラム (SUBPGM)	805
ライブラリー情報ファイル (LIBFILE)	805
詳細のリスト (LISTDETAIL)	806
印刷ファイル (PRTFILE)	806
実行属性 (RUNATTR)	807
パフォーマンス・オプション (PFROPT)	808
ヒープ空間の初期サイズ (HEAPSIZE)	808
自動記憶域の初期サイズ (STACKSIZE)	809
セッション・ファイル属性 (SSNATTR)	809
デバッグ・オプション (DBGOPT)	809
例	809
エラー・メッセージ	810

テープ・カテゴリー設定 (SETTAPCGY) 811

パラメーター	811
ライブラリー装置 (DEV)	811
オプション (OPTION)	812
カテゴリー (CGY)	812
カートリッジ順序 (CTGORDER)	813
宛先カテゴリー (TGTCGY)	813
取り付け識別コード (MNTID)	814
例	814
エラー・メッセージ	815

アップグレード環境の設定 (SETUPGENV) 817

パラメーター	817
アップグレード環境 (UPGENV)	817
ターゲット・リリース (TGTRLS)	817
ターゲット・プロセッサ (TGTPRC)	818
アドバンスト/36との併用 (MERGE)	818

アップグレード環境識別コード (UPGENVID)	818
例	818
エラー・メッセージ	819

サインオフ (SIGNOFF) 821

パラメーター	821
ジョブ・ログ (LOG)	821
回線切断 (DROP)	821
接続の終了 (ENDCNN)	822
例	822
エラー・メッセージ	822

コマンドの選択 (SLTCMD) 823

パラメーター	823
コマンド (CMD)	823
例	824
エラー・メッセージ	825

中断メッセージ送信 (SNDBRKMSG) 827

パラメーター	827
メッセージ・テキスト (MSG)	828
TO ワークステーション MSG待ち行列 (TOMSGQ)	828
メッセージ・タイプ (MSGTYPE)	828
応答を受けるメッセージ待ち行列 (RPYMSGQ)	829
コード化文字セットID (CCSID)	829
例	830
エラー・メッセージ	830

配布送信 (SNDDST) 831

パラメーター	831
送信する情報 (TYPE)	833
宛先 (TOUSRID)	834
インターネット宛先 (TOINTNET)	834
記述 (DSTD)	835
メッセージ (MSG)	835
メッセージ (LONGMSG)	835
配布確認 (CFMDEL)	836
機密性 (SENSITIV)	836
個人 (PERSONAL)	836
内容の重要性 (IMPORTANCE)	837
優先順位 (PTY)	837
ユーザー識別コード (USRID)	837
文書ファイル (DOCFILE)	838
文書メンバー (DOCMBR)	838
文書タイプ (DOCTYPE)	839
送信形式 (SNDFMT)	839
システム・コード (SYSCOD)	839
文書文字識別コード (DOCCHRID)	840
配布識別コード (DSTID)	840
配布IDエクステンション (DSTIDEXN)	840
文書 (DOC)	841
フォルダー中 (FLR)	841
文書識別コード (DOCID)	841
プロファイル・ファイル (IDPFILE)	842
プロファイル・メンバー (IDPMBR)	843
文書記述 (DOCD)	843

作成者 (AUTHOR)	843
文書クラス (DOCCLS)	844
キーワード (KWD)	844
主題 (SUBJECT)	844
文書日付 (DOCDATE)	844
ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)	845
リスト・コピー (CPYLST)	845
満了日 (EXPDATE)	845
作成日 (CRTDATE)	845
参照 (REFERENCE)	846
処置期日 (ACTDATE)	846
要求された応答 (RPYDATE)	846
文書状況 (STATUS)	847
完了日 (CMPDATE)	847
プロジェクト (PROJECT)	848
言語識別コード (DOCLANGID)	848
国別または地域ID (DOCCNTRYID)	848
代替宛先可能 (ALWALTRCP)	848
宛先の開示 (DISCLOSE)	849
X.400変換可能 (ALWX400CNV)	849
ユーザーの認可 (AUTUSR)	849
配布満了標識 (DSTEXPDATE)	850
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	850
例	851
エラー・メッセージ	852
配布待ち行列の送信 (SNDDSTQ)	855
パラメーター	855
配布待ち行列 (DSTQ)	856
優先順位 (PTY)	856
例	856
エラー・メッセージ	856
ファイル送信 (SNDF)	859
パラメーター	859
表示装置 (DEV)	859
レコード様式 (RCDFMT)	860
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	860
例	860
エラー・メッセージ	861
ジャーナル項目送信 (SNDJRNE)	863
パラメーター	863
ジャーナル (JRN)	864
ジャーナル項目タイプ (TYPE)	864
入力データ (ENTDTA)	865
ジャーナルされた物理ファイル (FILE)	865
オブジェクト (OBJ)	866
オブジェクト (OBJPATH)	867
ファイル識別コード (OBJFID)	867
強制ジャーナル項目 (FORCE)	868
ジャーナル状態の指定変更 (OVRSTATE)	868
例	868
エラー・メッセージ	869
メッセージ送信 (SNDMSG)	871

パラメーター	871
メッセージ・テキスト (MSG)	872
TOユーザー・プロファイル (TOUSR)	872
TOメッセージ待ち行列 (TOMSGQ)	872
メッセージ・タイプ (MSGTYPE)	873
応答を受けるメッセージ待ち行列 (RPYMSGQ)	873
コード化文字セットID (CCSID)	874
例	874
エラー・メッセージ	875

ネットワーク・ファイル送信 (SNDNETF)	877
パラメーター	877
ファイル (FILE)	878
ユーザー識別コード (TOUSRID)	878
メンバー (MBR)	878
受け入れファイル・タイプ (TOTYPE)	879
VM/MVSクラス (CLASS)	879
送信様式 (FORMAT)	879
送信優先順位 (PTY)	880
例	880
エラー・メッセージ	881

ネットワーク・メッセージ送信 (SNDNETMSG)	883
パラメーター	883
メッセージ・テキスト (MSG)	883
ユーザー識別コード (TOUSRID)	884
例	884
エラー・メッセージ	884

ネットワーク・スプール・ファイルの送信 (SNDNETSPLF)	887
パラメーター	887
スプール・ファイル (FILE)	888
ユーザー識別コード (TOUSRID)	888
ジョブ名 (JOB)	889
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	889
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	889
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	890
データ形式 (DTAFMT)	890
VM/MVSクラス (CLASS)	892
送信優先順位 (PTY)	892
例	892
エラー・メッセージ	893

プログラム・メッセージ送信 (SNDPGMMMSG)	895
パラメーター	895
メッセージ・テキストまたは (MSG)	896
メッセージ識別コード (MSGID)	897
メッセージ・ファイル (MSGF)	897
メッセージ・データ・フィールドの値 (MSGDTA)	897
呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (TOPGMQ)	898
非PGMメッセージ待ち行列へ送信 (TOMSGQ)	900

TOユーザー・プロファイル (TOUSR)	901
メッセージ・タイプ (MSGTYPE)	902
応答を受けるメッセージ待ち行列 (RPYMSGQ)	903
KEYVARのCL変数 (4) (KEYVAR)	903
コード化文字セットID (CCSID)	904
例	904
エラー・メッセージ	906

PTFオーダーの送信 (SNDPTFORD) . . . 909

パラメーター	909
PTF識別コード (PTFID)	910
PTF部品 (PTFPART)	911
リモート制御点 (RMTCPNAME)	911
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	911
配布方式 (DELIVERY)	911
配信形式 (DLVRYFMT)	912
オーダー (ORDER)	912
追加オーダー (REORDER)	912

PTFの検査 (CHKPTF)	913
イメージ・ディレクトリー (IMGDIR)	913
イメージ・プレフィックス (IMGPFX)	913
例	913
エラー・メッセージ	914

ファイル送信/受信 (SNDRCVF) 917

パラメーター	917
表示装置 (DEV)	918
レコード様式 (RCDFMT)	918
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	918
待機 (WAIT)	919
例	919
エラー・メッセージ	920

付録. 特記事項 921

商標	922
使用条件	923

システム情報の復元 (RSTSYSINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム情報復元(RSTSYSINF)コマンドはシステム情報保管(SAVSYSINF)コマンドによって保管されるシステム・データおよびオブジェクトのサブセットを復元します。

RSTSYSINFは、システム・アップグレードまたはマイグレーションには使用されません。

機密保護関連システム値がロックされている場合には、これらは復元できません。機密保護関連システム値のロックおよびアンロックの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))を参照してください。

QPWDLVL (パスワード・レベル) システム値は、復元されません。QPWDLVLシステム値を変更する前に、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)の第7章にある「パスワード・レベル変更の計画」を参照してください。また、QPWDLVLシステム値の現行設定値に基づき、QPWDMAXLEN (最大パスワード長)、QPWDMINLEN (最小パスワード長)、およびQPWDLDPGM (パスワード検証プログラム) システム値は復元できません。

注: RSTSYSINFコマンドは、オブジェクトの復元用に幾つかの復元コマンドを出します。パラメーターは、すべての復元コマンドに使用されることもされない場合もあります。

詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「バックアップおよび回復」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, _	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていないければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

単一値

***MOUNTED**

オブジェクトは、**装置 (DEV)**パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

復元操作に使用される順序番号を指定します。

***SEARCH**

装置に入れられたボリュームの中で、保管されたシステム情報オブジェクトが入っているデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかり、そのシステム情報オブジェクトが復元されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名QSRRSTでQSYS内のQASRRSTOを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

[トップ](#)

例

例1:TAP01から復元されるシステム情報

```
RSTSYSINF DEV(TAP01)
```

このコマンドは、システム情報をTAP01テープ装置に入れられたテープから復元します。

例2:SAVFから復元されるシステム情報および生成される印刷出力

```
RSTSYSINF DEV(*SAVF) SAVF(QGPL/SAVF) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中のSAVFという名前の保管ファイルからシステム情報を復元します。何が復元されたかについての情報は、スプール・ファイルに書き込まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF38A8

RSTSYSINFが完了しました。1つ以上のオブジェクトが保管されていません。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル復元 (RSTUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドは、システム保管(SAVSYS)コマンドまたは機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管されたユーザー・プロファイルの基本部分あるいはユーザー・プロファイルのセットを復元します。ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドは、ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドで与えられた特殊権限だけを復元します。他のユーザーによって所有される指定されたオブジェクトの権限は復元しません。他のユーザーによって所有されるオブジェクトの権限を復元するためには、プロファイル、ライブラリー、およびオブジェクトが復元された後に権限復元(RSTAUT)コマンドを使用しなければなりません。すべてのユーザー・プロファイルを復元しようとする場合には、SAVSYSまたはSAVSECDTAコマンドの実行時に存在していた権限リストおよび権限ホルダーも復元されます。

USRPRF(*ALL)またはSECDTA(*DCM)を指定する場合には、システム上の他のすべての操作を停止しなければなりません。これには、サブシステム終了(ENDSBS(*ALL))コマンドまたはシステム終了(ENDSYS)コマンドによってすべてのサブシステムを終了するか、あるいはオペレーティング・システムの開始時にこのコマンドを指定する必要があります。通常、RSTUSRPRF コマンドは、オペレーティング・システムの復元後で、ユーザー・ライブラリーの復元前に使用します。ユーザー・プロファイルはそこに属しているライブラリーまたはオブジェクトをすべて復元する前に復元しなければなりません。ライブラリーおよびそのオブジェクトを復元した後に、RSTAUTコマンドによって、オブジェクトに対する権限をユーザー・プロファイルに復元します。コマンドの完了時に、メッセージCPF3775またはメッセージCPC3705がQHSTに送られます。システム復元の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

RSTUSRPRFコマンドによって復元中のユーザー・プロファイルには、次の状態が適用される場合があります。

- ユーザー・プロファイルがシステム上に存在しているが、媒体には存在しない場合は、システム上のプロファイルはそのまま残ります。
- ユーザー・プロファイルが媒体に存在しているが、システム上に存在していない場合は、新規にユーザー・プロファイルが作成されます。
- ユーザー・プロファイルが媒体とシステムの両方に存在する場合は、媒体のユーザー・プロファイルが復元されます。
- ユーザー・プロファイルが媒体に存在し、個別に復元中の場合は、パスワードまたはグループ接続なしの新規ユーザー・プロファイルが作成されます。
- ユーザー・プロファイルが媒体とシステムの両方に存在し、個別に復元中の場合は、媒体のユーザー・プロファイルが復元されます。しかし、システム上のパスワードおよびグループ接続は未変更のまま残ります。
- すべてのユーザー・プロファイルを復元中の場合は、パスワードおよびグループ接続も媒体から復元されます。
- ユーザー・プロファイルがシステム上に存在している場合は、既存のオブジェクト権限に変更はありません。

注: このコマンドは、ジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、システム保管(SAVSYS)特殊権限が必要です。
- このコマンドは、共通認可(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- USRPRF(*ALL)またはSECDTA(*DCM)を指定する場合には、システム上の他のすべての操作を終了しなければなりません。システム終了(ENDSYS)またはサブシステム終了(ENDSBS)コマンドを使用して、これらの操作を終了することができます。ENDSYSまたはENDSBSコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。
- 権限リストおよび権限ホルダーを復元するためには、USRPRF(*ALL)を指定しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単一値: *ALL, *NEW, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 3
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAIL	メール	*NO, *YES	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション
OMITUSRPRF	除外するユーザー・プロファイル	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SECDTA	機密保護データ	*USRPRF, *PVTAUT, *PWDGRP, *DCM	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *OUTFILE	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
SAVASPDEV	保管元ASP装置	名前, *ANY, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

復元するユーザー・プロファイルを指定します。復元するためには、このユーザー・プロファイルがシステム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドの時の媒体に存在していなければなりません。

単一値

***ALL** システム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管されたすべてのユーザー・プロファイル、権限リスト、および権限ホルダーが復元されます。

***NEW** システム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管され、現在システム上に存在しないすべてのユーザー・プロファイル、権限リスト、および権限ホルダーが復元されます。

*NONE

ユーザー・プロファイルは復元されません。この値を指定できるのは、同時にSECDTA(*DCM)も指定した場合だけです。

その他の値（最大300個指定可能）

総称名 復元するユーザー・プロファイルのセットの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名

は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前と一緒に*が指定されていない場合には、システムはその名前がユーザー・プロフィール名全体であるとみなします。

名前 復元される特定ユーザー・プロフィールの名前を1つまたは複数個指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、**装置 (DEV)**パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

復元処理に使用されるテープ・ファイルの順序番号を指定します。

*SEARCH

装置に入れられたボリュームは、保管されたユーザー・プロフィールが入っているファイルを検索されます。一致が見つかり、ユーザー・プロフィールが復元されます。一致が見つからない場合には、別のテープを装てんしてコマンドをやり直さなければなりません。

装置での最後の操作で、テープを最後の操作が終了したロケーションに位置付けることを指示する ***LEAVEが媒体の終わりオプション (ENDOPT)**パラメーターに指定された場合には、ファイルの検索は現在のテープ位置より先の最初のデータ・ファイルから開始されます。最後の操作のENDOPTパラメーターに***LEAVE**が使用されなかったり、あるいは操作の後でテープが手動で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のファイルから開始されます。

1から16777215

ユーザー・プロフィールの復元に使用するファイルの順序番号を指定します。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

メール (MAIL)

V2R2M0より前のリリースから保管されたOFFICEVISION配布オブジェクトを復元するかどうかを指定します。

注: このパラメーターに*YESを指定できるのは、ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターに*ALLを指定した場合だけです。

- *NO** メールの一部である配布オブジェクトは、ユーザー・プロファイルの復元と一緒に復元されません。
- *YES** 保管データがリリースV2R2M0より前に作成されていた場合には、メールの一部である配布オブジェクトは、ユーザー・プロファイルの復元とともに復元されます。そうでない場合には、配布オブジェクトは復元されません。V2R2M0以降に作成された保管配布オブジェクトの場合には、文書ライブラリー・オブジェクト復元(RSTDLO)コマンドにDLO(*MAIL)を指定してメールを復元してください。

トップ

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大3個指定可能)

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が*EXCLUDEに設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

注: *PGP値はユーザー・プロファイルには適用されません。1次グループとの相違があるユーザー・プロファイルは常に復元されます。

トップ

除外するユーザー・プロファイル (OMITUSRPRF)

復元から除外するユーザー・プロファイルを指定します。

単一値

***NONE**

どのユーザー・プロファイルも復元から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 復元から除外されるユーザー・プロファイルのセットの1つまたは複数の総称名を指定します。総称名は1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスク(*)は任意の有効文字で置き換えられます。総称名は、その接頭部で始まるすべてのユーザー・プロファイルを指定します。総称名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 復元から除外される特定のユーザー・プロファイルの1つまたは複数の名前を指定します。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

トップ

機密保護データ (SECDDTA)

指定されたユーザー・プロファイルおよび補助記憶装置の全権限情報を復元するか、または専用認可のみを復元するかを指定します。また、指定されたユーザー・プロファイルのパスワードおよびグループ・リンケージを復元するかどうかも指定します。

*USRPRF

SAVSYSまたはSAVSECDDTAコマンドによって保管された、指定されたすべてのユーザー・プロファイル、権限リスト、権限ホルダー、および専用認可が復元されます。

*PVTAUT

指定されたユーザー・プロファイルおよび補助記憶域プールの専用認可だけが復元されます。参照されるオブジェクトへの専用認可を復元するには、この情報が権限復元(RSTAUT) コマンドによって使用されます。USRPRF(*NEW)が指定された場合には、この値を指定することはできません。

*PWDGRP

指定されたユーザー・プロファイルのパスワードおよびグループ・リンケージがそのユーザー・プロファイルとともに復元されます。USRPRF(*ALL)が指定された場合には、この値を指定することはできません。

***DCM** デジタル証明書マネージャー(DCM)に必要な内部オブジェクトだけが復元されます。ユーザー・プロファイルは復元されません。この値を指定した場合には、USRPRF(*NONE)も指定しなければなりません。

トップ

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況についての情報を示すリストを作成して出力ファイルに送るかどうかを指定します。このリストには復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったすべてのオブジェクト、および除外されたすべてのオブジェクトが表示されます。復元されたオブジェクトの場合には、それぞれのオブジェクトの機密保護についての情報がリストされます。

*NONE

出力は作成されません。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: このパラメーターに*OUTFILEを指定した場合には、データベース・ファイル名をOUTFILEパラメーターに指定する必要があります。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

- * システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

’光ディスクのパス名/*’

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

トップ

保管元ASP装置 (SAVASPDEV)

保管された専用認可情報が入っていた補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。この専用認可情報は、後で権限復元(RSTAUT)機能によって使用できるように復元されます。

***ANY** 保管操作に組み込まれたすべてのASPから保管された専用認可情報が復元されます。

- * システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPから保管された専用認可情報が復元されます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPから保管された専用認可情報が復元されます。

***CURASPGRP**

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPから保管された専用認可が復元されます。

名前 保管された専用認可情報が入っていたASP装置の名前を指定します。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを設定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名QSRRSTでQSYS内のQASRRSTOを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

トップ

例

例1:すべてのプロファイルの復元

```
RSTUSRPRF  DEV(TAP01)  SEQNBR(*SEARCH)  ENDOPT(*REWIND)
```

このコマンドは、現在TAP01という名前のテープ装置に入れられたテープに入っているすべてのユーザー・プロファイルをシステムに復元します。テープからファイルが検索され、完了時または復元の終了時にテープが巻き戻されます。

例2:特定のユーザー・プロファイルの復元

```
RSTUSRPRF  DEV(TAP01)  USRPRF(USRA USRB USRC USER*)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルUSRA, USRB,およびUSRCを、名前がUSERで始まるすべてのユーザー・プロファイルと一緒に復元します。すべてのユーザー・プロファイルの保管バージョンがテープ装置TAP01に入れられたテープ上に存在していることが必要です。

例3:保管ファイルからのユーザー・プロファイルの復元

```
RSTUSRPRF  DEV(*SAVF)  USRPRF(USRX USRY)  SAVF(QGPL/SAVESEC)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルUSRXおよびUSRYをライブラリーQGPLの保管ファイルSAVESECからシステムに復元します。

例4:復元されたユーザー・プロファイルと復元されなかったユーザー・プロファイルに関する情報の報告

```
RSTUSRPRF  DEV(TAP01)  USRPRF(*ALL)  OUTPUT(*OUTFILE)
            OUTFILE(PRFS92)  OUTMBR(FOURQT *ADD)
```

このコマンドは、テープ装置TAP01からすべてのユーザー・プロファイルを復元します。復元されたユーザー・プロファイルと復元されなかったユーザー・プロファイルに関する情報を報告するリストが出力ファイルPRFS92に送られます。この出力は、メンバー内の既存の情報への追加としてメンバーFOURQTで受け取られます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPD3774

MAIL(*YES)を指定した場合には、USRPRF(*ALL)が必要である。

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF376B

ファイル&1が見つからない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3775

一部のユーザー・プロファイルまたは権限オブジェクトが復元されていない。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3785

終了していないサブシステムがある。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3796

ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。

CPF380C

ライブラリー&1は復元されなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

サブルーチンからの戻り (RTNSUBR)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブルーチンからの戻り(RTNSUBR)コマンドは、サブルーチンを呼び出したサブルーチン呼び出し(CALLSUBR) コマンド直後のコマンドに制御を戻します。RTNSUBRコマンドはサブルーチン内で使用する必要があります。またサブルーチン内では複数のRTNSUBRコマンドを使用できます。エラー・コードなどの値を戻す場合には、戻り値が4バイトの符号付き整数CL変数に保管できるようになっていなければなりません。戻り値 (RTNVAL)パラメーターは変数または定数とすることができます。RTNVALパラメーターを定義しない場合は、値は省略時のゼロになります。

制約事項:

- このコマンドは、CLサブルーチン内でのみ有効です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RTNVAL	戻り値	整数, <u>0</u>	オプション

[トップ](#)

戻り値 (RTNVAL)

サブルーチンから戻される値を指定します。これは、4バイトの符号付き整数CL変数に保管できる変数または定数とすることができます。サブルーチンを呼び出したサブルーチン呼び出し(CALLSUBR)コマンドが戻された値のCL変数を指定している場合には、変数がこの値に設定されます。

0 サブルーチンはゼロを戻します。

整数定数

戻り値の定数整数値を指定してください。

CL変数名

呼び出されるサブルーチンからの戻り値を入れるCL変数の名前を指定してください。これは符号付き整数CL変数でなければなりません。

[トップ](#)

例

```
PGM
:
SUBR SUBR1
:
IF (&A *LT 30) THEN(RTNSUBR RTNVAL(-1))
:
ENDSUBR
ENDPGM
```

このCLサブルーチンは、&Aが30未満の場合に、RTNSUBRコマンドによって終了され、戻り値は-1となります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

権限リスト項目検索 (RTVAUTLE)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト項目検索(RTVAUTLE)コマンドは、CLコマンドまたはREXXプロシージャで使用して、ユーザーが権限リスト上にもつ権限を検索します。このコマンドは、ユーザーの既存の権限に加えて新しい権限を組み込む目的でユーザーの権限を変更するために、権限リスト項目変更コマンドと一緒に使用することができます。

権限リスト名およびユーザー名を指定しなければなりません。ユーザーに必要な各権限用の変数に空白が戻されるのは、ユーザーにその権限がない場合です。ユーザーに権限がある場合は、権限リスト項目変更(CHGAUTLE)コマンドの正しい値が変数に戻されます。この値は、指定されたユーザーのために指定された変数に戻されます。

権限リスト管理(*AUTLMGT)権限をもつユーザーまたは権限リストを所有するユーザー・リスト上のユーザーの権限を検索することができます。その他のユーザーは、ユーザー自身の権限または*PUBLIC権限を得ることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	名前	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	名前, *PUBLIC	必須, 定位置 2
ALL	*ALLのCL変数 (10)	文字値	オプション
CHANGE	*CHANGEのCL変数 (10)	文字値	オプション
USE	*USEのCL変数 (10)	文字値	オプション
EXCLUDE	*EXCLUDEのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJALTER	*OBJALTERのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJEXIST	*OBJEXISTのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJMGT	*OBJMGTのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJOPR	*OBJOPRのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJREF	*OBJREFのCL変数 (10)	文字値	オプション
READ	*READのCL変数 (10)	文字値	オプション
ADD	*ADDのCL変数 (10)	文字値	オプション
UPDATE	*UPDのCL変数 (10)	文字値	オプション
DELETE	*DLTのCL変数 (10)	文字値	オプション
EXECUTE	*EXECUTEのCL変数 (10)	文字値	オプション
AUTLMGT	*AUTLMGTのCL変数 (10)	文字値	オプション

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

ユーザーの権限が由来する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変更する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

情報を検索するユーザーを指定します。変数を指定する場合には、ユーザー名または値*PUBLICが入っている10文字のフィールドでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

*PUBLIC

指定したパラメーターに戻される情報は、権限リストに対する特定権限がなく、そのグループが権限リストに対して特定権限をもっていないユーザーに関するものです。

名前 情報を検索するユーザーのユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

*ALLのCL変数 (10) (ALL)

ユーザーが*ALL権限をもっている場合には、特殊値*ALLを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

*CHANGEのCL変数 (10) (CHANGE)

ユーザーが変更権限をもっている場合には、特殊値*CHANGEを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

*USEのCL変数 (10) (USE)

ユーザーが使用権限をもっている場合には、特殊値*USEを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

***EXCLUDEのCL変数 (10) (EXCLUDE)**

ユーザーが実行権限をもっている場合には、特殊値*EXCLUDEを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

***OBJALTERのCL変数 (10) (OBJALTER)**

ユーザーに*OBJALTER権限がある場合には、*OBJALTERを戻すために使用する変数の名前を指定します。CLプログラムでは、この変数は10文字の長さです。ユーザーに*OBJALTER権限がない場合には、変数にブランクが戻されます。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

***OBJEXISTのCL変数 (10) (OBJEXIST)**

ユーザーがオブジェクト存在権限をもっている場合には、特殊値*OBJEXISTを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

***OBJMGTのCL変数 (10) (OBJMGT)**

ユーザーがオブジェクト管理権限をもっている場合には、特殊値*OBJMGTを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

***OBJOPRのCL変数 (10) (OBJOPR)**

ユーザーがオブジェクト操作権限をもっている場合には、特殊値*OBJOPRを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

***OBJREFのCL変数 (10) (OBJREF)**

ユーザーに*OBJREF権限がある場合には、*OBJREFを戻すために使用する変数の名前を指定します。CLプログラムでは、この変数は10文字の長さです。ユーザーに*OBJREF権限がない場合には、変数に空白が戻されます。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数には空白が戻されます。

[トップ](#)

***READのCL変数 (10) (READ)**

ユーザーが読み取り権限をもっている場合には、特殊値*READを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数には空白が戻されます。

[トップ](#)

***ADDのCL変数 (10) (ADD)**

ユーザーが追加権限をもっている場合には、特殊値*ADDを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数には空白が戻されます。

[トップ](#)

***UPDのCL変数 (10) (UPDATE)**

ユーザーが更新権限をもっている場合には、特殊値*UPDを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数には空白が戻されます。

[トップ](#)

***DLTのCL変数 (10) (DELETE)**

ユーザーが削除権限をもっている場合には、特殊値*DLTを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数には空白が戻されます。

[トップ](#)

*EXECUTEのCL変数 (10) (EXECUTE)

ユーザーに*EXECUTE権限がある場合には、*EXECUTEを戻すために使用する変数の名前を指定します。CLプログラムでは、この変数は10文字の長さです。ユーザーに*EXECUTE権限がない場合には、変数にブランクが戻されます。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

*AUTLMGTのCL変数 (10) (AUTLMGT)

ユーザーが権限リスト管理権限をもっている場合には、特殊値*AUTLMGTを戻すために使用される変数の名前を指定します。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

[トップ](#)

例

```
ADDAUTLE  AUTL(PAYROLL)  USER(TOM)
           AUT(*OBJOPR *READ *UPD *AUTLMGT)
```

ユーザーSMITHが以下の入っているCLプログラムを呼び出す場合:

```
DCL      &CHG          *CHAR 10
DCL      &ALL          *CHAR 10
DCL      &USE          *CHAR 10
DCL      &EXCL        *CHAR 10
DCL      &OBJJOP      *CHAR 10
DCL      &ALTER       *CHAR 10
DCL      &REFER       *CHAR 10
DCL      &READ        *CHAR 10
DCL      &ADD         *CHAR 10
DCL      &UPD         *CHAR 10
DCL      &DLT         *CHAR 10
DCL      &EXEC        *CHAR 10
DCL      &AUTLM       *CHAR 10
:
RTVAUTLE AUTL(PAYROLL)  USER(TOM)  USE(&USE) +
           OBJOPR(&OBJJOP)  AUTLMGT(&AUTLM)
```

このコマンドは、以下の権限をユーザーTOMの権限リストPAYROLLから検索します。つまり、*USE,*OBJOPR,および*AUTLMGTです。TOMにこの権限がない場合は、ブランクが戻されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF22A7

ユーザー&1は権限リスト&2になく、権限の検索は行われなかった。

CPF22A8

ユーザー&1の権限の検索は認可されていない。

CPF2204

ユーザー・プロフィール&1が見つからない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

[トップ](#)

バックアップ・オプション検索 (RTVBCKUP)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ検索(RTVBCKUP)コマンドは、ユーザーが事前定義バックアップのいずれかにあるオプションを検索してCL変数に入れることができる制御言語プログラムまたはREXXプロシージャーで使用されます。バックアップの詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCKUPOPT	バックアップ・オプション	*DAILY, *WEEKLY, *MONTHLY	必須, 定位置 1
DEV	DEVのCL変数 (43)	文字値	オプション
TAPSET	TAPSETのCL変数 (34)	文字値	オプション
CLRTAP	CLRTAPのCL変数 (4)	文字値	オプション
SBMJOB	SBMJOBのCL変数 (4)	文字値	オプション
CHGONLY	CHGONLYのCL変数 (4)	文字値	オプション
PRTRPT	PRTRPTのCL変数 (4)	文字値	オプション
LIB	LIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
FLR	FLRのCL変数 (10)	文字値	オプション
DIR	DIRのCL変数 (10)	文字値	オプション
SECDTA	SECDTAのCL変数 (4)	文字値	オプション
CFG	CFGのCL変数 (4)	文字値	オプション
MAIL	MAILのCL変数 (4)	文字値	オプション
CAL	CALのCL変数 (4)	文字値	オプション
EXITPGM	EXITPGMのCL変数 (10)	文字値	オプション
EXITPGMLIB	EXITPGMLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション

[トップ](#)

バックアップ・オプション (BCKUPOPT)

検索するバックアップ・オプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DAILY

日次バックアップ・オプションが検索されます。

*WEEKLY

週次バックアップ・オプションが検索されます。

*MONTHLY

月次バックアップ・オプションが検索されます。

[トップ](#)

DEVのCL変数 (43) (DEV)

装置値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は43桁です。戻される値は空白で区切られた4個の10桁の装置名から成る文字ストリングです。

[トップ](#)

TAPSETのCL変数 (34) (TAPSET)

テープ・セット名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は34桁（空白で区切られた7個の4桁のテープ・セット名）です。

[トップ](#)

CLRTAPのCL変数 (4) (CLRTAP)

バックアップ用のテープの除去に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

[トップ](#)

SBMJOBのCL変数 (4) (SBMJOB)

バックアップがバッチ・ジョブとして実行されるかどうかの標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

[トップ](#)

CHGONLYのCL変数 (4) (CHGONLY)

変更されたオブジェクトのみの保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

[トップ](#)

PRTRPTのCL変数 (4) (PRTRPT)

保管したオブジェクトの印刷に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

[トップ](#)

LIBのCL変数 (10) (LIB)

このバックアップで保管するライブラリーを指定する値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、少なくとも10桁の長さでなければなりません。値*ALLUSR, *FROMLIST,または*NONEが戻されます。

[トップ](#)

FLRのCL変数 (10) (FLR)

このバックアップで保管するフォルダーを指定する値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、少なくとも10桁の長さでなければなりません。値*ALL, *FROMLIST,または*NONEが戻されます。

[トップ](#)

DIRのCL変数 (10) (DIR)

このバックアップで保管するユーザー・ディレクトリーを指定した値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、少なくとも10桁の長さでなければなりません。*ALLUSRまたは*NONEの値が戻されます。

[トップ](#)

SECDDTAのCL変数 (4) (SECDDTA)

機密保護データの保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

[トップ](#)

CFGのCL変数 (4) (CFG)

構成データの保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

[トップ](#)

MAILのCL変数 (4) (MAIL)

OFFICEVISIONメールの保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

[トップ](#)

CALのCL変数 (4) (CAL)

OFFICEVISION予定表の保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

[トップ](#)

EXITPGMのCL変数 (10) (EXITPGM)

バックアップの実行の前後に呼び出すユーザー・プログラムの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、少なくとも10桁の長さでなければなりません。出口プログラムが指定されていない場合には、*NONEが戻されます。

[トップ](#)

EXITPGMLIBのCL変数 (10) (EXITPGMLIB)

出口プログラムが入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、少なくとも10桁の長さでなければなりません。出口プログラムが指定されていない場合には、空白が戻されます。*LIBLが戻された場合には、プログラムはライブラリー・リストを使用します。

[トップ](#)

例

```
RTVBCKUP BCKUPOPT(*DAILY) SBMJOB(&SBMJOBVAR) LIB(&LIBVAR)
```

このコマンドは、CL変数SBMJOBVARおよびLIBVAR中で、日次バックアップのSBMJOBおよびLIB値を個別に検索します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1EE3

バックアップ・オプションは認可されていない。

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

バインダー・ソース検索 (RTVBNDSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインダー・ソース検索(RTVBNDSRC)コマンドを使用して、1セットのモジュール、サービス・プログラム、またはその両方からのエクスポートを検索し、それらを（エクスポートに必要なバインダー言語ステートメントとともに）指定したファイル・メンバーに入れることができます。このファイル・メンバーは、後でサービス・プログラム作成(CRTSRVPGM)コマンドのSRCMBRパラメーターへの入力として使用することができます。バインダー言語が検索されてソース・ファイルのメンバーに入れられた後に、そのバインダー言語を編集して、必要な変更を行うことができます。

省略時の値によって、CRTSRVPGMコマンドには、サービス・プログラムからの搬出を識別するためにEXPORTおよびSRCFILEパラメーターに指定されたバインダー言語ファイルが入れられます。RTVBNDSRCコマンドは、このバインダー言語を自動的に作成する際に有効に役立てることができます。

制約事項:

- このファイルが存在していない場合には、ソース物理ファイル作成(CRTSRCPF)コマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。
- 物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)コマンドに対する*USE権限が必要です。
- このメンバーが存在していない場合には、物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドに対する*USE権限が必要です。
- ユーザーには、エクスポートの検索元のモジュールまたはサービス・プログラムに対する*USE権限が必要です。
- ユーザーには、モジュールまたはサービス・プログラムが存在しているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- バインダー言語を受け取るためのソース・ファイルおよびソース・メンバーが存在している場合には、ファイルに対して変更(*CHANGE)権限とオブジェクト変更(*OBJALTER)またはオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要であり、そのファイルが入っているライブラリーに対して*EXECUTE権限が必要です。
- ソース・ファイルは存在しているが、ソース・メンバーを作成する必要がある場合には、ファイルに対する変更(*CHANGE)権限および*OBJALTERまたは*OBJMGTのいずれかの権限と、そのファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE、読み取り(*READ)、および追加(*ADD)権限が必要です。
- ソース・ファイルおよびソース・メンバーを作成する必要がある場合には、ライブラリーに対する*EXECUTE、*READ、および*ADD権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サービス・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイルのエクスポート	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイルのエクスポート	名前, <u>QSRVSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバーのエクスポート	名前, *DFT	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE	オプション

トップ

モジュール (MODULE)

エクスポートされた記号を検索するモジュールのリストを指定します。重複するモジュールおよびライブラリーの指定が見つかった場合には、重複するモジュールおよびライブラリーの最初に見つかったものだけが使用されます。

このパラメーターまたはサービス・プログラム (SRVPGM) パラメーターには、少なくとも1つの値が指定されていなければなりません。

このパラメーターには最大300個までの値を指定することができます。

修飾子1: モジュール

***ALL** 指定したライブラリーのすべてのモジュールからエクスポートされた記号が検索されます。

総称名 エクスポートされた記号を検索する総称モジュール名を指定してください。指定した1つまたは複数のライブラリーの接頭部が同じ名前のすべてのモジュールが使用されます。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 エクスポートされた記号を検索するモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

サービス・プログラム (SRVPGM)

エクスポートされる記号の検索元のサービス・プログラムを指定します。このパラメーターまたは**モジュール (MODULE)**パラメーターには、少なくとも1つの値が指定されていなければなりません。

修飾子1: サービス・プログラム

名前 エクスポートされる記号の検索元のサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・ファイルのエクスポート (SRCFILE)

エクスポートされた記号用のバインダー言語を入れるソース・ファイルを指定します。ソース・ファイルが存在していない場合には作成されます。

注:

- 指定できるのは、タイプ*SRCのデータベース物理ファイルだけです。分散データ管理機能(DDM)ファイルはサポートされません。
- バインダー言語を受け取るためのソース・ファイルが存在している場合には、そのレコード長は最小92バイトでなければなりません。

修飾子1: ソース・ファイルのエクスポート

QSRVSRC

ソース・ファイル名はQSRVSRCです。

名前 ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが

検索されます。指定した名前ライブラリー・リストにソース・ファイルが見つからない場合には現行ライブラリーに作成されます。現行ライブラリーがない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。指定した名前ライブラリーにソース・ファイルが存在しない場合には現行ライブラリーに作成されます。現行ライブラリーがない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。指定した名前ライブラリーにソース・ファイルが見つからない場合には、このライブラリーにソース・ファイルが作成されます。

トップ

ソース・メンバーのエクスポート (SRCMBR)

エクスポートされた記号用のバインダー言語を入れるソース・ファイル・メンバーを指定します。ただ1つのソース・メンバーだけにバインダー言語が入ります。

メンバーが指定したソース・ファイルに存在しない場合にはメンバーが作成されます。

***DFT** サービス・プログラムが指定されていると、ソース・ファイル・メンバーの名前は**サービス・プログラム (SRVPGM)**パラメーターに指定された値から取られます。そうでない場合は、ソース・ファイル・メンバーの名前は**モジュール (MODULE)**パラメーターに指定された値から取られます。

- モジュールを1つしか指定していない場合には、そのモジュールの名前が使用されるメンバー名です。
- 複数のモジュールが指定されている場合には、最初に指定されたモジュールが使用されます。
- 値*ALLまたは総称名が指定されている場合には、最初に見つかったモジュール名が使用されるソース・メンバーになります。

名前 生成されたソース・バインダー言語が入るメンバーの名前を指定してください。

トップ

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

生成されたバインダー言語ステートメントを置き換えるかあるいは既存のステートメントに追加するかを指定します。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

注: メンバーがすでに存在していて、たとえば、すでにSTRPGMEXPおよびENDPGMEXP ステートメントが入っている場合には、このメンバーには、この操作の終わりにバインダー言語の複数のSTRPGMEXPおよびENDPGMEXPステートメントが入っている場合があります。バインダー言語をサービス・プログラム作成(CRTSRVPGM)コマンドで使用するためには、これら複数のステートメントを編集する必要があります。

トップ

例

```
RTVBNSRC  MODULE(MYLIB/*ALL)
           SRCFILE(MYLIB/MYBINDFILE) MBROPT(*ADD)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のすべてのモジュールからエクスポートを検索し、それを最初に見つかったモジュールの名前を付けてソース・メンバーに入れます。このソース・メンバーがライブラリーMYLIB内のファイルMYBINDFILE中に存在していない場合は、そのメンバーが作成されます。エクスポート・ステートメントがメンバーの終わりに追加されます。このコマンドの終了時に、複数プログラム・エクスポート開始および終了ステートメントが存在している場合は、ソース・メンバーを使用してサービス・プログラムを作成する前に、そのソース・メンバーを編集する必要があります。エクスポート・ブロックの一部がサービス・プログラムの前のバージョン用である場合は、余分のSTRPGMEXP、ENDPGMEXPステートメントを除去できるか、PGMLVLパラメーターをSTRPGMEXPステートメントに追加できるかのいずれかです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5CA5

データベース・ソース・ファイルのレコード長が小さすぎる。

CPF5D06

ライブラリー&2,ライブラリー&2のファイル&1,またはメンバー&3は認可されていない。

CPF5D08

ライブラリー&2のファイル&1のファイル・タイプはサポートされていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9832

DDMファイル&2はこの機能でサポートされていない。

CPF9834

ライブラリー&2の入力ファイル&1はソース・ファイルでない。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

構成ソースの検索 (RTVCFGSR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成ソースの検索(RTVCFGSR)コマンドは、既存の構成オブジェクトを記述しているCLソース・ステートメントを検索するために使用されます。これらのソース・ステートメントは、ソース・ファイル・メンバーに入れられます。CLソース仕様は、構成オブジェクトを再作成するために使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGD	構成記述	単一値: *ALL その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*ALL, *NWS, *NWID, *LIND, *CTLD, *DEV, *MOD, *COS, *CNL, *NTB	必須, 定位置 2
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QCLSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>LIBL</u> , *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>CFGD</u>	オプション, 定位置 4
RTVOPT	検索オプション	*NET, *OBJ	オプション
MBROPT	メンバー・オプション	*ADD, <u>REPLACE</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>CFGDTXT</u> , *BLANK	オプション

[トップ](#)

構成記述 (CFGD)

検索する構成オブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*ALL 指定された構成タイプ(CFGTYPEパラメーター) のすべての構成オブジェクトが検索されます。

総称構成オブジェクト名

構成記述名の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

構成記述名

構成記述のユーザー定義名を指定してください。

最大256個の名前を指定することができます。構成オブジェクト名と総称名をどのようにでも組み合わせることができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

タイプ (CFGTYPE)

検索する構成オブジェクトのタイプを指定します。

***ALL** 指定された名前と一致するすべてのネットワーク・サーバー、ネットワーク・インターフェース、回線、制御装置、装置、接続リスト、モード、サービス・クラス、およびNETBIOS記述が次の順序で検索されます。

1. 接続リスト
2. ネットワーク・サーバー記述
3. ネットワーク・インターフェース
4. 非TDLC回線記述
5. 非TDLC制御装置記述
6. TDLC回線記述
7. TDLC制御装置記述
8. 装置記述
9. モード記述
10. サービス・クラス記述
11. NETBIOS記述
12. 回線記述のSWTCTLLST
13. 制御装置記述のSWTLINLST
14. 回線記述のSWTNWILST
15. リモート表示用の印刷装置

***NWS**

指定された名前と一致するすべてのネットワーク・サーバー記述が検索されます。

***NWID**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター)に指定された名前と一致するすべてのネットワーク・インターフェース記述が検索されます。

***LIND** **構成記述**プロンプト(CFGDパラメーター)に指定された名前と一致するすべての回線記述が検索されます。

***CTLD**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター)に指定された名前と一致するすべての制御装置記述が検索されます。

***DEV**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター)に指定された名前と一致するすべての装置記述が検索されます。

*MODD

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に指定された名前と一致するすべてのモード記述が検索されます。

*COSD

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に指定された名前と一致するすべてのサービス・クラス記述が検索されます。

*CNNL

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に指定された名前と一致するすべての接続リストが検索されます。

*NTBD

指定された名前と一致するすべてのNETBIOS記述が検索されます。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

ソース・ファイル・メンバーが含まれる、以前に作成されているデータベース・ソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

指定できるソース・ファイル値は次の通りです。

QCLSRC

QCLSRCという名前のソース・ファイルが使用されます。

ソース・ファイル

ソース・ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

CLソース・ステートメントが書き込まれるデータベース・ソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

*CFGD

名前が1つだけ指定され、その名前が総称名でも*ALLでもない場合には、ソース・メンバー名は構成オブジェクト名となります。そうでない場合には、名前はCFGSRC となります。

ソース・メンバー名

CLソース・ステートメントを入れるソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

検索オプション (RTVOPT)

指定されたオブジェクトについて、どの接続機構情報が検索されるかを指定します。

***NET** ネットワーク・インターフェースの場合には、各ネットワーク・インターフェース記述およびそれに接続されている非交換回線、制御装置、および装置の記述が検索されます。回線の場合には、各回線記述およびそれに接続されている非交換制御装置と装置の記述が検索されます。制御装置の場合には、各制御装置記述およびそれに接続されている装置の記述が検索されます。ネットワーク・インターフェース、回線、および制御装置の場合には、交換接続情報も検索されます。

***OBJ** すべての接続機構情報と一緒に、指定された各構成オブジェクト記述が検索されます。

CFGTYPEパラメーターが*ALLの場合には、RTVOPTは無視されます。

トップ

メンバー・オプション (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***CFGDTXT**

複数のオブジェクトが指定されていないか、あるいは名前が総称名でない限り、テキスト記述は、CFGDパラメーターで指定されたオブジェクトのテキスト記述と同じです。この場合には、テキスト記述に*BLANKが使用されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

例

```
RTVCFGSRG  CFGD(CTL*) CFGTYPE(*CTLD)  
           SRCMBR(CTLS) RTVOPT(*OBJ)
```

このコマンドは、CLソース・ステートメントをソース・ファイルQCLSRC中のファイル・メンバーCTLSに入れます。これらのソース・ステートメントは、名前がCTLで始まる既存のすべての制御装置のオブジェクト記述を再作成するために使用できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF263E

ファイル・メンバー&1にその最大順序番号が入っている。

CPF263F

オブジェクトが見つからなかった。

CPF264A

ライブラリー&2の&1のレコード長が小さすぎる。

CPF264C

ソース・ファイル・メンバー&1が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

[トップ](#)

構成状況検索 (RTVCFGSTS)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成状況検索(RTVCFGSTS)コマンドは、構成オブジェクトの状況を表す数値とともにCLプログラムを提供します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGD	構成記述	名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*NWI, *NWS, *LIN, *CTL, *DEV	必須, 定位置 2
STSCDE	状況コードのCL変数	10 進数	必須, 定位置 3

[トップ](#)

構成記述 (CFGD)

状況を検索する構成記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

タイプ (CFGTYPE)

状況を検索したい記述のタイプを指定します。

***NWS** このオブジェクトはネットワーク・サーバー記述です。

***NWI** ネットワーク・インターフェースの状況が検索されます。

***LIN** 回線の状況が検索されます。

***CTL** 制御装置の状況が検索されます。

***DEV** 装置の状況が検索されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

状況コードのCL変数 (STSCDE)

検索された状況を入れる変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは長さ(5 0)の10進変数でなければなりません。

戻される可能性のある値は次の通りです。

値 定義

- 0 オフに構成変更-システムはこの記述を使用していません。
- 10 オフへの構成変更保留中-この記述はオフに構成変更されている途中です。この間にシステムは資源の管理などのタスクを取り除くことがあります。
- 20 オンへの構成変更保留中-この記述はオンに構成変更されている途中です。この間にシステムは資源の管理、入出力プロセッサへのプログラムのダウンロード、回線終端装置(DCE)との通信などのタスクを行なっていることがあります。
- 30 オンに構成変更-ネットワーク・インターフェース、ネットワーク・サーバー、回線、制御装置、または装置を管理するタスクがシステムによって行なわれ、システムがそれらと通信することができます。
- 32 オンに構成変更/CNN保留-OPTICONNECT制御装置の最初の対がオンに構成変更されていますが、その接続されている装置がまだオンに構成変更状態になっていません。
- 40 接続保留中-この状況は、SDLC, IDLC, BSC,または非同期の交換回線の場合にだけ有効です。回線は、交換接続の確立(ダイヤル呼び出しによる接続または応答による接続の確立)を待機している間にこの状況になります。
- 50 サインオン画面-この状況は、表示装置の場合にだけ有効です。システムは、サインオン画面を受け取れるように装置を準備中であるか、サインオン画面を送信中であるか、あるいは実際のサインオン画面が表示装置に表示されています。
- 51 活動中/CNN保留-OPTICONNECT制御装置の最初の対がオンに構成変更され、その接続されている装置がオンに構成変更されていて、OPTICONNECT経路が確立されるのを待機中です。
- 60 活動状態-オブジェクトが正常にオンへの構成変更状況になりました。また、ネットワーク・インターフェースおよびネットワーク・サーバーの場合には、接続された1つまたは複数の回線がオンへの構成変更保留中またはそれ以上の状況になっています。回線の場合には、接続された1つまたは複数の制御装置がオンへの構成変更保留中またはそれ以上の状況になっています。制御装置の場合には、接続された1つまたは複数の装置がオンへの構成変更保留中またはそれ以上の状況になっています。装置の場合には、活動状況は装置のタイプによって異なります-詳細についてはAS/400通信構成(SD88-5011)を参照してください。システム要求キーを押した結果として2番目のサインオン画面が表示されている表示装置は活動状態と見なされます。
- 63 読み取りプログラム活動中-スプール読み取りプログラムが装置を使用中です。
- 66 書き出しプログラム活動中-スプール書き出しプログラムが装置を使用中です。
- 67 使用可能-独立補助記憶域プール(ASP)装置が機能制限なしで使用できます。
- 70 保留中-この状況は、装置記述の場合にだけ有効です。ユーザーまたはシステムが通信できないように通信装置を保留しています。装置を解放するためには、通信装置解放(RLSCMNDEV)コマンドを使用することができます。
- 80 回復保留-回線、制御装置、または装置のエラー回復処置が保留されています。起こったエラーを示すメッセージはQSYSOPRメッセージ待ち行列にあります。
- 90 回復取り消し-ネットワーク・インターフェース、回線、制御装置、または装置のエラーの回復が

取り消されました。エラーが起こり、操作員がメッセージに対しC（エラー回復の取り消し）で応答したか、あるいは操作員がコマンド(ENDNWIRCY, ENDLINRCY, ENDCTRLCY, ENDDEVRCY)を使用してエラーの回復を終了しました。

- 95 システム要求-システムが表示装置を要求していて、それと関連したジョブが保留されています。これは、ユーザーがシステム要求キーを押した結果として起こります。
- 100 障害-ネットワーク・インターフェース, ネットワーク・サーバー, 回線, 制御装置, または装置でエラーが起こりましたが、このエラーはオフに構成変更してから、もう一度オンに構成変更することによってしか回復することはできません。
- 103 読み取りプログラム失敗-スプール読み取りプログラムが使用中の装置にエラーが起こりました。
- 106 書き出しプログラム失敗-スプール書き出しプログラムが使用中の装置にエラーが起こりました。
- 107 SHUTDOWN - NWSDはアプリケーション・プログラム・インターフェース(API)を使用してシャットダウンされました。
- 110 診断モード-ネットワーク・インターフェース資源, ネットワーク・サーバー資源, 回線資源, 制御装置資源, または装置資源は、問題を診断するために問題分析手順で使用しており、他のユーザーがこの資源を使用することはできません。
- 111 損傷-ネットワーク・インターフェース記述, ネットワーク・サーバー記述, 回線記述, 制御装置記述, または装置記述に損傷があります。これはシステム・エラー状態です。この損傷が起こった時点を示す情報はヒストリー・ログ(QHST)にあります。詳細な情報が垂直ライセンス内部コード(VLIC)ログに入っている可能性があります。再度使用する前に記述を削除して、もう一度作成しなければなりません。
- 112 ロック-別のジョブがこの記述を占有ロックしているので、資源の実際の状況は判別することはできません。後からやり直すか、あるいはオブジェクト・ロック処理(WRKOBJLCK)コマンドを使用してどのジョブがこの記述をロックしているかを判別してください。
- 113 不明-記述の状況標識は、判別することができません。これはシステム・エラー状態です。オブジェクト・ダンプ(DMPOBJ)コマンドを使用して、この記述の内容または属性をスプール印刷装置ファイルにダンプし、弊社技術員に連絡してください。

これは必須パラメーターです。

詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

[トップ](#)

例

```
RTVCFGSTS CFGD(ND01) CFGTYPE(*LIN) STSCDE(&STSCODE)
```

このコマンドは、CL変数&STSCODEで使用するために回線構成記述ND01の構成状況を検索します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

[トップ](#)

C ロケール記述の検索 (RTVCLDSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

C/400*ロケール記述ソース検索(RTVCLDSRC)コマンドは、SRCFILEパラメーターに指定したロケールを検索します。調整されたロケール記述を作成するためにモデルとして、*SYSVALロケールを検索し使用することができます。ロケール・ソースで使用されるロケール・コマンドおよび形式は、AS/400 言語: IBM システム・アプリケーション体系 C/400 使用者の手引き(N:SC09-1347)に要約されています。ロケール・ソースを完了すると、CRTCLDコマンドを使用して、その記述を処理してください。

エラー・メッセージ: RTVCLDSRC

*ESCAPE メッセージ

PSE1708

指定したファイルおよびライブラリーにメンバー&3が見つからなかった。

PSE1709

ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

PSE1739

必要な記憶域を割り振ることができなかった。

PSE1751

ファイル&3のソース&1は検索されなかった。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLD	ロケール名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ロケール名	名前, *SYSVAL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCLDSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *CLD	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション, 定位置 4

[トップ](#)

ロケール名 (CLD)

検索するC/400ロケール記述を指定します。ロケール名およびライブラリーを指定する代わりに*SYSVALを使用する場合には、システム値を検索することができます。

ロケール名

ロケール記述の名前を入力してください。

*SYSVAL

検索されるロケール記述ソースの基礎として、システムの省略時の値が使用されます。省略時のロケール記述の値は、対応するシステム値をもっていないロケール記述情報に対して使用されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

指定されたソース・ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ロケール記述が入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

検索されたC/400ロケール記述ソースを受け取るファイルの名前およびライブラリーを指定します。指定したライブラリーが存在していない場合には、処理は終了します。指定されたファイルが存在していない場合には、それを作成します。

QCLDSRC

Cロケール記述ソースの省略時のソース・ファイル名。SEUを使用してソースおよびそれに対応したリストを走査検索したい場合には、この省略時の値を使用してください。

ソース・ファイル名

Cロケール記述ソースを保管したいファイルの名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ロケール記述ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

検索されたロケールを記憶するために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索されたロケールを記憶するためのライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

処理の後でC/400ロケール記述ソースを記憶することになるソース・ファイル・メンバーを指定します。指定されたメンバーが存在していない場合には、それを作成します。

***CLD** CLDパラメーターによって指定されたCロケール記述名が、ソース・ファイル・メンバー名として使用されることを指定します。たとえば、システム値を検索した場合には、ロケール・ソースはSYSVALと呼ばれるメンバーに記憶されます。

ソース・ファイル・メンバー名

検索されたCロケール記述を保管するソース・ファイル・メンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

テキスト記述 (TEXT)

処理するソース・ファイル・メンバーと対応させたいテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

Cロケール記述に指定したテキスト記述と同じものが使用されることを指定します。

***BLANK**

テキストはありません。

'記述' 検索されたCロケール記述に付ける記述テキストを入力してください。50桁以内のテキストを入力することができます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

PSE1708

指定したファイルおよびライブラリーにメンバー&3が見つからなかった。

PSE1709

ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

PSE1739

必要な記憶域を割り振ることができなかった。

PSE1751

ファイル&3のソース&1は検索されなかった。

[トップ](#)

クリーンアップの検索 (RTVCLNUP)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クリーンアップ検索(RTVCLNUP)コマンドは、CLまたはREXXプログラムでの使用のためにクリーンアップ操作の値を検索します。値はプログラム中の指定されたCL変数に戻されます (コピーされます)。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ALWCLNUP	ALWCLNUPのCL変数 (4)	文字値	オプション
STRTIME	STRTIMEのCL変数 (10)	文字値	オプション
USRMSG	USRMSGのCL変数 (5)	文字値	オプション
SYSMSG	SYSMSGのCL変数 (5)	文字値	オプション
CRITSYSMSG	CRITSYSMSGのCL変数 (5)	文字値	オプション
SYSVRT	SYSVRTのCL変数 (5)	文字値	オプション
SYSLOG	SYSLOGのCL変数 (5)	文字値	オプション
JOBQ	JOBQ名のCL変数 (10)	文字値	オプション
JOBQLIB	JOBQライブラリーのCL変数 (10)	文字値	オプション
RUNPTY	RUNPTYのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
JRNRCVSIZ	JRNRCVSIZのCL変数 (7 0)	10 進数	オプション
CALITM	CALITMのCL変数 (5)	文字値	オプション

[トップ](#)

ALWCLNUPのCL変数 (4) (ALWCLNUP)

クリーンアップ可能値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小4文字です。クリーンアップ操作を実行できる場合には、'*YES'が戻されます。そうでない場合には、'*NO'が戻されます。

[トップ](#)

STRTIMEのCL変数 (10) (STRTIME)

毎日のクリーンアップ開始時刻を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小10文字です。特殊値'*NONE'または'*SCDPWROFF',あるいは開始時刻が戻されます。

[トップ](#)

USRMSGのCL変数 (5) (USRMSG)

ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列上のユーザー・メッセージをクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたはユーザー・メッセージが削除されずに保存されている日数が戻されます。

[トップ](#)

SYSMSGのCL変数 (5) (SYSMSG)

QSYSOPRメッセージ待ち行列およびワークステーション・メッセージ待ち行列上のユーザー・メッセージをクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたはシステム・メッセージが削除されずに保存されている日数が戻されます。

[トップ](#)

CRITSYSMSGのCL変数 (5) (CRITSYSMSG)

QSYSMSGメッセージ待ち行列上のメッセージをクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたは重要なシステム・メッセージが削除されずに保持されている日数が戻されます。

[トップ](#)

SYSPRTのCL変数 (5) (SYSPRT)

ジョブ・ログおよび他のシステム出力をクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたはジョブ・ログが削除されずに保存されている日数が戻されます。

[トップ](#)

SYSLOGのCL変数 (5) (SYSLOG)

システム・ジャーナル、ヒストリー・ファイル、問題ログ・ファイル、アラート・データベース、およびプログラム一時修正をクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたはシステム・ジャーナルおよびシステム・ログが削除前に保持されている日数が戻されます。

[トップ](#)

JOBQ名のCL変数 (10) (JOBQ)

クリーンアップ・バッチ・ジョブが投入されるジョブ待ち行列の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小10文字です。クリーンアップ・バッチ・ジョブが実行されるジョブ待ち行列の名前が戻されます。

[トップ](#)

JOBQライブラリーのCL変数(10) (JOBQLIB)

クリーンアップ・バッチ・ジョブが投入されるジョブ待ち行列のライブラリー名を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小10文字です。

[トップ](#)

RUNPTYのCL変数 (2 0) (RUNPTY)

ジョブの一部である経路指定ステップの実行（または処理）優先順位である1から99までの範囲の2桁の値を受け取るCL変数の名前を指定します。実行優先順位の詳細については、CHGJOB（ジョブ変更）コマンドのこのパラメーターの説明を参照してください。この変数は、小数部のない2桁の10進変数で指定しなければなりません。

[トップ](#)

JRNRCVSIZのCL変数 (7 0) (JRNRCVSIZ)

1から1,919,999 (KB)までの範囲のジャーナル・レシーバー・サイズの値を受け取るCL変数の名前を指定します。ジャーナル・レシーバー用のスペースのサイズがこの値によって指定されたサイズより大きい場合には、操作援助機能(OA)の自動クリーンアップ機能がそれを切り離します。小数部のない7桁の10進変数で指定しなければなりません。

[トップ](#)

CALITMのCL変数 (5) (CALITM)

V5R1以降のリリースでは、このパラメーターはサポートされていません。

[トップ](#)

例

例1:メッセージが保持される日数の検索

```
DCL VAR(&UMSGDAYS) TYPE(*CHAR) LEN(5)
RTVCLNUP USRMSG(&UMSGDAYS)
```

これらのコマンドは、ユーザー・メッセージが削除されるまでに保持される日数を検索します。

例2:クリーンアップ操作が開始される時刻の検索

```
DCL VAR(&CLNUPTIME) TYPE(CHAR) LEN(10)
RTVCLNUP STRTIME(&CLNUPTIME)
```

これらのコマンドは、クリーンアップ操作が開始される時刻を検索します。

例3:実行優先順位の検索

```
DCL VAR(&RPTY) TYPE(*DEC) LEN(2 0)
RTVCLNUP RUNPTY(&RPTY)
```

このコマンドは、クリーンアップ・ジョブの実行優先順位を検索します。この実行優先順位番号は、CL変数&RPTY中にコピーされます。この変数は、小数部分のない2桁の10進変数でなければなりません。

例4:ジャーナル・レシーバー・サイズの検索

```
DCL VAR(&JRNSIZ) TYPE(*DEC) LEN(7 0)
RTVCLNUP JRNRCVSIZ(&JRNSIZ)
```

このコマンドは、クリーンアップ・ジョブのジャーナル・レシーバー・サイズを検索します。このジャーナル・レシーバー・サイズは、CL変数&JRNSIZ中にコピーされます。この変数は、小数部を持たない7桁の10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2B

電源スケジューラーおよびクリーンアップ・オプションが見つからない。

CPF1E33

クリーンアップ・オプションまたは電源スケジューラーは別のユーザーが使用中である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

ソースCL検索 (RTVCLSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドは、CLプログラムをコンパイルするために使用されたOPM CLプログラムのソース・ステートメントを検索するために使用されます。このソース・ステートメントはソース・ファイル・メンバーに入れられ、このソース・ファイル・メンバーはCLプログラムを再コンパイルする時に入力として使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3

トップ

プログラム (PGM)

ソースを検索するOPM CLプログラムを指定します。

注: ILE CLプログラムおよびモジュールのソース・ステートメントを検索するのにRTVCLSRCを使用することはできません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

CLソース・ステートメントを書き込むデータベース・ソース・ファイルを指定します。このファイルは、コマンドの実行時に存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

CLソース・ステートメントを書き込むデータベース・ソース・ファイル・メンバーを指定します。名前が指定されていない場合には、CLプログラム名が使用されます。コマンドの実行前にメンバーが存在している場合には、ソース・ステートメントを書き出す前にメンバーが消去されます。メンバーが存在していない場合には、作成されます。

***PGM** CLプログラムの名前がメンバー名として使用されます。

名前 CLソース・ステートメントを入れるソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RTVCLSRC PGM(JOHN1/TEXT1) SRCFILE(JOHN2) SRCMBR(JOHN3)
```

このコマンドは、ライブラリーJOHN1にあるTEXT1という名前のCLプログラムから、ソース・ステートメントを検索します。検索されたソース・ステートメントは、JOHN2という名前のファイルに入れられ、メンバーJOHN3として命名されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0560

&2のプログラム&1がC Lプログラムでない。

CPF0561

C Lプログラム&2からC Lソースを検索することができない。

CPF0562

&2のファイル&1がデータベース・ソース・ファイルでない。

CPF0563

データベース・ソース・ファイルのレコード長が小さすぎる。

CPF0564

データベース・メンバー&3をファイルに追加することができない。

CPF0565

C Lプログラム&4のソースは検索されなかった。

CPF0566

&2のC Lプログラム&1のソースを使用することができない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

[トップ](#)

現行ディレクトリーの検索 (RTVCURDIR)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの検索 (RTVCURDIR)コマンドは、現行ディレクトリーの名前を検索して指定された CL変数に入れるために制御言語(CL)プログラムで使用されます。シンボリック・リンクを含まない絶対パス名が検索されます。現行ディレクトリーの名前の長さも検索されます。

このコマンドに対するCLプロンプトでは、検索された変数の最小長が該当するパラメーターの横にリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小桁数を示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

1. 現行ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要で、パス内の各ディレクトリーに対する読み取り、実行(*RX)権限が必要です。
2. このコマンドを使用できるのは、CLプログラム中だけです。
3. 検索できるディレクトリー名の最大長は、文字変数の最大長によって制限されます。

注: 文字変数の最大長は9999バイトを超えることができません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RTNDIR	RTNDIRのCL変数 (9999)	文字値	必須, 定位置 1
DIRNAMLEN	DIRNAMLENのCL変数 (7 0)	10 進数	必須, 定位置 2

[トップ](#)

RTNDIRのCL変数 (9999) (RTNDIR)

現行ディレクトリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、文字変数でなければなりません。現行ディレクトリー名が変数に使用可能な文字数より少ない場合には、値に埋め込みは行われません。

[トップ](#)

DIRNAMLENのCL変数 (7 0) (DIRNAMLEN)

現行ディレクトリー名の長さ（バイト数）を受け取るCL変数の名前を指定します。この長さは、ディレクトリー名を受け取る文字変数より長くすることができます。この変数は、小数部をもたないものとして指定された7桁の10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

例

例1: 現行ディレクトリーのリトリート

```
RTVCURDIR RTNDIR(&CD) DIRNAMLEN(&CDLEN)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーの名前と現行ディレクトリーの名前の長さをリトリートして、CDおよびCDLEN変数に入れます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

ディレクトリー情報の検索 (RTVDIRINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー情報検索(RTVDIRINF)コマンドは、統合ファイル・システム中のディレクトリーおよびファイルの属性を収集するのに使用されます。収集した情報は、INFFILEPFXパラメーターで指定された情報ファイル接頭部を使用して名付けられるデータベース・ファイルに保管されます。このファイルは、INFLIBパラメーターで指定されたライブラリー中に作成されます。

ディレクトリー情報印刷(PRTDIRINF)コマンドを実行して、検索したディレクトリー情報を使用した報告書を印刷します。

最も正確な結果を得るには、指定したディレクトリー中のファイルで活動状態が非常に少ない時に、このコマンドを実行しなければなりません。SUBTREE(*ALL)を指定した場合には、指定したディレクトリーのすべてのサブディレクトリー中のファイルで活動状態が非常に少ない時に、このコマンドを実行してみてください。

注: ファイルに複数のメンバーがある場合には、このコマンドを実行した結果は予想できません。

制約事項:

- マウントしたファイル・システムでのみ、ディレクトリー情報を検索することができます。
- ローカル・ファイル・システムでのみ、ディレクトリー情報を検索することができます。
- このコマンドを実行するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。
- ジョブCCSID値65535は使用できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *NONE	オプション
INFFILEPFX	情報ファイルの接頭部	単純名, *GEN	オプション
INFLIB	情報ライブラリー	名前, QUSRSYS	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

ディレクトリー情報が収集されるディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

ディレクトリー・パス名

ディレクトリーのパス名を指定してください。

[トップ](#)

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

DIRパラメーターで指定されたディレクトリーのサブディレクトリーのディレクトリー情報を収集するかどうかを指定します。

***ALL** 指定したディレクトリーのサブディレクトリーのディレクトリー情報が収集されます。

***NONE**

指定したディレクトリー中のファイルでのみ、ディレクトリー情報が収集されます。サブディレクトリーでは、ディレクトリー情報が収集されません。

[トップ](#)

情報ファイルの接頭部 (INFFILEPFX)

検索したディレクトリー情報が保管されるデータベース・ファイルのファイル名接頭部を指定します。

***GEN** このコマンドで生成された固有の接頭部付きでデータベース・ファイルが作成されます。この接頭部は、QAEZDで始まり、後ろに4桁の数字が付きます。収集した情報を保管するのに作成されるこのファイルは、この接頭部を使用して名付けられ、文字'D' (ディレクトリー情報を含むファイルの場合)、あるいは文字'O' (ディレクトリー中のオブジェクトについての情報を含むファイルの場合) が後ろに付きます。たとえば、コマンドが*GENを指定してこのコマンドが最初に実行される時に、ファイルQAEZD0001DおよびQAEZD0001OがINFLIBパラメーターで指定したライブラリー中に作成されます。通知メッセージCPII1E30がジョブ・ログに送信され、作成されるファイルの名前がこれに含まれます。

情報ファイル接頭部

収集したディレクトリー情報の保管に使用されるデータベース・ファイルを作成するのに使用するファイル接頭部を指定します。接頭部は、最大9文字とすることができます。収集した情報を保管するのに作成されるこのファイルは、この接頭部を使用して名付けられ、文字'D' (ディレクトリー情報を含むファイルの場合)、あるいは文字'O' (ディレクトリー中のオブジェクトについての情報を含むファイルの場合) が後ろに付きます。たとえば、指定した接頭部がMYDIRの場合には、データベース・ファイルMYDIRDおよびMYDIROがINFLIBパラメーターで指定したライブラリー中に作成されます。

[トップ](#)

情報ライブラリー (INFLIB)

ディレクトリー情報の保管に使用されるデータベース・ファイルが作成されるライブラリーを指定します。

QUSRSYS

このファイルはライブラリーQUSRSYS内に作成されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルを作成するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

例1: サブディレクトリーを含む情報の検索

```
RTVDIRINF DIR('/MYDIR/MYDOCS') SUBTREE(*ALL)
          INFFILEPFX(*GEN) INFLIB(QUSRSYS)
```

このコマンドは、ネストされたすべてのサブディレクトリーの情報を含む、ディレクトリー/MYLIB/MYDOCSについてのディレクトリー情報を検索し、ライブラリーQUSRSYS中に作成されるデータベース・ファイルにこれを保管します。'QAEZD'で始まり4桁の数字が後ろに付く固有の名前で、データベース・ファイルが作成されます。これがRTVDIRINFコマンドを実行した最初である場合には、ファイル名はQAEZD0001OおよびQAEZD0001Dとなります。

例2: 指定したディレクトリーのための情報の検索

```
RTVDIRINF DIR('/') SUBTREE(*NO) INFFILEPFX(MYROOTDIR)
          INFLIB(MYLIB)
```

このコマンドは、ネストされたサブディレクトリーを検査せずにルート・ディレクトリーについてのディレクトリー情報を検索し、ライブラリーMYLIB中のデータベース・ファイルMYROOTDIROおよびMYROOTDIRD中にこれを保管します。データベース・ファイルが、すでにMYLIBにあるいずれかの名前をもつ場合には、エラー・メッセージが送られ、ディレクトリー情報は検索されません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超過している。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPF1ED2

ファイル&1は使用中で、アクセスできない。

CPF1ED4

ディレクトリー情報の収集が認可されていない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

DLO権限の検索 (RTVDLOAUT)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
 リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
 スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
 例
 エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限検索(RTVDLOAUT)コマンドは、フォルダーまたはファイルされた文書に割り当てられた権限を検索します。

制約事項:

- 各種の権限を検索するためには、ユーザーがシステム配布ディレクトリー項目に入っていなければなりません。
- ユーザーは、ファイルされた文書またはフォルダーに対して、少なくとも使用(*USE)権限を持っていないければなりません。
- ファイルされた文書またはフォルダーに対して全(*ALL)権限より小さい権限を持つユーザーは、そのユーザーの権限または所有者しか検索できません。
- すべての権限を検索するには、ユーザーには、オブジェクトに対して*ALLまたは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているか、あるいはファイルされた文書またはフォルダーの所有者でなければなりません。
- ユーザーは、*ROOTフォルダーの共通認可を検索するためには、*ALLOBJ特殊権限を持っていないければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *DOCID, *LADNTSP, *SYSOBJNAM, *ROOT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
LADNTSP	LADNタイム・スタンプ	0000000000000001-FFFFFFFFFFFFFFFF, *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前, *NONE	オプション
STRUSRAUTE	開始ユーザー権限項目	1-99999, <u>1</u>	オプション
OWNER	OWNERのCL変数 (10)	文字値	オプション
AUTL	AUTLのCL変数 (10)	文字値	オプション
SENSITIV	SENSITIVのCL変数 (20)	文字値	オプション
PUBAUT	PUBAUTのCL変数 (10)	文字値	オプション
CHKOUTUSR	CHKOUTUSRのCL変数 (32)	文字値	オプション
ACC	ACCのCL変数 (220)	文字値	オプション
USRAUT	USRAUTのCL変数 (1020)	文字値	オプション
GRPAUT	GRPAUTのCL変数 (340)	文字値	オプション
PGP	PGPのCL変数 (10)	文字値	オプション

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

権限を検索する文書またはフォルダーの名前を指定します。

*ROOT

ルート・フォルダーには第1レベルのすべてのフォルダーが入っています。フォルダー*ROOTを指定すると、PUBAUTパラメーターによって共通認可だけが戻されます。他の権限は戻されません。

*LADNTSP

文書またはフォルダーの識別には、LADNTSPパラメーターに指定されたライブラリー割り当て文書名(LADN)からのタイム・スタンプが使用されます。

*SYSOBJNAM

文書またはフォルダーの識別には、SYSOBJNAMパラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名が使用されます。

名前 文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。

トップ

フォルダー (FLR)

DLOパラメーターに指定されたオブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

オブジェクトが指定されていないか、オブジェクトがフォルダーに入っていないか、オブジェクトがLADNTSPまたはSYSOBJNAMパラメーターを使用して指定されているか、あるいはDLOパラメーターに*ROOTが指定されているフォルダーの名前。

名前 オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定してください。

注: オブジェクトが第1レベルのフォルダーの場合には、FLR(*NONE)を指定しなければなりません。

トップ

文書識別コード (DOCID)

文書またはフォルダーのライブラリー割り当て名を指定します。

*NONE

オブジェクトはその文書ID (DOCID)を使用して識別されません。

文書ID

文書またはフォルダーの文書IDを指定してください。文書IDは、長さが16進数で24文字でYYYYMMDDHHMNSSHSSNSNSNSNの形式です。この場合に、それぞれの文字は次のようになります。

- YYYY =年
- MM =月
- DD =日

- HH =時
- MN =分
- SS =秒
- HS = 100分の1秒
- SNSNSNSN =システム名

トップ

LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)

文書またはフォルダーのLADNタイム・スタンプを指定します。

*NONE

オブジェクトはそのLADNタイム・スタンプを使用して識別されません。

タイム・スタンプ

文書またはフォルダーのLADNタイム・スタンプを指定してください。LADNタイム・スタンプは、長さが16進数で16文字でYYYYMMDDHHMNSSHSの形式です。この場合に、それぞれの文字は次のようになります。

- YYYY =年
- MM =月
- DD =日
- HH =時
- MN =分
- SS =秒
- HS = 100分の1秒

トップ

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

システム・オブジェクト名を指定します。

*NONE

オブジェクトはそのシステム・オブジェクト名を使用して識別されません。

名前 文書またはフォルダーの10桁のシステム・オブジェクト名を指定してください。

トップ

開始ユーザー権限項目 (STRUSRAUTE)

特定のユーザー権限の検索時に使用する開始ユーザー権限項目番号を指定することができます(USRAUTパラメーター)。STRUSRAUTEは、50を超える特定ユーザー権限を持つDLOの特定ユーザー権限の検索を可能にします。USRAUTパラメーターにCL 変数が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されます。

1 最初の特定ユーザー権限からのユーザー権限が戻されます。

2から99,999

指定した項目番号からのユーザー権限が戻されます。この値がDLOの特定ユーザー権限の数より大きい場合には、エラー・メッセージが送られて特定ユーザー権限は戻されません。

[トップ](#)

OWNERのCL変数 (10) (OWNER)

選択した文書またはフォルダーの所有者の検索に使用する10桁のCL変数の名前を指定します。

[トップ](#)

AUTLのCL変数 (10) (AUTL)

選択した文書またはフォルダーに割り当てられた権限リストの検索に使用する10桁のCL変数の名前を指定します。権限リストが割り当てられていない場合には、値*NONEが戻されます。

[トップ](#)

SENSITIVのCL変数 (20) (SENSITIV)

選択した文書またはフォルダーに割り当てられた重要度の検索に使用する20桁のCL変数の名前を指定します。

*NONE

この文書には、機密上の制限はありません。

*PERSONAL

この文書はユーザーの個人用です。

*PRIVATE

この文書には所有者しかアクセスできない情報が入っています。

*CONFIDENTIAL

この文書には会社の処理手順に従って処理しなければならない情報が入っています。

[トップ](#)

PUBAUTのCL変数 (10) (PUBAUT)

選択した文書またはフォルダーに割り当てられた共通認可の検索に使用する10桁のCL変数の名前を指定します。

***USE** ユーザーは文書またはフォルダーを表示、印刷、またはコピーすることができます。

*CHANGE

ユーザーは*USEにリストされているすべての操作を実行することができ、オフライン記憶装置の文書を編集し、マークを付けることもできます。

***ALL** ユーザーは文書にすべての操作を実行することができます。ただし、文書またはフォルダーの所有権を変更したり、権限が取り消された後で文書の処理権限をユーザー自身に与える操作を除きます。

***EXCLUDE**

この文書またはフォルダーに対して権限を認可されていないすべてのユーザーはアクセスを拒否されます。

USER DEF

この文書に対する権限はユーザー定義であり、システム定義の権限セット(*ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE)のいずれでもありません。

***AUTL**

この文書によって使用される権限リストに指定された権限は共通認可を定めるものでなければなりません。

[トップ](#)

CHKOUTUSRのCL変数 (32) (CHKOUTUSR)

文書をチェックアウトしたユーザー・プロファイルおよび文書のチェックアウトを代行したユーザー・プロファイルの検索に使用する32桁のCL変数の名前を指定します。文書をチェックアウトしたユーザーがいない場合には、32桁の変数はブランクになります。文書をチェックアウトした代行ユーザーがいない場合には、最後の16桁がブランクになります。

[トップ](#)

ACCのCL変数 (220) (ACC)

指定した文書またはフォルダーに割り当てられたアクセス・コードの検索に使用する200桁のCL変数の名前を指定します。

[トップ](#)

USRAUTのCL変数 (1020) (USRAUT)

文書またはフォルダーに割り当てられた特定ユーザー権限の検索に使用する1020桁のCL変数の名前を指定します。USRAUTは、1回のRTVDLOAUTコマンドの呼び出し当たり最大50の特定権限を戻します。文書またはフォルダーに50を超える特定ユーザー権限が関連付けられている場合には、RTVDLOAUTの以後の呼び出しでSTRUSRAUTEパラメーターを使用して、指定した項目番号からのユーザー権限を戻すことができます。

1020桁のCL変数の中にあるのは、認可ユーザーの合計数、戻される権限項目の数、開始項目番号および終了項目番号です。

たとえば、次の通りです。

```
RTVDLOAUT DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) USRAUT(&RTNUSRAUT) + STRUSRAUTE(1)
```

上の例では、MYDOCは55の認可ユーザーをもっています。特定ユーザー権限の合計数は55になります。戻される権限項目の数は50個です。開始権限項目番号は1です。終了権限項目番号は51です。

[トップ](#)

GRPAUTのCL変数 (340) (GRPAUT)

指定した文書またはフォルダーに割り当てられたグループ権限の検索に使用する340桁のCL変数の名前を指定します。このコマンドのユーザーに関連付けられたグループだけが戻されます。

[トップ](#)

PGPのCL変数 (10) (PGP)

指定した文書またはフォルダーに割り当てられた1次グループの検索に使用する10桁のCL変数の名前を指定します。1次グループが割り当てられていない場合には、値*NONEが戻されます。

[トップ](#)

例

例1:文書ライブラリー・オブジェクトの所有者の検索

```
RTVDLOAUT DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) OWNER(&OWNER)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書ライブラリー・オブジェクトMYDOCの所有者を検索し、値を変数&OWNERに保管します。

例2:文書に対する専用ユーザー権限の検索

```
RTVDLOAUT DLO(MYDOC) FLR(MYFLR)  
          USRAUT(&RTNUSRAUT) STRUSRAUTE(1)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書MYDOCに対するユーザー権限を検索し、リストを&RTNUSRAUT変数に保管します。このリストには、最大50個までの専用認可ユーザーおよびその権限が入ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AC0

&1コマンドが正しく実行されなかった。

[トップ](#)

DLO名の検索 (RTVDLONAM)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト名検索(RTVDLONAM)コマンドは、ファイル済み文書、フォルダー、または配布文書の代替名を検索し、指定された変数にその値を入れるために使用されます。このコマンドを使用できるのは、CLプログラムまたはREXX EXECの中だけです。

制約事項:

- 名前の各種形式を検索するためには、ファイル済み文書またはフォルダーに対して使用(*USE)権限が必要です。
- 配布文書の名前の各種形式を検索するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *DOCID, *LADNTSP, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
LADNTSP	LADNタイム・スタンプ	0000000000000001-FFFFFFFFFFFFFFFF, *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前, *NONE	オプション
OBJCLS	オブジェクト・クラス	*DOC, *FLR, *DST	オプション
RTNDLO	RTNDLOのCL変数 (12)	文字値	オプション
RTNFLR	RTNFLRのCL変数 (63)	文字値	オプション
RTNDOCID	RTNDOCIDのCL変数 (24)	文字値	オプション
RTNLADNTSP	RTNLADNTSPのCL変数 (16)	文字値	オプション
RTNOBJNAM	RTNOBJNAMのCL変数 (10)	文字値	オプション
RTNOBJCLS	RTNOBJCLSのCL変数 (8)	文字値	オプション
RTNASP	RTNASPのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
RTNOVRFLW	RTNOVRFLWのCL変数 (1)	文字値	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

名前が検索される文書またはフォルダーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DOCID

文書またはフォルダーは、DOCIDパラメーターに指定されたそのライブラリー割り当て文書名を使用して識別されます。フォルダー (FLR)パラメーターは*NONEでなければなりません。

*LADNTSP

文書またはフォルダーは、LADNTSPパラメーターに指定されたそのライブラリー割り当て文書名 (LADN)タイム・スタンプを使用して識別されます。FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

*SYSOBJNAM

文書またはフォルダーは、SYSOBJNAMパラメーターに指定されたそのシステム・オブジェクト名を使用して識別されます。FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

名前 文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダーはFLRパラメーターに指定されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダー・パスを指定します。DLOパラメーターが*DOCID, *LADNTSP,または*SYSOBJNAM である場合には、FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

*NONE

文書またはフォルダーがフォルダー内に入っていないか、あるいはDOCID, LADNTSP,またはSYSOBJNAMパラメーターを使用して識別されます。

名前 DLOパラメーターに指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSSNSNSNSN

ここで

YYYY =年
MM =月
DD =日
HH =時

MN =分
SS =秒
HS = 100分の1秒
SNSNSNSN =システム名

***NONE**

オブジェクトのライブラリー割り当て文書名は指定されません。

名前 文書またはフォルダー・オブジェクトのライブラリー割り当て名を指定します。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、あるいは文書ファイル(FILDOC)またはその他のコマンドから戻されたメッセージによって識別することができます。

トップ

LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)

文書またはフォルダー・オブジェクトのライブラリー割り当て文書名(LADN)タイム・スタンプを指定します。LADNタイム・スタンプが指定されるのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*LADNTSPが指定された場合だけです。

***NONE**

オブジェクトのLADNタイム・スタンプは指定されません。

タイム・スタンプ

文書ライブラリー・オブジェクトのLADNタイム・スタンプを指定します。

トップ

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。システム・オブジェクト名が指定されるのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*SYSOBJNAMが指定された場合だけです。

***NONE**

オブジェクトのシステム・オブジェクト名は指定されません。

名前 文書ライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。

トップ

オブジェクト・クラス (OBJCLS)

見つけるオブジェクトのクラスを指定します。

***DOC** 指定されるDLOはファイル済み文書です。

***FLR** 指定されるDLOはフォルダーです。

***DST** 指定されるDLOは配布文書です。

トップ

RTNDLOのCL変数 (12) (RTNDLO)

選択された文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を検索するために使用される12桁のCL変数の名前を指定します。配布文書またはフォルダーなしの文書の場合には、*NONEの値が戻されます。

[トップ](#)

RTNFLRのCL変数 (63) (RTNFLR)

選択された文書またはフォルダーのフォルダーのパスを検索するために使用される63桁のCL変数の名前を指定します。配布文書、フォルダーなしの文書、または第1レベルのフォルダーの場合には、*NONEの値が戻されます。

[トップ](#)

RTNDOCIDのCL変数 (24) (RTNDOCID)

選択されたオブジェクトのライブラリー割り当て文書名を検索するために使用される24桁のCL変数の名前を指定します。ライブラリー割り当て文書名の形式については、**文書識別コード (DOCID)**パラメーターを参照してください。

[トップ](#)

RTNLADNTSPのCL変数 (16) (RTNLADNTSP)

選択されたオブジェクトのLADNからタイム・スタンプを検索するために使用される16桁のCL変数の名前を指定します。この変数はYYYYMMDDHHMNSSNNの形式です。

[トップ](#)

RTNOBJNAMのCL変数 (10) (RTNOBJNAM)

選択されたオブジェクトのシステム・オブジェクト名を検索するために使用される10桁のCL変数の名前を指定します。

[トップ](#)

RTNOBJCLSのCL変数 (8) (RTNOBJCLS)

オブジェクト・クラスを検索するために使用される8桁のCL変数の名前を指定します。ファイル済み文書に対しては*DOCが、フォルダーには*FLRが、配布文書には*DSTが戻されます。

[トップ](#)

RTNASPのCL変数 (2 0) (RTNASP)

補助記憶域プールIDを戻すために使用する変数の名前を指定します。制御言語(CL)プログラムでは、これは長さ(2 0)の10進数変数でなければなりません。戻される可能性のある値は次の通りです。

1 オブジェクトはシステム補助記憶域プールに入っています。

2から32

オブジェクトはユーザー補助記憶域プールに入っています。

[トップ](#)

RTNOVRFLWのCL変数 (1) (RTNOVRFLW)

当該オブジェクトのオーバーフロー状況を検索するために使用される1桁のCL変数の名前を指定します。状況は次の通りです。

- N = NO,オブジェクトはそのASPをオーバーフローしていない
- Y = YES,オブジェクトはそのASPをオーバーフローしており、オブジェクトの一部または全部がシステムASPに存在している

[トップ](#)

例

```
RTVDLONAM DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) OBJCLS(*DOC) +  
RTNDOCID(&DOCID)
```

このコマンドは、文書MYDOCをフォルダーMYFLR内で検索し、その文書IDを変数&DOCIDに戻します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AC0

&1コマンドが正しく実行されなかった。

CPF8AC1

文書の配布は認可されていない。

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

[トップ](#)

文書検索 (RTVDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書検索(RTVDOC)コマンドにより、特定の文書から情報を検索することができます。

制約事項:

- 文書からレコードを検索してデータベース・ファイルに入れるには、文書に対して使用(*USE)権限をもっているか、あるいは文書に対して*USE権限をもっているユーザーの代行処理を行なっていなければなりません。
- 文書をチェックアウトするには、少なくとも、文書に対して変更(*CHANGE)権限をもっているか、あるいは文書に対して*CHANGE権限をもっているユーザーの代行処理を行なっていなければなりません。
- 他のユーザーの代行処理を行うには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限または特殊認可（ユーザー認可 (GRTUSRPMN)コマンドによって与えられる）が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMDOC	取り出し文書	文字値, *DOCID	必須, 定位置 1
FROMFLR	取り出しフォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
OUTDTATYP	出力のデータ・タイプ	単一値: *DFT, *ALL その他の値 (最大 21 回の繰り返し): *DOCD, *DOCCLS, *SUBJECT, *AUTHOR, *FILCAB, *CPYLST, *KWD, *DOCDATE, *FILDATE, *CRTDATE, *CHGDATE, *EXPDATE, *ACTDATE, *CMPDATE, *REF, *STATUS, *PROJECT, *IDP, *DOC	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CHKOUT	検査	*NO, *YES	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

取り出し文書 (FROMDOC)

検索する文書の名前を指定します。

名前 検索する文書のユーザー割り当て名を指定してください。

*DOCID

検索している文書は、**文書識別コード (DOCID)**パラメーターに指定する必要がある、ライブラリー割り当て文書名によって識別されます。

トップ

取り出しフォルダー (FROMFLR)

検索する文書が入っているフォルダーの名前を指定します。これは、作成時にフォルダーに割り当てられた名前です。文書名を指定する場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

*NONE

文書がライブラリー割り当て文書名によって識別される時に、フォルダー名は指定されません。

名前 検索する文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルを作成する場合には、システムは、QSYS中の様式名OSRTVDのQAOSIRTVをモデルとして使用します。

このファイルは、他のRTVDOCコマンドが使用される時に再使用することができます。出力はファイルに追加するか、あるいは既存のレコードと置き換えることができます。ライブラリーQSYS中の弊社提供データベース・ファイルQAOSIRTVを指定することはできません。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

出力のデータ・タイプ (OUTDATATYP)

文書に関する情報のうちデータベース・ファイルに書き出す部分を指定します。

***DFT** 文書情報レコードが書き出されます。これは*DOCDおよび*DOCを指定することと同じです。

- レコード・コード- 105,文書記述
- レコード・コード- 800,文書データ

***ALL** すべての情報レコードが書き出されます。

***ACTDATE**

処置期日レコードが書き出されます。レコード・コードは135です。

***AUTHOR**

作成者レコードが書き出されます。レコード・コードは145です。

***CHGDATE**

最終変更日レコードが書き出されます。レコード・コードは130です。

***CMPDATE**

完了日レコードが書き出されます。レコード・コードは140です。

***CPYLST**

コピー・リスト・レコードが書き出されます。レコード・コードは150です。

***CRTDATE**

作成日レコードが書き出されます。レコード・コードは110です。

***DOCCLS**

文書クラス・レコードが書き出されます。レコード・コードは155です。

***DOCD**

文書記述レコードが書き出されます。レコード・コードは105です。

***DOCDATE**

文書日付レコードが書き出されます。レコード・コードは120です。

***EXPDATE**

満了日レコードが書き出されます。レコード・コードは115です。

***FILCAB**

ファイル・キャビネット参照レコードが書き出されます。レコード・コードは160です。

***FILDATE**

ファイル日付レコードが書き出されます。レコード・コードは125です。

***IDP** 交換文書プロファイル(IDP)が書き出されます。レコード・コードは500です。

***IDXDATE**

最終索引付け日付レコードが出力ファイルに書き出されます。この値が指定された場合には、OFFICEVISION/400-テキスト検索サービスが導入されていなければなりません。

***KWD** キーワード・レコードが書き出されます。レコード・コードは170です。

***PROJECT**

プロジェクト・レコードが書き出されます。レコード・コードは185です。

***REF** 参照レコードが書き出されます。レコード・コードは175です。

***REVDATE**

文書内容に対する最終変更の日付が出力ファイルに書き出されます。

***STATUS**

状況レコードが書き出されます。レコード・コードは180です。

***SUBJECT**

件名レコードが書き出されます。レコード・コードは165です。

***USEDATE**

最終使用日付レコードが書き込まれました。レコード・コードは200です。

***DOC** 文書データ・レコードが書き出されます。レコード・コードは800です。

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連付けるかどうかを指定します。

単一値

*CURRENT

自分自身で要求を実行します。

要素1: ユーザー識別コード

文字 別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーの代行処理が許可されているか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっていなければなりません。

要素2: アドレス

文字 別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSNSNSNSN

ここで

YYYY =年
MM =月
DD =日
HH =時
MN =分
SS =秒
HS = 100分の1秒
SNSNSNSN =システム名

*NONE

文書が文書 (DOC)パラメーターで識別される時には、ライブラリー割り当て文書名は必要ありません。

名前 送信する文書のライブラリー割り当て名を指定してください。

[トップ](#)

検査 (CHKOUT)

検索する文書を新しいデータまたは変更したデータで置き換えることができることを指定します。文書が読み取り専用の場合には、*NOを指定してください。検索する文書を置き換えることができない場合に*YESを指定すると、エラーが起きます。

***NO** 検索要求はデータを読み取るだけです。この機能を要求するユーザーに必要なのは、その文書に対する読み取り(*READ)権限だけです。共通権限は*READ権限です。

***YES** 文書データを更新して、後から置き換えることができます。この機能を要求するユーザーは変更(*CHANGE)権限をもっていなければなりません。この文書の置き換えが行なわれるまで、他のユーザーは更新のためにこの文書を使用することはできません。この置き換えは、文書置き換え(RPLDOC)コマンドを使用して行うことができます。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

ユーザー識別コード (USRID)パラメーターに指定された値は、文字セットおよびコード・ページ'930 500'に変換されます。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起きます。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

トップ

例

例1:すべての情報のコピー

```
RTVDOC FROMDOC(MYDOC) FROMFLR(PERSONAL) USRID(*CURRENT)
        OUTFILE(*CURLIB/MYFILE) OUTMBR(*FIRST) MBROPT(*ADD)
        OUTDTATYP(*ALL)
```


このコマンドは、このコマンドの現行ユーザー用のフォルダーPERSONAL内にある文書MYDOCに関するすべての情報をコピーします。CHECKOUT(*NO)が想定されます。したがって、文書データは読み取ることしかできません。出力はユーザーの現行ライブラリー内のデータベース・ファイルMYFILEに送られ、そのファイル中の先頭メンバーに追加されます。

例2:省略時情報のコピー

```
RTVDOC FROMDOC(SECOP) FROMFLR(PERSONAL) USRID(MARY SYSTEM1 )
        CHKOUT(*YES)
        OUTFILE(MARLIB/SECFILE) OUTMBR(*FIRST *ADD)
```

このコマンドは、MARY用のフォルダーPERSONAL内にある文書SECOPに関する省略時情報(*DOCDおよび*DOC)をコピーします。文書は新規データで更新してから、置き換えることができます。このコマンドの現行ユーザーには、GRTUSRPMNコマンドを使用してマリー(MARY)によって付与されたMARYの代行処理を行う権限が必要です。出力は、MARYのライブラリーMARLIB内のデータベース・ファイルSECFILEに送られます。その出力はSECFILEの先頭メンバーに追加されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF905F

ライブラリーからの文書の検索が正常に実行されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

トップ

ディスク情報の検索 (RTVDSKINF)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク情報検索(RTVDSKINF)コマンドは、ディスク・スペース情報の収集に使用されます。収集された情報は、ライブラリーQUSRSYSのデータベース・ファイルに保管されます。ファイル名は、ディスク・スペース情報を検索する補助記憶域プール(ASP)装置によって異なります。情報がシステムおよび基本ASPから検索された場合には、収集された情報はファイルQAEZDISKに保管されます。情報が独立ASP装置から検索された場合には、収集された情報はファイルQAEZNNNNNに保管されます。ここで「NNNNN」は独立ASPのASP番号です。情報はQCURRENTという名前のデータベース・ファイル・メンバーに保管されます。

このコマンドを実行するたびに、QCURRENTの既存の情報が書き直されます。既存の情報をメンバーQCURRENTに保管するには、ファイルQAEZDISKまたはQAEZDNNNNNを名前変更するか、あるいはメンバーを別のファイルにコピーしてください。

最も正確な結果を得るには、活動状態のシステムが非常に少ないときにこのコマンドを実行してください。

注: ファイルQAEZDISKまたはQAEZDNNNNN内のメンバーQCURRENTは名前変更しないでください。QAEZDISKまたはQAEZDNNNNNに複数のメンバーある場合には、このコマンドを実行した結果は予想できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASPDEV	ASP装置	名前, <u>*SYSBAS</u>	オプション的, 位置 1

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

ディスク・スペース情報が検索される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ASPのディスク情報が検索されます。システムASPのASP番号は1です。基本ASPのASP番号は2から32です。

名前 ディスク・スペース情報を検索するASP装置の名前を指定してください。独立ASP装置のASP番号は32より大きくなります。異なるASP装置上でRTVDSKINFを実行するたびに複数のジョブを投入すると、複数のASP装置のディスク・スペース情報を平行して検索できます。

[トップ](#)

例

```
RTVDSKINF ASPDEV(*SYSBAS)
```

このコマンドは、システムおよび基本補助記憶域(ASP)のディスク・スペース情報を検索し、データベース・ファイルQAEZDISKのメンバーQCURRENT中にこれを保管します。メンバーQCURRENTの情報が上書きされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1ED1

ディスク・スペース情報の収集は認可されていない。

CPF1ED2

ファイル&1は使用中で、アクセスできない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

データ域検索 (RTVDTAARA)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域検索 (RTVDTAARA) コマンドは、指定されたデータ域のすべてまたは一部を検索し、それを変数にコピーするために、CLプログラムまたはREXXプロシージャの中で使用されます。RTVDTAARAはデータ域の他の属性は検索しません。CLプログラムをコンパイルする時に、データ域は存在する必要はありません。

ジョブがグループ・ジョブの場合には、指定されたデータ域はグループ・データ域(*GDA)の可能性があり、このデータ域はグループと自動的に関連付けられ、グループ外のジョブからアクセスできません。この文字データ域の長さは512バイトです。グループ・ジョブの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「実行管理機能」情報にあります。

ローカル・データ域(*LDA)は長さ1024バイトの文字データ域であり、ジョブと自動的に関連付けられません。他のジョブはローカル・データ域にアクセスできません。

ジョブが事前開始ジョブの場合には、指定されたデータ域はプログラム初期設定パラメーター・データ(*PDA)が入っているデータ域である可能性があります。このデータ域は事前開始ジョブと自動的に関連付けられ、他のジョブからアクセスできません。この文字データ域の長さは2000バイトです。事前開始ジョブの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「実行管理機能」情報にあります。

ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域以外のデータ域をRTVDTAARAコマンドの処理中に検索する必要がある場合には、そのデータ域は、操作が完了するまで、他のジョブのコマンドがそれを変更または破棄できないように、検索操作の間はロックされます。データ域を他のジョブと共用し、ジョブの複数のコマンドを含むステップで更新される場合には、すべてのステップが実行されるまでデータ域をそのジョブに明示的に割り振る必要があります。ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域以外のデータ域は、オブジェクト割り振り (ALCOBJ) コマンドで明示的に割り振ることができます。ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域は、割り振る必要はありません。

制約事項

- このコマンドを使用するには、データ域に対する*USE権限とデータ域があるライブラリーに対する*EXECUTE権限がユーザーに必要です。ローカル・データ域またはグループ・データ域の値を検索するために、特定権限は必要ありません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
 - マルチスレッドを使用できるジョブのDDMデータ域の検索はスレッド・セーフではありません。
 - 複数のスレッドがジョブで活動状態の時には、DDMデータ域の検索は正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAARA	データ域指定	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: データ域	単一値: *LDA, *GDA, *PDA その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: サブストリング仕様	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	
	要素 1: サブストリング開始位置	1-2000	
	要素 2: サブストリングの長さ	1-2000	
RTNVAR	戻された値のCL変数	無制限	必須, 定位置 2

トップ

データ域指定 (DTAARA)

検索する値が入っているデータ域の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: データ域

単一値

*LDA ローカル・データ域の値を検索します。

*GDA グループ・データ域の値を検索します。この値はこのジョブがグループ・ジョブの場合にだけ有効です。

*PDA プログラム初期設定パラメーター・データ域の値を検索します。この値は、事前開始ジョブの場合にだけ有効です。

修飾子1: データ域

名前 データ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ域があるライブラリーを指定してください。

要素2: サブstring仕様

単一値

***ALL** データ域全体が検索されます。

要素1: サブstring開始位置

1から2000

検索するデータ域の開始位置を指定します。

要素2: サブstringの長さ

1から2000

検索するデータ域サブstringの長さを指定します。データ域外のデータを検索することはできません。開始位置および長さの組み合わせが、データ域内の位置を常に指定する必要があります。

[トップ](#)

戻された値のCL変数 (RTNVAR)

データ域の内容を受け取る変数の名前を示します。

次の場合には、タイプ変換はRTVDTAARAコマンドによって実行されません。

- RTNVARがTYPE(*DEC)として宣言されている場合には、検索されるデータ域はTYPE(*DEC)でなければなりません。
- RTNVARがTYPE(*CHAR)として宣言されている場合には、検索されるデータ域はTYPE(*CHAR)またはTYPE(*LGL)のいずれかでなければなりません。
- RTNVARがTYPE(*LGL)として宣言されている場合には、検索されるデータ域は'0'または'1'の値を持つTYPE(*LGL)またはTYPE(*CHAR)でなければなりません。

検索する文字stringがRTNVARパラメーターで指定された変数の長さより短い場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。検索されるstringの長さは、変数の長さより小さいか等しくなければなりません。

10進数データ域を検索する時には、10進数は位置合わせされます。データ域の整数部分の値は、変数の整数部分に収まらなければなりません。小数のデータは、小数部の桁が変数より多い場合には切り捨てられます。

これは必須パラメーターです。

非制限値

データ域の内容を受け取るプログラム変数の名前を指定します。

例

データ域DA1は次のコマンドによって作成されているものとします:

```
CRTDTAARA DTAARA(DA1) TYPE(*CHAR) LEN(3) VALUE(ABC)
```

そして、変数&CLVAR1は次のように宣言されています:

```
DCL VAR(&CLVAR1) TYPE(*CHAR) LEN(5) VALUE(VWXYZ)
```

例1: 文字データ域の検索

```
RTVDTAARA DTAARA(DA1) RTNVAR(&CLVAR1)
```

結果:

```
&CLVAR1 = 'ABC '
```

例2: 文字データ域のサブセットの検索

```
RTVDTAARA DTAARA(DA1 (2 1)) RTNVAR(&CLVAR1)
```

結果:

```
&CLVAR1 = 'B '
```

例3: 10進数データ域の検索

データ域DA2は次の属性で作成されているものとします:

```
CRTDTAARA DTAARA(DA2) TYPE(*DEC) LEN(5 2) VALUE(12.39)
```

そして、変数&CLVAR2は次のように宣言されています:

```
DCL VAR(&CLVAR2) TYPE(*DEC) LEN(5 1) VALUE(4567.8)
```

次のコマンドを実行します。

```
RTVDTAARA DTAARA(DA2) RTNVAR(&CLVAR2)
```

結果:

```
&CLVAR2 = 0012.3
```

注: 小数桁は、丸められるのではなく切り捨てられます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0811

データ域のRTNVARパラメーターの長さが正しくない。

CPF0812

データ域&1のRTNVARパラメーターのタイプが正しくない。

- CPF0813**
データ域&1の値が論理値でない。
- CPF101A**
&2のDDMデータ域&1に対する操作が正常に実行されなかった。
- CPF1015**
&2にデータ域&1が見つからない。
- CPF1016**
&2のデータ域&1に対する権限がない。
- CPF1021**
データ域&2のライブラリー&1が見つからない。
- CPF1022**
ライブラリー&1データ域&2に対する権限がない。
- CPF1043**
データ域の境界位置合わせが正しくない。
- CPF1044**
データ域のAREAパラメーターが正しくない。
- CPF1045**
データ域のCPYPTRパラメーターが正しくない。
- CPF1046**
ジョブがグループ・ジョブでないので、DTAARA(*GDA)は正しくない。
- CPF1063**
ライブラリー&2のデータ域&1を割り振ることができない。
- CPF1067**
ライブラリー&1を割り振ることができない。
- CPF1072**
ジョブが事前開始ジョブでないので、DTAARA(*PDA)は正しくない。
- CPF1087**
1 0 進または論理データ域にサブストリングを使用することはできない。
- CPF1088**
開始位置がデータ域の範囲外になっている。
- CPF1089**
データ域に指定したサブストリングが正しくない。
- CPF180B**
機能&1は使用できない。
- CPF9899**
コマンドの処理中にエラーが起こった。

トップ

グループ属性検索 (RTVGRPA)

実行可能場所:

- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グループ属性検索(RTVGRPA)コマンドは、コマンドを出したジョブが属しているグループに関する情報を検索します。次の属性を検索することができます。

- このRTVGRPAコマンドを呼び出したジョブのグループ・ジョブ名
- グループ内のすべての活動ジョブについての情報のリスト
- グループ内の活動ジョブ数
- グループ・メッセージ待ち行列の名前
- グループ・メッセージ待ち行列が入っているライブラリー
- グループ内の前の活動ジョブのグループ・ジョブ名およびジョブ番号
- グループ内の現在の活動ジョブが制御を得た理由を示す制御コード

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GRPJOB	GRPJOBのCL変数 (10)	文字値	オプション、位置 1
GRPJOBL	GRPJOB リストのCL変数 (1056)	文字値	オプション、位置 2
GRPJOBCNT	GRPJOBCNTのCL変数 (3 0)	10 進数	オプション、位置 3
MSGQ	MSGQのCL変数 (10)	文字値	オプション
MSGQLIB	MSGQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
PRVGRPJOB	PRVGRPJOBのCL変数 (16)	文字値	オプション
CTLCDE	CTLCDEのCL変数 (3 0)	10 進数	オプション

[トップ](#)

GRPJOBのCL変数 (10) (GRPJOB)

ジョブのグループ・ジョブ名を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。グループ・ジョブ名の文字数が、変数に使用できるものより少ない場合には、その値の右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

GRPJOB リストのCL変数(1056) (GRPJOB)

グループ内のジョブのリストを受け取るCL変数の名前を指定します。各項目には、ジョブのグループ・ジョブ名(10)、ジョブ番号(6)、および50文字の記述テキストが入っています。変数の中の項目の最大数は16です。これらの項目は、最も新しい活動ジョブによって配列されます。変数は、最小の長さである1056文字の文字変数でなければなりません。グループ・ジョブ・リストの文字数が、変数に使用できる文字数より少ない場合には、その値の右側に空白が埋め込まれます。

[トップ](#)

GRPJOBcntのCL変数 (3 0) (GRPJOBcnt)

グループ中の活動ジョブのカウントを受け取るCL変数を指定します。CL変数は、小数部分のない3桁の10進数の変数でなければなりません。CL変数には、グループ・ジョブ・リストの非空白項目の数が入っています。カウントには、グループ内のすべての活動ジョブが算入されます。完全に終了していないジョブ（取り消されたジョブ）はカウントされません。

[トップ](#)

MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)

グループ・メッセージ待ち行列名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長10文字の文字変数でなければなりません。メッセージ待ち行列名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。グループに関連したメッセージ待ち行列がない場合には、CL変数は特殊値*NONEにセットされます。

[トップ](#)

MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)

グループ・メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長10文字の文字変数でなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。グループに関連したメッセージ待ち行列がない場合には、CL変数は空白にセットされます。

[トップ](#)

PRVGRPJOBのCL変数 (16) (PRVGRPJOB)

グループ・ジョブ名とグループ内で前に活動状態だったジョブ番号を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小の長さである16文字の文字変数でなければなりません。グループ・ジョブ名の文字数が、変数に使用できるものより少ない場合には、その値の右側に空白が埋め込まれます。グループ内に前に活動状態であったジョブがない場合には、CL変数のグループ・ジョブ名部分は特殊値*NONE にセットされ、CL変数のジョブ番号部分は空白にセットされます。CL変数は次の様式で戻されます。

グループ・ジョブ名 CHAR(10)
ジョブ番号 CHAR(6)

[トップ](#)

CTLCDEのCL変数 (3 0) (CTLCDE)

グループ内の活動ジョブが制御を獲得した理由に関する情報を受け取るCL変数の名前を指定します。CL変数は、小数部分のない3桁の10進数の変数でなければなりません。次の制御コード（およびその意味）が考えられます。

- 0 事前活動ジョブがなかった（このグループに対してグループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB)コマンドが実行されていない）。
- 10 事前活動ジョブが、TFRGRPJOBコマンドでの転送先ジョブとして、このジョブを選択した。
- 20 事前活動ジョブの最初のグループ・プログラムが正常に終了し、このジョブがグループ内の最新の活動ジョブになった。
- 30 事前活動ジョブがグループ・ジョブ終了 (ENDGRPJOB)コマンドによって終了され、制御権を取得するためにこのジョブが選択された(再開するグループ・ジョブ (RSMGRPJOB)パラメーターがこのグループ・ジョブを指定した)。
- 40 事前活動ジョブがENDGRPJOBコマンドによって終了され、制御権を取得するためにこのジョブ以外のジョブ（再開できないうちに終了された）を選択した。このジョブがグループ内で最新の活動ジョブになったため、制御権はこれに渡されます。
- 50 事前活動ジョブがENDGRPJOBコマンドによって終了され、このジョブがグループ内の最新の活動ジョブになった(RSMGRPJOBパラメーターが*PRVを指定した)。
- 60 事前活動ジョブの最初のグループ・プログラムが異常終了し、このジョブがグループ内の最新の活動ジョブになった。
- 70 事前活動ジョブがジョブ終了 (ENDJOB)コマンドによって終了され、このジョブがグループ内の最新の活動ジョブになった。

トップ

例

ジョブ030001/QUSER/WORKST01および030002/QUSER/WORKST01が、それぞれグループ・ジョブ名GROUPJ1およびGROUPJ2をもつグループ・ジョブであるとして。また、メッセージ待ち行列QGPL/GROUPMSGQがグループと関連付けられているとして。グループ・ジョブGROUPJ1がグループ・ジョブGROUPJ2に移行するためにTFRGRPJOBコマンドを出したばかりで、GROUPJ2が次のCLプログラムを呼び出した場合：

PGMの例

```
DCL VAR(&GRPJOB) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&GRPJOB) TYPE(*CHAR) LEN(1056)
DCL VAR(&GRPCOUNT) TYPE(*DEC) LEN(3 0)
DCL VAR(&MSGQNAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&MSGQLIB) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&PRVJOB) TYPE(*CHAR) LEN(16)
DCL VAR(&CTLCODE) TYPE(*DEC) LEN(3 0)
RTVGRPA GRPJOB(&GRPJOB) GRPJOB(&GRPJOB) +
        GRPJOBNT(&GRPCOUNT) MSGQ(&MSGQNAME) +
        MSGQLIB(&MSGQLIB) PRVGRPJOB(&PRVJOB) +
        CTLCDE(&CTLCODE)
```

戻されたCL変数の内容は次の通りです。

&GRPJOB: GROUPJ2
&GRPJOB: GROUPJ2 030002 このグループ・ジョブの
50文字のテキスト...
GROUPJ1 030001 このグループ・ジョブの
50文字のテキスト...

空白で埋められた、さらに14個の項目

&GRPCOUNT: 002
&MSGQNAME: GROUPMSGQ
&MSGQLIB: QGPL
&PRVJOB: GROUPJ1 030001
&CTLCODE: 010

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1309

サブシステムは&1コマンドを完了することができない。

CPF1311

このジョブはグループ・ジョブでない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

トップ

イメージ・カタログの検索 (RTVIMGCLG)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

仮想装置にロードされたイメージ・カタログの名前を検索するか、あるいはイメージ・カタログがロードされている仮想装置の名前を検索するには、CLプロシージャでイメージ・カタログ検索(RTVIMGCLG)コマンドを使用します。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- イメージ・カタログがロードされている仮想装置の名前を検索するには、次の権限が必要です。
 1. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 2. イメージ・カタログに対する*USE権限。
- 仮想装置にロードされたイメージ・カタログの名前を検索するには、次の権限が必要です。
 1. 装置に対する*USE権限。
- このコマンドを使用できるのは、コンパイルされたCLプロシージャ中だけです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	オプション
DEV	仮想装置	名前	オプション
DEVLOD	DEVLODのCL変数(10)	文字値	オプション
IMGCLGLOD	IMGCLGLODのCL変数(10)	文字値	オプション

[トップ](#)

イメージ・カタログ (IMGCLG)

その関連した仮想装置名を検索するイメージ・カタログを指定します。

注: このパラメーターまたは仮想装置 (DEV)パラメーターに値を指定する必要があります。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

[トップ](#)

仮想装置 (DEV)

その関連したイメージ・カタログ名を検索する仮想装置を指定します。

注: このパラメーターまたは**イメージ・カタログ (IMGCLG)**パラメーターに値を指定する必要があります。

名前 仮想装置の名前を指定します。

[トップ](#)

DEVLODのCL変数(10) (DEVLOD)

指定されたイメージ・カタログをロードする、その現行の仮想装置の名前を受け取る、CL変数の名前を指定します。最小10文字の長さのTYPE(*CHAR)で宣言されたCL変数を指定しなければなりません。**イメージ・カタログ (IMGCLG)**パラメーターに指定した名前が仮想装置と関連していない場合には、値*NONEが戻されることになります。

[トップ](#)

IMGCLGLODのCL変数(10) (IMGCLGLOD)

指定された仮想装置に現在ロードされているイメージ・カタログの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小10文字の長さのTYPE(*CHAR)で宣言されたCL変数を指定しなければなりません。**仮想装置 (DEV)**パラメーターに指定した名前がイメージ・カタログと関連していない場合には、値*NONEが戻されることになります。

[トップ](#)

例

例1:ロード済み仮想装置名の検索

```
DCL VAR(&MYLODDEV) TYPE(*CHAR) LEN(10)
RTVIMGCLG IMGCLG(MYCLG) DEVLOD(&MYLODDEV)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**と関連したロード済み仮想装置の名前を検索します。

例2:仮想装置にロードされたイメージ・カタログの検索

```
DCL VAR(&MYCLGLOD) TYPE(*CHAR) LEN(10)
RTVIMGCLG DEV(OPTVRT01) IMGCLGLOD(&MYCLGLOD)
```

このコマンドは、仮想装置**OPTVRT01**と関連したイメージ・カタログの名前を検索します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

ジョブ属性検索 (RTVJOBA)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ属性検索 (RTVJOBA) コマンドは、1つ以上のジョブ属性の値を検索し、それらの値を指定された変数に入れるために、CLプログラムまたはREXXプロシージャで使用されます。これらの属性は、このコマンドが使用されるジョブで検索されます。

このコマンドに対するCLプロンプトでは、検索された変数の最小長が該当するパラメーターの横にリストされます。文字変数の場合には、1つの数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小の長さを示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

1. このコマンドが有効なのは、CLプログラムまたはREXXプロシージャの中だけです。
2. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。追加情報については、「属性有効範囲およびスレッド・セーフティに関する考慮事項」を参照してください。

属性有効範囲およびスレッド・セーフティに関する考慮事項:

このコマンドは、コマンドが使用されたジョブのジョブ属性を検出するために使用されることを目的としています。しかし、現在属性がスレッド・レベルでのみサポートされているために、ジョブ属性が存在しない場合には、このコマンドが使用されたスレッドについてスレッド属性が検索されます。

「有効範囲」欄は、属性の有効範囲がジョブまでであるかまたはスレッドまでであることを示します。

「スレッド・セーフ」欄は、属性がスレッド・セーフとみなされるかどうかを指示します。

はい: -この値でマークされた属性は、初期スレッドか2次スレッドのいずれかから安全に検索できます。

いいえ: -この値でマークされた属性は、スレッド・セーフではなく、マルチスレッド化ジョブで検索してはなりません。

属性有効範囲およびスレッド・セーフティ・テーブル:

属性	有効範囲	スレッド・セーフ
ASPグループ名(ASPGRP)	スレッド	はい
中断メッセージの処理(BRKMSG)	ジョブ	はい
文字ID制御(CHRIDCTL)	ジョブ	はい
コード化文字セットID (CCSID)	ジョブ	はい
国別または地域別ID (CNTRYID)	ジョブ	はい
現行ライブラリー(CURLIB)	スレッド	はい
現行ユーザー・プロファイル(CURUSER)	スレッド	はい
日付形式(DATFMT)	ジョブ	はい
日付区切り記号(DATSEP)	ジョブ	はい
DDM会話処理(DDMCNV)	ジョブ	はい
10進数形式(DECfmt)	ジョブ	はい
省略時のコード化文字セットID (DFTCCSID)	ジョブ	はい
省略時の待機時間(DFTWAIT)	ジョブ	はい
装置の回復処置(DEVRCYACN)	ジョブ	はい
終了状況(ENDSTS)	ジョブ	はい
照会メッセージ応答(INQMSGRPY)	ジョブ	はい
ジョブ会計コード(ACGCDE)	ジョブ	はい
世紀付きジョブ日付(CYMDDATE)	ジョブ	はい
世紀なしジョブ日付(DATE)	ジョブ	はい
ジョブのローカル日時(DATETIME)	ジョブ	はい
ジョブ・ログ出力(LOGOUTPUT)	ジョブ	はい
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時の処置(JOBMSGQFL)	ジョブ	はい
ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ(JOBMSGQMX)	ジョブ	はい
ジョブ名(JOB)	ジョブ	はい
ジョブ番号(NBR)	ジョブ	はい
ジョブ・サブタイプ(SUBTYPE)	ジョブ	はい
ジョブ・スイッチ(SWS)	ジョブ	はい
ジョブ・タイプ(TYPE)	ジョブ	はい
言語ID (LANGID)	ジョブ	はい
ロギング・レベル(LOGLVL)	ジョブ	はい
CLプログラムのロギング(LOGCLPGM)	ジョブ	はい
ログ重大度(LOGSEV)	ジョブ	はい
ロギング・テキスト(LOGTYPE)	ジョブ	はい
出力待ち行列ライブラリー名(OUTQLIB)	ジョブ	はい
出力待ち行列名(OUTQ)	ジョブ	はい
印刷キー形式(PRTKEYFMT)	ジョブ	はい
印刷テキスト(PRTTXT)	ジョブ	はい
印刷装置名(PRTDEV)	ジョブ	はい
プログラム戻りコード(RTNCDE)	ジョブ	いいえ
除去(PURGE)	ジョブ	はい
資源類縁性グループ(RSCAFNGRP)	ジョブ	はい
実行優先順位(RUNPTY)	ジョブ	はい
分類順序(SRTSEQ)	ジョブ	はい
分類順序ライブラリー(SRTSEQLIB)	ジョブ	はい
スプール・ファイル処置(SPLFACN)	ジョブ	はい
状況メッセージの処理(STSMSG)	ジョブ	はい
送信者のメッセージ待ち行列ライブラリー名(SBMMMSGQLIB)	ジョブ	はい
送信者のメッセージ待ち行列名(SBMMMSGQ)	ジョブ	はい
システム・ライブラリー・リスト(SYSLIBL)	スレッド	はい
スレッド資源類縁性(THDRSCAFN)	スレッド	はい
時刻区切り記号(TIMSEP)	ジョブ	はい
タイム・スライス(TIMESLICE)	ジョブ	はい
タイム・スライス終了プール(TSEPOOL)	ジョブ	はい
時間帯省略名(TIMZONABBR)	ジョブ	はい
時間帯記述(TIMZON)	ジョブ	はい
時間帯フルネーム(TIMZONFULL)	ジョブ	はい
時間帯オフセット(TIMOFFSET)	ジョブ	はい
ユーザー・ライブラリー・リスト(USRLIBL)	スレッド	はい
ユーザー名(USER)	ジョブ	はい

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	JOBのCL変数 (10)	文字値	オプション、位置 1
USER	USERのCL変数 (10)	文字値	オプション、位置 2
NBR	NBRのCL変数 (6)	文字値	オプション、位置 3
CURUSER	CURUSERのCL変数 (10)	文字値	オプション
TYPE	TYPEのCL変数 (1)	文字値	オプション
SUBTYPE	SUBTYPEのCL変数 (1)	文字値	オプション
SYSLIBL	SYSLIBLのCL変数 (165)	文字値	オプション
CURLIB	CURLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
USRLIBL	USRLIBLのCL変数 (2750)	文字値	オプション
ASPGRP	ASPGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
LOGLVL	LOGLVLのCL変数 (1)	文字値	オプション
LOGSEV	LOGSEVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
LOGTYPE	LOGTYPEのCL変数 (10)	文字値	オプション
LOGCLPGM	LOGCLPGMのCL変数 (10)	文字値	オプション
LOGOUTPUT	LOGOUTPUTのCL変数 (10)	文字値	オプション
JOBMSGQMX	JOBMSGQMXのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
JOBMSGQFL	JOBMSGQFLのCL変数 (10)	文字値	オプション
INQMSGRPY	INQMSGRPYのCL変数 (10)	文字値	オプション
STSMSG	STSMSGのCL変数 (7)	文字値	オプション
BRKMSG	BRKMSGのCL変数 (7)	文字値	オプション
DEVRCYACN	DEVRCYACNのCL変数 (13)	文字値	オプション
RTNCDE	RTNCDEのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
ENDSTS	ENDSTSのCL変数 (1)	文字値	オプション
PRTDEV	PRTDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQ	OUTQのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQLIB	OUTQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
SPLFACN	SPLFACNのCL変数 (10)	文字値	オプション
PRTTXT	PRTTXTのCL変数 (30)	文字値	オプション
PRTKEYFMT	PRTKEYFMTのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRTSEQ	SRTSEQのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRTSEQLIB	SRTSEQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
LANGID	LANGIDのCL変数 (3)	文字値	オプション
CNTRYID	CNTRYIDのCL変数 (2)	文字値	オプション
CCSID	CCSIDのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
DFTCCSID	DFTCCSIDのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
CHRIDCTL	CHRIDCTLのCL変数 (10)	文字値	オプション
DECFMT	DECFMTのCL変数 (1)	文字値	オプション
DATFMT	DATFMTのCL変数 (4)	文字値	オプション
DATSEP	DATSEPのCL変数 (1)	文字値	オプション
TIMSEP	TIMSEPのCL変数 (1)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DATE	DATEのCL変数 (6)	文字値	オプション
CYMDDATE	CYMDDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
DATETIME	DATETIMEのCL変数 (20)	文字値	オプション
TIMZON	TIMZONのCL変数 (10)	文字値	オプション
TIMZONABBR	TIMZONABBRのCL変数 (10)	文字値	オプション
TIMZONFULL	TIMZONFULLのCL変数 (50)	文字値	オプション
TIMOFFSET	TIMOFFSETのCL変数 (3 0)	10 進数	オプション
ACGCDE	ACGCDEのCL変数 (15)	文字値	オプション
SWS	SWSのCL変数 (8)	文字値	オプション
RUNPTY	RUNPTYのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
TIMESLICE	TIMESLICEのCL変数 (7 0)	10 進数	オプション
PURGE	PURGEのCL変数 (10)	文字値	オプション
DFTWAIT	DFTWAITのCL変数 (7 0)	10 進数	オプション
SBMSGQ	SBMSGQのCL変数 (10)	文字値	オプション
SBMSGQLIB	SBMSGQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
DDMCNV	DDMCNVのCL変数 (5)	文字値	オプション
TSEPOOL	TSEPOOLのCL変数 (10)	文字値	オプション
THDRSCAFN	THDRSCAFNのCL変数 (20)	文字値	オプション
RSCAFNGRP	RSCAFNGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション

[トップ](#)

JOBのCL変数 (10) (JOB)

ジョブの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

USERのCL変数 (10) (USER)

ジョブの開始時にジョブと関連付けられたユーザー・プロファイルの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。ユーザー名は修飾ジョブ名の2番目の部分です。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

NBRのCL変数 (6) (NBR)

システムによってジョブに割り当てられた6文字の番号を受け取るCL変数の名前を指定します。ジョブ番号は修飾ジョブ名 (ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名) の最初の部分です。

[トップ](#)

CURUSERのCL変数 (10) (CURUSER)

現行ユーザー・プロファイルの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

TYPEのCL変数 (1) (TYPE)

ジョブの環境を表す1桁の値を受け取るCL変数の名前を指定します。文字値0は、ジョブがバッチ・ジョブとして実行中であることを示します。1は、対話式ジョブを示します。この変数は最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

SUBTYPEのCL変数 (1) (SUBTYPE)

ジョブの環境のサブタイプ値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長が1文字の文字変数でなければなりません。次の値が戻されます。

値	環境
*	このジョブにはサブタイプがない
E	このジョブは呼び出されたジョブとして実行中である
T	このジョブは複数リクエスター端末(MRT)ジョブとして実行中である
J	このジョブは事前開始ジョブとして実行中である
P	このジョブは印刷ドライバーとして実行中である

[トップ](#)

SYSLIBLのCL変数 (165) (SYSLIBL)

スレッドのライブラリー・リストのシステム部分を受け取るCL変数の名前を指定します。戻される各ライブラリー名は11桁のフィールドに左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。この変数は、最小165桁の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

CURLIBのCL変数 (10) (CURLIB)

スレッドの現行ライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

注: スレッドに現行ライブラリーがない場合は、この変数に*NONEの値が戻されます。

[トップ](#)

USRLIBLのCL変数 (2750) (USRLIBL)

スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分を受け取るCL変数の名前を指定します。戻される各ライブラリー名は11桁のフィールドに左寄せされ、右側に空白が埋め込まれます。CL変数がライブラリー・リストで小さすぎる場合には、例外信号が出されて、ライブラリー名は戻されません。この変数は、最小長が275桁の文字変数でなければなりません。ライブラリー・リストのユーザー部分に250のライブラリー名が含まれている場合には、最小長2750文字の文字変数が必要です。

[トップ](#)

ASPGRPのCL変数 (10) (ASPGRP)

補助記憶域プール(ASP)グループ名を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。スレッドにASPグループがない場合には、特殊値*NONEが戻されます。

[トップ](#)

LOGLVLのCL変数 (1) (LOGLVL)

ジョブ・ログに記録されるメッセージのタイプを決めるために使用されるメッセージ・ロギング・レベルを示す、1桁の値(0から4の範囲)を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

LOGSEVのCL変数 (2 0) (LOGSEV)

2桁の値(00から99の範囲)を受け取るCL変数の名前を指定します。これは、どのエラー・メッセージがジョブ・ログに記録されるかを判別するために、ログ・レベルと一緒に使用される重大度レベルです。この変数は、小数部分を指定しない2桁の10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

LOGTYPEのCL変数 (10) (LOGTYPE)

ジョブ・ログに書き出されるメッセージの場合に現れるテキストのレベルを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

LOGCLPGMのCL変数 (10) (LOGCLPGM)

CLプログラム中の処理されたコマンドをジョブ・ログに記録するかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

LOGOUTPUTのCL変数 (10) (LOGOUTPUT)

ジョブの完了時にジョブのジョブ・ログを作成する方法を示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。特殊値*JOBEND, *JOBLOGSVR,または*PNDが戻されます。

[トップ](#)

JOBMSGQMXのCL変数 (2 0) (JOBMSGQMX)

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は小数部分のない2桁の10進数の変数でなければなりません。

[トップ](#)

JOBMSGQFLのCL変数 (10) (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時取る処置を指定します。この変数の長さは、最小でも10文字が必要です。特殊値*NOWRAP, *WRAP,または*PRTWRAPが戻されます。

[トップ](#)

INQMSGRPYのCL変数 (10) (INQMSGRPY)

ジョブでどのように照会メッセージを処理するかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

STSMSGのCL変数 (7) (STSMSG)

ジョブに対する状況メッセージの処理方法を示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が7文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

BRKMSGのCL変数 (7) (BRKMSG)

ジョブで有効となっている中断メッセージ処理のモードを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が7文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DEVRCYACNのCL変数 (13) (DEVRCYACN)

対話式ジョブで*REQUESTER装置に入出力エラーが見つかった時にジョブに対して取る回復処置を示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が13文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

RTNCDEのCL変数 (5 0) (RTNCDE)

RPG, COBOL, DFU,または分類ユーティリティ・プログラムの5桁の10進数戻りコードを受け取るCL変数の名前を指定します。戻りコードは、これらのプログラムがこれらのプログラムを呼び出すプログラムに戻る前に、これらのプログラムによって設定されます。戻りコードは、次のように、ジョブ内で処理を完了した最後のプログラム（上記のタイプのプログラム）の完了状況を示します。

- 0 正常戻り(RPG, COBOL, DFU,または分類プログラム・ユーティリティ)
- 1 LR（最終レコード）標識がオン(RPG)
- 2 エラー-停止標識がセットされていない(RPG, COBOL, DFU,または分類プログラム・ユーティリティ)
- 3 停止標識がオンにセットされている(RPGの標識H1からH9の1つ)

CL変数は、小数部分のない5桁の10進数の変数でなければなりません。

[トップ](#)

ENDSTSのCL変数 (1) (ENDSTS)

取り消し状況を受け取るCL変数の名前を指定します。単一桁の値は、ジョブに影響を及ぼす制御付き取り消しが現在実行されていることを示します。値1は、システム、ジョブが実行中のサブシステム、またはジョブそのものが取り消し中であることを示します。0は、制御付き取り消しは実行されていないことを示します。このCL変数は、最小の長さが1文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

PRTDEVのCL変数 (10) (PRTDEV)

印刷装置の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)

スプール出力のためにジョブで使用される出力待ち行列の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)

スプール出力のためにジョブで使用される出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

SPLFACNのCL変数 (10) (SPLFACN)

スプール・ファイルをジョブとともに保管するか、あるいはジョブの終了時に切り離すかを指示する特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。特殊値*KEEPまたは*DETACHが戻されます。

[トップ](#)

PRTTXTのCL変数 (30) (PRTTXT)

ジョブの印刷テキストを受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長30 桁の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

PRTKEYFMTのCL変数 (10) (PRTKEYFMT)

ジョブのページ印刷キー形式を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の長さは、最小でも10文字が必要です。特殊値*NONE, *PRTBDR, *PRTHDR,または*PRTALLが戻されます。

[トップ](#)

SRTSEQのCL変数 (10) (SRTSEQ)

ジョブに使用される分類順序テーブルの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。特殊値*LANGIDUNQ, *LANGIDSHR,または*HEXが変数に戻される可能性があります。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

SRTSEQLIBのCL変数 (10) (SRTSEQLIB)

ジョブに使用される分類順序テーブルが入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。SRTSEQが*LANGIDUNQ, *LANGIDSHRまたは*HEXの場合は、ブランクが変数に戻されます。

[トップ](#)

LANGIDのCL変数 (3) (LANGID)

ジョブに使用される言語IDを示す値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が3桁の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

CNTRYIDのCL変数 (2) (CNTRYID)

ジョブに使用される国別または地域別のIDを示す値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が2桁の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

CCSIDのCL変数 (5 0) (CCSID)

使用されるコード化文字セットID値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、小数部分を指定しない5桁の10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

DFTCCSIDのCL変数 (5 0) (DFTCCSID)

ジョブに使用される省略時のコード化文字セットID値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、小数部を持たない5桁の10進数でなければなりません。

[トップ](#)

CHRIDCTLのCL変数 (10) (CHRIDCTL)

ジョブに対する文字ID制御として使用される値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DECFMTのCL変数 (1) (DECFMT)

ジョブの10進数形式として使用されている文字を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DATFMTのCL変数 (4) (DATFMT)

ジョブの日付形式として使用される特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DATSEPのCL変数 (1) (DATSEP)

ジョブの日付区切り文字として使用される文字を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

TIMSEPのCL変数 (1) (TIMSEP)

ジョブの時刻区切り文字として使用される文字を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DATEのCL変数 (6) (DATE)

ジョブの開始時に、システムによってジョブに割り当てられた日付を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が6文字の文字変数でなければなりません。ジョブ日付はジョブ日付の形式で戻されます。

[トップ](#)

CYMDDATEのCL変数 (7) (CYMDDATE)

ジョブの開始時に、システムによってジョブに割り当てられた日付を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が7文字の文字変数でなければなりません。ジョブ日付は形式CYYMMDDで戻されます。ここで、Cは世紀、YYは年、MMは月、DDは日です。

[トップ](#)

DATETIMEのCL変数 (20) (DATETIME)

ジョブの現在のローカル日時を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が20文字の文字変数でなければなりません。ジョブのローカル日時は、YYYYMMDDHHNNSXXXXXXXXの形式で戻されます。ここで、YYYYは年、MMは月、DDは日、HHは時間、NNは分、SSは秒、およびXXXXXXXXはマイクロ秒です。

[トップ](#)

TIMZONのCL変数 (10) (TIMZON)

ローカル・ジョブ時間を計算するために使用される現行時間帯記述を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

TIMZONABBRのCL変数 (10) (TIMZONABBR)

ローカル・ジョブ時間を計算するために使用される時間帯の現行省略名、すなわち短い名前、を受け取るCL変数の名前を指定します。この値には、夏時間調整時が有効であるかどうかに基づいて、標準時省略名か夏時間調整時省略名が含まれます。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

TIMZONFULLのCL変数 (50) (TIMZONFULL)

ローカル・ジョブ時間を計算するために使用される時間帯の現行フルネーム（つまり長い名前）を受け取るCL変数の名前を指定します。この値には、夏時間調整時が有効であるかどうかに応じて、標準時間フルネームか夏時間調整時フルネームのいずれかが入ります。この変数は、最小長が50文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

TIMOFFSETのCL変数 (3 0) (TIMOFFSET)

ローカル・ジョブ時間を計算するために使用される現行オフセット（分数）を受け取るCL変数の名前を指定します。この値は、必要に応じて夏時間調整時に調整されています。この変数は小数部分のない3桁の10進数の変数でなければなりません。

[トップ](#)

ACGCDEのCL変数 (15) (ACGCDE)

ジョブの会計コードを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が15文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

SWSのCL変数 (8) (SWS)

ジョブによって使用される8個のジョブ・スイッチの値を受け取るCL変数の名前を指定します。ジョブ・スイッチは、各桁が対応するスイッチの値として1または0を指定する単一の8文字の値として検索されます。このCL変数は、最小の長さが8文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

RUNPTYのCL変数 (2 0) (RUNPTY)

このコマンドが使用されるジョブの処理優先順位を示す2桁の値(1から99の範囲)を受け取るCL変数の名前を指定します。この値は、ジョブ内のすべてのスレッドについて許される最高の実行優先順位です。ジョブ内の個々のスレッドはこれより低い実行優先順位になります。この変数は、小数部分を指定しない2桁の10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

TIMESLICEのCL変数 (7 0) (TIMESLICE)

このジョブ内のスレッドが処理時間を与えられた時に実行できる最大ミリ秒数を示す7桁の値 (8から9999999)を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は小数部分のない7桁の10進数の変数でなければなりません。

[トップ](#)

PURGEのCL変数 (10) (PURGE)

タイム・スライスの終わりまたは長時間待機状態に入った時にこのジョブが主記憶域から取り出して、補助記憶域に入れるのに適格となるかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。ジョブの除去の詳細については、ジョブ変更 (CHGJOB)コマンドのこのパラメーターの説明を参照してください。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DFTWAITのCL変数 (7 0) (DFTWAIT)

システムが資源を獲得するためにマシン語命令を待機する最大秒数の省略時値を示す7桁の値(1から9999999の範囲あるいは値が*NOMAXに設定されている場合は-1)を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は小数部分のない7桁の10進数の変数でなければなりません。

[トップ](#)

SBMMSGQのCL変数 (10) (SBMMSGQ)

メッセージ待ち行列の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

SBMMSGQLIBのCL変数 (10) (SBMMSGQLIB)

前に記述されたメッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DDMCNVのCL変数 (5) (DDMCNV)

ジョブでの分散データ管理機能(DDM)会話に取られる処置を示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が5文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

TSEPOOLのCL変数 (10) (TSEPOOL)

対話式ジョブがタイム・スライス終わりに達した時に対話式ジョブを別の主記憶域プールに移動するかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

トップ

THDRSCAFNのCL変数 (20) (THDRSCAFN)

2次スレッドに初期スレッドと同じシステム資源のグループへの類縁性があるかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。特殊値*NOGROUPまたは*GROUPが最初の10文字で戻されます。2番目の10文字には、類縁性のレベルを示す特殊値が入ります。特殊値*NORMALまたは*HIGHが戻されます。この変数は、最小長が20文字の文字変数でなければなりません。

トップ

RSCAFNGRPのCL変数 (10) (RSCAFNGRP)

ジョブに同じルーティング項目または事前開始ジョブ項目を使用する他のジョブと同じプロセッサおよびメモリのグループへの類縁性があるかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。特殊値*NOまたは*YESが戻されます。

トップ

例

```
RTVJOBA  NBR(&JOBNBR)  DATE(&JOBDATE)  DFTCCSID(&DFTCCSID)
```

このコマンドは、このコマンドが実行されるジョブのジョブ番号、ジョブ日付、および省略時のコード化文字セットIDを検索します。6桁のジョブ番号がCL変数&JOBNBRにコピーされます。ジョブ日付はCL変数&JOBDATEにコピーされます。&JOBNBRと&JOBDATEの両方の値は6文字の長さでなければなりません。5桁のDFTCCSID値がCL変数&DFTCCSIDにコピーされます。この値は5文字長さでなければなりません。日付の形式は、システム日付形式を制御するシステム値QDATFMTの内容によって決定されます。

```
/*変数の宣言*/
DCL  &LIBL *CHAR 2750
DCL  &CHGLIBL *CHAR 2760
/*ライブラリー・リストの保管*/
RTVJOBA  USRLIBL(&LIBL)
:
/*ライブラリー・リストの一時的な変更*/
CHGLIBL  LIBL(MYLIB QGPL)
:
/*コマンド・ストリングの構築*/
CHGVAR  &CHGLIBL ('CHGLIBL (' *CAT &LIBL *TCAT ')')
/*ライブラリー・リストの復元*/
CALL  QCMDEXC (&CHGLIBL 2760)
```

上記のコマンドは、ライブラリー・リストのユーザー部分にMYLIBおよびQGPLだけが合ったような場合に、それを後で一時的な状態からオリジナルの状態に復元できるように、ライブラリー・リストのユーザー部分を検索します。

ライブラリー・リストのユーザー部分にライブラリーがない場合には、ブランクが変数に戻されます。ライブラリー・リストのライブラリーが削除されていた場合には、変数のその名前の位置に値「*DELETED」が入れられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF098A

USRLIBLパラメーター・サイズが小さすぎる。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ジャーナル項目検索 (RTVJRNE)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル項目検索(RTVJRNE)コマンドにより、特定のジャーナル項目を取り出して、結果をCL変数に入れることができます。CL変数には、検索された項目の順序番号などの情報が含まれるので、特定タイプの回復機能を自動化する際に有用です。ジャーナル項目の検索は、オブジェクト、ある範囲のジャーナル・レシーバー、ある範囲のジャーナル項目、ジャーナル・コード、項目タイプ、ジョブ、プログラム、ユーザー・プロファイル、またはコミット・サイクルIDに制限することができます。複数の制限基準を指定することができます。指定された検索値を複数のジャーナル項目が満たした場合には、指定されたすべての検索値を満たすジャーナル項目の最初のオカレンスが戻されます。指定された検索値を満たすジャーナル項目がなかった場合には、コマンドはエスケープ・メッセージとともに終了し、戻りCL値(RTNSEQNBRLRG, RTNSEQNBR, RTNJRNCDE, RTNENTTYP, RTNRCV, RTNRCVLIB,およびRTNJRNE)は同じままです。

ジャーナル項目全体の検索の順序は、昇順または降順とすることができます。検索順序は、SEARCHパラメーターに指定された値によって決まります。FROMパラメーターの値は、指定された検索順序の中でTOパラメーターに指定された値より前になければなりません。

このコマンドのCLプロンプトによって、正しいパラメーターの横に検索される変数の最小長がリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数値は最小変数長を示し、2番目の数値は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

- 順序番号が指定されたレシーバーの範囲内でリセットされる場合には、FROMENTLRGまたはFROMENTが指定されていれば、最初に現れた方が使用されます。TOENTLRGまたはTOENTが指定されている場合には、FROMENTLRGまたはFROMENTが指定されていれば、FROMENTLRGまたはFROMENT項目の後に最初に現れた方が使用されます。そうでない場合には、最初に現れたものが使用されます。
- FILE, OBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE, PATTERN, JRNCDE, ENTTYP, JOB, PGM, USRPRF, CCIDLRG, CMTCYCID,およびDEPENTパラメーターを使用して、ジャーナル項目の範囲内の使用可能なすべての項目のサブセットを指定することができます。
 - これらのパラメーターを使用して値を指定しない場合には、使用可能なすべてのジャーナル項目が検索されます。
 - これらのパラメーターの複数を指定する場合には、JRNCDEパラメーターで*IGNFILSLTまたは*IGNOBSLTが指定されている場合を除き、ジャーナル項目はこれらのパラメーターで指定されているすべての値を満たさなければなりません。
 - JRNCDEパラメーターでジャーナル・コードが指定されていて、*IGNFILSLTがそのジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、それらがFILEパラメーターで指定されているものを除くすべての選択基準を満たしていれば、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が選択されます。
 - JRNCDEパラメーターでジャーナル・コードが指定されていて、*IGNOBSLTがそのジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、それらがOBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE,およびPATTERNパラメーターで指定されているものを除くすべての選択基準を満たしていれば、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が選択されます。

- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが、このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には、選択基準の指定にJOB, PGM, およびUSRPRFパラメーターを使用することはできません。
- オブジェクトの最大数(32767オブジェクト) を超えるオブジェクトが識別されている場合には、エラーが起こって項目は検索されません。*ALLFILEが指定されているか、オブジェクトが指定されていない場合には、この制約事項は無視されます。
- ジャーナル・キャッシュが使用されている場合には、キャッシュ内の項目を検索することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILE	ジャーナルされた物理ファイル	単一値: *ALLFILE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *ALL, *NONE	
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*FILE, *DTAARA, *DTAQ	
要素 3: データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *FIRST, *ALL, *NONE		
OBJPATH	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
OBJFID	ファイル識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 16 進値	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: *CURRENT, *CURCHAIN その他の値: 要素リスト	オプション, 位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: *CURRENT その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PATTERN	名前パターン	値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, *FIRST, *LAST	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, *LAST, *FIRST	オプション
TOTIME	終了日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
SEARCH	検索	*ASCEND, *DESCEND	オプション
JRNCD	ジャーナル・コード	単一値: *ALL, *CTL その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジャーナル・コード値	A, B, C, D, E, F, J, L, M, P, Q, R, S, T, U	
	要素 2: ジャーナル・コードの選択	*ALLSLT, *IGNFILSLT, *IGNOBSLT	
ENTTYP	ジャーナル項目タイプ	単一値: *ALL, *RCD その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: *ALL, * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
PGM	プログラム	名前, *ALL	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *ALL	オプション
CCIDLRG	大きいコミット・サイクルID	文字値, *ALL	オプション
DEPENT	従属項目	*ALL, *NONE	オプション
ENTFMT	入力様式	*TYPE1, *TYPE2, *TYPE3, *TYPE4, *TYPE5	オプション
FMTMINDTA	最小化データの形式設定	*NO, *YES	オプション
NULLINDLEN	ヌル値標識の長さ	1-8000	オプション
INCENT	項目の組み込み	*CONFIRMED, *ALL	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-9999999999, *FIRST, *LAST	オプション
TOENT	終了順序番号	1-9999999999, *LAST, *FIRST	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CMTCYCID	コミット・サイクル識別コード	1-9999999999, <u>*ALL</u>	オプション
RTNSEQLRG	RTNSEQLRGのCL変数 (20)	文字値	オプション
RTNJRNCDE	RTNJRNCDEのCL変数 (1)	文字値	オプション
RTNENTTYP	RTNENTTYPのCL変数 (2)	文字値	オプション
RTNRCV	RTNRCVのCL変数 (10)	文字値	オプション
RTNRCVLIB	RTNRCVLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
RTNJRNE	RTNJRNEのCL変数 (1)	文字値	オプション
RTNSEQNBR	RTNSEQNBRのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション

トップ

ジャーナル (JRN)

受け取られたジャーナル項目が入っていたジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジャーナルされた物理ファイル (FILE)

ジャーナル項目が検索される最大300のファイルを指定します。このパラメーターは、ジャーナル項目が検索されるファイル・メンバーも指定します。

指定されたファイル・メンバー名に基づいて検索するジャーナル項目を判別するために、次が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在している場合には、ジャーナルIDは指定されたファイル・メンバーから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。

- ジャーナルがリモート・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在していない場合には、指定されたファイル・メンバーと対応している使用可能なジャーナルIDをすべて判別するために、指定されたレシーバーの範囲が検索されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。項目をファイル用に戻すには、ライブラリー名または*CURLIBを指定してください。

指定されたレシーバー範囲内には、指定されたオブジェクトと関連付けられた複数のジャーナルIDがある場合があります。これは、ジャーナル処理されたオブジェクトが削除されて同じ名前で新しいオブジェクトが作成され、同じジャーナルにジャーナル処理された場合に起こり得ます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターにデータベース・ファイルを指定した時に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が検索されるのは、それらが他のパラメーターに指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードF (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードR (レコード・レベルの情報項目)。
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)。
 - その他のジャーナル・コード (そのジャーナル・コードに*IGNFILSLTが指定されている場合)。そのジャーナル・コードに*ALLSLTが指定されている場合には、そのコードを持つジャーナル項目は検索されません。

単一値

***ALLFILE**

検索する項目の検索は、指定したファイル名に限定されません。項目がどのオブジェクト (もしあれば) に関連付けられているかに関係なく、すべてのジャーナル項目が検索されます。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

ALL** ジャーナル処理された変更が現在ジャーナル・レシーバーに入っている指定のライブラリー (このライブラリー名が指定されている必要がある) にあるすべての物理ファイルのジャーナル項目が検索されます。ALL**が指定されていて、ユーザーがファイルのすべてに対して必要な権限を持っていない場合には、エラーが起こり、コマンドは終了します。

物理ファイル名

ジャーナル項目が検索されるデータベース物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

データベース・ファイルのジャーナル項目およびファイルの最初のメンバーが検索されます。

***ALL** データベース・ファイルのジャーナル項目および現在ファイルに存在しているすべてのメンバーが検索されます。

***NONE**

データベース・ファイルの項目だけが検索されます。ファイルのメンバーの項目は検索されません。

メンバー名

項目が検索されるメンバーの名前を指定してください。

ファイル名要素に*ALLを指定した場合には、このメンバー名がライブラリー中のすべての適用可能なファイルに対して使用されます。たとえば、FILEパラメーターでライブラリー名/*ALL *FIRSTが指定された場合には、指定されたライブラリー内の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が検索されます。

トップ

オブジェクト (OBJ)

ジャーナル項目が検索される最大300の修飾オブジェクト名を指定します。考えられるオブジェクト・タイプは*FILE, *DTAARA,および*DTAQです。*FILEが指定されている場合には、このパラメーターはジャーナル項目が検索されるファイル・メンバーの名前も指定します。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH,またはOBJFID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

指定されたオブジェクト名に基づいて検索するジャーナル項目を判別するために、以下が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルの場合、および指定されたオブジェクトが現在システムに存在している場合には、ジャーナルIDは指定されたオブジェクトから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルの場合、または指定されたオブジェクトが現在システムに存在しない場合には、指定されたレシーバー範囲が検索されて、指定されたオブジェクトと関連付けられている可能なすべてのジャーナルIDが判別されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。項目をオブジェクト用に戻すには、ライブラリー名または*CURLIBを指定してください。

指定されたレシーバー範囲内には、指定されたオブジェクトと関連付けられた複数のジャーナルIDがある場合があります。これは、ジャーナル処理されたオブジェクトが削除されて同じ名前でも新しいオブジェクトが作成され、同じジャーナルにジャーナル処理された場合に起こり得ます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が検索されるのは、オブジェクト名の指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードE (データ域情報項目)。
 - ジャーナル・コードF (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードQ (データ待ち行列情報項目)。
 - ジャーナル・コードR (レコード・レベルの情報項目)。
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)。
 - *IGNOBSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
 - *ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は検索されません。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

ALL** 指定されたライブラリー (ライブラリー名を指定する必要がある) 内の、ジャーナル処理された変更が現在ジャーナル・レシーバーに入っている、指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトのジャーナル項目が検索されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。ALL** が指定されていても、ユーザーがライブラリー内のすべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていないければ、メッセージが送られて、コマンドは終了します。

オブジェクト名

ジャーナル処理された変更が検索されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

ジャーナル処理された変更が検索されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

***FILE** データベース・ファイルの項目およびデータベース・ファイル・メンバーが検索されます。

***DTAARA**

データ域の項目が検索されます。

***DTAQ**

データ待ち行列の項目が検索されます。

要素3: データベース・ファイルの場合にメンバー

ジャーナル項目が検索されるファイルのメンバーの名前を指定してください。このパラメーターの最初の部分に*ALLを指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。たとえば、*FIRSTが指定されていると、指定されたライブラリー内の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が検索されます。

注: 指定のオブジェクト・タイプが*FILEではない場合は、メンバー名要素値は無視されます。

***FIRST**

データベース・ファイルのジャーナル項目およびファイルの最初のメンバーが検索されます。

***ALL** データベース・ファイルのジャーナル項目および現在ファイルに存在しているすべてのメンバーが検索されます。

***NONE**

データベース・ファイルの項目だけが検索されます。ファイルのメンバーの項目は検索されません。

メンバー名

項目が検索されるメンバーの名前を指定してください。

オブジェクト名要素に*ALLが指定されている場合には、ライブラリー内の適用可能なすべてのファイルにこのメンバー名が使用されます。たとえば、OBJパラメーターでライブラリー名/*ALL *FILE *FIRSTが指定されていると、指定されたライブラリー内の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が検索されます。

トップ

オブジェクト (OBJPATH)

ジャーナル項目が検索される最大300個のオブジェクトを指定します。「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに入っている、そのパス名がタイプ*STMF, *DIR,または*SYMLNKのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされます。他のオブジェクトはすべて無視されます。

このパラメーターはリモート・ジャーナルには無効です。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH,またはOBJFID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

現在指定されたパス名とリンクされていて、それらと関連付けられているジャーナルIDを持つオブジェクトだけがジャーナル項目の選択に使用されます。指定されたオブジェクトが存在しない場合には、そのリンクと関連付けられたジャーナルIDがジャーナル項目の選択に使用されます。指定されたオブジェクトが存在しないか、それと関連付けられたジャーナルIDを持っていない場合には、そのリンクはジャーナル項目の選択には使用されず、エラーは送られません。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、

ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

- このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が検索されるのは、オブジェクト名の指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードB (統合ファイル・システム情報項目)。
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)。
 - *IGNOBSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
*ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は検索されません。

要素1: 名前

パス名 パス名によって識別されたオブジェクトの項目が検索されます。

パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。パス名が波形記号文字で始まっている場合には、そのパスは該当するホーム・ディレクトリーに相対するものとみなされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パス名と一致する名前を操作に含めるか、それとも操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを組み込むかまたは除外するかを指定します。

***INCLUDE**

オブジェクト名のパターンと一致するオブジェクトは、*OMITの指定によって指定変更されない限り、どのジャーナル項目を検索するかの決定に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名のパターンと一致するオブジェクトは、どのジャーナル項目を検索するかの決定に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

ファイル識別コード (OBJFID)

ジャーナル項目が検索される最大300個のファイルID (FID)を指定します。FIDは統合ファイル・システム関連オブジェクトと関連付けされている固有のIDです。このフィールドは16進形式で入力されます。「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに入っている, そのFIDがタイプ*STMF, *DIR,または*SYMLNKのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされます。他のオブジェクトはすべて無視されます。

FILEパラメーターを指定するか, オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH,またはOBJFID)の1つ以上を指定することができますが, 両方を指定することはできません。

指定されたファイルIDに基づいて, 受信するジャーナル項目を判別するために, 以下が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルの場合, および指定されたオブジェクトが現在システムに存在している場合には, ジャーナルIDは指定されたオブジェクトから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルの場合, または指定されたオブジェクトが現在システムに存在しない場合には, 指定されたレシーバー範囲が検索されて, 指定されたオブジェクトと関連付けられている可能なすべてのジャーナルIDが判別されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には, ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更, 移動, または復元された場合であっても, ジャーナルIDは一定になっています。詳細については, ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に, 次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が検索されるのは, オブジェクト名の指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードB (統合ファイル・システム情報項目)。
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)。
 - *IGNOBSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には, その他のジャーナル・コード。
*ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には, そのコードを持つジャーナル項目は検索されません。

ファイルID

FIDで識別されたオブジェクトの項目が検索されます。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ジャーナル項目が検索されるオブジェクトの決定にディレクトリー・サブツリーを組み込むかどうかを指定します。

注: このパラメーターは, OBJPATHパラメーターに1つまたは複数のパス名を指定する場合にだけ有効です。

***NONE**

選択基準と一致するオブジェクトだけが処理されます。選択したディレクトリーにあるオブジェクトは、暗黙に処理されません。

***ALL** 選択基準と一致する各ディレクトリーのサブツリー全体に加えて、選択基準と合ったすべてのオブジェクトが、処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

トップ

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

取り出されるジャーナル項目の検索で使用される開始（最初の）および終了（最後の）ジャーナル・レシーバーを指定します。システムは開始ジャーナル・レシーバー（最初の値で指定）で検索を開始し、終了ジャーナル・レシーバー（最後の値で指定）が処理されるまでレシーバー連鎖を検索していきます。

検索プロンプト（SEARCHパラメーター）に*ASCENDが指定された場合には、ジャーナル・レシーバーは古いものから新しいものへの順序で指定しなければなりません。検索 (SEARCH)パラメーターに*DESCENDが指定されている場合には、ジャーナル・レシーバーを最も新しいものから最も古いものへの順に指定しなければなりません。

注: この範囲内のレシーバーの最大数(2045)を超えると、エラーが起こって、ジャーナル項目は検索されません。

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の検索開始時に接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

***CURCHAIN**

ジャーナル項目の検索開始時に接続されているジャーナル・レシーバーが入っているジャーナル・レシーバー連鎖が使用されます。このレシーバー連鎖は連鎖の切れ目を超えません。連鎖に切れ目がある場合には、レシーバーの範囲は連鎖中の最新の切れ目からジャーナル項目の検索開始時に接続されているレシーバーまでとなります。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

開始ジャーナル・レシーバー名

検索されるジャーナル項目が入っている最初のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

*CURRENT

ジャーナル項目の検索開始時に接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

終了ジャーナル・レシーバー

検索されるジャーナル項目が入っている最後のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。この名前のレシーバーが見つかる前にレシーバー連鎖の終わりに達した場合には、エラー・メッセージが送られて、ジャーナル項目は検索されません。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

トップ

名前パターン (PATTERN)

ジャーナル項目が検索されるオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用する最大20個のパターンを指定します。

名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフで囲まなければなりません。

名前パターンのパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

注: このパラメーターは、OBJPATHパラメーターに1つまたは複数のパス名を指定する場合にだけ有効です。

要素1: パターン

'**' 入力OBJPATHパラメーターと一致するすべてのオブジェクトが組み込まれます。

名前パターン

ジャーナル項目が検索されるオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用するパターンを指定します。名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。

名前パターンのパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、ディレクトリー・サブツリーを組み込むかまたは除外するかを指定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが操作に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは操作に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

[トップ](#)

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

検索の対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***FIRST**

指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目が、検索対象とみなされる最初の項目です。SEARCH(*DESCEND)が指定されている場合に、FROMENT(*FIRST)が有効なのは、TOENTLRG(*FIRST)またはTOENT(*FIRST)も指定されている場合だけです。

***LAST**

指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目が、検索対象とみなされる最初の項目です。SEARCH(*ASCEND)が指定されている場合に、FROMENT(*LAST)が有効なのは、TOENTLRG(*LAST)またはTOENT(*LAST)も指定されている場合だけです。

開始順序番号

割り当てられた順序番号を持つジャーナル項目が、検索の対象とみなされる最初の項目です。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

開始日および時刻 (FROMTIME)

検索の対象とみなされる最初のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。指定された日付と時刻で見つかった最初のジャーナル項目またはその後のジャーナル項目が検索の開始点となります。

要素1: 開始日付

開始日 日付を指定してください。指定した日付および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、検索の開始点となります。

要素2: 開始時刻

開始時刻

時刻を指定してください。指定した日付および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、検索の開始点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。

[トップ](#)

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

検索の対象とみなされる最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LAST

検索は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目が処理されるまで続行されます。SEARCH(*DESCEND)が指定されている場合に、TOENT(*LAST)が有効なのは、FROMENTLRG(*LAST)またはFROMENT(*LAST)も指定されている場合だけです。

*FIRST

検索は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目が処理されるまで続行されます。SEARCH(*ASCEND)が指定されている場合に、TOENT(*FIRST)が有効なのは、FROMENTLRG(*LAST)またはFROMENT(*FIRST)も指定されている場合だけです。

終了順序番号

検索の対象とみなされる最終ジャーナル項目の順序番号を指定します。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

注: FROMENTおよびTOENTパラメーターに指定する値は同じにすることができます。たとえば、FROMENT(234)およびTOENT(234)を指定することができます。

[トップ](#)

終了日および時刻 (TOTIME)

検索の対象とみなされる最後のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。指定された日付と時刻で最初に見つかったジャーナル項目またはその直前のジャーナル項目が検索の終了点となります。

要素1: 終了日付

終了日 終了日を指定してください。指定した日付および時刻またはその前のジャーナル項目の終了日および時刻が、検索の終了点となります。

要素2: 終了時刻

終了時刻

時刻を指定してください。指定した日付および時刻またはその前のジャーナル項目の終了日および時刻が、検索の終了点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

検索 (SEARCH)

項目を検索するためにジャーナル項目が検索される順序を指定します。

*ASCEND

ジャーナル項目は、昇順（最も古い項目から最も新しい項目への順）で検索されます。

*DESCEND

ジャーナル項目は、降順（最も新しい項目から最も古い項目への順）で検索されます。

トップ

ジャーナル・コード (JRNCDE)

検索の対象とみなされるジャーナル項目のジャーナル・コードを指定します。

単一値

*ALL 項目の検索は、指定したジャーナル・コードに限定されません。

*CTL 検索されるジャーナル項目は、ジャーナル機能を制御するために使用されるものです。ジャーナル・コードはJおよびFです。

要素1: ジャーナル・コード値

ジャーナル・コード

ジャーナル項目を限定するジャーナル・コードを指定してください。指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目だけが検索されます。

指定できるジャーナル・コードの説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報にあります。

要素2: ジャーナル・コードの選択

***ALLSLT**

その他のすべての選択パラメーターが満足されている場合に限り、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が検索されます。

***IGNFILSLT**

指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が検索されるのは、FILEパラメーターを除くすべての選択パラメーターが満たされた場合だけです。

注: この値はジャーナル・コードD, F,およびRの場合には無効です。この値は、OBJ, OBJPATH,またはOBJFIDパラメーターが指定されている場合には無効です。

***IGNOBJSLT**

指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が検索されるのは、OBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE,およびPATTERNを除くすべての選択パラメーターが満たされた場合だけです。

注: この値はジャーナル・コードB, D, E, F, Q,およびRの場合には無効です。この値は、FILEパラメーターが指定されている場合には無効です。

トップ

ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)

検索するジャーナル項目を、指定したジャーナル項目のタイプに限定するかどうかを指定します。

単一値

***ALL** 項目の検索は特定の項目タイプに限定されません。

***RCD** レコード・レベル操作の項目タイプを持つ項目だけが検索されます。有効な項目タイプはBR, DL, DR, IL, PT, PX, UB, UP,およびURです。

その他の値

項目タイプ

項目の検索を限定する項目タイプを指定してください。指定された項目タイプが入っているジャーナル項目だけが検索の対象とみなされます。最大300の有効な項目タイプを指定できます。項目タイプの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報にあります。

トップ

ジョブ名 (JOB)

検索のために検索するジャーナル項目を、指定したジョブのジャーナル項目に限定するように指定します。

単一値

***ALL** 検索は、指定したジョブの項目に限定されません。

* 検索は現行ジョブの項目に限定されます。

その他の値

ジョブID

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

検索されるジャーナル項目を、指定したプログラムによって作成されたジャーナル項目に限定するように指定します。

***ALL** 検索は、指定したプログラムの項目に限定されません。

プログラム名

ジャーナル項目が検索の対象とみなされるプログラム名を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

検索の対象とみなされるジャーナル項目は指定されたユーザー・プロファイルのジャーナル項目に限定されることを指定します。

***ALL** ジャーナル項目の検索は、指定したユーザー・プロファイルの項目に限定されません。

ユーザー・プロファイル名

ジャーナル項目が検索の対象とみなされるユーザー・プロファイル名を指定します。

[トップ](#)

大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)

検索されるジャーナル項目を、指定したコミット・サイクルIDが入っているジャーナル項目に限定するように指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクルIDを共用するすべてのジャーナル項目から構成されます。ジャーナル項目のコミット・サイクルIDは、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用し、オプション5を入力することによって表示することができます。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** 検索は、指定したコミット・サイクルIDの項目に限定されません。

コミット・サイクルID

検索されるジャーナル項目のコミット・サイクルIDを指定してください。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

トップ

従属項目 (DEPENT)

次のジャーナル項目記録処置を検索するかどうかを指定します

- トリガー・プログラムの結果として行われる
- 参照制約の一部であるレコード上
- ジャーナル処理済み変更適用(APYJRNCHG)またはジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)の操作中に無視

***ALL** トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目を検索します。

***NONE**

トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目を検索しません。

トップ

入力様式 (ENTFMT)

検索されるジャーナル項目の形式を指定します。ジャーナル項目のそれぞれのフィールドが何を表すかについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

検索されるジャーナル項目の形式に関する明細情報を示すリストは、RTNJRNEパラメーターの説明の中にあります。

注: ENTFMT(*TYPE1)またはENTFMT(*TYPE2)が指定されていない場合には、NULLINDLENパラメーターを指定しなければなりません。

注: ジャーナルの **レシーバー・サイズ・オプション**フィールド(RCVSIZOPT)が*MAXOPT3として指定されていた場合には、順序番号、コミット・サイクルID、適用または除去された項目のカウント、あるいは相対レコード番号フィールドが、18,446,744,073,709,551,600の最大値に達する可能性があります。

ENTFMT(*TYPE1), ENTFMT(*TYPE2), ENTFMT(*TYPE3), および ENTFMT(*TYPE4) 形式のこれらのフィールドの長さは、10桁の数字を保持するように定義されます。この最大値を保持できるだけの十分な大きさのフィールドがあるのは*TYPE5形式だけです。*TYPE5以外の形式でこれらのフィールドが戻された時に、10桁より大きい順序番号、コミット・サイクルID、適用または除外された項目のカウント、あるいは相対レコード番号が見つかった場合には、その項目に対してフィールドは-1に設定されます。

***TYPE1**

検索されるジャーナル項目は、指定可能な最少の情報が入るように形式設定されます。

***TYPE2**

検索されるジャーナル項目に、ENTFMT(*TYPE1)が指定された時に戻される情報およびユーザー・プロファイル・フィールドが含まれます。これは、検索されるジャーナル項目を記録したユーザーの名前、および項目を送信したシステムの名前を示します。

*TYPE3

検索されるジャーナル項目にENTFMT(*TYPE2)が指定された時に戻される情報およびヌル値標識が含まれます。

*TYPE4

検索されたジャーナル項目には、ENTFMT(*TYPE3)が指定された時に戻される情報、ジャーナルID、物理ファイル・トリガー標識、および参照制約標識が含まれます。

*TYPE5

検索されるジャーナル項目には、プログラム・ライブラリー名、プログラム・ライブラリーASP装置名、プログラム・ライブラリーASP番号、システム・シーケンス番号、論理作業単位、トランザクションID、スレッドID、リモート・アドレス、アドレス・ファミリー、リモート・ポート、アーム番号、レシーバー名、レシーバー・ライブラリー名、レシーバー・ライブラリーASP装置レシーバー・ライブラリーASP装置名、およびレシーバー・ライブラリーASP番号のほかに、OUTFILFMT(*TYPE4)が指定された時に戻される情報が含まれます。

トップ

最小化データの形式設定 (FMTMINDTA)

フィールド境界で最小化されている項目特有のデータを読み取り可能な形式で戻すかどうかを指定します。

***NO** フィールド境界で最小化されている項目特有のデータを持つジャーナル項目は、読み取り可能な形式で戻されません。したがって、この項目特有のデータは表示されません。

***YES** フィールド境界で最小化されている項目特有のデータを持つジャーナル項目は、読み取り可能な形式で戻されます。したがって、この項目特有のデータは表示可能で、監査目的に使用することができます。変更されたフィールドは正確に反映されています。変更されず、記録されなかったフィールドには、省略時のデータが表示され、ヌル値標識フィールドに'F0'Xの値で示されています。

トップ

ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)

検索される項目のヌル値標識部分に使用される長さを指定してください。このパラメーターは、ENTFMT(*TYPE1)またはENTFMT(*TYPE2)が指定されている場合には無効です。有効な値の範囲は1から8000バイトです。検索されるジャーナル項目に、指定されたフィールド長より小さいヌル値標識がある場合には、ヌル値標識フィールドの後書きバイトは'F0'Xに設定されます。

以下のように、ヌル値標識がレコード・レベル操作のジャーナル項目に表示されます。

1. 対応する物理ファイルにはヌル値可能フィールドがあります。
2. レコード・イメージは、項目特定データで最小化されています。

レコード・イメージが項目特定データで最小化されていない場合には、物理ファイル中の各フィールドごとに1つのヌル値標識が入っています。各標識の長さは1桁で、次のいずれかとすることができます。

- 'F0'X =対応するフィールドはヌル値ではありません。
- 'F1'X =対応するフィールドはヌル値です。

レコード・イメージが項目特有のデータのフィールド境界で最小化されていて、RCVJRNEコマンドでFMTMINDTA(*YES)が指定されている場合には、物理ファイル内のフィールドごとに1つのヌル値標識が入っています。各標識の長さは1桁で、次のいずれかとすることができます。

- 'F0'X =対応するフィールドはヌル値ではありません。
- 'F1'X =対応するフィールドはヌル値です。
- 'F9'X =対応するフィールドは変更されず、そのフィールドの省略時値が戻されます。

レコード・イメージが項目特有のデータのファイル・フィールド境界で最小化されていて、RTVJRNEコマンドでFMTMINDTA(*NO)が指定されている場合には、ヌル値標識に内部値が戻されます。

トップ

項目の組み込み (INCENT)

確認済みのジャーナル項目だけを検索するか、あるいは確認済みと未確認の両方のジャーナル項目を出力用に変換するかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、リモート・ジャーナルからのジャーナル項目を出力用に変換する場合だけです。

確認済みの項目とは、このリモート・ジャーナルに送られていて、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっているジャーナル項目のことです。

未確認の項目とは、このリモート・ジャーナルに送られているが、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっていないジャーナル項目、あるいはこれらのジャーナル項目のオブジェクト名情報がまだリモート・ジャーナルにわかっていない項目のことです。未確認のジャーナル項目が存在できるのは、リモート・ジャーナルの接続されたレシーバー内だけです。これが適用されるのは、特定のリモート・ジャーナルに対して同期転送モードが使用されている場合だけです。

***CONFIRMED**

確認済みのジャーナル項目だけを検索します。

***ALL** 確認済みおよび未確認のジャーナル項目をすべて検索します。

トップ

開始順序番号 (FROMENT)

検索の対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***FIRST**

指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目が、検索対象とみなされる最初の項目です。SEARCH(*DESCEND)が指定されている場合に、FROMENT(*FIRST)が有効なのは、TOENTLRG(*FIRST)またはTOENT(*FIRST)も指定されている場合だけです。

***LAST**

指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目が、検索対象とみなされる最初の項目です。SEARCH(*ASCEND)が指定されている場合に、FROMENT(*LAST)が有効なのは、TOENTLRG(*LAST)またはTOENT(*LAST)も指定されている場合だけです。

開始順序番号

割り当てられた順序番号を持つジャーナル項目が、検索の対象とみなされる最初の項目です。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

終了順序番号 (TOENT)

検索の対象とみなされる最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LAST

検索は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目が処理されるまで続行されます。SEARCH(*DESCEND)が指定されている場合に、TOENT(*LAST)が有効なのは、FROMENTLRG(*LAST)またはFROMENT(*LAST)も指定されている場合だけです。

*FIRST

検索は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目が処理されるまで続行されます。SEARCH(*ASCEND)が指定されている場合に、TOENT(*FIRST)が有効なのは、FROMENTLRG(*LAST)またはFROMENT(*FIRST)も指定されている場合だけです。

終了順序番号

検索の対象とみなされる最終ジャーナル項目の順序番号を指定します。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

注: FROMENTおよびTOENTパラメーターに指定する値は同じにすることができます。たとえば、FROMENT(234)およびTOENT(234)を指定することができます。

[トップ](#)

コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)

検索されるジャーナル項目を、指定したコミット・サイクルIDが入っているジャーナル項目に限定するように指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクルIDを共用するすべてのジャーナル項目から構成されます。ジャーナル項目のコミット・サイクルIDは、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用し、オプション5を入力することによって表示することができます。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

*ALL 検索は、指定したコミット・サイクルIDの項目に限定されません。

コミット・サイクルID

検索されるジャーナル項目のコミット・サイクルIDを指定してください。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

RTNSEQLRGのCL変数 (20) (RTNSEQLRG)

検索されたジャーナル項目のジャーナル項目順序番号がコピーされるプログラムのCL文字変数の名前を指定します。CL変数名を指定しない場合には、ジャーナル項目の順序番号がプログラムにコピーされません。指定される変数は、20桁の長さを持つ文字変数でなければなりません。検索された順序番号がこのフィールドの長さより短い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

RTNJRNCADEのCL変数 (1) (RTNJRNCADE)

検索されたジャーナル項目のジャーナル・コードがコピーされるプログラムのCL文字変数名を指定します。CL変数名を指定しない場合には、検索されたジャーナル項目のジャーナル・コードがプログラムにコピーされません。指定する変数は、少なくとも1文字の長さの文字変数でなければなりません。変数の長さが1文字より長い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

RTNENTTYPのCL変数 (2) (RTNENTTYP)

検索されたジャーナル項目の項目タイプがコピーされるプログラムのCL文字変数名を指定します。CL変数名を指定しない場合には、検索されたジャーナル項目の項目タイプがプログラムにコピーされません。指定する変数は、少なくとも2文字の長さの文字変数でなければなりません。変数の長さが2文字より長い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

RTNRCVのCL変数 (10) (RTNRCV)

戻されたジャーナル項目が検索されたジャーナル・レシーバー名がコピーされるプログラムCL文字変数名を指定します。CL変数名を指定しない場合には、ジャーナル・レシーバー名がプログラムにコピーされません。指定する変数は、少なくとも10文字の長さの文字変数でなければなりません。変数の長さが10文字より長い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

RTNRCVLIBのCL変数 (10) (RTNRCVLIB)

検索されたジャーナル項目のレシーバーが入っているライブラリーの名前がコピーされるCL文字変数の名前を指定します。CL変数名を指定しない場合には、ジャーナル・レシーバーのライブラリー名がプログラムにコピーされません。指定する変数は、少なくとも10文字の長さの文字変数でなければなりません。変数の長さが10文字より長い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

RTNJRNEのCL変数 (1) (RTNJRNE)

検索されたジャーナル項目がコピーされるプログラムのCL文字変数の名前を指定します。CL変数名を指定しない場合には、検索されたジャーナル項目がプログラムにコピーされません。指定する変数は、文字変数でなければなりません。検索されたジャーナル項目が変数のフィールド長より長い場合には、項目が切り捨てられます。項目が短い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

以下のリストは、検索されたジャーナル項目の形式に関する明細情報を示しています。

ジャーナル項目は、使用可能な次の形式の1つで検索することができます。

ENTFMT(*TYPE1)が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目のフィールドの形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号(1)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
日付	TYPE(*CHAR) LEN(6)
時刻	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN (2)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID (3)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
未完了データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
最小化された項目データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
予約済み	TYPE(*CHAR) LEN(6)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) LEN (最大32642)

注：
(1) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
(2) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
(3) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

ENTFMT(*TYPE2)が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目のフィールドの形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
-----	-----
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号(1)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
日付	TYPE(*CHAR) LEN(6)
時刻	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN (2)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID (3)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ユーザー・プロファイル	TYPE(*CHAR) LEN(10)
システム名	TYPE(*CHAR) LEN(8)
未完了データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
最小化された項目データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
予約済み	TYPE(*CHAR) LEN(18)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) LEN (最大32612)
注:	
	(1)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
	(2)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
	(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

注: ENTFMT(*TYPE3)が指定されている場合には、この形式では以下の情報は使用できません。

- LOBフィールドまたはバイト・ストリーム・ファイル操作のために、ジャーナル項目データが未完であるかどうかを示す未完了データ。
- ジャーナル項目に最小化された項目特定データがあるかどうかを示す最小化項目。これは、ジャーナルではジャーナル項目のオブジェクト・タイプにMINENTDTAが指定されているためです。

未完了データ標識、最小化された項目特定データ標識、およびこれらのジャーナル項目に関する詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

ENTFMT(*TYPE3)が指定され、NULLINDLENパラメーターに値が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目の形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
-----	-----
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号(3)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
タイム・スタンプ	TYPE(*TIMESTAMP) LEN(26)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN (4)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID (5)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ユーザー・プロファイル	TYPE(*CHAR) LEN(10)
システム名	TYPE(*CHAR) LEN(8)
ヌル値標識	TYPE(*CHAR) フィールド長(1)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) ((最大32618) - (フィールド長)) (2)
注:	
(1) このフィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。	
(2) 項目のこの部分の長さは、RTNJRNEパラメーターに指定された長さとNULLINDLENパラメーターに指定された長さによって異なります。	
(3) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。	
(4) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。	
(5) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。	

ENTFMT(*TYPE4)が指定され、NULLINDLENパラメーターに値が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目の形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
-----	-----
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号(3)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
タイム・スタンプ	TYPE(*TIMESTAMP) LEN(26)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN (4)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID (5)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ユーザー・プロファイル	TYPE(*CHAR) LEN(10)
システム名	TYPE(*CHAR) LEN(8)
ジャーナルID	TYPE(*CHAR) LEN(10)
参照制約	TYPE(*CHAR) LEN(1)
トリガー	TYPE(*CHAR) LEN(1)
未完了データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
APYJRNHGG/RMVJRNCHG	TYPE(*CHAR) LEN(1)
の間は無視	
最小化された項目データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
予約済み	TYPE(*CHAR) LEN(5)
ヌル値標識	TYPE(*CHAR) フィールド長(1)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) ((最大32598) - (フィールド長)) (2)
注:	
(1) このフィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。	
(2) 項目のこの部分の長さは、RTNJRNEパラメーターに指定された長さとNULLINDLENパラメーターに指定された長さによって異なります。	
(3) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。	
(4) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。	
(5) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。	

ENTFMT(*TYPE5)が指定され、NULLINDLENパラメーターに値が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目の形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
-----	-----
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号	TYPE(*CHAR) LEN(20)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
タイム・スタンプ	TYPE(*TIMESTAMP) LEN(26)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
プログラム・ライブラリー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
プログラムASP装置	TYPE(*CHAR) LEN(10)
名プログラムASP番号	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN	TYPE(*CHAR) LEN(20)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID	TYPE(*CHAR) LEN(20)
ユーザー・プロファイル	TYPE(*CHAR) LEN(10)
システム名	TYPE(*CHAR) LEN(8)
ジャーナルID	TYPE(*CHAR) LEN(10)
参照制約	TYPE(*CHAR) LEN(1)
トリガー	TYPE(*CHAR) LEN(1)
未完了データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
APYJRNGHG/RMVJRNCHG	TYPE(*CHAR) LEN(1)
の間は無視	
最小化された項目データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
オブジェクト標識	TYPE(*CHAR) LEN(1)
システム順序	TYPE(*CHAR) LEN(20)
番号	
レシーバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
レシーバー・ライブラリー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
レシーバーASP装置	TYPE(*CHAR) LEN(10)
名レシーバーASP番号	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
アーム番号	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
スレッドID	TYPE(*CHAR) LEN(8)
スレッドID 16進	TYPE(*CHAR) LEN(16)
アドレス・ファミリー	TYPE(*CHAR) LEN(1)
リモート・ポート	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
リモート・アドレス	TYPE(*CHAR) LEN(46)
作業論理単位	TYPE(*CHAR) LEN(39)
トランザクションID	TYPE(*CHAR) LEN(140)
オブジェクト・タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(7)
ファイル・タイプ標識	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ネストされたコミット・レベル	TYPE(*DEC) LEN(7 0)
予約済み	TYPE(*CHAR) LEN(5)
ヌル値標識	TYPE(*CHAR) フィールド長(1)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) ((最大32212)
	- (フィールド長)) (2)
注：	
(1)このフィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。	
(2)項目のこの部分の長さは、RTNJRNEパラメーターに指定された長さでNULLINDLENパラメーターに指定された長さによって異なります。	

トップ

RTNSEQNBRのCL変数 (10 0) (RTNSEQNBR)

検索されたジャーナル項目のジャーナル項目順序番号がコピーされるプログラムのCL 10進変数の名前を指定します。CL変数名を指定しない場合には、ジャーナル項目の順序番号がプログラムにコピーされません。指定する変数は、小数部のない10桁の長さの10進変数でなければなりません。順序番号が9,999,999,999より大きい場合には、この値は-1に設定され、左寄せされて、右側にはブランクが埋め込まれます。9,999,999,999より大きい値を検索するには、**RTNSEQLRGのCL変数 (20) (RTNSEQLRG)**パラメーターを使用してください。

トップ

例

例1

次の変数が指定されているものとします:

```
DCL &SEQ      TYPE(*DEC)  LEN(10 0)
DCL &JRNENT   TYPE(*CHAR) LEN(200)
DCL &RCVNAME  TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &RCVLIB   TYPE(*CHAR) LEN(10)
```

そして、次のコマンドが実行されます:

```
RTVJRNE  JRN(MYLIB/JRNA)  ENTYP(PR)  +
          RTNSEQNBR(&SEQ)  RTNJRNE(&JRNENT)
```

このコマンドには開始ジャーナル項目が指定されていないので、項目の検索の開始時点でライブラリーMYLIBのジャーナルJRNAに接続されていたジャーナル・レシーバーからの最初の項目が、検索対象とみなされます。どのレシーバーの最初の項目も、常に前に接続されていたレシーバーのIDです。この最初のレシーバー項目は、タイプPR項目として知られており、その項目特定データには、前に接続されていたレシーバーの名前が入っています。PR項目は、現在接続されているレシーバー内の昇順での最初の項目であり、見つかった場合には、この項目が&JRNENTという名前のCL変数に入れられます。

次に、変数変更(CHGVAR)を以下のように使用し、項目特定データで見つかった前のジャーナル・レシーバーの名前とライブラリーを分離することができます:

```
CHGVAR  &RCVNAME  (%SST(&JRNENT 126 10))
CHGVAR  &RCVLIB   (%SST(&JRNENT 136 10))
```

例2

次の変数が指定されているものとします:

```
DCL &ENTNO     TYPE(*DEC)  LEN(10 0)
DCL &JCODE     TYPE(*CHAR) LEN(1)
DCL &ETYP      TYPE(*CHAR) LEN(2)
DCL &RCVNAME   TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &RCVLIB    TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &JENTRY    TYPE(*CHAR) LEN(205)
```

そして、次のコマンドが実行されます:

```
RTVJRNE  JRN(MYLIB/JRNLA)  OBJ(LIB1/A *FILE MBR3)  +
          RCVRNG(RCVLIB/RCV30 RCVLIB/RCV27)  ORDER(*DESCEND)  +
          JRNCDE(R)  ENTYP(UP DL)  JOB(000666/QPGMR/PRESTRT)  +
```

```
PGM(WAKEUP)  USRPRF(MAC7)  ENTFMT(*TYPE2)  +
RTNSEQNBR(&ENTNO)  RTNJRNCD(&JCODE)  +
RTNENTTYP(&ETYP)  RTNRCV(&RCVNAME)  +
RTNRCVLIB(&RCVLIB)  RTNJRNE(&JENTRY)
```

このコマンドは、ライブラリーRCVLIBのレシーバーRCV30からライブラリーMYLIBのジャーナルJRNLAを通じてジャーナル処理されたライブラリーRCVLIBのレシーバーRCV27までのジャーナル・レシーバー連鎖を降順に検索して、ジャーナル項目を入手し、その項目を指定されたCL変数にコピーします。検索される項目は、ユーザー・プロファイルMAC7によってプログラムWAKEUPのジョブ000666/QPGMR/PRESTRTにより作成された、ライブラリーLIB1のファイルAのメンバーMBR3からのジャーナル・コードRを持つUPDATEまたはDELETE項目です。検索されたジャーナル項目にはユーザー・プロファイル・フィールドが含まれます。検索された項目の順序番号は、CL変数&ENTNOにコピーされます。検索された項目のジャーナル・コードは、CL変数&JCODEにコピーされます。検索された項目の項目タイプは、CL変数&ETYPにコピーされます。戻された項目が検索されたジャーナル・レシーバーの名前は、&RCVNAMEにコピーされます。戻された項目が検索されたジャーナル・レシーバーのライブラリー名は、&RCVLIBにコピーされます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF705C

INCENT(*ALL)はローカル・ジャーナルに使用できない。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF7055

最大オブジェクト数を超えた。

CPF7057

*LIBLとFILE(*ALL)またはOBJ(*ALL)と一緒に指定することはできない。

CPF7060

オブジェクトが見つからず、指定されたレシーバー範囲でジャーナル処理されませんでした。

CPF7061

ジャーナル処理された項目の変換が正常に行なわれなかった。

CPF7062

ジャーナル&1から項目が変換されなかったか、または受け取られなかった。

CPF7065

ジャーナル・コード(JRNCDE)に項目タイプ(ENTTYP)は正しくない。

CPF7072

ジャーナル項目の検索が正常に実行されなかった。

CPF7073

&2のジャーナル&1から検索された項目がない。

CPF7074

指定したSEARCHに対してRCVRNGが正しくない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF709C

JOB, PGM,およびUSRPRFはレシーバー範囲に正しくない。

CPF70A9

OBJPATHパラメーターはリモート・ジャーナルには無効です。

CPF70AC

ファイルID &1が見つかりませんでした。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

ライブラリー記述の検索 (RTVLIBD)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー記述検索(RTVLIBD)コマンドは、ライブラリーの記述を検索します。値は、プログラムの指定した変数に戻され（コピーされ）ます。

このコマンドによってCL変数に戻されるパラメーターの場合、パラメーターの記述タイトルまたはプロンプト・テキスト（あるいはその両方）にはCL変数の最小の長さガリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小桁数を示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

1. ライブラリーの属性を検索するには、ライブラリーに対する*EXCLUDE権限以外の何らかの権限が必要です。
2. オブジェクト監査値の作成で*NOTAVL以外の値を検索するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限のいずれかが必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
TYPE	TYPEのCL変数 (10)	文字値	オプション
ASP	ASPのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
ASPDEV	ASPDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
ASPGRP	ASPGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
CRTAUT	CRTAUTのCL変数 (10)	文字値	オプション
CRTOBJAUD	CRTOBJAUDのCL変数 (10)	文字値	オプション
TEXT	TEXTのCL変数 (50)	文字値	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

属性が検索されるライブラリーを指定します。変数を指定する場合には、長さが10文字でライブラリー名が入っていないければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 属性が検索されるライブラリーの名前を指定してください。

TYPEのCL変数 (10) (TYPE)

ライブラリー・タイプを戻すために使用される10文字の変数を指定します。値PRODまたは値TESTが戻されます。

トップ

ASPのCL変数 (2 0) (ASP)

システムがライブラリー用に割り振る記憶域を取り出す補助記憶域プール(ASP)の番号を戻すために使用される10進数(2 0)の変数の名前を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

1 ライブラリーはシステム補助記憶域プールに入っています。

2から32

ライブラリーはユーザー補助記憶域プールに入っています。

-1 ライブラリーは、32より大きいASP番号を持つ1次または2次補助記憶域プール(ASP)に入っています。この1次または2次ASPのASP装置名はASPDEVパラメーターを使って検索することができます。

トップ

ASPDEVのCL変数 (10) (ASPDEV)

ライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。戻される可能性のある特殊値は次のいずれかです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

トップ

ASPGRPのCL変数 (10) (ASPGRP)

ライブラリーの記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される可能性のある特殊値は次のいずれかです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

トップ

CRTAUTのCL変数 (10) (CRTAUT)

ライブラリーの作成権限値を戻すために使用される10文字の変数を指定します。値*SYSVAL, *CHANGE, *ALL, *USE,または*EXCLUDE, あるいは権限リストの名前が戻されます。

[トップ](#)

CRTOBJAUDのCL変数 (10) (CRTOBJAUD)

ライブラリーの監査値を戻すために使用される10文字の変数を指定します。全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限のいずれかがない場合は, *NOTAVLの値が戻されます。戻される可能性のある値には*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL,および*NOTAVLです。詳細については, ライブラリー作成(CRTLIB)コマンドのオブジェクト監査の作成(CRTOBJAUD)パラメーターを参照してください。

[トップ](#)

TEXTのCL変数 (50) (TEXT)

ライブラリーのテキスト記述を戻すために使用される50文字のCL変数を指定します。

[トップ](#)

例

TESTLIBという名前のライブラリーが次のように作成されていたとします。

```
CRTLIB LIB(TESTLIB) CRTAUT(*ALL) TEXT('JOHN SMITH LIBRARY')
```

PGMの例

```
DCL VAR(&CRTAUT) TYPE(*CHAR) LEN(10)
RTVLIBD LIB(TESTLIB) CRTAUT(&CRTAUT)
```

RTVLIBDコマンドは, 値 '*ALL ' をプログラム変数&CRTAUTに戻します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF210E

ライブラリー&1が使用できません。

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF980B

ライブラリー&2のオブジェクト&1を使用できない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

メンバー記述の検索 (RTVMBRD)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メンバー記述検索(RTVMBRD)コマンドはCLプログラムまたはREXXプロシージャー中で使用され、データベース・ファイルから(CL変数中の)メンバー・レベル情報を検索します(戻します)。

指定したCL変数に値が戻されます(複写されます)。次の種類のメンバー情報を検索することができます。

- ライブラリー名
- メンバー名
- ファイル属性
- ファイル・タイプ
- ソース・タイプ
- ソース日付
- 作成日付
- 満了日
- メンバー・テキスト
- 未削除レコードの数
- 削除済みレコードの数
- オープン・データ・パスの状況(共用または非共用)
- データ・スペース・サイズ
- アクセス・パス・サイズ
- 変更日付
- 保管日付
- 復元日付
- データ・メンバーの数
- 最終使用日付
- カウント使用日数
- カウントがリセットされた日付および日数

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	単一値: *FIRST, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 参照メンバー	総称名, 名前, *FIRSTMBR, *LASTMBR	
	要素 2: 関係	*SAME, *NEXT, *PRV	
RTNSYSTEM	RTNSYSTEMのCL変数 (4)	文字値	オプション
RTNLIB	RTNLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
RTNMBR	RTNMBRのCL変数 (10)	文字値	オプション
FILEATR	FILEATRのCL変数 (3)	文字値	オプション
FILETYPE	FILETYPEのCL変数 (5)	文字値	オプション
SRCTYPE	SRCTYPEのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCCHGDATE	SRCCHGDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
CRTDATE	CRTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
EXPDATE	EXPDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
TEXT	TEXTのCL変数 (50)	文字値	オプション
NBRCURRCD	NBRCURRCDのCL変数(10 0)	10 進数	オプション
NBRDLTRCD	NBRDLTRCDのCL変数(10 0)	10 進数	オプション
SHARE	SHAREのCL変数 (4)	文字値	オプション
DTASPCSI	DTASPCSIのCL変数(15 0)	無制限	オプション
ACCPHSIZ	ACCPHSIZのCL変数(12 0)	無制限	オプション
CHGDATE	CHGDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
SAVDATE	SAVDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
RSTDATE	RSTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
NBRDTAMBR	NBRDTAMBRのCL変数(2 0)	10 進数	オプション
USEDATE	USEDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
USECOUNT	USECOUNTのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
RESETDATE	RESETDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション

トップ

ファイル (FILE)

検索されるメンバー記述が入っているファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: メンバー記述情報を検索するためには、ファイルに対する*USE権限およびライブラリーに対する*READ権限が必要です。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリー名を指定してください。

トップ

メンバー (MBR)

その記述が検索されるファイル・メンバーを指定します。単一値(*FIRSTまたは*LAST)あるいは2重値(参照メンバーおよび関係)のいずれかを指定することができます。

可能な単一値は次の通りです。

***FIRST**

日付順のリストの最初のメンバーが検索されます。

***LAST**

日付順のリストの最後のメンバーが検索されます。

2重値における参照メンバーとして指定できる値は次の通りです。

***FIRSTMBR**

名前順のリストの最初のメンバーが検索されます。関係値*SAMEが必要です。

***LASTMBR**

名前順のリストの最後のメンバーが検索されます。関係値*SAMEが必要です。

メンバー名

参照メンバーの名前を指定してください。検索されるメンバーと参照メンバーとの関係は、このパラメーターの2番目の要素に指定します(*SAME, *NEXT,または*PRV)。変数を指定する場合には、参照メンバーの名前が入っている10文字のフィールドでなければなりません。

総称*メンバー名

メンバー名の最初の文字をその後にアスタリスクを付けて指定してください。これにより、指定された文字で始まる名前順リスト中の最初のメンバーが検索されます。関係値を*SAMEとする必要があります。

2重値における関係として指定できる値は次の通りです。

***SAME**

参照メンバーが検索されます。

***NEXT**

名前順のリストで参照メンバーの直後のメンバーが検索されます。

***PRV** 名前順リストの中の参照メンバーの直前のメンバーが検索されます。

トップ

RTNSYSTEMのCL変数 (4) (RTNSYSTEM)

検索されたファイルからシステムの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは4桁の文字変数でなければなりません。

戻されることのある値は、*LCL (ファイルがローカル・システムで見つかった) および*RMT (ファイルがリモート・システムで見つかった) です。

RTNLIBのCL変数 (10) (RTNLIB)

指定されたファイル・メンバーを含むファイルの中から見つけるライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

RTNMBRのCL変数 (10) (RTNMBR)

その記述を検索しているファイル・メンバーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

FILEATRのCL変数 (3) (FILEATR)

ファイル属性を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムにおいて、これは3桁の文字変数でなければなりません。

戻されることのある値は、*PF（物理ファイル・メンバー）および*LF（論理ファイル・メンバー）です。

トップ

FILETYPEのCL変数 (5) (FILETYPE)

ファイル・タイプを検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムにおいて、これは5文字の文字変数でなければなりません。

戻される値は、*DATA（データ・ファイル・メンバー）および*SRC（ソース・ファイル・メンバー）です。

トップ

SRCTYPEのCL変数 (10) (SRCTYPE)

これがソース・ファイル・メンバーの場合に、ソース・ファイル・メンバーを検索するために使用される変数の名前を指定します。これがソース・ファイル・メンバーでない場合には、空白が戻されます。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

SRCCHGDATEのCL変数 (13) (SRCCHGDATE)

最後のソース・ファイル・メンバーが変更された世紀、日付、および時刻を検索するために使用される13桁のCL変数の名前を指定します。形式はCYYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

使用可能な日付がない場合には、ブランクが戻されます。リモートの非AS/400および非システム/38ファイル、あるいは非ソース物理ファイルはブランクを戻します。

[トップ](#)

CRTDATEのCL変数 (13) (CRTDATE)

ファイル・メンバー作成の世紀、日付、および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは13桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

[トップ](#)

EXPDATEのCL変数 (7) (EXPDATE)

ファイル・メンバー満了の世紀および日付を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは7桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日です。

使用可能な日付がない場合には、*NONEが戻されます。

[トップ](#)

TEXTのCL変数 (50) (TEXT)

ファイル・メンバー・テキストを検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは50文字の変数でなければなりません。

[トップ](#)

NBRCURRCDのCL変数(10 0) (NBRCURRCD)

このファイル・メンバー内の非削除レコードの現在数を検索するために使用する変数の名前を指定します。CLプログラムでは、10桁の10進変数とする必要があります。

このメンバーがキー付き論理メンバーである場合には、索引項目の数が戻されます。キー付きでない論理メンバーの場合には、基礎になっている物理ファイル・メンバー内の非削除レコード数が戻されます。

結合論理ファイルでは、戻されたレコード数は、結合している非削除レコードのすべての合計です。この数値には、1次ファイルのレコードと一致しないレコードで、2次ファイル中にあるレコードも含まれます。除外または選択基準を使用した場合には、戻されるレコード数は、指定されたファイルでその選択基準を満たしているレコードの数だけ増減します。

NBRDLTRCDのCL変数(10 0) (NBRDLTRCD)

このファイル・メンバー内の削除済みレコード数の現在数を検索するために使用する変数の名前を指定します。CLプログラムでは、10桁の10進変数とする必要があります。キー付き論理ファイルの場合は、ゼロ(0)が戻されます。リモート非AS/400 および非S/38ファイルは値0を戻します。キー付きでない論理メンバーの場合には、基礎になっている物理ファイル・メンバー内の削除済みレコード数が戻されます。

トップ

SHAREのCL変数 (4) (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じジョブで他のプログラムとの共用を可能にするかどうかを指示する値を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは4桁の文字変数でなければなりません。

ODPの共用を示す値は、*YES (ODPの共用が許される) および*NO (ODPの共用は許されない) です。

AS/400でもシステム/38でもないリモート・ファイルの場合には、*NOが戻されます。

トップ

DTASPCSIZのCL変数(15 0) (DTASPCSIZ)

このファイル・メンバーのデータ・スペース・サイズ (バイト数) を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは15桁の10進変数でなければなりません。これが論理ファイル・メンバーの場合には、ゼロ(0)が戻されます。

トップ

ACCPHSIZのCL変数(12 0) (ACCPHSIZ)

このファイル・メンバーのアクセス・パス・サイズ (バイト数) を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは12桁の10進変数でなければなりません。ファイル・メンバーがキー付きでない場合には、ゼロ(0)が戻されます。リモート非AS/400 および非S/38ファイルは値0を戻します。

トップ

CHGDATEのCL変数 (13) (CHGDATE)

ファイル変更の世紀、日付、および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは13桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

SAVDATEのCL変数 (13) (SAVDATE)

ファイル・メンバーとその保管の世紀、日付、および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは13桁の変数でなければなりません。形式はCYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

使用可能な日付がない場合には、空白が戻されます。リモートの非AS/400および非システム/38ファイルは空白を戻します。

トップ

RSTDATEのCL変数 (13) (RSTDATE)

ファイル・メンバーとその復元の世紀、日付、および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは13桁の変数でなければなりません。形式はCYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

使用可能な日付がない場合には、空白が戻されます。リモートの非AS/400および非システム/38ファイルは空白を戻します。

トップ

NBRDTAMBRsのCL変数(2 0) (NBRDTAMBRs)

この論理ファイル・メンバーのデータ・ファイル・メンバーの数を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムにおいて、これは2桁の10進変数でなければなりません。これが物理ファイル・メンバーの場合には、値0が戻されます。

トップ

USEDATEのCL変数 (7) (USEDATE)

メンバーが最後に使用した世紀および日付を戻すために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは7桁の変数でなければなりません。形式はCYMMDDであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日です。

トップ

USECOUNTのCL変数 (5 0) (USECOUNT)

メンバーが使用された日数を戻すために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムにおいて、これは5桁の10進変数でなければなりません。メンバーに最終使用日付がない場合には、0が戻されます。

RESETDATEのCL変数 (7) (RESETDATE)

使用日数カウントが最後に0にリセットされた世紀および日付を戻すために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは7桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDであり、ここでC = 世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日です。使用日数カウントがリセットされていない場合には、空白が戻されます。

トップ

例

ユーザーには、ライブラリーMYLIB（現行ライブラリー）の中にメンバーQMEMBER, BMEMBER, ZMEMBER,およびJMEMBER（この順序で作成されます）を持つMYFILEという名前のファイルがあるものとします。

また、次の変数がCLプログラムに指定されているものとします:

```
DCL &LIB          TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &MBR          TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &SYS          TYPE(*CHAR) LEN(4)
DCL &MTYPE        TYPE(*CHAR) LEN(5)
DCL &CRTDATE      TYPE(*CHAR) LEN(13)
DCL &CHGDATE      TYPE(*CHAR) LEN(13)
DCL &TEXT         TYPE(*CHAR) LEN(50)
DCL &NBRRCD       TYPE(*DEC) LEN(10 0)
DCL &SIZE         TYPE(*DEC) LEN(10 0)
```

例1:メンバー記述値の検索

```
RTVMBRD FILE(*CURLIB/MYFILE) MBR(BMEMBER *SAME) +
        RTNLIB(&LIB) RTNSYSTEM(&SYS) +
        RTNMBR(&MBR) FILEATR(&MTYPE) +
        CRTDATE(&CRTDATE) TEXT(&TEXT) +
        NBRCURCD(&NBRRCD) DTASPCSIZ(&SIZE)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストを使用して見つけられたファイルMYFILEのメンバーBMEMBERのメンバー記述を検索します。要求された情報は、次のようにCL変数に入れられます:

- 現行ライブラリー名(MYLIB)は&LIBという名前のCL変数に入れられます。
- MYFILEが見つかったシステムは&SYSという名前のCL変数に入れられます。(*LCLはファイルがローカル・システムで見つかったことを意味し, *RMTはファイルがリモート・システムで見つかったことを意味します。)
- メンバー名(BMEMBER)は&MBRという名前のCL変数に入れられます。
- MYFILEのファイル属性は&MTYPEという名前のCL変数に入れられます。(*DATAはメンバーがデータ・メンバーであることを意味し, *SRCはファイルがソース・ファイルであることを意味します。)
- BMEMBERの作成日は&CRTDATEという名前のCL変数に入れられます。
- BMEMBERと関連したテキストは&TEXTと呼ばれるCL変数に入れられます。
- BMEMBER内の現在のレコードの数は&NBRRCDと呼ばれるCL変数に入れられます。
- BMEMBERのデータ・スペースのサイズ (バイト数) は&SIZEと呼ばれるCL変数に入れられます。

例1:次のメンバー記述の検索

```
RTVMBRD FILE(&LIB/MYFILE) MBR(&MBR *NEXT) +
RTNMBR(&MBR) CRTDATE(&CRTDATE) +
TEXT(&TEXT) NBRCURCD(&NBRRCD) +
DTASPCSIZ(&SIZE)
```

このコマンドは、ファイルMYFILEの（名前順の）「次の」メンバーのメンバー記述を検索します。要求された情報は、次のようにCL変数に入れます：

- MYFILEのBMEMBERの後のメンバーの名前（ファイルは名前順に検索されるのでJMEMBER）は&MBRという名前のCL変数に入れます。
- JMEMBERの作成日は&CRTDATEという名前のCL変数に入れます。
- JMEMBERと関連したテキストは&TEXTと呼ばれるCL変数に入れます。
- JMEMBER内の現在のレコードの数は&NBRRCDと呼ばれるCL変数に入れます。
- JMEMBERのデータ・スペースのサイズ（バイト数）は&SIZEと呼ばれるCL変数に入れます。

ファイルは逆方向に検索することもできます。例として：

```
RTVMBRD FILE(*CURLIB/MYFILE) MBR(ZMEMBER *PRV) +
RTNMBR(&MBR) CHGDATE(&CHGDATE) TEXT(&TEXT)
```

要求された情報は、次のようにCL変数に入れます：

- メンバー名（名前順のリストのZMEMBER直前のメンバーであるのでQMEMBER）は&MBRという名前のCL変数に入れます。
- QMEMBERが最後に変更された日付は&CHGDATEという名前のCL変数に入れます。
- QMEMBERと関連したテキストは&TEXTと呼ばれるCL変数に入れます。

メンバー名の最初の部分だけが判明している場合には、次のようにメンバーのリストの総称名（または部分名）検索を使用することができます：

```
RTVMBRD FILE(*LIBL/MYFILE) MBR(JM*) RTNMBR(&MBR) +
CHGDATE(&CHGDATE) TEXT(&TEXT)
```

要求された情報は、次のようにCL変数に入れます：

- メンバー名（名前順のリストの文字JMで始まる最初のメンバーであるのでJMEMBER）は&MBRと呼ばれるCL変数に入れます。
- JMEMBERが最後に変更された日付は&CHGDATEという名前のCL変数に入れます。
- JMEMBERと関連したテキストは&TEXTと呼ばれるCL変数に入れます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3018

&2のファイル&1のメンバー&3が使用できない。

CPF3019

ライブラリー&2のファイル&1にはメンバーがない。

CPF3027

&2のファイル&1はデータベース・ファイルではない。

CPF3038

戻り変数&1の属性が正しくない。

CPF3039

戻り変数&1は結果を入れるには小さすぎる。

CPF3049

*NEXTまたは*PRVメンバーが存在していない。

CPF3051

ライブラリー&2のファイル&1を使用することができない。

CPF325F

テキストの変換が正常に実行されなかった。

CPF327B

ファイル&1の情報を検索することができない。

CPF8109

物理データベース・ファイル&4で&8の損傷がある。

CPF8110

&9の論理データベース・ファイル&4に&8の損傷がある。VLOGは&7です。

CPF8111

ファイル&4メンバー&9に&8の損傷がある。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

[トップ](#)

メッセージ検索 (RTVMSG)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
 リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
 スレッド・セーフ: はい

パラメーター
 例
 エラー・メッセージ

メッセージ検索(RTVMSG)コマンドは、指定された事前定義メッセージをメッセージ・ファイルから検索してCL変数にコピーするために、CLコマンドまたはREXXプロシージャの中で使用されます。事前定義メッセージ・テキスト内の置換変数を置き換えるために、置き換え値をMSGDTAパラメーターに(1つ以上の連結されたメッセージ・データ・フィールドを含む単一の文字ストリングとして)指定することができます。プログラムは後から、印刷する出力装置ファイルなどにメッセージを書き込むことができます。

このコマンドのCLプロンプトでは、最小長を持つパラメーターの横に、検索された変数の最小長がリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小桁数を示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:このコマンドのユーザーには、メッセージ・ファイルに対する使用(*USE)権限、およびそのメッセージ・ファイルが入っているライブラリーに対する*USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, 定位置 1
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGDTA	メッセージ・データ・フィールドの値	文字値	オプション
MSG	第1 レベル・テキストのCL変数	文字値	オプション
MSGLEN	MSGLENのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
SECLVL	第2 レベル・テキストのCL変数	文字値	オプション
SECLVLEN	SECLVLENのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
SEV	SEVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
ALROPT	ALROPTのCL変数 (9)	文字値	オプション
LOGPRB	LOGPRBのCL変数 (1)	文字値	オプション
CCSID	CCSIDへの変換	1-65535, *HEX, *JOB	オプション
MDTACCSID	メッセージ・データCCSID	1-65535, *HEX, *JOB	オプション
TXTCCSID	テキスト CCSIDのCL変数(5 0)	10 進数	オプション
DTACCSID	データ CCSIDのCL変数(5 0)	10 進数	オプション

メッセージ識別コード (MSGID)

指定されたメッセージ・ファイルから検索される定義済みメッセージのメッセージIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

検索される事前定義メッセージが入っているメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 検索されるメッセージが入っているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

メッセージ・データ・フィールドの値 (MSGDTA)

事前定義メッセージに置換変数が含まれている場合には、検索されたメッセージで使用される置き換え値を指定します。文字ストリングまたは文字ストリングを含むCL変数を指定することができます。

トップ

第1 レベル・テキストのCL変数 (MSG)

検索されたメッセージのテキストのコピー先プログラムの中のCL文字変数の名前を指定します。CL変数名が指定されていない場合には、メッセージ・テキストはプログラムにコピーされません。これは可変長フィールドですが、ほとんどのメッセージは長さが132文字より短くなるように設計されています。

トップ

MSGLENのCL変数 (5 0) (MSGLEN)

検索可能なメッセージ・テキストの合計長がコピーされるコピー先のプログラムの中のCL 10進変数の名前を指定します。

指定された変数は5桁の長さを持つ10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

第2 レベル・テキストのCL変数 (SECLVL)

検索されたメッセージの第2レベル・メッセージまたはメッセージ・ヘルプがコピーされるコピー先プログラムの中のCL文字変数の名前を指定します。変数名が指定されていない場合には、メッセージ・ヘルプはプログラムにコピーされません。これは可変長フィールドですが、ほとんどのメッセージ・ヘルプは長さが3000文字より短くなるように設計されています。

[トップ](#)

SECLVLLENのCL変数 (5 0) (SECLVLLEN)

検索されるメッセージ・ヘルプの合計長がコピーされるコピー先プログラムの中のCL 10進変数の名前を指定します。

指定された変数は5桁の長さを持つ10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

SEVのCL変数 (2 0) (SEV)

検索されたメッセージの重大度コードのコピー先CL 10進変数の名前を指定します。指定された変数は、2桁の長さを持つ10進変数でなければなりません。変数名が指定されない場合は、検索されたメッセージの重大度コードはプログラムにコピーされません。

[トップ](#)

ALROPTのCL変数 (9) (ALROPT)

検索されたメッセージの警報オプションのコピー先CL変数の名前を指定します。変数は、長さが9桁の文字変数でなければなりません。文字変数が指定されない場合は、検索されたメッセージの警報オプションはプログラムにコピーされません。

[トップ](#)

LOGPRBのCL変数 (1) (LOGPRB)

メッセージを問題ログに記録するかどうかを指定します。変数は1桁の長さの文字変数でなければなりません。

CCSIDへの変換 (CCSID)

メッセージ・テキストを戻したいコード化文字セットID (CCSID)を指定します。これは、MSGおよびSECLVLパラメーターに戻されるテキストにのみ適用されます。置き換えデータがMSGまたはSECLVLパラメーターに戻されたテキストに代入されると、変換可能な文字(*CCHAR)として定義されている置き換えデータの部分のみが変換されます。置き換えデータの残りの部分は変換されません。*CCHARフィールドの詳細については、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドを参照してください。

***JOB** 受け取ったメッセージ記述は、戻される前にジョブのCCSIDに変換されます。

***HEX** 受け取ったメッセージ記述は、戻される前に変換されません。

コード化文字セットID

戻される前にメッセージ記述を変換したいCCSIDを指定してください。

注: 有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」情報を参照してください。受け入れられるのは、ジョブの変更先とすることができるCCSIDだけです。

メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」トピックを参照してください。

トップ

メッセージ・データCCSID (MDTACCSID)

指定されたメッセージ・データが入っているとみなされるCCSIDを指定します。これは、*CCHARとして定義された置き換えデータの部分にのみ適用されます。置き換えデータの残りの部分は決して変換されず、65535のCCSIDを持つとみなされます。

***JOB** 指定されたメッセージ・データはこのコマンドを実行するジョブのCCSIDに入っているとみなされます。

***HEX** 指定されたメッセージ・データは65535であるとみなされ、決して変換されません。

コード化文字セットID

指定されたメッセージ・データは、指定されたCCSIDに入っているとみなされます。有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」情報を参照してください。

トップ

テキスト CCSIDのCL変数(5 0) (TXTCCSID)

MSGおよびSECLVLパラメーターによって戻されるテキストと関連付けられているコード化文字セットID (CCSID)を戻すために使用されるCL変数がある場合に、その名前を指定します。次の1つが起こった場合には、メッセージ記述が記憶されているCCSIDが戻されます。

- 変換エラーが起こった場合。
- ジョブのCCSIDが65535であって、CCSIDパラメーターを指定していない場合。
- CCSIDパラメーターに*JOBを指定した場合。
- テキストを変換するように要求したCCSIDが65535である場合。

そうでない場合には、テキストを変換しなかったCCSIDが戻されます。戻される前にテキストを変換したくないが、メッセージ記述が記憶されているCCSIDを知りたい場合には、CCSIDパラメーターに65535を指定してください。メッセージ記述が記憶されているCCSIDはTXTCCSIDパラメーターに戻されます。また、渡したCCSIDを戻されたTXTCCSIDと比較することによって、変換エラーの有無を調べることもできます。この両者が等しくなく、65535でない場合には、変換エラーが起こりました。

[トップ](#)

データ CCSIDのCL変数(5 0) (DTACCSID)

*CCHARとして定義された置き換えデータと関連付けられているコード化文字セットID (CCSID)を戻すために使用されるCL変数がある場合に、その名前を指定します。他のすべての置き換えデータは戻される前に変換されません。次の1つが起こった場合には、MDTACCSIDパラメーターに指定されたCCSIDが戻されます。

- 変換エラーが起こった場合。
- ジョブのCCSIDが65535であって、CCSIDパラメーターを指定していない場合。
- CCSIDパラメーターに*JOBを指定した場合。
- テキストを変換するように要求したCCSIDが65535である場合。

そうでない場合には、テキストを変換しなかったCCSIDが戻されます。テキストに*CCHAR置き換えデータがない場合には、65535が戻されます。渡したCCSIDを戻されたDTACCSIDと比較することによって、変換エラーの有無を調べることができます。この両者が等しくなく、65535でない場合には、変換エラーが起こりました。

[トップ](#)

例

例1:置き換え変数の置き換え

```
RTVMSG  MSGID(UIN0145) MSGF(INVN) MSG(&WORK)
        MSGDTA('ANY OLD TIME')
```

このコマンドは、INVNメッセージ・ファイルに保管されているメッセージUIN0145のメッセージ・テキストを検索します。検索されたテキストは、置き換え変数が値ANY、OLD、およびTIMEで置き換えられた後に、CL変数&WORKにコピーされます。この例では、置き換え変数&1、&2、および&3がそれぞれ4文字の長さの文字変数としてメッセージに定義されていることを前提としています。

例2:第1レベルおよび第2レベル・メッセージ・テキストの検索

RTVMSG MSGID(UIN0150) MSGF(INV) MSG(&MSG)
SECLVL(&SECLVL)

このコマンドは、メッセージ・ファイルINVに保管されているメッセージUIN0150の第1レベル・メッセージ・テキストおよび第2レベル・メッセージ・テキストを検索し、それをCL変数&MSGおよび&SECLVLに移動させます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2471

フィールドの長さが正しくない。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF2531

&3のための&2のメッセージ・ファイル&1に損傷がある。

CPF2547

メッセージ・ファイルQCPFMSGに損傷がある。

CPF2548

&2のメッセージ・ファイル&1に損傷がある。

CPF8126

&9のメッセージ・ファイル&4に損傷がある。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

*STATUS メッセージ

CPF2419

メッセージ識別コード&1が&3のメッセージ・ファイル&2に見つからない。

*NOTIFY メッセージ

CPF2465

&3の&2のメッセージ&1の置き換えテキストが、指定された形式には正しくない。

[トップ](#)

ネットワーク属性検索 (RTVNETA)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク属性検索 (RTVNETA)コマンドは、システムのネットワーク属性を検索するためにCLプログラムまたはREXXプロシージャー中で使用されます。値は、プログラムの指定した変数に戻され(コピーされ)ます。

制約事項:ネットワーク属性と受け取り変数の属性には互換性がなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	SYSNAME のCL 変数 (8)	文字値	オプション
PNDSYSNAME	PNDSYSNAMEのCL変数 (8)	文字値	オプション
LCLNETID	LCLNETIDのCL変数 (8)	文字値	オプション
LCLCPNAME	LCLCPNAMEのCL変数 (8)	文字値	オプション
LCLLOCNAME	LCLLOCNAMEのCL変数 (8)	文字値	オプション
DFTMODE	DFTMODEのCL変数 (8)	文字値	オプション
NODETYPE	NODETYPEのCL変数 (8)	文字値	オプション
DTACPR	DTACPRのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション
DTACPRINM	DTACPRINMのCL変数(10 0)	10 進数	オプション
MAXINTSSN	MAXINTSSNのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
RAR	RARのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
NETSERVER	NETSERVERのCL変数 (85)	文字値	オプション
ALRSTS	ALRSTSのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRPRIFP	ALRPRIFPのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRDFTFP	ALRDFTFPのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRLOGSTS	ALRLOGSTSのCL変数 (7)	文字値	オプション
ALRBCKFP	ALRBCKFPのCL変数 (16)	文字値	オプション
ALRRQSFP	ALRRQSFPのCL変数 (16)	文字値	オプション
ALRCTLD	ALRCTLDのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRHLCNT	ALRHLCNTのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
ALRFTR	ALRFTRのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRFTRLIB	ALRFTRLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
MSGQ	MSGQのCL変数 (10)	文字値	オプション
MSGQLIB	MSGQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQ	OUTQのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQLIB	OUTQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JOBACN	JOBACNのCL変数 (10)	文字値	オプション
MAXHOP	MAXHOPのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DDMACC	DDMACCのCL変数 (10)	文字値	オプション
DDMACCLIB	DDMACCLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
PCSACC	PCSACC用CL変数 (10)	文字値	オプション
PCSACCLIB	PCSACCLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
DFTNETTYPE	DFTNETTYPEのCL変数 (10)	文字値	オプション
DFTCNLST	DFTCNLSTのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALWANYNET	ALWANYNETのCL変数 (10)	文字値	オプション
NWSDOMAIN	NWSDOMAINのCL変数 (8)	文字値	オプション
ALWVRTAPPN	ALWVRTAPPNのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALWHPRTWR	ALWHPRTWRのCL変数 (10)	文字値	オプション
VRTAUTODEV	VRTAUTODEVのCL変数 (50)	10 進数	オプション
HPRPTHMR	HPRPTHMRのCL変数 (40)	文字値	オプション
ALWADDCLU	ALWADDCLUのCL変数 (10)	文字値	オプション
MDMCNTRYID	MDMCNTRYIDのCL変数 (2)	文字値	オプション

[トップ](#)

SYSNAME のCL 変数 (8) (SYSNAME)

現行システム名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

PNDSYSNAMEのCL変数 (8) (PNDSYSNAME)

保留中のシステム名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。保留中のシステム名がない場合には、戻される値はブランクになります。

[トップ](#)

LCLNETIDのCL変数 (8) (LCLNETID)

ローカル・ネットワークIDを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

LCLCPNAMEのCL変数 (8) (LCLCPNAME)

ローカル制御点名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

LCLLOCNAMEのCL変数 (8) (LCLLOCNAME)

省略時ローカル・ロケーション名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DFTMODEのCL変数 (8) (DFTMODE)

省略時モード名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

NODETYPEのCL変数 (8) (NODETYPE)

APPNノード・タイプを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*ENDNODE

ノードは、他のノードにネットワーク・サービスを提供しませんが、接続されたネットワーク・サーバーのサービスを使用してAPPNネットワークに加入するか、あるいは下位入りロネットワーク・ノードと同様に対等環境で作動することができます。

*NETNODE

ノードは、サービス中であるローカル・ユーザー、エンド・ノード、および下位入りロネットワーク・ノードに対して、中間ルーティング・サービス、経路選択サービス、および配布ディレクトリー・サービスを提供します。

*BEXNODE

このノードは分岐拡張ノードとして機能します。このノードはバックボーンAPPN ネットワーク内ではエンド・ノードとして機能し、そのローカル・ドメインではエンド・ノードに対するネットワーク・ノード・サーバーとして機能します。

[トップ](#)

DTACPRのCL変数 (10 0) (DTACPR)

データ圧縮の現行レベルを受け取るCL変数の名前を指定します。小数点以下の桁数でない最小長が10桁の10進変数の名前を指定してください。

データ圧縮レベルとして変数に戻される可能性がある値は、次の通りです。

- 0 *NONE -データ圧縮は、セッションで使用することができません。
- 1 *REQUEST -データ圧縮は、ローカル・システムによるセッションで要求されます。しかし、リモ

ート・システムでは、要求を拒否したり、あるいはその要求をより低い圧縮レベルに変更することができます。データ圧縮は、それがリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用することができます。

- 2 *ALLOW -リモート・システムによって要求された場合には、データ圧縮をローカル・システムによるセッションで使用することができます。ローカル・システムは圧縮を要求しません。
- 3 *REQUIRE -データ圧縮がセッションに必要です。リモート・システムがローカル・システムに必要な正確なレベルの圧縮に変更しない場合には、セッションは確立されません。ローカル・システムが必要とするデータ圧縮レベルは、指定されたレベルです。

[トップ](#)

DTACPRINMのCL変数(10 0) (DTACPRINM)

中間ノードのデータ圧縮の現行レベルを受け取るCL変数の名前を指定します。小数点以下の桁数でない最小長が10桁の10進変数の名前を指定してください。

中間ノードのデータ圧縮レベルとして変数に戻される可能性がある値は、次の通りです。

- 0 *NONE -システムがSNA中間ノードである時に、データの圧縮が必要であることはリモート・システムに通知されません。
- 1 *REQUEST -システムがSNA中間ノードである時に、データ圧縮が必要であることがリモート・システムに要求されます。

[トップ](#)

MAXINTSSNのCL変数 (5 0) (MAXINTSSN)

中間セッションの最大数を受け取るCL変数の名前を指定します。小数部分がない最小長が5桁の10進数の変数の名前を指定します。

[トップ](#)

RARのCL変数 (5 0) (RAR)

経路追加抵抗を受け取るCL変数の名前を指定します。小数部分がない最小長が5桁の10進数の変数の名前を指定します。

[トップ](#)

NETSERVERのCL変数 (85) (NETSERVER)

ネットワーク・ノード・サーバーのリストを受け取るCL変数の名前を指定します。最小長が85桁の文字変数の名前を指定します。サーバー名またはネットワークIDの桁数が変数に可能な桁数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。リストには5つのノード・サーバーが含まれます。各サーバーはネットワークID (9文字) にサーバー名(8文字) が続くような形式になっています。区切り文字はありません。ネットワークIDに値の*LCLNETIDを指定することができます。これは、現行ネットワークIDが使用

されることを指定します。指定したノード・サーバーが5つに満たない場合には、残りのノードの名前として空白が使用されます。リスト中で最初の空白の名前が見つかったら、残りの名前も空白と見なされます。

トップ

ALRSTSのCL変数 (10) (ALRSTS)

警報状況を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。(警報状況値の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。)

次の値がCL変数に戻されることがあります。

***ON** 不在時状態を除くすべての警報状態についてシステムによって警報が作成されます。

***OFF** 警報はシステムによって作成されません。

***UNATTEND**

メッセージ記述追加 (ADDMSGD)またはメッセージ記述変更 (CHGMSGD)コマンドの**警報オプション (ALROPT)**パラメーターに*UNATTENDが指定されているメッセージを含めて、すべての警報条件に対し、システムによって警報が作成されます。

トップ

ALRPRIFPのCL変数 (10) (ALRPRIFP)

警報1次フォーカル・ポイントを受け取るCL変数の名前を指定します。最小で10文字の長さのCL変数の名前を指定してください。(警報1次フォーカル・ポイントの値の文字数が変数に許されているより少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。)

次の値が変数に戻されることがあります。

***NO** このシステムは警報1次フォーカル・ポイントではありません。

***YES** システムは警報1次フォーカル・ポイントです。

トップ

ALRDFTFPのCL変数 (10) (ALRDFTFP)

省略時の警報フォーカル・ポイントの値を受け取るCL変数の名前を指定します。最小10文字の長さのCL変数を指定してください。(省略時の警報フォーカル・ポイントの値の文字数が変数に許されている文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。)

次の値が変数に戻されることがあります。

***NO** このシステムは省略時の警報フォーカル・ポイントではありません。

***YES** システムは省略時の警報フォーカル・ポイントです。

トップ

ALRLOGSTSのCL変数 (7) (ALRLOGSTS)

警報ログ状況を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が7文字の文字変数でなければなりません。

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*NONE

警報は記録されません。

*LOCAL

ローカルで作成された警報だけが記録されます。

*RCV 他のノードから受信した警報だけが記録されます。

*ALL ローカルに作成された警報と他のノードから受け取られた警報の両方が記録されます。

[トップ](#)

ALRBCKFPのCL変数 (16) (ALRBCKFP)

1次フォーカル・ポイントが使用できない場合に、警報フォーカル・ポイント・サービスを提供するシステムの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小の長さが16文字の文字変数の名前を指定します。(バックアップ・システム名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。)

[トップ](#)

ALRRQSFPのCL変数 (16) (ALRRQSFP)

警報フォーカル・ポイント・サービスを提供するために要求されたシステムの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小の長さが16文字の文字変数の名前を指定します。(要求元システム名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。)

[トップ](#)

ALRCTL DのCL変数 (10) (ALRCTL D)

警報処理が活動状態である時に、別のシステムに送られる警報メッセージが通過する制御装置の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小10文字の長さのCL変数を指定してください。(警報制御装置名の文字数が変数に許されている文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。)

次の値が変数に戻されることがあります。

*NONE

警報用の制御装置はありません。

名前 制御装置警報セッションの警報について使用中である制御装置の名前を指定してください。この制御装置はシステムの1次または省略時の警報フォーカル・ポイントの場合、無視されます。(たとえば、ノードが別のシステムの制御範囲である場合)

[トップ](#)

ALRHLCNTのCL変数 (5 0) (ALRHLCNT)

警報が制御装置警報セッション（ALRCTLDネットワーク属性）に送られる前に作成される警報の最大数を受け取るCL変数の名前を指定します。指定された数の警報が作成されるまで、警報はシステムによって保留されます（待ち行列に入れられる）。このパラメーターは、警報が送信される回数を減らすことによって、制限された資源を介して送信される警報を管理するために使用することができます。

注: ALRHLCNTネットワーク属性は、ALRCTLDネットワーク属性が使用される時にだけ適用されます。管理サービス・セッションAPPNおよび制御の範囲サポートが使用される時には、ALRHLCNT値は無視されます。

警報が送信される前に作成できる警報の最大数は32,767です。小数点以下の桁のない全長5桁の10進数変数の名前を指定してください。

次の値が変数に戻されることがあります。

- 2 この値は*NOMAXを表します。警報は無制限に保留されます。現行の警報保留カウントが最大値です。ALRHLCNT 値を低い値に変更することによって、後で警報を送信することができます。

0から32767

送信する前に作成することのできる警報の最大数を指定します。この最大数に達するまで、警報は「保留」状況になっています。値0を指定した場合には、警報は作成されると同時に送信されます。

[トップ](#)

ALRFTRのCL変数 (10) (ALRFTR)

活動状態の警報フィルターの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。（警報フィルター名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。）

[トップ](#)

ALRFTRLIBのCL変数 (10) (ALRFTRLIB)

警報フィルターの定義が入っているライブラリーの名前を受信するCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)

システムの省略時ネットワーク・メッセージ待ち行列名を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。メッセージ待ち行列名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)

システムの省略時ネットワーク・メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数に変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)

システムの省略時ネットワーク出力待ち行列名を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。(出力待ち行列名の文字数に変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。)

[トップ](#)

OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)

システムの省略時ネットワーク出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数に変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

JOBACNのCL変数 (10) (JOBACN)

ネットワークを通して受け取られたジョブ・ストリームの現行ジョブ処置を受け取るCL変数の名前を指定します。最小長10文字の変数を指定してください。(ジョブ処置の値に変数で使用できるより少ない文字数である場合には、その値の右側にブランクが埋め込まれます。)

次の値がCL変数に戻されることがあります。

***REJECT**

入力ストリームはシステムによって拒否されます。この処置によって、システムはネットワークから受信されたジョブ・ストリームを保護することができます。

***FILE** 送り先のユーザーによって受け取られたネットワーク・ファイルの待ち行列で入力ストリームがファイルされます。ここでこのユーザーは、入力ストリームを表示、終了、または受け取るか、あるいはジョブ待ち行列に投入することができます。

***SEARCH**

入力ストリームに対して取られる処置を決定するためにネットワーク・ジョブ項目のテーブルが検索されます。

[トップ](#)

MAXHOPのCL変数 (5 0) (MAXHOP)

SNADSネットワークでこのノードを起点とする配布待ち行列を受信して、経路上でその最終の宛先に再経路指定できる最大回数を受け取るCL変数の名前を指定します。小数部分がない合計が5桁の長さの10進数の変数の名前を指定します。

[トップ](#)

DDMACCのCL変数 (10) (DDMACC)

他のシステムからのDDMまたはDRDA要求についての現行システム処置を受け取るCL変数の名前を指定します。最小で10文字の長さのCL変数を指定してください。（DDMアクセスの値の文字数が変数に許されている文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。）

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*REJECT

このシステムでは、リモート・システムからのDDM要求およびDRDA要求は許されません。しかし、このシステムでは、まだDDMまたはDRDAを使用してリモート・システムのファイルまたはSQLテーブルにアクセスすることができます。ソース（クライアント）システムは、*REJECTを指定した他のすべてのシステムのファイルまたはSQLテーブルにアクセスすることはできません。

*OBJAUT

DDMまたはDRDAジョブに関連するユーザー・プロファイルがファイルに対する権限を認可されている場合には、すべてのファイル要求またはリモートSQL要求が受け入れられます。ファイルに対する読み取り、書き出し、または更新などのオブジェクト権限も存在していなければなりません。

名前 オブジェクト・レベルの機密保護を補足することのできる得意先妥当性検査プログラムの名前を指定します。このユーザー出口プログラムは、*PUBLICおよび私用ファイルに対するユーザーのアクセスを制限することができます。ターゲットDDMサポートは、ファイルを参照するたびにユーザー・プログラムを呼び出します。ユーザー出口プログラムは、要求を続行すべきか終了すべきかをDDMに指示します。DRDAを使用する場合には、妥当性検査プログラムは接続要求の場合にだけ呼び出され、個々のファイル・アクセスでは呼び出されません。

[トップ](#)

DDMACCLIBのCL変数 (10) (DDMACCLIB)

DDMアクセス・プログラムが入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。 **DDMACCのCL変数 (10) (DDMACC)**パラメーターに*REJECTまたは*OBJAUTが戻された場合には、このパラメーターの値はすべてブランクとなります。

[トップ](#)

PCSACC用CL変数 (10) (PCSACC)

ISERIES ACCESSの要求に対する現行のシステムの処置を受け取るCL 変数の名前を指定します。最小10文字の長さのCL変数を指定してください。(ISERIES ACCESSのアクセス値の文字数が変数に許されている文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。)

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*REJECT

システムはISERIES ACCESSのすべての要求を許可しません。

*OBJAUT

ISERIES ACCESSの要求は、すべてシステムのオブジェクト権限によって許可され、制御されます。

*REGFAC

登録機能を使用して別のサーバー用の出口プログラムを判別します。登録機能でプログラムが定義されていない場合には、*OBJAUTが使用されます。

名前 システムのオブジェクト・レベルの機密保護を補足できるユーザー提供のISERIES ACCESSホスト・システム・アプリケーション出口プログラムの名前。

[トップ](#)

PCSACCLIBのCL変数 (10) (PCSACCLIB)

ISERIES ACCESSプログラムが入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小長が10文字の文字変数の名前を指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。 **PCSACC用CL変数 (10) (PCSACC)** パラメーターに*REJECT, *REGFAC,または*OBJAUTが戻された場合には、このパラメーターの値はすべて空白となります。

[トップ](#)

DFTNETTYPEのCL変数 (10) (DFTNETTYPE)

デジタル総合サービス網(ISDN)ネットワーク・タイプのシステム省略時の値を受信するCL変数の名前を指定します。オペレーティング・システムは、もはやこのネットワーク属性を使用しません。このネットワーク属性に対して行われた変更は効力を持ちません。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

DFTCNLSTのCL変数 (10) (DFTCNLST)

ISDN接続リストのシステム省略時値を受け取るCL変数の名前を指定します。オペレーティング・システムは、もはやこのネットワーク属性を使用しません。このネットワーク属性に対して行われた変更は効力を持ちません。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

ALWANYNETのCL変数 (10) (ALWANYNET)

通信APIがそのAPIに固有でない他の通信トランスポートを使用できるようにするネットワーク属性を受け取るCL変数の名前を指定します。例にはICF OVER TCP/IPまたはSOCKETS OVER SNAが含まれていません。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

NWSDOMAINのCL変数 (8) (NWSDOMAIN)

システム上のファイル・サーバー入出力プロセッサ(FSIOP)として知られるすべての統合PCサーバーが属しているLANサーバー・ドメインを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

ALWVRTAPPNのCL変数 (10) (ALWVRTAPPN)

仮想APPNサポートの現在の設定値を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の長さは最小でも10文字は必要です。

[トップ](#)

ALWHPRTWRのCL変数 (10) (ALWHPRTWR)

HPRタワー・トランスポート・サポートの現在の設定値を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の長さは最小でも10文字は必要です。

[トップ](#)

VRTAUTODEVのCL変数 (5 0) (VRTAUTODEV)

仮想制御装置上で許可される自動的に作成されるAPPC装置の最大数の現在の設定値を受け取るCL変数の名前を指定します。小数部分がない合計が5桁の長さの10進数の変数の名前を指定します。

[トップ](#)

HPRPTHMTMRのCL変数 (40) (HPRPTHMTMR)

HPRパス・スイッチ・タイマーの時間の最大の長さ(分数)の現在の設定値を受け取るCL変数の名前を指定します。このフィールドには40文字の変数が必要であり、10文字ずつがそれぞれネットワーク、高優先順位、中優先順位、および低優先順位の順に4つのタイマーの値を表します。

[トップ](#)

ALWADDCLUのCL変数 (10) (ALWADDCLU)

このシステムで別のシステムをクラスター中のノードとして追加できるようにするかどうかを指定する値を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の長さは最小でも10文字は必要です。

「クラスターへの追加可能」の変数に入れて戻される値は次の通りです。

*NONE

他のシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することはできません。

*ANY 他のすべてのシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することができます。

*RQSAUT

クラスターの追加要求が認証された後に限り、他のすべてのシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することができます。

トップ

MDMCNTRYIDのCL変数 (2) (MDMCNTRYID)

モデムと関連した国別または地域別のIDのネットワーク属性を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の長さは最小の長さが2文字以上でなければなりません。

MDMCNTRYIDはシステム入出力アダプターの内部にあるモデムの各国特有または各地域特有の省略時特性を定義します。この値は、適切な操作を保証するために、また、一部の国または地域の法的要件を満たすように、正しく構成しなければなりません。モデムの国別または地域別IDが設定されていないと、アダプターは回線のオンへの変更を正常に実行できません。

トップ

例

例1:現行システム名の検索

```
DCL VAR(&SNAME) TYPE(*CHAR) LEN(8)
RTVNETA SYSNAME(&SNAME)
```

このコマンドは、現行システム名を検索します。

例2:仮想APPNサポート、APPC装置限界、およびHPRパス・スイッチ・タイマーの検索

```
DCL VAR(&ALWVRTAPPN) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&VRTAUTODEV) TYPE(*DEC) LEN(5 0)
DCL VAR(&HPRPTHMR) TYPE(*CHAR) LEN(40)
RTVNETA ALWVRTAPPN(&ALWVRTAPPN) VRTAUTODEV(&VRTAUTODEV)
        HPRPTHMR(&HPRPTHMR)
```

このコマンドは、仮想APPNサポート、仮想制御装置上に自動的に作成されたAPPC装置、およびHPRパス・スイッチ・タイマーを使用可能にするための現在のネットワーク属性の設定値を検索します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1844

ネットワーク属性&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

オブジェクト記述の検索 (RTVOBJD)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
 リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
 スレッド・セーフ: はい

パラメーター
 例
 エラー・メッセージ

オブジェクト記述検索(RTVOBJD)コマンドは、CLプログラムまたはREXXプロシージャーに特定のオブジェクトの記述を取り出します。

このコマンドによってCL変数に戻されるパラメーターの場合、パラメーターの記述タイトル/プロンプト・テキストにはCL変数の最小の長さがリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小桁数を示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

1. ライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
2. オブジェクトに対する*EXCLUDE権限以外の何らかの権限が必要です。オブジェクトがファイルの場合には、そのオブジェクトに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。
3. OBJAUDパラメーターで*NOTAVL以外の値を検索するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限のいずれかが必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
ASPDEV	ASP装置	単一値: *, *ALLAVL, *CURASPGRP, *SYSBAS その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置	名前	
	要素 2: 検索タイプ	*ASP, *ASPGRP	
RTNLIB	RTNLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJATR	OBJATRのCL変数 (10)	文字値	オプション
USRDFNATR	USRDFNATRのCL変数 (10)	文字値	オプション
TEXT	TEXTのCL変数 (50)	文字値	オプション
OWNER	OWNERのCL変数 (10)	文字値	オプション
PGP	PGPのCL変数 (10)	文字値	オプション
ASP	ASPのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
LIBASP	LIBASPのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
OBJASPDEV	OBJASPDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJASPGRP	OBJASPGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
LIBASPDEV	LIBASPDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
LIBASPGRP	LIBASPGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
OVFASP	OVFASPのCL変数 (1)	文字値	オプション
CRTDATE	CRTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
CHGDATE	CHGDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
SAVDATE	SAVDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
SAVACTDATE	SAVACTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
RSTDATE	RSTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
CRTUSER	CRTUSERのCL変数 (10)	文字値	オプション
CRTSYSTEM	CRTSYSTEMのCL変数 (8)	文字値	オプション
OBJDMN	OBJDMNのCL変数 (2)	文字値	オプション
USEUPD	USEUPDのCL変数 (1)	文字値	オプション
USEDATE	USEDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
USECOUNT	USECOUNTのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
RESETDATE	RESETDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
STG	STGのCL変数 (10)	文字値	オプション
CPR	CPRのCL変数 (1)	文字値	オプション
SIZE	SIZEのCL変数 (15 0)	10 進数	オプション
SPCSIZE	SPCSIZEのCL変数 (15 0)	10 進数	オプション
SPCALIGN	SPCALIGNのCL変数 (1)	文字値	オプション
SAVSIZE	SAVSIZEのCL変数 (15 0)	10 進数	オプション
SAVCMD	SAVCMDのCL変数 (10)	文字値	オプション
SAVSEQNBR	SAVSEQNBRのCL変数 (4 0)	10 進数	オプション
SAVLRGSEQ	SAVLRGSEQのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション
SAVVOL	SAVVOLのCL変数 (71)	文字値	オプション
SAVDEV	SAVDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
SAVF	SAVFのCL変数 (10)	文字値	オプション
SAVFLIB	SAVFLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
SAVLABEL	SAVLABELのCL変数 (17)	文字値	オプション
SRCF	SRCFのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCFLIB	SRCFLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SRCMBR	SRCMBRのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCDATE	SRCDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
SYSLVL	SYSLVLのCL変数 (9)	文字値	オプション
COMPILER	COMPILERのCL変数 (16)	文字値	オプション
OBJLVL	OBJLVLのCL変数 (8)	文字値	オプション
ALWAPICHG	ALWAPICHGのCL変数 (1)	文字値	オプション
APICHG	APICHGのCL変数 (1)	文字値	オプション
USRCHG	USRCHGのCL変数 (1)	文字値	オプション
LICPGM	LICPGMのCL変数 (16)	文字値	オプション
PTF	PTFのCL変数 (10)	文字値	オプション
APAR	APARのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJAUD	OBJAUDのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJSIG	OBJSIGのCL変数 (1)	文字値	オプション
SYSSIG	SYSSIGのCL変数 (1)	文字値	オプション
MLTSIG	MLTSIGのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRNSTS	JRNSTSのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRN	JRNのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNLIB	JRNLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNIMG	JRNIMGのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRNOMTE	JRNOMTEのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRNSTRDATE	JRNSTRDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
STRJRNRCV	STRJRNRCVのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNRCVLIB	JRNRCVLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
RCVLIBASP	RCVLIBASPのCL変数 (10)	文字値	オプション
RCVLIBGRP	RCVLIBGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

情報が検索されるオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 記述が検索されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

情報を検索したいオブジェクトのタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

情報が検索されるオブジェクトのタイプを指定してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクトが入っているライブラリーに記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいライブラリーが検索されるように、このパラメーターを指定しなければなりません。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定されたライブラリー修飾子が*CURLIBまたは*LIBLの時にこのパラメーターを使用する場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。このパラメーターは、単一値、あるいは1個または2個の要素のリストとして指定することができます。

単一値

*
- 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*ALLAVL

使用可能なすべてのASPが検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済みユーザー基本ASP (ASP 2から32),およびすべての1次および2次ASP (状況が「使用可能」となっているASP 33から255)が含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

要素1: 装置

名前

検索される1次または2次ASP装置の名前を指定します。1次および2次ASPは(ASP装置をオンに変更することによって) 活動化されていなければならず、状況が「使用可能」になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 要素2に指定された検索タイプが*ASPの時に、特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、その特定のASP装置に対する実行(*EXECUTE)権限がなければなりません。

要素2に指定された検索タイプが*ASPGRPの時に特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、そのASPグループ中の各ASP装置に対する実行(*EXECUTE)権限がなければなりません。

要素2: 検索タイプ

要素1で名付けられた単一ASP装置またはASPグループ全体が検索されるかどうかを指定します。

***ASP** 要素1で名付けられた単一の補助記憶域プール(ASP)装置だけが検索されます。

***ASPGRP**

要素1で名付けられた1次補助記憶域プール(ASP)装置のグループ全体が検索されます。

[トップ](#)

RTNLIBのCL変数 (10) (RTNLIB)

オブジェクトが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクト(OBJ)パラメーターのライブラリー (修飾子2)に*LIBLまたは*CURLIBが指定された場合には、戻される値は、オブジェクトが見つかったライブラリーの名前です。ライブラリー名が指定されている場合には、このパラメーターによってその名前が戻されます。

[トップ](#)

OBJATRのCL変数 (10) (OBJATR)

プログラムまたはファイルのタイプなどのオブジェクトの拡張属性を戻すために使用される10文字の変数を指定します。たとえば、変数はPRODまたはCLPで戻されることがあります。値の前に*は置かれません。

[トップ](#)

USRDFNATRのCL変数 (10) (USRDFNATR)

オブジェクトのユーザー定義属性を戻すために使用される10文字の変数を指定します。検索されたオブジェクトにユーザー定義属性がない場合には、ブランクが戻されます。

[トップ](#)

TEXTのCL変数 (50) (TEXT)

オブジェクトのテキスト記述を戻すために使用される50文字のCL変数を指定します。

[トップ](#)

OWNERのCL変数 (10) (OWNER)

オブジェクトの所有者の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。

[トップ](#)

PGPのCL変数 (10) (PGP)

オブジェクトの1次グループであるユーザーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトの1次グループがない場合には、このフィールドに*NONEの値が入ります。

[トップ](#)

ASPのCL変数 (2 0) (ASP)

オブジェクトの補助記憶域プール(ASP)の番号を戻すために使用される10進数(2 0)の変数の名前を指定します。この変数には最大32までのASP番号が入ります。ASP番号が32より大きい場合には、この変数で-1が戻されます。ASP番号が32より大きい時にASP装置名を戻すためには、OBJASPDEVパラメーターを使用してください。戻される可能性のある値は次の通りです。

1 オブジェクトはシステム補助記憶域プールに入っています。

2から32

オブジェクトは基本ユーザー補助記憶域プールに入っています。

-1 オブジェクトは、32より大きいASP番号を持つ1次または2次補助記憶域プールに入っています。この1次または2次ASPのASP装置名はOBJASPDEVパラメーターを使って検索することができます。

[トップ](#)

LIBASPのCL変数 (5 0) (LIBASP)

オブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)の番号を戻すために使用される10進数(5 0)の変数を指定します。この変数には最大32までのASP番号が入ります。ASP番号が32より大きい場合には、この変数で-1が戻されます。ASP番号が32より大きい時にASP装置名を戻すためには、LIBASPDEVパラメーターを使用してください。戻される可能性のある値は次の通りです。

1 ライブラリーはシステム補助記憶域プールに入っています。

2から32

ライブラリーは基本ユーザー補助記憶域プールに入っています。

-1 ライブラリーは、32より大きいASP番号を持つ1次または2次補助記憶域プールに入っています。この1次または2次ASPのASP装置名はLIBASPDEVパラメーターを使って検索することができます。

[トップ](#)

OBJASPDEVのCL変数 (10) (OBJASPDEV)

オブジェクトの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

***SYSBAS**

オブジェクトはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

[トップ](#)

OBJASPGRPのCL変数 (10) (OBJASPGRP)

オブジェクトの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される値は、OBJASPDEVパラメーターで戻される値と同じであることがあります。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N 1次ASP装置の名前を決定することができません。

***SYSBAS**

オブジェクトはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

[トップ](#)

LIBASPDEVのCL変数 (10) (LIBASPDEV)

オブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

***SYSBAS**

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

[トップ](#)

LIBASPGRPのCL変数 (10) (LIBASPGRP)

オブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている1次補助記憶域プール(ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される値は、LIBASPDEVパラメーターで戻される値と同じであることがあります。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N 1次ASP装置の名前を決定することができません。

***SYSBAS**

オブジェクトはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

[トップ](#)

OVFASPのCL変数 (1) (OVFASP)

「オブジェクト・オーバーフローの補助記憶域プール(ASP)」フラグを戻すために使用される1文字の変数を指定します。

*1' オブジェクトがその存在するASPをオーバーフローしました。

'0' オブジェクトはASPをオーバーフローしていません。システムASP (ASP 1)あるいは1次または2次ASP (ASP 33から255)にあるオブジェクトはそのASPをオーバーフローできないので、システムASP (ASP 1)あるいは1次または2次ASP (ASP 33から255)にあるオブジェクトの場合には、常に値'0'が戻されます。

[トップ](#)

CRTDATEのCL変数 (13) (CRTDATE)

オブジェクトが作成された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。値はCYYMMDDHHMMSSの形式で戻されます。ここで、C =世紀で、'0'の場合は年19XXを示し、'1'は年20XXを示します。YY=年、MM=月、DD=日、HH=時、MM=分、およびSS=秒です。

[トップ](#)

CHGDATEのCL変数 (13) (CHGDATE)

オブジェクトが最後に変更された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはオブジェクトが変更されていなかった場合には、ブランクになって戻されます。

[トップ](#)

SAVDATEのCL変数 (13) (SAVDATE)

オブジェクトが最後に保管された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはオブジェクトが保管されていなかった場合には、ブランクになって戻されます。

[トップ](#)

SAVACTDATEのCL変数 (13) (SAVACTDATE)

SAVACTパラメーターに*NO以外のものが指定された保管操作の時に、オブジェクトが最後に保管された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。この日付/時刻は、オブジェクト自身が保管された時点を示します。SAVDATパラメーターは、保管操作が開始された時点を示します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、オブジェクトが保管されていなかった場合、あるいはオブジェクトの最後の保管操作でSAVACT(*NO)が指定された場合には、ブランクになって戻されます。

[トップ](#)

RSTDATEのCL変数 (13) (RSTDATE)

オブジェクトが最後に復元された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはオブジェクトが復元されていなかった場合には、ブランクになって戻されます。

CRTUSERのCL変数 (10) (CRTUSER)

オブジェクトを作成したユーザーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。

トップ

CRTSYSTEMのCL変数 (8) (CRTSYSTEM)

オブジェクトが作成されたシステムの名前を戻すために使用される8文字の変数を指定します。

トップ

OBJDMNのCL変数 (2) (OBJDMN)

オブジェクトのオブジェクト・ドメイン値を戻すために使用される2文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- *U オブジェクトはユーザー・ドメイン・オブジェクトです。
- *S オブジェクトはシステム・ドメイン・オブジェクトです。

トップ

USEUPDのCL変数 (1) (USEUPD)

このオブジェクト・タイプに対してオブジェクト使用状況情報が更新されるかどうかをの指示を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- Y このオブジェクト・タイプに対してオブジェクト使用状況情報が更新されます。
- N このオブジェクト・タイプに対してオブジェクト使用状況情報が更新されません。'N'が戻された場合には、オブジェクトの最終使用日付は空白であり、オブジェクトが使用された日数はゼロ(0)です。

トップ

USEDATEのCL変数 (7) (USEDATE)

オブジェクトが最後に使用された日付を戻すために使用される7文字の変数を指定します。日付はCYYMMDDの形式で戻されるか、オブジェクトに最終使用日付がない場合には、空白になって戻されます。

トップ

USECOUNTのCL変数 (5 0) (USECOUNT)

オブジェクトが使用されていた日数を戻すために使用される10進数(5 0)の変数を指定します。オブジェクトに最終使用日付がない場合には、ゼロ(0)が戻されます。

[トップ](#)

RESETDATEのCL変数 (7) (RESETDATE)

使用日数カウントが最後にゼロ(0)にリセットされた日付を戻すために使用される7文字の変数を指定します。日付はCYYMMDDの形式で戻されるか、使用日数カウントがリセットされていない場合には、ブランクになって戻されます。

[トップ](#)

STGのCL変数 (10) (STG)

オブジェクト・データの記憶域状況に戻すために使用される10文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

*FREE

オブジェクト・データは解放されていて、オブジェクトが保留されています。

*KEEP

オブジェクト・データは解放されておらず、オブジェクトが保留されていません。

[トップ](#)

CPRのCL変数 (1) (CPR)

オブジェクトの圧縮状況に戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- Y** オブジェクトは圧縮されています。
- X** オブジェクトは圧縮に不適格です。
- N** オブジェクトは永続的に圧縮解除されています。
- T** オブジェクトは一時的に圧縮解除されています。
- F** オブジェクトは圧縮に適格ですが、記憶域を解放されて保管されています。

[トップ](#)

SIZEのCL変数 (15 0) (SIZE)

オブジェクトのサイズ (バイト数) を戻すために使用される10進数(15 0)の変数を指定します。この値は、SPCSIZEパラメーターによって戻される値を含みます。

[トップ](#)

SPCSIZEのCL変数 (15 0) (SPCSIZE)

オブジェクトの1次関連スペースのサイズ（バイト数）を戻すために使用される10進数(15 0)の変数を指定します。オブジェクトに関連スペースがない場合には、ゼロ(0)が戻されます。

[トップ](#)

SPCALIGNのCL変数 (1) (SPCALIGN)

オブジェクトに関連したスペースが最適に位置合わせされているかどうかを戻すために使用される1文字の変数を指定します。最適位置合わせによって、オブジェクトを使用するアプリケーションのパフォーマンスはよくなる場合があります。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '0' オブジェクトに関連したスペースが最適に位置合わせされていません。
- '1' オブジェクトに関連したスペースが最適に位置合わせされています。
- '2' オブジェクトと関連したスペースはありません。

[トップ](#)

SAVSIZEのCL変数 (15 0) (SAVSIZE)

最後の保管操作の時点でのオブジェクトのサイズ（バイト数）を戻すために使用される10進数(15 0)の変数を指定します。オブジェクトが保管されていない場合には、ゼロ(0)が戻されます。

[トップ](#)

SAVCMDのCL変数 (10) (SAVCMD)

オブジェクトの保管に使用されたコマンドを戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトが保管されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

SAVSEQNBRのCL変数 (4 0) (SAVSEQNBR)

テープへのオブジェクトの保管時に割り当てられたテープ順序番号を戻すために使用される10進数(4 0)の変数を指定します。この変数には、最大9999までの順序番号が入ります。オブジェクトが保管されていない場合、あるいはテープに保管されていない場合には、ゼロ(0)が戻されます。順序番号が実際には9999より大きい場合には、この変数には-5が戻されます。9999より大きくなる可能性がある順序番号を戻すためには、SAVLRGSEQパラメーターを使用してください。

[トップ](#)

SAVLRGSEQのCL変数 (10 0) (SAVLRGSEQ)

テープ順序番号を戻すために使用される10進数(10 0)の変数を指定します(SAVSEQNBRパラメーターと同様)。この変数には、SAVSEQNBRパラメーターより大きいテープ順序番号を入れることができます。

SAVVOLのCL変数 (71) (SAVVOL)

オブジェクトの保管に使用されたテープ、ディスク、または光ディスク・ボリュームを戻すために使用される71文字の変数を指定します。変数は最大10個の6文字のボリュームを戻します。ボリュームIDは、1、8、15、22、29、36、43、50、57、および64桁目から始まります。それぞれのボリュームID項目は、単一の文字で区切られます。オブジェクトが並行形式で保管されていた場合には、2番目の媒体ファイルの最初のボリュームの前の'2'、3番目の媒体ファイルの前の'3'といったものが区切り文字に含まれます(10番目の媒体ファイルの前は'0')。そうでない場合には、区切り文字は空白です。10を超えるボリュームが使用され、オブジェクトが逐次形式で保管されていた場合には、変数の71番目の文字に'1'が戻されます。オブジェクトが並行形式で保管されていた場合には、変数の71番目の文字に'2'が戻されます。そうでない場合には、71番目の文字は空白です。オブジェクトが最後に保管ファイルに保管された場合、あるいは保管されたことがない場合には、変数が空白になって戻されます。

トップ

SAVDEVのCL変数 (10) (SAVDEV)

オブジェクトが最後に保管された装置のタイプを戻すために使用される10文字の変数を指定します。最後の保管操作に使用された装置に応じて、変数は次の値の1つで戻されます。

- 保管ファイルの場合は*SAVF
- ディスクの場合には*DKT
- テープの場合には*TAP
- 光ディスク・ボリュームの場合には*OPT
- オブジェクトが保管されていない場合には、変数は空白で戻されます。

トップ

SAVFのCL変数 (10) (SAVF)

オブジェクトが保管ファイルに保管された場合に保管ファイルの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトが保管ファイルに保管されていない場合には、変数は空白になって戻されます。

トップ

SAVFLIBのCL変数 (10) (SAVFLIB)

オブジェクトが保管ファイルに保管された場合に、保管ファイルが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトが保管ファイルに保管されていない場合には、変数は空白になって戻されます。

トップ

SAVLABELのCL変数 (17) (SAVLABEL)

オブジェクトの保管時に使用されたファイル・ラベルを戻すために使用される17文字の変数を指定します。オブジェクトがテープ、ディスケット、または光ディスク・ボリュームに保管されない場合には、変数はブランクになって戻されます。戻される値は、オブジェクトを保管するために使用されたコマンドのLABELパラメーターに指定された値と一致しています。

[トップ](#)

SRCFのCL変数 (10) (SRCF)

オブジェクトの作成に使用されたソース・ファイルの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトの作成にソース・ファイルが使用されなかった場合には、変数はブランクになって戻されます。ILE *PGMおよび*SRVPGMオブジェクトの場合には、ソース・ファイルおよびメンバーはブランクです。ソース・ファイル情報は、*MODULEオブジェクトと一緒に保管されます。

[トップ](#)

SRCFLIBのCL変数 (10) (SRCFLIB)

オブジェクトの作成に使用されたソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトの作成にソース・ファイルが使用されなかった場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

SRCMBRのCL変数 (10) (SRCMBR)

ソース・ファイル(SRCFパラメーター)のメンバーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトの作成にソース・ファイルが使用されなかった場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

SRCDATEのCL変数 (13) (SRCDATE)

ソース・ファイルのメンバーが最後に更新された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数はCRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはメンバーが更新されていない場合にはブランクになって戻されます。

[トップ](#)

SYSLVLのCL変数 (9) (SYSLVL)

オブジェクトの作成時のオペレーティング・システムのレベルを戻すために使用される9文字の変数を指定します。変数は、1桁目から始まる3文字のバージョン・レベル、3桁目から始まる3文字のリリース・レベル、および7桁目から始まる3文字のモディフィケーション・レベルで戻されます。バージョン・レベルの最初の文字は常に文字'V'、リリース・レベルの最初の文字は常に文字'R'、モディフィケーション・レベルの最初の文字は常に文字'M'です。

トップ

COMPILERのCL変数 (16) (COMPILER)

コンパイラーのライセンス・プログラムID、バージョン・レベル、リリース・レベル、およびモディフィケーション・レベルを戻すために使用される16文字の変数を指定します。変数は、1桁目から始まる7文字のプログラムID、8桁目から始まる3文字のバージョン・レベル、11桁目から始まる文字のリリース・レベル、および14桁目から始まる3文字のモディフィケーション・レベルで戻されます。バージョン・レベルの最初の文字は常に文字'V'、リリース・レベルの最初の文字は常に文字'R'、モディフィケーション・レベルの最初の文字は常に文字'M'です。コンパイラーが使用されなかった場合には、変数はブランクになって戻されません。

トップ

OBJLVLのCL変数 (8) (OBJLVL)

作成されたオブジェクトのオブジェクト制御レベルを戻すために使用される8文字の変数を指定します。

トップ

ALWAPICHGのCL変数 (1) (ALWAPICHG)

「プログラムによる変更可能」フラグを戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトは、オブジェクト記述変更(QLICOBJD) APIで変更できます。
- '0' オブジェクトは、このAPIで変更できません。

トップ

APICHGのCL変数 (1) (APICHG)

「プログラムにより変更」フラグを戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトは、オブジェクト記述変更(QLICOBJD) APIで変更されています。
- '0' オブジェクトは、このAPIによって変更されていません。

トップ

USRCHGのCL変数 (1) (USRCHG)

オブジェクトがユーザーによって変更されたかどうかの指示を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトは、ユーザーによって変更されています。
- '0' オブジェクトは、ユーザーによって変更されていません。

[トップ](#)

LICPGMのCL変数 (16) (LICPGM)

検索されたオブジェクトがライセンス・プログラムの一部である場合に、そのライセンス・プログラムの名前、バージョン・レベル、リリース・レベル、およびモディフィケーション・レベルを戻すために使用される16文字の変数を指定します。変数は、1桁目から始まる7文字の名前、8桁目から始まる3文字のバージョン・レベル、11桁目から始まる3文字のリリース・レベル、および14桁目から始まる3文字のモディフィケーション・レベルで戻されます。バージョン・レベルの最初の文字は常に文字'V'、リリース・レベルの最初の文字は常に文字'R'、モディフィケーション・レベルの最初の文字は常に文字'M'です。検索されたオブジェクトがライセンス・プログラムの一部でない場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

PTFのCL変数 (10) (PTF)

検索されたオブジェクトを作成することとなったプログラム一時修正番号を戻すために使用される10文字の変数を指定します。ユーザー作成オブジェクトの場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

APARのCL変数 (10) (APAR)

正式プログラム分析報告書ID (APAR ID)を戻すために使用される10文字の変数を指定します。変数には、このオブジェクトにパッチが当てられる原因となったAPAR IDで戻されます。APARの結果としてオブジェクトが変更されたものでない場合には、変数はブランクになって戻されます。

このフィールドは、弊社提供のプログラム一時修正が適用されても更新されません。このフィールドが変更されるのは次の場合です。

- コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT) CLコマンドによってコマンドの省略時値が変更された場合。フィールドはCHGDFTに設定されます。
- オブジェクト記述変更(QLICOBJD) APIによって、このフィールドをどの値にも変更できます。

[トップ](#)

OBJAUDのCL変数 (10) (OBJAUD)

オブジェクトの監査値を戻すために使用される10文字の変数を指定します。全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限のいずれかがない場合は、*NOTAVLの値が戻されます。戻される可能性のある値には*NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL,および*NOTAVLです。詳細については、オブジェクト監査変更(CHGOBJAUD)コマンドのオブジェクト監査値(OBJAUD)パラメーターを参照してください。

トップ

OBJSIGのCL変数 (1) (OBJSIG)

オブジェクトにデジタル署名があるかどうかを戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトはデジタル・シグニチャーをもちます。
- '0' オブジェクトはデジタル・シグニチャーをもちません。

トップ

SYSSIGのCL変数 (1) (SYSSIG)

オブジェクトがシステムの信頼するソースによって署名されているかどうかの指示を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトはシステムの信頼するソースによって署名されています。オブジェクトが複数の署名を持っている場合には、それらの署名のうち少なくとも1つはシステムの信頼するソースからきたものです。
- '0' いずれのオブジェクト署名もシステムの信頼するソースからきたものではありません。

トップ

MLTSIGのCL変数 (1) (MLTSIG)

オブジェクトに複数のデジタル署名があるかどうかを戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトに複数のデジタル・シグニチャーがあります。SYSSIGパラメーターの値が'1'の場合には、それらの署名のうち少なくとも1つはシステムの信頼するソースからきたものです。
- '0' オブジェクトにはただ1つのデジタル署名を持っているか、またはデジタル署名はありません。OBJSIGパラメーターを参照して、オブジェクトにデジタル署名があるかどうかを調べてください。

トップ

JRNSTSのCL変数 (1) (JRNSTS)

オブジェクトの現在のジャーナル処理状況を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトは現在ジャーナル処理されています。
- '0' オブジェクトは現在ジャーナル処理されていません。

注: オブジェクトが現在ジャーナル処理されていない場合であっても、他のジャーナル・フィールドにデータが入っていることがあります。

[トップ](#)

JRNのCL変数 (10) (JRN)

現行ジャーナルまたは最後のジャーナルの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

JRNLIBのCL変数 (10) (JRNLIB)

ジャーナルが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

JRNIMGのCL変数 (1) (JRNIMG)

ジャーナル・イメージ情報を戻すために使用される1文字の変数を指定します。オブジェクトに対する変更用に生成されたイメージに応じて、以下の値が戻されます。

- '0' 変更後イメージだけがオブジェクトに対する変更のジャーナルに書き込まれます。
- '1' 変更前イメージと変更後イメージの両方がオブジェクトに対する変更のジャーナルに書き込まれます。

オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

JRNOMTEのCL変数 (1) (JRNOMTE)

除外されるジャーナル項目に関する情報を戻すために使用される1文字の変数を指定します。除外されるジャーナル項目について次の値が戻されることがあります。

- '1' 指定されたオブジェクトに対するオープン操作およびクローズ操作はオープンおよびクローズ・ジャーナル項目を生成しません。
- '0' ジャーナル項目は除外されません。

オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

[トップ](#)

JRNSTRDATEのCL変数 (13) (JRNSTRDATE)

ジャーナル処理が最後に開始された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはオブジェクトがジャーナル処理されていない場合場合にはブランクになって戻されます。

[トップ](#)

STRJRNRVCVのCL変数 (10) (STRJRNRVCV)

ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCVG)またはジャーナル処理済み変更の除去(RMVJRNCVG)コマンドの正常使用に必要な最古のジャーナル・レシーバーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、このフィールドはブランクになります。

ファイル・オブジェクトでは、ジャーナル・レシーバーには、保管開始操作を表す項目が入れられます。ただし、部分トランザクションを含むメンバーがファイル中にある場合は、それらのメンバーで以前のジャーナル・レシーバーが必要になることがあります。ファイル内のメンバーの部分トランザクションの状態を調べるには、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

JRNRCVLIBのCL変数 (10) (JRNRCVLIB)

開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、このフィールドはブランクになります。

[トップ](#)

RCVLIBASPのCL変数 (10) (RCVLIBASP)

開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、このフィールドはブランクになります。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

[トップ](#)

RCVLIBGRPのCL変数 (10) (RCVLIBGRP)

開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される値は、RCVLIBASPパラメーターで戻される値と同じであることがあります。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、このフィールドはブランクになります。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

トップ

例

JANE BROWNが次のコマンドを入力してライブラリーを作成します。

```
CRTLIB LIB(PGMLIB) TYPE(*PROD)
      TEXT('LIBRARY FOR TEST PROGRAMS')
```

後でJANEまたは適切な権限をもつ他の誰かが次に示すCLプログラムでライブラリーの属性を検索できます。

```
DCL &CRTDATE *CHAR 13
DCL &OWN *CHAR 10
DCL &RTNLIB *CHAR 10
DCL &OBJASPDEV *CHAR 10
:
RTVOBJD OBJ(*LIBL/PGMLIB) OBJTYPE(*LIB) TEXT(&TEXT) +
      CRTDATE(&CRTDATE) OWNER(&OWN) +
      RTNLIB(&RTNLIB) OBJASPDEV(&OBJASPDEV)
```

CLプログラムの変数に戻される値を以下に示します。

```
&TEXT = テスト・プログラムのライブラリー
&CRTDATE = 0900211130000
&OWN = JBROWN
&RTNLIB = QSYS
&OBJASPDEV = *SYSBAS
```

変数&CRTDATEに戻される値は、PGMLIBが1990年2月11日の1300時に作成されたことを示します。変数&OWNに戻される値は、ライブラリーがユーザー・プロファイルJBROWNによって作成されたことを示します。変数&RTNLIBに戻される値は、PGMLIBがライブラリーQSYSにあることを示します。変数&OBJASPDEVに戻される値は、PGMLIBの記憶域がシステム補助記憶域プール(ASP 1)およびいずれかの定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)を含む*SYSBASから割り振られたことを示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2173

ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF218D

*ASPGRPが指定されている時に、&1が1次ASPになっていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF36F7

メッセージ待ち行列QSYSOPRは別のジョブに割り振られている。

CPF980B

ライブラリー&2のオブジェクト&1を使用できない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9833

*CURASGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

[トップ](#)

PDGプロファイル検索 (RTVPDGPRF)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ・プロファイル検索(RTVPDGPRF)コマンドをCLプログラムまたはREXXプロシージャで使用して、ユーザー・プロファイルと関連した1つまたは複数の印刷記述子グループのプロファイル値を検索します。所要のユーザーに指定されたCL変数に値が戻されます。

制約事項:

1. プログラムはそのコマンドに対して*OBJOPR権限が必要です。
2. プログラムはそのユーザー・プロファイルに対して*READ権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	必須, 定位置 1
RTNUSER	RTNUSER用CL変数	文字値	オプション
PDG	PDG用CL変数	文字値	オプション
PDGLIB	PDGLIB用CL変数	文字値	オプション
PRTD	PRTD用CL変数	文字値	オプション

トップ

ユーザー・プロファイル (USER)

印刷記述子グループ(PDG)プロファイルについて確認するユーザー・プロファイル名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

現行ジョブのユーザーのユーザー・プロファイルを検査します。

ユーザー名

確認するユーザー・プロファイルを指定してください。

トップ

RTNUSER用CL変数 (RTNUSER)

制御言語(CL)プログラムで、情報が必要なユーザー・プロファイルの名前を受け取るために使用される10桁の変数の名前を指定します。

PDG用CL変数 (PDG)

制御言語(CL)プログラムで、情報が必要なユーザーのPDGプロファイルを受け取るために使用される10桁の変数の名前を指定します。

トップ

PDGLIB用CL変数 (PDGLIB)

制御言語(CL)プログラムで、情報が必要なユーザーのPDGプロファイルのライブラリーを受け取るために使用される10桁の変数の名前を指定します。

トップ

PRTD用CL変数 (PRTD)

制御言語(CL)プログラムで、情報が必要なユーザーのPDGプロファイルのライブラリーを受け取るために使用される10桁の変数の名前を指定します。

トップ

例

*OBJMGT権限をもつユーザーが次のコマンドを入力したとします。

```
CHGUSRPRF  USER(JWONG)  PDG(*LIBL/TAXFORMS)  PRTD(FORM_C1)
```

また、*OBJMGT権限をもつプログラムに次のコマンドおよび宣言が含まれているものとします。

```
DCL  VAR(&USER)      TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&GROUP)     TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&LIBRARY)   TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&DESCRIPT)  TYPE(*CHAR)  LEN(256)
RTVPDGPRF  USER(JWONG)  RTNUSER(&USER)  PDG(&GROUP)  PDGLIB(&LIBRARY)
           PRTD(&DESCRIPT)
```

上記のプログラムを呼び出すと、以下の値が戻されます。

```
&USER      'JWONG      '
&GROUP     'TAXFORMS   '
&LIBRARY   'TAXLIB    '
&DESCRIPT  'FORM_C1 ... '
```

注:変数&DESCRIPTに返される値はFORM_C1とその後に249個のブランクが続いて値です。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2247

内部機密保護オブジェクトが使用可能でない。理由コードは&1です。

[トップ](#)

電源スケジュール項目の検索 (RTVPWRSCDE)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

電源オン/オフ・スケジュール項目検索(RTVPWRSCDE)コマンドは、CLまたはREXXプログラムでの使用のために電源オン/オフ・スケジュール項目の値を検索します。値はプログラム中の指定されたCL変数に戻されます（コピーされます）。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、電源オン/オフ・スケジュール表示(DSPPWRSCD)コマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DAY	日	日付, *TODAY, *SUN, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT	オプション, 位置 1
PWRONTIME	PWRONTIMEのCL変数 (6)	文字値	オプション
PWROFFTIME	PWROFFTIMEのCL変数 (6)	文字値	オプション
DAYDESC	DAYDESCのCL変数 (38)	文字値	オプション
MSGITV	MSGITVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション

トップ

日 (DAY)

電源オン/オフ・スケジュール項目を検索する日付を指定します。

*TODAY

現行日付のスケジュール項目が検索されます。

***SUN** 日曜日のスケジュール項目が検索されます。

***MON** 月曜日のスケジュール項目が検索されます。

***TUE** 火曜日のスケジュール項目が検索されます。

***WED** 水曜日のスケジュール項目が検索されます。

***THU** 木曜日のスケジュール項目が検索されます。

***FRI** 金曜日のスケジュール項目が検索されます。

***SAT** 土曜日のスケジュール項目が検索されます。

日付 スケジュール項目を検索する日付を指定してください。日付はジョブ属性によって指定したものと
同じ形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

PWRONTIMEのCL変数 (6) (PWRONTIME)

電源オン時刻を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小6文字です。特殊値
*NONEまたは形式HHMMSS（ここで、HH=時間、MM=分、およびSS=秒）の時刻が戻されます。

[トップ](#)

PWROFFTIMEのCL変数 (6) (PWROFFTIME)

電源オフ時刻を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小6文字です。特殊値
*NONEまたは形式HHMMSS（ここで、HH=時間、MM=分、およびSS=秒）の時刻が戻されます。

[トップ](#)

DAYDESCのCL変数 (38) (DAYDESC)

日付記述値を受け取るCL変数の名前を指定します。日付記述はその日付の電源オン/オフ・スケジュール
の説明です。指定する変数の長さは最小38文字です。

[トップ](#)

MSGITVのCL変数 (2 0) (MSGITV)

メッセージ間隔値を受け取るCL変数の名前を指定します。メッセージ間隔は、ユーザーに電源オフを警告
するメッセージがすべてのワークステーションに送られてからスケジュールされた電源オフが実行されるま
での時間（分数）です。指定する変数の長さは最小2文字です。

[トップ](#)

例

例1:本日のスケジュール項目の検索

```
DCL VAR(&ONTIME) TYPE(*CHAR) LEN(6)
DCL VAR(&OFFTIME) TYPE(*CHAR) LEN(6)
RTVPWRSCDE DAY(*TODAY) PWRONTIME(&ONTIME) +
            PWROFFTIME(&OFFTIME)
```

このコマンドは、本日の電源オンとオフ時刻を検索します。

例2:火曜日のスケジュール項目の検索

```
DCL VAR(&ONTIME) TYPE(*CHAR) LEN(6)
DCL VAR(&OFFTIME) TYPE(*CHAR) LEN(6)
RTVPWRSCDE DAY(*TUE) PWRONTIME(&ONTIME) PWROFFTIME(&OFFTIME)
```

このコマンドは、火曜日の電源オンとオフ時刻を検索します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2B

電源スケジューラーおよびクリーンアップ・オプションが見つからない。

CPF1E23

電源スケジュールまたはクリーンアップ・オプションは別のユーザーが使用中である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

[トップ](#)

QUERY管理機能書式の検索 (RTVQMFORM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能書式検索(RTVQMFORM)コマンドによって、QUERY管理機能書式(QMFORM)オブジェクトからエンコードされた書式ソース・レコードを検索することができます。ソース・レコードは編集可能なソース・ファイル・メンバーに入れます。

指定されたQMFORMが存在しない場合には、QUERY定義(QRYDFN)オブジェクトから書式のソース・レコードを検索することもできます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QMFORM	QUERY管理機能報告書書式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能報告書書式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *QMFORM	オプション, 定位置 3
ALWQRYDFN	QRYDFNからの情報使用可能	*NO, *YES, *ONLY	オプション

[トップ](#)

QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)

ソースを検索するQUERY管理機能書式オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能報告書書式

名前 検索する書式の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

書式を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

エンコードされた書式のソース・レコードが書き出される前に作成されたソース物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 書式のソース・レコードを受け取るソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

エンコードされた書式のソース・レコードが書き出されるソース物理ファイル・メンバーを指定します。ソース・ファイル・メンバー名が指定されていない場合には、QMFORMパラメーターに指定された書式名が使用されます。

このコマンドを実行する前にメンバーが存在していた場合には、ソース・ステートメントが書き出される前に消去されます。メンバーが存在しない場合には作成されます。

***QMFORM**

メンバー名は、QMFORMパラメーターに指定された書式名と同じです。

名前 書式ソースを検索するためにメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)

指定されたオブジェクト名を使用してQUERY管理機能書式(QMFORM)オブジェクトを見つけることができない時にQRYDFNオブジェクトから書式情報を取り出すかどうかを指定します。この方法で得られた情報は、コマンドが処理を完了した時に破棄されます。QUERY 管理機能オブジェクトは作成されません。

***NO** 情報はQRYDFNオブジェクトから取り出されません。

***YES** 指定されたQMQRYSオブジェクトが見つからない時に、QRYDFNオブジェクトから情報が取り出されます。

***ONLY**

情報はQRYDFNからしか取り出されません。QUERY管理機能オブジェクトは無視されます。

[トップ](#)

例

例1:エンコードされた書式ソースを検索

```
RTVQMFORM QMFORM(RPTLIB/SALFORM) SRCFILE(FORMS)
           SRCMBR(EMPFORM)
```

このコマンドは、ライブラリーRPTLIBにある書式（名前SALFORM）からエンコードされた書式ソースを検索します。エンコードされた書式ソース・レコードが検索されると、ユーザー・ライブラリー・リストの最初のファイル（名前FORMS）の新しく作成されたかクリアされたメンバー（名前EMPFORM）に入れられます。

例2: QMFORMまたはQRYDFNのいずれかからソースを検索

```
RTVQMFORM QMFORM(RPTLIB/SALFORM) SRCFILE(FORMS)
           SRCMBR(EMPFORM) ALWQRYDFN(*YES)
```

このコマンドは、RPTLIBライブラリーにある名前SALFORMのQUERY管理機能書式(QMFORM)からエンコードされた書式ソースを検索します。名前SALFORMのQMFORMオブジェクトがRPTLIBライブラリーにならない場合には、書式ソースはRPTLIBライブラリーの名前SALFORMのQUERY定義(QRYDFN)から検索されます。エンコードされた書式ソース・レコードが検索されると、ユーザー・ライブラリー・リストの最初のファイル（名前FORMS）に入れられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2705

&2のソース・ファイル&1が使用不能である。

[トップ](#)

QUERY管理機能プログラム検索 (RTVQMQR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能プログラム検索(RTVQMQR)コマンドによって、QUERY管理機能プログラム(QMQR)オブジェクトから構造化照会言語(SQL)のソース・レコードを検索することができます。ソース・レコードは編集可能なソース・ファイル・メンバーに入れられます。

指定されたQMQRが存在しない場合には、QUERY定義(QRYDFN)オブジェクトからQUERYのソース・レコードを検索することもできます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QMQR	QUERY管理機能プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *QMQR	オプション, 定位置 3
ALWQRYDFN	QRYDFNからの情報使用可能	*NO, *YES, *ONLY	オプション

トップ

QUERY管理機能プログラム (QMQR)

ソースを検索するQUERY管理機能プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能プログラム

名前 ソースを検索するQUERYの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

QUERYのソース・レコードが書き出される、前に作成されたソース物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 検索するQUERYのソース・レコードを受け取るソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

QUERYのソース・レコードが書き出されるソース・ファイル・メンバーを指定します。このコマンドを実行する前にメンバーが存在していた場合には、ソース・レコードが書き出される前に消去されます。メンバーが存在しない場合には作成されます。

***QMQR**

メンバー名は、QMQRパラメーターに指定されたQUERY名と同じです。

名前 QUERYソースを受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)

指定されたオブジェクト名を使用してQUERY管理機能(QMQR)オブジェクトを見つけることができない場合に、QUERY定義(QRYDFN)オブジェクトからQUERY情報を取り出すかどうかを指定します。この方法で得られた情報は、コマンドが処理を完了した時に破棄されます。QUERY 管理機能オブジェクトは作成されません。

***NO** 情報はQRYDFNオブジェクトから取り出されません。

***YES** 指定されたQMQRYPオブジェクトが見つからない時に、QRYDFNオブジェクトから情報が取り出されます。

***ONLY**

情報はQRYDFNオブジェクトからのみ取り出されます。QUERY管理機能オブジェクトは無視されます。

トップ

例

例1: SQLソースを検索

```
RTVQMQRYP QMQRYP(RPTLIB/SALQRYP) SRCFILE(QRYS) SRCMBR(EMPQRYP)
```

このコマンドは、RPTLIBライブラリーにあるQUERY（名前SALFORM）からソースを検索します。ソース・レコードが検索されると、ユーザー・ライブラリー・リストの最初のファイル（名前QRYS）の新しく作成されたかクリアされたメンバー（名前EMPQRYP）に入れられます。

例2: QMQRYPまたはQRYDFNのいずれかからソースを検索

```
RTVQMQRYP QMQRYP(RPTLIB/SALQRYP) SRCFILE(QRYS) SRCMBR(EMPQRYP)  
ALWQRYDFN(*YES)
```

このコマンドは、RPTLIBライブラリーの名前SALQRYPのQUERY管理機能プログラムQUERY(QMQRYP)からソースを検索します。名前SALQRYPのQMQRYPオブジェクトがRPTLIBライブラリーにない場合には、QUERYソースはRPTLIBライブラリーの名前SALQRYPのQUERY定義(QRYDFN)から検索されます。ソース・レコードは、ユーザー・ライブラリー・リストの最初のファイル（名前QRYS）の新しく作成されたかクリアされたメンバー（名前EMPQRYP）に入れられます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2705

&2のソース・ファイル&1が使用不能である。

トップ

S/36環境属性の検索 (RTVS36A)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

システム/36属性の検索(RTVS36A)コマンドによって、ユーザーはシステム/36 環境構成の特定の属性情報を検索して、CLプログラムまたはREXXプロシージャに指定された変数にその情報を提供することができます。1つまたは複数の属性に関する情報を検索することができます。

検索できるシステム/36属性の詳細については、システム/36属性変更(CHGS36A)コマンドのヘルプ情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ENV	環境名	名前, # <u>LIBRARY</u>	オプション, キー
SLIB	SLIBのCL変数 (8)	文字値	オプション
FLIB	FLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
LIBL	LIBLのCL変数 (4)	文字値	オプション
DATDIFF	DATDIFFのCL変数 (4)	文字値	オプション
S36ESHARE	S36ESHAREのCL変数 (4)	文字値	オプション
RCDBLK	RCDBLKのCL変数 (4)	文字値	オプション
CACHEDLTF	CACHEDLTFのCL変数 (4)	文字値	オプション
LPPAGE	LPPAGEのCL変数 (3)	文字値	オプション
FORMTYPE	FORMTYPEのCL変数 (4)	文字値	オプション
DFTMSGACN	DFTMSGACNのCL変数 (9)	文字値	オプション
HALTOPT	HALTOPTのCL変数 (4)	文字値	オプション
EVKJOBINIT	EVKJOBINITのCL変数 (6)	文字値	オプション
EVKJOBPOL	EVKJOBPOLのCL変数 (8)	文字値	オプション
EVKJOBPTY	EVKJOBPTYのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCRCLEN	SRCRCLENのCL変数 (3)	文字値	オプション
CHGACT	CHGACT用のCL変数 (4)	文字値	オプション
ADDS36ONLY	ADDS36ONLY用のCL変数 (4)	文字値	オプション
ICFSUBST	ICFSUBST用のCL変数 (4)	文字値	オプション
MRTUSRPRF	MRTUSRPRFのCL変数 (8)	文字値	オプション
MRTAUT	MRTAUTのCL変数 (8)	文字値	オプション
MRTDLY	MRTDLYのCL変数 (5)	文字値	オプション
MRTJOBINIT	MRTJOBINITのCL変数 (6)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MRTJOBPOL	MRTJOBPOLのCL変数 (8)	文字値	オプション
MRTJOBPTY	MRTJOBPTYのCL変数 (10)	文字値	オプション

トップ

環境名 (ENV)

ユーザーが属性を検索しているシステム/36環境の名前を指定します。値は#LIBRARYで、これを変更することはできません。

これは必須パラメーターです。

トップ

SLIBのCL変数 (8) (SLIB)

システム/36環境で実行中のジョブについて省略時のセッション・ライブラリーの名前を受け取るための8桁の変数の名前を指定します。

トップ

FLIBのCL変数 (10) (FLIB)

システム/36環境で実行中のジョブについて省略時のファイル・ライブラリーの名前を受け取る10桁の変数の名前を指定します。

トップ

LIBLのCL変数 (4) (LIBL)

システム/36環境で実行中のジョブで、ライブラリー・リストが使用されるかどうかについての情報を受け取るための4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

トップ

DATDIFFのCL変数 (4) (DATDIFF)

システム/36環境で実行中のジョブで、同じ名前だが、別の日付をもつファイルを使用できるかどうかについて、情報を受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

トップ

S36ESHAREのCL変数 (4) (S36ESHARE)

システム/36環境でオープンされたデータベース・ファイルに対して、プログラムがオープン・データ・パス(ODP)を共用するかどうかについて、情報を受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

[トップ](#)

RCDBLKのCL変数 (4) (RCDBLK)

システム/36環境でオープン・データ・パスを共用する順次データベース・ファイルで、レコードのブロック化を使用するかどうかについて、情報を受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

[トップ](#)

CACHEDLTFのCL変数 (4) (CACHEDLTF)

システム/36環境のキャッシュに削除されるファイルを保管するかどうかの情報を受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

[トップ](#)

LPPAGEのCL変数 (3) (LPPAGE)

システム/36環境で実行中のジョブについて、1ページに印刷される行数を受け取る3桁の変数の名前を指定します。変数には、1-112の範囲の値が戻されます。

[トップ](#)

FORMTYPEのCL変数 (4) (FORMTYPE)

システム/36環境でジョブを印刷する時に、使用される印刷装置用紙の用紙タイプを受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*STDまたはユーザー定義の用紙タイプの値が戻されます。

[トップ](#)

DFTMSGACNのCL変数 (9) (DFTMSGACN)

システム/36環境のプロシージャー内でCLコマンドを実行中にエラーが起こった時に、システム/36環境で使用される省略時のメッセージの処置を受け取る9桁の変数の名前を指定します。変数には、*CONTINUE, *HALT, IGNORE,または*CANCELの値が戻されます。

[トップ](#)

HALTOPTのCL変数 (4) (HALTOPT)

省略時のメッセージの処置に*HALTが指定されている時に、システム/36環境でエラーが起こった後、継続についてのオプション・リストを受け取る4桁の変数の名前を指定します。

[トップ](#)

EVKJOBINITのCL変数 (6) (EVKJOBINIT)

システム/36環境でEVOKEジョブまたはジョブ・ステップの開始に使用される方式について、値を受け取る6桁の変数の名前を指定します。変数には、*IMMEDまたは*JOBQの値が戻されます。

[トップ](#)

EVKJOBPOLのCL変数 (8) (EVKJOBPOL)

システム/36環境で*IMMEDオプションで開始されるジョブに使用される記憶域プールについて、値を受け取る8桁の変数の名前を指定します。変数には、*BASEまたは*CURRENTの値が戻されます。

[トップ](#)

EVKJOBPTYのCL変数 (10) (EVKJOBPTY)

システム/36環境で*IMMEDオプションでジョブが開始される時に、そのジョブを開始する優先順位について、値を受け取る10桁の変数の名前を指定します。変数には、1-99の範囲の値または*SUBMITTERの値が戻されます。

[トップ](#)

SRCRCDLLENのCL変数 (3) (SRCRCDLLEN)

システム/36ソース・ファイルQS36PRCおよびQS36SRCのレコード長（バイト数）を受け取る3桁の変数の名前を指定します。変数には、52-132の範囲の値が戻されます。

[トップ](#)

CHGACT用CL変数(4) (CHGACT)

他のユーザーがシステム/36環境にサインオンしている時に、システム/36変更(CHGS36)コマンドを使用して構成オブジェクトを更新できるかどうかを指示する値を受け取る4桁のCL変数の名前を指定します。この変数には、値*NOまたは*YESが戻されます。

[トップ](#)

ADDS36ONLY用CL変数(4) (ADDS36ONLY)

装置がシステム/36環境にサインオンしている時に、ワークステーション装置をシステム/36環境構成に追加できるかどうかを指示する値を受け取る4桁のCL変数の名前を指定します。この変数には、値*NOまたは*YESが戻されます。

[トップ](#)

ICFSUBST用CL変数(4) (ICFSUBST)

システム間通信機能(ICF)開始要求を置換式のために走査するかどうかを指示する値を受け取る4桁のCL変数の名前を指定します。この変数には、値*NOまたは*YESが戻されます。

[トップ](#)

MRTUSRPRFのCL変数 (8) (MRTUSRPRF)

複数要求端末(MRT)プログラムを実行する時のユーザー・プロファイルを受け取る8桁の変数の名前を指定します。変数には、*OWNERまたは*FRSTUSRの値が戻されます。

[トップ](#)

MRTAUTのCL変数 (8) (MRTAUT)

MRTプログラムで使用されるファイルに対するユーザー権限を受け取る8桁の変数の名前を指定します。変数には、*ALLUSRまたは*FRSTUSRの値が戻されます。

[トップ](#)

MRTDLYのCL変数 (5) (MRTDLY)

MRTプログラムを終了する前にシステムが遅延する時間(秒数)を受け取る5桁の変数の名前を指定します。変数には、0-32767の範囲の値が戻されます。

[トップ](#)

MRTJOBINITのCL変数 (6) (MRTJOBINIT)

システム/36環境でMRTジョブの開始に使用される方式の値を受け取る6桁の変数の名前を指定します。変数には、*IMMEDまたは*JOBQの値が戻されます。

[トップ](#)

MRTJOBPOLのCL変数 (8) (MRTJOBPOL)

システム/36環境で*IMMEDオプションで開始されるMRTジョブに使用される記憶域プールの値を受け取る8桁の変数の名前を指定します。変数には、*BASEまたは*CURRENTの値が戻されます。

MRTJOBPTYのCL変数 (10) (MRTJOBPTY)

*IMMEDオプションで開始されるMRTジョブを開始するための優先順位の値を受け取る10桁の変数の名前を指定します。変数には、1-99の範囲の値または*SUBMITTERの値が戻されます。

トップ

例

```
RTVS36A RCBBLK(&RBLOCK) HALT(&OPTION) MRTUSRPRF(&USERID)
```

このコマンドは共用ファイルのレコード・ブロッキング値、停止オプション・リスト、およびMRTを実行しているそのユーザー・プロファイルを検索します。共用ファイルのレコード・ブロッキング値はCL変数&RBLOCKにコピーされます。これは4桁の長さでなければなりません。停止オプション・リストはCL変数&OPTIONにコピーされます。これは少なくとも4桁の長さでなければなりません。MRTを実行しているそのユーザー・プロファイルはCL変数&USERIDにコピーされます。これは8桁の長さでなければなりません。

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

サービス・エージェントの検索 (RTVSRVAGT)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ

リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

サービス・エージェントの検索(RTVSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントについての情報を検索できます。

サービス・エージェントの自動処理が可能な最大3つの有効な曜日を検索して、指定したCL変数に入れることができます。この曜日は、コマンドが使用されるシステムまたは論理区画に有効なものです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DAY1	1番目の日のCL変数	文字値	オプション
DAY2	2番目の日のCL変数	文字値	オプション
DAY3	3番目の日のCL変数	文字値	オプション

[トップ](#)

1番目の日のCL変数(DAY1)

サービス・エージェントの自動処理を行うことができる最初の曜日を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。

戻される曜日は以下の特殊値のいずれかです。*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT,または*SUN。

[トップ](#)

2番目の日のCL変数(DAY2)

サービス・エージェントの自動処理を行うことができる2番目の曜日を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。

戻される曜日は以下の特殊値のいずれかです。*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT,または*SUN。

[トップ](#)

3番目の日のCL変数(DAY3)

サービス・エージェントの自動処理を行うことができる3番目の曜日を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。

戻される曜日は以下の特殊値のいずれかです。*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT,または*SUN。

[トップ](#)

例

```
DCL &FIRSTDAY TYPE(*CHAR) LEN(4)
DCL &SECONDDAY TYPE(*CHAR) LEN(4)
DCL &THIRDDAY TYPE(*CHAR) LEN(4)
:
RTVSRVAGT DAY1(&FIRSTDAY) DAY2(*SECONDDAY) DAY3(&THIRDDAY)
```

このコマンドは、サービス・エージェント自動機能（自動PTFと自動テスト）の3つの有効な曜日を検索します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

停止語句リスト・ソースの検索 (RTVSWLSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE RETRIEVE STOP WORD LIST SOURCE (RTVSWLSRC) COMMAND IS USED TO RETRIEVE THE WORDS FROM AN IBM-SUPPLIED OR USER-CREATED STOP WORD LIST INTO A SOURCE FILE.

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LANGID	言語識別コード	文字値	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *LANGID	オプション
TYPE	停止語句リスト・タイプ	*IBM, *USER	オプション

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

SPECIFIES THE LANGUAGE IDENTIFIER (ID) FOR THE STOP WORD LIST.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

SPECIFIES THE QUALIFIED NAME OF THE SOURCE FILE USED TO RECEIVE THE STOP WORD LIST WORDS. THE CONTENTS OF THE SOURCE FILE ARE REPLACED.

SOURCE-FILE-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE SOURCE FILE.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

***LIBL** ALL LIBRARIES IN THE LIBRARY LIST FOR THE CURRENT THREAD ARE SEARCHED UNTIL THE FIRST MATCH IS FOUND.

***CURLIB**

THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB IS USED TO LOCATE THE SOURCE FILE. IF NO LIBRARY IS SPECIFIED AS THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB, THE QGPL LIBRARY IS USED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY WHERE THE SOURCE FILE IS LOCATED.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

SPECIFIES THE NAME OF THE SOURCE FILE MEMBER USED TO RECEIVE THE STOP WORD LIST WORDS. THE MEMBER IS IN THE SOURCE FILE SPECIFIED ON THE SRCFILE PARAMETER.

***LANGID**

THE LANGUAGE ID IS USED AS THE SOURCE FILE MEMBER NAME.

SOURCE-FILE-MEMBER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE MEMBER IN THE SOURCE FILE USED TO RECEIVE THE STOP WORD LIST.

[トップ](#)

停止語句リスト・タイプ (TYPE)

SPECIFIES THE TYPE OF STOP WORD LIST BEING RETRIEVED

***IBM** THE STOP WORD LIST IS IBM-SUPPLIED.

***USER**

THE STOP WORD LIST IS USER-CREATED.

[トップ](#)

例

```
RTVSWLSRC LANGID(ENG) SRCFILE(MYLIB/MYFILE)
```

THIS COMMAND RETRIEVES THE STOP WORD LIST INTO SOURCE FILE MYFILE IN LIBRARY MYLIB THAT HAS THE LANGUAGE ID ENG.

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

CPF8723

データベース・ソース・ファイルのレコード長が小さすぎる。

CPF8725

&1タイプ停止語リストが言語用にサポートされていない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

システム情報の検索 (RTVSYSDIAG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム情報検索(RTVSYSDIAG)コマンドは、システムから重要なシステム情報を収集し、それをライブラリー(LIB)パラメーターで指定したライブラリーに入れます。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*SAVSYS権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

システム情報を含むオブジェクトが記憶されるライブラリーを指定します。省略時の値はありません。また、このライブラリーはシステムに存在しているものでなければなりません。

ライブラリー

システム情報を含むオブジェクトが記憶されるライブラリーを指定してください。省略時の値はありません。そのライブラリーはシステム上に存在しなければなりません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPFA95F

システム情報の検索中にエラーが起こった。

[トップ](#)

システム値検索 (RTVSYVAL)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム値検索 (RTVSYVAL) コマンドは、指定されたシステム値から値を検索してプログラムでそれが使用できるようにするために、CLプログラムで使用します。値はプログラム中の指定されたCL変数に戻されます (コピーされます)。

制約事項:

1. このコマンドはCLプログラムまたはREXXプロシージャの中でのみ有効です。
2. システム値および受け取るCL変数の属性は、互換性のあるものでなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSVAL	システム値	QABNORMSW, QACGLVL, QACTJOB, QADLACTJ, QADLSPLA, QADLTOTJ, QALWJOBITP, QALWOBJRST, QALWUSRDMN, QASTLVL, QATNPGM, QAUDCTL, QAUDENDACN, QAUDFRCLVL, QAUDLVL, QAUDLVL2, QAUTOCFG, QAUTORMT, QAUTOSPRPT, QAUTOVRT, QBASACTLVL, QBASPOOL, QBOOKPATH, QCCSID, QCENTURY, QCFGMSGQ, QCHRID, QCHRIDCTL, QCMNARB, QCMNRCYLMT, QCNTYID, QCONSOLE, QCRTAUT, QCRTOBAUD, QCTLSBSD, QCURSYM, QDATE, QDATETIME, QDATFMT, QDATSEP, QDAY, QDAYOFWEEK, QDBFSTCCOL, QDBRCVYWT, QDECFMT, QDEVNAMING, QDEVRCYACN, QDSCJOBIV, QDSPSGNINF, QDYNPTYADJ, QDYNPTYSCD, QENDJOBMT, QFRCCVNRST, QHOUR, QHSTLOGSIZ, QIGC, QIGCCDEFNT, QIGCFNTSIZ, QINACTMSGQ, QINACTITV, QIPLDATTIM, QIPLSTS, QIPLTYPE, QJOBMSGQFL, QJOBMSGQMX, QJOBMSGQSZ, QJOBMSGQTL, QJOBSPLA, QKBDDBUF, QKBDTYPE, QLANGID, QLEAPADJ, QLIBLCKLVL, QLMTDEVSSN, QLMTSECOFR, QLOCALE, QLOGOUTPUT, QMAXACTLVL, QMAXJOB, QMAXSGNACN, QMAXSIGN, QMAXSPLF, QMCHPOOL, QMINUTE, QMLTTHDACN, QMODEL, QMONTH, QPASTHRSVR, QPFRADJ, QPRBFTR, QPRBHLDTIV, QPRCFEAT, QPRCMLTTSK, QPRTDEV, QPRTKEYFMT, QPRTTXX, QPWDEXPITV, QPWLMTAJC, QPWLMTCHR, QPWLMTREP, QPWLVL, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDIF, QPWDRQDDGT, QPWDRQDDIF, QPVDVLDPGM, QPWRDWNLMT, QPWRSTIPL, QQRYDEGREE, QQRYTIMLMT, QRCLSPLSTG, QRETSVRSEC, QRMTIPL, QRMTSIGN, QRMTSRVATR, QSAVACCPH, QSCANFS, QSCANFCTL, QSCPFCONS, QSECOND, QSECURITY, QSETJOBATR, QSFWERRLOG, QSHRMEMCTL, QSPCENV, QSPLFACN, QSRLNBR, QSRTSEQ, QSRVDMP, QSTGLOWACN, QSTGLOWLMT, QSTRPRTWTR, QSTRUPPGM, QSTMSG, QSVRAUTITV, QSYSLIBL, QTHDRSCADJ, QTHDRSCAFN, QTIMADJ, QTIME, QTIMSEP, QTIMZON, QTOTJOB, QTSEPOOL, QUPSDLYTIM, QUPSMGQ, QUSEADPAUT, QUSRLIBL, QUTCFFSET, QVYOBJRST, QYEAR	必須, 定位置 1
RTNVAR	戻された値のCL変数	無制限	必須, 定位置 2

トップ

システム値 (SYSVAL)

値を検索して、プログラムで使用するために戻すシステム値の名前を指定します。指定することができるシステム値の名前および説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「実行管理機能」情報にあります。

これは必須パラメーターです。

システム値は次の通りです。

QABNORMSW

前のシステム終了標識。この値は変更できません。

- '0'は直前の終了が正常であったことを意味します。
- '1'は直前の終了が異常であったことを意味します。

QACGLVL

会計レベル。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *NONE -会計情報はジャーナルに書き込まれません。
- *JOB -ジョブ資源の用途がジャーナルに書き込まれます。
- *PRINT -スプールおよび印刷装置ファイル資源の用途がジャーナルに書き込まれます。

QACTJOB

記憶域が割り振られる初期活動ジョブ数。このシステム値に対して行われた変更は、次回のIPL時に有効となります。

QADLACTJ

記憶域が割り振られる追加の活動ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QADLSPLA

スプーリング制御ブロックを拡張するための追加の記憶域 (バイト数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QADLTOTJ

記憶域が割り振られる追加の合計ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QALWJOBTP

ジョブは割り込みできます。このシステム値は、そのジョブでユーザー定義の出口プログラムを実行するジョブを割り込みするユーザー開始要求にシステムが応答する方法を指定します。ISERIES INFORMATION CENTERのジョブ割り込みプログラムの呼び出し(QWCJBITP) APIには、ジョブ割り込み出口プログラムを使用する時の情報が入っています。ISERIES INFORMATION CENTERのジョブ割り込み状況の変更(QWCCJITP) APIには、ジョブの割り込み状況を検索および変更する時の情報が入っています。活動ジョブの割り込み状況は、任意の時に変更できますが、有効になるのはQALWJOBTPの値によりジョブを割り込みできる時だけです。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は0です。

- 0は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できないことを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、割り込み不可に省力時指定されます。ジョブ割り込み状況の設定内容にかかわらず、すべての活動ジョブは割り込み不可です。

- 1は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できることを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、割り込み不可に省力時指定されます。
- 2は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できることを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、割り込み可能に省力時指定されます。

QALWBJRST

オブジェクト復元の許可。このシステム値は、機密属性を持つオブジェクトが復元されるかどうかを決定します。詳細については、復元オプションを参照してください。

QALWUSRDMN

ライブラリーまたはディレクトリー中のユーザー・ドメイン・オブジェクトを許可します。このシステム値は、システム上のどのライブラリーにユーザー・ドメイン・ユーザー・オブジェクト *USRSPC (ユーザー空間) , *USRIDX (ユーザー見出し) , および*USRQ (ユーザー待ち行列) を入れることができるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QASTLVL

操作援助レベル。ASTLVL(*SYSVAL)が指定されたユーザー・プロファイルについてシステム画面の操作援助機能レベルを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *BASIC -操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。
- *INTERMED -システム・インターフェースが使用されます。
- *ADVANCED - EXPERTシステム・インターフェースが使用されます。

*ADVANCEDレベル・インターフェースがないコマンドの場合には、*INTERMEDが使用されます。

QATNPGM

アテンション・プログラム。このシステム値に対して*ASSISTが指定された場合には、ユーザーがアテンション(ATTN)キーを押した時に、操作援助機能メイン・メニューが呼び出されます。この値は、ユーザー・プロファイルにATNPGM(*SYSVAL)が指定されたジョブでユーザーがATTNキーを押した時に呼び出されるプログラムの名前に変更することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QAUDCTL

監査制御。このシステム値には、オブジェクトおよびユーザー処置の監査用のオン/オフ・スイッチが入っています。このシステム値は、オブジェクト監査の変更 (CHGOBJAUD)およびユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD)コマンドとQAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値によって選択されたシステム上の監査を活動化します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *NONE -システム上で機密保護監査は行われません。これが配送値です。
- *AUDLVL - QAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値に指定された処置が機密保護ジャーナルに対して記録されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値によって指定された処置も監査されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値は、CHGUSRAUDコマンドのAUDLVLパラメーターを通じて設定されます。
- *OBJAUD - *NONE以外のオブジェクト監査値を持つオブジェクトに対する処置が監査されません。オブジェクトの監査値は、変更監査値 (CHGAUD)コマンドまたはCHGOBJAUDコマンドを通じて設定されます。

- *NOQTEMP - QTEMP中のほとんどのオブジェクトの監査は行われません。*NOQTEMPは、*OBJAUD または*AUDLVLのいずれかと一緒に指定しなければなりません。*NOQTEMP単独で指定することはできません。

QAUDENDACN

監査ジャーナル・エラー処置。このシステム値は、オペレーティング・システムが機密保護監査ジャーナルに監査ジャーナル項目を送ろうとした時にエラーが起こった場合にシステムが取る処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *NOTIFY -障害通知がQSYSOPRおよびQSYSMSGメッセージ待ち行列に送られ、その後で、監査を試みる原因となった処置が続行されます。
- *PWRDWN SYS - システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが出されます。システムはIPLの後で制限状態で立ち上げられ、監査(*AUDIT)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持つユーザーだけがそのシステムにサインオンすることができます。

QAUDFRCLVL

強制監査ジャーナル。このシステム値は、ジャーナル項目データが補助記憶域に強制的に書き込まれる前に、機密保護監査ジャーナルに書き出すことができる監査ジャーナル項目の数を指定します。

- 1から100。
- *SYS -内部システム処理に基づいてジャーナル項目を補助記憶域に書き出す時点を、システムが決定します。*SYSを10進変数で戻すことはできないので、値*SYSが指定される時にコマンドは0を戻します。
- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。*NOTAVLを10進数変数で戻すことはできないので、コマンドは*NOTAVLの代わりに-1を戻します。

このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QAUDLVL

機密保護監査レベル。システム上の処置監査のレベルを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- *NONE -システム上で機密保護処置監査は行われません。これが配送値です。
- *AUDLVL2 - QAUDLVLとQAUDLVL2の両方のシステム値を使用して、監査する機密保護処置が決定されます。

注:

- QAUDLVL2システム値を排他的に使用したい場合には、QAUDLVLシステム値を*AUDLVL2に設定して、監査値をQAUDLVL2システム値に追加します。
- *AUDLVL2値とともに値をQAUDLVLシステム値に設定できる両方のシステム値を使用したい場合には、追加の値をQAUDLVL2処置に追加します。
- *ATNEVT -重要イベントが監査されます。重要イベントは、条件の機密保護重要度を判別するためにさらに評価する必要がある条件です。たとえば、条件が侵入であるか偽の肯定であるかを判別するために、侵入モニター・イベントを調べる必要があります。
- *AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- *CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。

- *DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- *JOBDA -ジョブに影響する処置が監査されます。
- *NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- *NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- *NETCMN -ネットワークングおよび通信機能が監査されます。

注: *NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われません。*NETCMNは次の値で構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK
- *NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- *NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- *OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- *OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- *PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- *PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- *PRTDA -印刷機能が監査されます。
- *SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- *SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- *SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- *SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- *SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- *SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- *SECCKD -ソケット記述子が監査されます。
- *SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: *SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われません。*SECURITYは次の値で構成されています。

- *SECCFG
- *SECDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECCKD

- *SECVFY
- *SECVLDL
- *SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- *SECVLDL -妥当性検査リスト・オブジェクトに対する変更が監査されます。
- *SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、資料ISERIES SECURITY REFERENCEを参照してください。
- *SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- *SYSMGT -システム管理タスクが監査されます。

QAUDLVL2

機密保護監査レベル拡張機能。このシステム値は、16更新されている場合超える監査値が必要であった場合に必要になります。*AUDLVL2を値の1つとしてQAUDLVLシステム値に指定すると、システムはQAUDLVL2システム値中の監査値も検索します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- *NONE -このシステム値には監査値が含まれません。これが配送値です。
- *ATNEVT -重要イベントが監査されます。重要イベントは、条件の機密保護重要度を判別するためにさらに評価する必要がある条件です。たとえば、条件が侵入であるか偽の肯定であるかを判別するために、侵入モニター・イベントを調べる必要があります。
- *AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- *CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- *DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- *JOBDTA -ジョブに影響する処置が監査されます。
- *NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- *NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- *NETCMN -ネットワーキングおよび通信機能が監査されます。

注: *NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われます。*NETCMNは次の値で構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK
- *NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- *NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- *OFCSRVR - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- *OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- *PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。

- *PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- *PRTDTA -印刷機能が監査されます。
- *SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- *SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- *SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- *SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- *SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- *SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- *SECSCKD -ソケット記述子が監査されます。
- *SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: *SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われま
す。*SECURITYは次の値で構成されています。

- *SECCFG
- *SECDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECSCKD
- *SECVFY
- *SECVLDL
- *SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- *SECVLDL -妥当性検査リスト・オブジェクトに対する変更が監査されます。
- *SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、資
料ISERIES SECURITY REFERENCEを参照してください。
- *SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- *SYSMTGT -システム管理タスクが監査されます。

QAUTOCFG

自動装置構成標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

QAUTOSPRPT

自動システム使用不可報告。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しませ
ん。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QAUTORMT

リモート制御装置の自動構成。QAUTORMTシステム値は、リモート制御装置の自動構成を制御し
ます。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

QAUTOVRT

自動仮想装置構成標識。このシステム値を変更するためには、ユーザーは*ALLOBJ 権限を持っていなければなりません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、仮想装置の自動構成を参照してください。

QBASACTLVL

基本記憶域プールの活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QBASPOOL

基本記憶域プールの最小サイズ (キロバイト数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QBOOKPATH

ブックおよびブックシェルフの検索パス。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QCCSID

コード化文字セットID。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QCENTURY

システム日付の世紀値。

- 0は、19XX年を示します。
- 1は、20XX年を示します。

QCFGMSGQ

通信メッセージを受け取るメッセージ待ち行列を指定するために使用される構成メッセージ待ち行列。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対する変更は、MSGQパラメーターをサポートする回線、制御装置、または装置記述がオンに構成変更されると有効となります。

QCHRID

データの表示または印刷に使用される省略時の図形文字セットおよびコード・ページ。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で作成、変更、または一時変更される表示装置ファイル、表示装置記述、および印刷装置ファイルに対して有効となります。

QCHRIDCTL

ジョブの文字ID制御。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対して行われるCCSID変換のタイプを制御します。この属性を使用する前に、*CHRIDCTL特殊値を、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループの作成、変更、または一時変更コマンドのCHRIDパラメーターに指定しなければなりません。

- 0は*DEVD特殊値が使用されることを意味します。
- 1は*JOBCCSID特殊値が使用されることを意味します。

QCMNARB

通信アービター。制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数。この値に対する変更は次のIPL時に有効となります。出荷時の値は*CALCです。

- *CALC: オペレーティング・システムが通信アービター・ジョブの数を計算します。
- 0から99: 制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数を指定します。

注: このシステム値がゼロ(0)に設定された場合には、通信アービターとは対照的にこれらのジョブの作業はQSYSARBおよびQLUSシステム・ジョブで実行されます。

QCMNRCYLMT

システム通信回復の回復限界を提供します。回復を試みる回数と、指定された回復試行回数に達した場合に装置メッセージ待ち行列またはシステム操作員に対して照会メッセージを送る時点を指定します。このシステム値に対して行われた変更は現在オンに構成変更されている装置には影響しませんが、変更が行われた後で装置がオンに構成変更された時に有効になります。

QCNTYID

省略時の国別または地域ID。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QCONSOLE

システム・コンソール。この値を変更することはできません。

QCRTAUT

作成されたオブジェクトに対する共通認可。このシステム値を変更するためには、*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *CHANGEは、ユーザーがオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。変更権限によって、ユーザーは、所有者に限定された以外のオブジェクトまたはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。
- *ALLは、ユーザーがオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトの所有者を変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。全権限によりユーザーは、所有者にのみ許されるかあるいは権限リスト管理権によって制御されるオブジェクトを除くすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。オブジェクトが権限リストである場合には、ユーザーはユーザーの追加、変更、除去を行えず、また権限リストの所有権を移すことができません。
- *USEは、ユーザーがオブジェクトに対して、プログラムの実行やファイルの読み取りなど基本的な操作を実行できることを意味します。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。使用権限はオブジェクト操作権限および読み取り権限を提供します。
- *EXCLUDE権限はユーザーがオブジェクトをアクセスできないようにします。

QCRTOBJAUD

オブジェクト作成監査。このシステム値は、ライブラリーまたはディレクトリーに作成されたオブジェクトに省略時のオブジェクト監査値を指定します。オブジェクト監査値は、オブジェクトが使用または変更された時に監査ジャーナル項目がシステム監査ジャーナルに送られるかどうかを判別します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *NONE -このオブジェクトについては、監査項目は送られません。
- *USRPRF -ユーザーが現在監査中の場合に、監査項目が送られます。
- *CHANGE -このオブジェクトが変更された場合に、監査項目が送られます。
- *ALL -このオブジェクトが使用または変更された場合に、監査項目が送られます。

QCTLBSBD

制御サブシステム記述名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QCURSYM

通貨記号。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATE

システム日付。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATETIME

システム日付および時刻。これは、単一値としてのローカル・システム時間の日付および時刻です。この値を検索または変更することは、単一の操作でQDATEおよびQTIMEを検索または変更することと類似しています。フィールドの形式は、YYYYMMDDHHNNSSXXXXXXです。ここで、YYYYは年、MMは月、DDは日、HHは時間、NNは分、SSは秒、およびXXXXXXはマイクロ秒です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATFMT

日付形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QDATSEP

日付区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QDAY 日（システム日付の形式が年間通算日形式の場合には、年の始めから数えた日付）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDAYOFWEEK

曜日。

- *SUN -日曜日
- *MON -月曜日
- *TUE -火曜日
- *WED -水曜日
- *THU -木曜日
- *FRI -金曜日
- *SAT -土曜日

QDBFSTCCOL

データベース・ファイル統計の収集。システム・ジョブQDBFSTCCOLによってバックグラウンドで処理することのできる統計収集要求のタイプを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *ALLは、すべてのユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求と、データベース・マネージャーによって自動的に要求された統計収集が、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *SYSTEMは、自動的に要求されたデータベース統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *USERは、ユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *NONEは、データベース・ファイル統計収集要求をデータベース統計システム・ジョブによって処理することができないことを意味します。

QDBRCVYWT

データベース回復待機標識。このシステム値に対する変更は、不在時モードで次のIPL時に有効となります。

- 0は待機しないことを意味します。
- 1は待機することを意味します。

QDECFMT

10進数形式。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDEVNAMING

装置の命名規則を示します。このシステム値に対して行われた変更は、次回に装置が自動的に構成された時に有効となります。既存の構成済み装置名は変更されません。

- *NORMALはISERIES標準に従うことを意味します。
- *S36はS/36標準に従うことを意味します。
- *DEVADRは装置名が資源名から得られることを意味します。

QDEVRCYACN

ジョブの要求プログラム装置で入出力エラーが起こった時に取られる処置を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *DSCMSGはジョブを切り離します。再接続時に、ユーザーのアプリケーション・プログラムにエラー・メッセージが送られます。
- *DSCENDRQSはジョブを切り離します。再接続時に、取り消し要求機能を実行して、ジョブの制御を最後の要求レベルに戻す必要があります。
- *ENDJOBはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログが生成されます。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがジョブ・ログおよびQHSTログに送られます。
- *ENDJOBNO LISTはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログは生成されません。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがQHSTログに送られます。
- *MSGは入出力エラー・メッセージをアプリケーション・プログラムに送ります。アプリケーション・プログラムはエラー回復を自身で実行します。

QDSCJOBTV

ジョブを終了前に切断できる時間間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。対話式ジョブは、ある時間間隔中非活動状態であった（システム値QINACTIVおよびQINACTMSGQ）場合、あるいは対話式ジョブのワークステーションで入出力エラーが起こった（システム値QDEVRCYACN）場合に、ジョブの切り離し（DSCJOB）コマンドによって切断することができます。

- 5から1440がタイムアウトの間隔（分）です。
- *NONEはタイムアウト間隔がないことを意味します。

QDSPSGNINF

サインオン情報の表示を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はサインオン情報が表示されないことを意味します。
- 1はサインオン情報が表示されることを意味します。

QDYNPTYADJ

動的な優先度の調整。QDYNPTYADJシステム値は、バッチ・ジョブ処理をハイパフォーマンスに維持するために、対話式ジョブの優先順位を動的に調整するかどうか制御します。この調整機能が有効なのは、対話式および非対話式の両方のスループットが評価され、動的優先順位スケジューリングが使用可能になっているシステムの場合だけです。このシステム値に対する変更は、次回のIPLで有効になります。

- 0は動的優先順位調整がオフにされることを意味します。
- 1は動的優先順位調整がオンにされることを意味します。

QDYNPTYSCD

動的優先順位スケジューラー。QDYNPTYSCDシステム値は、動的優先順位スケジューラーのアルゴリズムを制御します。この値によって動的優先順位スケジューリングを使用することができます。

- 0は、動的優先順位スケジューラーがオフであることを意味します。
- 1は、動的優先順位スケジューラーがオンであることを意味します。

QENDJOBLMT

ジョブの即時終了時にアプリケーションをクリーンアップするための最小時間（秒数）。

終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャがある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成されます。SIGTERM信号のための信号処理プロシージャに制御が与えられた場合には、そのプロシージャでは、該当する処置を取って、部分的に更新されたアプリケーション・データなどの望ましくない結果を避けることができます。SIGTERM信号ハンドラーが指定された時間内に完了しない場合には、システムはジョブを終了します。

ジョブが制御された方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はコマンドに指定されます。ジョブが即時の方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はこのシステム値によって指定されます。この時間制限は、1つのジョブの終了時、サブシステム内のすべてのジョブの終了時、またはすべてのサブシステムのすべてのジョブの終了時に使用されます。2分後に、システム操作員は、OPTION(*IMMED)を指定したジョブ終了 (ENDJOB)コマンドを使用して、QENDJOBLMT値を一時変更し、それぞれの個別ジョブを即時に終了することができます。

この値に対する変更は即時に効力を持ちます。すでに終了中のジョブは影響されません。

QFRCCVNRST

復元時の強制変換。このシステム値を使用すると、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびモジュール・オブジェクトを復元時に変換するかしないかを指定することができます。また、一部のオブジェクトを復元しないようにすることもできます。復元コマンドにおける省略時の値はこのシステム値の値を使用します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

- 0 何も変換しません。何も復元しないようにしません。
- 1 妥当性検査エラーのあるオブジェクトが変換されます。
- 2 オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要とするオブジェクトおよび妥当性検査エラーのあるオブジェクトが変換されます。
- 3 改ざんされていると考えられるオブジェクト、妥当性検査エラーのあるオブジェクト、およびオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要とするオブジェクトが変換されます。
- 4 変換に十分な作成データが入っていて有効なデジタル署名がないオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは変換されずに復元されます。注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要としても変換できないオブジェクト（署名ありおよび未署名）は、復元されません。
- 5 十分な作成データが入っているオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは復元されます。注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。

6 有効なデジタル署名のないすべてのオブジェクトが変換されます。注: 有効なデジタル署名があり、さらに妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。

7 すべてのオブジェクトが変換されます。

オブジェクトを変換すると、そのデジタル署名は廃棄されます。変換されたオブジェクトの状態は、ユーザーの状態に設定されます。変換後は、オブジェクトは望ましい妥当性検査値を持ち、改ざんの懸念はありません。

QHOOR

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QHSTLOGSIZ

ヒストリー・ログの各バージョンの最大レコード数。有効な値範囲の1から10,000,000、または特殊値の*DAILY (ヒストリー・ログ・メッセージの日付が変更されるたび、または現行ログのバージョンが最大レコード・サイズの10,000,000に達する時に、ヒストリー・ログの新規バージョンが作成されることを意味します)。*DAILYは10進数変数で戻すことができないので、システム値が*DAILYに設定されていると、システム値の検索(RTVSYSVAL)コマンドは値-1を戻します。システム値の変更(CHGSYSVAL)コマンドに値-1を指定することは、*DAILYの指定と同じ効果があります。このシステム値に対して行った変更は、ヒストリー・ログの次のバージョンが作成された時に有効になります。

QIGC システムの2バイト文字セット(DBCS)バージョンが導入されているかどうかを示します。この値は変更できません。

- 0はDBCSバージョンが導入されていないことを意味します。
- 1はDBCSバージョンが導入されていることを意味します。

QIGCCDEFNT

2バイト文字セット(DBCS)コード化フォント名。SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)に変換する時、およびデータにシフトイン/シフトアウト(SI/SO)文字が入っているAFPDSスプール・ファイルを作成する時に使用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIGCFNTSIZ

2バイト・コード化フォントのポイント・サイズ。システム値QIGCCDEFNT 2バイト・コード化フォントと一緒に使用されます。これが使用されるのは、SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷装置データ・ストリーム(AFPDS)に変形する時およびデータ内にシフト・イン/シフト・アウト(SI/SO)文字が存在しているAFPDSスプール・ファイルを作成する時です。

- *NONEは、ポイント・サイズがシステムに識別されないことを意味します。ポイント・サイズは、システムが使用する印刷装置のタイプを基にして選択します。
- 000.1から999.9は2バイト・コード化フォントのポイント・サイズを意味します。

QINACTIV

非活動状態の対話式ジョブのタイムアウト間隔 (分数)。時間間隔が*NONE以外の値に変更されると、新しい非活動間隔が設定され、ジョブ非活動の分析が再び開始されます。システム値QINACTMSGQは、システムが行う処置を判別します。ターゲット・パススルーおよびTELNETセッションの制約の説明については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「実行管理機能」情報を参照してください。

現在リモート・システムにサインオンされているローカル・ジョブは除外されます。たとえば、ワークステーションがシステムAに直接接続していて、システムAがQINACTIVに設定されているとします。システムBにサインオンするために表示装置パスルーまたはTELNETが使用された場合には、このワークステーションはシステムAで設定されたQINACTIV値による影響を受けません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEはシステムが非活動について検査を行わないことを意味します。
- 5から300は処置が取られる前にジョブが非活動状態でいられる時間（分数）を意味します。

QINACTMSGQ

QINACTMSGQが*NONEでない場合にジョブ非活動メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名。このメッセージ待ち行列が存在していなければ、システム値をメッセージ待ち行列名に変更することはできません。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *ENDJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが終了することを意味します。
- *DSCJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが切り離されることを意味します。
- メッセージ待ち行列名は、ジョブが非活動状態になった時にメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前です。

QIPLDATTIM

自動IPLの日付および時刻。このシステム値は各区画で個々に設定できます。2次区画で自動IPLを実行する必要がある時に1次区画の電源が遮断されている場合には、このIPLは実行されません。1次区画でIPLが実行される時、2次区画はそのIPLの日付および時刻が過ぎている場合は、IPLが実行されます。IPL処置が保留状態で構成されている場合には、2次区画のIPLは実行されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIPLDATTIMは次の2つの部分から成る単一のシステム値です。

- 日付： システムでIPLが自動的に行われる日付。この日付は日付区切り記号を含まないQDATFMT形式で指定されます。
- 時刻： システムでIPLが自動的に行われる時刻。この時刻は時刻区切り記号なしで指定されます。

特定の日付と時刻の代わりに、時限自動IPLがスケジュールされないことを示す*NONEを指定することができます。

次の例は、IPLの日付と時刻を1993年9月10日(QDATFMTはMDY)の午前9時00分に変更する方法を示しています。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QIPLDATTIM) VALUE('091093 090000')
```

QIPLSTS

初期プログラム・ロード(IPL)状況標識。

- 0はオペレーター・パネルIPLを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。
- 2はIPLの再始動を意味します。
- 3はIPLの時刻を意味します。
- 4はリモートIPLを意味します。

QIPLTYPE

実行するIPLのタイプを示します。このシステム値に対して行われた変更は次回の手動IPL時に有効となります。

- 0は不在時IPLを意味します。
- 1は専用保守ツールによる在席IPLを意味します。
- 2はデバッグ・モードのコンソールによる在席IPLを意味します。

注: これを使用するとワークステーション制御装置上の他の装置が使用できなくなるので、問題分析のためだけにこれを使用するようにしてください。

QJOBMSGQFL

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時の処置。このシステム値は、いっぱいになったとみなされた時のジョブ・メッセージ待ち行列の取り扱い方を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *NOWRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列の折り返しません。
- *WRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列は折り返します。
- *PRTWRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列は折り返され、オーバーレイされるメッセージが印刷されます。

QJOBMSGQMX

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ。このシステム値は、メッセージ待ち行列がいっぱいであるとみなされる前にこの待ち行列をどれくらいの大きさ（メガバイト）にできるかを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QJOBMSGQSZ

ジョブ・メッセージ待ち行列の初期サイズ（Kバイト(KB)数）。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QJOBMSGQTL

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ(KB数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QJOBSPLA

ジョブのスプリング制御ブロックの初期サイズ（バイト数）。このシステム値に対して行われた変更は、オペレーティング・システム・ライセンス・プログラムの導入時にコールド・スタートが要求されると有効となります。

QKBDBUF

キーボード・バッファ。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがログオンした時に有効となります。

- *NOは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- *TYPEAHEADは、先行入力機能をオンにするが、ATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- *YESは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオンにすることを意味します。

QKBDTYPE

キーボード言語文字セット。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QLANGID

省略時の言語ID。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QLEAPADJ

うるう年の調整。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QLIBLCKLVL

ライブラリーのロック・レベル。ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーがそのジョブによってロックされるかどうかを指定します。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。

- 0は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをロックしないことを意味します。
- 1は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをそのジョブによってロックすることを意味します。

QLMTDEVSSN

並行装置セッションを制限します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は複数装置でサインオンできることを意味します。
- 1は複数装置でサインオンできないことを意味します。

QLMTSECOFR

機密保護担当者の装置アクセスの制限。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、*ALLOBJまたは*SERVICE特殊権限を持つユーザーが任意のワークステーションにサインオンできることを意味します。
- 1は、*ALLOBJまたは*SERVICE特殊権限を持つユーザーがワークステーションに対して明示的な権限を持っていないなければならないことを意味します。

QLOCALE

ロケール・パス名。このシステム値は、システムのロケールを設定するために使用されます。ロケール・パス名は、ロケールを指定するパス名でなければなりません。ロケールは、1セットの言語規則を識別するために使用される言語、地域、およびコード・セットの組み合わせからなります。システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドのロケール・パス名に使用できる最大パス長は1,024バイトです。

このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は各国で異なることがあります。

- *NONEは、QLOCALEシステム値にロケール・パス名がないことを意味します。
- *Cは、Cロケールが使用されることを意味します。
- *POSIXは、POSIXロケールが使用されることを意味します。

QLOGOUTPUT

ジョブ・ログ出力。このシステム値は、ジョブの完了時にジョブ・ログが作成される方法を指定します。これは、メッセージ待ち行列がフルであり、ジョブ・メッセージ待ち行列フル・アクションが*PRTWRAPを指定する時に作成されたジョブ・ログに影響しません。ジョブ・メッセージ待ち行列のメッセージはスプール・ファイルに書き込まれます。ジョブ・ログのメッセージがデータベース・ファイルに書き込まれることを指定するジョブでジョブ・ログ出力の制御(QMHCTLJL) APIが使用されない限り、このスプール・ファイルからジョブ・ログを印刷できます。

このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後でシステムに入力されるジョブに対して即時に有効となります。

- *JOBENDは、ジョブ・ログがジョブそのものによって作成されることを意味します。ジョブがその固有のジョブ・ログを作成できない場合は、ジョブ・ログはジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。
- *JOBLOGSVRは、ジョブ・ログがジョブ・ログ・サーバーによって作成されることを意味します。
- *PNDは、ジョブ・ログが作成されないことを意味します。ジョブ・ログは除去されるまで保留で残されます。

QMAXACTLVL

システムの最大活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMAXJOB

システム上のジョブの許容最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMAXSGNACN

QMAXSIGNシステム値によって課された限界に達した時のシステムの応答。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

- 1は装置が使用禁止になることを意味します。
- 2はユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。
- 3は装置とユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。

QMAXSIGN

サインオンを試みて失敗しても許される最大回数。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

QMAXSPLF

ジョブ当たりで作成できるスプール・ファイルの最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。この値をより低い数に変更すると、スプール・ファイルは削除されなくなります。ジョブのスプーリングに対するこのシステム値の影響については、PRINTER DEVICE PROGRAMMINGを参照してください。

QMCHPOOL

マシン記憶域プール・サイズ(KB数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

注:プール・サイズを変更するには、ページを補助記憶域に書き込むことが必要な場合があります。システムが大規模の変更を完了するために必要な時間は、省力時の待ち時間を上回る可能性があります。これが起こる場合は、変更が完了してもメッセージCPF1001 (システム応答の待機時間が満了した。)が出されます。

QMINUTE

分。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMLTTHDACN

マルチスレッド・ジョブ処置。この値は、スレッド・セーフでない可能性がある機能がマルチスレッド・ジョブで呼び出される時に行う処置を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は2です。

- 1はスレッド・セーフでない機能をメッセージの送信なしに実行することを意味します。
- 2はスレッド・セーフでない機能を通知メッセージを送信して実行することを意味します。
- 3はスレッド・セーフでない機能を実行しないことを意味します。

QMODEL

システムのモデル番号。システムのモデルを識別するために使用される数字または英字です。

QMODELを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラム中で4桁の値を表示または検索することができます。システム・モデル番号のシステム値は、システム上の各区画で同じです。

QMONTH

月（年間通算日の場合には使用されない）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QPASTHRSVR

パススルー・サーバー。表示装置パススルー、ISERIES ACCESS FOR WINDOWSワークステーション機能(WSF),およびプログラム式ワークステーション上の他の5250エミュレーション・プログラムを処理するために使用可能なターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*CALCです。

QPFRADJ

初期プログラム・ロード(IPL)時のパフォーマンスの調整および動的なパフォーマンスの調整。動的なパフォーマンスの調整は、共用記憶域プールの記憶域プール・サイズおよび活動レベルを自動的に変更します。私用記憶域プールは変更されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はパフォーマンス調整なしを意味します。動的なパフォーマンスの調整は開始されません。
- 1はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。動的なパフォーマンスの調整は開始されません。
- 2はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。動的なパフォーマンスの調整が開始されます。QPFRADJが2から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されません。
- 3は動的なパフォーマンスの調整が開始されることを意味します。QPFRADJが3から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されます。

ライブラリーQSYSにジャーナルQPFRADJを作成すれば、記憶域プール・サイズ、活動レベル、およびシステムのパフォーマンス・レベルに対して行われた変更は、その変更が行われた時に、動的調整プログラムによって記録されます（プール、プール・サイズ、および活動レベルごとの障害率）。

QPRBFTR

問題フィルター名。問題の処理時にサービス活動マネージャーが使用するフィルター・オブジェクトの名前を指定します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

QPRBHLDTV

問題ログ項目保留間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QPRCFEAT

プロセッサ機能。これはシステムのプロセッサ機能コード・レベルです。QPRCFEATを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラムで4桁の値を表示または検索することはできません。プロセッサ機能システム値は、システムの各区画で同じです。

QPRCMLTTSK

プロセッサ・マルチタスキング。システム上のハードウェアがプロセッサ・マルチタスキングをサポートしている場合は、このシステム値によってマルチタスキング機能をオン、オフ、またはシステム制御にすることができます。使用可能になっていると、タスク・データの複数セットが各CPU内に常駐することになります。作業負荷によっては、キャッシングによってパフォーマンスが向上する場合があります。注:オペレーティング・システムは、ハードウェアがマルチタスキングをサポートしていないことを検出すると、次のIPL時にシステム値を0に設定します。この値をシス

テム制御に設定すると、システムがマルチタスキングを管理することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

- 0はプロセッサ・マルチタスキングがオフにされることを意味します。
- 1はプロセッサ・マルチタスキングがオンラインにされることを意味します。
- 2はプロセッサ・マルチタスキングがシステム制御下にあることを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QPRTDEV

省略時の印刷装置記述。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QPRTKEYFMT

ページ印刷キー形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

- *PRTHDRは、ページ印刷キーが押された時に見出し情報が印刷されることを意味します。
- *PRTBDRは、ページ印刷キーが押された時に枠情報が印刷されることを意味します。
- *PRTALLは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されることを意味します。
- *NONEは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されないことを意味します。

QPRTTXT

リストおよび分離ページの最後に印刷できる最大30文字のテキスト。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QPWDEXPITV

パスワードが有効な日数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOMAXは、パスワードを使用できる日数に制限がないことを意味します。
- 1から366はパスワードが終了する前の日数を意味します。

QPWDLMTAJC

パスワードに隣接した番号を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は隣接番号が使用できることを意味します。
- 1は隣接番号が使用できないことを意味します。

QPWDLMTCHR

パスワードにある種の文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- *NONEは制限文字がないことを意味します。
- 制限文字は、10文字以内の制限文字をアポストロフィで囲んで指定できることを意味します。有効な文字は次の通りです。AからZ, 0から9, および特殊文字#, ¥, @, または下線(_).

注：システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、このシステム値は無視されます。

QPWDLMTREP

パスワードに繰り返し文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は文字を複数回使用できることを意味します。
- 1は文字を複数回使用できないことを意味します。

QPWDLVL

パスワード・レベルを指定します。

このシステム値の変更には、慎重な考慮が必要です。システムがネットワーク内の他のシステムに接続される場合には、すべてのシステムが、有効になるパスワード規則で実行できなければなりません。

このシステム値を変更する前に、追加の考慮事項について、資料ISERIES SECURITY REFERENCEを参照してください。

このシステム値に対する変更は、次のIPL時に有効になります。

- 0は、1から10文字のパスワードが使用できることを意味します。
- 1は、1から10文字のパスワードが使用できることを意味します。WINDOWS 95/98/MEクライアント用のISERIES NETSERVERパスワードは、このプロダクトを使用不能にしようとしているシステムから除去されることとなります。
- 2は、1から128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。
- 3は、1から128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。WINDOWS 95/98/MEクライアント用のISERIES NETSERVERパスワードは、このプロダクトを使用不能にしようとしているシステムから除去されることとなります。

QPWDMAXLEN

パスワードの最大文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1から128は、1から128の値をパスワードの最大文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

QPWDMINLEN

パスワードの最小文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1から128は、1から128の値をパスワードの最小文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

QPWDPOSDIF

新しいパスワードの中の文字の位置を制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できることを意味します。
- 1は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できないことを意味します。

QPWDRQDDGT

新しいパスワードに数字が必要。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は番号が必要でないことを意味します。
- 1は1つまたは複数の数字が必要であることを意味します。

QPWDRQDDIF

パスワードが前のパスワードと異なるものでなければならないかどうかを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0はパスワードは前に使用されたものと同じでもよいことを意味します。
- 1はパスワードが前の32個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 2はパスワードが前の24個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 3はパスワードが前の18個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 4はパスワードが前の12個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 5はパスワードが前の10個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 6はパスワードが前の8個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 7はパスワードが前の6個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 8はパスワードが前の4個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。

QPWDVLDPGM

パスワード妥当性検査プログラムは、ユーザー作成プログラムがパスワードに対して追加の妥当性検査を行う機能を提供します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。詳細については、パスワード妥当性検査プログラムを参照してください。

QPWRDWNLMT

PWRDWNSYS *IMMEDに許される最大時間 (秒数)。これは、次のいずれかが行われた後で電源遮断の正常完了を待機するために使用される時間です。

- 終了方法 (OPTION)パラメーターに*IMMEDを指定したシステム電源遮断 (PWRDWNSYS)コマンドが入力された。
- 終了方法 (OPTION)パラメーターに*CNTRLDを指定したPWRDWNSYSコマンドが入力され、制御された終了遅延時間 (DELAY)パラメーターに指定された時間が終了した。

この値に対する変更は、PWRDWNSYSコマンドが入力された時に有効となります。

QPWRRSTIPL

電源復元後の自動初期プログラム・ロード(IPL)が可能になります。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- 0は電源復元後の自動IPLが行われなことを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。

区画に分割されたAS/400 7XXおよびISERIES 8XXサーバーでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画に分割されたESERVER I5サーバーでは、このシステム値はサービス・プロセッサのADVANCED SYSTEM MANAGEMENT (ASM)インターフェースから変更する必要があります。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)の「論理区画」トピックを参照してください。

QQRVDEGREE

QUERY並列処理の程度。この値は、システムのユーザーに使用可能な並列処理の程度を指定します。

- *NONEは、データベースQUERY処理またはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成で並列処理が使用可能でないことを意味します。
- *IOは、データベースQUERY最適化プログラムがQUERYに入出力並列処理を使用することを選択した時に、いくつでもタスクを使用できることを意味します。データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成時を含め、SMP並列処理は行うことができません。
- *OPTIMIZEは、QUERYあるいはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成を処理するためにQUERY最適化プログラムが入出力またはSMP並列処理のためにいくつでもタスクを選択して使用できることを示します。並列処理の使用および使用タスクの数は、ジョブの実行プールで使用可能なプロセッサの数、およびQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成の予想経過時間がCPU処理または入出力資源によって制限されるかどうかに基づいて決定されます。
- *MAXは、QUERY最適化プログラムがQUERYを処理するために入出力並列処理またはSMP並列処理のいずれかを使用するように選択できることを意味します。QUERY最適化プログラムによって行われる選択は、値*OPTIMIZEの場合と似ていますが、最適化プログラムはQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスのビルドまたは再ビルドを処理するためにプールで活動状態のすべてのメモリーを使用できるものと見なします。

QQRVTIME

QUERY処理時間制限。

- *NOMAXは、最大QUERY間隔が使用されることを意味します。
- 0から2147352578は、QUERY処理に使用可能な秒数を示します。

QRCLSPLSTG

空のスプール・メンバーの自動削除は、メンバー保存間隔に基づいて許されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEは保存間隔がないことを意味します。

注：この値を使用すると、システム・パフォーマンスに悪い影響を及ぼすことがあります。詳細な情報は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックにあります。

- *NOMAXは空のメンバーがすべて保存されることを意味します。
- 1から366は、新しいスプール・ファイルの使用に備えて空のスプール・メンバーが保存される日数を意味します。

QRETSVRSEC

サーバー機密保護データ保存標識。この値は、クライアント/サーバー・インターフェースを介してターゲット・システムのユーザーを認証するためにサーバーが必要とする機密保護データがこのシステムに保存できるかどうかを決定します。

- 0は、サーバー機密保護データが保存されないことを意味します。
- 1は、サーバー機密保護データが保存されることを意味します。

QRMTSRVATR

リモート・サービス属性。QRMTSRVATRシステム値は、リモート・サービス問題分析機能を制御します。この値により、システムをリモート分析することができます。

- 0は、リモート・サービス属性がオフであることを意味します。
- 1は、リモート・サービス属性がオンであることを意味します。

QRMTIPL

リモート電源オンおよびIPL標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はリモート電源オンおよびIPLが許されないことを意味します。
- 1はリモート電源オンおよびIPLが許されることを意味します。

注：電話呼び出しを行うとシステムのIPLが行われます。

区画に分割されたAS/400 7XXおよびISERIES 8XXサーバーでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画に分割されたESERVER I5サーバーでは、このシステム値はサービス・プロセッサのADVANCED SYSTEM MANAGEMENT (ASM)インターフェースから変更する必要があります。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QRMTSIGN

リモート・サインオンを制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *FRCSIGNONは通常のサインオンが必要なことを意味します。
- *SAMEPRFは、ソース・ユーザー・プロファイルとターゲット・ユーザー・プロファイルが同じ時には、リモート・サインオンが試みられるようにサインオンをう回できることを意味します。
- *REJECTはリモート・サインオンが許されないことを意味します。
- *VERIFYは、システムが、ユーザーがシステムにアクセスできることを確認した後で、ユーザーがサインオンをう回できるようにすることを意味します。
- プログラムは、どのリモート・セッションが許され、どのロケーションからどのユーザー・プロファイルに自動的にサインオンできるかどうかを決定するプログラムを指定できることを意味します。

QSAVACCPH

アクセス・パスの保管。このシステム値に対して行った変更は、次回の保管操作の開始時に有効となります。

- 0は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスは保管しないことを意味します。
- 1は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管することを意味します。

QSCANFS

ファイル・システムのスキャン。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、オブジェクトがスキャンされる統合ファイル・システムを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンを参照してください。

QSCANFCTL

ファイル・システムのスキヤンの制御。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキヤン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、システム上の統合ファイル・システムのスキヤンを制御します。これらの制御は、QSCANFS（ファイル・システムのスキヤン）システム値によって取り扱われるファイル・システム内の統合ファイル・システム・オブジェクトに適用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキヤンの制御を参照してください。

QSCPFCONS

コンソールに問題のある場合のIPL処置。このシステム値に対して行われた変更は次のIPLの前に有効となります。

- 0はシステム終了を意味します。
- 1は不在時IPLの続行を意味します。

QSECOND

秒。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QSECURITY

システム機密保護レベル。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

- 20はシステムがサインオンにパスワードを必要とすることを意味します。
- 30はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。すべてのシステム資源にアクセスできる権限が必要です。
- 40はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。サポートされていないインターフェースを介してオブジェクトにアクセスしようとするプログラムは、正常に実行されません。
- 50は、システムがサインオンにパスワードを必要とし、ユーザーはオブジェクトおよびシステム資源にアクセスできる権限を持っていないなければならないことを意味します。QTEMPライブラリーおよびユーザー・ドメイン・オブジェクトの機密保護と保全性が強制されます。サポートされていないインターフェースを通してオブジェクトにアクセスを試みるプログラムや、サポートされていないパラメータ値をサポートされているインターフェースに渡そうとするプログラムは、正常に実行されません。

QSFWERRLOG

ソフトウェア・エラー・ログ。システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *LOGは、ソフトウェア・エラーがシステムによって検出されると、エラーを無条件に記録する必要があるかどうか、またはエラーを記録する決定をサービス・モニターに基づいてポリシーに据え置きする必要があるかどうかを判断するために、エラーが評価されることを意味します。

エラーが無条件に記録される場合は、PARABLE（問題の分析と解決）メッセージがQSYSOPRに送信され、項目が問題ログに作成されます。報告書作成構成要素がエラー・データを提供する場合は、そのデータを入れるためにスプール・ファイルが作成されます。そのスプール・ファイル名は、エラー・ログおよび問題ログの項目に記憶されます。

エラーが条件付きで記録される場合は、エラーを記録する決定はサービス・モニターに基づいてポリシーによって行われます。決定が問題を記録することである場合は、項目は問題ログに作成されます。問題データは問題データ・ライブラリーに保管され、問題記録項目はライブラリーの名前で更新されます。

- *NOLOGは、ソフトウェア・エラーが検出された場合にロギングが起こらないことを意味します。

QSHRMEMCTL

共用メモリー制御。ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できるか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できないか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できないことを意味します。
- 1は、ユーザーがユーザー共用メモリー、または書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できることを意味します。

QSPCENV

特殊環境。すべてのユーザーについて省略時の値として使用されるシステム環境。このシステム値に対して行われた変更は、次回にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- *NONEは、サインオンした時に特殊環境に入らないことを意味します。
- *S36は、サインオンするとシステム/36環境に入ることを意味します。

QSPLFACN

スプール・ファイル処置。スプール・ファイルがジョブとともに保持されるか、あるいはジョブから切り離されるかを指定します。スプール・ファイルをジョブで保持すると、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB)コマンドなどのジョブ・コマンドによってスプール・ファイルを処理することができます。スプール・ファイルをジョブから切り離すと、ジョブ終了時にジョブ構造を再生できるので、システム資源の使用が削減されます。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。出荷時の値は*KEEPです。

- *KEEPは、ジョブの終了時に、そのジョブについて少なくとも1つのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP番号1)または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に存在している限り、スプール・ファイルはジョブで保持され、ジョブが完了したことを示すようにそのジョブの状況が更新されることを意味します。そのジョブの残りのすべてのスプール・ファイルが独立ASP (ASP番号33から255)にあった場合には、スプール・ファイルがジョブから切り離され、そのジョブはシステムから除去されます。
- *DETACHは、ジョブの終了時にスプール・ファイルがジョブから切り離されることを意味します。

QSRLNBR

システム製造番号。この値は変更できません。これは、オペレーティング・システム・ライセンス・プログラムの導入時に、システムによってデータ・フィールドから検索されます。QSRLNBRを表示するか、あるいはユーザー作成プログラム中でこの値を検索することができます。システム製造番号はシステム上の各区画で同じです。

QSRTSEQ

分類順序。このシステム値は、システムが使用する省略時の分類順序アルゴリズムを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QSRVDMP

保守ダンプ。監視されないエスケープ・メッセージの保守ダンプが作成されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *DMPUSRJOBは、保守ダンプがシステム・ジョブではなくユーザー・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。

- *DMPSYSJOBは、保守ダンプがユーザー・ジョブではなくシステム・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。システム・ジョブには、オペレーティング・システム、サブシステム・モニター、LUサービス・プロセス、スプール読み取りプログラムおよび書き出しプログラム、それにSCPFジョブがあります。
- *DMPALLJOBは、すべてのジョブについて保守ダンプが作成されることを意味します。
- *NONEは、保守ダンプが作成されないことを意味します。

QSTGLOWACN

補助記憶域の下限の処置。システムASP中の使用可能な記憶域が補助記憶域の下限より低くなった場合にとるべき処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*MSGです。

- *MSG: メッセージCPI099CをQSYSMSGおよびQSYSOPRメッセージ待ち行列に送ります。このメッセージは、他の処置の場合にも送られます。
- *CRITMSG: 重大メッセージCPI099Bを、重大メッセージを受け取るためにサービス属性に指定されたユーザーに送ります。
- *REGFAC: QIBM_QWC_QSTGLOWACN出口点用に登録された出口プログラムを呼び出すためにジョブを投入します。
- *ENDSYS: システムを終了して制限状態にします。
- *PWRDWSYS: システムの電源を即時に遮断して、再始動します。

QSTGLOWLMT

補助記憶域の下限。補助記憶域の下限の処置がとられる時にシステムASP中に残されている使用可能な記憶域のパーセントを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は5.0です。

- 下限: QSTGLOWACNに指定された処置がとられる時にシステムASP内に残っている使用可能な記憶域のパーセント。システムASP内で現在使用されている記憶域のパーセントは、システム状況処理 (WRKSYSSTS)コマンドによって表示することができます。

QSTRPRTWTR

初期プログラム・ロード(IPL)時における印刷書き出しプログラムの開始。このシステム値は、IPL時にシステムによって設定されるか、あるいはIPLオプション画面でユーザーによって設定されます。このシステム値は、システム値変更 (CHGSYSVAL)コマンドを使用して変更することはできません。

- 0は印刷書き出しプログラムが開始されなかったことを意味します。
- 1は印刷書き出しプログラムが開始されたことを意味します。

QSTRUPPGM

制御サブシステム中の自動始動ジョブからの始動プログラム名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次回のIPL時に有効となります。

QSTSMMSG

状況メッセージが表示されるかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- *NORMALは状況メッセージが表示されることを意味します。
- *NONEは状況メッセージが表示されないことを意味します。

QSVRAUTIV

サーバー認証間隔。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QSYSLIBL

ライブラリー・リストのシステム部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QTHDRSCADJ

スレッド資源の調整。このシステム値は、このシステムで現在実行中のスレッドの特定のプロセッサおよびメモリーに対する類縁性または設定をシステム動的に調整する必要があるかどうかを指定します。一部の資源が他の資源より多く使用されている場合に、システムは、より多く使用されている資源で実行中のスレッドの一部を再割り当てして、さほど多く使用されていない資源への類縁性を持たせることができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は'1'です。

- '0'はシステムによるスレッドの自動調整は行われなことを意味します。スレッドは、それらが終了するかまたはシステム値が変更されるまで、現在割り当てられている資源への類縁性を持ち続けます。
- '1'は、スレッドのシステムの資源への類縁性の調整が動的に行われることを意味します。これによって、スレッド内の類縁性のグループおよびレベルが変更されることはありません。

QTHDRSCAFN

スレッド資源の類縁性。特定のプロセッサおよびメモリーへのスレッドの類縁性または設定。このシステム値に対して行われた変更は、変更の後に開始されたジョブのスレッドには即時に有効となりますが、現在実行中のスレッドには効力を持ちません。

- *NOGROUP - 2次スレッドには、必ずしもその開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性はありません。
- *GROUP - 2次スレッドは、その開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性を持ちます。

スレッド資源の類縁性レベルは、次の値に設定することができます。

- *NORMAL -スレッドは、それが類縁性を持つ資源が容易に使用可能でなくなった場合に、任意のプロセッサまたはメモリーを使用します。
- *HIGH -スレッドは、それが類縁性を持つ資源のみを使用し、必要な場合は、それらの資源が使用可能になるまで待機します。

QTIMADJ

時間調整。このシステム値は、システム・クロックが外部時間ソースと同期を保つように調整するソフトウェアを識別するために使用することができます。この値は、時間調整ソフトウェアによって保守する必要があり、複数の時間調整アプリケーションが相互に競合するのを防ぐ援助機能として意図されたものです。この値の確認、あるいはそのソフトウェアが時間調整を実行するかどうかを確認するための検査は、システムによって行われません。IBM時間調整オフリングは、「QIBM_OS400_SNTF」のように、QIBMで始まるIDを使用します。その他のソフトウェア提供者も、会社名および製品名と類似の命名規則に従っているはずで

時間調整ソフトウェアは、開始前にQTIMADJを検査する必要があります。QTIMADJが他の時間調整ソフトウェアのIDをもっている場合には、開始されているソフトウェアは、必ずこの潜在的な競合をユーザーに通知してくるので、この時間調整ソフトウェアを開始する必要があるかどうかを確認してください。QTIMADJが*NONEの時は、ソフトウェアは現在システム・クロックを調整する責任があることを示すためにQTIMADJを更新しなければなりません。時間調整ソフトウェアは、終了前にQTIMADJを再検査する必要があります。QTIMADJを*NONEに設定するのは、現行値が終了

中のこの時間調整ソフトウェアを識別する場合だけにしてください。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*NONEです。

- *NONE -時間調整ソフトウェアは識別されていないことを指示します。
- ID -システム・クロックの調整に使用されるソフトウェアを識別します。

QTIME

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QTIMSEP

時刻区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

この値は、時刻区切り記号として*SYSVALが指定されたジョブに影響します。コマンドに時刻を指定する時には、ユーザーは、自分のジョブに指定された時刻区切り記号を使用するか、あるいは時刻区切り記号を使用しないか、このどちらかにしなければなりません。ジョブの時刻区切り記号と異なる時刻区切り記号を使用してコマンドに時刻を指定した場合には、そのコマンドは正常に実行されません。

QTIMZON

時間帯。これは、ローカル・システム時間を計算するために使用される時間帯記述の名前を指定します。別の時間帯へ記述の変更は、この新規時間帯記述と関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。システム値QUTCOFFSETは、この新規オフセットとも一致するように変更されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QTOTJOB

記憶域を割り振らなければならないジョブの合計数。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QTSEPOOL

対話式ジョブがタイム・スライスの終わりに達した時にその対話式ジョブを別の主記憶域プールに移動するかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *NONEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されないことを意味します。
- *BASEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されることを意味します。

QUPSDLYTIM

補助電源機構の遅延時間。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- *BASICは、PRC, IOPカード, およびIPL装置ディスクのみに電源を投入します。
- *CALCは、該当する待機時間が計算されることを意味します。
- *NOMAXは、システムが自分からいかなる処置も開始しないことを意味します。
- 0は、システム通常電源に障害が起こった時にシステムが自動的に電源遮断することを意味します。
- 1から99999は、システムが電源遮断する前の遅延時間（秒数）を指定することを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER

([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QUPSMMSGQ

補助電源機構メッセージのメッセージ待ち行列。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

QUSEADPAUT

借用権限の使用(USEADPAUT(*YES))属性によってプログラムおよびサービス・プログラムを作成、変更、および更新できるユーザーを定義します。プログラムまたはサービス・プログラムが*YESの借用権限の使用属性を持っている場合には、そのプログラム/サービス・プログラムは、呼び出しスタック中の高位のプログラム/サービス・プログラムから渡されるどの借用権限でも使用することができます。

このシステム値は次のものには影響しません。

- USEADPAUT(*YES)属性で作成された既存のプログラム/サービス・プログラム。既存のプログラム/サービス・プログラムをUSEADPAUT(*NO)に変更しなければならないかどうかは、ユーザーが決定しなければなりません。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの復元。こうしたプログラムは、ユーザーのシステムには復元することができます。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの複製。既存のプログラム/サービス・プログラムのUSEADPAUT属性が新しいオブジェクトにコピーされます。

次の値を指定することができます。

- *NONEは、借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるユーザーに制限がないことを意味します。どのユーザーでもUSEADPAUT(*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新することができます。
- 「名前」は、USEADPAUT(*YES)属性を設定できるユーザーを制御する権限リストの名前を指定できることを意味します。USEADPAUT(*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるようになるためには、ユーザーは権限リストに対する*USE権限を必要とします。権限リストに対する権限は、借用権限から取ることはできません。すなわち、権限を借用するプログラムを実行している場合には、権限リストに対する権限を検査する時には、借用権限は使用されません。

QUSRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QUTCOFFSET

現在のシステム時刻と協定世界時(UTC)のオフセットである時間数(24時間形式) および分数を示します。

- +HHMMは、現在のシステム時刻がUTCよりHH時間MM分進んでいることを意味します。
- -HHMMは、現在のシステム時刻がUTCにHH時間MM分遅れていることを意味します。

注: このシステム値は、システム値QTIMZONに指定された時間帯記述と関連したオフセットと同じでなければなりません。QTIMZONの別の時間帯記述への変更は、関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。システム値QUTCOFFSETは、この新規オフセットとも一致するように変更されます。QUTCOFFSETは、現在QTIMZONと関連しているオフセットと異なる値に変更することはできません。それを行おうとすると、診断メッセージCPD1687が出されます。

QVfyOBJRST

復元時のオブジェクトの検査。このシステム値は、復元操作中のオブジェクト署名の検査に使用されるポリシーを指定します。この値は、オブジェクト・タイプ*CMD、*PGM、*SRVPGM、*SQLPKG、および*MODULEに適用されます。また、JAVAプログラムが入る*STMFオブジェクトに

も適用されます。この値は、また、ライセンス内部コードの修正を含むシステムにPTFを適用するポリシーも指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、復元時のオブジェクトの検査を参照してください。

QYEAR

年。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

トップ

戻された値のCL変数 (RTNVAR)

戻されるシステム値の値を受け取るCLプログラム変数の名前を指定します。CL 変数が宣言された時のタイプおよび長さ、受け取られるシステム値のタイプおよび長さに互換性がなければなりません。個別のシステム値の属性は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「実行管理機能」情報で説明されています。

一般的に、戻り変数のタイプはシステム値のタイプと一致していなければなりません。1桁の長さである文字システム値の場合には、CL変数は文字変数または論理変数とすることができます。文字および論理システム値の場合には、CL変数の長さはシステム値の長さと同じでなければなりません。10進数システム値の場合には、CL変数の長さはシステム値の長さより大きいか等しくなければなりません。

次の表は、各システム値のタイプおよび長さを示したものです。

システム値	タイプ	長さ
QABNORMSW	文字	1
QACGLVL	文字	80
QACTJOB	10進数	(5 0)
QADLACTJ	10進数	(5 0)
QADLSPLA	10進数	(5 0)
QADLTOTJ	10進数	(5 0)
QALWJOBITP	文字	1
QALWBJRST	文字	150
QALWUSRDMN	文字	500
QASTLVL	文字	10
QATNPGM	文字	20
QAUDCTL	文字	50
QAUDENDACN	文字	10
QAUDFRCLVL	10進数	(5 0)
QAUDLVL	文字	160
QAUDLVL2	文字	990
QAUTOCFG	文字	1
QAUTORMT	文字	1
QAUTOSPRPT	文字	1
QAUTOVRT	10進数	(5 0)
QBASACTLVL	10進数	(5 0)
QBASPOOL	10進数	(10 0)
QBOOKPATH	文字	(315)
QCCSID	10進数	(5 0)
QCENTURY	文字	1
QCFGMSGQ	文字	20
QCHRID	文字	20
QCHRIDCTL	文字	10
QCMNARB	文字	10
QCMNRCYLMT	文字	20
QCNTYID	文字	2
QCONSOLE	文字	10

QCRTAUT	文字	10
QCRTOBJAUD	文字	10
QCTLSBSD	文字	20
QCURSYM	文字	1
QDATE	文字	5 (年間通算日の場合) または6
QDATETIME	文字	20
QDATFMT	文字	3
QDATSEP	文字	1
QDAY	文字	2または3 (年間通算日の場合)
QDAYOFWEEK	文字	4
QDBFSTCCOL	文字	10
QDBRCVYWT	文字	1
QDECFMT	文字	1
QDEVNAMING	文字	10
QDEVRCYACN	文字	20
QDSCJOBITV	文字	10
QDSPSGNINF	文字	1
QDYNPTYADJ	文字	1
QDYNPTYSCD	文字	1
QENDJOBLMT	10進数	(5 0)
QFRCCVNRST	文字	1
QHOUR	文字	2
QHSTLOGSIZ	10進数	(8 0)
QIGC	文字	1
QIGCCDEFNT	文字	20
QIGCFNTSIZ	10進数	(4 1)
QINACTITV	文字	10
QINACTMSGQ	文字	20
QIPLDATTIM	文字	20
QIPLSTS	文字	1
QIPLTYPE	文字	1
QJOBMSGQFL	文字	10
QJOBMSGQMX	10進数	(5 0)
QJOBMSGQSZ	10進数	(5 0)
QJOBMSGQTL	10進数	(5 0)
QJOBSPLA	10進数	(5 0)
QKBDBUF	文字	10
QKBDTYPE	文字	3
QLANGID	文字	3
QLEAPADJ	10進数	(5 0)
QLIBLCKLVL	文字	1
QLMTDEVSSN	文字	1
QLMTSECOFR	文字	1
QLOCALE	文字	1024
QLOGOUTPUT	文字	10
QMAXACTLVL	10進数	(5 0)
QMAXJOB	10進数	(10 0)
QMAXSGNACN	文字	1
QMAXSIGN	文字	6
QMAXSPLF	10進数	(10 0)
QMCHPOOL	10進数	(10 0)
QMINUTE	文字	2
QMLTTHDACN	文字	1
QMODEL	文字	4
QMONTH	文字	2
QPASTHRSVR	文字	10
QPFRAJ	文字	1
QPRBFTR	文字	20
QPRBHLDTV	10進数	(5 0)
QPRCFEAT	文字	4
QPRCMLTTSK	文字	1

QPRTDEV	文字	10
QPRTKEYFMT	文字	10
QPRTTXT	文字	30
QPWDEXPITV	文字	6
QPWDLMTAJC	文字	1
QPWDLMTCHR	文字	10
QPWDLMTREP	文字	1
QPWDLVL	10進数	(5 0)
QPWDMAXLEN	10進数	(5 0)
QPWDMINLEN	10進数	(5 0)
QPWDPOSDIF	文字	1
QPWDRQDDGT	文字	1
QPWDRQDDIF	文字	1
QPWDVLDPGM	文字	20
QPWRDWNLMT	10進数	(5 0)
QPWRRSTIPL	文字	1
QQRDEGREE	文字	10
QQRYTIMLMT	文字	10
QRCLSPLSTG	文字	10
QRETSVRSEC	文字	1
QRMTIPL	文字	1
QRMTSRVATR	文字	1
QRMTSIGN	文字	20
QSAVACCPH	文字	1
QSCANFS	文字	200
QSCANFSCTL	文字	200
QSCPFCONS	文字	1
QSECOND	文字	2
QSECURITY	文字	2
QSETJOBATR	文字	160
QSFWERRLOG	文字	10
QSHRMEMCTL	文字	1
QSPCENV	文字	10
QSPLFACN	文字	10
QSRLNBR	文字	8
QSRSEQ	文字	20
QSRVDMP	文字	10
QSTGLOWACN	文字	10
QSTGLOWLMT	10進数	(7 4)
QSTRPRTWTR	文字	1
QSTRUPPGM	文字	20
QSTSMSG	文字	10
QSVRAUTITV	10進数	(6 0)
QSYSLIBL	文字	150
QTHDRSCADJ	文字	1
QTHDRSCAFN	文字	20
QTIMADJ	文字	30
QTIME	文字	6, 7, 8, または9 (秒, 1/10秒, 1/100秒, 1/1000秒)
QTIMSEP	文字	1
QTIMZON	文字	10
QTOTJOB	10進数	(5 0)
QTSEPOOL	文字	10
QUPSDLYTIM	文字	20
QUPSMGQ	文字	20
QUSEADPAUT	文字	10
QUSRLIBL	文字	250
QUTCFFSET	文字	5
QVFYOBJRST	文字	1
QYEAR	文字	2

これは必須パラメーターです。

例

```
RTVSYSVAL SYSVAL(QDATE) RTNVAR(&DATE)
```

このコマンドは、システム値QDATEから日付値を検索し、それをCL変数&DATEに入れます。CL変数は、QDATEシステム値の属性と一致するように6文字の変数として宣言されている必要があります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1028

パラメーターSYSVALには、&1は正しくない。

CPF1074

SYSVAL(QMONTH)が年間通算日形式に対して正しくない。

CPF1094

CL変数が、システム値&1と同じタイプではない。

CPF1095

システム値&1のCL変数の長さが正しくない。

CPF1842

システム値&1にアクセスすることができない。

CPF268D

システム値&1にアクセスすることができない。

トップ

テーブル・ソースの検索 (RTVTBLSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

*CVTまたは*SRTSEQテーブルのソースを検索するためには、テーブル・ソース検索(RTVTBLSRC)コマンドを使用します。このソース・ステートメントはソース・ファイル・メンバーに入れられ、CRTTBLコマンドによってテーブルを作成する時に、入力として使用することができます。さらにこのコマンドは、*SRTSEQテーブルのソースを*UCSSRTSEQテーブルを作成するために使用される形式に変換します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TBL	テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *TBL	オプション, 定位置 3
CVTTOUCS	UCS-2への変換	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション

[トップ](#)

テーブル (TBL)

ソースが検索されるテーブルの修飾名を指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

テーブル・ソースが書き込まれる作成済みのデータベース・ソース・ファイルの修飾名を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

テーブル・ソースが書き込まれるデータベース・ソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。指定されていない場合には、テーブル名と見なされます。このコマンドの実行前にメンバーが存在している場合には、それが消去されてからソース・ステートメントが書き込まれます。メンバーが存在しない場合には、それが作成されます。

考えられる値は、次の通りです。

***TBL** テーブルの名前がメンバー名として使用されます。

ソース・メンバー名

検索されたテーブル・ソースが入るソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

UCS-2への変換 (CVTTOUCS)

ファイルに入れる時に*SRTSEQテーブルのソースを*SRTSEQテーブルの形式から*UCSSRTSEQテーブルの形式に変換するかどうかを指定します。*UCSSRTSEQを作成したいが、既存の*SRTSEQテーブルに基づいて作成したい場合に、これを行うことができます。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 情報はファイルに入れられる時に変換されません。

***YES** 情報がファイルに入れられる時に変換されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

例

```
RTVTBLSRC  TBL(QSYS/TABLE1) SRCFILE(TBLSRC) SRCMBR(TABLEOUT)
            CVTTOUCS(*NO)
```

このコマンドは、ソース・ステートメントをライブラリーQSYSのTABLE1という名前のテーブルから検索します。検索されたソースは、TBLSRCという名前のファイルに入れられ、メンバーTABLEOUTとしての名前が付けられて、*UCSSRTSEQ形式には変換されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル検索 (RTVUSRPRF)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ

リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル検索(RTVUSRPRF)コマンドは、記憶され、ユーザーと関連した1つまたは複数の値を見つけるために、制御言語(CL)プログラムまたはREXXプロシージャで使用されます。値は、指定された変数に入れて所要のユーザーに戻されます。

このパラメーター・プロンプト・テキストには、検索したいパラメーターの横に変数の最小文字数がリストされています。文字変数の場合には、1つの数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小の長さを示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

- USRPRFパラメーターに指定するユーザー・プロファイルには読み取り(*READ)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, <u>*CURRENT</u>	オプション, 位置 1
RTNUSRPRF	RTNUSRPRFのCL変数 (10)	文字値	オプション
SPCAUT	SPCAUTのCL変数 (100)	文字値	オプション
MAXSTG	MAXSTGのCL変数 (11 0)	10 進数	オプション
STGUSED	STGUSEDのCL変数 (15 0)	10 進数	オプション
PTYLMT	PTYLMTのCL変数 (1)	文字値	オプション
INLPGM	INLPGMのCL変数 (10)	文字値	オプション
INLPGMLIB	INLPGMLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JOB	JOBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JOBDLIB	JOBDLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
GRPPRF	GRPPRFのCL変数 (10)	文字値	オプション
OWNER	OWNERのCL変数 (10)	文字値	オプション
GRPAUT	GRPAUTのCL変数 (10)	文字値	オプション
ACGCDE	ACGCDEのCL変数 (15)	文字値	オプション
MSGQ	MSGQのCL変数 (10)	文字値	オプション
MSGQLIB	MSGQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQ	OUTQのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQLIB	OUTQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
TEXT	TEXTのCL変数 (50)	文字値	オプション
PWDCHGDAT	PWDCHGDATのCL変数 (6)	文字値	オプション
USRCLS	USRCLSのCL変数 (10)	文字値	オプション
ASTLVL	ASTLVLのCL変数 (10)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SPCENV	SPCENVのCL変数 (10)	文字値	オプション
CURLIB	CURLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
INLMNU	INLMNUのCL変数 (10)	文字値	オプション
INLMNULIB	INLMNULIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
LMTCPB	LMTCPBのCL変数 (10)	文字値	オプション
DLVRY	DLVRYのCL変数 (10)	文字値	オプション
SEV	SEVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
PRTDEV	PRTDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
ATNPGM	ATNPGMのCL変数 (10)	文字値	オプション
ATNPGMLIB	ATNPGMLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
USROPT	USROPTのCL変数 (240)	文字値	オプション
DSPSGNINF	DSPSGNINFのCL変数 (7)	文字値	オプション
PWDEXPITV	PWDEXPITVのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
PWDEXP	PWDEXPのCL変数 (4)	文字値	オプション
STATUS	STATUSのCL変数 (10)	文字値	オプション
PRVSIGN	PRVSIGNのCL変数 (13)	文字値	オプション
NOTVLDSIGN	NOTVLDSIGNのCL変数(11 0)	10 進数	オプション
LMTDEVSSN	LMTDEVSSNのCL変数 (7)	文字値	オプション
KBDBUF	KBDBUFのCL変数 (10)	文字値	オプション
LANGID	LANGIDのCL変数 (10)	文字値	オプション
CNTRYID	CNTRYIDのCL変数 (10)	文字値	オプション
CCSID	CCSIDのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
SRTSEQ	SRTSEQのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRTSEQLIB	SRTSEQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJAUD	OBJAUDのCL変数 (10)	文字値	オプション
AUDLVL	AUDLVLのCL変数 (640)	文字値	オプション
GRPAUTYP	GRPAUTYPのCL変数 (10)	文字値	オプション
SUPGRPPRF	SUPGRPPRFのCL変数 (150)	文字値	オプション
UID	UIDのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション
GID	GIDのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション
SETJOBATR	SETJOBATR CL変数 (160)	文字値	オプション
CHRIDCTL	CHRIDCTL用CL変数 (10)	文字値	オプション
LCLPDMGT	LCLPDMGTのCL変数 (10)	文字値	オプション

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

情報を検索したいユーザー・プロファイルを指定します。変数を指定する場合には、10文字の長さでなければならず、ユーザー名または値*CURRENTを含めなければなりません。

*CURRENT

現在実行中のユーザー・プロファイルが使用されます。

名前 情報を検索したいユーザー・プロファイルの名前を指定します。

RTNUSRPRFのCL変数 (10) (RTNUSRPRF)

ユーザー・プロファイルの名前の検索に使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターに*CURRENTが指定されている場合には、戻される値は現在実行されているユーザー・プロファイル名です。名前が指定されている場合には、このパラメーターにその名前が戻されます。

トップ

SPCAUTのCL変数 (100) (SPCAUT)

ユーザーがもっている特殊権限のリストを検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは100文字の変数でなければなりません。戻される形式は最大10項目のリストです。各項目の長さは10文字で、各項目には特殊権限が入ります。リスト中の特殊権限が10より少ない場合には、残りの項目は右から空白で埋め込まれます。ユーザーが特殊権限をもっていない場合には、最初の項目には値*NONEが入り、空白が後に続きます。

トップ

MAXSTGのCL変数 (11 0) (MAXSTG)

指定したユーザーが所有している永続オブジェクトを記憶するために割り当てることができる補助記憶域の最大量を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは長さ(11 0)の10進変数でなければなりません。戻される値は、11桁の値か、あるいは*NOMAXの場合には-1の値です。変数は、小数点以下の桁数のない11桁の値でなければなりません。

トップ

STGUSEDのCL変数 (15 0) (STGUSED)

指定したユーザー・プロファイルが所有している永続オブジェクトを記憶するために、現在使用中の補助記憶域の大きさを得るのに使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは長さ(15 0)の10進変数でなければなりません。その値はキロバイトで戻されます。(1キロバイト(KB)は1024バイトです。)

トップ

PTYLMTのCL変数 (1) (PTYLMT)

システムに投入されるジョブごとにユーザーがもつことができる最高スケジューリング優先順位を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、変数は1文字の長さです。この値は、このユーザーのもとで実行中のすべてのジョブに指定できるジョブ処理優先順位を制御します。これは、ジョブ・コマンドのJOBPTYおよびOUTPTYパラメーター中に指定される値は、そのジョブを実行するユーザーに指定されたPTYLMT値を超えることができないという意味です。スケジューリング優先順位は0から9の範囲の値とすることができます。0は最高の優先順位、9は最低の優先順位です。

INLPGMのCL変数 (10) (INLPGM)

指定されたユーザーがシステムにサインオンした時に開始される初期プログラムの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。指定されたユーザーと関連する初期プログラム名がない場合には、変数に戻される値は*NONEです。

トップ

INLPGMLIBのCL変数 (10) (INLPGMLIB)

指定されたユーザーと関連する初期プログラムが入っているライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。指定されたユーザーと関連する初期プログラムがない場合には、ブランクが変数に戻されます。

トップ

JOBDDのCL変数 (10) (JOBDD)

指定されたユーザーと関連するジョブ記述の名前を検索するために使用される変数の名前。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

JOBDLIBのCL変数 (10) (JOBDLIB)

指定されたユーザーと関連するジョブ記述が入っているライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

GRPPRFのCL変数 (10) (GRPPRF)

グループ・プロファイルの名前の検索に使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。指定したユーザー・プロファイルにグループ・プロファイルが存在していない場合には、値*NONEが変数に戻されます。

トップ

OWNERのCL変数 (10) (OWNER)

特殊値*USRPRFまたは*GRPPRFを検索するために使用される変数の名前を指定します。このパラメーターは、新しく作成されたオブジェクトの所有者を指定します。これは指定されたユーザーまたはユーザーのグループ・プロファイルです。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。指定されたユーザー・プロファイルにグループ・プロファイルが存在していない場合には、変数に戻される値は*USRPRFです。

GRPAUTのCL変数 (10) (GRPAUT)

新しく作成されたオブジェクトのグループ・プロファイルに認可された権限の検索に使用される変数の名前を指定します。特殊値*NONE, *CHANGE, *ALL, *USE,または*EXCLUDEが変数に戻されます。指定されたユーザーにグループ・プロファイルがない場合、あるいはグループ・プロファイルが指定されたユーザーの作成するオブジェクトの所有者である場合には、戻される特殊値は*NONEです。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

ACGCDEのCL変数 (15) (ACGCDE)

指定されたユーザーに割り当てられた会計コードの値を検索するために使用される変数の名前。CLプログラムでは、これは15桁の変数でなければなりません。ユーザー・プロファイルに会計コードが存在していない場合には、ブランクが戻されます。

トップ

MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)

指定されたユーザーと関連するメッセージ待ち行列の名前を検索するために使用される変数の名前。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)

指定されたユーザーと関連するメッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)

指定されたユーザーに関連した出力待ち行列の名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。特殊値*DEVまたは*WRKSTNがこの変数に組み込まれて戻されます。

トップ

OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)

指定されたユーザーと関連する出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。出力待ち行列(OUTQ)パラメーターの現在の値が*DEVまたは*WRKSTNの場合には、ブランクが戻されます。

TEXTのCL変数 (50) (TEXT)

指定されたユーザー・プロファイルのユーザー定義の記述を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは50文字の変数でなければなりません。ユーザーと関連したテキストがない場合には、空白がCL変数に戻されます。

トップ

PWDCHGDATのCL変数 (6) (PWDCHGDAT)

指定されたユーザーのパスワードが最後に変更された日付を検索するために使用される変数の名前を指定します。日付はYYMMDDの形式で戻されます。CLプログラムでは、これは6文字の変数でなければなりません。ユーザーに日付がない場合には、空白が戻されます。

トップ

USRCLSのCL変数 (10) (USRCLS)

指定されたユーザーのユーザー・クラスを検索するために使用される変数の名前を指定します。特殊値*USER, *SYSOPR, *PGMR, *SECADM,または*SECOFRが変数に戻されます。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

ASTLVLのCL変数 (10) (ASTLVL)

指定されたユーザーの操作援助レベルを検索するために使用される変数の名前を指定します。特殊値*SYSVAL, *BASIC, *INTERMED,または*ADVANCEDがこの変数に入れて戻されます。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

SPCENVのCL変数 (10) (SPCENV)

指定されたユーザーの開始環境である変数の名前を指定します。特殊値*SYSVAL, *NONE,または*S36がこの変数に入れて戻されます。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

CURLIBのCL変数 (10) (CURLIB)

指定されたユーザーのジョブの省略時のライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前。このユーザーに現行ライブラリーが存在していない場合には、値*CRTDFTが変数に戻されます。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

INLMNUのCL変数 (10) (INLMNU)

指定されたユーザーがシステムにサインオンした時に表示される初期メニューの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

INLMNULIBのCL変数 (10) (INLMNULIB)

初期メニューを含むライブラリー名を検索するために使用される変数の名前。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

トップ

LMTCPBのCL変数 (10) (LMTCPB)

ユーザーが自分のユーザー・プロファイル、および実行コマンドを変更できる限界値を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。特殊値*NO、*YES、または*PARTIALが変数に戻されます。

トップ

DLVRYのCL変数 (10) (DLVRY)

指定されたユーザー・プロファイルのメッセージ制御配布値を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。この変数には特殊値の*NOTIFY、*BREAK、*HOLD、または*DFTが戻されます。

トップ

SEVのCL変数 (2 0) (SEV)

指定されたユーザーのメッセージ制御重大度レベルを検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは長さ(2 0)の変数でなければなりません。

トップ

PRTDEVのCL変数 (10) (PRTDEV)

指定されたユーザーの印刷装置の名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。印刷装置名がシステム値QPRTDEVからとられたものである場合には、値*SYSVALが戻されます。印刷装置名がユーザーのワークステーションに割り当てられた印刷装置からとられたものである場合には、値*WRKSTNが戻されます。

トップ

ATNPGMのCL変数 (10) (ATNPGM)

指定されたユーザーのATTNキー処理プログラムの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、この変数は10文字の長さです。ATTNキー処理プログラムがシステム値QATNPGMからのものである場合は、値*SYSVALが戻されます。このユーザーにATTNキー処理プログラムが指定されていない場合には、値*NONEが戻されます。

[トップ](#)

ATNPGMLIBのCL変数 (10) (ATNPGMLIB)

指定されたユーザーのATTNキー処理プログラム・ライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。アテンション・プログラム (ATNPGM)パラメーターの現在の値が*NONEの場合には、ブランクが変数に戻されます。

[トップ](#)

USROPTのCL変数 (240) (USROPT)

指定されたユーザーのユーザー・オプションの値のリストを検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは240文字の変数でなければなりません。この変数には特殊値の*NONEまたは値のリストが戻されます。

[トップ](#)

DSPSGNINFのCL変数 (7) (DSPSGNINF)

指定されたユーザーのサインオン情報表示標識を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは7文字の変数でなければなりません。特殊値*SYSVAL, *YES,または*NOが変数に戻されます。*SYSVALが戻された場合には、サインオン情報表示標識はシステム値QDSPSGNINFから取られます。

[トップ](#)

PWDEXPITVのCL変数 (5 0) (PWDEXPITV)

指定されたユーザーのパスワード有効期限を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、指定する変数は長さ(5,0)のバック形式でなければなりません。戻される値は、1から366の範囲の数、*SYSVALの場合の0,または*NOMAXの場合の-1のいずれかです。0が戻された場合には(*SYSVAL),パスワード有効期限はシステム値QPWDEXPITVから取られます。

[トップ](#)

PWDEXPのCL変数 (4) (PWDEXP)

指定されたユーザーのパスワード満了標識を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは4文字の変数でなければなりません。特殊値*YESまたは*NOが変数に戻されます。

[トップ](#)

STATUSのCL変数 (10) (STATUS)

指定されたユーザー・プロファイルの状況を検索するために使用される変数の名前。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。特殊値*ENABLEDまたは*DISABLEDがこの変数に入れて戻されます。

[トップ](#)

PRVSIGNのCL変数 (13) (PRVSIGN)

指定されたユーザーの前のサインオン日付および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。日付および時刻はCYYMMDDHHMMSSの形式で戻されます。CLプログラムでは、これは13文字の変数でなければなりません。ユーザーが前にサインオンしていなかった場合には、ブランクが戻されます。

[トップ](#)

NOTVLDSIGNのCL変数(11 0) (NOTVLDSIGN)

指定されたユーザーの正しくないサインオンの試行回数を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、指定する変数は長さ(11 0)のパック形式でなければなりません。

[トップ](#)

LMTDEVSSNのCL変数 (7) (LMTDEVSSN)

指定されたユーザーの装置セッション限界標識を検索するために使用される変数の名前を指定します。特殊値*SYSVAL, *YES,または*NOがCL変数に戻されます。*SYSVALが戻された場合には、装置セッション限界標識はシステム値QLMTDEVSSNから取られます。CLプログラムでは、これは7文字の変数でなければなりません。

[トップ](#)

KBDBUFのCL変数 (10) (KBDBUF)

指定されたユーザーのキーボード・バッファリング値を検索するために使用される変数の名前を指定します。特殊値*SYSVAL, *NO, *TYPEAHEAD,または*YESがこのCL変数に組み込まれて戻されます。*SYSVALが戻された場合には、キーボード・バッファリング値はシステム値QKDBUFと同じになります。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

[トップ](#)

LANGIDのCL変数 (10) (LANGID)

指定されたユーザーの言語IDを検索するために使用される変数の名前を指定します。この変数で、特殊値*SYSVALまたは言語IDが戻されます。*SYSVALが戻された場合には、そのユーザーの言語IDはQLANGIDシステム値によって決定されます。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

[トップ](#)

CNTRYIDのCL変数 (10) (CNTRYID)

指定されたユーザーの国または地域IDを検索するために使用される変数の名前を指定します。この変数には特殊値*SYSVALか、国または地域IDが戻されます。*SYSVALが戻された場合には、ユーザーの国または地域IDはQCNTYIDシステム値によって決定されます。CLプログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

[トップ](#)

CCSIDのCL変数 (5 0) (CCSID)

指定されたユーザーのコード化文字セットID (CCSID)を検索するために使用される変数の名前を指定します。5桁の値が戻されるか、あるいはユーザーのCCSIDを決定するためにシステム値QCCSIDが使用されている場合には、-2の値が戻されます。CLプログラムでは、これは(5,0)の長さの10進数の変数としなければなりません。

[トップ](#)

SRTSEQのCL変数 (10) (SRTSEQ)

指定されたユーザーに対する分類順序テーブルの検索に使用される変数の名前を指定します。戻される値は次の1つです。*HEX, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR, *SYSVAL,または10文字のテーブルID。*SYSVALが戻された場合には、このユーザーのテーブルIDはQSRTSEQシステム値によって決定されます。

[トップ](#)

SRTSEQLIBのCL変数 (10) (SRTSEQLIB)

指定されたユーザーに対する分類順序テーブル・ライブラリーの検索に使用される変数の名前を指定します。戻される値は、10文字のライブラリーIDです。分類順序テーブル名が指定されない場合には、この変数はブランクに設定されます。

[トップ](#)

OBJAUDのCL変数 (10) (OBJAUD)

指定されたユーザーに対するオブジェクト監査値の検索に使用される10文字の変数の名前。この変数には、ユーザー監査変更(CHGUSRAUD)コマンドで指定された*NONE, *CHANGE,または*ALLの特殊値が戻されます。このコマンドのユーザーが*ALLOBJ特殊権限か*AUDIT特殊権限のどちらかをもたない時には、*NOTAVLが戻されます。10文字に満たない変数が戻された場合には、その変数の右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

AUDLVLのCL変数 (640) (AUDLVL)

指定されたユーザーに対するオブジェクト監査レベルの検索に使用される640文字の変数の名前を指定します。CLプログラムでは、変数は640文字の長さです。戻された形式は、最大のリストが64オブジェクト監査レベル項目で、各項目が10文字の長さです。リスト中の64オブジェクト監査レベル項目より小さい場合には、右側の残りの項目はブランクで埋め込まれます。ユーザーがオブジェクト監査レベルでない場合には、最初の項目には*NONEの値とその後ブランクが入れます。ユーザーがオブジェクト監査レベルの場合には、この変数にユーザー監査変更(CHGUSRAUD)コマンドで指定された次の特殊値の1つまたは複数に戻されます。*CMD, *CREATE, *DELETE, *JOBDDTA, *OBJMGT, *OFCSRVR, *PGMADP, *SAVRST, *SECURITY, *SERVICE, *SPLFDDTA,または*SYSMGT。このコマンドのユーザーが*ALLOBJ特殊権限か*AUDIT特殊権限のどちらかをもたない場合には、最初の項目には*NOTAVLの値とその後ブランクが入れます。

[トップ](#)

GRPAUTYPのCL変数 (10) (GRPAUTYP)

新しく作成されたオブジェクトのグループ・プロファイルに認可された権限のタイプの検索に使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、この変数は10文字の長さです。*PRIVATEまたは*PGPの特殊値が変数に戻されます。

[トップ](#)

SUPGRPPRFのCL変数 (150) (SUPGRPPRF)

指定されたユーザーの補足グループ・プロファイルの検索に使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、変数は150文字の長さです。戻される形式は最大15までの補足グループ・プロファイルのリストで、各項目の長さは10文字です。リストの補足グループが15以下の場合には、残りの項目の右側にブランクが埋め込まれます。ユーザーに補足グループがない場合には、最初の項目に*NONEが入っていて、その後ブランクが入っています。

補足グループ・プロファイルは次の形式で戻されます。

- 項目1
補足グループ・プロファイルCHAR(10)
- 項目2
補足グループ・プロファイルCHAR(10)

[トップ](#)

UIDのCL変数 (10 0) (UID)

指定されたユーザーのユーザーID番号(UID)の検索に使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは長さ(10 0)の10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

GIDのCL変数 (10 0) (GID)

指定されたユーザーのグループID番号(GID)の検索に使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは長さ(10 0)の10進変数でなければなりません。GIDが*NONEの場合には、戻される値は10桁の値または値0です。変数は、小数部を持たない10桁の値でなければなりません。

[トップ](#)

SETJOBATR CL変数 (160) (SETJOBATR)

指定されたユーザーのLOCALEパス名からジョブ属性セットを検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムでは、変数の長さは160文字です。戻される形式は、設定されている最大16のジョブ属性からなるリストであり、それぞれの項目の長さは10文字です。リスト中の属性が16より少ない場合には、残りの項目は右側に空白が埋め込まれます。ユーザーのLOCALEパス名から属性が設定されていない場合には、最初の項目に値の*NONEが入り、その後空白が続きます。

[トップ](#)

文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)

指定されたユーザーの文字ID制御を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムではこの変数の長さは10文字にしてください。特殊値*DEVD、*JOBCCSID、または*SYSVALが変数に戻されます。*SYSVALが戻される場合には、ユーザーのCHRID制御はQCHRIDCTLシステム値によって判別されます。

[トップ](#)

LCLPWDMGTのCL変数 (10) (LCLPWDMGT)

指定されたユーザーのローカル?パスワード管理の検索に使用される変数の名前を指定します。CLプログラムではこの変数の長さは10文字にしてください。特殊値*YESまたは*NOが変数に戻されます。

[トップ](#)

例

```
CRTUSRPRF  USRPRF(SMITH)  SPCAUT(*SAVSYS *SECADM)
           MAXSTG(*NOMAX)  PTYLM(4)
           INLPGM(*NONE)  MSGQ(QGPL/SMITHMQ)
           OUTQ(QGPL/QSMITH)  TEXT('JOHN SMITH USER PROFILE')
```

SMITHユーザー・プロファイルが前述のコマンドを使用して作成される場合は、ユーザーSMITHが以下の入っているCLプログラムを呼び出す場合:

```
DCL  &UNAME    *CHAR  10
DCL  &URIGHT   *CHAR  100
DCL  &IPGM     *CHAR  10
DCL  &IPGMLB  *CHAR  10
DCL  &UMSGQ   *CHAR  10
DCL  &UMSQLB  *CHAR  10
DCL  &USED    *CHAR  10
:
RTVUSRPRF  USRPRF(*CURRENT)  STGUSED(&USED)  +
           RTNUSRPRF(&UNAME)  SPCAUT(&URIGHT)  +
           INLPGM(&IPGM)  INLPGMLIB(&IPGMLB)
```

このコマンドは、ジョブの現行ユーザー・プロファイルについてのユーザー・プロファイル情報を検索し、その情報を以下のCLプログラム変数に戻します。

```
&UNAME      'SMITH      '
&URIGHT     '*SAVSYS  *SECADM  (      ) ...
           |_____|
           |_____|
           |_____|
           |_____|
&IPGM       '*NONE      '
&IPGMLB     '            '
           |_____|
           |_____|
           |_____|
           |_____|
```

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF8134

ユーザー・プロファイル&4に損傷がある。

トップ

ユーザー印刷情報の検索 (RTVUSRPTI)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ

リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ユーザー印刷情報検索(RTVUSRPTI)コマンドは、ユーザー・プロファイルに関連したユーザー印刷情報値を検索するためにCLプログラムで使用されます。所要のユーザーに指定されたCL変数に値が戻されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	必須, 定位置 1
RTNTEXT	RTNTEXTのCL変数	文字値	必須, 定位置 2

[トップ](#)

ユーザー (USER)

ユーザー印刷情報が検索されるユーザーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*CURRENT

現行ジョブを実行しているユーザー・プロファイルが使用されます。

名前 検索されるユーザー印刷情報を持つユーザーの名前を指定してください。

[トップ](#)

RTNTEXTのCL変数 (RTNTEXT)

情報が要求されるユーザー・プロファイルのユーザー印刷情報を検索するために使用される10文字のCL変数を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
RTVUSRPTI USER(FEIST) RTNTEXT(&TEXT)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルFEISTに関するユーザー印刷情報を検索し、それをCLプログラム変数&TEXTに保管します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2247

内部機密保護オブジェクトが使用可能でない。理由コードは&1です。

CPF34D5

CCSID変換エラー。

[トップ](#)

WSCSTソースの検索 (RTVWSCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト検索(RTVWSCST)コマンドによって、ユーザーは指定の装置タイプ、キーボードの言語タイプ、およびキーボード・タイプ、あるいは指定のASCII印刷装置のメーカー、機種、および型式に関するシステム提供のテーブル属性のセットをソース物理ファイル・メンバーで検索することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVTYPE	装置タイプ	*TRANSFORM, 3101, 3151, 3161, 3162, 3163, 3164, 3179, 3180, 3196, 3197, 3476, 3477, 3486, 3487, 4019, 4201, 4202, 4207, 4208, 4216, 4224, 4234, 5204, 5251, 5291, 5292, 6252, D220, T910, T925, T955, V100, V220, W30, W50, W60	必須, 定位置 1
KBDTYPE	キーボード言語タイプ	AGB, AGE, AGI, ALI, BGB, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAI, CAM, CLB, CSB, CYB, DMB, DME, DMI, FAB, FAE, FAI, FNB, FNE, FNI, FQB, FQI, GKB, GNB, HNB, ICB, ICE, ICI, INB, INI, ITB, ITE, IRB, ITI, JEB, JEI, JPB, KAB, MKB, NCB, NEB, NEE, NEI, NWB, NWE, NWI, PLB, PRB, PRE, PRI, RMB, ROB, RUB, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SPB, SPE, SQB, SPI, SSB, SSE, SSI, SWB, SWE, SWI, THB, TKB, TRB, UKB, UKE, UKI, USB, USE, USI, YGI	オプション, 定位置 2
MFRTPMDL	メーカー・タイプ, 型式	文字値	オプション
SRCMBR	ソース・メンバー	名前	オプション, 定位置 3
KBD	接続されたキーボード	*DATA5250, *TYPE5250, *DATA122, *TYPE122, *ENHANCED	オプション
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>Q</u> TXTSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>B</u> LANK	オプション

[トップ](#)

装置タイプ (DEVTYPE)

装置タイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*TRANSFORM

SCS-ASCIIホスト印刷変換機能サポートが、ASCII印刷装置によって使用されます。

装置タイプ

使用する装置タイプを指定してください。使用可能な装置タイプのリストについては、WORKSTATION CUSTOMIZATION PROGRAMMINGを参照してください。

[トップ](#)

キーボード言語タイプ (KBDDTYPE)

この表示装置の（EBCDICおよびASCIIに使用される）3桁のキーボード言語識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

キーボードの言語タイプ

この表示装置の3文字の国別または地域識別コード（EBCDICおよびASCIIに使用される）を指定します。

有効な識別コードおよび識別コードが表す言語のリストについては、AS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の表示装置記述の変更(CHGDEV DSP)または表示装置記述の作成(CRTDEV DSP)のキーボード言語タイププロンプト（KBDDTYPEパラメーター）を参照してください。各言語ごとに、ASCII装置グループも表示されます（適用可能な場合）。

[トップ](#)

メーカー・タイプ、型式 (MFR TYPMDL)

ホスト印刷変換機能サポートを使用するASCII印刷装置のメーカー、機種、および型式を指定します。ホスト印刷変換機能サポートを使用するASCII印刷装置についてサポートされているメーカー、機種、および型式のリストについては、AS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の印刷装置記述の作成(CRTDEV PRT)コマンドを参照してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

検索されたテーブル属性を受け取るソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

接続されたキーボード (KBD)

キーボード・タイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*DATA5250

5250データ入力キーボードが指定されます。

***TYPE5250**

5250タイプライター・キーボードが指定されます。

***DATA122**

122キー・データ入力キーボードが指定されます。

***TYPE122**

122キー・タイプライター・キーボードが指定されます。

***ENHANCED**

拡張キーボードが指定されます。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

検索されたテーブル属性を入れるためにメンバーを作成するソース・ファイルの名前を指定します。ソース・ファイルが存在しない場合には、これが作成されます。ソース・ファイルのコード化文字セット識別コードは*HEXです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ソース・ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QTXTSRC

IBM提供ソース・ファイルQTXTSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

作成されたソース物理ファイル・メンバーの説明を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'**記述**' ソース物理ファイル・メンバーの説明を指定します。

[トップ](#)

例

```
RTWVSCST  DEVTYPE(5251)  KBDTYPE(USB)  SRCMBR(MYSOURCE)
           KBD(*DATA5250)  SRCFILE(MYLIB/QTXTSRC)
```

このコマンドは、米国基本言語を使用する5250データ入力タイプのキーボードが接続された5251平衡型表示装置用システム・マッピング・テーブルを検索します。このテーブルは、ライブラリーMYLIB のソース・ファイルQTXTSRCのソース・メンバーMYSOURCEに保管されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF5D33

システム・テーブルの要求は正常に実行されなかった。理由コードは&4です。

[トップ](#)

バックアップの実行 (RUNBCKUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ実行(RUNBCKUP)コマンドにより、ユーザーは指定されたオブジェクトのテープへの事前定義バックアップを実行することができます。このバックアップでは、ライブラリー（バックアップ・リスト中のすべてのユーザー・ライブラリーまたは選択されたユーザー・ライブラリー）、フォルダー（バックアップ・リスト中のすべてのフォルダーまたは選択されたルート・フォルダー）、機密保護データ、構成データ、メール、および予定表を組み込むことができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCKUPOPT	バックアップ・オプション	*DAILY, *WEEKLY, *MONTHLY	必須, キー, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *BCKUPOPT その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプションナル, 定位置 2

[トップ](#)

バックアップ・オプション (BCKUPOPT)

使用するバックアップ・オプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DAILY

日次バックアップ・オプションが使用されます。

*WEEKLY

週次バックアップ・オプションが使用されます。

*MONTHLY

月次バックアップ・オプションが使用されます。

[トップ](#)

装置 (DEV)

バックアップに使用するテープ装置のリストを指定します。

単一値

***BCKUPOPT**

指定されたオプションに記憶されているテープ装置名がバックアップに使用されます。

その他の値（最大4個指定可能）

名前 バックアップに使用されるテープ装置のリストを指定してください。仮想テープ装置を使用している場合には、1つの装置名だけを指定することができます。

トップ

例

例1:日次バックアップの実行

```
RUNBCKUP BCKUPOPT(*DAILY)
```

このコマンドは、オプションで指定した装置を使用して日次バックアップを実行します。

例2:月次バックアップの実行

```
RUNBCKUP BCKUPOPT(*MONTHLY) DEV(TAP02)
```

このコマンドは、オプションで指定した装置の代わりに装置TAP02を使用して月次バックアップを実行します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1EE3

バックアップ・オプションは認可されていない。

CPF1EE4

バックアップの実行は認可されていない。

CPF1EE6

指定された装置は使用できない。

CPF1EE7

バックアップ中に予期しないエラーが起こった。

CPF1EE8

出口プログラム&2/&1から予期しないエラー。

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E6E

バックアップ用に選択されていない。

CPF1E63

バックアップ権限の検査中にエラーが起こった。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E68

バックアップが不完全である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

LPDA-2の実行 (RUNLPDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LPDA-2実行(RUNLPDA)コマンドによって、ローカルまたはリモート・データ回線終端装置(DCE)でリンク問題判別援助機能 2 (LPDA-2)操作コマンドを実行することができます。RUNLPDAコマンドは、次のために使用することができます。

- 交換電話ネットワーク接続を確立または切断する。
- カプラーでのリレー接続をオープンまたはクローズする。
- リレー接続がオープンされているか、それともクローズされているかを判別する。
- 内部センサーから電流が流れているかどうかを判別する。
- DCEの送信速度を全速またはバックアップに変更する。

RUNLPDAコマンドの結果はメッセージとして戻されます。

制約事項:

1. RUNLPDAコマンドが有効なのは、非交換SDLC回線に接続されたアナログLPDA-2 DCEの場合だけです
2. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷され、ユーザー・プロファイル QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASは、このコマンドを使用する私用認可をもっています。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	行	名前	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*CALL, *DSC, *SETSPEED, *CONTSENSE, *CONTOPER	必須, 定位置 2
LCLDCEADR	ローカルDCEアドレス	01-FB, *LCL	オプション
RMTDCEADR	リモートDCEアドレス	01-FB, *NONE, *ANY	オプション
TELNBR	電話番号	単一値: *STORED その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 番号 1	文字値	
	要素 2: 番号 2	文字値	
CONTACT	リレー接続	*OPEN, *CLOSE	オプション
SPEED	送信速度	*FULL, *BACKUP	オプション
DTEPORT	DTEポート	*ALL, A, B, C, D	オプション
DCERTY	DCE再試行	*NO, *YES	オプション

トップ

行 (LINE)

LPDA-2操作コマンドが実行されるアナログDCEに接続されている非交換SDLC回線の名前を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*CALLが指定されている場合には、回線はオンへ構成変更されていなければなりません、非活動状態でなければなりません。OPTIONパラメーターに*CONTOPER、*CONTSENSE、*DSC、または*SETSPEEDが指定されている場合には、回線はオンに構成変更されているか、あるいは活動状態でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トップ

オプション (OPTION)

どのLPDA-2操作コマンドが実行されるかを指定します。

これは必須パラメーターです。

接続操作、接続センス、および送信速度設定の各コマンドは、ローカルDCEまたはリモートDCEで実行することができます。

ローカルDCEでこれらのコマンドの1つを実行するためには、次のようにします。

- ローカルDCEアドレスプロンプト (LCLDCEADRパラメーター) でローカルDCE のアドレスを指定してください。
- リモートDCEアドレスプロンプト (RMTDCEADRパラメーター) で*NONEを指定してください。

リモートDCEでこれらのコマンドの1つを実行するためには、次のようにします。

- LCLDCEADRパラメーターでリモートDCEが接続されているローカルDCEのアドレスを指定してください。
- RMTDCEADRパラメーターでリモートDCEのアドレスを指定してください。

注: ローカルDCEがPOINT-TO-POINT 2次またはマルチポイント従属端末として構成されている場合には、LPDA-2コマンドがリモートDCEに送られません。

考えられる値は、次の通りです。

*CALL

コールアウト・コマンドが実行されます。このコマンドは、交換電話ネットワークを介してローカルDCEとリモートDCEの間の接続を確立します。この値が有効なのは次の場合だけです。

- ローカルDCEとリモートDCEの両方に2線式カプラーがインストールされているか、あるいはローカルDCEとリモートDCEの両方に4線式カプラーがインストールされている。
- 行プロンプト (LINEパラメーター) に指定された回線がオンへ構成変更されているが、非活動状態である。

*CONTOPER

接続操作コマンドが実行されます。このコマンドは、リレー接続プロンプト (CONTACTパラメーター) に指定された値に応じてカプラーでのリレー接続をオープンまたはクローズします。この値が有効なのは、このLPDA-2コマンドが実行されるDCEに2線式カプラーがインストールされている場合だけです。

*CONTSENSE

接続センス・コマンドが実行されます。このコマンドは、カプラー中のリレー接続がオープンされているか、それともクローズされているか、および内部センサーから電流が流れているかどうかを示します。このオプションが有効なのは、このコマンドが実行されるDCEに2線式カプラーがインストールされている場合だけです。

*DSC 切断コマンドが実行されます。このコマンドは、ローカルDCEとリモートDCEの間の交換電話ネットワーク接続を切断します。この値を指定した場合には、**リモートDCEアドレスプロンプト** (RMTDCEADRパラメーター) に*NONEを指定することはできません。

*SETSPEED

送信速度設定コマンドが実行されます。このコマンドは、**送信速度プロンプト** (SPEEDパラメーター) に指定された値に応じてDCEの送信速度を全速またはバックアップに変更します。データ端末装置(DTE)ポートを各種の速度に設定できる複数ポートDCE構成の場合には、ポートを指定するために **DTEポートプロンプト** (DTEPORTパラメーター) を使用してください。

注: DCEに選択された構成オプションによっては、送信速度設定コマンドによって送信速度が変更されないことがあります。詳細については、DCEの文書を参照してください。

トップ

ローカルDCEアドレス (LCLDCEADR)

ローカルDCEの16進数アドレスを指定します。アドレッシングの詳細については、DCEの文書を参照してください。

考えられる値は、次の通りです。

*LCL アドレスにX'01'が使用されます。

ローカルDCEアドレス

ローカルDCEのアドレスを指定してください。有効な値の範囲はX'01'からX'FB' です。

トップ

リモートDCEアドレス (RMTDCEADR)

LPDA-2操作コマンドが実行されるリモートDCEの16進数アドレスを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

アドレスとしてX'00'が使用されます。これは、LPDA-2コマンドがローカルDCEで実行されることを示します。**オプションプロンプト** (OPTION パラメーター) に*DSCを指定した場合には、このパラメーターに*NONEを指定することはできません。

*ANY アドレスとしてX'FD'が使用されます。次の状態ではこの値を指定してください。

- ローカルDCEに接続されたいずれかのリモートDCEでLPDA-2コマンドが実行される。
- POINT-TO-POINT回線上でリモートDCEアドレスが不明である。
- マルチポイント回線上のすべての従属端末DCEでLPDA-2操作コマンドを実行する。この場合には、詳細な応答は受け取られません。

リモートDCEアドレス

リモートDCEのアドレスを指定してください。有効な値の範囲はX'01'からX'FB' です。

[トップ](#)

電話番号 (TELNBR)

リモートDCEとの接続を確立するためにローカルDCEがダイヤルする電話番号を指定します。このパラメーターが有効なのは、オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*CALLが指定された場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*STORED

DCEが構成された時にローカルDCEに記憶された電話番号が使用されます。

電話番号

ローカルDCEに2線式カプラーがインストールされている場合には、1つの電話番号を指定してください。ローカルDCEに4線式カプラーがインストールされている場合には、2つの電話番号を指定してください。LPDA-2コマンドによって数字だけが処理されますが、読みやすくするために、英字またはそれ以外の1バイト文字を入力することもできます。ダイヤル中にDCEに一時停止を指示するためには、コンマ(,)を使用することができます。

[トップ](#)

リレー接続 (CONTACT)

2線カプラーでのリレー接続をオープンするのか、それともクローズするのかを指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*CONTOPERが指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*OPEN

リレー接続がオープンされます。

*CLOSE

リレー接続がクローズされます。

[トップ](#)

送信速度 (SPEED)

DCEの所要の送信速度を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*SETSPEEDが指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*FULL

送信速度は全速に設定されます。

*BACKUP

送信速度はバックアップに設定されます。

DTEポート (DTEPORT)

送信速度が変更されるローカルまたはリモートDCEのDTEポートを指定します。このパラメーターは、オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*SETSPEEDが指定された場合にだけ有効で、複数アドレス構成オプションを使用しない複数ポートDCEにのみ適用されます。

考えられる値は、次の通りです。

- *ALL** DCEの集約速度が変更されます。個々のポートの送信速度の集約速度を変更することの影響については、DCE文書を参照してください。
- A** Aポートの送信速度が変更されます。
- B** Bポートの送信速度が変更されます。
- C** Cポートの送信速度が変更されます。
- D** Dポートの送信速度が変更されます。

トップ

DCE再試行 (DCERTY)

リモートDCEから応答が受け取られなかった場合に、ローカルDCEがリモートDCEにLPDA-2コマンドを再送するかどうかを指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*CALLまたは*DSCが指定された場合には、再試行は行なわれません。

考えられる値は、次の通りです。

- *NO** 再試行は試みられません。
- *YES** 1回の再試行が試みられます。

トップ

例

例1:交換電話網接続を確立する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*CALL) LCLDCEADR(*LCL)
          RMTDCEADR(*NONE) TELNBR(*STORED)
```

このコマンドは、呼び出しコマンドを実行します。回線SDLCLINE上にあるアドレスX'01' (*LCL)のローカルDCEが、ローカルDCEに保管されている電話番号をダイヤル呼び出しします。

例2:交換電話網接続を確立する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*CALL)
          LCLDCEADR(*LCL) RMTDCEADR(*NONE)
          TELNBR('9, 1-507-555-1212' '9, 1 (507) 555-1313')
```

このコマンドは、呼び出しコマンドを実行します。ローカルDCEが、TELNBRパラメーターに指定した2つの番号をダイヤル呼び出しします。コンマ(,)はダイヤル中の一時停止を示します。その他の非数値文字は無視されますが、読み取りを容易にします。

例3:交換電話網接続を切断する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*DSC)
          LCLDCEADR(10) RMTDCEADR(*ANY)
```

このコマンドは、切断コマンドを実行します。アドレスX'10'のローカルDCEが、交換電話網から切断されます。

例4:ローカルDCEでリレー接点をクローズする

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*CONTOPEP) LCLDCEADR(02)
          RMTDCEADR(*NONE) CONTACT(*CLOSE)
```

このコマンドは、接点操作コマンドを実行します。アドレスX'02'のローカルDCEが、2線カプラーでリレー接点をクローズします。

例5:リレー接点の状況を報告する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*CONTSENSE)
          LCLDCEADR(01) RMTDCEADR(04)
```

このコマンドは、接点読み取りコマンドを実行します。メッセージが、アドレスX'04'のリモートDCEにあるリレー接点の状況を報告します。(正しいローカルDCEアドレスを、LCLDCEADRパラメーターに指定する必要があります。)

例6:送信速度を変更する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*SETSPEED) LCLDCEADR(05)
          RMTDCEADR(*NONE) SPEED(*BACKUP) DTEPORT(B)
```

このコマンドは、設定送信速度コマンドを実行します。アドレスX'05'のローカルDCEのポートBに対する送信速度が、バックアップ速度に変更されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1BAA

LPDA-2コマンドは交換網バックアップで実行できない。

CPF1BAB

LPDA-2コマンドはターゲットのDCEでサポートされていない。

CPF1BAC

必要な機能が導入されていない。

CPF1BAD

LPDA-2コマンドはDCE構成と互換性がない。

CPF1BA1

回線記述&1が存在していない。

CPF1BA2

回線&1が非活動状態であるか、またはオンへ構成変更されていない。

CPF1BA3

回線&1は活動状態の2次である。

CPF1BA4

RUNLPDAの処理中に回線&1で障害。

CPF1BA5

LPDA-2コマンドの応答がない。

CPF1BA6

回線&1でLPDA-2コマンドを実行できない。

CPF1BA7

RUNLPDAデータで使用可能なバッファがない。

CPF1BA8

LPDA-2コマンドは回線&1ですでに活動状態である。

CPF1BBA

最初の呼び出しで連続応答トーンを受信した。

CPF1BBB

2番目の呼び出しで連続応答トーンを受信した。

CPF1BBC

交換接続で回線信号がない。

CPF1BBD

初期のダイヤル音がない。

CPF1BBE

停止した後にダイヤル音がない。

CPF1BBF

使用中のトーンをリモートDCEから受信した。

CPF1BB0

カプラーがローカルDCEに導入されていない。

CPF1BB1

カプラーが操作不能である。

CPF1BB2

LPDA-2コマンドは構成オプションでは正しくない。

CPF1BB3

電話番号が正しくない。

CPF1BB5

交換接続がすでに活動状態である。

CPF1BB6

電話番号は1つしか使用可能でない。

CPF1BB7

電話番号は2つ必要である。

CPF1BB8

最初の呼び出しでリモートDCEから返答がない。

CPF1BB9

2番目の呼び出しでリモートDCEから返答がない。

CPF1BDA

RUNLPDAコマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF1BDB

内部処理エラー。

CPF1BDC

必要な機能が操作可能になっていない。

CPF1BDD

リング・バックの限界を超えた。

CPF1BDE

DCEは使用中。LPDA-2コマンドは実行できない。

CPF1BDF

LPDA-2呼び出しコマンドの回線が適切な状態でない。

CPF1BD3

DCEは現在前のLPDA-2コマンドを処理中である。

CPF1BD5

リモートDCEにコマンドを送信できない。

CPF1BD6

回線記述&1は非交換*SDLCでない。

CPF1BD8

要求が正常に実行されなかった。システム保守ツールは活動状態です。

CPF1BD9

RUNLPDAコマンドは交換回線をサポートしない。

CPF1B85

2線式カプラーが導入されていない。

CPF1B86

カプラーが導入されていない。

CPF1B87

送信速度は変更できない。

CPF1B88

構成で選択したDTEポートが正しくない。

CPF1B94

ローカルDCEがリモートDCEから応答を受け取っていない。

CPF1B95

回線記述&1の使用は認可されていない。

CPF1B97

受信した応答の形式が正しくない。

CPF1B98

不良フレーム検査文字列のある応答を受け取った。

OFC8DB7

内部処理の障害。

[トップ](#)

QUERY実行 (RUNQRY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY実行(RUNQRY)コマンドは既存のQUERYプログラムを実行しますが、このコマンドにファイル名だけが指定された場合には、省略時のQUERYプログラムが実行されます。QUERYプログラムはシステム・データベースから情報を得て、その情報の報告書を作成します。報告書は、詳細形式か要約形式のいずれかで作成されます。印刷装置またはデータベース・ファイルへの出力を指定した場合には、QUERYの定義を印刷することができます。出力は、表示されるか、印刷されるか、またはデータベース・ファイルに記憶されます。このコマンドは、次の3つの方法で使用されます。つまり、既存のQUERYプログラム（すでに作成されているQUERYプログラム）を実行するため、既存のQUERYプログラムの値の一部をこのコマンドに指定した値によって変更して実行するため、あるいは省略時の値およびこのコマンドに指定した値にだけ基づいて省略時のQUERYプログラムを実行するためです。

- QUERYプログラムに対する1つまたは複数のファイルを変更せずに既存のQUERYプログラムを実行するためには、(QRYFILEパラメーターではなく) QRYパラメーターを使用して、QUERYプログラムの名前を指定します。
- 既存のQUERYプログラムの変更されたバージョンを実行するためには、QRYパラメーターおよび該当するパラメーターを使用し、必要に応じて定義を変更します。このパラメーターに指定されたパラメーター値によって、既存のQUERY定義の中の対応する値が一時変更されますが、それはこのコマンドが処理されている時だけです。たとえば、QUERYプログラムで使用する別のファイルまたはファイルのリストを指示するためには、QRYFILEパラメーターを使用してください。
- 前に定義されたQUERY定義がないファイルにQUERYプログラムを実行するためには、QRYFILEパラメーターを使用して、QUERYプログラムを実行するファイルを指定します。省略時のQUERYプログラムの場合には、1つのファイル名だけを指定することができます。

QRYとQRYFILEの両方のパラメーターを指定した場合には、QRYFILEパラメーターに指定されたファイルにより、QUERYプログラムに指定されたファイル名が一時変更されます。したがって、QUERY定義に複数のファイル（およびメンバー）が定義されていて、それらの1つまたは2つを変更したい場合には、ファイルの選択項目には変更なしを意味する*SAMEを指定し、一時変更するファイルの値を指定してください。

注:

1. 既存のQUERYプログラムの変更されたバージョンが実行された場合には、RUNQRY コマンドで指定された変更ではQUERY定義それ自体のいかなる値も**変更されません**。それらは、実行中の報告書の結果にだけ影響します。
2. (QRYパラメーターで識別された) 既存のQUERYプログラムが使用された場合には、未指定のパラメーターの省略時の値は*RUNOPTになります。つまり、QUERYの定義で指定された（またはみなされた）同じ値が省略時の値として使用されます。これが省略時のQUERYプログラムである場合には、省略時の値は*RUNOPTにはなりませんが、構文図にリストされた次の事前定義値となります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QRY	QUERY	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションナル, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
QRYFILE	QUERYファイル	値 (最大 32 回の繰り返し): 要素リスト	オプションナル, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *RUNOPT, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *RUNOPT, *FIRST, *LAST, *ALL	
OUTTYPE	報告出力のタイプ	*RUNOPT, *DISPLAY, *PRINTER, *OUTFILE	オプションナル, 定位置 3
OUTFORM	出力書式	*RUNOPT, *DETAIL, *SUMMARY	オプションナル
RCDSLT	レコード選択	*NO, *YES	オプションナル
PRTDFN	QUERY定義の印刷	*RUNOPT, *NO, *YES	オプションナル
PRTDEV	印刷装置	名前, *RUNOPT, *PRINT	オプションナル
FORMSIZE	用紙サイズ	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 用紙の長さ	1-255, *RUNOPT	
	要素 2: 用紙の幅	1-378, *RUNOPT	
FORMTYPE	用紙タイプ	文字値, *RUNOPT, *STD	オプションナル
COPIES	コピー枚数	1-255, *RUNOPT	オプションナル
LINESPACE	行送り	*RUNOPT, 1, 2, 3	オプションナル
OUTFILE	出力ファイル	要素リスト	オプションナル
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *RUNOPT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *RUNOPT, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *RUNOPT, *FIRST, *LAST, *ALL	
	要素 3: オプション	*RUNOPT, *NEWFILE, *RPLFILE, *NEWMBR, *RPLMBR, *ADDMBR	
AUT	権限	名前, *RUNOPT, *LIBCRTAUT, *USE, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE	オプションナル

トップ

QUERY (QRYパラメーター)

実行する既存のQUERYプログラムの名前を指定します。QRYを指定しない場合には、QRYFILEを指定しなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

既存のQUERY定義は使用されません。その代わりに省略時のQUERYプログラム（または即時QUERYプログラム）を使用して、QRYFILEパラメーターで指定されたファイルから情報が取り出されます。

QUERYプログラム名

実行するQUERYプログラムの名前を指定してください。

値を指定しない場合には、QUERYの定義時に指定された1つまたは複数のファイルにQUERYプログラムが実行されます。

QUERYプログラムの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

指定されたQUERY定義を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

QUERYが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

QUERYファイル (QRYFILEパラメーター)

情報のQUERYが実行される1つまたは複数のデータベース・ファイルを指定します。QRYパラメーターを指定した場合には、ファイル名を使用するかまたは1つまたは複数のファイルに省略時の値の*SAMEを使用するか、あるいはその両方を使用することによって、このパラメーターに最大32個までのファイルを指定することができます。QRYパラメーターを指定しない場合には、このパラメーターに1つのファイル名だけを指定することができます。QRYFILEを指定しない場合には、QRYを指定しなければなりません。

値を指定しない場合には、QUERYの定義時に指定された1つまたは複数のファイルがQUERYプログラムの実行に使用されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターには次の2つの部分があります。

要素1：データベース・ファイル名

考えられる値は、次の通りです。

データベース・ファイル名

システムが情報を取り出して出力を作成するデータが入っている1つまたは複数のデータベース・ファイルの名前を指定してください。最高32個までのファイルを指定することができます。

*SAME

ファイルのリストは、QUERY定義に定義されたのと同じまま残ります。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

*SAME

ライブラリー、ファイル、およびメンバーの値は、リスト中のこの位置のファイルについては変更されません。値は、QUERYに定義されたのと同じです。ライブラリー、ファイル、およびメンバーについて指定された値は、すべて無視されます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***RUNOPT**

ファイルの選択に指定されたライブラリーを使用します。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

要素2：データベース・ファイル・メンバー

メンバー名に指定できる値は次のとおりです。

メンバー名

照会するファイル・メンバーの名前を指定します。

***RUNOPT**

このファイルの選択に指定されたメンバーを使用します。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーを照会します。

***LAST**

ファイルの最後のメンバーを照会します。

***ALL** 入力ファイルは、区分テーブルで、ファイル中のすべてのメンバーがQUERY対象となります。

トップ

報告出力のタイプ (OUTTYPEパラメーター)

QUERYプログラムによって作成された報告書または出力の送り先を指定します。値がQUERY定義に指定されずに、コマンドに値が入力されていない場合、あるいはQUERY定義名を指定していない場合には、*DISPLAYとみなされます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義を使用している場合には、QUERY定義で指定されている出力のタイプが、このQUERYプログラムの実行時に作成される出力のタイプになります。

***DISPLAY**

QUERYプログラムによって作成された出力は、コマンドを実行している表示装置に送られます。バッチで実行中の場合には、出力は表示装置の代わりに印刷装置に送られます。

***PRINTER**

QUERYプログラムによって作成された出力が印刷されます。

***OUTFILE**

出力はOUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力書式 (OUTFORMパラメーター)

QUERYプログラムによって作成される出力の形式を指定します。QUERYプログラムに値が指定されておらず、コマンドでも値が入力されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、*DETAILとみなされます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義で指定されている出力形式がこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。

***DETAIL**

QUERYプログラムによって作成される出力形式は、詳細レコードおよび要約レコード（ある場合）を含む報告書です。

***SUMMARY**

QUERYプログラムによって作成される出力形式は、要約レコードだけを含む報告書です。

[トップ](#)

レコード選択 (RCDSLTPARAMETER)

実行時選択テスト付きでQUERYプログラムを実行するかどうかを指定します。

注: *YESを指定するには、QUERY FOR ISERIESライセンス・プログラムが導入されていて、QUERYを対話式に実行する必要があります。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** QUERYのレコード選択画面を表示しないでQUERYプログラムが実行されます。

***YES** この実行に対してのみのレコード選択定義を使用することができます。QUERYプログラムに定義されているレコード選択テストを変更するか、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合にレコード選択テストを指定することができる表示画面が表示されます。

注: 表示装置への出力の場合には、QUERYプログラムを反復実行することができます。

[トップ](#)

QUERY定義の印刷 (PRTDFNパラメーター)

QUERYプログラムの実行時に、QUERY定義を報告書と一緒に印刷するかどうかを指定します。この定義は、OUTTYPEパラメーターによって決められた通りにQUERYプログラムの出力を印刷またはデータベース・ファイルに記憶する時に、印刷することができます。QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、値は*NOとみなされます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERYプログラムの実行時にQUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定されている印刷オプションが使用されます。

- *NO QUERYプログラムの実行時にQUERY定義は印刷されません。
- *YES QUERY定義が報告書に印刷されます。OUTTYPE(*DISPLAY)が指定されているか、またはそれを使用するとみなされている場合には、*YESを指定することはできません。

トップ

印刷装置 (PRTDEVパラメーター)

報告書を印刷する印刷装置を指定します。値を指定しない場合には、QUERYの定義時に指定された印刷装置とみなされます。QUERYプログラムまたはこのパラメーターに印刷装置が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、値は*PRINTとみなされます。

注: 印刷装置ファイルQPQUPR FILに対して一時変更が有効となっている場合には、その一時変更で指定された値がこのパラメーターに使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

*RUNOPT

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義で指定されている印刷装置がこのQUERYプログラムの実行時に出力の印刷に使用されます。

*PRINT

このQUERYプログラムの実行時に、QPQUPR FILによって定義された省略時の印刷装置が出力の印刷に使用されます。

印刷装置名

このQUERYプログラムの実行時に出力の印刷に使用される印刷装置の名前を指定します。

トップ

用紙サイズ (FORMSIZEパラメーター)

報告書を印刷する用紙の長さおよび幅を指定します。132より大きい用紙の幅が指定された場合には、QUERYプログラムはCPI(15)およびFONT(*CPI)のファイルを開きます。QUERY定義またはこのパラメーターに値が指定されない場合、あるいはQUERY定義名が指定されない場合には、132が用紙の幅とみなされ、ファイルQPQUPR FILからの値が用紙の長さとしてみなされます。

注: 印刷装置ファイルQPQUPR FILに対して一時変更が有効となっている場合には、その一時変更で指定された値がこのパラメーターに使用されます。

このパラメーターには次の2つの部分があります。

要素1: 用紙の長さ

*RUNOPT

QUERYプログラムを実行する時にQUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定された用紙サイズが使用されます。QUERY定義に指定された用紙サイズがブランクの場合には、QPQUPR FILからの値とみなされます。

用紙の長さ

このQUERYプログラムの実行時に使用される用紙の長さを指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

要素2：用紙の幅

*RUNOPT

QUERYプログラムを実行する時にQUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定された用紙サイズが使用されます。QUERY定義に指定された用紙サイズがブランクの場合には、QPQUPR FILからの値とみなされます。

用紙の幅

このQUERYプログラムの実行時に使用される用紙の幅を指定してください。有効な値の範囲は1-378です。

[トップ](#)

用紙タイプ (FORMTYPEパラメーター)

出力を印刷する用紙のタイプを指定します。用紙のタイプを指示するために使用される識別コードはユーザー定義のもので、最大10文字の長さとすることができます。

注：QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、QPQUPR FILの中の値とみなされます。印刷装置ファイルQPQUPR FILに対して一時変更が有効となっている場合には、その一時変更で指定された値がこのパラメーターに使用されません。

考えられる値は、次の通りです。

*RUNOPT

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義で指定されている用紙タイプがこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。

用紙タイプ

このQUERYプログラムの実行時に使用される用紙のタイプを指定してください。

[トップ](#)

コピー枚数 (COPIESパラメーター)

印刷するコピー数を指定します。

注：QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、コピー数は1とみなされます。印刷装置ファイルQPQUPR FILに対して一時変更が有効となっている場合には、その一時変更で指定された値がこのパラメーターに使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

*RUNOPT

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定されているコピー数がこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。QUERY定義に指定されたコピー数がブランクの場合には、QPQUPR FILからのコピー数とみなされます。

コピー数

このQUERYプログラムの実行時に印刷するコピー数を指定してください。1-255 の範囲の数を指定してください。

行送り (LINESPACEパラメーター)

報告書の行間に残すブランク行の数を指定します。この数は1-3の範囲です。QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、値は1とみなされます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義で指定されている行数がこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。

- 1 QUERYプログラムの出力の印刷時に1行間隔（ブランク行なし）が使用されることを指示します。
- 2 QUERYプログラムの出力の印刷時に2行間隔（1ブランク行）が使用されることを指示します。
- 3 QUERYプログラムの出力の印刷時に3行間隔（2ブランク行）が使用されることを指示します。

トップ

出力ファイル (OUTFILEパラメーター)

QUERYプログラムの出力を受け取るデータベース・ファイルがあれば、これを指定します。このパラメーターに値を指定しない場合には、QUERY定義に指定されているライブラリー、ファイル、メンバー、およびオプションとみなされます。QUERY定義が指定されていない場合には、ファイルQQRYYOUTが省略時の出力ファイル・ライブラリーに作成されます。このライブラリーはQUERYプロファイルの中に定義されているか、または（プロファイルが存在しない場合には）現行ライブラリー(*CURLIB)となります。この新しいファイルの最初のメンバー(*FIRST)が出力に使用されます。

注：現行ライブラリーを指定しなかった場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

OUTFILEパラメーターによって指定された名前が存在していない場合には、システムがそれを指定されたライブラリーの中に作成します。

このパラメーターには次の3つの部分があります。

要素1：データベース・ファイル名 考えられる値は次の通りです。

データベース・ファイル名

QUERYプログラムの出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

***RUNOPT**

QUERYプログラムの出力を受け取るために、QUERY定義に指定されたデータベース・ファイルが使用されます。ファイル、ライブラリー、メンバー、およびオプションは変更できません。ここでライブラリー、メンバー、およびオプションに指定された値は、すべて無視されます。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***RUNOPT**

QUERY定義に指定されている場合には、出力はQUERY定義に名前が指定されたライブラリーに向けられます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

使用されるライブラリーの名前を指定してください。

要素2：データベース・ファイル・メンバー

指定できるメンバー値は次のとおりです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーを使用してQUERYプログラムの出力を受け取ります。

***LAST**

ファイルの最後のメンバーを使用してQUERYプログラムの出力を受け取ります。

***RUNOPT**

QUERY定義で指定されているメンバーを使用してQUERYプログラムの出力を受け取ります。

***ALL** 出力ファイルは、区分テーブルで、ファイル中のすべてのメンバーがQUERY出力の受け取りに使用されます。メンバーに*ALLを指定する時には、**要素3 データ・オプション**は*RPLMBRまたは*ADDMBRにしか設定できません。QUERYの実行時には、この区分テーブルは存在していなければなりません。

メンバー名

指定するファイル・メンバーを使用してQUERYプログラムの出力を受け取ります。

要素3：データの追加または置き換え

最後のオプションは、データを新しいデータベース・ファイルに入れるか、既存のデータベース・ファイルを置き換えるか、新しいメンバーを追加するか、既存のメンバーを置き換えるか、またはデータを既存のメンバーに追加するかどうかを指定します。QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、値は*NEWFILEとみなされます。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定されているメンバー・オプションがこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。

***NEWFILE**

出力は新しいデータベース・ファイルに書き出されます。メンバー名を*ALLに設定した時には、このオプションは無効です。

***RPLFILE**

出力は、古いファイルを削除し、新しいファイルを作成します。メンバー名を*ALLに設定した時には、このオプションは無効です。

***NEWMBR**

出力は新しいメンバーとして追加されます。メンバー名を*ALLに設定した時には、このオプションは無効です。

***RPLMBR**

既存のメンバーが消去されてから、出力が追加されます。

***ADDMBR**

出力は既存のメンバーの最後に追加されます。

権限 (AUTパラメーター)

出力ファイルに対する特定権限がないユーザー、権限リストに含まれないユーザー、および出力ファイルに対する特定権限がないユーザー・グループのユーザーに与えられる権限を指定します。このパラメーターの詳細説明は、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)の付録Aにあります。

注: 出力ファイルが作成または置き換えられる時にだけ、権限が割り当てられます。

考えられる値は、次の通りです。

*RUNOPT

QUERY定義で指定されている場合には、QUERY定義で指定されている権限が使用されます。

*LIBCRTAUT

出力ファイルに対する共通認可は、ターゲット・ライブラリー（出力ファイルが入れられるライブラリー）のCRTAUTパラメーターの値から入手されます。この共通認可は、出力ファイルの作成時に決定されます。出力ファイルの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

所有者に限定されているか、あるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作を除いて、出力ファイルに対するすべての操作を実行することができます。出力ファイルについて基本機能を変更し、それを実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***USE** 出力ファイルに対してプログラムの実行またはファイルの読み取りといった基本操作を実行することができます。出力ファイルを変更することはできません。*USE権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

***ALL** 所有者に限定されているか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される操作を除いて、出力ファイルに対するすべての操作を実行することができます。

*EXCLUDE

出力ファイルにアクセスすることはできません。

権限リスト名

使用される権限リストの名前を指定してください。

例

例1:合計レコードのみを印刷

```
RUNQRY  QRY(LIBX/QRY1)  OUTTYPE(*PRINTER)
        OUTFORM(*SUMMARY) COPIES(4)
```

このコマンドは、ライブラリーLIBXにあるQUERY QRY1を実行します。作成され印刷される報告書には、合計レコードだけが含まれます。報告書の4コピーが印刷されます。

例2:省略時QUERYを実行


```
RUNQRY  QRYFILE((LIBX/FILE2 *FIRST))  
        OUTTYPE(*OUTFILE)  OUTFORM(*DETAIL)  
        RCDSLT(*YES)  OUTFILE(LIB2/OUT1 MBR4 *NEWMBR)
```

このコマンドは、省略時のQUERYを実行し、ライブラリーLIBXにあるファイルFILE2の最初のメンバーからデータを取得します。メンバーMBR4が、新しいメンバーとしてライブラリーLIB2のファイルOUT1に作成されます。メンバーMBR4には、省略時QUERYからの出力が入ります。レコード選択画面が表示され、ライブラリーLIBXのファイルFILE2からライブラリーLIB2のファイルOUT1の新しいメンバーMBR4に書き込むレコードを指定することができます。この出力には、明細レコードだけが含まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

リモート・コマンド実行 (RUNRMTCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・コマンド実行(RUNRMTCMD)コマンド (リモート・ロケーション名にSNAアドレスが指定された時には、AREXECとも言われる) によって、サーバー・ユーザーは、この機能のターゲット部分を実行しているリモート・システムでコマンドを実行することができます。

この機能のターゲット部分は、アドレス・タイプに*IPを指定する場合には REXECD (リモート実行) デーモンとすることができ、アドレス・タイプに*SNAを指定する場合には AREXECD (APPCリモート実行) デーモンとすることができます。

コマンドをリモート・システムに送信する時には、ローカル・システムはコマンドの完了を待って、リモート・コマンドからの出力をスプール・ファイルに入れます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	文字値	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値	
	要素 2: タイプ	<u>*SNA</u> , *IP	
RMTUSER	リモート・ユーザーID	文字値, <u>*NONE</u> , *CURRENT	オプション
RMTPWD	リモート・パスワード	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
MODE	モード	通信名, <u>*NETATR</u>	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, <u>*CALC</u>	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	2-3600, <u>*NOMAX</u> , *NOWAIT	オプション

トップ

コマンド (CMD)

ターゲット・システムで実行されるコマンドを表すために、最大2000桁までの文字ストリングを指定します。ターゲット・システムでサポートされる最大長は2000 桁以下となることがあります。ターゲット・システムでサポートされる最大長を超えるコマンド・ストリングを指定した場合には、コマンドは正常に実行されません。

組み込み空白または特殊文字がコマンドに入っている場合には、そのコマンドはアポストロフィで囲まなければならないません。

注: ローカル・システムの引用符付きストリングの中では対のアポストロフィとする通常の規則は、このCMDパラメーター上のリモート・システムに同じストリングを投入する際には、二重にしなければなりません。ユーザーが別の引用符付きストリングの中に1つの引用符付きストリングをコーディングするためには、これが必要となります。したがって、このパラメーターをコーディングする場合には、単一のアポストロフィがもう1つのアポストロフィと通常通り対になっていても、ターゲット・システムで同じ結果を得るためには、内側のセットのアポストロフィ内にある各オカレンスは二重にしなければなりません。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ターゲット・システムの名前およびターゲット・システムとの接続に使用される接続のタイプを指定します。

使用可能な名前またはアドレスの値は、アドレス・タイプによって異なります。

アドレス・タイプが*SNAの場合には、ターゲット・システムの名前をNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定し、ここNNNNNNNNはネットワークID (ID)であり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。ネットワークIDを指定しない場合には、ネットワーク属性は省略時のネットワークIDを判別するために使用されます。

アドレス・タイプが*IPの場合には、ホスト名またはIPアドレスを指定して、ターゲット・システムを識別してください。ホスト名は次の規則に従わなければなりません。

- 最初の文字はAからZまたは0から9でなければなりません。
- 最後の文字はAからZ, 0から9,またはピリオド(.)でなければなりません。
- ブランク()は使用できません。
- 特殊文字のピリオド(.), 下線(_), およびマイナス(-)は使用することができます。
- ピリオド(.)で区切られた名前の各部分の長さは63桁を超えることができません。

注: ピリオド(.)で区切られた名前の各部分は、英語の英字または数字で開始し終了していなければなりません。

- 名前の長さは1から255桁の範囲内であればなりません。

インターネット・アドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定します。ここで、NNNは0から255の範囲の10進数です。IPアドレスでは、アドレスのネットワーク識別子の部分またはホストIDの部分がすべて2進数1またはすべて2進数ゼロである場合には、そのIPアドレスは有効ではありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

使用できるアドレス・タイプの値は、次の通りです。

***SNA** ターゲット・システムはシステム・ネットワーク体系(SNA)アドレスおよびプロトコルを使用してアクセスされます。

***IP** ターゲット・システムは、ホスト名またはTCP/IP接続上のIPアドレスを使用して検出されます。

トップ

リモート・ユーザーID (RMTUSER)

ターゲット・システムのユーザーID (ID)を指定します。このパラメーターにユーザーIDが指定され、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、RMTPWD(*NONE)は正しくありません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

ユーザーIDは送信されません。ターゲット・システムの機密保護でユーザーIDが必要と構成された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

*CURRENT

このコマンドを使用するジョブのユーザーID (サインオン・ユーザー) が送信されます。

リモート・ユーザー識別子

ターゲット・システム上に存在し、使用するユーザーIDを指定します。ユーザーIDを指定し、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、パスワードを指定しなければなりません。

[トップ](#)

リモート・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送信されるパスワードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

システムはパスワードを送信しません。RMTUSERパラメーターにユーザーID (ID)を指定して、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、コマンドは正常に実行されません。

パスワード

ターゲット・システムに送られるパスワードを指定して、RMTUSERパラメーターに指定されたユーザーIDのサインオンを検査します。*IPのアドレス・タイプを指定した場合には、送信されるパスワードは通信回線上で置き換えられません。*SNAを指定した場合には、リモート・システムがパスワードの置き換えをサポートしているかどうかによって、パスワードの置き換えが行なわれることもあるし、行なわれないこともあります。

[トップ](#)

モード (MODE)

ターゲット・システムにコマンドを送信する時に使用するモードの名前を指定します。このパラメーターを使用できるのは、アドレス・タイプの値が*SNAの場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。8桁のブランク文字からなるモード名の場合には、BLANKを指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であり、指定することはできません。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

変換に使用されるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。データをリモート・システムに送信する時には、データはジョブのCCSIDを使用して、CCSID パラメーターに指定されたCCSIDに変換されます。同様に、データをリモート・システムから受信する時には、データはCCSIDパラメーターに指定されたCCSIDからジョブのCCSIDに変換されます。

制約事項:

1. ジョブのCCSIDが65535である（変換なしを示す）場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。
2. このコマンドでは、データをソースCCSIDからターゲットCCSIDに変換する時に、往復変換方式を使用します。CCSID変換方式の詳細については、各国語サポートの資料を参照してください。

考えられる値は次の通りです。

*CALC

ターゲット・システムから送信されるCCSIDの値が使用可能な場合には、それが使用されます。ターゲット・システムから値が指定されていない場合には、省略時の値の00819(ISO 8859-1 8ビットASCII)が使用されます。

コード化文字セットID

要求されたCCSID値が使用されます。この値は、有効なCCSIDが要求されたことを確認するために、妥当性検査されます。

[トップ](#)

待ち時間 (秒数) (WAITTIME)

リモート・ロケーションに到達不能と宣言する前に戻り（エコー）を待機する時間（秒数）を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

*NOWAIT

作動可能で使用可能な接続があると、システムは即時に戻ります。

応答待機時間

時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は2から3600秒です。

[トップ](#)

例

例1: SNAアドレス・タイプを使用したりモート・コマンド(RUNRMTCMD)の実行

```
RUNRMTCMD  CMD('DIR')  RMTLOCNAME((APPN.RMTSYS *SNA))
```

このコマンドは、SNAアドレス・タイプを使用した'RMTLOCNAME'で指定されたシステム上で'DIR'コマンドを実行します。

例2: SNAアドレス・タイプを使用したりモート・コマンド(AREXEC)の実行

```
AREXEC  CMD('dir')  RMTLOCNAME(APPN.RMTSYS)
```

このコマンドは、例1のコマンドと同等です。

例3: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびホスト名を使用したりモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('LS')  RMTLOCNAME((MYSYS.NET1.LOCAL *IP))
```

このコマンドは、ホスト名MYSYS.NET1.LOCALで指定されたシステム上で'LS'コマンドを実行します。

例4: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびインターネット・アドレスを使用したりモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('LS')  RMTLOCNAME(('9.5.1.94' *IP))
```

このIPアドレス'9.5.1.94'で指定されたシステム上で'LS'コマンドを実行します。

例5: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびインターネット・アドレスを使用した複数コマンドから成るリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('LS; CAT MYFILE; DATE')  RMTLOCNAME(('9.5.1.94' *IP))
```

このコマンドは、IPアドレス'9.5.1.94'で指定されたシステム上で複数のコマンド（最初に'LS',次に'CAT MYFILE',次に'DATE'）を実行します。

例6: 待ち時間満了値を指定したりモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('DIR')  RMTLOCNAME((APPN.RMTSYS *SNA))  WAITTIME(15)
```

このコマンドは、指定されたシステム上で'DIR'コマンドを実行します。応答するためのリモート・ロケーションの最大待ち時間は、15秒です。待ち時間が許されるのは、*SNAアドレス・タイプ値を使用する場合だけです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF91CB

コマンドに問題が起こったが、コマンドは完了した。

CPF91CC

コマンドは正常に完了しなかった。

CPF91CF

リモート・システム上のコマンドが正しく実行されなかった。

CPF91C9

RMTLOCNAMEアドレス・タイプに*IPが指定された時はMODE値を使用できない。

[トップ](#)

SQLステートメントの実行 (RUNSQLSTM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SQLステートメント実行(RUNSQLSTM)コマンドは、構造化照会言語(SQL)ステートメントのソース・ファイルを実行します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
COMMIT	コミットメント制御	*CHG, *UR, *CS, *ALL, *RS, *NONE, *NC, *RR	オプション, 定位置 3
NAMING	命名	*SYS, *SQL	オプション, 定位置 4
ERRLVL	重大度レベル	0-40, 10	オプション
DATFMT	日付形式	*JOB, *USA, *ISO, *EUR, *JIS, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL	オプション
DATSEP	日付区切り文字	*JOB, ' ', '!', '!', '!', '!', '!', *BLANK	オプション
TIMFMT	時刻形式	*HMS, *USA, *ISO, *EUR, *JIS	オプション
TIMSEP	時刻区切り文字	*JOB, '!', '!', '!', '!', '!', *BLANK	オプション
DFTRDBCOL	省略時のコレクション	名前, *NONE	オプション
SAAFLAG	IBM SQLフラグづけ	*NOFLAG, *FLAG	オプション
FLAGSTD	ANSフラグ付け	*NONE, *ANS	オプション
DECMPT	小数点	*JOB, *SYSVAL, *PERIOD, *COMMA	オプション
SRTSEQ	ソート順序	単一値: *JOB, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSVRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PROCESS	ステートメント処理	*RUN, *SYN	オプション
ALWCPYDTA	データのコピー可能	*OPTIMIZE, *YES, *NO	オプション
ALWBLK	ブロック化可能	*ALLREAD, *NONE, *READ	オプション
SQLCURRULE	SQL規則	*DB2, *STD	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DECRESULT	10進数結果オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 最大精度	<u>31</u> , 63	
	要素 2: 最大位取り	0-63, <u>31</u>	
	要素 3: 割り算の最小位取り	0-9, <u>0</u>	
OUTPUT	出力リスト	<u>*NONE</u> , *PRINT	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, <u>*CURRENT</u>	オプション
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	<u>*NONE</u> , *SOURCE, *STMT, *LIST	オプション
CLOSQLCSR	SQLカーソルのクローズ	<u>*ENDACTGRP</u> , *ENDMOD	オプション
DLYPRP	PREPARE遅延	<u>*NO</u> , *YES	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	<u>*NAMING</u> , *USER, *OWNER	オプション
DYNUSRPRF	動的ユーザー・プロファイル	<u>*USER</u> , *OWNER	オプション

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

実行する構造化照会言語(SQL)ステートメントが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: SQLステートメントの実行

名前 実行するSQLステートメントが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。ソース・ファイルは、データベース・ファイルまたはインライン・データ・ファイルとすることができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・メンバー (SRCMBR)

実行する構造化照会言語(SQL)ステートメントが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

名前 実行するSQLステートメントが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

トップ

コミットメント制御 (COMMIT)

SQLステートメントをコミットメント制御のもとで実行するかどうかを指定します。

***CHG または *UR**

SQL ALTER, CALL, COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, RENAME,および REVOKE ステートメントで参照されるオブジェクトおよび更新, 削除, および挿入される行は作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができます。

***CS** SQL ALTER, CALL, COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, RENAME,および REVOKE ステートメントで参照されるオブジェクトおよび更新, 削除, および挿入される行は作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。選択されたのに更新されていない行は, 次の行が選択されるまでロックされます。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができません。

***ALL または *RS**

SQL ALTER, CALL, COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, RENAME,および REVOKE ステートメントで参照されるオブジェクトおよび選択, 更新, 削除, および挿入される行は作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができません。

***NONE または *NC**

コミットメント制御が使用されないことを指定します。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができます。SQL DROP SCHEMAステートメントがプログラムに組み込まれている場合には, *NONEまたは*NCを使用しなければなりません。

***RR** SQL ALTER, CALL, COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, RENAME,および REVOKE ステートメントで参照されるオブジェクトおよび選択, 更新, 削除, および挿入される行は作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができません。SELECT, UPDATE, DELETE, およびINSERTの各ステートメントで参照されたすべてのテーブルは, 作業単位 (トランザクション) の終わりまで排他的にロックされます。

トップ

命名規則 (NAMING)

SQLステートメント中のオブジェクトに使用する命名規則を指定します。

***SYS** システムの命名規則 (ライブラリー名/ファイル名) が使用されます。

***SQL** SQLの命名規則 (スキーマ名, テーブル名) が使用されます。

トップ

重大度レベル (ERRLVL)

SQLステートメントの処理によって生成されるメッセージの重大度を基にして, その処理が成功しているかどうかを指定します。処理時に, このパラメーターに指定されている値より大きいエラーが起こると, それ以上のステートメントは処理されずに, ステートメントがコミットメント制御の下で実行されている場合には, そのステートメントはロールバックされます。

10 重大度レベルが10より大きいエラー・メッセージを受け取ると, ステートメント処理は停止します。

使用する重大度レベルを指定してください。

[トップ](#)

日付形式 (DATFMT)

日付結果の欄にアクセスする時に使用する形式を指定します。入力日付ストリングの場合には、指定した値は、日付が正しい形式で指定されているかどうかを判別するために使用されます。

注: 形式*USA, *ISO, *EUR,または*JISを使用する入力日付ストリングは常に有効です。

***JOB** ジョブに指定された形式が使用されます。ジョブの現行日付形式を判別するには、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用してください。

***USA** 米国日付形式MM/DD/YYYYが使用されます。

***ISO** 国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

***EUR** 欧州日付形式DD.MM.YYYYが使用されます。

***JIS** 日本工業規格(JIS)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

***MDY** 日付形式MM/DD/YYが使用されます。

***DMY** 日付形式DD/MM/YYが使用されます。

***YMD** 日付形式YY/MM/DDが使用されます。

***JUL** 年間通算日形式YY/DDDが使用されます。

[トップ](#)

日付区切り文字 (DATSEP)

日付の結果の欄をアクセスする時に使用する区切り記号を指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、*JOB, *MDY, *DMY, *YMD,または*JULが日付形式 (DATFMT) パラメーターに指定されている場合だけです。

***JOB** プリコンパイル時、新規対話式SQLセッションの作成時、あるいはRUNSQLSTMの実行時にジョブのために指定される日付区切り文字が使用されます。

ジョブの現行日付区切り文字を判別するには、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用してください。

'/' スラッシュが日付区切り文字として使用されます。

',' ピリオドが日付区切り文字として使用されます。

'-' ダッシュが日付区切り文字として使用されます。

',' コンマが日付区切り文字として使用されます。

',' または *BLANK

ブランク()が日付区切り文字として使用されます。

[トップ](#)

時刻形式 (TIMFMT)

時刻結果欄にアクセスする時に使用する形式を指定します。入力時刻ストリングの場合には、指定した値は、時刻が正しい形式で指定されているかどうかを判別するために使用されます。

注: 形式*USA, *ISO, *EUR,または*JISを使用する入力時刻ストリングは常に有効です。

***HMS** HH:MM:SS形式が使用されます。

***USA** 米国時刻形式HH:MMXXが使用されます。ここで、XXはAMまたはPMです。

***ISO** 国際標準化機構(ISO)時刻形式HH.MM.SSが使用されます。

***EUR** 欧州時刻形式HH.MM.SSが使用されます。

***JIS** 日本工業規格(JIS)時刻形式HH:MM:SSが使用されます。

[トップ](#)

時刻区切り文字 (TIMSEP)

時刻の結果の欄をアクセスする時に使用される区切り記号を指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、*HMSが時刻形式 (TIMFMT)パラメーターに指定されている場合だけです。

***JOB** プリコンパイル時、新規対話式SQLセッションの作成時、あるいはRUNSQLSTMの実行時にジョブのために指定される時刻区切り文字が使用されます。

ジョブの現行時刻区切り文字を判別するには、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用してください。

:' コロンが時刻区切り文字として使用されます。

;' ピリオドが時刻区切り文字として使用されます。

;' コンマが時刻区切り文字として使用されます。

'' または *BLANK

ブランク()が時刻区切り文字として使用されます。

[トップ](#)

省略時のコレクション (DFTRDBCOL)

テーブル、ビュー、索引、SQLパッケージ、別名、制約、外部プログラム、ノード・グループ、およびトリガーの修飾されていない名前に使用されるスキーマIDの名前を指定します。このパラメーターが適用されるのは、静的SQLステートメントに対してだけです。

***NONE**

命名規則 (NAMING)パラメーターに指定された命名規則が使用されます。

名前 NAMINGパラメーターに指定された命名規則の代わりに使用するスキーマIDの名前を指定します。

[トップ](#)

IBM SQLフラグづけ (SAAFLAG)

IBM SQLフラグ機能を指定します。このパラメーターによって、SQLステートメントがIBM SQL構文に準拠しているかどうかを検査するためにSQLステートメントにフラグを付けることができます。

*NOFLAG

SQLステートメントがIBM SQL構文に準拠しているかどうか確認するための検査は行われません。

*FLAG

SQLステートメントがIBM SQL構文に準拠しているかどうか確認するための検査を行います。

[トップ](#)

ANSフラグ付け (FLAGSTD)

非標準ステートメントにフラグを付けるかどうかを指定します。このパラメーターによって、SQLステートメントがCOREレベルのISO/IEC 9075-2003規格に準拠しているかどうかを検査するためにSQLステートメントにフラグを付けることができます。

*NONE

SQLステートメントがANSI規格に準拠しているかどうか確認するための検査は行われません。

*ANS SQLステートメントが規格に準拠しているかどうか確認するための検査を行います。

[トップ](#)

小数点 (DECMPT)

SQLステートメント中の数値定数に使用する小数点値を指定します。この値は、文字と数値の間のキャスト時に小数点文字としても使用されます。

*JOB 小数点の表記は、ステートメントを実行しているジョブが使用している値になります。

*SYSVAL

QDECFMTシステム値が小数点として使用されます。

*PERIOD

ピリオドが小数点を表します。

*COMMA

コンマが小数点を表します。

[トップ](#)

ソート順序 (SRTSEQ)

SQLステートメント中のストリング比較に使用する分類順序テーブルを指定します。

単一値

*JOB ジョブのSRTSEQ値が使用されます。

*LANGIDUNQ

言語識別コード (LANGID)パラメーターに指定された言語の固有の重み付け分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

LANGIDパラメーターに指定された言語の共用重み付け分類テーブルが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: ソート順序

名前 このプログラムで使用する分類順序テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

***JOB** ジョブのLANGID値が検索されます。

言語ID

言語IDを指定してください。

[トップ](#)

印刷ファイル (PRTFILE)

RUNSQLSTM印刷出力の送信先の印刷装置ファイルを指定します。このファイルには、132バイトの最小長が必要です。レコード長が132バイトより小さいファイルを指定すると、情報は逸失します。

修飾子1: 印刷ファイル

QSYSPRT

RUNSQLSTM出力ファイルはIBM提供の印刷装置ファイルQSYSPRTに送られます。

名前 RUNSQLSTM出力の送信先の印刷装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 印刷装置ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ステートメント処理 (PROCESS)

ソース・ファイル・メンバー中のSQLステートメントを実行するか、あるいは構文検査のみとするかを指定します。

***RUN** ステートメントを構文検査して実行します。

***SYN** ステートメントの構文検査のみを実行します。

トップ

データのコピー可能 (ALWCPYDTA)

データのコピーをSELECTステートメント中で使用できるかどうかを指定します。

*OPTIMIZE

システムは、データベースから直接検索されたデータを使用するか、あるいはデータのコピーを使用するかを判断します。この判断は、どの方式で最善のパフォーマンスが得られるかに基づいて行われます。コミットメント制御 (COMMIT)パラメーターが*NONEでない場合には、最良のパフォーマンスのために、可能な場合はブロック化可能 (ALWBLK)パラメーターを*ALLREADに設定する必要があります。

***YES** データのコピーが使用されるのは、必要な場合だけです。

***NO** データのコピーを使用しません。QUERYを実行するためにデータの一時コピーが必要な場合には、エラー・メッセージが戻されます。

トップ

ブロック化可能 (ALWBLK)

データベース管理機能がレコード・ブロック化およびブロック化を読み取り専用カーソルに使用できるエクステントを使用できるかどうかを指定します。

*ALLREAD

読み取り専用カーソルのために行がブロック化されます。明示的に変更できない、プログラム中のすべてのカーソルは、プログラム中にEXECUTEまたはEXECUTE IMMEDIATEステートメントがあっても読み取り専用処理用にオープンされます。

*ALLREADを指定すると、次の通りです。

- すべての読み取り専用カーソルのためにレコードのブロック化が可能になります。
- プログラム中のほとんどすべての読み取り専用カーソルのパフォーマンスを向上できますが、QUERYは次の方法で制限されます。
 - *ALLREADが指定されていると、ロールバック(ROLLBACK)コマンド、ホスト言語のROLLBACKステートメント、またはROLLBACK HOLD SQLステートメントは読み取り専用カーソルを位置変更しません。
 - 位置決めしたUPDATEまたはDELETEステートメントの動的実行（たとえば、EXECUTE IMMEDIATEの使用）は、カーソルのDECLAREステートメントにFOR UPDATE文節が含まれていない限り、カーソル内の行を更新するためには使用できません。

*NONE

行は、カーソルのデータの検索のためにブロック化されません。

*NONEを指定すると、次の通りです。

- 検索されるデータが最新であることを保証します。
- 照会のためのデータの最初の行を検索するために必要な時間が削減される場合があります。
- データベース管理機能が、QUERYがクローズされる前にQUERYの最初の数行しか検索されないと、プログラムによって使用されないデータ行のブロックの検索を停止します。
- 大量の行数を検索するQUERYのパフォーマンス全体が低下する可能性があります。

*READ

次の場合には、レコードはカーソルのデータの読み取り専用検索のためにブロック化されません。

- コミットメント制御は使用されないことを指示する*NONEがコミットメント制御 (COMMIT)パラメーターに指定されます。
- カーソルがFOR READ ONLY文節を指定して宣言されているか、あるいはカーソルのために位置したUPDATEまたはDELETEステートメントを実行できなかった動的ステートメントがない場合。

トップ

SQL規則 (SQLCURRULE)

SQLステートメントに使用される意味体系を指定します。

***DB2** すべてのSQLステートメントの意味体系は、省略時の値により、DB2について確立された規則となります。このオプションでは、次の意味体系が制御されます。

16進定数は文字データとして取り扱われます。

***STD** すべてのSQLステートメントの意味体系は、省略時の値により、ISOおよびANSI SQL規格によって確立された規則となります。このオプションでは、次の意味体系が制御されます。

16進定数は2進データとして取り扱われます。

トップ

10進数結果オプション (DECRESULT)

結果データ・タイプとして戻される必要がある最大精度、最大位取り、および最小除算位取りを指定します。指定された限度は、演算式およびSQL列関数AVGおよびSUMで使用される数値 (ゾーン) および10進 (パック) データ・タイプにのみ適用されます。

要素1: 最大精度

31 結果データ・タイプとして戻される必要がある最大精度 (長さ) は31桁です。

63 結果データ・タイプとして戻される必要がある最大精度 (長さ) は63桁です。

要素2: 最大位取り

31 結果データ・タイプとして戻される必要がある最大位取り (小数点の右側の小数部の桁数) は31桁です。

0から63

結果データ・タイプとして戻される必要がある最大位取り（小数点の右側の小数部の桁数）を指定します。この値は0から最大精度までとすることができます。

要素3: 割り算の最小位取り

0 中間および結果の両方のデータ・タイプとして戻される必要がある最小除算位取り（小数点の右側の小数部の桁数）は0です。

0から9 中間および結果の両方のデータ・タイプとして戻される必要がある最小除算位取り（小数点の右側の小数部の桁数）を指定します。この値は最大位取りを超えることができません。最大位取りとして0が指定された場合には、最小除算位取りは使用されません。

トップ

出力リスト (OUTPUT)

プリコンパイラー・リストを生成するかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャー、関数、またはトリガーのCREATEステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***NONE**

プリコンパイラー・リストを生成しません。

***PRINT**

プリコンパイラー・リストを生成します。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャー、関数、またはトリガーのCREATEステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

ターゲット・リリースを指定する時は、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5、リリース3、モディフィケーション・レベル0です。

有効な値は現在のオペレーティング・システムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

[トップ](#)

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

SQLによって提供されるソース・デバッグ情報のタイプを指定します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャ、関数、またはトリガーのCREATEステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***NONE**

デバッグ・ビュー情報は生成されません。

***SOURCE**

入力SQLソース・メンバーの中のSQLプロシージャ、関数、またはトリガーのRUNSQLSTMによって生成されるCソースのソース・ビューを生成します。Cソース・メンバーは、CRTSQLCI (SQL ILE Cオブジェクトの作成)コマンドを呼び出すことによって、SQLプリコンパイラーに渡されます。プリコンパイラーによって作成されるCソース・メンバーのソース・ビューも、SQLプリコンパイラーによって生成されます。

***STMT**

コンパイル済みオブジェクトは、プログラム・ステートメント番号および記号IDを使用してデバッグできます。

***LIST** コンパイル済みオブジェクトをデバッグするためのリスト・ビューを生成します。

[トップ](#)

SQLカーソルのクローズ (CLOSQLCSR)

SQLカーソルを暗黙にクローズし、SQL準備済みステートメントを暗黙に廃棄して、LOCK TABLEロックを解放する時点を指定します。SQLカーソルが明示的にクローズされるのは、ユーザーがCLOSE、COMMIT、またはROLLBACK (HOLDを指定しない) SQL ステートメントを出した場合です。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャ、関数、またはトリガーのCREATEステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***ENDACTGRP**

活動化グループが終了すると、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備済みのステートメントが暗黙に廃棄されて、LOCK TABLEロックが解放されます。

***ENDMOD**

モジュールが終了すると、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備済みステートメントは暗黙に廃棄されます。コール・スタックで最初のSQLプログラムが終了すると、LOCK TABLEロックは解放されます。

[トップ](#)

PREPARE遅延 (DLYPRP)

OPEN, EXECUTE,またはDESCRIBEステートメントが実行されるまで、PREPAREステートメントの動的ステートメント妥当性検査を遅延するかどうかを指定します。妥当性検査を遅延すると、冗長な妥当性検査を除去することによってパフォーマンスが向上します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャー、関数、またはトリガーのCREATEステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***NO** 動的ステートメントの妥当性検査は遅延されません。動的ステートメントの準備時に、アクセス・プランが妥当性検査されます。OPENまたはEXECUTEステートメント中で動的ステートメントを使用する時に、アクセス・プランが再妥当性検査されます。動的ステートメントによって参照される権限またはオブジェクトの存在は変更してかまわないので、動的ステートメントがまだ有効であることを確認するために、OPENまたはEXECUTEステートメントの発行後に、依然としてSQLCODEまたはSQLSTATE を検査しなければなりません。

***YES** 動的ステートメント妥当性検査は、動的ステートメントがOPEN, EXECUTE,またはDESCRIBE SQLステートメント中で使用されるまで遅延されます。動的ステートメントが使用されると、妥当性検査は完了して、アクセス・プランが作成されます。プリコンパイル済みプログラムのために、このパラメーターに*YESを指定すると、動的ステートメントが有効であることを確認するために、OPEN, EXECUTE,またはDESCRIBE ステートメントの実行後にSQLCODEおよびSQLSTATEを検査する必要があります。

注: *YESが指定されていると、INTO文節がPREPAREステートメントに指定されている場合、あるいはDESCRIBEステートメントが、そのステートメントのためにOPENを出す前に、動的ステートメントを使用する場合は、パフォーマンスは向上しません。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コンパイル済みプログラム・オブジェクトおよびSQLパッケージ・オブジェクトの実行時に使用されるユーザー・プロファイル（そのプログラム・オブジェクトおよびSQLパッケージが持っている静的SQLステートメント中の各オブジェクトの権限を含む）を指定します。所有者またはユーザーのいずれかのプロファイルは、オブジェクトへのアクセスを制御するために使用されます。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャー、関数、またはトリガーのCREATEステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***NAMING**

ユーザー・プロファイルは、命名規則によって判別されます。命名規則が*SQLの場合には、USRPRF(*OWNER)が使用されます。命名規則が*SYSの場合には、USRPRF(*USER)が使用されません。

***USER**

プログラムまたはSQLパッケージを実行中のプロファイルが使用されます。

***OWNER**

プログラムまたはSQLパッケージの実行時に、プログラム所有者とユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。

動的ユーザー・プロファイル (DYNUSRPRF)

動的SQLステートメントに使用されたユーザー・プロファイルを指定します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャ、関数、またはトリガーのCREATEステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***USER**

ローカル動的SQLステートメントは、プログラムのユーザーのプロファイルの下で実行されます。分散動的SQLステートメントは、アプリケーション・サーバー・ジョブのプロファイルの下で実行されます。

***OWNER**

ローカル動的SQLステートメントは、プログラムの所有者のプロファイルの下で実行されます。分散動的SQLステートメントは、SQLパッケージの所有者のプロファイルの下で実行されます。

トップ

例

```
RUNSQLSTM SRCFILE(MYLIB/MYFILE) SRCMBR(MYMBR)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのファイルMYFILEにあるメンバーMYMBR中のSQLステートメントを処理します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

SQL9006

DB2 UDB QUERY MANAGER AND SQL DEVELOPMENT KIT FOR ISERIESがi5/OSと同じ導入レベルにありません。

SQL9010

RUNSQLSTMコマンドが正しく実行されなかった。

SQL9014

リモート接続が活動状態である。

トップ

アクセス・コード権限取り消し (RVKACCAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・コード権限取り消し(RVKACCAUT)コマンドにより、個々のユーザーまたはユーザー・グループについてそのアクセス・コード権限を取り消すことができます。

制約事項:

他のユーザーのアクセス・コード権限を取り消すには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACC	文書アクセス・コード	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 1-2047	必須, 定位置 1
USER	ユーザー・プロファイル	単一値: *CURRENT, *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2

[トップ](#)

文書アクセス・コード (ACC)

取り消す権限と関連したアクセス・コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** ユーザーのすべてのアクセス・コード権限が取り消されます。

1から2047

取り消す権限と関連したアクセス・コードを指定します。最大300個のアクセス・コードをここで指定することができます。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USER)

取り消すアクセス・コード権限と関連したユーザー・プロファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*CURRENT

このコマンドを現在実行しているユーザーのアクセス・コード権限が取り消されることを指定しま

す。これは、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはセキュリティー管理者(*SECADM)特殊権限をもっていない場合に指定できる唯一の有効なオプションです。

注: ユーザーに権限のあるアクセス・コードから権限を除去するには、USERパラメーターに*CURRENTを指定することができます。

***ALL** すべてのユーザーからアクセス・コード権限が取り消されます。

名前 取り消すアクセス・コード権限と関連したユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

例

例1: 現行ユーザーの権限の取り消し

```
RVKACCAUT ACC(250) USER(*CURRENT)
```

このコマンドは、アクセス・コード250のアクセス・コード権限をこのコマンドを現在実行中のユーザーから取り消します。

例2: 特定ユーザーの権限の取り消し

```
RVKACCAUT ACC(300) USER(BILLY)
```

このコマンドは、アクセス・コード300のアクセス・コード権限をユーザーBILLYから取り消します。このコマンドは、*ALLOBJまたは*SECADM特殊権限をもつ誰かまたはユーザーBILLYが実行しなければなりません。自分のためにこのコマンドを実行するユーザーは、USER(*CURRENT)または自分のユーザー・プロファイル名を入力することができます。これは同じものです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9014

アクセス・コード権限が&1ユーザーから除去されたが、&2ユーザーからは取り消されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9037

ユーザー(*ALL)を指定することはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドは、コマンドに指定の1人または複数のユーザーから指定のオブジェクト（複数の場合もある）に対する特定の（またはすべての）権限を取り消すため、あるいは指定のオブジェクト（複数の場合もある）に対する権限リストの権限を除去するために使用します。このコマンドは、機密保護担当者、オブジェクトの所有者、または取り消されるオブジェクトに対するオブジェクト管理権限のあるユーザーが実行することができます。オブジェクト管理権限のあるユーザーは、ユーザーが持っている明示の権限だけを取り消すことができます。すなわち、ユーザーは、別のジョブによって割り振られた（ロックされた）オブジェクトに対する権限を認可したり取り消したりすることができない場合があります。また、現在使用中のオブジェクトに対する権限を取り消すことはできません。

注: IBM提供オブジェクトの共通認可を変更する場合には注意が必要です。たとえば、QSYSOPRメッセージ待ち行列の共通認可を*CHANGEより限定的なものに変更すると、システム・プログラムに障害が起こる原因となります。システム・プログラムがQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッセージを送る十分な権限を持たないこととなります。詳細については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

制約事項:

- このコマンドが装置、制御装置、または回線記述を使用する権限を除去するために使用される前に、それと関連した装置、制御装置、または回線がオンに構成変更されていなければなりません。
- ユーザーが装置に現在サインオンしている場合は、その装置を使用する権限を取り消すことはできません。

注: ユーザーは、装置に現在サインオンしている場合は、その装置に対する自分の権限を取り消すことができます。しかし、取り消すと、予測不能な結果になることがあり、賢明ではありません。

- 表示装置の場合またはその表示装置と関連したワークステーション・メッセージ待ち行列の場合は、権限を取り消される装置からこのコマンドが実行されない場合には、このコマンドの前に、オブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンド、後にオブジェクト割り振り解除(DLCOBJ)コマンドを実行しなければなりません。
- オブジェクト・タイプ*DOCまたは*FLRを指定することはできません。
- 文書交換サポートを使用しなければなりません。
- オブジェクト・タイプ*AUTLを指定することはできません。権限リスト項目変更(CHGAUTLE)または権限リスト項目除去(RMVAUTLE)コマンドを使用しなければなりません。AUT(*AUTL)を指定できるのはUSER(*PUBLIC)の場合だけです。
- 権限リストを除去できるのは*ALL権限をもつユーザーまたは所有者だけです。
- 補助記憶域プール装置を指定する場合は、その補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。

機密保護上のリスク

オブジェクトに対して特にユーザーに付与された権限を取り消すと、ユーザーがその取り消し操作の前よりも多くの権限をもつ結果になることがあります。ユーザーがオブジェクトに対して*USE権限を持ち、その

オブジェクトを保護する権限リストに対して*CHANGE 権限を持っている場合には、*USE権限を取り消すと、ユーザーはそのオブジェクトに対して*CHANGE権限をもつことになります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL, *ALLAVL, *ALLUSRAVL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWSO, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
USER	ユーザー	単一値: *ALL, *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 3
AUT	権限	単一値: *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *AUTL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *OBJALTER, *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *OBJREF, *ADD, *DLT, *READ, *UPD, *EXECUTE	オプション, 定位置 4
AUTL	権限リスト	名前	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

特定権限が取り消されるオブジェクトを指定します。オブジェクト名に*ALLを指定した場合には、ライブラリー名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

*ALL 検索で見つかったすべての指定したタイプ(OBJTYPE)のオブジェクトが、特定権限を取り消されます。*ALLがオブジェクト名に指定されている時には、ライブラリーの名前を指定しなければなりません。

総称名 特定権限が取り消されるオブジェクトの総称名を指定します。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。たとえば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 特定権限が取り消されるオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***ALL** **ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字Qで始まる名前をもつ次のライブラリーはIBMによって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成するこ

とができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALLAVL**

使用可能なすべてのASPのすべてのライブラリーが検索されます。

***ALLUSRAVL**

使用可能なすべてのASPのすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。ユーザー・ライブラリーの定義については、*ALLUSRを参照してください。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

特定権限が取り消されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。オブジェクト・タイプの完全リストについては、コマンドについてプロンプトが出されている時にカーソルをこのパラメーターに置いて、F4キーを押してください。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのオブジェクト・タイプ(*AUTLを除く)が特定権限を取り消されます。

オブジェクト・タイプ

特定権限が取り消されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター)を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

* 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1),定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

指定のオブジェクトに対する特定権限が取り消される1人以上のユーザーを指定します。

注: このパラメーターまたは権限リスト (AUTL)パラメーターのいずれかを指定しなければなりません。

このコマンドによって取り消される権限は、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドによって指定されたものに関連しています。GRTOBJAUTコマンドにUSER(*PUBLIC)が指定されたためにユーザーがオブジェクトに対して共通認可を与えられている場合には、このパラメーターに*PUBLICが指定された時に、その共通認可が取り消されます。GRTOBJAUTコマンドに名前が指定されたためにユーザーがオブジェクトに対して特定権限をもっている場合には、同じ権限を取り消すためにこのパラメーターにその名前を指定しなければなりません。

取り消される権限は、権限 (AUT)パラメーターで指定されています。

単一値

***ALL** 指定した権限は、共通認可または明示の認可のいずれであっても、所有者を除くシステムのすべての登録ユーザーから取り消されます。

***PUBLIC**

オブジェクトに対して特定権限を持っていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループに権限がないユーザーから指定された権限が取り消されます。特定権限をもつユーザーは、オブジェクトに対してその権限を引き続き維持します。

その他の値 (最大50個指定可能)

名前 特定権限が取り消されるユーザーのユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このパラメーターを、特定のユーザーから共通認可を取り消すために使用することはできません。特定して取り消すことができるのは、ユーザーに特別の認可された権限だけです。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

トップ

権限(AUT)

オブジェクトに対して特定権限を持っていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループがオブジェクトに対して特定権限を持っていないユーザーから取り消される権限を指定します。

単一値

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはワークステーション・オブジェクトをアクセスすることができません。

***AUTL**

オブジェクトに対する共通認可として、AUTLパラメーターで指定された権限リストの共通認可が使用されます。

注: AUT(*AUTL)を指定できるのは、USER(*PUBLIC)も指定されている場合だけです。

その他の値 (最大10個指定可能)

***OBJALTER**

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

***OBJMGT**

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

***OBJEXIST**

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。ユーザーに特別なシステム保管権限(*SAVSYS)がある場合には、オブジェクトに対して保管/復元操作を実行するのに、オブジェクト存在権限は必要ありません。

***OBJOPR**

オブジェクト操作権限は、オブジェクトの記述を見る権限、およびユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限で決められたオブジェクトを使用する権限を提供します。

***OBJREF**

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

データ権限

***ADD** 追加権限は、オブジェクトに項目を（たとえば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限は、オブジェクトから項目を除去する権限を提供します。

***EXECUTE**

実行権限は、プログラムを実行するか、またはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

***READ**

読み取り権限は、オブジェクトの項目の内容を表示し、あるいはプログラムを実行するために必要な権限を提供します。

*UPD 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

トップ

権限リスト (AUTL)

オブジェクト (OBJ)パラメーターに指定されたオブジェクトから取り消される権限リストを指定します。オブジェクト内の共通認可が*AUTLである場合には、それは*EXCLUDEに変更されます。

注: このパラメーターまたはユーザー (USER)パラメーターのいずれかを指定しなければなりません。このパラメーターを指定すると、AUTパラメーターは無視されます。

名前 権限リストの名前を指定してください。

トップ

例

例1: プログラム所有者以外のすべてのユーザーからの権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(ARLIB/PROG1) OBJTYPE(*PGM) USER(*ALL)
```

このコマンドは、ARLIBという名前のライブラリーにあるPROG1という名前のプログラム(*PGM)についての権限(AUTは指定されていなくて、*CHANGEが想定される)を明示的または共通のいずれかで認可されたすべてのユーザー(所有者を除く)から除去します。

例2: プログラムを削除するオブジェクト所有者の権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(TSMITHPGM/MITHLIB) OBJTYPE(*PGM)
USER(TMSMITH) AUT(*OBJEXIST)
```

このコマンドは、ライブラリー(SMITHLIB)内のプログラム(TSMITHPGM)を削除するために、オブジェクト所有者(TMSMITH)権限を除去します。このオブジェクト所有者は、これを実行して、オブジェクトが間違っ
て削除されることがないようにすることができます。所有者がオブジェクトを削除する場合は、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)を使用して、そのオブジェクトのオブジェクト存在権限を認可することができます。

例3: *DLTおよび*UPD権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(FILEX) OBJTYPE(*FILE)
USER(HEANDERSON) AUT(*DLT *UPD)
```

このコマンドは、FILEXという名前のファイルに対する削除権限および更新権限をユーザーHEANDERSONから除去します。

例4: *OBJEXIST権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(ARLIB/ARJOB) OBJTYPE(*JOB) USER(RLJOHNSON)
AUT(*OBJEXIST)
```

このコマンドは、ARJOBという名前のオブジェクト存在権限をユーザーRLJOHNSONから除去します。ARJOBは、ARLIBという名前のライブラリー内にあるジョブ記述です。

例5: 特定権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(FILEX) OBJTYPE(*FILE) AUTL(FILEUSERS)
```

このコマンドは、FILEXという名前のファイルに対する特定権限を権限リストFILEUSERS中のユーザーから除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF22A0

*AUTLの権限は、USER(*PUBLIC)の場合にだけ使用することができる。

CPF22A1

OBJTYPE(*AUTL)は、このコマンドでは正しくない。

CPF22A2

*AUTLの権限をオブジェクト・タイプ*USRPRFに使用することはできない。

CPF22A3

AUTLパラメーターをオブジェクト・タイプ*USRPRFに使用することはできない。

CPF22A4

*PUBLICから*EXCLUDEを取り消すことはできません。

CPF22A5

&3のタイプ*&2のオブジェクト&1は権限リスト&4によって保護されていない。

CPF22DA

&2のファイル&1の操作は許可されていない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2210

オブジェクト・タイプ*&1に対する操作は許されていない。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2224

&3のタイプ*&2のオブジェクト&1に対する権限の取り消しは認可されていない。

CPF2227

コマンドの処理中に1つ以上のエラーが起こった。

CPF2236

AUTの入力値はサポートされていない。

CPF2243

ライブラリー名&1にOBJ(総称名)またはOBJ(*ALL)を使用することはできない。

CPF2253

ライブラリー&2に&1のオブジェクトが見つからなかった。

CPF2254

&1要求のライブラリーが見つからなかった。

CPF2273

ユーザー&4の&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の権限は変更されていないと考えられる。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

STATUS メッセージ*CPF2256**

オブジェクトに指定した権限はすべてのユーザーから取り消されていない。

[トップ](#)

共通認可の取り消し (RVKPUBAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

共通認可取り消し(RVKPUBAUT)は、共通認可を*EXCLUDEに変更することによって、IBM提供のコマンドおよびプログラムのセットの使用を制限します。どのコマンドおよびプログラムが制限されるかを判別するには、プログラムQSECRVKPに対してCLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドを出して、RTVCLSRCコマンドによって作成されたソース・ファイルを調べてください。

制約事項:このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

このコマンドは、次のステップによって機密保護管理者がカスタマイズすることができます。

1. プログラムQSECRVKPに対してCLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドを出します。
2. RTVCLSRCコマンドから作成したソース・コードを編集し、新しいプログラムをコンパイルします。そのプログラムに新しい名前が指定されていて、QSYS以外のライブラリー中に作成され、*PUBLIC権限が*EXCLUDEに設定されていることを確認してください。
3. 共通認可取り消しコマンドに対してコマンド変更(CHGCMD)を出して、PGMパラメーターにユーザーの新しいプログラムを指定します。この1つの例は次にリストされています。

CHGCMD CMD(QSYS/RVKPUBAUT) PGM(ライブラリー名/新規プログラム名)

注: プロダクトのアップグレードが行われたか、RVKPUBAUTコマンドが再導入されたか、あるいはRVKPUBAUTコマンドに対して保守が適用された場合には、コマンドのカスタマイズのためにCHGCMDを再び発行する必要があります。

特記事項: IBM社は、検索されたQSECRVKPソース・コードおよびいかなるプログラムについて、その信頼性、保守容易性、パフォーマンス、または機能を保証または暗示するものではありません。特殊な目的での商品性および可用性の暗黙の保証は明示的に放棄するものです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, <u>QSYS</u>	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

IBM提供のコマンドを見つけるライブラリーの名前。コマンドは2次言語ライブラリー中で見つけることができるので、ライブラリー値だけが使用されます。

QSYS コマンドはライブラリーQSYSにあります。

ライブラリー名

コマンドが入っているライブラリー。

[トップ](#)

例

RVKPUBAUT LIB(QSYS)

このコマンドは、ライブラリーQSYS中のコマンドおよびプログラムに対する共通認可を*EXCLUDEに設定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

ユーザー認可取り消し (RVKUSRPMN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー認可取り消し(RVKUSRPMN)コマンドにより、1ユーザー（またはすべてのユーザー）から、他のユーザーに代わって文書またはフォルダーにアクセスするユーザー認可を取り消すことができます。

注: このコマンドの実行中に他のユーザーに代わって処理を行う場合には、すでに開始されている機能は完了しますが、追加の機能は受け入れられません。

制約事項:

他のユーザーの文書権限を取り消すには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMUSER	FROMユーザー・プロファイル	名前, *ALL	必須, 定位置 1
FORUSER	ユーザー・プロファイル	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

FROMユーザー・プロファイル (FROMUSER)

認可が取り消されるユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ユーザー・プロファイル (FORUSER)パラメーターに指定されたユーザーの代行処理がもう許可されていない、そのユーザー・プロファイルの名前を指定します。

***ALL** 他のユーザーに代わって処理を行うことを現在認可されているすべてのユーザーは、もはやそうすることを認可されません。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (FORUSER)

FROMユーザー・プロファイル (FROMUSER)パラメーターで指定されるユーザーの代行処理をもう実行できない、そのユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。

*CURRENT

FROMユーザー・プロファイル (**FROMUSER**)パラメーターで指定されたユーザーは、もはや代行処理を行うことができません。

名前 他のユーザーにもはや代行処理を認可しないユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RVKUSRPMN FROMUSER(JOHNSON) FORUSER(ANDERSON)
```

このコマンドは、ユーザー権限をANDERSONに対するJOHNSONから取り消します。ユーザーJOHNSONはANDERSONの代行処理をもう実行することはできません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9008

ユーザーの代行認可が&1ユーザーに対し取り消されたが、&2ユーザーに対しては取り消されなかった。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ワークステーション・オブジェクト権限取消 (RVKWSOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・オブジェクト権限取り消し(RVKWSOAUT)コマンドは、I5/OSグラフィックス操作プログラムで使用されるワークステーション・オブジェクトに対する権限を取り消すために使用します。このコマンドで指定した1人以上のユーザーから特定権限またはすべての権限を取り消すことができます。また、指定したオブジェクトの権限リストの権限を取り消すこともできます。

このコマンドを入力できるのは、機密保護担当者、オブジェクト所有者、または権限が取り消されるオブジェクトに対してオブジェクト管理権限を持っているユーザーです。AUTパラメーターに特定権限(*ALL以外の)が指定されていてその権限が取り消されない場合には、取り消されなかった権限を示すメッセージが出力されます。

機密保護上のリスク

オブジェクトに対して特別にユーザーに与えられたすべての権限を取り消すと、ユーザーがその取り消し操作の前よりも多くの権限をもつことがあります。ユーザーがオブジェクトに対して*USE権限を持ち、そのオブジェクトを保護する権限リストに対して*CHANGE 権限を持っている場合には、*USE権限を取り消すと、ユーザーはそのオブジェクトに対して*CHANGE権限をもつこととなります。

制約事項:

- オブジェクト管理(*OBJMGT)権限を持っている場合には、認可されている明示の権限だけを取り消すことができます。
- ユーザーは、別のジョブに割り振られた（ロックされた）オブジェクトに対する権限を認可したり取り消したりすることができない場合があります。また、現在使用中のオブジェクトに対する権限を取り消すことはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WSOTYPE	ワークステーション・オブジェクト・タイプ	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1:	*TPLWRKARA, *WRKARA, *TPLPRTOL, *PRTOL, *TPLPRTL, *PRTL, *TPLOUTQ, *TPLOUTQL, *OUTQL, *TPLJOB, *JOB, *TPLJOBQ, *TPLJOBLOG, *JOBLOG, *TPLJOBQL, *JOBQL, *TPLMSG, *MSG, *TPLMSGQ, *TPLMSGSD, *MSGSD, *TPLSGNUSL, *SGNUSL, *TPLOBJL, *OBJL, *TPLLIBSL, *LIBSL, *TPLLIB, *LAUNCH, *TPLLAUNCH, *PRSET	
USER	ユーザー	単一値: *ALL, *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾子リスト	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ユーザー	名前	

キーワード	記述	選択項目	注
AUT	権限	単一値: *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *AUTL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *ADD, *DLT, *READ, *UPD	オプションナル, 定位置 3
AUTL	権限リスト	名前	オプションナル

トップ

ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)

特定権限が取り消されるワークステーション・オブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*TPLWRKARA

作業域テンプレートに対する権限が取り消されます。

*WRKARA

作業域オブジェクトに対する権限が取り消されます。

*TPLPRTOL

印刷装置出力リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

*PRTOL

印刷装置出力リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

*TPLPRTL

印刷装置リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

*PRTL

印刷装置リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

*TPLOUTQ

出力待ち行列テンプレートに対する権限が取り消されます。

*TPLOUTQL

出力待ち行列リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

*OUTQL

出力待ち行列リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

*TPLJOBL

ジョブ・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

*JOBL

ジョブ・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

*TPLJOBQ

ジョブ待ち行列テンプレートに対する権限が取り消されます。

*TPLJOBLOG

ジョブ・ログ・テンプレートに対する権限が取り消されます。

*JOBLOG

ジョブ・ログ・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLJOBQL**

ジョブ待ち行列リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

***JOBQL**

ジョブ待ち行列リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLMSGL**

メッセージ・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

***MSGL**

メッセージ・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLMSGQ**

メッセージ待ち行列テンプレートに対する権限が取り消されます。

***TPLMSGSND**

メッセージ送信元テンプレートに対する権限が取り消されます。

***MSGSND**

メッセージ送信元オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLSGNUSL**

サインオン・ユーザー・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

***SGNUSL**

サインオン・ユーザー・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLOBJL**

オブジェクト・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

***OBJL**

オブジェクト・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLLIBSL**

ライブラリー・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

***LIBSL**

ライブラリー・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLLIB**

ライブラリー・テンプレートに対する権限が取り消されます。

***TPLLAUNCH**

ジョブ送信者テンプレートに対する権限が取り消されます。

***LAUNCH**

ジョブ送信者オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***PRSSET**

個人設定オブジェクトに対する権限が取り消されます。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

指定のオブジェクトに対する特定権限が取り消される1人以上のユーザーを指定します。

このコマンドによって取り消される権限は、ワークステーション・オブジェクト権限認可(GRTWSOAUT)コマンドによって認可されるものと関連があります。GRTWSOAUTコマンドでUSER(*PUBLIC)が指定されたためにユーザーがオブジェクトに対して共通認可を持った場合には、このパラメーターに*PUBLICを指定するとその共通認可が取り消されます。GRTWSOAUTコマンドで名前が指定されたためにユーザーがオブジェクトに対して特定権限を持った場合には、このパラメーターにそれらの名前を指定して同じ権限を取り消さなければなりません。

取り消される権限は、**権限 (AUT)**パラメーターに指定されているものです。

注: このパラメーターまたはAUTLパラメーターのいずれかを指定しなければなりません。

***ALL** AUTパラメーターで指定された権限は、共通認可または明示の認可のいずれであっても、所有者を除くシステムのすべての登録ユーザーから取り消されます。

***PUBLIC**

オブジェクトに対して特定権限を持っていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループに権限がないユーザーから指定された権限が取り消されます。特定権限をもつユーザーは、オブジェクトに対してその権限を引き続き維持します。

名前 特定権限が取り消されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このパラメーターを、特定のユーザーから共通認可を取り消すために使用することはできません。特定して取り消すことができるのは、ユーザーに特別の認可された権限だけです。

トップ

権限(AUT)

オブジェクトに対して特定権限を持っていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループがオブジェクトに対して特定権限を持っていないユーザーから取り消される権限を指定します。

単一値

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはワークステーション・オブジェクトをアクセスすることができません。

***AUTL**

オブジェクトに対する共通認可として、AUTLパラメーターで指定された権限リストの共通認可が使用されます。

注: AUT(*AUTL)を指定できるのは、USER(*PUBLIC)も指定されている場合だけです。

その他の値 (最大10個指定可能)

*OBJALTER

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

*OBJMGT

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

*OBJEXIST

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。ユーザーに特別なシステム保管権限(*SAVSYS)がある場合には、オブジェクトに対して保管/復元操作を実行するのに、オブジェクト存在権限は必要ありません。

*OBJOPR

オブジェクト操作権限は、オブジェクトの記述を見る権限、およびユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限で決められたオブジェクトを使用する権限を提供します。

*OBJREF

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

データ権限

***ADD** 追加権限は、オブジェクトに項目を（たとえば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限は、オブジェクトから項目を除去する権限を提供します。

*EXECUTE

実行権限は、プログラムを実行するか、またはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

*READ

読み取り権限は、オブジェクトの項目の内容を表示し、あるいはプログラムを実行するために必要な権限を提供します。

***UPD** 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

トップ

権限リスト (AUTL)

WSOTYPEパラメーターで指定されたオブジェクトから取り消される権限リストを指定します。オブジェクトの共通認可が*AUTLの場合には、*EXCLUDEに変更されます。その後で権限リストの権限は除去されます。

注: このパラメーターまたはUSERパラメーターのいずれかを指定しなければなりません。このパラメーターを指定すると、AUTパラメーターは無視されます。

名前 権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RVKWSOAUT WSOTYPE(*SGNUSL) USER(HEANDERSON) AUT(*DLT *UPD)
```

このコマンドは、サインオン・ユーザー・リスト・オブジェクトに対する削除権限および更新権限をユーザー・プロファイル名HEANDERSONから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

オブジェクトの保管 (SAV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管(SAV)コマンドは、統合ファイル・システムで使用することができる1つまたは複数のオブジェクトのコピーを保管します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

- ルート・ディレクトリーで名前パターンを用いてオブジェクトを保管するため、ライブラリー内のオブジェクトを保管するため、および文書ライブラリー・オブジェクトを保管するために、このコマンドを使用する際の制約事項の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 1
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
PATTERN	名前パターン	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *DIR, *NONE, *OBJ, *STG	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *YES, *SYNC	オプション
SAVACTOPT	活動状態保管オプション	*NONE, *ALWCKPWRT	オプション
OUTPUT	出力	パス名, *NONE, *PRINT	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *GEN	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	パス名, *NONE, *WRKSTN	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
INFTYPE	出力情報のタイプ	*ALL, *ERR, *SUMMARY	オプション
SYSTEM	システム	*ALL, *LCL, *RMT	オプション
CHGPERIOD	最終変更の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付, *ALL, *LASTSAVE	
	要素 2: 開始時刻	時刻, *ALL	
	要素 3: 終了日付	日付, *ALL	
	要素 4: 終了時刻	時刻, *ALL	
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R2M0, V5R3M0, V5R4M0	オプション
UPDHST	履歴更新	単一値: *NO, *YES その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *SYS, *PC	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
DTACPR	データ圧縮	*YES, *NO, *DEV, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *DFT, *ALLAVL, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
SCAN	オブジェクト・スキャン	要素リスト	オプション
	要素 1: 保管中のスキャン	*NO, *YES	
	要素 2: 保管に失敗したオブジェクト	*NOSAVFAILED, *SAVFAILED	

トップ

装置 (DEV)

オブジェクトの保管先の装置を指定します。

装置パス名の指定の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「バックアップおよび回復」情報の「装置名の指定」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

’保管ファイルのパス名’

オブジェクトの保管に使用される保管ファイルのパス名を指定してください。

’光ディスク装置のパス名’

オブジェクトの保管に使用される光ディスク装置のパス名を指定してください。

’テープ媒体ライブラリー装置のパス名’

オブジェクトの保管に使用されるテープ媒体ライブラリー装置のパス名を指定してください。

’テープ装置のパス名’

オブジェクトの保管に使用されるテープ装置のパス名を指定してください。最大4 つのテープ装置を指定することができます。仮想テープ装置を使用する場合には、指定された装置のみでなければなりません。

’媒体定義パス名’

保管データを入れるのに使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトのパス名を指定します。

媒体定義の作成の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説（英文）の媒体定義作成API
を参照してください。

媒体定義の使用の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)、ならびに
ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説（英文）のサーバー・バック
アップ・トピックを参照してください。

トップ

オブジェクト (OBJ)

保管するオブジェクトを指定します。使用するパス名のオブジェクト名パターンを指定することができます。多くのオブジェクトと一致する可能性があるパス名が指定された場合には、**名前パターン (PATTERN)** パラメーターに値を指定して、保管するオブジェクトをサブセット化することができます。

最大300個のパス名を指定することができます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER
(HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの
「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

オブジェクト名パターンの詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER
(HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素1: 名前

''** 現行ディレクトリーのオブジェクトが保管されます。

パス名 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクトのパス名またはパターンを指定してください。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって指定変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトが保管されます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトは保管されません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

名前パターン (PATTERN)

保管するオブジェクトをサブセット化するために使用する1つ以上のオブジェクト名パターンを指定します。オブジェクト (OBJ)パラメーターは、候補オブジェクトのセットを定義します。最大300の値をこのパラメーターに指定することができます。

要素1: パターン

* 操作について限定する全オブジェクトが組み込まれるか除外されます。

文字値 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクト名またはパターンを指定します。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

*INCLUDE

*OMITの指定によって指定変更されない限り、保管に組み込まれるのは、OBJパラメーターによって組み込まれ、かつPATTERNパラメーターと一致するオブジェクトだけです。

*OMIT

PATTERNパラメーターと一致するオブジェクトを除き、OBJパラメーターによって組み込まれたすべてのオブジェクトが保管に組み込まれます。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを保管操作に含めるかどうかを指定します。

*ALL オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーのサブツリー全体が含まれます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

*DIR オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーの第1レベルにあるオブジェクトが含まれます。一致した各ディレクトリーのサブディレクトリーは含まれますが、そのサブディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

*NONE

サブツリーは保管操作に含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致した場合には、そのディレクトリーのオブジェクトが含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがあった場合には、サブディレクトリーもそのサブディレクトリー内のオブジェクトも含まれません。

*OBJ オブジェクト名パターンと正確に一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名パターンがディレクトリーを指定している場合には、ディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

*STG オブジェクト名パターンに一致するオブジェクトが関連オブジェクトの記憶域とともに処理されます。この値を使用してオブジェクトを復元できるのは、そのオブジェクトがSUBTREE(*STG)を使用して保管された場合だけです。

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: システムが制限状態にある場合には、このパラメーターは無視され、保管操作はSAVACT(*NO)が指定されたものとして実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***YES** オブジェクトを同時に保管および使用することができます。オブジェクトのチェックポイントは異なる時点で起こすことができます。

***SYNC**

オブジェクトを同時に保管および使用することができます。すべてのオブジェクトのチェックポイントは同時に起こります。

トップ

活動状態保管オプション (SAVACTOPT)

活動状態保管パラメーターで使用するオプションを指定します。

***NONE**

特殊な活動状態保管オプションは使用されません。

***ALWCKPWRT**

オブジェクトに対応するシステム属性が設定されている場合には、オブジェクトの更新時にそのオブジェクトを保管することができます。

注: このオプションは、アプリケーションに対応していて追加のバックアップおよび回復の考慮事項をもつオブジェクトを保管するアプリケーションによってのみ使用されます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「バックアップおよび回復」情報を参照してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

保管したオブジェクトについての情報のリストを作成するかどうかを指定します。情報は、スプール・ファイル、ストリーム・ファイル、またはユーザー空間に向けることができます。

ストリーム・ファイルまたはユーザー空間は、パス名として指定されます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

'ストリーム・ファイルのパス名'

コマンドの出力が向けられる既存のストリーム・ファイルのパス名を指定してください。

'ユーザー空間のパス名'

コマンドの出力が向けられる既存のユーザー空間のパス名を指定してください。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

最大75のボリュームIDを指定することができます。指定されるすべてのボリュームが入力された後に、装置にあるどのボリュームについても保管操作が続行されます。

単一値

***MOUNTED**

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

トップ

ラベル (LABEL)

保管操作に使用される媒体のファイルIDを指定します。

***GEN** ファイル・ラベルがシステムによって作成されます。

- ライブラリー中のオブジェクトの場合には、これはオブジェクト保管(SAVOBJ)およびライブラリー保管(SAVLIB)コマンドのLABEL(*LIB)と等価になります。
- 文書ライブラリー・オブジェクトの場合には、これは文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドのLABEL(*GEN)と等価になります。
- その他のファイル・システムのオブジェクトの場合には、ラベルはSAVYYYYMMDDとなります。

文字値 保管操作に使用されるテープ・ファイルのID (最高17桁) を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注：

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性ありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

トップ

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

保管操作により、チェックポイント処理が完了したことをユーザーに通知するために使用されるメッセージ待ち行列を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

パス名 使用するメッセージ待ち行列のパス名を指定します。

[トップ](#)

出力情報のタイプ (INFTYPE)

スプール・ファイル、ストリーム・ファイル、またはユーザー空間に向けられる情報のタイプを指定します。

***ALL** ファイルには、コマンド、各ディレクトリーの項目、正常に保管された各オブジェクトの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目についての情報が入ります。

***ERR** ファイルには、コマンド、各ディレクトリーの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目についての情報が入ります。

***SUMMARY**

ファイルには、コマンドおよび各ディレクトリーの項目についての情報が入ります。

[トップ](#)

システム (SYSTEM)

ローカル・システムまたはリモート・システムに存在しているオブジェクトを処理するかどうかを指定します。

***LCL** ローカル・オブジェクトだけが処理されます。

***RMT** リモート・オブジェクトだけが処理されます。

***ALL** ローカルおよびリモートの両方のオブジェクトが処理されます。

[トップ](#)

最終変更の期間 (CHGPERIOD)

日付／時刻の範囲を指定します。その範囲内に最後に変更されたオブジェクトが保管されます。

要素1: 開始日付

***ALL** 開始日は指定されません。終了日前に最後に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

***LASTSAVE**

最後にUPDHST(*YES)を指定して保管した後で変更されたオブジェクトが保管されます。**注:**

1. この値を指定した場合には、このパラメーターの他のすべての要素に値*ALLを指定しなければなりません。

- ローカル・ファイル・システムの場合には、システムの保存属性が使用されます。リモート・ファイル・システムの場合には、PCの保存属性が使用されます。

日付 変更されたオブジェクトがそれより後に保管される日付を指定します。この日付はジョブ日付形式で入力しなければなりません。

要素2: 開始時刻

***ALL** すべての時刻が範囲内に含まれます。

時刻 変更されたオブジェクトがそれより後に保管される開始日の時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

注: 明示時刻の指定が有効なのは、開始日が明示日付である場合だけです。

要素3: 終了日付

***ALL** 終了日は指定されません。開始日以降に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

日付 変更されたオブジェクトがそれより前に保管される日付を指定します。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

要素4: 終了時刻

***ALL** すべての時刻が範囲内に含まれます。

時刻 変更されたオブジェクトがそれより前に保管される終了日の時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

注: 明示時刻の指定が有効なのは、終了日が明示日付である場合だけです。

[トップ](#)

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

選択したオブジェクトが保管できなかった場合に保管操作を終了するかどうかを指定します。

***NO** 保管操作は終了しません。保管できるオブジェクトは保管されます。

***YES** 保管操作が終了します。選択したすべてのオブジェクトを保管できる場合以外は、なにも保管されません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

ヒストリー更新 (UPDHST)

この保管操作で保管したオブジェクトの保管ヒストリーを更新するかどうかを指定します。この保管ヒストリー情報は、後で保管操作にCHGPERIOD(*LASTSAVE)が指定された時に使用されます。

単一値

***NO** 選択したオブジェクトの保管ヒストリーで、この保管操作は更新されません。

***YES** 保管ヒストリーが更新されます。ローカル・ファイル・システムの場合には、システムの保管ヒストリーが更新されます。リモート・ファイル・システムの場合には、PCの保管ヒストリーが更新されます。

その他の値 (最大2個指定可能)

***SYS** システムの保管ヒストリーが更新されます。

***PC** PCの保管ヒストリーが更新されます。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注：*AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

[トップ](#)

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、**装置 (DEV)**パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVが**データ圧縮 (DTACPR)**パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

***DFT** 操作では、保管されるオブジェクトが入っているファイル・システムに適切なASPDEV値が使用されます。統合ファイル・システム・オブジェクトの場合、*ALLAVLが使用されます。QSYSファイル・システムのオブジェクトの場合、対応する保管コマンドのASPDEVの省略時値が使用されま

す。

***ALLAVL**

操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),および使用可能なすべての独立ASPが組み込まれます。

* 操作にはシステムASP,すべての基本ユーザーASP,さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

***CURASGRP**

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

トップ

オブジェクト・スキャン (SCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、保管中にオブジェクトをスキャンするかどうか、および前にスキャンに失敗したオブジェクトを保管する必要があるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説（英文）を参照してください。

要素1: 保管中のスキャン

***NO** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

***YES** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムで記述された規則に従ってスキャンされます。

要素2: 保管に失敗したオブジェクト

***NOSAVFAILED**

前にスキャンに失敗したかあるいはこの保管中にQIBM_QPOL_SCAN_OPEN出口プログラムによるスキャンに失敗したオブジェクトは、保管されません。

*SAVFAILED

前にスキャンに失敗したかあるいはこの保管中にスキャンに失敗したオブジェクトは、保管されません。

トップ

例

例1:ライブラリー内にはない、または文書ライブラリー・オブジェクトでないすべてのデータの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('//*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT)
```

このコマンドは、ライブラリー内にはない、文書ライブラリー・オブジェクトでないすべてのオブジェクトを保管します。

例2:オブジェクトが最後に保管された時刻以降の変更の保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('//*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT)
      CHGPERIOD(*LASTSAVE)
```

このコマンドは、ライブラリー内になく、文書ライブラリー・オブジェクトではなく、また、UPDHST(*YES)の指定によって最後に保管された時刻以降に変更されたすべてのオブジェクトを保管します。

例3: 1999年以降変更されていないデータの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('//*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT)
      CHGPERIOD(*ALL *ALL '12/31/99')
```

このコマンドは、ライブラリー内になく、文書ライブラリー・オブジェクトではなく、また、1999年12月31日以降変更されていないすべてのオブジェクトを保管します。

例4:現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
```

このコマンドは、OBJパラメーターの省略時の値「*」を使用して、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトおよびそのサブディレクトリーを保管します。この例は、現行ディレクトリーがルート・ディレクトリーである場合、あるいは現行ディレクトリーがQDLSファイル・システムの中にある場合は無効です。

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('/*') SUBTREE(*NONE)
```

このコマンドは、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを保管しますが、サブディレクトリー内のオブジェクトは保管しません。

例5:保管操作時のオブジェクトの除外

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('//*') ('**.*BACKUP' *OMIT) ('**.*TEMP' *OMIT)
```

このコマンドは、.BACKUPおよび.TEMPの拡張子をもつオブジェクトを除き（これらの拡張子をもつディレクトリーのサブツリー全体は除外されます）、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを保管します。

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/A') ('/A/B/C' *OMIT)
```

このコマンドは、ディレクトリー/A/B/Cにあるオブジェクトを除き、ディレクトリー/Aおよびそのサブディレクトリーのすべてのオブジェクトを保管します。

例6:ライブラリーの保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('/QSYS.LIB/A.LIB')
```

このコマンドは、ライブラリーAをTAP01という名前のテープ装置で保管します。

例7:2つのライブラリーの保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('/QSYS.LIB/A.LIB')
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('/QSYS.LIB/B.LIB')
```

これらの2つのコマンドは、2つのライブラリーを保管します。最初のコマンドはライブラリーAを保管し、2番目のコマンドはライブラリーBを保管します。

例8:ライブラリー内のすべてのファイルの保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
    OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/*.FILE')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのすべてのファイルをTAP01という名前のテープ装置で保管します。

例9:ライブラリー内の2つのオブジェクトの保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
    OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYPGM.PGM')
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
    OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE')
```

これらの2つのコマンドは、同じライブラリー内の2つのオブジェクトを保管します。この最初のコマンドは、プログラムMYPGMをライブラリーMYLIBから保管します。2番目のコマンドは、ファイルMYFILEをライブラリーMYLIBから保管します。

例10 :ストリーム・ファイル、データベース・ファイル、および文書の保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('/MYDIR/MYFILE')
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
    OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE')
SAV DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
    OBJ('/QDLS/MYFLR/MYDOC') SUBTREE(*OBJ) UPDHST(*YES)
```

この例では、3つのオブジェクトを保管するために3つのコマンドが使用されます。最初のコマンドは、ディレクトリーMYDIRのストリーム・ファイルMYFILEをTAP01という名前のテープ装置で保管します。2番目のコマンドは、MYLIBという名前のライブラリーのデータベース・ファイルMYFILEをTAP01という名前のテープ装置で保管します。3番目のコマンドは、MYFLRという名前のフォルダーの文書MYDOCをTAP01という名前のテープ装置で保管します。

例11 :保管ファイルへの保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYSAVF.FILE') OBJ(MYDIR)
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRをMYSAVFという名前の保管ファイルに保管します。

例12 :保管操作のためのシンボリック・リンクの使用

```
SAV DEV('DEVLINK')
    OBJ(('DIRLINK') ('FILELINK') ('DIRLINK/*'))
    SAVACT(*YES) SAVACTMSGQ('MSGQLINK')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーに次のシンボリック・リンクが含まれていることを前提とします:

- DEVLINK = /QSYS.LIB/TAP01.DEVD
- DIRLINK = /SOMEDIRECTORY
- FILELINK = /SOMEDIRECTORY/SOMEFILE
- MSGQLINK = /QSYS.LIB/LIB1.LIB/MSGQ1.MSGQ

このコマンドは、DIRLINKおよびFILELINKと関連した名前とSOMEDIRECTORY内のオブジェクトを装置TAP01に保管します。活動状態保管チェックポイントが完了した時に、メッセージが送られます。

シンボリック・リンクは、装置、活動状態保管メッセージ待ち行列、および出力ファイルを指定するために使用することができます。保管するシンボリック・リンクが指定された場合には、関連したオブジェクトの名前だけが保管され、その関連したオブジェクトの内容は保管されません。ディレクトリーに対するシンボリック・リンクは、ディレクトリー内のオブジェクトを保管するために使用することができます。シンボリック・リンクに関する追加情報は、INFORMATION CENTERの「ファイル・システムおよび管理」カテゴリーの「統合ファイル・システム」トピックにあります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA0DB

オブジェクトがQSYS.LIBオブジェクトではありません。オブジェクトは&1です。

CPFA0DC

オブジェクトがQDLSオブジェクトではありません。オブジェクトは&1です。

CPF3708

&2の保管ファイル&1が小さすぎる。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF377D

内部システム資源の読み取りエラーのために保管が終了した。

CPF377E

活動時保管要求に記憶域が不十分である。

CPF378A

メッセージ待ち行列が使用できない。

CPF378C

SAVACTMSGQ(*WRKSTN)はバッチ・ジョブでは正しくない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF380D

システム全体の保管または復元が異常終了した。

CPF3808

&3の保管ファイル&2は完了していない。

CPF381D

CHGPERIODパラメーターの値が正しくない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF382B

複数ファイル・システムでパラメーターが正しくない。

CPF382C

QSYSファイル・システムについてのOBJパラメーター値が正しくない。

CPF382E

指定されたパラメーターがQDLSファイル・システムには正しくない。

CPF382F

QDLSファイル・システムに対してOBJパラメーター値が正しくない。

CPF3823

オブジェクトが保管または復元されなかった。

CPF3826

OBJパラメーターに*INCLUDEオブジェクトが必要である。

CPF3828

&1を使用しようとした時にエラーが起こった。

CPF3829

指定されたパラメーターがQSYSファイル・システムには正しくない。

CPF383A

保管または復元が正常に終了しなかった。

CPF383B

ファイル&1の終わり。

CPF383D

&1を使用することができない。

CPF3833

DEVパラメーターに指定された値が正しくない。

CPF3834

DEVパラメーターに指定された値が多すぎる。

CPF3835

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3837

&1個のオブジェクトが保管された。&2が保管されていません。

CPF3838

&1個のオブジェクトが保管された。&2個のオブジェクトは保管されていません。

CPF384A

ボリューム識別コード&1は正しくない。

CPF384B

指定された光ディスク・ファイルが正しくない。

CPF384C

CCSIDの変換中にエラーが起こった。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF386B

&1を保管できない。

CPF386C

&1を保管できない。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A5

PATTERNパラメーターでエラー。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

トップ

APARデータの保管 (SAVAPARDTA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APARデータ保管(SAVAPARDTA)コマンドによって、ユーザーは正式問題分析報告書(APAR)に必要な情報を保管することができます。

制約事項:

- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSYSOPR
 - QSRV
 - QSRVBAS

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRBID	問題識別コード	文字値, *NEW	必須, 定位置 1

[トップ](#)

問題識別コード (PRBID)

APARデータが保管されることになる、その問題のID (ID)を指定します。

***NEW** このAPARを記録するためにオープン問題ログ・レコードが作成されます。

文字値 APARデータが保管される、その問題のIDを指定します。

[トップ](#)

例

SAVAPARDTA PRBID(*NEW)

このコマンドは、APARデータが保管されるオープン問題ログを作成します。リスト画面上にある選択項目を指示することで、ユーザーは保管するデータを選択します。このデータはAPARライブラリーに保管されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF39FA

問題&1 &2 &3が見つからない。

CPF39FF

SAVAPARDTAコマンドを実行できない。

CPF39F2

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF39F4

この問題のAPARデータをこれ以上保管することはできない。

CPF39F5

問題&1の照会が正常に実行されなかった。

CPF39F6

問題レコードを作成することができなかった。

CPF39F7

APARライブラリー中にユーザー・スペースを作成することができなかった。

CPF39F8

問題&1をAPARライブラリーに関連づけることができなかった。

CPF39F9

問題&1 &2 &3は使用中。

[トップ](#)

構成の保管 (SAVCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成保管(SAVCFG)コマンドは、制限状態のシステムを必要としないで、すべての構成およびシステム資源管理(SRM)オブジェクトを保管します。保管される情報には次のものがあります。

- 回線記述
- 制御装置記述
- 装置記述
- モード記述
- サービス・クラス記述
- ネットワーク・インターフェース記述
- ネットワーク・サーバー記述
- NETBIOS記述
- 接続リスト
- 構成リスト
- ハードウェア資源データ
- トークンリング・アダプター・データ

保管された情報は、構成復元(RSTCFG)コマンドで復元することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
- ハードウェア・プロダクト処理(WRKHDWPRD)ジョブが同時に実行されている場合には、システム資源管理(SRM)オブジェクトは保管されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	バス名, *	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていない必要があります。

これは必須パラメーターです。

*SAVF

保管操作は、保管ファイル (SAVF)パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならない、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

*END 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注:

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

*PERM

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。消去 (CLEAR)パラメーターで*ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注:

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。

3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注: *AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

[トップ](#)

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次の条件を満たすオブジェクトがあった場合に構成保管操作を終了するかどうかを指定します。

- そのオブジェクトに損傷があることが前に見つかった。
- オブジェクトが他のジョブによってロックされている。
- ユーザーがオブジェクト保管の権限を持っていない。

***NO** 保管操作は続行され、保管できる構成およびシステム資源管理(SRM)保管オブジェクトだけが保管されます。

***YES** 構成オブジェクトまたはシステム資源管理プログラム・オブジェクトを保管できない場合に、データが媒体に書き出される前に保管操作が終了します。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

[トップ](#)

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、**装置 (DEV)**パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVが**データ圧縮 (DTACPR)**パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (**OUTPUT**)パラメーターに***OUTFILE**が指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名 QRSRAVでQSYS内のQASAVOBJを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (**OUTPUT**)パラメーターに***OUTFILE**が指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

トップ

例

例1:オブジェクトの保管

```
SAVCFG DEV(TAP01) CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、システム資源管理オブジェクト（ハードウェア資源データとトークンリング・アダプター・データ）およびすべての構成オブジェクト（すべての回線、制御装置、装置、モード、サービス・クラスと、ネットワーク記述、構成リスト、および接続リストを含む）を保管します。それらはTAP01テープ装置で保管されます。CLEAR(*ALL)によって、消去されていないテープが検出された場合はそれらのテープがすべて自動的に消去されます。

例2:特定のテープへのオブジェクトの保管

```
SAVCFG DEV(TAP01) VOL(ABC)
```

このコマンドは、SRMおよび構成オブジェクトを、ABCというラベルのテープ・ボリュームから順にTAP01テープ装置で保管します。保管操作で1つのテープの記憶容量を超えた場合には、別のボリュームをTAP01テープ装置に入れることを要求するメッセージが出されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3737

保管および復元データ域&1が見つからなかった。

CPF376D

すべての構成オブジェクトが保管ファイル&3に保管されたわけではない。

CPF376E

すべての構成オブジェクトが保管されたわけではない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

変更されたオブジェクトの保管 (SAVCHGOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更されたオブジェクトの保管(SAVCHGOBJ)コマンドは、各変更されたオブジェクトのコピーまたは同じライブラリーに入っているオブジェクトのグループを保管します。オブジェクト (OBJ)パラメーターに *ALLを指定すると、すべてのユーザー・ライブラリーあるいはライブラリーのリストからオブジェクトを保管することができます。保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することができません。データベース・ファイルの場合には、変更されたメンバーだけが保管されます。

次の例外がありますが、指定した日付と時刻以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

- OBJJRN(*NO)を指定した場合には、指定した日付と時刻の後にジャーナリングを開始していない限り、現在ジャーナル処理中のオブジェクトは保管されません。これは、ジャーナル処理の開始前にオブジェクトに対して行われた変更が（ジャーナル・レシーバー中にジャーナル処理されていないので）失われないようにするためです。
- 解放されたオブジェクト（プログラム、ファイル、ジャーナル・レシーバーなど）は保管されません。
- ユーザー定義のメッセージ、ジョブ待ち行列定義および出力待ち行列定義、および論理ファイル定義は保管されますが、そのオブジェクトの内容は保管されません。ACCPH(*YES)を指定した場合には、論理ファイルのアクセス・パスが保管されます。データ待ち行列の内容は、待ち行列データ (QDTA)パラメーターに*DTAQを指定して保管することができます。

指定した変更済みのオブジェクトおよびそのオブジェクトが存在しているライブラリーは、保管操作中はロックされます。

保管済みオブジェクトはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドを使用して復元することができます。

オブジェクトが変更された日付と時刻を判別するためには、DETAIL(*FULL)を指定したオブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを実行してください。変更されたデータベース・ファイル・メンバーの場合には、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを実行してください。

このコマンドによって保管できるオブジェクトのタイプは、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「共通して使用されるパラメーター:詳細説明」のOBJTYPEパラメーターの説明でリストされています。システムは、変更済みのオブジェクトを、各オブジェクトのコピーをテープ、光ディスク・ボリューム、または保管ファイルに書き込むことによって保管します。それぞれのオブジェクトの記述は、オブジェクトが最後に保管された時点の日付、時刻、および場所を用いて変更され、UPDHSTパラメーターによって制御されます。

注: このコマンドは、保管出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のオブジェクト権限が必要です。
 - 保管する各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限

- 保管元の各ライブラリー・オブジェクトに対する実行(*EXECUTE)権限
- *SAVSYS特殊権限がない場合には、ユーザーが権限を持っている、変更済みのオブジェクトのみが保管されます。
- テープまたは光ディスク装置に保管する場合には、その装置記述および装置ファイルに対する使用(*USE)権限が必要です。保管ファイルに保管する場合には、その保管ファイルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および追加(*ADD)権限と、保管ファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- テープを使用する場合には、標準ラベル付きボリューム指定を使用しなければなりません。
- 活動状態保管を使用しない限り、保管中の変更されたオブジェクトは、保管操作が行われた時に実行中の別のジョブで変更することはできません。
- SAVFDTA(*YES)を指定して、保管ファイルの内容を同一の保管ファイルに保管した場合には、保管ファイルの記述だけが保管されます。
- SAVFDTA(*YES)によって保管ファイルの内容が保管された時には、保管ファイルを復元しない限り、それに入っているオブジェクトを復元することはできません。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルに保管する場合には、そのファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターを使用する場合には、そのユーザー・スペースに対する*USE権限およびユーザー・スペース・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	単一値: *ALLUSR, *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *SAVF, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OBJJRN	ジャーナル処理されたオブジェクト	*NO, *YES	オプション
REFDATE	参照日付	日付, *SAVLIB	オプション
REFTIME	参照時刻	時刻, *NONE	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *LIB	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SAVFB	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R2M0, V5R3M0, V5R4M0	オプション
UPDHST	履歴更新	*YES, *NO	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *LIB, *SYNCLIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, 120, *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACCPH	アクセス・パス保管	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	*YES, *NO	オプション
QDTA	待ち行列データ	*NONE, *DTAQ	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE, *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	単一値: *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	<u>*OBJ</u> , *LIB, *MBR, *ERR	オプション
CMDUSRSPC	コマンド・ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: コマンド・ユーザー・スペース	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

オブジェクト (OBJ)

変更があるかどうかを検査してから、変更されたオブジェクトを保管するために、1つ以上のオブジェクトの名前またはオブジェクトの各グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトが**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべての変更されたオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリーに保管する変更済みオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 保管する特定のオブジェクトの名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

トップ

ライブラリー (LIB)

保管する変更されたオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

注: ライブラリーは、指定されたそれぞれの値ごとにASP装置名の英字順に保管されます。独立ASP上のライブラリーは、システムおよび基本ユーザーASP上のライブラリーより前に保管されます。値が*ALLUSRの場合には、ライブラリーがASPDEVパラメーターによって指定されたASP上にあれば、ライブラリー QSYS2, QGPL, QUSRSYS, および QSYS2XXXXX (ここで、XXXXXは独立ASP番号です) が最初に保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが保管されます。次を除いて、英字Qで開始されない名前のすべてのライブラリーが保管されます。

#CGULIB	#DSULIB	#SEULIB
#COBLIB	#RPGLIB	
#DFULIB	#SDALIB	

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」とみなされ、保管されます。

QDSNX	QRCLXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXMX
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーが保管されます。保管ファイルに保管する時には、ユーザー・スペースにライブラリーは1つしか指定することはできません。特殊値*SPLFはユーザー・スペースには指定できません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば、ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。保管ファイルに保管する時には、総称ライブラリー名を指定することはできません。

名前 オブジェクト (OBJ)パラメーターに*ALLを指定した場合には、最大300のライブラリー名を指定することができます。保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することはできません。

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

保管操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更を保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。保管されるオブジェクト・タイプは、ライブラリー保管(SAVLIB)、オブジェクト復元(RSTOBJ)、およびライブラリー復元(RSTLIB) コマンドによって保管および復元されるオブジェクト・タイプでもあります。データ・ディクショナリーおよび関連したファイルは、SAVLIBコマンドを使用することによってのみ保管されます。

単一値

***ALL** 指定のライブラリー中に入っている、指定した名前のすべてのオブジェクトに対する変更が保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD),ファイル(*FILE),またはプログラム(*PGM)など、保管する各オブジェクトのタイプの値を指定してください。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

ジャーナル処理されたオブジェクト (OBJJRN)

現在ジャーナル処理されている変更済みオブジェクト、および参照日付 (REFDATE)および参照時刻 (REFTIME)パラメーターに指定された日付および時刻以降にジャーナル処理された変更済みオブジェクトを保管するかどうかを指定します。

***NO** ジャーナル処理中のオブジェクトは保管されません。指定された日時の中でジャーナル処理を開始した場合には、変更されたオブジェクトまたは変更されたデータベース・ファイル・メンバーが保管されます。最終ジャーナル開始操作の日は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示することができます。

***YES** 変更がジャーナルに入れられたオブジェクトが保管されます。

トップ

参照日付 (REFDATE)

参照日付を指定します。この日付以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

***SAVLIB**

ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドを最後に実行した日の日付以降に変更されたオブジェクトが保管されます。指定したライブラリーが保管されたことのないものである場合には、メッセージが出され、ライブラリーは保管されませんが、操作は続行されます。

日付 この日付以降に変更されたオブジェクトが保管される参照日付を指定します。このコマンドを実行した日の日付より後の日付を指定した場合には、メッセージが出され、操作は終了します。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

トップ

参照時刻 (REFTIME)

参照時刻を指定します。指定した日付のこの時刻以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

***NONE**

明示的な時刻は指定されません。参照日付 (REFDATE)パラメーターに指定された日付以降に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

時刻 指定された日付のこの時刻以降に変更されたオブジェクトが保管される参照時刻を指定します。

REFDATEパラメーターに*SAVLIBを指定した場合には、参照時刻を指定することはできません。このコマンドの実行時刻より遅い時刻を指定した場合には、メッセージが出され、操作が終了します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしでは、6桁(HHMMSS)のSTRINGを指定します。ここで、HH=時、MM=分、およびSS=秒です。
- 時刻区切り記号ありでは、8桁のSTRINGを指定します。ここで、ユーザー・ジョブに指定された時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド行から入力する場合には、STRINGをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ラベル (LABEL)

保管操作に使用されるテープ・ボリューム上のデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このパラメーターが保管コマンドで使用された場合には、復元コマンドでも同じラベルを指定しなければなりません。

注: このパラメーターで*SAVLIBを指定することはできません。この値は復元コマンドのラベル (LABEL) パラメーターの特殊値であり、これを指定すると保管したものを復元できなくなるからです。

***LIB** ファイル・ラベルは、ライブラリー (LIB)パラメーターに指定されたライブラリーの名前を使用して、システムが作成します。

文字値 保管操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは、単一ライブラリーの保管操作の場合にのみ有効です。

トップ

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注:

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

開始ライブラリー (STRLIB)

保管操作を開始するライブラリーを指定します。

保管操作中に回復不能媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して、操作を再開することができます。

保管操作再開の基本ステップは次の通りです。

1. ジョブ・ログを調べて、前の保管操作が正常に行われなかったライブラリーを判別してください。最後に保管されたライブラリーを見つけてください。これは、正常完了メッセージによって示されます。
2. 次のテープが初期設定されていることを確認して、そのテープを装てんしてください。
3. 以下をオリジナルの保管操作に追加します。

STRLIB(ライブラリー名) OMITLIB(ライブラリー名)

ここで、STRLIBおよびOMITLIBパラメーターのライブラリー名は正常に保管された最後のライブラリーです。これにより、保管操作は正常に保管された最後のライブラリーの後のライブラリーから始まります。

ライブラリーを復元するには、実行されたそれぞれの保管操作ごとに別個の復元操作を実行する必要があります。

*FIRST

保管操作は、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定された最初のライブラリー値から始まります。最初の値が総称名または特殊値であった場合には、保管操作はこの値と一致する最初のライブラリーから始まります。

名前 保管操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。**消去 (CLEAR)**パラメーターで*ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

媒体定義 (MEDDFN)

保管データを入れるのに使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)、ならびにISERIES INFORMATION CENTERのサイトHTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説 (英文) の媒体定義作成API (CREATE MEDIA DEFINITION API)を参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名'*

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

トップ

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを復元して使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

保管操作を行うシステムとは異なるリリース・レベルのシステムに配布するオブジェクトを保管するように指定するためには、プログラム・オブジェクトの場合とプログラム以外のオブジェクトの場合とでは手順が異なり、またプログラム・オブジェクトが作成されるリリース・レベルによっても手順は異なります。たとえば、前のリリースで実行中のシステムに配布するオブジェクトを保管する場合には、次の選択を行うことができます。

プログラム・オブジェクトの場合:

- ターゲットとなる以前のリリースより最近のリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行わなければなりません。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、再度プログラム・オブジェクトを作成する
 2. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 3. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する
- ターゲット・システムと同じリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行うことができます。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する

2. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する

プログラム以外のオブジェクトの場合:

次のことができます。

1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このオブジェクトを保管する
2. ターゲット・システムでこのオブジェクトを復元する

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

注:

1. LIB(*ALLUSR)が指定されている場合には、現在のリリースだけがターゲット・リリースになります。
2. すべてのオブジェクトで別のリリースをターゲットにすることができるわけではありません。どのオブジェクトがサポートされているかを判別するには、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)の図を参照してください。

トップ

ヒストリー更新 (UPDHST)

各保管済みオブジェクトの保管ヒストリーを、この保管操作の日付、時刻、および位置で変更するかどうかを指定します。オブジェクトの保管ヒストリー情報は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示します。保管ヒストリー情報は、RCVRNG(*LASTSAVE)およびFROMENT(*LASTSAVE)またはFROMENTLRG(*LASTSAVE)がジャーナル処理項目適用(APYJRNCHG)コマンドで使用されると、処理するジャーナル項目はどれかを判別するために使用されます。

***YES** 保管された各オブジェクトで最終保管日、時刻、および位置が更新されます。

***NO** 保管された各オブジェクトの記述に入っている保管ヒストリー情報は更新されません。

注: UPDHST(*NO)は、回復を目的としない保管操作で使用する必要があります。たとえば、保管データをレコードごとに別のシステムに送信して、保管ファイルを即時に削除すると、保管ヒストリー情報が更新されない場合があります。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリ

ューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注: *AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

トップ

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない

場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

トップ

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態で保管されます。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。保管操作中のすべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーが同時にチェックポイントに達し、それらの相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

注: この値を指定して、多数のライブラリーを保管しようとする、保管操作ですべてのオブジェクトおよびライブラリーのチェックポイントに達するために長時間を要する可能性があります。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

トップ

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になればなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

*LOCKWAIT

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOCMTBDY

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでには、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることとなります。

注: この値は、V5R3M0より前の**ターゲット・リリース (TGTRLS)**パラメーター値である場合は指定できません。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter)で、API解説(英文)のコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

0が指定され、1つの名前だけが**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定され、***FILE**が**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定された唯一の値である場合には、システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達することを必要とせず、オブジェクトを保管します。

トップ

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターに***SYSDFN**または***LIB**値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。**SAVACT**パラメーターに***SYNCLIB**が指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されません。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならない、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

- *NO このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。
- *YES 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注：この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

[トップ](#)

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

- *YES 保管ファイルの記述と内容を保管します。
- *NO 保管ファイルの記述だけを保管します。

[トップ](#)

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVがデータ圧縮 (DTACPR)パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

[トップ](#)

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

***USRSPC**

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

単一値

***USRSPC**

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるオブジェクトは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

* 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASPGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名QSRSAVでQSYS内のQASAVOBJを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

トップ

情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイル向けの情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***ERR** リストには、コマンド、各ライブラリーの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目に関する情報が入ります。

***LIB** リストには、保管するように要求された各ライブラリーのライブラリー項目が入ります。

***MBR** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

トップ

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)

このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースを指定します。このユーザー・スペースには、パラメーターごとに32767までのリスト値が許可されていますが、コマンド・パラメーターには300までしかリスト値が許可されていません。ユーザー・スペースは、オブジェクト・リスト保管(QSRSAVO) APIによって使用されるフォーマットでパラメーターを定義しなければなりません。

修飾子1:ユーザー・スペース

名前 このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ユーザー・スペースを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ユーザー・スペースが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

例

例1:変更されたファイルの保管

```
SAVCHGOBJ OBJ(ORD*) LIB(DSTPRODLB) DEV(TAP01)
          OBJTYPE(*FILE) REFDATE(122290)
```

このコマンドは、DSTPRODLBというライブラリー内の文字ORDで始まる名前をもつファイルのうち、1990年12月22日以降に変更されたすべてのファイルを保管します。

例2:保管ファイルの記述およびデータの保管

```
SAVCHGOBJ OBJ(FILE*) LIB(MYLIB) DEV(TAP01) OBJTYPE(*FILE)
          REFDATE(122290) SAVFDATA(*YES)
```

このコマンドは、MYLIBというライブラリー内の文字FILE*で始まる名前をもつファイルのうち、1990年12月22日以降に変更されたすべてのファイルを保管します。これは、また、この選択基準と一致したすべての保管ファイルの記述およびデータも保管します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF3702

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&9が組み込まれていません。

CPF3703

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3708

&2の保管ファイル&1が小さすぎる。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3745

&1についてのSAVLIB操作の記録が存在していない。

CPF3746

システム日付および時刻が参照日付および時刻より前になっている。

CPF3747

複数のライブラリーでオブジェクト名を指定することはできない。

CPF3749

ライブラリー&2からオブジェクトが保管されませんでした。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF377D

内部システム資源の読み取りエラーのために保管が終了した。

CPF377E

活動時保管要求に記憶域が不十分である。

CPF377F

保留中のレコード変更によって、活動時保管要求が実行できなかった。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3774

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&8が組み込まれていません。

CPF3778

すべてのオブジェクトが保管されなかったライブラリーがある。

CPF378A

メッセージ待ち行列が使用できない。

CPF378C

SAVACTMSGQ(*WRKSTN)はバッチ・ジョブでは正しくない。

CPF378E

ライブラリー&1は保管されていない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3789

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF379E

ライブラリー&1の保管に使用可能な記憶域が不十分である。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3797

ライブラリー&3からオブジェクトが保管されませんでした。保管の限界を超えました。

CPF37AB

*NOCMTBDYはターゲット・リリースで使用できません。

CPF37AC

*NOCMTBDYの場合、ライブラリーは使用できません。

CPF37B4

&2のユーザー・スペース&1が正しくありません。

CPF380B

この時点で保管を完了することができない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3815

&2の保管ファイル&1は保管操作には小さすぎる。

CPF3818

開始ライブラリー&1が見つからない。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF3867

FILEMBRパラメーターの内容が正しくない。

CPF3868

FILEMBRを指定しているが、OBJTYPEは*ALLまたは*FILEでなければならない。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3892

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A3

&2のファイル&1はASPDEVでは無効です。

CPF38A4

ASP装置&1は正しくありません。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRP PRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

STATUS メッセージ*CPF3770**

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3774

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&8が組み込まれていません。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドは、指定された文書、フォルダー、または配布オブジェクト（メール）のコピーを保管します。

注:

- フォルダーが保管される時には、フォルダー・オブジェクトは、そのフォルダーおよびサブフォルダーに含まれている文書およびサブフォルダーの文書およびその後連続してネストされたすべてのフォルダーおよび文書とともに保管されます。特定のフォルダーはDLO(*FLRLVL)を使用して個別に保管することができます。
- 配布オブジェクト（メール）は個別のユーザー用に保管または復元することはできません。メールはすべてのユーザー用にかぎり保管することができます。
- SAVDLOはシステムの専有を必要としませんが、保管が出された時に使用中である個別のオブジェクトは保管できません。すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されるようにするためには、システムで文書またはフォルダー活動が行なわれていない時に、このコマンドを実行してください。

制約事項:

- このコマンドで次のパラメーターの組合わせを使用するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはシステム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
 - DLO(*ALL) FLR(*ANY)
 - DLO(*CHG)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) OWNER(*ALL)
 - DLO(*SEARCH) OWNER (ユーザー・プロファイル名)

ここで、指定されたユーザー・プロファイル名は、SAVDLOコマンドを出しているユーザーのユーザー・プロファイル名ではありません。

- *ALLOBJまたは*SAVSYS特殊権限がない場合には、次のことが必要です。
 - 保管する文書またはフォルダーごとに全(*ALL)権限が必要です。
 - 文書交換アーキテクチャー(DIA)ユーザーとして登録されていなければなりません。
- グループ・プロファイルが指定されたユーザー・プロファイルに関連している場合には、文書またはフォルダー所有権の判別ではグループ・プロファイルの検査は行なわれません。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルに保管する時には、出力ファイル・ライブラリーに対する実行権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	単一値: *ALL, *SEARCH, *CHG, *SYSOBJNAM, *DOCL, *MAIL, *FLRLVL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	単一値: *ANY, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
SRCHTYPE	検索タイプ	*DOC, *ALL	オプション
CHKFORMRK	マークの検査	*NO, *YES	オプション
CHKEXP	満了日	日付, *NO, *CURRENT	オプション
CRTDATE	作成日	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *BEGIN, *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 終了日付	日付, *END	
DOCCLS	文書クラス	文字値, *ANY	オプション
OWNER	所有者プロファイル	名前, *CURRENT, *ALL	オプション
REFCHGDATE	最終変更日	日付, *ANY, *SAVDLOALL	オプション
REFCHGTIME	最終変更時刻	時刻, *ANY	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション
DOCL	文書リスト	文字値, *NONE	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *GEN	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OMITFLR	除外するフォルダー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
CLEAR	消去	<u>*NONE</u> , *AFTER, *ALL, *REPLACE	オプション
STG	記憶域	<u>*KEEP</u> , *DELETE, *FREE	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	<u>*DEV</u> , *NO	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *DEVVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
TGTRLS	ターゲット・リリース	<u>*CURRENT</u> , *PRV, V5R2M0, V5R3M0, V5R4M0	オプション
SAVACT	活動状態保管	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	オプション
ASP	ASP番号	1-32, <u>*ANY</u>	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

保管する文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。フォルダーを保管するためには、DLO(*ALL)を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** FLRパラメーターによってさらに修飾されているすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。DLO(*ALL) FLR(*ANY)を指定すると、すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

*SEARCH

指定された検索値を満たすすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。検索値は、次のパラメーターを使用して指定されます。

- フォルダー (FLR)パラメーター
- マークの検査 (CHKFORMRK)パラメーター
- 満了日 (CHKEXP)パラメーター
- 作成日 (CRTDATE)パラメーター
- 文書クラス (DOCCLS)パラメーター
- 所有者プロファイル (OWNER)パラメーター
- 最終変更日 (REFCHGDATE)パラメーター
- 最終変更時刻 (REFCHGTIME)パラメーター

注: フォルダーは、SRCHTYPE(*ALL)が指定された場合にだけ、保管されます。

***CHG** 最後の完全保管操作以降に作成または変更されたすべての文書、およびそれ以降に作成されたすべてのフォルダーおよびすべてのメールが保管されます。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名 (**SYSOBJNAM**)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名の文書が保管されます。

***DOCL**

文書リスト (**DOCL**)パラメーターに指定された文書リスト中で示された文書のリストが保管されません。

***MAIL**

メール・ログによって示された配布オブジェクトおよび文書が保管されます。

***FLRLVL**

フォルダー (**FLR**)パラメーターに指定されたフォルダーおよびそのフォルダーの文書が保管されません。サブフォルダーは保管されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

文書名 保管される文書のユーザー割り当て名を指定してください。同じフォルダーに指定されたすべての文書およびフォルダーは**フォルダー (FLR)**パラメーターに指定しなければなりません。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

保管するフォルダーの名前を指定します。

単一値

***ANY** 文書ライブラリー・オブジェクトは任意のフォルダーから保管することができます。FLRパラメーターの使用時には、次を考慮してください。

- 次の1つが指定された場合には、FLR(*ANY)は正しくありません。
 - DLO(*DOCL)
 - DLO(*FLRLVL)
 - DLO (文書名)
- 次の1つが指定された場合には、FLR(*ANY)が必要です。
 - DLO(*CHG)
 - DLO(*SYSOBJNAM)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) SRCHTYPE(*ALL)
- SAVDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された場合には、次が保管されます。
 - すべての文書
 - すべてのフォルダー
 - すべての配布オブジェクト (メール)

***NONE**

保管される文書がフォルダー中にありません。FLR(*NONE)が有効なのは、次の1つが指定された場合だけです。

- DLO(*ALL)
- DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*DOC)

その他の値（最大300個指定可能）

総称フォルダー名

総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

フォルダー名

保管される文書を入れるフォルダーのユーザー割り当て名を指定します。フォルダー名は最大63桁の長さとすることができます。

- ここに指定されたフォルダー・オブジェクトは、DLO(*ALL)またはDLO(*FLRLVL) が指定された場合にかぎり保管されます。
- 次の1つが指定された場合には、FLR(フォルダー名)は正しくありません。
 - DLO(*SYSOBJNAM)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*ALL)
- 次の1つが指定された場合には、フォルダー名は1つしか指定することはできません。
 - DLO(*DOCL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*DOC)
 - DLO（文書名）

トップ

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を

使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

[トップ](#)

検索タイプ (SRCTYPE)

検索するためのオブジェクトのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***DOC** 文書だけが検索および保管されます。

***ALL** 文書およびフォルダーが検索および保管されます。

[トップ](#)

マークの検査 (CHKFORMRK)

記憶用のマークつき文書を保管するかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されていて、**検索タイプ (SRCTYPE)**パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

***NO** この保管操作でその他の検索値と一致する文書は、記憶用のマークつきかどうかにかかわらず保管されます。

***YES** その他の検索値と一致し、さらに記憶用のマークが付いた文書だけが保管されます。文書に付くマークは：

- 保存
- 解放
- 削除

[トップ](#)

満了日 (CHKEXP)

指定された日付の前に満了日があるすべての文書が保管されることを指定します。満了日は、文書が作成される時にユーザーによって割り当てられ、その文書が不要になる日付を指定します。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されていて、**検索タイプ (SRCTYPE)**パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

***NO** 満了日は無視されます。

***CURRENT**

今日の日付の前に満了日があるすべての文書が保管されます。

日付 文書の満了日を指定します。この日付の前に満了日があるすべての文書が保管されます。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

指定された期間内に作成日がある文書およびフォルダーが保管されることを指定します。この期間は、開始時刻と日付および終了時刻と日付によって指定されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。この期間は次の通り指定されます。

((開始時刻 開始日) (終了時刻 終了日))

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

開始時刻を指定するためには、次の1つを使用してください。文書はこの時刻の後に作成されていなければならない、それが選択されます。この時刻の前に作成された文書は選択されません。

*AVAIL

任意の時刻にファイルされた文書およびフォルダーは保管の対象となります。

時刻 開始時刻を指定してください。開始時刻が検索値として使用される場合には、開始日は*BEGINであってははいけません。**最終変更時刻 (REFCHGTIME)**パラメーターが指定された場合には、開始時刻はREFCHGTIMEパラメーターに指定された値と同じでなければなりません。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフで囲まなければならない。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

開始日を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この日付以降に作成されなければならない、それが保管されます。この日付の前に作成された文書は保管されません。

*BEGIN

文書およびフォルダーは、そのオブジェクトと関連した作成日に関係なく保管されます。

*CURRENT

今日の日付の、開始時刻（指定される場合）以降にファイルされた文書およびフォルダーだけが選択されます。

日付 文書作成日期間の開始日を指定します。この日付はジョブ日付の形式で入力しなければならない。開始日は、**最終変更日 (REFCHGDATE)**パラメーターが指定された場合にそのREFCHGDATEパラメーターに指定された値と同じでなければならない。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

終了時刻を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この時刻以前に作成されていないと見なされず、それが保管されます。指定された時刻の後に作成された文書は保管されません。

*AVAIL

任意の時刻にファイルされた文書およびフォルダーは保管のために選択されます。

時刻 終了時刻を指定してください。終了時刻が検索値として使用される場合には、終了時刻は *END であってはなりません。時刻指定の方法の詳細については、開始時刻の説明を参照してください。

要素2: 終了日付

終了日を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この日付以前に作成されていないと見なされず、それが保管されます。この日付の後に作成された文書は保管されません。

*END 任意の日付にファイルされた文書およびフォルダーが選択されます。*ENDが指定された場合には、終了時刻を使用することはできません。

日付 文書作成日間の終了日を指定します。この日付以前に作成された文書が保管されます。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

トップ

文書クラス (DOCCLS)

保管する文書のクラスを指定します。このクラスは、文書の作成時にユーザーによって割り当てられます。このパラメーターが有効なのは文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*SEARCHが指定されていて、検索タイプ (SRCHTYPE)パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

注: 文書クラスがユーザー割り当てのものであっても、このパラメーターに2バイト文字セット(DBCS)データを指定することはできません。

*ANY 保管のための文書の選択に文書クラスは使用されません。

文字値 保管のための文書の選択に使用される1-16桁の範囲の文書クラスを指定してください。

トップ

所有者プロフィール (OWNER)

保管する文書およびフォルダーの所有者を指定します。このパラメーターが有効なのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

*CURRENT

現在の要求元によって所有される文書およびフォルダーが保管されます。

***ALL** このパラメーターは、保管のための文書およびフォルダーの選択には使用されません。*ALLを指定する場合は、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはシステム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。

名前 保管する文書およびフォルダーを所有するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザーによって所有され、指定されたその他の検索値と一致するすべての文書が保管されます。このコマンドを出したユーザーのユーザー・プロファイル以外のユーザー・プロファイルを選択する場合には、*ALLOBJまたは*SAVSYSの特殊権限が必要です。

トップ

最終変更日 (REFCHGDATE)

指定された日付以降に作成されたフォルダー、および変更または作成された文書が保管されます。この変更日は、文書の内容または記述が変更された時に更新されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***ANY** 参照用の変更日は指定されません。文書は、作成または変更された日付に関係なく保管されます。フォルダーは作成された日付に関係なく保管されます。

***SAVDLOALL**

最後の完全保管操作以降に作成されたフォルダーおよびそれ以降に作成または変更された文書が保管されます。

日付 日付を指定して、その日付以降に作成されたフォルダー、あるいは作成または変更された文書が保管されます。

トップ

最終変更時刻 (REFCHGTIME)

それより後に作成されたフォルダーおよび変更または作成された文書を保管する、REFCHGDATEパラメーターに指定された日付に対して相対的な時間を指定します。この変更時刻は、文書の内容または記述が変更される時に更新されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***ANY** 時刻は指定されません。文書は、作成または変更された時刻とは関係なく保管されます。フォルダーは作成された時刻に関係なく保管されます。

時刻 その時刻以降に作成されたフォルダー、または作成または変更された文書が保管される、その時刻を指定します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*SYSOBJNAMが指定されている場合に、保管する文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

単一値

*NONE

システム・オブジェクト名は指定されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

名前 保管する文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。10桁全部を指定しなければなりません。

[トップ](#)

文書リスト (DOCL)

保管される文書のリストを指定します。この文書リストはフォルダー内になければなりません。フォルダーの名前は**フォルダー (FLR)**パラメーターを使用して指定しなければなりません。文書リストに文書が入っているフォルダーに対する使用(*USE)権限が必要です。

注: 文書リストは、リモート検索ではなく、ローカル検索の結果でなければなりません。

*NONE

文書リストは保管されません。

文字値 保管される文書リストを指定します。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注：

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注：このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

ラベル (LABEL)

保管のために使用される磁気テープ上のデータ・ファイルを識別する名前を指定します。LABELパラメーターが使用された場合このラベルは復元コマンドに指定しなければなりません。

***GEN** ファイル・ラベルはシステムによって作成されます。

文字値 保管操作に使用されたデータ・ファイルのラベルとして使用されるデータ・ファイル識別コードを指定してください。最大17桁までを指定することができます。

トップ

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

***** システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。消去 (CLEAR)パラメーターで *ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

除外するフォルダー (OMITFLR)

保管操作から除外される1つまたは複数のフォルダーの名前またはフォルダーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

フォルダーは保管操作から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称フォルダー名

総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば、ABC*など) です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前がその総称接頭部で始まり、ユーザーが権限をもっているすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名であると見なします。

フォルダー名

保管操作から除外するフォルダーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

***NONE**

出力リストは作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (**OUTPUT**)パラメーターに***OUTFILE**が指定されている場合に、文書ライブラリー・オブジェクトに関する情報を送るデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルが作成された場合には、システムはモデルとしてQJSDLOの様式名をもつQSYSのQAOJSAVOを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (**OUTPUT**)パラメーターに***OUTFILE**が指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュ

ームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注: *AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

トップ

記憶域 (STG)

保管操作の終了後に保管中の文書によって占められていたシステム記憶域を保管、削除、または解放するかどうかを指定します。

注: 次のいくつかが指定された場合には、STG(*DELETE)およびSTG(*FREE)は正しくありません。

- DLO(*ALL) FLR(*ANY)
- DLO(*SEARCH) CHKFORMRK(*YES)
- DLO(*CHG)
- DLO(*MAIL)
- SAVACT(*YES)

***KEEP**

保管操作の後、文書によって占められていた記憶域は変更されないままとなります。

***DELETE**

保管操作後に、文書オブジェクトおよびすべての検索項目はシステムから削除されます。

***FREE**

文書記述およびすべての検索項目はシステム上にそのままとなりますが、文書によって占められていた記憶域は保管操作の後に削除されます。文書は、この文書がシステム上に復元されるまで使用することはできません。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターとデータ短縮 (COMPACT)パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

[トップ](#)

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVがデータ圧縮 (DTACPR)パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

文書クラス (DOCCLS)パラメーターに指定されたデータの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。この文字識別コードは、文書クラスの入力に使用される表示装置と関連しています。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXR₁MXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXR₁MXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中に更新できるかどうかを指定します。

***NO** 使用中の文書ライブラリー・オブジェクトは保管されません。文書ライブラリー・オブジェクトを使用中に更新することはできません。

***YES** 保管要求時に文書ライブラリー・オブジェクトを変更することができます。

注：一部の適用業務は、文書ライブラリー・オブジェクトを直接更新します。一時ファイルに更新を保管してからDLOを更新するのではなく、データが適用業務に提供されます。直接更新されるDLO（一般にはPCを基礎とした適用業務によって更新されるもの）は保管されません。このパラメーターの使用に関する詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「バックアップおよび回復」情報を参照してください。

トップ

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続ける前に、オブジェクトが使用中になっている時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続ける前に、個々の各オブジェクトが使用可能になるまで最大120秒待ちます。

***NOMAX**
最大待ち時間が存在していません。

0から99999
保管操作を続ける前に、個々の各オブジェクトを待つ秒数を指定してください。

トップ

ASP番号 (ASP)

保管される文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

***ANY** 保管されるオブジェクトはいずれかのASPに存在しています。DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された時には、システム上のすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

注：複数のASPからのDLOが保管されると、複数のテープ媒体ファイルが作成されます。これらの媒体ファイルの開始および終了の順序番号は、すべてのASPを復元するためにRSTDLOコマンドに必要です。

1から32
保管する文書ライブラリー・オブジェクトが入っている既存ASPの番号を指定してください。ASP 1はシステムASPです。

注：ファイルされていないメールおよびフォルダー内にはない文書はシステムASPに存在していません。

例

例1:完全保管操作の実行

```
SAVDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、フォルダー、文書、およびメールのすべてを磁気テープ装置TAP01に保管します。

例2:変更のすべての保管

```
SAVDLO DLO(*CHG) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、最後の完全保管操作以後に作成または変更された文書のすべて、最後の完全保管操作以後に作成されたフォルダー、およびメールのすべてを保管します。

例3: ASP全体の保管

```
SAVDLO DLO(*ALL) DEV(TAP01) FLR(*ANY) ASP(2)
```

このコマンドは、ユーザーASP 2内のフォルダーおよび文書のすべてを保管します。

例4:特定日付後に変更されたオブジェクトの保管

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) DEV(TAP01) OWNER(*ALL)  
REFCHGDATE('01/01/2002')
```

このコマンドは、2002年1月1日より後に変更または作成された文書のすべてを保管します。このコマンドは、文書のバックアップとバックアップの間の変更を保管する場合に役立ちます。このコマンドは、その他のオブジェクト・タイプの場合に使用される変更済みオブジェクト保管(SAVCHGOBJ)と同様です。

例5:特定日付後に変更された文書およびフォルダーの保管

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) DEV(TAP01) SRCHTYPE(*ALL) OWNER(*ALL)  
REFCHGDATE('01/01/2002')
```

このコマンドは、01/01/2002以後に作成されたフォルダーのすべておよび01/01/2002以後に作成または変更された文書のすべてを保管します。

例6:特定日付後に作成された文書の保管

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) DEV(TAP01)  
CRTDATE((*AVAIL '01/01/2002')) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、01/01/2002以後に作成または変更された文書のすべてを保管します。

例7:特定日付後に作成された文書およびフォルダーの保管

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) DEV(TAP01) SRCHTYPE(*ALL)  
CRTDATE((*AVAIL '01/01/2002')) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、01/01/2002以後に作成された文書およびフォルダーのすべてを保管します。

例8:保管操作時のシステム記憶域の解放

```
SAVDLO DLO(DOCX) FLR(FOLDERA) DEV(TAP01) STG(*FREE)
```

このコマンドは、フォルダーFOLDERA内のDOCXという名前の文書を磁気テープ装置TAP01に保管します。保管操作の一環として、文書のデータ部分が占有していたシステム記憶域が解放されます。

例9:フォルダーの保管

```
SAVDLO DLO(*ALL) DEV(*SAVF) FLR(BILL TOM MARY) SAVF(SAVF1)
```

このコマンドは、フォルダーBILL, TOM,およびMARYと、これらのフォルダー内の文書のすべてを保管します。

例10:フォルダー・レベルのフォルダーだけの保管

```
SAVDLO DLO(*FLRLVL) FLR(DEC01) DEV(*SAVF) SAVF(MYLIB/SAVF1)
```

このコマンドは、フォルダーSTATUS内のフォルダーDEC01およびこのフォルダー内の文書のすべてを保管して、ライブラリーMYLIB内の保管ファイルSAVF1を保管します。このフォルダー内のサブフォルダーは保管されません。

例11:メールだけの保管

```
SAVDLO DLO(*MAIL) DEV(*SAVF)
```

このコマンドは、メール・ログによって参照されたすべての配布オブジェクトおよびすべての文書を保管します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384D

ASP &1では保管または復元操作は使用できない。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF8AC3

ASP &5が正しくない。

CPF8A47

内部システム・オブジェクトが使用中である。

CPF90B2

DLOパラメーターのフォルダー名のリストが正しくない。

CPF90C1

文書リスト&1が空である。

CPF90C2

文書リスト&1を使用することができなかった。

CPF90D7

文書は保管されなかった。

CPF90E1

TGTRLS(*PRV)を指定してフォルダー&1を使用することはできない。

CPF90E5

文書リスト&1が認可されていない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF902E

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが保管された。&10は保管されませんでした。

CPF903B

保管ファイル用のオブジェクトが多すぎる。

CPF903C

文書ライブラリー・オブジェクトが保管されなかった。

CPF9030

所有者プロファイル(&1)が見つからない。

CPF9046

フォルダー&1に検索仕様を満たす文書は見つからなかった。

CPF9053

要求した機能は認可されていない。

CPF9056

要求した機能は認可されていない。

CPF906B

文書ライブラリー・オブジェクトが保管されなかった。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF941B

保管データ域&1は使用中である。

CPF9410

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが保管された。&10は保管されませんでした。

CPF9411

ASP &1の変更が保管されなかった。

- CPF9417**
REFCHGDATEまたはREFCHGTIMEでCRTDATE値は正しくない。
- CPF9418**
SAVFパラメーターが正しくない。
- CPF9419**
LABEL(*GEN)が必要である。
- CPF9810**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF9812**
ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。
- CPF9820**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF9822**
ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。
- CPF9825**
装置&1は認可されていない。
- CPF9830**
ライブラリー&1を割り当てることができない。
- CPF9831**
装置&1を割り当てることができない。
- CPF9845**
ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。
- CPF9846**
ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。
- CPF9850**
印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。
- CPF9851**
&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。
- CPF9860**
出力ファイルの処理中にエラーが起こった。
- CPF9899**
コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ライブラリー保管 (SAVLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドでは1つまたは複数のライブラリーのコピーを保管することができます。

保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することができません。

このコマンドでは、ライブラリー記述、オブジェクト記述、およびライブラリー中のオブジェクトの内容を含め、ライブラリー全体が保管されます。ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクトの定義だけが保管され、内容は保管されません。しかし、論理ファイルのアクセス・パスは、**アクセス・パス保管 (ACCPH)**パラメーターに*YESを指定することによって保管することができます。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、**スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)**パラメーターに*ALLを指定することによって保管することができます。保管ファイルの内容は、**保管ファイル・データ (SAVFDTA)**パラメーターに*YESを指定するか、あるいは**保管ファイル・データ保管(SAVSAVFDTA)**コマンドを使用することによって保管することができます。データ待ち行列の内容は、**待ち行列データ (QDTA)**パラメーターに*DTAQを指定して保管することができます。コマンドで記憶域の解放を指定しない限り、システム中のライブラリーとそのオブジェクトには影響がありません。しかし、**ヒストリー更新 (UPDHST)**パラメーターに*NOを指定しない限り、各ライブラリーおよび各オブジェクトの記述は、それが最後に保管された日付、場所、および時刻で更新されます。LIBパラメーターに*NONSYS, *ALLUSR,または*IBMを指定してライブラリーのグループが保管される場合には、QSYS中のデータ域（データ域 QSAVLIBALL, QSAVALLUSR,またはQSAVIBM）のヒストリーで日付、時刻、および場所が更新されます。

このコマンドによって保管されるオブジェクトのタイプは、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「共通して使用されるパラメーター：詳細説明」のOBJTYPEパラメーターの説明で、追加の*DTADCTと一緒にリストされています。ユーザー・ライブラリーに含まれていないある種のオペレーティング・システム・オブジェクト（ユーザー・プロファイルなど）は、このコマンドでは保管されません。これらはシステム保管(SAVSYS)コマンドまたは機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管することができます。

注: このコマンドは、リスト・ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のオブジェクト権限が必要です。
 - 指定された各ライブラリーに対する読み取り(*READ)権限、あるいはその所有者であること
 - ライブラリー内の各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限（スプール・ファイル・データの場合、出力待ち行列に対する*OBJEXIST権限）
- *SAVSYS特殊権限がない場合には、ユーザーが権限を持っているライブラリーおよびオブジェクトのみが保管されます。

- テープまたは光ディスク・ボリュームに保管する場合には、その関連した装置記述に対する使用(*USE)権限が必要です。
- 保管ファイルに保管する場合には、その保管ファイルに対する追加(*ADD)および使用(*USE)権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルに保管する場合には、その出力ファイル・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- 「活動状態保管」を使用しない限り、保管中のライブラリーまたはその中のオブジェクトはどれも、保管操作の実行時に実行中のジョブによって更新することができません。
- SAVFDTA(*YES)を指定して、保管ファイルの内容を同一保管ファイルに保管する場合には、保管ファイルの記述だけが保管されます。
- 保管ファイル・データ (SAVFDTA)パラメーターに*YESを指定することによって保管ファイルの内容を保管した場合には、そこに入っているオブジェクトを復元する前に、保管ファイルを復元しなければなりません。
- コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターを使用する場合には、そのユーザー・スペースに対する*USE権限およびユーザー・スペース・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	単一値: *NONSYS, *ALLUSR, *IBM, *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVF, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 3
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *LIB	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R2M0, V5R3M0, V5R4M0	オプション
UPDHST	ヒストリー更新	*YES, *NO	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SAVACT	活動状態保管	<u>*NO</u> , *LIB, *SYNCLIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, <u>*LOCKWAIT</u> , *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, <u>*LOCKWAIT</u> , *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, <u>*NONE</u> , *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
ACCPH	アクセス・パス保管	<u>*SYSVAL</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	<u>*NONE</u> , *ALL	オプション
QDTA	待ち行列データ	<u>*NONE</u> , *DTAQ	オプション
STG	記憶域	<u>*KEEP</u> , *FREE	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	<u>*DEV</u> , *NO	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: <u>*NONE</u> , *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	単一値: *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, <u>*NONE</u> , *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, <u>*ALL</u>	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	<u>*OBJ</u> , *LIB, *MBR, *ERR	オプション
CMDUSRSPC	コマンド・ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: コマンド・ユーザー・スペース	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

ライブラリー (LIB)

保管するライブラリーを指定します。

注:

1. システム・ライブラリーQDOC, QDOCXXXX, QRCYXXXXX, QRECOVERY, QRPLOBJ, QRPLXXXXX, QSPL, QSPLXXXX, QSRV, QSYS, QSYSXXXXX,およびQTEMPをこのコマンドで保管することはできません。XXXXは基本ユーザーASP番号であり, XXXXXは独立ASP番号です。
2. このパラメーターに*ALLUSRまたは*IBMを指定した場合には, このコマンドは, 指定したライブラリーが使用中でない時に実行しなければなりません。ライブラリーの保管中にライブラリー中のオブジェクトが使用中であった場合には, SAVACTを使用しなければオブジェクトは保管されません。すべてのライブラリーの保管を確実に完了するためには, このコマンドを制限状態のシステムで実行してください。たとえば, サブシステムQSNADSが活動状態である時にSAVLIB LIB(*ALLUSR)が実行された場合には, ライブラリーQUSRSYS中のQAO*ファイルは保管されません。QAO*ファイルを保管するためには, SAVLIB LIB(*ALLUSR)の実行前にQSNADSサブシステムを終了してください。
3. SAVLIB LIB(*IBM)を実行してから, SAVLIB LIB(*ALLUSR)を実行すると, SAVLIB LIB(*NONSYS)の場合と同じライブラリーが保管されますが, 2つの復元コマンドが必要です。
4. ライブラリーは, 指定されたそれぞれの値ごとにASP装置名の英字順に保管されます。独立ASP上のライブラリーは, システムおよび基本ユーザーASP上のライブラリーより前に保管されます。値が*NONSYSおよび*ALLUSRの場合には, ライブラリーがASPDEVパラメーターによって指定されたASP上にあれば, ライブラリーQSYS2, QGPL, QUSRSYS,およびQSYS2XXXX (ここで, XXXXXは独立ASP番号です) が最初に保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*NONSYS

システム・ライブラリーを除くすべてのライブラリーが保管されます。このオプションを指定する場合には, サブシステム終了(ENDSBS)またはシステム終了(ENDSYS)コマンドですべてのサブシステムを終了していなければなりません。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが保管されます。次を除いて, 英字Qで開始されない名前のすべてのライブラリーが保管されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが, これらには一般的に, 頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって, こうしたライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」とみなされ, これもまた保管されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```


***IBM** 以下のものを除くIBM提供のすべてのライブラリーが保管されます。

QDOC	QRCYXXXX	QTEMP	QUSRRDARS
QDOCXXXX	QRECOVERY	QUSER38	QUSRSYS
QDSNX	QRPLOBJ	QUSRADSM	QUSRVI
QGGL	QRPLXXXX	QUSRBRM	QUSRVXRXMX
QGGL38	QSPL	QUSRDIRCL	
QMGTC	QSPLXXXX	QUSRDIRDB	
QMGTC2	QSRV	QUSRIJS	
QMPGDATA	QSRVAGT	QUSRINFSCR	
QMOMDATA	QSYS	QUSRNOTES	
QMOMPROC	QSYSXXXX	QUSROND	
QPFRDATA	QSYS2	QUSRPOSGS	
QRCL	QSYS2XXXX	QUSRPOSSA	
QRCLXXXX	QS36F	QUSRPYMSVR	

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

Qで始まらない名前をもつ次のライブラリーも保管されます。

#CGULIB	#DSULIB	#SEULIB
#COBLIB	#RPLIB	
#DFULIB	#SDALIB	

***USRSPC**

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーが保管されます。保管ファイルに保管する時には、ユーザー・スペースにライブラリーは1つしか指定することはできません。特殊値*SPLFはユーザー・スペースには指定できません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 保管するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管されるライブラリーの名前を指定してください。保管ファイルに保管する時には、ライブラリー名は1つしか保管できません。システム・ライブラリー名を指定することはできません。

トップ

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***SAVF**

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

保管操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

LIBパラメーターに*NONSYS, *ALLUSR,または*IBMが指定された場合には、ライブラリーのセットの保管操作は、指定された順序番号で開始されます。このセットに最初に保管されたファイルはQFILEファイルです。QFILEファイルには保管されたライブラリーのリストが入っています。

トップ

ラベル (LABEL)

保管操作に使用されるテープ・ボリューム上のデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このパラメーターが保管コマンドで使用された場合には、復元コマンドでも同じラベルを指定しなければなりません。

注: このパラメーターで*SAVLIBを指定することはできません。この値は復元コマンドのラベル (LABEL) パラメーターの特殊値であり、これを指定すると保管したものを復元できなくなるからです。

***LIB** ファイル・ラベルは、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定されたライブラリーの名前を使用して、システムが作成します。

文字値 保管操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは、単一ライブラリーの保管操作の場合にのみ有効です。

トップ

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注:

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

開始ライブラリー (STRLIB)

保管操作を開始するライブラリーを指定します。

保管操作中に回復不能媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して、操作を再開することができます。

保管操作再開の基本ステップは次の通りです。

1. ジョブ・ログを調べて、前の保管操作が正常に行われなかったライブラリーを判別してください。最後に保管されたライブラリーを見つけてください。これは、正常完了メッセージによって示されます。
2. 次のテープが初期設定されていることを確認して、そのテープを装てんしてください。
3. 以下をオリジナルの保管操作に追加します。

STRLIB(ライブラリー名) OMITLIB(ライブラリー名)

ここで、STRLIBおよびOMITLIBパラメーターのライブラリー名は正常に保管された最後のライブラリーです。これにより、保管操作は正常に保管された最後のライブラリーの後のライブラリーから始まります。

ライブラリーを復元するには、実行されたそれぞれの保管操作ごとに別個の復元操作を実行する必要があります。

***FIRST**

保管操作は、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定された最初のライブラリー値から始まります。最初の値が総称名または特殊値であった場合には、保管操作はこの値と一致する最初のライブラリーから始まります。

名前 保管操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。**消去 (CLEAR)**パラメーターで***ALL**が指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに***SAVF**が指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

媒体定義 (MEDDFN)

保管データを入れるのに使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)、ならびにISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説（英文）の媒体定義作成API (CREATE MEDIA DEFINITION API)を参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

***** システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

光ディスク・ファイル・パス名

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

[トップ](#)

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複製できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性ありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを復元して使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

保管操作を行うシステムとは異なるリリース・レベルのシステムに配布するオブジェクトを保管するように指定するためには、プログラム・オブジェクトの場合とプログラム以外のオブジェクトの場合とは手順が異なり、またプログラム・オブジェクトが作成されるリリース・レベルによっても手順は異なります。たとえば、前のリリースで実行中のシステムに配布するオブジェクトを保管する場合には、次の選択を行うことができます。

プログラム・オブジェクトの場合:

- ターゲットとなる以前のリリースより最近のリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行わなければなりません。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、再度プログラム・オブジェクトを作成する

2. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 3. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する
- ターゲット・システムと同じリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行うことができます。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 2. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する

プログラム以外のオブジェクトの場合:

次のことができます。

1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このオブジェクトを保管する
2. ターゲット・システムでこのオブジェクトを復元する

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

- *PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

注:

1. LIB(*NONSYS), LIB(*ALLUSR),またはLIB(*IBM)が指定された場合には、ターゲット・リリースにできるのは現行リリースだけです。
2. すべてのオブジェクトで別のリリースをターゲットにすることができるわけではありません。どのオブジェクトがサポートされているかを判別するには、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)の図を参照してください。

トップ

ヒストリー更新 (UPDHST)

各保管済みオブジェクトの保管ヒストリーを、この保管操作の日付、時刻、および位置で変更するかどうかを指定します。オブジェクトの保管ヒストリー情報は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示します。保管ヒストリー情報は、RCVRNG(*LASTSAVE)およびFROMENT(*LASTSAVE)またはFROMENTLRG(*LASTSAVE)がジャーナル処理項目適用(APYJRNCHG)コマンドで使用されると、処理するジャーナル項目はどれかを判別するために使用されます。

***YES** 保管された各オブジェクトで最終保管日、時刻、および位置が更新されます。

***NO** 保管された各オブジェクトの記述に入っている保管ヒストリー情報は更新されません。

注: UPDHST(*NO)は、回復を目的としない保管操作で使用する必要があります。たとえば、保管データをレコードごとに別のシステムに送信して、保管ファイルを即時に削除すると、保管ヒストリー情報が更新されない場合があります。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注：*AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

トップ

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

トップ

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態で保管されます。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。保管操作中のすべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーが同時にチェックポイントに達し、それらの相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

注: この値を指定して、多数のライブラリーを保管しようとする、保管操作ですべてのオブジェクトおよびライブラリーのチェックポイントに達するために長時間を要する可能性があります。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

トップ

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になければなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

*LOCKWAIT

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOCMTBDY

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることとなります。

注: この値は、V5R3M0より前の**ターゲット・リリース (TGTRLS)**パラメーター値である場合は指定できません。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説（英文）のコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

トップ

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに*SYNCLIBが指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならない、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注：この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

トップ

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

[トップ](#)

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

保管される出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。

*NONE

スプール・ファイル・データは保管されません。

***ALL** 保管される出力待ち行列ごとに、出力待ち行列で使用可能なスプール・ファイル・データがすべて保管されます。

[トップ](#)

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

*NONE

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

[トップ](#)

記憶域 (STG)

保管しようとしているライブラリー中の指定されたメンバー（保管ファイルを除く）、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占められているシステム記憶域が保管操作の一部として解放されるかどうかを指定します。これらのオブジェクトのデータ部分のみが解放され、オブジェクトの記述は解放されません。

*KEEP

保管しようとしているオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域は解放されません。

***FREE**

保管しようとしている指定されたオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域が保管操作の一部として解放されます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが占めている記憶域は、そのライブラリー中のすべてのオブジェクトが正常に保管された後でのみ解放されます。

注: 起こる可能性があるプログラムの異常終了を防止するためには、*FREEが指定された時に、保管しようとしているプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*MEDIUM

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*HIGH

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVが**データ圧縮 (DTACPR)**パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

*NO 装置データの短縮は実行されません。

トップ

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

*NONE

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

単一値

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるオブジェクトは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

*ALL 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、**ISERIES INFORMATION CENTER** ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

* 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名 QSRSAVでQSYS内のQASAVOBJを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

トップ

情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***ERR** リストには、コマンド、各ライブラリーの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目に関する情報が入ります。

***LIB** リストには、保管するように要求された各ライブラリーのライブラリー項目が入ります。

***MBR** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

トップ

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)

このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースを指定します。このユーザー・スペースには、パラメーターごとに32767までのリスト値が許可されていますが、コマンド・パラメーターには300までしかリスト値が許可されていません。ユーザー・スペースは、オブジェクト・リスト保管(QSRSAVO) APIによって使用されるフォーマットでパラメーターを定義しなければなりません。

修飾子1:ユーザー・スペース

名前 このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ユーザー・スペースを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されま

す。

名前 ユーザー・スペースが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

例

例1: テープ装置でのライブラリーの保管

```
SAVLIB LIB(JOE) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、JOEという名前のライブラリーをTAP01という名前のテープ装置にあるテープに保管します。STGパラメーターは省略時の値(*KEEP)とみなされているので、システム内のJOEが占めていた記憶域は解放されません。

例2: 複数のボリュームでの保管

```
SAVLIB LIB(QGPL) DEV(OPT01) VOL(ABC DEF GHI)
```

汎用ライブラリー(QGPL)がOPT01という名前の装置の光ディスク・ボリュームで保管されます。使用される光ディスク・ボリュームはABC, DEF, およびGHIというボリューム名でなければなりません。ボリュームABCが満杯になった時に保管操作が終了していない場合には、装置にボリュームDEFを入れることを操作員に要求するメッセージが出されます。

例3: データの保管時の記憶域の解放

```
SAVLIB LIB(CUSTDATA) DEV(TAP01)  
VOL(CUSTNM CUSTAD) STG(*FREE)
```

CUSTDATAという名前のライブラリーが、テープ装置TAP01に入れられたボリュームCUSTNMおよびCUSTADに保管されます。CUSTDATAライブラリー内の指定されたメンバー、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーが占めていた記憶域は、それらが保管された後に解放されます。

例4: 複数の装置での逐次保管

```
SAVLIB LIB(USRLIB) DEV(TAP01 TAP02 TAP03)  
VOL(USRA USRB USRC USRD) ENDOPT(*UNLOAD)
```

USRLIBという名前のライブラリーが3つのテープ装置の4つのテープ・ボリュームに保管されます。USRAという名前のボリュームはTAP01という名前の装置に、USRBという名前のボリュームはTAP02という名前の装置に、USRCという名前のボリュームはTAP03という名前の装置に、およびUSRDという名前のボリュームはTAP01という名前の装置に入れられます。処理が完了した場合には、TAP01という名前の装置をUSRDという名前のボリュームに使用できるように、USRAという名前のボリュームを操作員が巻き戻し、アンロードする必要があります。

例5: 複数の装置での並列保管

```
SAVLIB LIB(USRLIB) DEV(*MEDDFN) MEDDFN(LIBA/MEDDFNA)
```

USRLIBという名前のライブラリーが、ライブラリーLIBAのMEDDFNAという名前の媒体定義に指定された装置で保管されます。媒体定義の作成および使用については、INFORMATION CENTERの「バックアップ、回復、および可用性」トピックを参照してください。

例6:媒体ファイル・ラベルを使用したライブラリーの保管

```
SAVLIB LIB(LIB1) DEV(TAP01) LABEL(MONDAYBACKUP)
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ装置を使用して、LIB1という名前のライブラリーをテープに保管します。ライブラリーは、MONDAYBACKUPの媒体ファイル・ラベルとともに保管されます。このライブラリーまたはそのいずれかのオブジェクトを復元する場合には、このラベルを指定する必要があります。

例7:保管操作を開始する場所の指定

```
SAVLIB LIB(*NONSYS) DEV(TAP01 TAP02)  
STRLIB(MIKESLIB) ASPDEV(*SYSBAS)
```

このコマンドは、システムおよび基本ユーザーASPにあるすべてのライブラリーを、MIKESLIBという名前のライブラリーから順にTAP01およびTAP02という名前のテープ装置で保管します。システム・ライブラリーおよび通常は最初に保管されるライブラリー(QSYS2, QGPL,およびQUSRSYS)は保管されません。

例8:独立ASPグループへのユーザー・ライブラリーの保管

```
SAVLIB LIB(*ALLUSR) DEV(TAP01) ASPDEV(*CURASPGRP)
```

このコマンドは、現行スレッド用のASPグループにある独立ASPにすべてのユーザー・ライブラリーを保管します。これは、システムASP (ASP番号1)または基本ユーザーASP(ASP番号2から32)にはライブラリーを保管しません。

例9:スプール・ファイルの保管

```
SAVLIB LIB(MYLIB) DEV(TAP01) SPLFDTA(*ALL)
```

このコマンドは、MYLIBという名前のライブラリーを保管します。これにはライブラリー中の出力待ち行列のスプール・ファイル・データが含まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3701

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3703

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3708

&2の保管ファイル&1が小さすぎる。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3749

ライブラリー&2からオブジェクトが保管されませんでした。

CPF3751

保管されなかったライブラリーがある。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF377D

内部システム資源の読み取りエラーのために保管が終了した。

CPF377E

活動時保管要求に記憶域が不十分である。

CPF377F

保留中のレコード変更によって、活動時保管要求が実行できなかった。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3771

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3777

&1個のライブラリーは保管され、&6個のライブラリーは部分的に保管され、&2個のライブラリーは保管されませんでした。

CPF378A

メッセージ待ち行列が使用できない。

CPF378C

SAVACTMSGQ(*WRKSTN)はバッチ・ジョブでは正しくない。

CPF378E

ライブラリー&1は保管されていない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3785

終了していないサブシステムがある。

CPF3789

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF379E

ライブラリー&1の保管に使用可能な記憶域が不十分である。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3797

ライブラリー&3からオブジェクトが保管されませんでした。保管の限界を超えました。

CPF37AB

*NOCMTBDYはターゲット・リリースで使用できません。

CPF37AC

*NOCMTBDYの場合、ライブラリーは使用できません。

CPF37B1

SPLFDTAはターゲット・リリースでは使用できません。

CPF37B4

&2のユーザー・スペース&1が正しくありません。

CPF380B

この時点で保管を完了することができない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3815

&2の保管ファイル&1は保管操作には小さすぎる。

CPF3818

開始ライブラリー&1が見つからない。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3892

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A3

&2のファイル&1はASPDEVでは無効です。

CPF38A4

ASP装置&1は正しくありません。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

OPT1332

光ディスク・ボリュームが装置&1に見つからない。

STATUS メッセージ*CPF3770**

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3771

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

トップ

ライセンス・プログラムの保管 (SAVLICPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドは、ライセンス・プログラムを構成するすべてのオブジェクトのコピーを保管します。このコマンドは、ライセンス・プログラム復元(RSTLICPGM)コマンドで復元できる形式で、ライセンス・プログラムを保管します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限をもっているか、あるいは機密保護担当者から受ける特定権限をもっていなければなりません。
2. テープ装置に標準ラベル・テープ・ボリュームがなければなりません。
3. 一部のライセンス・プログラムは、ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されている場合にのみ保管することができます。この制約については、各ライセンス・プログラムの資料を参照してください。
4. このコマンドは、基本オペレーティング・システムのコードまたは言語オブジェクトを保管しません。
5. 指定できるのは、多くても、1台の光ディスク装置、1つの保管ファイル、1台の仮想テープ装置、または1台のテープ媒体ライブラリー装置です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
OPTION	保管される任意選択部分	*BASE, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09	オプション
RLS	リリース	文字値, *ONLY	オプション
LNG	ライセンス・プログラムの言語	文字値, *PRIMARY, *ALL	オプション
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *PGM, *LNG	オプション
CHKSIG	署名の検査	*SIGNED, *ALL, *NONE	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
EXPDATE	ファイル満了日	日付, <u>*PERM</u>	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
TGTRLS	ターゲット・リリース	<u>*CURRENT</u> , *PRV, V5R2M0, V5R3M0, V5R4M0	オプション
CLEAR	消去	<u>*NONE</u> , *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES	オプション
LICACPRQD	ライセンス受諾が必要である	<u>*NO</u> , *YES	オプション

トップ

プロダクト (LICPGM)

保管されるライセンス・プログラムの7文字のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置 (DEV)

ライセンス・プログラム保管操作に使用されるテープ装置または光ディスク装置の名前を指定します。各装置名は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。このシステムで使用可能な装置の名前を表示するためには、装置記述処理(WRKDEV)コマンドを使用してください。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

*SAVF

プロダクトは、保管ファイル(SAVF)パラメーターで指定した保管ファイルに保管されます。

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用する1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合は、それが指定される唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、それらは互換性のある媒体形式であり、それらの名前は、使用する順序に指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用することによって、あるテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理している間に、別のテープ・ボリュームを巻き戻して取り外すことができます。

トップ

保管される任意選択部分(OPTION)

プロダクトプロンプト(LICPGMパラメーター)に指定した保管するライセンス・プログラムの任意選択部分を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

ライセンス・プログラムの基本部分だけが保管されます。

ライセンス・プログラム・オプションの番号

保管したい、リストされたライセンス・プログラムの任意選択部分の番号を指定してください。

トップ

リリース (RLS)

保管されるライセンス・プログラムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

ライセンス・プログラム・オプションのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルが1つだけ導入されています。

リリース・レベル

VXRYMZの形式でリリース・レベルを指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

トップ

ライセンス・プログラムの言語 (LNG)

保管操作に使用された各国語バージョン(NLV)を指定します。

注: OBJTYPE(*PGM)が指定された時には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

*PRIMARY

1次言語が保管されます。1次言語は、オペレーティング・システムの言語です。

注: オプション20でGO LICPGMを使用して、オペレーティング・システムの1次言語を表示します。

*ALL すべての言語が保管されます。

機能コード

ライセンス・プログラムについて保管される言語のNLV IDを指定します。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保管するライセンス・プログラム・オブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** プログラムおよびLNGパラメーターに指定された言語オブジェクトが保管されます。

***PGM** ライセンス・プログラムのプログラム・オブジェクトだけが保管されます。

***LNG** LNGパラメーターで識別されたNLVと関連したオブジェクトが保管されます。

[トップ](#)

署名の検査 (CHKSIG)

ライセンス・プログラムと一緒に保管しようとしているオブジェクトのデジタル署名を検査するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SIGNED**

デジタル署名のあるオブジェクトが検査されます。デジタル署名でないオブジェクトの署名は検査されません。署名が無効である署名済みオブジェクトはジョブ・ログのメッセージで識別され、その保管は失敗します。

***ALL** デジタル署名が可能なすべてのオブジェクトが検査されます。署名可能であるが署名のないオブジェクトはジョブ・ログのメッセージで識別されます。無署名のオブジェクトの保管は打ち切られません。デジタル署名が無効である署名済みオブジェクトはジョブ・ログのメッセージで識別され、その保管は失敗します。

***NONE**

オブジェクトのデジタル署名は検査されません。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

ライセンス・プログラム・データが保管されるテープ・ボリュームのボリュームIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定されたボリュームIDと同じ順序で入っていなければなりません。最大75個まで項目を指定することができます。

考えられる値は次の通りです。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって取り付けられたカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

ボリュームID

装置にセットし、ライセンス・プログラムの保管に使用する順序で1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるテープの満了日を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

保管ファイル (SAVF)

プロダクトの保管先の既存の保管ファイルの修飾名を指定します。消去プロンプト(CLEARパラメーター)に*ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空でなければなりません。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

保管ファイル名

保管ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

プロダクトを復元して使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

*CURRENTおよび*PRV値の場合の例、およびターゲット・リリースの値を指定する時には、VXRXXMXの形式を使用してリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V4R1M0は、バージョン4,リリース1,モディフィケーション・レベル0です。

注: この値は、プロダクトを作成した時に指定した最小オペレーティング・システム・リリースによって限定されます。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

プロダクトは、現在システム上で実行されているオペレーティング・システムのリリースに復元され、そこで使用されます。プロダクトは、導入されているオペレーティング・システムの後継リリースが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** プロダクトは、オペレーティング・システムの前のリリース (モディフィケーション・レベル0)に復元されます。プロダクトは、導入されているオペレーティング・システムの後継リリースが導入されたシステムに復元することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。プロダクトは、指定されたリリースが導入されているシステム、または導入されているオペレーティング・システムの後継リリースが導入されたシステムに復元することができます。

有効な値は現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。有効なターゲット・リリースの値のリストを表示するには、F4を押してください。

[トップ](#)

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注：*AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- *DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。
- *NO** データ圧縮は実行されません。
- *YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合、あるいは保管データをディスクまたは保管ファイルに書き出している場合には、ソフトウェアの圧縮が実行されます。システムで他のジョブが活動している時に保管が実行中で、ソフトウェア圧縮が使用された場合には、システム全体のパフォーマンスが影響を受ける場合があります。

[トップ](#)

ライセンス受諾が必要である (LICACPRQD)

保管されたライセンス・プログラムの復元時にライセンス受諾を促すプロンプトをユーザーに出すかどうかを指定します。保管しようとしているライセンス・プログラムにオンライン・ソフトウェア契約が付いていない場合には、復元時にプロンプトは出されません。このパラメーターは、現在導入されているライセンス・プログラムのライセンス受諾状況には影響しません。

考えられる値は次の通りです。

- *NO** 保管されたライセンス・プログラムの復元時にライセンス受諾は必要ありません。
- *YES** 保管されたライセンス・プログラムの復元時にライセンス受諾が必要です。ただし、これは、保管しようとしているライセンス・プログラムにオンライン・ソフトウェア契約が付いている場合に限られます。

[トップ](#)

例

例1: テープの自動消去

```
SAVLICPGM LICPGM(5722WDS) DEV(TAP01) CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、WEBSHERE DEVELOPMENT STUDIOライセンス・プログラム(5722WDS)の*BASEオプションを保管します。これは、TAP01テープ装置中のテープに保管されます。未消去のテープが見つかったとき、そのたびにそのテープが自動的に消去され、保管操作は操作員の介入なしに続行されます。

例2: ラベル付きテープ・ボリュームへの保管

```
SAVLICPGM LICPGM(5722WDS) DEV(TAP01) VOL(ABCDE)
```


WEBSPHERE DEVELOPMENT STUDIOライセンス・プログラム(5722WDS)の*BASEオプションがTAP01テープ装置に保管されますが、その保管はABCDEというラベルのテープ・ボリュームから開始されます。保管操作が1つのテープの記憶容量を超えた場合には、TAP01テープ装置に別のボリュームを入れるように要求するメッセージが操作員に表示されます。

例3:マルチボリュームへの保管

```
SAVLICPGM LICPGM(5722SS1) OPTION(2) DEV(TAP01 TAP02)
```

I5/OSライセンス・プログラム(5722SS1)のオンライン・ヘルプ・オプションは、テープ装置TAP01およびTAP02に交互に保管されます。保管操作が2つのテープの記憶容量を超えた場合には、TAP01に別のボリュームを入れるように要求するメッセージが操作員に表示されます。保管操作の完了時にはテープが巻き戻されます。

例4:自動的に消去される保管ファイルへの保管

```
SAVLICPGM LICPGM(5722WDS) DEV(*SAVF)
          CLEAR(*ALL) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、WEBSPHERE DEVELOPMENT STUDIOライセンス・プログラム(5722WDS)の基本オプションを保管します。これは、ライブラリーMYLIB中の保管ファイルMYSAVFに保管されます。保管ファイルMYSAVFは自動的に消去され、保管操作は操作員の介入なしに続行されます。

例5:保管ファイルへのプログラム・オブジェクトの保管

```
SAVLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
          DEV(*SAVF) RLS(*ONLY)
          OBJTYPE(*PGM) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

1MYPRODプロダクトは、2つのライブラリーからなり、フォルダーを含みません。1MYPRODプロダクトのプログラム・オブジェクトだけがMYLIBライブラリー中の保管ファイルMYSAVFに保管されます。

例6:1つのライブラリー中のすべてのオブジェクトを保管ファイルに保管

```
SAVLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
          DEV(*SAVF) RLS(*ONLY)
          LNG(2924) OBJTYPE(*ALL) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

1MYPRODプロダクトは、ただ1つのライブラリーからなり、フォルダーを含みません。1MYPRODプロダクトのNLV 2924のプログラム・オブジェクトおよび言語オブジェクトがMYLIBライブラリー中の保管ファイルMYSAVFに保管されます。

例7:2つのライブラリー中のすべてのオブジェクトを保管ファイルに保管

```
SAVLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
          DEV(*SAVF) RLS(*ONLY)
          LNG(2924) OBJTYPE(*ALL) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

1MYPRODプロダクトは2つのライブラリーからなり、*PGMオブジェクトをもつ1つのルート・フォルダーをもち、そのルート・フォルダーの下に*LNGオブジェクトをもつ1つのサブフォルダーがあります。1MYPRODプロダクトのNLV 2924のプログラム・オブジェクトおよび言語オブジェクトがMYLIBライブラリー中の保管ファイルMYSAVFに保管されます。

例8:前のリリースの場合の保管

```
SAVLICPGM LICPGM(1MYPROD) DEV(TAP01) TGTRLS(*PRV)
```

1MYPRODプロダクトはTAP01に保管され、オペレーティング・システムの前のリリースが導入されているシステムに復元できます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF37A2

導入を実行できない。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3884

ライセンス・プログラム&1オプション&2は処理されなかった。

オブジェクト保管 (SAVOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト保管(SAVOBJ)コマンドは、1つのオブジェクトまたは同じライブラリーにある1グループのオブジェクトのコピーを保管します。オブジェクト (OBJ)パラメーターに*ALLを指定すると、ライブラリーのリストからオブジェクトを保管することができます。保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することができません。システムは、指定されたオブジェクトを、各オブジェクトのコピーをテープ、光ディスク媒体、または保管ファイルに書き込むことによって保管します。コマンドで記憶域の解放を指定しない限り、システム中のオブジェクトには影響がありません。しかし、各オブジェクトの記述は、ヒストリー更新 (UPDHST)パラメーターに*NOが指定されていない限り、それが最後に保管された日付、時刻、および場所を変更されます。

ジョブ待ち行列、ユーザー待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクト記述だけが保管され、オブジェクトの内容は保管されません。しかし、論理ファイルのアクセス・パスは、アクセス・パス保管 (ACCPH)パラメーターに*YESを指定することによって保管することができます。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)パラメーターに*ALLを指定することによって保管することができます。保管ファイルの内容は、保管ファイル・データ (SAVFDTA)パラメーターに*YESを指定するか、あるいは保管ファイル・データ保管(SAVSAVFDTA)コマンドを使用することによって保管することができます。データ待ち行列の内容は、待ち行列データ (QDTA)パラメーターに*DTAQを指定して保管することができます。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のオブジェクト権限が必要です。
 - 保管される各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限 (スプール・ファイル・データの場合、出力待ち行列に対する*OBJEXIST権限)
 - 保管元の各ライブラリー・オブジェクトに対する実行(*EXECUTE)権限
- *SAVSYS特殊権限がない場合には、ユーザーが権限を持っているオブジェクトのみが保管されます。
- テープまたは光ディスク装置に保管する場合には、その装置記述および装置ファイルに対する使用(*USE)権限が必要です。保管ファイルに保管する場合には、その保管ファイルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および追加(*ADD)権限と、保管ファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- このコマンドでは、ライブラリーのデータ・ディクショナリーまたは関連のデータベース・ファイルは保管されません。これらを保管するには、ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドを使用する必要があります。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルに保管する場合には、その出力ファイル・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- テープを使用する場合には、標準ラベル付きボリュームを装置に入れなければなりません。

- 活動状態保管を使用しない限り、保管中のオブジェクトは、保管操作が行われた時に実行中であったジョブによって変更することはできません。
- SAVFDTA(*YES)を指定して、保管ファイルの内容を同一保管ファイルに保管する場合には、保管ファイルの記述だけが保管されます。
- SAVFDTA(*YES)を指定することによって保管ファイルの内容を保管した場合には、そこに入っているオブジェクトを復元する前に、保管ファイルを復元しなければなりません。
- コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターを使用する場合には、そのユーザー・スペースに対する*USE権限およびユーザー・スペース・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	単一値: *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *SAVE, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 4
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 5
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *LIB	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R2M0, V5R3M0, V5R4M0	オプション
UPDHST	履歴更新	*YES, *NO	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *LIB, *SYNCLIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, 120, *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOMAX	

キーワード	記述	選択項目	注
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILEMBR	ファイル・メンバー	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	名前, *ALL	
	要素 2: メンバー	単一値: *ALL, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	
ACCPH	アクセス・パス保管	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	*YES, *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	*NONE, *ALL	オプション
QDTA	待ち行列データ	*NONE, *DTAQ	オプション
STG	記憶域	*KEEP, *FREE	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE, *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	単一値: *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	*OBJ, *LIB, *MBR, *ERR	オプション
CMDUSRSPC	コマンド・ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: コマンド・ユーザー・スペース	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

オブジェクト (OBJ)

保管する1つまたは複数のオブジェクトの名前または各オブジェクト・グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトが**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。オブジェクト・タイプ (**OBJTYPE**)パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*ALL OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の保管するオブジェクト・グループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 保管する特定のオブジェクトの1つ以上の名前を指定します。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

トップ

ライブラリー (LIB)

保管するオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。オブジェクト (**OBJ**)パラメーターに*ALLを指定した場合には、最大300のライブラリー名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーが保管されます。保管ファイルに保管する時には、ユーザー・スペースにライブラリーは1つしか指定することはできません。特殊値*SPLFはユーザー・スペースには指定できません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 保管するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

注: 保管ファイルに保管する時には、総称ライブラリー名を指定することはできません。

名前 保管するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

注: 保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することはできません。

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

保管操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

単一値

***ALL** 指定した名前で、指定したライブラリーに入っているすべてのオブジェクト・タイプが保管されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターにも*ALLが指定されている場合には、ライブラリーに入っているオブジェクトのうち、保管できるタイプのすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)など、保管するオブジェクトの各タイプの値を指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

***MOUNTED**

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ラベル (LABEL)

保管操作に使用されるテープ・ボリューム上のデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このパラメーターが保管コマンドで使用された場合には、復元コマンドでも同じラベルを指定しなければなりません。

注: このパラメーターで*SAVLIBを指定することはできません。この値は復元コマンドのラベル (LABEL) パラメーターの特殊値であり、これを指定すると保管したものを復元できなくなるからです。

***LIB** ファイル・ラベルは、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定されたライブラリーの名前を使用して、システムが作成します。

文字値 保管操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは、単一ライブラリーの保管操作の場合にのみ有効です。

トップ

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注：

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、**CLEAR(*ALL)**が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注：このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前が**DEV**パラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、***UNLOAD**がサポートされるただ1つの特殊値であり、***REWIND**および***LEAVE**は無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。**消去 (CLEAR)**パラメーターで***ALL**が指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

媒体定義 (MEDDFN)

保管データを入れるのに使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)、ならびにISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) の媒体定義作成API (CREATE MEDIA DEFINITION API)を参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

’光ディスクのパス名/*’

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

’光ディスク・ファイル・パス名’

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

トップ

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複製できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを復元して使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXR_XMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

保管操作を行うシステムとは異なるリリース・レベルのシステムに配布するオブジェクトを保管するように指定するためには、プログラム・オブジェクトの場合とプログラム以外のオブジェクトの場合とでは手順が異なり、またプログラム・オブジェクトが作成されるリリース・レベルによっても手順は異なります。たとえば、前のリリースで実行中のシステムに配布するオブジェクトを保管する場合には、次の選択を行うことができます。

プログラム・オブジェクトの場合:

- ターゲットとなる以前のリリースより最近のリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行わなければなりません。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、再度プログラム・オブジェクトを作成する
 2. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 3. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する
- ターゲット・システムと同じリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行うことができます。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 2. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する

プログラム以外のオブジェクトの場合:

次のことができます。

1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このオブジェクトを保管する
2. ターゲット・システムでこのオブジェクトを復元する

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

- *PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

ヒストリー更新 (UPDHST)

各保管済みオブジェクトの保管ヒストリーを、この保管操作の日付、時刻、および位置で変更するかどうかを指定します。オブジェクトの保管ヒストリー情報は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示します。保管ヒストリー情報は、RCVRNG(*LASTSAVE)およびFROMENT(*LASTSAVE)またはFROMENTLRG(*LASTSAVE)がジャーナル処理項目適用(APYJRNCHG)コマンドで使用されると、処理するジャーナル項目はどれかを判別するために使用されます。

- *YES** 保管された各オブジェクトで最終保管日、時刻、および位置が更新されます。

- *NO** 保管された各オブジェクトの記述に入っている保管ヒストリー情報は更新されません。

注: UPDHST(*NO)は、回復を目的としない保管操作で使用する必要があります。たとえば、保管データをレコードごとに別のシステムに送信して、保管ファイルを即時に削除すると、保管ヒストリー情報が更新されない場合があります。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注：*AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

トップ

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

トップ

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態で保管されます。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。保管操作中のすべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーが同時にチェックポイントに達し、それらの相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

注: この値を指定して、多数のライブラリーを保管しようとする、保管操作ですべてのオブジェクトおよびライブラリーのチェックポイントに達するために長時間を要する可能性があります。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

トップ

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になればなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

*LOCKWAIT

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOCMTBDY

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることとなります。

注: この値は、V5R3M0より前の**ターゲット・リリース (TGTRLS)**パラメーター値である場合は指定できません。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説（英文）のコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

0が指定され、1つの名前だけが**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定され、***FILE**が**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定された唯一の値である場合には、システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。

トップ

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターに***SYSDFN**または***LIB**値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに***SYNCLIB**が指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ファイル・メンバー (FILEMBR)

保管されるデータベース・ファイル・メンバーを指定します。このパラメーターは、ファイル名およびメンバー名の2つの部分からなります。

ここで指定した各データベース・ファイルは、完全な名前、総称名、または*ALLのいずれかによってオブジェクト (OBJ)パラメーターにも指定しなければなりません。オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーター値は、*ALLであるか*FILEを含んでいるかのいずれかでなければなりません。

注: STG(*FREE)が指定されている時には、このパラメーターを指定することはできません。

要素1: ファイル

***ALL** この値に続くメンバー名の値のリストは、OBJパラメーターに指定されたすべてのファイルに適用されます。

名前 保管するためにリストしたメンバーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。各ファイルのメンバー・リストを使用して、最大50のファイルを指定することができます。

注: 総称名は、データベース・ファイル名には無効ですが、メンバー名には使用することができます。

注: 重複ファイル名は使用することができません。

要素2: メンバー

単一値

***ALL** すべてのメンバーが、指定されたファイルから保管されます。

*NONE

メンバーは、指定されたファイルから保管されません。ファイル記述だけが保管されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

総称名 指定したファイルから保管するメンバーの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なメンバー名であるとみなします。

注: 総称メンバー名を指定した場合には、ファイルに保管するファイルの総称名と一致するメンバー名が含まれていなければなりません。たとえば、総称メンバー名としてPAY*を指定し、システムがPAYで始まるメンバーを検出することができない場合には、ファイルは保管されません。指定した総称名をもつメンバーが検出できないために、FILEMBRパラメーターによって指定されたファ

イルが保管されない場合には、診断メッセージが送られ、保管操作を終了し、保管されなかったファイル数を指定したエスケープ・メッセージが送られます。FILEMBRパラメーターに応じて処理されるファイルのうちの少なくとも1つに、指定された総称名をもつメンバーが含まれている場合には、診断メッセージは送られず、保管されなかったファイル数は最終完了メッセージに入ります。

名前 指定のファイルから保管されるメンバーの名前を指定してください。

注: 特定のメンバー名を指定した場合には、指定したメンバーが、保管または復元するファイルの任意の部分に応じてファイル中に存在していなければなりません。

トップ

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

重要: 基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならず、同時に保管しなければなりません。

***SYSVAL**

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注: この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

トップ

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

[トップ](#)

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

保管される出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。

***NONE**

スプール・ファイル・データは保管されません。

***ALL** 保管される出力待ち行列ごとに、出力待ち行列で使用可能なスプール・ファイル・データがすべて保管されます。

[トップ](#)

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

[トップ](#)

記憶域 (STG)

保管しようとしているライブラリー中の指定されたメンバー（保管ファイルを除く）、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占められているシステム記憶域が保管操作の一部として解放されるかどうかを指定します。これらのオブジェクトのデータ部分のみが解放され、オブジェクトの記述は解放されません。

***KEEP**

保管しようとしているオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域は解放されません。

***FREE**

保管しようとしている指定されたオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域が保管操作の一部として解放されます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが占めている記憶域は、そのライブラリー中のすべてのオブジェクトが正常に保管された後でのみ解放されます。

注: 起こる可能性があるプログラムの異常終了を防止するためには、*FREEが指定された時に、保管しようとしているプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*MEDIUM

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*HIGH

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVがデータ圧縮 (DTACPR)パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

トップ

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

***USRSPC**

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば、ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

単一値

***USRSPC**

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるオブジェクトは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

* 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

***CURASGRP**

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

***NONE**

出力リストは作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名QSRSAVでQSYS内のQASAVOBJを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

[トップ](#)

情報のタイプ (INFATYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***ERR** リストには、コマンド、各ライブラリーの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目に関する情報が入ります。

***LIB** リストには、保管するように要求された各ライブラリーのライブラリー項目が入ります。

***MBR** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

[トップ](#)

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)

このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースを指定します。このユーザー・スペースには、パラメーターごとに32767までのリスト値が許可されていますが、コマンド・パラメーターには300までしかリスト値が許可されていません。ユーザー・スペースは、オブジェクト・リスト保管(QSRSAVO) APIによって使用されるフォーマットでパラメーターを定義しなければなりません。

修飾子1:ユーザー・スペース

名前 このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ユーザー・スペースを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ユーザー・スペースが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

例

例1: 同じ名前をもつプログラムおよびファイルの保管

```
SAVOBJ OBJ(PETE) LIB(LIBX) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、LIBXライブラリーにあるPETEという名前のオブジェクトを保管します。たとえば、LIBXにPETEという名前のプログラムとファイルの両方が含まれていた場合には、両方のオブジェクトが保管されます。STGパラメーターは省略時の値(*KEEP)とみなされていて、そのオブジェクトが占めていた記憶域は解放されません。

例2: システム記憶域の解放

```
SAVOBJ OBJ(MSTRPAY PAY*) LIB(QGPL) DEV(TAP01) STG(*FREE)
```

汎用ライブラリー(QGPL)にあるMSTRPAYという名前のオブジェクト、および名前が文字PAYで始まるすべてのオブジェクトが保管されます。保管操作の一部として、保管されたメンバー、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバー・オブジェクトのデータ部分が占めていたシステム記憶域が解放されます。

例3: 光ディスクでのファイルの保管

```
SAVOBJ OBJ(FILEA) OBJTYPE(*FILE) LIB(LIBY) DEV(OPT01)  
VOL(TOM) CLEAR(*REPLACE)
```

LIBYライブラリーのFILEAという名前のファイルが、ボリュームID TOMによって識別される光ディスク・ボリューム上でライブラリー名LIBYをもつファイルに保管されます。LIBYファイルがすでに光ディスク・ボリュームに存在していた場合には、FILEAが保管された後に自動的に置き換えられます。

例4: 前のリリースでサポートされるオブジェクトの保管

```
SAVOBJ OBJ(PAY*) LIB(LIB1) DEV(TAP01) TGTRLS(*PRV)
```

このコマンドは、文字PAYで始まるオブジェクトを、前のオペレーティング・システムのリリースと互換性のある形式でLIB1ライブラリーから保管します。前のリリースでサポートされていたオブジェクトだけが保管されます。

例5: ファイルの記述およびデータの保管

SAVOBJ OBJ(SAVEFILE) LIB(MYLIB) OBJTYPE(*FILE) DEV(TAP01)
SAVFDTA(*YES)

このコマンドは、MYLIBという名前のライブラリーにあるSAVEFILEという名前のファイルを保管します。
この保管ファイルについては、記述とデータの両方が保管されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3701

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3702

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&9が組み込まれていません。

CPF3703

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3708

&2の保管ファイル&1が小さすぎる。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3747

複数のライブラリーでオブジェクト名を指定することはできない。

CPF3749

ライブラリー&2からオブジェクトが保管されませんでした。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF377D

内部システム資源の読み取りエラーのために保管が終了した。

CPF377E

活動時保管要求に記憶域が不十分である。

CPF377F

保留中のレコード変更によって、活動時保管要求が実行できなかった。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3771

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3774

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&8が組み込まれていません。

CPF3778

すべてのオブジェクトが保管されなかったライブラリーがある。

CPF378A

メッセージ待ち行列が使用できない。

CPF378C

SAVACTMSGQ(*WRKSTN)はバッチ・ジョブでは正しくない。

CPF378E

ライブラリー&1は保管されていない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3789

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF379E

ライブラリー&1の保管に使用可能な記憶域が不十分である。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3797

ライブラリー&3からオブジェクトが保管されませんでした。保管の限界を超えました。

CPF37AB

*NOCMTBDYはターゲット・リリースで使用できません。

CPF37AC

*NOCMTBDYの場合、ライブラリーは使用できません。

CPF37B1

SPLFDTAはターゲット・リリースでは使用できません。

CPF37B4

&2のユーザー・スペース&1が正しくありません。

CPF380B

この時点で保管を完了することができない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3815

&2の保管ファイル&1は保管操作には小さすぎる。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF3867

FILEMBRパラメーターの内容が正しくない。

CPF3868

FILEMBRを指定しているが、OBJTYPEは*ALLまたは*FILEでなければならない。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3892

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A3

&2のファイル&1はASPDEVでは無効です。

CPF38A4

ASP装置&1は正しくありません。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

OPT1332

光ディスク・ボリュームが装置&1に見つからない。

STATUS メッセージ*CPF3770**

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3771

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

トップ

保管復元 (SAVRST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IFS保管/復元(SAVRST)コマンドは、統合ファイル・システム(IFS)で使用することができる1つまたは複数のオブジェクトのコピーを保管および復元します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

SAVRSTコマンドは、ライブラリー中のオブジェクトおよび文書ライブラリー・オブジェクトの現在の保管および復元サポートを使用します。結果として、こうしたオブジェクトに対してSAVRSTコマンドを使用する時には、制約があります。

制約事項:

1. ルート・ディレクトリー中の名前パターンの場合：
 - a. OBJは次の1つでなければなりません。
 - OBJ(('/*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT))
 - OBJ(('/*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT) ('他の値' *OMIT))
2. ライブラリー中のオブジェクトを含む名前の場合：
 - a. OBJは、/*から/QSYS.LIBを省略する時以外はただ1つの名前ではなければなりません。
 - b. OBJは次の1つでなければなりません。
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/*')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/*.タイプ')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/オブジェクト名.タイプ')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/ファイル名.FILE/*')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/ファイル名. FILE/* .MBR')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/ファイル名. FILE/メンバー名.MBR')
 - OBJ('/QSYS.LIB/*.タイプ')
 - OBJ('/QSYS.LIB/オブジェクト名.タイプ')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ファイル名.FILE/*')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ファイル名.FILE/* .MBR')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ファイル名. FILE/メンバー名.MBR')
 - c. .TYPEは、SAVOBJおよびRSTOBJによってサポートされているオブジェクト・タイプでなければなりません。
 - d. LIBNAME.LIBが名前の最後の構成要素である場合には、LIBNAMEをQSYS, QDOC, QDOCXXXX, QTEMP, QSPL, QSPLXXXX, QSRV, QRECOVERY, QRPLOBJ,またはQSRにすることはできません。

- e. SUBTREEは*ALLでなければなりません。
 - f. SAVRSTの場合：
 - CHGPERIOD終了日および終了時刻は*ALLでなければなりません。
 - ファイル・メンバーを指定した場合には、CHGPERIODは省略時の値でなければなりません。
 - オブジェクトの名前を変更することはできません。
 - データベース・ファイル・メンバーの場合には、OPTION(*NEW)は新しいファイルのメンバーのみを復元します。
3. 文書ライブラリー・オブジェクトを含む名前の場合：
- a. /*から/QDLSを省略する時を除いて、OBJはただ1つの名前ではなければなりません。
 - b. OBJおよびSUBTREEは、次の1つでなければなりません。
 - OBJ('/QDLS/パス/フォルダー名') SUBTREE(*ALL)
 - OBJ('/QDLS/パス/文書名') SUBTREE(*OBJ)
 - c. SAVRSTの場合：
 - PRECHKおよびSAVACTMSGQパラメーターには省略時の値を取らなければなりません。
 - OBJ('/QDLS/パス/文書名') SUBTREE(*OBJ)の場合には、CHGPERIODは省略時の値でなければなりません。
 - CHGPERIOD開始日は*LASTSAVEすることはできません。
 - CHGPERIOD終了日および終了時刻は*ALLでなければなりません。
 - SAVACTは*SYNCとすることはできません。
 - SAVACTMSGQは*NONEでなければなりません。
 - ALWOBJDIFは*NONEまたは*ALLでなければなりません。
 - OPTIONは*ALLでなければなりません。
4. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 1
OBJ	オブジェクト	値 (最大 50 回の繰り返し); 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
PATTERN	名前パターン	値 (最大 50 回の繰り返し); 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *DIR, *OBJ, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CHGPERIOD	最終変更の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付, <u>*ALL</u>	
	要素 2: 開始時刻	時刻, <u>*ALL</u>	
	要素 3: 終了日付	日付, <u>*ALL</u>	
	要素 4: 終了時刻	時刻, <u>*ALL</u>	
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, <u>*CURRENT</u> , *PRV	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	<u>*NO</u> , *YES, *SYNC	オプション
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	バス名, <u>*NONE</u> , *WRKSTN	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, <u>*ALLAVL</u> , *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *OWNER, *AUTL, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	
SCAN	オブジェクト・スキャン	要素リスト	オプション
	要素 1: 保管中のスキャン	<u>*NO</u> , *YES	
	要素 2: 保管に失敗したオブジェクト	<u>*NOSAVFAILED</u> , *SAVFAILED	
CRTPRNDIR	親ディレクトリーの作成	<u>*NO</u> , *YES	オプション
PRNDIROWN	親ディレクトリーの所有者	単純名, <u>*PARENT</u>	オプション

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されません。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

トップ

オブジェクト (OBJ)

保管するオブジェクトを指定します。使用するパス名のオブジェクト名パターンを指定することができます。多くのオブジェクトと一致する可能性があるパス名が指定された場合には、**名前パターン (PATTERN)** パラメーターに値を指定して、保管するオブジェクトをサブセット化することができます。

最大300個のパス名を指定することができます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

オブジェクト名パターンの詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素1: 名前

''** 現行ディレクトリーのオブジェクトが保管されます。

パス名 多くの名前と突き合わせることができるオブジェクトのパス名またはパターンを指定してください。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって指定変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトが保管されます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトは保管されません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

注: オブジェクトは、同じ名前ですべて復元されます。

トップ

名前パターン (PATTERN)

保管するオブジェクトをサブセット化するために使用する1つ以上のオブジェクト名パターンを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターは、候補オブジェクトのセットを定義します。このパラメーターに指定できるのは最大50個の値です。

要素1: パターン

***** 操作について限定する全オブジェクトが組み込まれるか除外されます。

文字値 多くの名前と突き合わせることができるオブジェクト名またはパターンを指定します。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって指定変更されない限り、保管に組み込まれるのは、OBJパラメーターによって組み込まれ、かつPATTERNパラメーターと一致するオブジェクトだけです。

***OMIT**

PATTERNパラメーターと一致するオブジェクトを除き、OBJパラメーターによって組み込まれたすべてのオブジェクトが保管に組み込まれます。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることになります。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを保管操作に含めるかどうかを指定します。

***ALL** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーのサブツリー全体が含まれます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

***DIR** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーの第1レベルにあるオブジェクトが含まれます。一致した各ディレクトリーのサブディレクトリーは含まれますが、そのサブディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***NONE**

サブツリーは保管操作に含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致した場合には、そのディレクトリーのオブジェクトが含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがあった場合には、サブディレクトリーもそのサブディレクトリー内のオブジェクトも含まれません。

***OBJ** オブジェクト名パターンと正確に一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名パターンがディレクトリーを指定している場合には、ディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***STG** オブジェクト名パターンに一致するオブジェクトが関連オブジェクトの記憶域とともに処理されます。この値を使用してオブジェクトを復元できるのは、そのオブジェクトがSUBTREE(*STG)を使用して保管された場合だけです。

トップ

最終変更の期間 (CHGPERIOD)

日付/時刻の範囲を指定します。その範囲内に最後に変更されたオブジェクトが保管されます。

要素1: 開始日付

***ALL** 開始日は指定されません。終了日前に最後に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

*LASTSAVE

最後にUPDHST(*YES)を指定して保管した後で変更されたオブジェクトが保管されます。注:

1. この値を指定した場合には、このパラメーターの他のすべての要素に値*ALLを指定しなければなりません。
2. ローカル・ファイル・システムの場合には、システムの保存属性が使用されます。リモート・ファイル・システムの場合には、PCの保存属性が使用されます。

日付 変更されたオブジェクトがそれより後に保管される日付を指定します。この日付はジョブ日付形式で入力しなければなりません。

要素2: 開始時刻

***ALL** すべての時刻が範囲内に含まれます。

時刻 変更されたオブジェクトがそれより後に保管される開始日の時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

注: 明示時刻の指定が有効なのは、開始日が明示日付である場合だけです。

要素3: 終了日付

***ALL** 終了日は指定されません。開始日以降に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

日付 変更されたオブジェクトがそれより前に保管される日付を指定します。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

要素4: 終了時刻

***ALL** すべての時刻が範囲内に含まれます。

時刻 変更されたオブジェクトがそれより前に保管される終了日の時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

注: 明示時刻の指定が有効なのは、終了日が明示日付である場合だけです。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

選択したオブジェクトが保管できなかった場合に保管操作を終了するかどうかを指定します。

***NO** 保管操作は終了しません。保管できるオブジェクトは保管されます。

***YES** 保管操作が終了します。選択したすべてのオブジェクトを保管できる場合以外は、なにも保管されません。

トップ

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: システムが制限状態にある場合には、このパラメーターは無視され、保管操作はSAVACT(*NO)が指定されたものとして実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***YES** オブジェクトを同時に保管および使用することができます。オブジェクトのチェックポイントは異なる時点で起こすことができます。

***SYNC**

オブジェクトを同時に保管および使用することができます。すべてのオブジェクトのチェックポイントは同時に起こります。

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

保管操作により、チェックポイント処理が完了したことをユーザーに通知するために使用されるメッセージ待ち行列を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

*NONE

通知メッセージは送信されません。

*WRKSTN

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

パス名 使用するメッセージ待ち行列のパス名を指定します。

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

*DFT 操作では、保管されるオブジェクトが入っているファイル・システムに適切なASPDEV値が使用されます。統合ファイル・システム・オブジェクトの場合、*ALLAVLが使用されます。QSYSファイル・システムのオブジェクトの場合、対応する保管コマンドのASPDEVの省略時値が使用されます。

*ALLAVL

操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),および使用可能なすべての独立ASPが組み込まれます。

* 操作にはシステムASP,すべての基本ユーザーASP,さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASPGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

オプション (OPTION)

システム上にすでに存在しているオブジェクトまたはシステム上にすでに存在していないオブジェクトを復元するかどうかを指定します。

***ALL** システム上にすでに存在しているかどうかに関係なく、指定されたすべてのオブジェクトが復元されます。

***NEW** システム上にすでに存在していない場合にのみ、オブジェクトが復元されます。

***OLD** システム上にすでに存在している場合にのみ、オブジェクトが復元されます。

トップ

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大3個指定可能）

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブ

ジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が*EXCLUDEに設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

トップ

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時にオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために必要な形式に変換するかどうかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE、*PGM、*SRVPGM、および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていなければなりません。
3. オブジェクトは（オペレーティング・システムの前のバージョン用に形式設定されているので）変換する必要がありますが、この復元操作中に変換されない場合には、そのオブジェクトは初めて使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

***SYSVAL**

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注：FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0"、"1"、または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を

指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。

2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトが変換されるのは、現行オペレーティング・システムによって使用するために変換が必要な場合だけです。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** すでに現行形式になっているオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

トップ

オブジェクト・スキャン (SCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、保管中にオブジェクトをスキャンするかどうか、および前にスキャンに失敗したオブジェクトを保管する必要があるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムのスキャン関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システムスキャン
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システムスキャン

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説（英文）を参照してください。

要素1: 保管中のスキャン

***NO** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

***YES** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムで記述された規則に従ってスキャンされます。

要素2: 保管に失敗したオブジェクト

***NOSAVFAILED**

前にスキャンに失敗したかあるいはこの保管中にQIBM_QPOL_SCAN_OPEN出口プログラムによるスキャンに失敗したオブジェクトは、保管されません。

***SAVFAILED**

前にスキャンに失敗したかあるいはこの保管中にスキャンに失敗したオブジェクトは、保管されません。

トップ

親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)

復元されるオブジェクトの親ディレクトリーが存在しない場合に、これを作成するかどうかを指定します。たとえば、オブジェクト'/A/B/C/FILE1'を復元しようとする場合には、ディレクトリー'/A', '/A/B',および'/A/B/C'が存在しなければなりません。このパラメーターは、「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用され、他のすべてのファイル・システムは無視されます。

***NO** 親ディレクトリーがまだ存在しない場合には、それは作成されません。診断メッセージCPD375Bが送信され、オブジェクトは復元されません。

***YES** 親ディレクトリーが存在しない場合には、復元でこれが作成されます。復元によって作成されたディレクトリーには*EXCLUDE共通認可があり、**親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)**パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルによって所有されます。その他の親ディレクトリー属性は、**ディレクトリーの作成 (CRTDIR)**コマンド・パラメーターの出荷時の省力時の値を使用して設定されます。

トップ

親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)

復元によって作成される親ディレクトリーを所有することになる既存のユーザー・プロファイルの名前を指定します。このパラメーターは、「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用され、他のすべてのファイル・システムは無視されます。

注: このパラメーターに値が指定されている場合には、**親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)**パラメーターに*YESを指定しなければなりません。

***PARENT**

復元によって作成される親ディレクトリーの所有者は、これが作成されるディレクトリーの所有者と同じとなります。たとえば、オブジェクト'/A/B/C/FILE1'が復元され、ディレクトリー'/A'が存在するのに、'/B'および'/B/C'ディレクトリーが存在しない場合には、'/B'および'/B/C'ディレクトリーが'/A'ディレクトリーと同じ所有者で作成されます。

名前 復元によって作成される親ディレクトリーの所有者となるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

例

例1:メンバー・オブジェクトの保管および復元

```
SAVRST RMTLOCNAME(SYSTEM1)
        OBJ(('QSYS.LIB/JTEMP.LIB/ZXC.FILE/QYYCPDGT.MBR'))
```

このコマンドは、QYYCPDGTメンバーをライブラリーJTEMP内のファイルZXCから保管し、オブジェクトをISERIESシステム上のリモート・ロケーションSYSTEM1に復元します。

例2:ディレクトリーの保管および復元

```
SAVRST RMTLOCNAME(SYSTEM2) OBJ(('MYDIR')) SAVACT(*YES)
        SAVACTMSGQ('QSYS.LIB/SVRTEST.LIB/ZXC.MSGQ')
```

このコマンドは、アクティブになっている間にMYDIRディレクトリーを保管し、ライブラリーSVRTEST内のZXCメッセージ待ち行列を使用してメッセージを保管します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD80

&1個のオブジェクトが保管され、復元された。

CPFAD8D

&1操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

トップ

構成の保管復元 (SAVRSTCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成保管/復元(SAVRSTCFG)コマンドは、専用システムを必要とせずに構成情報を保管および復元します。保管および復元される情報には次のものがあります。

- 構成リスト(*CFGL)
- 接続リスト(*CNL)
- サービス・クラス記述(*COSD)
- インターネット・パケット交換記述(*IPXD)
- モード記述(*MODD)
- NETBIOS記述(*NTBD)

所有者のプロファイルがシステムに知られていない時には、システムの省略時の所有者(QDFTOWN)のユーザー・プロファイルがシステムに復元されるオブジェクトの省略時の所有者となります。

復元システムにオブジェクトがすでに存在している場合には、既存のオブジェクトの共通および専用認可が保持されます。ライブラリーにオブジェクトが存在していない場合には、すべての共通認可は復元されますが、専用認可は再度認可しなければなりません。

制約事項:

1. オブジェクトがすでにシステムに存在している場合には、このコマンドを使用するために、ユーザーは指定された各オブジェクトの*SAVSYS権限またはオブジェクト存在権限を必要とします（あるいは所有者でなければなりません）。
2. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
3. ユーザーは、*ALLOBJ権限またはコマンドに対する権限を必要とします。
4. SAVRSTCFGコマンドの実行中に行なわれた構成変更は、その変更が送信操作との関連で行なわれた時点によっては、復元システムで反映されない場合があります。操作で構成オブジェクトに対するロックを獲得できない場合には、診断メッセージが出され、オブジェクトは保管も復元もされません。オブジェクトに対する変更または削除操作が省略時の待機タイマーが切れるまでに完了しない時には、操作で構成オブジェクトに対するロックを獲得することはできません。
5. システム資源管理プログラム・オブジェクトが使用中の場合には、メッセージが出され、オブジェクトは保管も復元もされません。このことが起こる原因となるコマンドには、ハードウェア・プロダクト処理(WRKHDWPRD)コマンドおよびハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドがあります。表示コマンドの場合には、システム資源管理プログラム・データベースはロックされません。他に知られている機能はすべて読み取り専用操作を行ないます。
6. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL, *SRM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *CFGL, *CNL, *COSD, *MODD, *NTBD	オプション
SRM	システム資源管理	*NONE, *TRA	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

復元するオブジェクトを指定します。復元する各オブジェクトの名前、またはオブジェクトの各グループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。アスタリスク(*)が名前と一緒に指定されていない場合には、システムは、その名前がオブジェクト名全体であるとみなします。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターが*ALLの値を持っている場合には、OBJTYPEパラメーターの記述にリストされたオブジェクト・タイプが、指定された名前を持っていれればすべて復元されます。

システム資源管理(SRM)オブジェクトは、個別に、または総称名を指定して復元することはできません。SRMオブジェクトだけを復元するには、このパラメーターに*SRMを指定し、システム資源管理 (SRM)パラメーターに値を指定してください。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、すべての装置構成オブジェクトが復元されます。

***SRM** 装置構成オブジェクトは復元されませんが、システム資源管理(SRM)オブジェクトはSRMパラメーターの値に基づいて復元されます。

注意復元しようとしているシステムのハードウェア構成が、オリジナルの構成が保管されたシステムと正確に同じでない場合には、SRM情報が復元されないように、RSTCFGにSRM(*NONE)を指定する必要があります。SRM情報が復元された場合には、構成オブジェクトは使用できなくなる可能性があります。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の復元するオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 復元する特定のオブジェクトの1つまたは複数の名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。最大300のオブジェクト名を指定することができます。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されません。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保管および復元されるI5/OSシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

***ALL** 名前によって指定されたすべての構成オブジェクト・タイプが保管および復元されます。OBJ(*ALL)を指定した場合には、すべての構成オブジェクトが保管および復元されます。次のタイプを指定することができます。

*CFGL

すべての構成リスト・オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

*CNL

すべての接続リスト・オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

*COSD

すべてのサービス・クラス記述オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

***IPXD** すべてのインターネットワーク・パケット交換オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

*MODD

すべてのモード記述オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

*NTBD

すべてのNETBIOS記述オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

トップ

システム資源管理 (SRM)

保管および復元されるシステム資源管理(SRM)情報のタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、OBJパラメーターに*ALLまたは*SRMを指定した場合だけです。

*NONE

SRM情報は復元されません。

*TRA すべてのトークンリング・アダプター情報が復元されます。

[トップ](#)

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次の条件を満たすオブジェクトがあった場合に構成保管操作を終了するかどうかを指定します。

- そのオブジェクトに損傷があることが前に見つかった。
- オブジェクトが他のジョブによってロックされている。
- ユーザーがオブジェクト保管の権限を持っていない。

***NO** 保管操作は続行され、保管できる構成およびシステム資源管理(SRM)保管オブジェクトだけが保管されます。

***YES** 構成オブジェクトまたはシステム資源管理プログラム・オブジェクトを保管できない場合に、データが媒体に書き出される前に保管操作が終了します。

[トップ](#)

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大3個指定可能）

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は***EXCLUDE**に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が***EXCLUDE**に設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

トップ

例

例1:総称オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTCFG  OBJ(ABCD*)  RMTLOCNAME(SYSTEM1)  OBJTYPE(*CFGL)
            ALWOBJDIF(*NONE)
```

このコマンドは、名前がABCDで始まっていて、オブジェクト・タイプが構成リスト(*CFGL)である全オブジェクトを保管および復元します。復元されるのは、SYSTEM1上で違いがないオブジェクトだけです。

例2:全オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTCFG  OBJ(*ALL)  RMTLOCNAME(SYSTEM1)
```

このコマンドは、タイプがOBJTYPEパラメーターにリストされた5個のオブジェクト・タイプと一致する全構成オブジェクトを保管および復元します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD80

&1個のオブジェクトが保管され、復元された。

CPFAD8D

&1操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー、機能コード&1、戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー、機能コード&1、戻りコード&2。

[トップ](#)

変更オブジェクトの保管復元 (SAVRSTCHG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更オブジェクト保管/復元(SAVRSTCHG)コマンドは、変更された各オブジェクトまたは同じライブラリーにある1グループのオブジェクトのコピーを別のシステムに保管し、また同時に復元します。データベース・ファイルの場合には、変更されたメンバーだけが保管および復元されます。指定した日付と時刻以降に変更されたオブジェクトまたはメンバーが保管および復元されます。

指定した日付と時刻以降に変更されたオブジェクトが保管および復元されますが、次の例外があります。

- OBJJRN(*NO)が指定された場合には、現在ジャーナル処理されているオブジェクトは、そのジャーナル処理が指定された日時の後で開始されていないかぎり、保管も復元も行われません。これは、ジャーナル処理の開始前にオブジェクトに対して行なわれた変更が（ジャーナル・レシーバー中にジャーナル処理されていないので）失われないようにするためです。
- 解放されたオブジェクト（プログラム、ファイル、ジャーナル・レシーバーなど）は保管されません。
- ユーザー定義のメッセージ、ジョブ待ち行列定義、出力待ち行列定義、論理ファイル定義、およびデータ待ち行列記述は保管および復元されますが、こうしたオブジェクトの内容は保管も復元もされません。ACCPH(*YES)を指定した場合には、論理ファイル・アクセス・パスが保管および復元されます。

指定された変更オブジェクトおよびそれが入っているライブラリーは、保管および復元操作の間ロックされています。

オブジェクトが変更された日付と時刻を判別するためには、DETAIL(*FULL)を指定したオブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを実行してください。変更されたデータベース・ファイル・メンバーの場合には、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを実行してください。

このコマンドで保管および復元できるオブジェクトのタイプは、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「一般に使用されるパラメーター：拡張説明」中のOBJTYPEパラメーターの説明の中にリストされています。システムは、変更されたオブジェクトを保管し、同時に復元します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、ユーザーは、SPCAUTパラメーターによってユーザー・プロファイルに指定された特殊権限*SAVSYSを必要とします。そうでない場合には、ユーザーは、指定した各オブジェクトのオブジェクト存在権限および指定したライブラリーに対する実行権限を必要とします。ユーザーが指定したオブジェクトに対する必要な権限をもっていない場合には、そのオブジェクトを除くすべての変更されたオブジェクトが保管および復元されます。
2. 活動時保管を使用しないかぎり、保管および復元中の変更されたオブジェクトは、保管および復元操作が行なわれた時に実行中のジョブによって変更することができません。
3. SAVFDTA(*YES)によって保管ファイルの内容が保管された時には、保管ファイルを復元しない限り、それに入っているオブジェクトを復元することはできません。

4. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
LIB	保管されたライブラリー	単一値: *ALLUSR その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 72 回の繰り返し): *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRTIMG, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *TIMZON, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
OBJJRN	ジャーナル処理されたオブジェクト	*NO , *YES	オプション
REFDATE	参照日付	日付, *SAVLIB	オプション
REFTIME	参照時刻	時刻, *NONE	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TIMZON, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *LIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, 120, *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACCPH	アクセス・パス保管	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	*YES, *NO	オプション
QDTA	待ち行列データ	*NONE, *DTAQ	オプション
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, *LIB	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, *SAVASPDEV	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, *SAVASP	オプション
OPTION	オプション	*ALL, *NEW, *OLD	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*MATCH, *ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: *SYSVAL, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	*YES	
	要素 2: 変換するオブジェクト	*RQD, *ALL	

オブジェクト (OBJ)

変更があるかどうかを検査してから、変更されたオブジェクトを保管するために、1つ以上のオブジェクトの名前またはオブジェクトの各グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトが**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべての変更されたオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリーに保管する変更済みオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 保管する特定のオブジェクトの名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

保管されたライブラリー (LIB)

保管および復元する変更オブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

単一値

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが保管および復元されます。文字Qで始まらない名前をもつすべてのライブラリーが保管および復元されますが、次のものは除きます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、保管および復元されます。

```
QDSNX        QRCLXXXXX    QUSRIJS      QUSRVXRXMX
QGPL         QSRVAGT      QUSRINFSKR
QGPL38       QSYS2        QUSRNOTES
QMGTC        QSYS2XXXXX   QUSROND
QMGTC2       QS36F        QUSRPOSGS
QMPGDATA     QUSER38      QUSRPOSSA
```

QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRRDARS
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。最大300の総称ライブラリー名を指定することができます。

名前 保管および復元されるライブラリーの名前を指定してください。最大300のライブラリー名を指定することができます。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されません。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更を保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。保管されるオブジェクト・タイプは、ライブラリー保管(SAVLIB)、オブジェクト復元(RSTOBJ)、およびライブラリー復元(RSTLIB) コマンドによって保管および復元されるオブジェクト・タイプでもあります。データ・ディクショナリーおよび関連したファイルは、SAVLIBコマンドを使用することによってのみ保管されます。

単一値

***ALL** 指定のライブラリー中に入っている、指定した名前のすべてのオブジェクトに対する変更が保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD),ファイル(*FILE),またはプログラム(*PGM)など、保管する各オブジェクトのタイプの値を指定してください。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

ジャーナル処理されたオブジェクト (OBJJRN)

現在ジャーナル処理されている変更済みオブジェクト、および参照日付 (REFDATE)および参照時刻 (REFTIME)パラメーターに指定された日付および時刻以降にジャーナル処理された変更済みオブジェクトを保管するかどうかを指定します。

***NO** ジャーナル処理中のオブジェクトは保管されません。指定された日時の中でジャーナル処理を開始した場合には、変更されたオブジェクトまたは変更されたデータベース・ファイル・メンバーが保管されます。最終ジャーナル開始操作の日は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示することができます。

***YES** 変更がジャーナルに入れられたオブジェクトが保管されます。

トップ

参照日付 (REFDATE)

参照日付を指定します。この日付以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

***SAVLIB**

ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドを最後に実行した日の日付以降に変更されたオブジェクトが保管されます。指定したライブラリーが保管されたことのないものである場合には、メッセージが出され、ライブラリーは保管されませんが、操作は続行されます。

日付 この日付以降に変更されたオブジェクトが保管される参照日付を指定します。このコマンドを実行した日の日付より後の日付を指定した場合には、メッセージが出され、操作は終了します。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

トップ

参照時刻 (REFTIME)

参照時刻を指定します。指定した日付のこの時刻以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

***NONE**

明示的な時刻は指定されません。参照日付 (REFDATE)パラメーターに指定された日付以降に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

時刻 指定された日付のこの時刻以降に変更されたオブジェクトが保管される参照時刻を指定します。

REFDATEパラメーターに*SAVLIBを指定した場合には、参照時刻を指定することはできません。このコマンドの実行時刻より遅い時刻を指定した場合には、メッセージが出され、操作が終了します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしでは、6桁(HHMMSS)のSTRINGを指定します。ここで、HH=時、MM=分、およびSS=秒です。
- 時刻区切り記号ありでは、8桁のSTRINGを指定します。ここで、ユーザー・ジョブに指定された時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド行から入力する場合には、STRINGをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

開始ライブラリー (STRLIB)

*ALLUSR保管を開始するためのライブラリーを指定してください。終了されたか、または正常に実行されなかった*ALLUSR保管操作を回復するためには、このパラメーターを使用してください。

*FIRST

保管操作は、アルファベット順の最初のライブラリーから始まります。

名前 保管を開始するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

*NONE

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字STRING (たとえば、ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されま

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

* 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

*PRV オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。

4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

トップ

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

トップ

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になればなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

***LOCKWAIT**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOCMTBDY**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることとなります。

注: この値は、V5R3M0より前のターゲット・リリース (TGTRLS)パラメーター値である場合は指定できません。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) のコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

0が指定され、1つの名前だけが**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定され、***FILE**が**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定された唯一の値である場合には、システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。

[トップ](#)

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターに***SYSDFN**または***LIB**値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。**SAVACT**パラメーターに***SYNCLIB**が指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていないと、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注：この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

[トップ](#)

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

[トップ](#)

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

[トップ](#)

復元先ライブラリー (RSTLIB)

オブジェクトが復元されるライブラリーの名前を指定します。

***LIB** 復元ライブラリーは、LIBパラメーターに指定された値と同じ名前です。

名前 オブジェクトが復元されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

***SAVASPDEV**

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

[トップ](#)

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP)、システムASP (ASP番号1)、または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要: システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー) は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

***SAVASP**

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

- *ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。
- *NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。
- *OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。
- *FREE** 保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

[トップ](#)

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

***MATCH**が使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

***MATCH**

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのり

ストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)パラメーターで*ALLが指定されている場合には、MBROPT(*MATCH)は無効です。

*ALL 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

*NEW 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

*OLD システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

トップ

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- ファイル・レベルID：システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- メンバー・レベルID：システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

*ALL 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があって、データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があった場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。

り、また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大4個指定可能）

*AUTL

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は *EXCLUDE に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が *EXCLUDE に設定されます。

*FILELVL

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

*OWNER

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

*PGP 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

トップ

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時にオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために必要な形式に変換するかどうかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていない必要があります。
3. オブジェクトは（オペレーティング・システムの前のバージョン用に形式設定されているので）変換する必要がありますが、この復元操作中に変換されない場合には、そのオブジェクトは初めて使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトが変換されるのは、現行オペレーティング・システムによって使用するために変換が必要な場合だけです。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** すでに現行形式になっているオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

トップ

例

例1: 複数の変更済みオブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTCHG OBJ(*ALL) RMTLOCNAME(SYSTEM1) LIB(*ALLUSR)
           OBJTYPE(*PGM) STRLIB(MORE) ALWOBJDIF(*NONE)
```

このコマンドは、タイプが*PGMであり、MOREという名前のライブラリーで始まっているユーザー・ライブラリー内にある変更済みオブジェクトをすべて保管します。これらのオブジェクトは、SYSTEM1という名前のリモート・システム名に復元されます。

例2:特定の変更済みオブジェクトの保管および保管

```
SAVRSTCHG  OBJ(PETE)  RMTLOCNAME(SYSTEM1)  LIB(ROD)
            ALWOBJDIF(*ALL)  OPTION(*NEW)
```

このコマンドは、RODという名前のライブラリー内にある、サポートされるタイプのすべてのPETEという名前の変更済みオブジェクトを保管し、そのオブジェクトがSYSTEM1という名前のリモート・システム上にまだ存在していない場合は、そのオブジェクトをそのリモート・システムに復元します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD80

&1個のオブジェクトが保管され、復元された。

CPFAD8D

&1操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー、機能コード&1、戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー、機能コード&1、戻りコード&2。

[トップ](#)

DOC/LIBオブジェクト保管復元 (SAVRSTDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト保管/復元(SAVRSTDLO)コマンドは、次のオブジェクトを別のシステムに保管および復元します。システムは、オブジェクトが復元されるシステムとのサポートされる通信リンクをもっていないければなりません。

- 文書
- フォルダー
- 配布オブジェクト (メール)

注:

1. フォルダーが保管および復元される時には、フォルダー・オブジェクトがそのフォルダーに入っている文書、サブフォルダー、サブフォルダー中の文書、および後続のネストされたフォルダーと文書とともに転送されます。DLO(*FLRLVL)パラメーターを使用して特定のフォルダーを個別に保管および復元することができます。
2. 配布オブジェクト (メール) は個別ユーザーに送信することができません。メールは、すべてのユーザーに対してのみ保管および復元することができます。
3. SAVRSTDLOは専用システムを必要としませんが、保管および復元コマンドが出された時に使用中であった個別のオブジェクトは保管および復元することができません。すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管および復元されるようにするためには、システムでオフィス活動が行なわれていない時にこのコマンドを実行してください。

制約事項:

1. このコマンドで次のパラメーターの組み合わせを使用するためには、*ALLOBJまたは*SAVSYS特殊権限が必要です。
 - DLO(*ALL) FLR(*ANY)
 - DLO(*CHG)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) OWNER(*ALL)
 - DLO(*SEARCH) OWNER (ユーザー・プロファイル名)

ここで、指定されたユーザー・プロファイル名は、SAVRSTDLOコマンドを出しているユーザーのユーザー・プロファイル名ではありません。

2. *ALLOBJまたは*SAVSYS特殊権限のないユーザーには次が必要です。
 - 送信される各文書またはフォルダーに対する*ALL権限。
 - 文書交換アーキテクチャー(DIA)ユーザーとしての登録。
3. 別のジョブがRCLDLO, SAVDLO,およびRSTDLOなどのコマンド実行中の間は、これらのコマンドでは内部オブジェクトの排他的使用が獲得されないことがあるので、このコマンドを使用することができません。

4. グループ・プロファイルが指定されたユーザー・プロファイルに関連している場合には、文書またはフォルダー所有権の判別ではグループ・プロファイルの検査は行われません。
5. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	単一値: *ALL, *SEARCH, *CHG, *DOCL, *MAIL, *FLRLVL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
RTMLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 2
FLR	フォルダー	単一値: *ANY, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMITFLR	除外するフォルダー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
SRCHTYPE	検索タイプ	*DOC, *ALL	オプション
CHKEXP	満了日	日付, *NO, *CURRENT	オプション
CRTDATE	作成日	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *BEGIN, *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 終了日付	日付, *END	
DOCCLS	文書クラス	文字値, *ANY	オプション
OWNER	所有者プロファイル	名前, *CURRENT, *ALL	オプション
REFCHGDATE	最終変更日	日付, *ANY, *SAVDLOALL	オプション
REFCHGTIME	最終変更時刻	時刻, *ANY	オプション
DOCL	文書リスト	文字値, *NONE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
STG	記憶域	*KEEP, *DELETE, *FREE	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
SAVACT	活動状態保管	*NO, *YES	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	0-99999, 120, *NOMAX	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-32, *ANY	オプション
NEWOBJ	オブジェクト名生成	*SAME, *NEW	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	*NONE, *ALL	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, *SAVASP	オプション

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

保管する文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。フォルダーを保管するためには、DLO(*ALL)を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** FLRパラメーターによってさらに修飾されているすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。DLO(*ALL) FLR(*ANY)を指定すると、すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

*SEARCH

指定された検索値を満たすすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。検索値は、次のパラメーターを使用して指定されます。

- フォルダー (FLR)パラメーター
- マークの検査 (CHKFORMRK)パラメーター
- 満了日 (CHKEXP)パラメーター
- 作成日 (CRTDATE)パラメーター
- 文書クラス (DOCCLS)パラメーター
- 所有者プロファイル (OWNER)パラメーター
- 最終変更日 (REFCHGDATE)パラメーター
- 最終変更時刻 (REFCHGTIME)パラメーター

注: フォルダーは、SRCHTYPE(*ALL)が指定された場合にだけ、保管されます。

***CHG** 最後の完全保管操作以降に作成または変更されたすべての文書、およびそれ以降に作成されたすべてのフォルダーおよびすべてのメールが保管されます。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名の文書が保管されます。

*DOCL

文書リスト (DOCL)パラメーターに指定された文書リスト中で示された文書のリストが保管されません。

*MAIL

メール・ログによって示された配布オブジェクトおよび文書が保管されます。

*FLRLVL

フォルダー (FLR)パラメーターに指定されたフォルダーおよびそのフォルダーの文書が保管されません。サブフォルダーは保管されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

文書名 保管される文書のユーザー割り当て名を指定してください。同じフォルダーに指定されたすべての文書およびフォルダーは**フォルダー (FLR)**パラメーターに指定しなければなりません。

注: システム・オブジェクト名はサポートされていません。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

フォルダー (FLR)

保管するフォルダーの名前を指定します。

単一値

***ANY** 文書ライブラリー・オブジェクトは任意のフォルダーから保管することができます。FLRパラメーターの使用時には、次を考慮してください。

- 次の1つが指定された場合には、FLR(*ANY)は正しくありません。
 - DLO(*DOCL)
 - DLO(*FLRLVL)
 - DLO (文書名)
- 次の1つが指定された場合には、FLR(*ANY)が必要です。
 - DLO(*CHG)
 - DLO(*SYSOBJNAM)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*ALL)
- SAVDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された場合には、次が保管されます。
 - すべての文書
 - すべてのフォルダー
 - すべての配布オブジェクト (メール)

*NONE

保管される文書がフォルダー中にありません。FLR(*NONE)が有効なのは、次の1つが指定された場合だけです。

- DLO(*ALL)
- DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*DOC)

その他の値（最大300個指定可能）

総称フォルダー名

総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

フォルダー名

保管される文書を入れるフォルダーのユーザー割り当て名を指定します。フォルダー名は最大63桁の長さとすることができます。

- ここに指定されたフォルダー・オブジェクトは、DLO(*ALL)またはDLO(*FLRLVL) が指定された場合にかぎり保管されます。
- 次の1つが指定された場合には、FLR(フォルダー名)は正しくありません。
 - DLO(*SYSOBJNAM)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*ALL)
- 次の1つが指定された場合には、フォルダー名は1つしか指定することはできません。
 - DLO(*DOCL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*DOC)
 - DLO（文書名）

注：システム・オブジェクト名はサポートされていません。

[トップ](#)

除外するフォルダー (OMITFLR)

保管操作から除外される1つまたは複数のフォルダーの名前またはフォルダーの各グループの総称名を指定します。

単一値

*NONE

フォルダーは保管操作から除外されません。

その他の値（最大300個指定可能）

総称フォルダー名

総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前がその総称接頭部で始まり、ユーザーが権限をもっているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名であると見なします。

フォルダー名

保管操作から除外するフォルダーの名前を指定してください。

注：システム・オブジェクト名はサポートされていません。

検索タイプ (SRCTYPE)

検索するためのオブジェクトのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***DOC** 文書だけが検索および保管されます。

***ALL** 文書およびフォルダーが検索および保管されます。

トップ

満了日 (CHKEXP)

指定された日付の前に満了日があるすべての文書が保管されることを指定します。満了日は、文書が作成される時にユーザーによって割り当てられ、その文書が不要になる日付を指定します。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されていて、**検索タイプ (SRCTYPE)**パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

***NO** 満了日は無視されます。

***CURRENT**

今日の日付の前に満了日があるすべての文書が保管されます。

日付 文書の満了日を指定します。この日付の前に満了日があるすべての文書が保管されます。

トップ

作成日 (CRTDATE)

指定された期間内に作成日がある文書およびフォルダーが保管されることを指定します。この期間は、開始時刻と日付および終了時刻と日付によって指定されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。この期間は次の通り指定されます。

((開始時刻 開始日) (終了時刻 終了日))

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

開始時刻を指定するためには、次の1つを使用してください。文書はこの時刻の後に作成されていなければならず、それが選択されます。この時刻の前に作成された文書は選択されません。

***AVAIL**

任意の時刻にファイルされた文書およびフォルダーは保管の対象となります。

時刻

開始時刻を指定してください。開始時刻が検索値として使用される場合には、開始日は*BEGINであってははいけません。**最終変更時刻 (REFCHGTIME)**パラメーターが指定された場合には、開始時刻はREFCHGTIMEパラメーターに指定された値と同じでなければなりません。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

開始日を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この日付以降に作成されなければならない、それが保管されます。この日付の前に作成された文書は保管されません。

*BEGIN

文書およびフォルダーは、そのオブジェクトと関連した作成日に関係なく保管されます。

*CURRENT

今日の日付の、開始時刻（指定される場合）以降にファイルされた文書およびフォルダーだけが選択されます。

日付 文書作成日区間の開始日を指定します。この日付はジョブ日付の形式で入力しなければなりません。開始日は、**最終変更日 (REFCHGDATE)**パラメーターが指定された場合にそのREFCHGDATEパラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

終了時刻を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この時刻以前に作成されていない、それが保管されます。指定された時刻の後に作成された文書は保管されません。

*AVAIL

任意の時刻にファイルされた文書およびフォルダーは保管のために選択されます。

時刻 終了時刻を指定してください。終了時刻が検索値として使用される場合には、終了時刻は*ENDであってははいけません。時刻指定の方法の詳細については、**開始時刻**の説明を参照してください。

要素2: 終了日付

終了日を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この日付以前に作成されていない、それが保管されます。この日付の後に作成された文書は保管されません。

*END 任意の日付にファイルされた文書およびフォルダーが選択されます。*ENDが指定された場合には、終了時刻を使用することはできません。

日付 文書作成日間の終了日を指定します。この日付以前に作成された文書が保管されます。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

トップ

文書クラス (DOCCLS)

保管する文書のクラスを指定します。このクラスは、文書の作成時にユーザーによって割り当てられます。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されていて、**検索タイプ (SRCHTYPE)**パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

注: 文書クラスがユーザー割り当てのものであっても、このパラメーターに2バイト文字セット(DBCS)データを指定することはできません。

***ANY** 保管のための文書の選択に文書クラスは使用されません。

文字値 保管のための文書の選択に使用される1-16桁の範囲の文書クラスを指定してください。

トップ

所有者プロファイル (OWNER)

保管する文書およびフォルダーの所有者を指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***CURRENT**

現行の要求元によって所有される文書およびフォルダーが保管されます。

***ALL** このパラメーターは、保管のための文書およびフォルダーの選択には使用されません。*ALLを指定する場合は、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはシステム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。

名前 保管する文書およびフォルダーを所有するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザーによって所有され、指定されたその他の検索値と一致するすべての文書が保管されます。このコマンドを出したユーザーのユーザー・プロファイル以外のユーザー・プロファイルを選択する場合には、*ALLOBJまたは*SAVSYSの特殊権限が必要です。

トップ

最終変更日 (REFCHGDATE)

指定された日付以降に作成されたフォルダー、および変更または作成された文書が保管されます。この変更日は、文書の内容または記述が変更された時に更新されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***ANY** 参照用の変更日は指定されません。文書は、作成または変更された日付に関係なく保管されます。フォルダーは作成された日付に関係なく保管されます。

***SAVDLOALL**

最後の完全保管操作以降に作成されたフォルダーおよびそれ以降に作成または変更された文書が保管されます。

日付 日付を指定して、その日付以降に作成されたフォルダー、あるいは作成または変更された文書が保管されます。

トップ

最終変更時刻 (REFCHGTIME)

それより後に作成されたフォルダーおよび変更または作成された文書を保管する、REFCHGDATEパラメーターに指定された日付に対して相対的な時間を指定します。この変更時刻は、文書の内容または記述が変更される時に更新されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***ANY** 時刻は指定されません。文書は、作成または変更された時刻とは関係なく保管されます。フォルダーは作成された時刻に関係なく保管されます。

時刻 その時刻以降に作成されたフォルダー、または作成または変更された文書が保管される、その時刻を指定します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

文書リスト (DOCL)

保管される文書のリストを指定します。この文書リストはフォルダー内になければなりません。フォルダーの名前は**フォルダー (FLR)**パラメーターを使用して指定しなければなりません。文書リストに文書が入っているフォルダーに対する使用(*USE)権限が必要です。

注: 文書リストは、リモート検索ではなく、ローカル検索の結果でなければなりません。

***NONE**

文書リストは保管されません。

文字値 保管される文書リストを指定します。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

記憶域 (STG)

保管操作の終了後に保管中の文書によって占められていたシステム記憶域を保管、削除、または解放するかどうかを指定します。

注：次のいくつか指定された場合には、STG(*DELETE)およびSTG(*FREE)は正しくありません。

- DLO(*ALL) FLR(*ANY)
- DLO(*SEARCH) CHKFORMRK(*YES)
- DLO(*CHG)
- DLO(*MAIL)
- SAVACT(*YES)

***KEEP**

保管操作の後、文書によって占められていた記憶域は変更されないままとなります。

***DELETE**

保管操作後に、文書オブジェクトおよびすべての検索項目はシステムから削除されます。

***FREE**

文書記述およびすべての検索項目はシステム上にそのままとなりますが、文書によって占められていた記憶域は保管操作の後に削除されます。文書は、この文書がシステム上に復元されるまで使用することはできません。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

文書クラス (DOCCLS)パラメーターに指定されたデータの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。この文字識別コードは、文書クラスの入力に使用される表示装置と関連しています。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

トップ

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中に更新できるかどうかを指定します。

*NO 使用中の文書ライブラリー・オブジェクトは保管されません。文書ライブラリー・オブジェクトを使用中に更新することはできません。

*YES 保管要求時に文書ライブラリー・オブジェクトを変更することができます。

注: 一部の適用業務は、文書ライブラリー・オブジェクトを直接更新します。一時ファイルに更新を保管してからDLOを更新するのではなく、データが適用業務に提供されます。直接更新されるDLO (一般にはPCを基礎とした適用業務によって更新されるもの) は保管されません。このパラメーターの使用に関する詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「バックアップおよび回復」情報を参照してください。

トップ

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続ける前に、オブジェクトが使用中になっている時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続ける前に、個々の各オブジェクトが使用可能になるまで最大120秒待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続ける前に、個々の各オブジェクトを待つ秒数を指定してください。

[トップ](#)

ASP番号 (ASP)

保管される文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

***ANY** 保管されるオブジェクトはいずれかのASPに存在しています。DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された時には、システム上のすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

注：複数のASPからのDLOが保管されると、複数のテープ媒体ファイルが作成されます。これらの媒体ファイルの開始および終了の順序番号は、すべてのASPを復元するためにRSTDLOコマンドに必要です。

1から32

保管する文書ライブラリー・オブジェクトが入っている既存ASPの番号を指定してください。ASP 1はシステムASPです。

注：ファイルされていないメールおよびフォルダー内にない文書はシステムASPに存在していません。

[トップ](#)

オブジェクト名生成 (NEWOBJ)

新規ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名を復元するフォルダーおよび文書に対して生成するかどうかを指定します。

***SAME**

ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名は変わりません。

***NEW** 新規ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名が、復元するフォルダーおよび文書ごとに生成されます。

[トップ](#)

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

復元操作中に見つかった次の相違点が許されるかどうかを指定します。

- 所有権—システム上のオブジェクトの所有者が保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- システム・オブジェクト名—システム上のシステム・オブジェクト名が媒体上のシステム・オブジェクト名と一致しない。
- 権限リストのリンカーオブジェクトが、オブジェクトを保管したものとは異なるシステム上に復元されます。

システム上の所有者またはオブジェクト名が復元操作で使用される媒体の場合と異なるオブジェクトを復元できるようにするためには、ALWOBJDIFパラメーターを使用することができます。*ALL特殊値を指定す

ることによって、別の名前をもつオブジェクトが媒体上の名前に復元され、一方、別の所有者をもつオブジェクトは、その所有者名は媒体からではなくシステムから保持します。

注: このパラメーターを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)権限が必要です。

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。権限リストの場合には、オブジェクトは復元されますが、そのオブジェクトは当該の権限リストにはリンクされず、共通権限が*EXCLUDEに設定されます。他のケースについては、オブジェクトの診断メッセージが送信されて、オブジェクトは復元されません。

***ALL** 上で説明したすべての相違点が復元操作で許されます。通知メッセージが送られて、そのオブジェクトが復元されます。

注:

- オブジェクトの所有者が一致しない場合には、そのオブジェクトは復元されますが、復元操作前のシステム上のオブジェクト所有権および権限のままとなります。
- このパラメーターに*ALLが指定された場合には、**オブジェクト名生成 (NEWOBJ)**パラメーターに*NEWを指定することはできません。
- オブジェクトが保管されたシステムで、そのオブジェクトが権限リストによって保護されているシステムとは異なるシステムからオブジェクトを復元中の場合には、*ALLを指定すると、そのオブジェクトを権限リストに自動的にリンクします。新しいシステムに権限リストが存在していない場合には、欠落しているリストの名前が入っているメッセージが出されます。

トップ

復元先ASP番号 (RSTASP)

復元された文書およびフォルダーが入れられる媒体上の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

*SAVASP

文書およびフォルダーは、保管される前と同じASPに入れられます。

1から32

復元された文書およびフォルダーが入るASPの番号を指定してください。

トップ

例

例1:全文書ライブラリー・オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTDLO DLO(*ALL) RMTLOCNAME(SYSTEM1) FLR(*ANY)
           SAVACT(*YES) NEWOBJ(*NEW)
```

このコマンドは、任意のフォルダーにある文書ライブラリー・オブジェクトをすべて保管し、それらのオブジェクトをSYSTEM1という名前のリモート・システムに復元します。それらのオブジェクトは保管および復元操作時に変更でき、オブジェクトの復元先のライブラリーに新規名が付けられます。

例2:特定の文書ライブラリー・オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTDLO DLO(*SEARCH) RMTLOCNAME(SYSTEM2) FLR(FLR2)
           OWNER(USER8) SRCHTYPE(*DOC)
```

このコマンドは、FLR2という名前のフォルダーを検索し、文書がユーザーUSER8によって所有されているかどうかを確認のために検査します。フォルダーおよびそのフォルダー内の文書は、SYSTEM2という名前のリモート・システムで保管および復元されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD82

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが保管され復元された。

CPFAD8C

SAVRSTDLO操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

[トップ](#)

ライブラリーの保管復元 (SAVRSTLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー保管/復元(SAVRSTLIB)コマンドによって、ユーザーは1つまたは複数のライブラリーのコピーを別のシステムに保管および復元することができます。システムは、復元システムとのサポートされている通信リンクをもっていなければなりません。

QDOCライブラリーに入っている文書およびフォルダーは、文書ライブラリー・オブジェクト保管/復元(SAVRSTDLO)コマンドを使用して保管および復元することができます。

SAVRSTLIBコマンドは、ライブラリー全体を保管および復元します。これにはライブラリー記述、オブジェクト記述、およびライブラリーのオブジェクトの内容が含まれます。ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクトの定義だけが保管および復元され、内容は保管も復元もされません。論理ファイルのアクセス・パスは、ACCPH(*YES)を指定して保管および復元することができます。保管ファイルの内容は、SAVFDTA(*YES)を指定して保管および復元することができます。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、SPLFDTA(*ALL)を指定して保管および復元することができます。データ待ち行列の内容は、QDTA(*DTAQ)を指定して保管および復元することができます。

コマンドで記憶域が解放されるように指定されていないかぎり、システム上のライブラリーおよびそのオブジェクトは影響を受けません。

このコマンドで保管および復元されるオブジェクトのタイプは、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「一般に使用されるパラメーター：拡張説明」中のOBJTYPEパラメーターの説明の中に、*DTADCTが追加されてリストされています。ユーザー・ライブラリーに入っていない一部のI5/OSシステム・オブジェクト（ユーザー・プロファイルなど）は、このコマンドでは保管も復元もされません。これら、システム保管(SAVSYS)コマンドまたは機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドで保管し、ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドを使用して復元することができます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、ユーザーは、SPCAUTパラメーターによってユーザー・プロファイルに指定された特殊権限*SAVSYSを必要とするか、あるいは次が必要です。
 - 指定された各ライブラリーの読み取り権限または所有者。
 - ライブラリー中の各オブジェクトのオブジェクト存在権限。

ユーザーが指定されたすべてのライブラリーおよびオブジェクトの正しい権限をもっていない場合には、ユーザーが権限をもっているものだけが保管および復元されます。

2. 活動時保管(SAVACT)を使用しないかぎり、保管および復元中のライブラリーも、保管および復元中のライブラリーのオブジェクトも、保管および復元操作が行なわれた時点で実行中のジョブによって更新することができません。
3. SAVFDTA(*YES)を指定して保管ファイルの内容が保管および復元される時には、保管ファイルを復元しないかぎり、その中のオブジェクトを復元することはできません。

4. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	単一値: *NONSYS, *ALLUSR, *IBM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 2
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *LIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, 120, *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACCPH	アクセス・パス保管	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	*NONE, *ALL	オプション
QDTA	待ち行列データ	*NONE, *DTAQ	オプション
STG	記憶域	*KEEP, *FREE	オプション
OPTION	オプション	*ALL, *NEW, *OLD, *FREE	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*MATCH, *ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, *LIB	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, *SAVASPDEV	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, *SAVASP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: *SYSVAL, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	*YES	
	要素 2: 変換するオブジェクト	*RQD, *ALL	

トップ

ライブラリー (LIB)

保管および復元するライブラリーを指定します。

注:

- *NONSYSまたは*IBMキーワードを使用する場合には、一部のライブラリーは、この操作で使用されているので、保管も復元もされません。
- ユーザーがこのパラメーターに*ALLUSRを指定した場合には、このコマンドは、指定のライブラリーが使用中でない時に使用しなければなりません。ライブラリーの保管および復元中にライブラリーのオブジェクトが使用中である場合には、そのオブジェクトは保管も復元もされません。すべてのライブラリーの保管および復元を完了するためには、制約された状態のシステムでSAVLIBコマンドを実行してください。たとえば、サブシステムQSNADSが活動状態の時にSAVRSTLIB LIB(*ALLUSR)を実行した場合には、ライブラリーQUSRSYS中のQAO*ファイルは保管も復元もされません。*QAOファイルを保管および復元するためには、SAVRSTLIB LIB(*ALLUSR)を実行する前に、QSNADSサブシステムを終了してください。SAVRSTLIBコマンドを使用する時には、一部のサブシステムは終了することはできません。SAVRSTLIBコマンドを使用する時には、こうしたサブシステムに関連したライブラリーは保管も復元もされません。

QSOC SAVRSTLIBコマンドで光ディスク・バス転送を使用している場合。

QCMN

SAVRSTLIBコマンドで通信転送を使用している場合。

*NONSYS

すべてのユーザー作成ライブラリー、QGPLライブラリー、QUSRSYSライブラリー、およびQRPGやQIDUなどのライセンス・プログラム・ライブラリーが保管されます。このオプションを指

定する場合には、サブシステム終了(ENDSBS)またはシステム終了(ENDSYS)コマンドですべてのサブシステムを終了していなければなりません。*NONSYSを指定した時には、ライブラリーはアルファベット順に媒体に保管されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが保管および復元されます。文字Qで始まらない名前をもつすべてのライブラリーが保管および復元されますが、次のものは除きます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、保管および復元されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSBRM     QUSRRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***IBM** 次のQライブラリーを除くすべてのシステム(IBM)ライブラリーを保管します。

```
QDOC       QRCL       QSYS       QUSRSYS
QDSNX      QRECOVERY  QS36F      QUSRVXRXXM
QGPL       QRPLOBJ    QTEMP
QGPL38     QSPLXXXX  QUSER38
QPFRDATA   QSRV      QUSRINFSKR
```

注: 前のリリースのCLプログラム中にコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリースにユーザーがQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーの場合には、VXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

Qで始まらない名前をもつ次のライブラリーも保管されます。

```
#CGULIB    #DFULIB    #RPGLIB    #SEULIB
#COBLIB    #DSULIB    #SDALIB
```

総称名 ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称(接頭部)名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。最大300までの総称ライブラリーの値を指定することができます。

名前 保管および復元されるライブラリーの名前を指定してください。最大300のライブラリー名を指定することができます。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されません。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

トップ

開始ライブラリー (STRLIB)

*NONSYS, *IBM,または*ALLUSR保管操作を開始するライブラリーを指定します。

注: このパラメーターは、ライブラリー (LIB)パラメーターに*NONSYS, *IBM,または*ALLUSRを指定した場合だけ有効です。

*FIRST

保管操作は、アルファベット順の最初のライブラリーから始まります。

名前 保管操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

*NONE

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

* 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

*PRV オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。

4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

トップ

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

トップ

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になればなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

***LOCKWAIT**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOCMTBDY**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることとなります。

注: この値は、V5R3M0より前のターゲット・リリース (TGTRLS)パラメーター値である場合は指定できません。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter)で、API解説 (英文) のコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

トップ

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに*SYNCLIBが指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

*NONE

通知メッセージは送信されません。

*WRKSTN

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならず、同時に保管しなければなりません。

***SYSVAL**

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注：この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

[トップ](#)

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

[トップ](#)

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

保管される出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。

***NONE**

スプール・ファイル・データは保管されません。

***ALL** 保管される出力待ち行列ごとに、出力待ち行列で使用可能なスプール・ファイル・データがすべて保管されます。

[トップ](#)

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

[トップ](#)

記憶域 (STG)

保管しようとしているライブラリー中の指定されたメンバー（保管ファイルを除く）、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占められているシステム記憶域が保管操作の一部として解放されるかどうかを指定します。これらのオブジェクトのデータ部分のみが解放され、オブジェクトの記述は解放されません。

***KEEP**

保管しようとしているオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域は解放されません。

***FREE**

保管しようとしている指定されたオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域が保管操作の一部として解放されます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが占めている記憶域は、そのライブラリー中のすべてのオブジェクトが正常に保管された後でのみ解放されます。

注: 起こる可能性があるプログラムの異常終了を防止するためには、*FREEが指定された時に、保管しようとしているプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。

***NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されません。

***OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ラ

ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。

***FREE**

保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

トップ

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

*MATCHが使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

***MATCH**

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)パラメーターで*ALLが指定されている場合には、MBROPT(*MATCH)は無効です。

*ALL 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

*NEW 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

*OLD システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

トップ

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注: 保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- **ファイル・レベルID** : システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- **メンバー・レベルID** : システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- **所有権** : システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- **1次グループ** : システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- ***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があって、データベース・メンバー・オプション (**MBROPT**)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があった場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大4個指定可能)

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が*EXCLUDEに設定されます。

***FILELVL**

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

[トップ](#)

復元先ライブラリー (RSTLIB)

ライブラリーの内容が保管されたのと同じライブラリーに復元されるか、あるいは別のライブラリーに復元されるかを指定します。別のライブラリーを指定する場合には、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに***NONSYS**, ***ALLUSR**,または***IBM**を指定することができません。

***LIB** ライブラリーの内容は、保管されたのと同じ1つまたは複数のライブラリーに復元されます。

名前 保管されたライブラリーの内容が復元されるライブラリーの名前を指定してください。LIBパラメーターに***NONSYS**, ***ALLUSR**,または***IBM**を指定した場合には、このパラメーターにライブラリー名を指定することはできません。

注: SQLデータベースが保管されたのと別のライブラリーに復元される場合には、ジャーナルは復元されません。

[トップ](#)

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

***SAVASPDEV**

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

[トップ](#)

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP)、システムASP (ASP番号1)、または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要：システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー) は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

*SAVASP

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

[トップ](#)

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時にオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために必要な形式に変換するかどうかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE、*PGM、*SRVPGM、および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないなければなりません。
3. オブジェクトは（オペレーティング・システムの前のバージョン用に形式設定されているので）変換する必要がありますが、この復元操作中に変換されない場合には、そのオブジェクトは初めて使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注：FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトが変換されるのは、現行オペレーティング・システムによって使用するために変換が必要な場合だけです。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** すでに現行形式になっているオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

トップ

例

例1:すべてのユーザー・ライブラリーの保管および復元

```
SAVRSTLIB LIB(*ALLUSR) RMTLOCNAME(SYSTEM1)
          STRLIB(GFM1) OPTION(*OLD)
```

このコマンドは、GFM1ライブラリーで始まっているユーザー・ライブラリーをすべて保管し、SYSTEM1という名前のリモート・システムに復元します。復元されるのは、保管バージョンが入っているライブラリー内のオブジェクトだけです。

例2:特定のライブラリーの保管および復元

```
SAVRSTLIB LIB(GRUNBOK TIMON VASEK) RMTLOCNAME(SYSTEM1)
```

このコマンドは、ライブラリーGRUNBOK, TIMON,およびVASEKを保管し、SYSTEM1という名前のリモート・システムに復元します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPCAD81

&1個のライブラリーが保管され復元された。

CPFAD8B

SAVRSTLIB操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

[トップ](#)

オブジェクトの保管復元 (SAVRSTOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト保管/復元(SAVRSTOBJ)コマンドは、単一のオブジェクトまたは同じライブラリーにある1グループのオブジェクトを別のシステムに保管および復元します。オブジェクトは、同じライブラリーまたは別のライブラリーに復元することができます。保管および復元できるオブジェクトのタイプは、オブジェクト保管(SAVOBJ)コマンドに使用可能なものと同じオブジェクトのセットです。オブジェクトが保管されるシステムのオブジェクトは、SAVRSTOBJコマンドの影響を受けません。

ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクト記述だけが保管および復元され、内容は保管も復元もされません。論理ファイルのアクセス・パスは、ACCPH(*YES)を指定して保管および復元することができます。保管ファイルの内容は、SAVFDTA(*YES)を指定して保管および復元することができます。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、SPLFDTA(*ALL)を指定して保管および復元することができます。データ待ち行列の内容は、QDTA(*DTAQ)を指定して保管および復元することができます。

注: このコマンドは、ジョブで現在有効となっているすべてのファイルの一時変更を無視します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、SPCAUTパラメーターによってユーザー・プロファイルに指定された特殊権限*SAVSYSが必要であるか、あるいは指定された各オブジェクトのオブジェクト存在権限と指定されたライブラリーの読み取り権限が必要です。指定されたオブジェクトに対する必要な権限をもっていない場合には、それを除くすべてのオブジェクトが保管および復元されます。
2. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
LIB	保管されたライブラリー	単一値: *ALLUSR その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 69 回の繰り返し): *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRTIMG, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *TIMZON, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, <u>*FIRST</u>	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , <u>*NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, <u>*ALL</u> , *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *TIMZON, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, <u>*CURRENT</u> , *PRV	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	<u>*NO</u> , *LIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, <u>*LOCKWAIT</u> , *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, <u>*LOCKWAIT</u> , *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, <u>*NONE</u> , *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
FILEMBR	ファイル・メンバー	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: メンバー	単一値: <u>*ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	
ACCPH	アクセス・パス保管	<u>*SYSVAL</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	<u>*NONE</u> , *ALL	オプション
QDTA	待ち行列データ	<u>*NONE</u> , *DTAQ	オプション
STG	記憶域	<u>*KEEP</u> , *FREE	オプション
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NEW, *OLD, *FREE	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	<u>*MATCH</u> , *ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, <u>*LIB</u>	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, <u>*SAVASPDEV</u>	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, <u>*SAVASP</u>	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	

トップ

オブジェクト (OBJ)

保管する1つまたは複数のオブジェクトの名前または各オブジェクト・グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトがライブラリー (LIB)パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の保管するオブジェクト・グループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 保管する特定のオブジェクトの1つ以上の名前を指定します。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

保管されたライブラリー (LIB)

保管および復元されるオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

単一値

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが保管および復元されます。文字Qで始まらない名前をもつすべてのライブラリーが保管および復元されますが、次のものは除きます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、保管および復元されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGGL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。最大300の総称ライブラリー名を指定することができます。

名前 保管および復元されるライブラリーの名前を指定してください。最大300のライブラリー名を指定することができます。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されません。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

単一値

***ALL** 指定した名前で、指定したライブラリーに入っているすべてのオブジェクト・タイプが保管されません。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターにも*ALLが指定されている場合には、ライブラリーに入っているオブジェクトのうち、保管できるタイプのすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD),ファイル(*FILE),またはプログラム(*PGM)など、保管するオブジェクトの各タイプの値を指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト)を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

開始ライブラリー (STRLIB)

保管操作を開始するライブラリーを指定します。

保管操作中に回復不能媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して、操作を再開することができます。

保管操作再開の基本ステップは次の通りです。

1. ジョブ・ログを調べて、前の保管操作が正常に行われなかったライブラリーを判別してください。最後に保管されたライブラリーを見つけてください。これは、正常完了メッセージによって示されます。
2. 次のテープが初期設定されていることを確認して、そのテープを装てんしてください。
3. 以下をオリジナルの保管操作に追加します。

STRLIB(ライブラリー名) OMITLIB(ライブラリー名)

ここで、STRLIBおよびOMITLIBパラメーターのライブラリー名は正常に保管された最後のライブラリーです。これにより、保管操作は正常に保管された最後のライブラリーの後のライブラリーから始まります。

ライブラリーを復元するには、実行されたそれぞれの保管操作ごとに別個の復元操作を実行する必要があります。

***FIRST**

保管操作は、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定された最初のライブラリー値から始まります。最初の値が総称名または特殊値であった場合には、保管操作はこの値と一致する最初のライブラリーから始まります。

名前 保管操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***NONE**

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されず。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

* 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASPGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

トップ

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

トップ

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中的のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になければなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、***NOCMTBDY**が指定されていない限り、保管操作は終了します。

***LOCKWAIT**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOCMTBDY**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせず、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでには、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることになります。

注: この値は、V5R3M0より前のターゲット・リリース (TGTRLS)パラメーター値である場合は指定できません。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説(英文)のコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

*LOCKWAIT

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

0が指定され、1つの名前だけがオブジェクト (OBJ)パラメーターに指定され、*FILEがオブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターに指定された唯一の値である場合には、システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。

トップ

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに*SYNCLIBが指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル・メンバー (FILEMBR)

保管されるデータベース・ファイル・メンバーを指定します。このパラメーターは、ファイル名およびメンバー名の2つの部分からなります。

ここで指定した各データベース・ファイルは、完全な名前、総称名、または*ALLのいずれかによって**オブジェクト (OBJ)**パラメーターにも指定しなければなりません。**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーター値は、*ALLであるか*FILEを含んでいるかのいずれかでなければなりません。

注: STG(*FREE)が指定されている時には、このパラメーターを指定することはできません。

要素1: ファイル

***ALL** この値に続くメンバー名の値のリストは、OBJパラメーターに指定されたすべてのファイルに適用されます。

名前 保管するためにリストしたメンバーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。各ファイルのメンバー・リストを使用して、最大50のファイルを指定することができます。

注: 総称名は、データベース・ファイル名には無効ですが、メンバー名には使用することができます。

注: 重複ファイル名は使用することができません。

要素2: メンバー

単一値

***ALL** すべてのメンバーが、指定されたファイルから保管されます。

*NONE

メンバーは、指定されたファイルから保管されません。ファイル記述だけが保管されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

総称名 指定したファイルから保管するメンバーの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なメンバー名であるとみなします。

注: 総称メンバー名を指定した場合には、ファイルに保管するファイルの総称名と一致するメンバー名が含まれていなければなりません。たとえば、総称メンバー名としてPAY*を指定し、システムがPAYで始まるメンバーを検出することができない場合には、ファイルは保管されません。指定した総称名をもつメンバーが検出できないために、FILEMBRパラメーターによって指定されたファイルが保管されない場合には、診断メッセージが送られ、保管操作を終了し、保管されなかったファイル数を指定したエスケープ・メッセージが送られます。FILEMBRパラメーターに応じて処理されるファイルのうちの少なくとも1つに、指定された総称名をもつメンバーが含まれている場合には、診断メッセージは送られず、保管されなかったファイル数は最終完了メッセージに入ります。

名前 指定のファイルから保管されるメンバーの名前を指定してください。

注: 特定のメンバー名を指定した場合には、指定したメンバーが、保管または復元するファイルの任意の部分に応じてファイル中に存在していなければなりません。

トップ

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

重要: 基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない(災害時回復や、ファイルが削除されていたなど)場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならず、同時に保管しなければなりません。

***SYSVAL**

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注: この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

[トップ](#)

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

[トップ](#)

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

保管される出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。

***NONE**

スプール・ファイル・データは保管されません。

***ALL** 保管される出力待ち行列ごとに、出力待ち行列で使用可能なスプール・ファイル・データがすべて保管されます。

[トップ](#)

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

[トップ](#)

記憶域 (STG)

保管しようとしているライブラリー中の指定されたメンバー（保管ファイルを除く）、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占められているシステム記憶域が保管操作の一部として解放されるかどうかを指定します。これらのオブジェクトのデータ部分のみが解放され、オブジェクトの記述は解放されません。

***KEEP**

保管しようとしているオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域は解放されません。

***FREE**

保管しようとしている指定されたオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域が保管操作の一部として解放されます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが占めている記憶域は、そのライブラリー中のすべてのオブジェクトが正常に保管された後でのみ解放されます。

注: 起こる可能性があるプログラムの異常終了を防止するためには、*FREEが指定された時に、保管しようとしているプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

トップ

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。

***NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されません。

***OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。

***FREE**

保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

*MATCHが使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

*MATCH

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)パラメーターで*ALLが指定されている場合には、MBROPT(*MATCH)は無効です。

*ALL 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

*NEW 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

*OLD システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- ファイル・レベルID：システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- メンバー・レベルID：システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があって、データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があった場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大4個指定可能)

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が*EXCLUDEに設定されます。

***FILELVL**

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

[トップ](#)

復元先ライブラリー (RSTLIB)

オブジェクトが復元されるライブラリーを指定します。

***LIB** LIBパラメーターに指定されたライブラリーの名前が使用されます。

名前 オブジェクトを復元先のライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

***SAVASPDEV**

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

[トップ](#)

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP)、システムASP (ASP番号1)、または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要: システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー) は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

***SAVASP**

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時にオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために必要な形式に変換するかどうかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および *SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないければなりません。
3. オブジェクトは（オペレーティング・システムの前のバージョン用に形式設定されているので）変換する必要がありますが、この復元操作中に変換されない場合には、そのオブジェクトは初めて使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトが変換されるのは、現行オペレーティング・システムによって使用するために変換が必要な場合だけです。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** すでに現行形式になっているオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

例

例1:総称オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTOBJ OBJ(ABCD*) LIB(ACE) RMTLOCNAME(SYSTEM1)
           OBJTYPE(*PGM) ALWOBJDIF(*NONE)
```

このコマンドは、ACEという名前のライブラリー内にある文字ABCDで始まっているオブジェクトを保管し、SYSTEM1という名前のリモート・システムに復元します。

例2:特定のオブジェクトの保管および保管

```
SAVRSTOBJ OBJ(FLETCH) LIB(CHASE) RMTLOCNAME(SYSTEM1)
           ALWOBJDIF(*ALL) OPTION(*NEW)
```

このコマンドは、CHASEという名前のライブラリー内にある、FLETCHという名前のオブジェクトを保管し、そのオブジェクトがSYSTEM1という名前のリモート・システム上にまだ存在していない場合は、そのオブジェクトをそのリモート・システムに復元します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD80

&1個のオブジェクトが保管され、復元された。

CPFAD8D

&1操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

[トップ](#)

S/36ファイル保管 (SAVS36F)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36ファイル保管(SAVS36F)コマンドは、次のものを作成することができます。

- 1つのデータベース物理ファイルまたは論理ファイルの、システム/36でそのファイルを保管した場合と同じ形式による、ディスクまたはテープ磁気媒体あるいは別のデータベース物理ファイルへのコピー。
- 複数のデータベース物理ファイルまたは論理ファイルの、システム/36でそれらのファイルを全保管セットとして保管した場合と同じ形式による、ディスクまたはテープ磁気媒体へのコピー。これらのファイルは、ライブラリー中のすべてのファイル、ファイル・グループの一部でないすべてのファイル、特定のファイル・グループ内のすべてのファイル、または指定された一組の文字で始まるすべてのファイルとすることができます。

セットをすべて保管は、同一グループ（セット）名を共用し、1回の操作でディスクまたはテープに保管（コピー）されるファイルのグループ（セット）です。ファイルのセットは、セット名を参照することによって1回の操作で復元（ディスクまたはテープからコピー）することができます（システム/36ファイルの復元(RSTS36F)コマンドを参照してください）。

ファイル・グループは、ピリオドを1つ含むファイル名によって定義されます。ピリオドの前の文字はファイル・グループを識別し、ピリオドの後の文字はグループ内のファイルを識別します。システム/36環境内のファイル名の場合は、最大文字数はピリオドを含んで8文字です。ピリオドを含まない名前をもつファイルはファイル・グループの一部ではありません。次の例は、ファイル・グループ内のファイルの名前を示しています。

```
PAYROL.A  
PAYROL.B   ファイル・グループPAYROL内のファイル  
PAYROL.C  
A.ACCTS  
A.INV  
A.PROL     ファイル・グループA内のファイル  
A.B.GO  
A.B.INV  
A.B.GO  
A.B.INV     ファイル・グループA.B内のファイル
```

保管済みファイルは、次のシステムに復元することができます。

- システム/36 (RESTOREプロシージャまたは¥COPYユーティリティー)
- AS/400 (システム/36ファイル復元(RSTS36F)コマンド)

SAVS36Fコマンドは、システム/36とファイルを交換するためのコマンドです。ファイルのバックアップ・バージョンを作成する場合は、AS/400保管コマンド（オブジェクト保管(SAVOBJ)または変更済みオブジェクト保管(SAVCHGOBJ))を使用する必要があります。

制約事項:

1. 次の権限が必要です（通常、資源保護を使用しているシステムで実行する場合だけ適用されます）。
 - このコマンドの*USE権限。

- FROMFILEパラメーターで指定されたファイルまたはファイルのグループの*USE権限。
 - FROMLIBパラメーターで指定されたライブラリーの*USE権限。
 - PHYFILEパラメーターで指定されたファイルに対する*CHANGE権限（既存の物理ファイルに保管する場合）。
 - PHYFILEパラメーターで指定されたライブラリーの*USE権限（物理ファイルに保管する場合）。
 - PHYFILEパラメーターで指定されたライブラリーの*CHANGE権限（物理ファイルに保管し、ファイルが存在していない場合）。
 - ライブラリーQSYS中のディスク装置記述オブジェクトの*USE権限、装置ファイル QSYSDKTの*USE権限（ディスクに保管する場合）。
 - ライブラリーQSYS中のテープ装置記述オブジェクトの*USE権限、装置ファイル QSYSTAPの*USE権限（テープに保管する場合）。
 - 基礎になっている物理ファイルの*USE権限（論理ファイルを保管する場合）。
2. 保管操作に使用するディスクはすべて、INZDKT CLコマンドまたは同等のシステム/36環境の機能 (INIT操作員制御言語(OCL)プロシージャまたは¥INIT SSPユーティリティー) を使用して初期設定する必要があります。両面ディスクの場合には、セクター・サイズ256または1024を使用してください。片面ディスクの場合には、セクター・サイズ128または512を使用してください。テープを使用する場合には、使用する各テープ・ボリュームは、INZTAP CLコマンドまたは同等のシステム/36環境の機能(TAPEINIT OCLプロシージャまたは¥TINIT SSPユーティリティー) を使用して、標準ラベル付きに初期設定しておく必要があります。テープを初期設定するときは、密度1600ビット/インチを使用してください。
- 注: テープまたはディスクを上述のように初期設定しておかないと、システム/36 はその媒体を処理できないこととなります。
3. SAVS36Fによって保管中のファイルには、読み取り操作以外のオブジェクト・レベル機能およびレコード・レベル機能を試みてはいけません。ファイルに対する並行活動（たとえば、ファイルの移動、ファイルの追加、またはレコードの除去など）は、次のようなことが起こります。
- 単一ファイル(FROMFILE(ファイル名)の保管操作の場合、ファイルを割り振ることができないために、保管操作はエスケープ・メッセージCPF9826によって終了することになります。
 - 複数のファイル(FROMFILE(*ALLまたは総称*ファイル名)の保管操作の場合、ファイルを割り振ることができないために、保管操作は照会メッセージCPA2C6Aを送信します。このメッセージによって、無視、再試行、および取り消しを応答することができます。無視を応答すると、このファイルはバイパスされ、次に選択されているファイルを保管しようとします。
4. 単一ファイルをディスクに保管するときは、ディスクに作成する新規ファイルと同じラベルおよび作成日をもつ活動ファイルがすでに入っているはいけません。
5. 複数のファイルをディスクに保管するときは、保管に使用するディスクにどんな活動ファイルが入っていてもいけません。
6. SAVS36Fコマンドによって、物理ファイルと論理ファイルすべてが保管できるわけではありません。
- システム/36環境のもとで（たとえば、BLDINDEX OCLプロシージャによって）作成された論理ファイルまたはシステム/36からのDDM要求によって作成された論理ファイルしか保管できません。これらのファイルは、システム/36代替索引ファイルとして保管されます。
 - システム/36環境のもとで（たとえば、BLDFILE OCLプロシージャによって）作成された物理ファイルまたはシステム/36からのDDM要求によって作成された物理ファイルはすべて、AS/400ファイル記述内に記憶されている情報を使用して保管されます。これらのファイルは、システム/36順次ファイル、直接ファイル、または索引付き物理ファイルとして保管されます。

- レコード長が4096以内になっている限り、AS/400コマンドまたはユーティリティーによって作成されたどんな物理ファイルも保管することができます。これらのファイルは、システム/36順次ファイルとして保管されます。
7. システム/36 RESTOREプロシージャによって処理できる保管形式を生成するためには、次の情報が保管されません。
- 論理ファイルを保管する場合には、ファイルの記述しか保管されません。索引（またはアクセス・パス）は保管されません。
 - 索引付き（キー付き）物理ファイルを保管する場合には、データは保管されますが、索引は保管されません。ファイルが復元された後に、索引が再作成されることとなります。
8. 次の制約事項が命名基準に適用されます。
- 単一ファイルを保管するときは、指定した名前(FROMFILEパラメーター)は命名基準を満たしている必要があります。満たしていないと、SAVS36Fコマンドの処理時に、メッセージCPF0001が送信されます。
 - 複数のファイル(FROMFILE(*ALLまたは総称*ファイル名))の保管操作中に、システム/36命名基準を満たしていないファイルが見つかると、診断メッセージCPF2C0Eが送信され、ファイルは保管されません。
9. 複数のファイル(FROMFILE(*ALL)またはFROMFILE(総称*名))を物理ファイルに保管することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
FROMLIB	FROMライブラリー	名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *PHYFILE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
GROUP	ファイル・グループ修飾子	文字値, *ALL, *NONE	オプション
SET	セット識別コード	文字値, #SAVE	オプション
TOLABEL	ファイル・ラベル	文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *END	オプション
VOL	ボリューム識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し); 文字値, *MOUNTED	オプション
RETAIN	保存日数	0-999, 1	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
DTACPR	データ圧縮	*YES, *NO	オプション
PHYFILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*NOREPLACE, *REPLACE	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *LAST, *ALL	オプション

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

保管するファイルの名前を指定します。ここに指定するファイルは、**FROM**ライブラリープロンプト (FROMLIBパラメーター) に指定するライブラリーの中に存在しているものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

ファイル名

保管する1つのファイルの名前を指定してください。

***ALL** 指定したライブラリーのすべてのファイルが保管されます。どのファイルが保管されるかをさらに詳しく記述するためには、**ファイル・グループ修飾子**プロンプト(GROUPパラメーター) を使用してください。

総称*ファイル名

指定したライブラリー中の保管する1グループのファイルの総称名を指定してください。この総称名と同じ接頭部をもつすべてのファイルが保管されます。総称名は、1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスクからなる文字ストリングとして指定します。

[トップ](#)

FROMライブラリー (FROMLIB)

保管するデータベース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

装置 (DEV)

ディスク装置の名前、あるいは1つまたは複数のテープ装置の名前を指定します。最大4つのテープ装置名を指定することができます。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を入力してください。各装置名は、装置記述によってすでにシステムに知られていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

*PHYFILE

データベース物理ファイルがコピー済みファイルを受け取ります。この物理ファイルの修飾名は**物理ファイル**プロンプト(PHYFILEパラメーター) で指定しなければなりません。**FROM**ファイルプロンプト(FROMFILEパラメーター) に***ALL**または**総称*ファイル名**を指定した場合には、***PHYFILE**は無効です。

装置名 保管操作に使用されるディスク装置の名前、あるいは1つまたは複数のテープ装置の名前を指定します。

[トップ](#)

ファイル・グループ修飾子 (GROUP)

どのファイル・グループを保管するかを指定します。このパラメーターは、**FROM**ファイルプロンプト (FROMFILEパラメーター) に***ALL**を指定した場合にだけ有効です。

***ALL** すべてのファイルが保管されます。

***NONE**

ファイル・グループに属するファイルは保管されません。ファイル・グループに属さないファイルだけが保管されます。

グループ名

ファイル・グループの名前を指定してください。そのファイル・グループに属するすべてのファイルが保管されます。指定したファイル・グループに属さないファイルは保管されません。グループ名の長さは最大7桁とすることができます。名前の最初の文字は、英字(AからZ, #, @,または¥)でなければなりません。残りの文字は、コンマ(,),アポストロフィ('),引用符("),疑問符(?),アスタリスク(*),またはブランクを除く文字(数字, 英字, および特殊文字)の任意の組み合わせとすることができます。ピリオドはファイル・グループ名を示すので、グループ名の一部として含めてはなりません。

[トップ](#)

セット識別コード (SET)

保管するファイルのセット全体を識別するために使用されるセットIDを指定します。このパラメーターは、**FROM**ファイルプロンプト(FROMFILE パラメーター)に*ALLまたは総称名を指定した場合にだけ有効です。

#SAVE

省略時のセットIDが使用されます。

セットID

保管されるファイル全体のセットを識別するために使用されるセットIDを指定してください。セットIDは、最大8文字の長さにすることができます。名前の最初の文字は、英字(AからZ, #, @,または¥)でなければなりません。残りの文字は、コンマ(,),アポストロフィ('),引用符("),疑問符(?),アスタリスク(*),またはブランクを除く文字(数字, 英字, および特殊文字)の任意の組み合わせとすることができます。

[トップ](#)

ファイル・ラベル (TOLABEL)

単一のファイルの保管操作によって作成された新しいディスクセットまたはテープ・ファイルに与えられるラベル値(最大8桁)を指定します。値を指定しない場合には、**FROM**ファイルプロンプト(FROMFILEパラメーター)の値がディスクセットまたはテープ・ラベルとして使用されます。

FROMファイルプロンプト(FROMFILEパラメーター)に*ALLまたは総称名を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープを使用する時にかぎり、保管操作でどの順序番号が使用されるかを指定します。

***END** 指定した1つまたは複数のファイルが、最初のテープの最後の順序番号の後から始まる順序番号に保管されます。つまり、このファイルは現在このテープ・ボリューム上にある他のすべてのファイルの後に続きます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。指定されたファイルに割り当てられる順序番号が9999より大きい場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

複数のファイルを保管する場合には、次のファイルは最初に保管されたファイルの後のファイルに保管されます。割り当てられる順序番号が9999を越える場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

ファイル順序番号

保管操作に使用されるテープ・ファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

テープ・ボリューム上にこの順序番号がすでに存在する場合には、その順序番号のテープ・ラベルはTOLABELパラメーターの値と一致しなければなりません。その順序番号の既存のファイルに重ね書きされて、保管後はこのボリュームの後続のすべてのファイルはアクセスできなくなります。

このテープに新しいテープ・ファイルを追加する場合には、順序番号はそのボリューム上の最後のテープ・ファイルの順序番号より1つ大きい番号でなければなりません。一連の順序番号を飛ばすことはできません。

複数のファイルを保管する場合には、最初のファイルにこの順序番号が使用されます。残りのすべてのファイルは、SEQNBRパラメーターに*ENDを指定した場合と同様に保管されます。割り当てられる順序番号が9999を越える場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト・データが保管されるテープ・ボリュームのボリュームIDを指定します。ボリュームを装置に取り付ける順序は、このパラメーターにボリュームIDが指定された順序と同じでなければなりません。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリュームID

保管操作で使用されるテープまたはディスクットのボリュームIDを指定してください。ボリュームIDは50個まで指定することができます。

[トップ](#)

保存日数 (RETAIN)

新たに作成するテープ・ファイルまたはディスクット・ファイルの保存日数を指定します。これにより、そのファイルは保護された状態になり、保存日数が経過するまでは書き込みができなくなります。

1 1日の保存日数が使用されます。

保存日数

テープ・ファイルまたはディスクット・ファイルを保存する日数を指定してください。保存日数として999を指定した場合には、そのファイルは永久保存ファイルとなります。

[トップ](#)

テープ終了オプション (ENDOPT)

テープを使用する場合に限り、保管操作の終了後に、テープに対してどのような自動位置付けを行うかを指定してください。このパラメーターは、最後に使用されたリールだけに適用されます。

*REWIND

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは巻き戻されません。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

ディスクットを使用する時、ディスクットにデータを書き出す前にデータをシステム/36互換形式に圧縮するかどうかを指定します。このシステム上の他のジョブが活動状態で、データ圧縮を使用している時に、保管コマンドを使用した場合には、システム・パフォーマンス全体に影響することがあります。*PHYFILEまたはテープ装置が装置プロンプト(DEVパラメーター)に指定された場合には、このパラメーターは無効です。

考えられる値は次の通りです。

***NO** データがディスクットに書き出される前に圧縮されることはありません。

***YES** ディスクットに書き出す前にデータを圧縮します。

[トップ](#)

物理ファイル (PHYFILE)

コピー済みファイルを受信するファイル名を指定します。指定されたファイルが存在していない場合には、レコード長が256のキー付きでないプログラム記述ファイルとして現行ライブラリーに作成されます。コピーされたレコードは、物理ファイルの最初のメンバーに入れます。ファイルにメンバーが入っていない場合には、そのメンバーはシステム日付を使用して作成されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

***NOREPLACE**

PHYFILEパラメーターに指定された名前のファイルが、指定されたライブラリーにすでに存在している場合に、エラー・メッセージが送られ、そのメンバーのデータが置き換えられないことを指定します。

***REPLACE**

PHYFILEメンバーを、最初のレコードをコピーする前に消去します。

トップ

作成日 (CRTDATE)

日付区分ファイル（システム/36環境で維持される）の場合に、ファイル（複数の場合もある）のどの段階（メンバー）を保管するかを指定します。日付区分ファイルは別のファイルと同じ名前をもっていますが、異なるファイル作成日をもっています。このシステムでは、日付区分ファイルは複数メンバーの物理ファイルです。

***LAST**

指定された1つまたは複数のファイルのもっとも新しく作成されたメンバーが保管されます。

ALL** 日付区分ファイルのすべてのメンバーが保管されます。保管されるファイルが日付区分ファイルでない場合には、そのファイルの最後に作成されたメンバーだけが保管されます。ALL**は、**FROM**ファイルプロンプト(**FROMFILE**パラメーター) に***ALL**または総称ファイル名を指定した時にだけ有効です。

ファイル作成日

保管するための日付区分ファイル・メンバーの作成日を指定します。ファイル作成日が有効なのは、単一ファイルが保管されるか、あるいはファイル名が **FROM**ファイルプロンプト(**FROMFILE**パラメーター) に指定された時だけです。

トップ

例

例1:単一ファイルの保管

```
SAVS36F FROMFILE(PETE) FROMLIB(QS36F) DEV(I1)
```

このコマンドは、ライブラリーQS36FにあるPETEという名前のファイルを保管します。I1がディスク出入出力装置記述の名前であるとすると、ファイルはそのディスク装置に入っているディスクに保管されます。ディスク・ファイル・ラベルはPETE (**FROMFILE**名と同じ) です。PETEが日付別物理ファイルである場合は、PETEの最後に作成されたインスタンス（メンバー）が保管されます。ディスク・ファイルの保存期間は1日になります（保存期間は翌日の真夜中で終了します）。

例2:単一ファイルの保管

```
SAVS36F FROMFILE(MSTRPAY) FROMLIB(PAYLIB) DEV(T1 T2)  
TOLABEL('PAY.MSTR') RETAIN(999)
```

このコマンドは、ライブラリーMSTRPAYにあるMSTRPAYという名前のファイルを保管します。T1およびT2が磁気テープ装置であるとすると、ファイルは装置T1およびT2上のテープにコピーされます。磁気テープ・ファイル・ラベルはPAY.MSTRであり、その磁気テープ・ファイルは永続ファイルです。保管用に使用された最後の磁気テープは、保管操作の終了時に巻き戻されます。

例3:複数ファイルの保管

```
SAVS36F FROMFILE(*ALL) FROMLIB(QS36F) DEV(T1 T2)
        GROUP(*ALL) SET(ALLFL) RETAIN(999)
```

このコマンドは、ライブラリー内のデータベース物理ファイルおよび論理ファイルのすべて（ファイル・グループに属しているファイルのすべてを含む）を保管します。ファイルのいずれかが日付別ファイルである場合は、各ファイル中で最後に作成されたメンバーだけが保管されます。T1およびT2が磁気テープ装置であるとすると、ファイルは磁気テープ装置T1およびT2に入っているテープ・ボリュームにコピーされます。作成された磁気テープ・ファイルのラベルは、保管されるファイルの名前と同じです。作成された最初の磁気テープ・ファイルはテープ上の最後の順序番号の後にあります。残りのファイルはその先頭ファイルの後にあります。作成された磁気テープ・ファイルは永続です。保管用に使用された最後の磁気テープは、保管操作の終了時に巻き戻されます。すべてのセットが保管されたこれと関連付けられたセットIDはALLFLです。

例4:複数ファイルの保管

```
SAVS36F FROMFILE(*ALL) FROMLIB(QS36F) DEV(T1 T2)
        GROUP(*NONE) CRTDATE(*LAST) SET(NOGFL) RETAIN(999)
```

このコマンドは、ライブラリーQS36F内のデータベース物理ファイルおよび論理ファイルのすべて（ファイル・グループに属しているファイルを除く）を保管します。ファイルのいずれかが日付別ファイルである場合は、各ファイル中で最後に作成されたメンバーだけが保管されます。T1およびT2が磁気テープ装置であるとすると、ファイルは磁気テープ装置T1およびT2に入っているテープ・ボリュームにコピーされます。作成された磁気テープ・ファイルのラベルは、保管されるファイルの名前と同じです。作成された最初の磁気テープ・ファイルはテープ上の最後の順序番号の後にあります。残りのファイルはその先頭ファイルの後にあります。作成された磁気テープ・ファイルは永続です。保管用に使用された最後の磁気テープは、保管操作の終了時に巻き戻されます。すべてのセットが保管されたこれと関連付けられたセットIDはNOGFLです。

例5:複数ファイルの保管

```
SAVS36F FROMFILE(*ALL) FROMLIB(GRPLIB) DEV(I1)
        GROUP(GRP) CRTDATE(*ALL)
```

このコマンドは、ファイル・グループGRP (GRP.01, GRP.02,など) に属しているライブラリーGRPLIB内のデータベース物理ファイルおよび論理ファイルのすべてを保管します。ファイルのいずれかが日付別ファイルである場合は、ファイル中のすべてのメンバーが保管されます。I1がディスク装置であるとすると、ファイルはそのディスク装置に入っているディスクにコピーされます。作成されたディスク・ファイルのラベルは、保管されるファイルの名前と同じです。ディスク・ファイルは1日後に満了します。すべてのセットが保管されたこれと関連付けられたセットIDは#SAVEです。

例6:複数ファイルの保管

```
SAVS36F FROMFILE(PAY*) FROMLIB(PAYROLL) DEV(I1)
        SET(PAYSET) CRTDATE(*LAST)
        VOL(PAYDKT) RETAIN(10)
```

名前が文字PAYで始まっているライブラリーPAYROLL内のデータベース物理ファイルおよび論理ファイル (PAY.01, PAYRATEなど) のすべてを保管します。ファイルのいずれかが日付別ファイルである場合は、最

後に作成されたメンバーだけが保管されます。I1がディスク装置であるとする、ファイルはそのディスクにボリュームID PAYDKTを付けてコピーします。作成されたディスク・ファイルのラベルは、保管されるファイルの名前と同じです。ディスク・ファイルは10日後に満了します。すべてのセットが保管されたこれと関連付けられたセットIDはPAYSETです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2C4A

このコマンドに対して装置&1が正しくない。

CPF2C4B

装置名リストに重複する装置&1が指定された。

CPF2C4C

ディスク装置&1が複数の装置仕様に含まれている。

CPF2C4F

DTACPR(*YES)に対するディスク形式が正しくない。

CPF2C47

ライブラリー&2の既存のファイル&1またはメンバー&3が置き換えられなかった。

CPF2C48

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C49

このコマンドに対して、&2の出力ファイル&1が正しくない。

CPF2C5B

すべてのファイルが保管されたわけではない。

CPF2C5C

すべてのファイルが保管される前に、保管操作が終了した。

CPF2C5D

ライブラリー&1からファイルが保管されなかった。

CPF2C5E

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C5F

9999を超えるテープ・ファイルの順序番号は使用できません。

CPF2C50

ファイル&1のファイル記述が使用可能でない。

CPF2C51

ライブラリー&2のファイル&1のメンバー情報が使用可能でない。

CPF2C52

ライブラリー&2にファイル&1を作成しようとした時にエラーが起こった。

CPF2C54

FROMFILE名&1が長すぎて、TOLABELパラメーターに使用することができない。

CPF2C55

TOLABELパラメーターの値&1に組み込みブランクが含まれている。

CPF2C56

物理ファイル名&1が長すぎる。

CPF2C58

システム/36の場合にはこのディスク形式を受け入れることができない。

CPF2C59

FROMFILEの名前&1が長すぎる。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

STATUS メッセージ*CPI2C13**

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1からレコードをコピー中。

トップ

S/36 ライブラリー・メンバー保管 (SAVS36LIBM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36保管／復元形式のライブラリー・メンバーの保管(SAVS36LIBM)コマンドは、ソース・ファイル・メンバーのコピーを、システム/36に復元できるディスクまたはテープのファイルに、あるいはシステム/36に送信できるこのシステム上のデータベース物理ファイルに作成します。保管されるメンバー・ファイルは、システム/36システム操作員制御言語(OCL)プロシージャ（あるいは¥MAINT SSPユーティリティーの同等のOCL使用）を使用して、システム/36に作成されたレコード・モード LIBRFILEと同様に様式設定されます。システム/36では、ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはディスク・ファイルは、TOLIBRシステムOCLプロシージャ（あるいは¥MAINT SSPユーティリティーの同等のOCL使用）を使用して復元することができます。

データベース物理ファイルが物理ファイルプロンプト(PHYFILE パラメーター)を使用して指定されましたが、存在していない場合には、それが作成されます。

このコマンドは、ソースおよびプロシージャのデータをシステム/36と交換するためのコマンドです。このコマンドは、システム/36から移行したAS/400システムの顧客に単純化されたコマンド・インターフェースを提供しますが、AS/400システム・ソース・ファイルのバックアップにうまく適合しているというわけではありません。AS/400システム・ソース・ファイルまたは個々のソース・ファイル・メンバーのバックアップ・コピーを作成するためには、AS/400システムCLコマンド(SAVOBJまたはSAVCHGOBJ)を使用してください。

制約事項:

1. 資源保護を使用してシステムで実行する時には、次の権限が必要です。
 - このコマンドの*USE権限
 - FROMLIBパラメーターで指定されたライブラリーの*USE権限
 - 指定したライブラリー中のファイルQS36SRCの*USE権限（ソース・ライブラリー・メンバーを保管する場合）
 - 指定したライブラリー中のファイルQS36PRCの*USE権限（プロシージャ・ライブラリー・メンバーを保管する場合）
 - PHYFILEパラメーターで指定されたライブラリーの*USE権限（物理ファイルに保管する場合）
 - PHYFILEパラメーターで指定されたライブラリーの*CHANGE権限（物理ファイルに保管し、ファイルが存在していない場合）
 - そのファイルの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限(MBROPT(*ADD)が指定された物理ファイルに保管する場合)
 - ファイルの*ALL権限(MBROPT(*REPLACE)が指定された物理ファイルに保管する場合)
 - ライブラリーQSYS中のディスク装置記述オブジェクトの*USE権限、装置ファイルQSYSDKTの*USE権限（ディスクに保管する場合）。
 - ライブラリーQSYS中のテープ装置記述オブジェクトの*USE権限および装置ファイルQSYSTAPの*USE権限（テープに保管する場合）

2. メンバーの保管操作に使用するディスクットはすべて、INZDKT CLコマンドまたは同等のシステム/36環境の機能(INIT OCLプロシージャーまたはINIT SSPユーティリティー) を使用して初期設定する必要があります。両面ディスクットの場合には、セクター・サイズ256または1024を使用してください。片面ディスクットの場合には、セクター・サイズ128または512を使用してください。テープを使用する場合には、使用する各テープ・ボリュームは、INZTAP CLコマンドまたは同等のシステム/36環境の機能(TAPEINIT OCLプロシージャーまたはTINIT SSPユーティリティー) を使用して、標準ラベル付きに初期設定しておく必要があります。テープを初期設定するときは、密度1600ビット/インチを使用してください。

注: テープまたはディスクットを上述のように初期設定しておかないと、システム/36 はその媒体を処理できないこととなります。

正しく初期設定されていないテープまたはディスクットを使用すると、メッセージがシステム操作員に送信され、操作員は保管を取り消すか、ボリュームを初期設定して続行することができます。

3. SAVS36LIBMによってメンバーを保管しているときは、ファイルQS36SRCおよびQS36PRCに対する読み取り操作以外のオブジェクト・レベル操作またはレコード・レベル操作を使用してはいけません。必要ファイルを割り振ることができない場合には、メンバーは保管されません。

保管中のメンバーに対する読み取り操作以外のレコード・レベル機能を使用してはいけません。メンバーに対する並行活動(たとえば、レコードの追加または除去など)によって、メンバーが保管操作から除外されることがあります。

4. ファイルをディスクットに保管する場合に、使用するディスクットに、TOLABEL パラメーター値と同じ名前の活動ファイルが入ってはいけません。これは、AS/400システムは重複するディスクット・ファイル・ラベルを認めないためです。
5. SAVS36LIBMコマンドを使用して保管できるのは、指定したライブラリー中のソース・ファイルQS36SRC (*SRCメンバーの場合) およびQS36PRC (*PRCメンバーの場合) からのメンバーだけです。ソース・ファイル・メンバーから保管されるのはメンバー・データだけです(すなわち、ソース順序番号および変更日付フィールドは保管されません)。
6. 指定されたメンバー名または総称メンバー名(FROMMBRパラメーター) は、AS/400システム命名基準を満たしている必要があります。拡張名をもつメンバーを保管するときは、引用符はメンバー名の一部として出力ファイルに記憶されません。たとえば、メンバー"A+B"はA+Bとして保管されることとなります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMMBR	FROMメンバー	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
FROMLIB	FROMライブラリー	名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *PHYFILE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
SRCMBRS	S/36ソース・メンバー	*ALL, *SRC, *PRC	オプション
TOLABEL	ファイル・ラベル	文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *END	オプション
VOL	ボリューム識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *MOUNTED	オプション
RETAIN	保存日数	0-999, 1	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
EXCHTYPE	ディスク・ファイル交換タイプ	<u>*E</u> , *BASIC	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
PHYFILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, <u>*LIBL</u>	
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	<u>*REPLACE</u> , *ADD	オプション
RCDLEN	レコード長	40-120, <u>120</u>	オプション

トップ

FROMメンバー (FROMMBR)

保管するメンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL S/36ソース・メンバープロンプト(SRCMBRパラメーター)** で指定したメンバー・タイプのすべてのメンバーが保管されます。

メンバー名

保管するメンバーのメンバー名を指定してください。

総称*メンバー名

保管するメンバーの総称メンバー名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

トップ

FROMライブラリー (FROMLIB)

保管するメンバーがどのライブラリーに含まれているかを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置 (DEV)

保管操作に使用する装置の名前を指定します。装置は4つまで指定することができます。

これは必須パラメーターです。

*PHYFILE

出力ファイルは、物理ファイルプロンプト(PHYFILEパラメーター)によって指定されたデータベース物理ファイルです。

装置名 保管操作で使用されるディスク装置の名前、あるいは1つまたは複数のテープ装置の名前を指

定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用される順序で装置の名前を入力してください。最大4つのテープ装置名を指定することができます。

[トップ](#)

S/36ソース・メンバー (SRCMBRS)

システム/36のどのソース・メンバー・タイプ（ソース・メンバーおよびプロシージャ・メンバー）を保管するかを指定してください。

- *ALL** FROMメンバープロンプト(FROMMBRパラメーター) に指定されたメンバー名と一致するシステム/36ソース・メンバーおよびプロシージャ・メンバー（取り出し QS36SRCおよびQS36PRC）が保管されます。
- *SRC** FROMメンバープロンプト(FROMMBRパラメーター) に指定されたメンバー名に一致するシステム/36ソース・メンバー（取り出しファイルQS36SRC）だけが保管されます。
- *PRC** FROMメンバープロンプト(FROMMBRパラメーター) に指定されたメンバー名に一致するシステム/36 OCLプロシージャ・メンバー（取り出しファイルQS36PRC）だけが保管されます。

[トップ](#)

ファイル・ラベル (TOLABEL)

出力ディスク・ファイルまたはテープ・ファイルのラベル値（最大8文字）を指定します。装置プロンプト(DEVパラメーター) に*PHYFILEを指定しなかった場合には、ここに値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープを使用する時にかぎり、保管操作でどの順序番号が使用されるかを指定します。

- *END** 指定したメンバーは、最初のテープの最後の順序番号の後から始まる順序番号に保管されます（このファイルは、現在このテープ・ボリューム上にある他のすべてのファイルの後に入れられます）。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。指定されたファイルに割り当てられる順序番号が9999より大きい場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

ファイル順序番号

指定したメンバーの保管時に使用されるテープ・ファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

テープ・ボリューム上にこの順序番号がすでに存在する場合には、その順序番号のテープ・ラベルはTOLABELパラメーターの値と一致しなければなりません。その順序番号の既存のファイルに重ね書きされて、保管後はこのボリュームの後続のすべてのファイルはアクセスできなくなります。

このテープに新しいテープ・ファイルを追加する場合には、順序番号はそのボリューム上の最後のテープ・ファイルの順序番号より1つ大きい番号でなければなりません。一連の順序番号を飛ばすことはできません。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト・データが保管されるテープ・ボリュームのボリュームIDを指定します。ボリュームを装置に取り付ける順序は、このパラメーターにボリュームIDが指定された順序と同じでなければなりません。

*MOUNTED

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリュームID

メンバーの保管に使用するテープまたはディスクットのボリュームIDを指定してください。ボリュームIDは50個まで指定することができます。

[トップ](#)

保存日数 (RETAIN)

新たに作成するテープ・ファイルまたはディスクット・ファイルの保存日数を指定します。これにより、そのファイルは保護された状態になり、保存日数が経過するまでは書き込みができなくなります。

1 1日の保存日数が使用されます。

保存日数

テープ・ファイルまたはディスクット・ファイルを保存する日数を指定してください。保存日数として999を指定した場合には、そのファイルは永久保存ファイルとなります。

[トップ](#)

ディスクット・ファイル交換タイプ (EXCHTYPE)

新たに作成するディスクット・ファイルの交換タイプを指定します。

***E** 省略時の値はE交換ディスクット・ファイルの作成です。E交換ファイルは、TOLIBRプロシージャによってシステム/36に復元できるシステム保管ファイルです。また、このファイルは、システム/36ライブラリー・メンバー復元(RSTS36LIBM)コマンドを使用してAS/400システムにも復元することができます。

*BASIC

出力ディスクット・ファイルは基本交換様式になります。基本交換様式ファイルは、システム/34またはシステム/32のほか、基本交換ディスクット様式をサポートするどのシステムにも復元またはコピーすることができます。

[トップ](#)

テープ終了オプション (ENDOPT)

テープを使用する場合に限り、保管操作の終了後に、テープに対してどのような自動位置付けを行うかを指定してください。このパラメーターは、最後に使用されたリールだけに適用されます。

*REWIND

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは巻き戻されません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

[トップ](#)

物理ファイル (PHYFILE)

コピーされたソース・ファイル・メンバーのデータを受け取る物理ファイルの名前を指定します。

この名前のファイルが存在していない場合、ライブラリー名を指定していなければ、そのファイルはキー付きでない論理レコード長プロンプト(RCDLENパラメーター)によって指定されたレコード長をもつプログラム記述物理ファイルとして、現行ライブラリーに作成されます。この名前のファイルがすでに存在している場合には、40から120の範囲のレコード長をもつキー付きでない物理ファイルであるかぎり、そのファイルが使用されます。コピーされたレコードは、物理ファイルの最初のメンバーに入れられます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

***REPLACE**

最初のレコードをコピーする前にメンバーの内容が消去されます。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

レコード長 (RCDLEN)

メンバーをコピーする時に使用されるファイルのレコード長 (バイト数) を指定します。

120 これはシステム/36のソース・ライブラリー・メンバーおよびプロシージャー・ライブラリー・メンバーで使用できる最大レコード長です。

レコード長

レコード長をバイト数で指定してください。

[トップ](#)

例

例1:単一プロシージャ・メンバーの保管

```
SAVS36LIBM FROMMBR(XYZ1) FROMLIB(JOHNSON)
           DEV(I1) SRCMBRS(*PRC) TOLABEL(XYZ1)
```

このコマンドは、ライブラリーJOHNSON内の（ソース・ファイルQS36PRC中の）単一のOCLプロシージャ・メンバーXYZ1を保管します。I1がディスク装置であるとすると、メンバーはディスク・ファイルXYZ1に保管されます。ファイル長は120であり、保存期間は1日です。

例2:ソースおよびプロシージャ・メンバーのすべての保管

```
SAVS36LIBM FROMMBR(X*) FROMLIB(ORDER) DEV(*PHYFILE)
           PHYFILE(NETLIB/S36SRC) MBROPT(*ADD)
```

このコマンドは、ライブラリーORDER内の文字'X'で始まっている名前ソースおよびプロシージャ・メンバーのすべて(QS36SRCおよびQS36PRC内のメンバー)を保管します。メンバーは、ライブラリーNETLIB内のデータベース物理ファイルS36SRCに保管されます。コピーされるレコードは、ファイル中にすでにある任意のレコードの後に追加されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2C4A

このコマンドに対して装置&1が正しくない。

CPF2C4B

装置名リストに重複する装置&1が指定された。

CPF2C4C

ディスク装置&1が複数の装置仕様に含まれている。

CPF2C43

&2個のメンバーがライブラリー&1から保管され、&3個のメンバーが保管されなかった。

CPF2C44

ライブラリー&1から保管されたメンバーはない。

CPF2C48

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C49

このコマンドに対して、&2の出力ファイル&1が正しくない。

CPF2C5E

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C5F

9999を超えるテープ・ファイルの順序番号は使用できません。

CPF2C50

ファイル&1のファイル記述が使用可能でない。

CPF2C51

ライブラリー&2のファイル&1のメンバー情報が使用可能でない。

CPF2C52

ライブラリー&2にファイル&1を作成しようとした時にエラーが起こった。

CPF2C55

TOLABELパラメーターの値&1に組み込みブランクが含まれている。

CPF2C58

システム/36の場合にはこのディスク形式を受け入れることができない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

STATUS メッセージ*CPI2C13**

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1からレコードをコピー中。

トップ

保管ファイル・データの保管 (SAVSAVFDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管ファイル・データ保管(SAVSAVFDTA)コマンドは、保管ファイルの内容をテープまたは光ディスク媒体に保管します。このコマンドは、装置から直接にオブジェクトを復元できる方法で保管ファイルの保管データを装置に保管します。

ライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドによって作成されたデータが含まれている保管ファイルは、このコマンドでは保管することはできません。

このコマンドによって媒体に書き込まれる情報は、最初に保管ファイル・データを作成した保管コマンドによって前に保管ファイルに書き込まれたデータと類似しています。これには、オリジナル保管操作の実行時に存在していたオブジェクト記述およびオブジェクトの内容が含まれます。

このコマンドは保管ファイルおよび装置記述オブジェクトしか使用しません。また、ファイルに保管したデータに含まれるオブジェクトの記述または内容の参照または修正を行いません。したがって、保管ファイルに含まれたオブジェクトはこのコマンドの実行時にロックされず、保管ファイル中の各オブジェクトの保管履歴情報（各オブジェクトが最後に保管された時点の日付、場所、および時刻）はこのコマンドで更新されません。

保管ファイルの記述は保管操作には含まれません（ファイル中に保管データを作成するために保管されたオブジェクトと一緒に含まれている場合を除きます）。さらに、このコマンドは保管ファイル・オブジェクトの保管履歴情報を更新しないので、最終保管の日付、時刻、および場所は常に保管ファイル・オブジェクトの内容ではなく記述の最終保管操作を識別します。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- 保管ファイルに対する使用(*USE)権限と、テープまたは光ディスク装置記述に対する*USE権限が必要です。
- テープを使用する場合には、標準ラベル付きでなければなりません。
- 保管ファイルは、保管操作が行われている時に実行中のジョブが使用中とすることはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプションル、定位置 3
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプションル
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND , *LEAVE , *UNLOAD	オプションル
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプションル
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES , *NO	オプションル
CLEAR	消去	*NONE , *ALL , *AFTER , *REPLACE	オプションル
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプションル
COMPACT	データ短縮	*DEV , *NO	オプションル
OUTPUT	出力	*NONE , *PRINT , *OUTFILE	オプションル
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプションル
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

トップ

保管ファイル (SAVF)

内容が保管される保管ファイルを指定します。

注: 保管ファイルには直前の保管コマンドによって作成されたデータが入っていない必要があります。そうでない場合は、エラー・メッセージが送られ、その内容は媒体に保管されません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 保管ファイル

名前 内容が保管される保管ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならない、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

*END 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

トップ

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または

媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注：

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定されたすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データの短縮が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

***NONE**

出力リストは作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを設定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名 QSRSAVでQSYS内のQASAVOBJを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を設定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

例

```
SAVSAVFDTA SAVF(ONLINE) DEV(TAP01) SEQNBR(1) CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、保管ファイルONLINEの内容を装置TAP01上のテープ・ボリュームの最初のファイルに保管します。CLEAR(*ALL)が指定されているので、最初のテープ・ボリュームか後続のボリュームのいずれかで終了しなかったファイルは、照会メッセージなしに上書きされます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3805

&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3814

&2の保管ファイル&1からオブジェクトが媒体に保管されなかった。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

機密保護データの保管 (SAVSECDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドは、すべての機密保護情報を保管しますが、その際にシステムを制限状態にする必要はありません。SAVSECDTAコマンドは、以下のものを含め、システム保管(SAVSYS)コマンドが実行された時に保管されるのと同じ機密保護情報を保管します。

- ユーザー・プロファイル
- 権限リスト
- 権限ホルダー

SAVSYSまたはSAVSECDTAコマンドによって保管された情報は、ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)および権限復元(RSTAUT)コマンドを使用して復元することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
- SAVSECDTAコマンドの実行中にユーザー・プロファイルに対して行われた変更は、変更を行った時点と保管操作との関係によっては媒体に反映されない場合があります。
- 他のSAVSECDTAコマンドを同時に実行することはできません。
- オブジェクト事前検査 (PRECHK)パラメーターに*YESが指定され、機密保護オブジェクトを保管できない場合には、保管操作は終了します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, _	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *ALLAVL, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	<u>*DEV</u> , *NO	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

トップ

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

*END 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注:

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

*PERM

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性ありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

トップ

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。消去 (CLEAR)パラメーターで*ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

保管する専用認可が入っている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

***ALLAVL**

システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),および使用可能なすべての独立ASPから専用認可が保管されます。

* システムASP,すべての基本ユーザーASP,さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPから専用認可が保管されます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPから専用認可が保管されます。

***CURASGRP**

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPから専用認可が保管されます。

名前 保管する専用認可が入っているASP装置名を指定します。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注：*AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

トップ

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

このコマンドで指定されたすべてのオブジェクトが保管操作の次の条件を満たしていない場合に、保管操作を終了するかどうかを指定します。(1)オブジェクトが存在する。(2)オブジェクトの損傷が前に見つかっていない。(3)オブジェクトが別のジョブによってロックされていない。(4)保管操作の要求元がオブジェクトの保管の権限を持っている。

***NO** 保管操作が続行され、保管できるオブジェクトだけが保管されます。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後に、1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合に、データの書き出し前に保管操作が終了します。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*MEDIUM

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*HIGH

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVがデータ圧縮 (DTACPR)パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

トップ

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

***NONE** 出力リストは作成されません。

***PRINT** 出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE** 出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名 QSRSAVでQSYS内のQASAVOBJを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

トップ

例

例1: 消去されていないテープの自動消去

```
SAVSECDTA  DEV(TAP01)  CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイル、権限リスト、および権限ホルダーを含む機密保護情報を保管します。それらはTAP01テープ装置で保管されます。CLEAR(*ALL)によって、消去されていないテープが検出された場合はそれらのテープがすべて自動的に消去されます。

例2: 記憶容量を超えた場合のメッセージの送信

SAVSECDTA DEV(TAP01) VOL(ABC)

このコマンドは、機密保護情報を、ABCというラベルのテープ・ボリュームから順にTAP01テープ装置で保管します。保管操作で1つのテープの記憶容量を超えた場合には、別のボリュームをTAP01テープ装置に入れることを要求するメッセージが操作員に対して表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF370A

すべての機密保護オブジェクトが保管ファイル&3に保管されたわけではない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF3737

保管および復元データ域&1が見つからなかった。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3893

すべての機密保護オブジェクトが保管されたわけではない。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A4

ASP装置&1は正しくありません。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

トップ

記憶域の保管 (SAVSTG)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

記憶域保管(SAVSTG)コマンドは、ライセンス内部コードのコピーおよび補助記憶装置の内容（未使用スペースおよび一時オブジェクトは除く）をテープに保管します。この機能は災害時回復バックアップ用です。個々のライブラリーまたはオブジェクトを記憶域保管テープから復元することはできません。

このコマンドは、OPTION(*IMMED)およびRESTART(*YES)を指定したPWRDWN SYS（システム電源遮断）コマンドを発行します。システム電源の遮断時には、システム記憶域をすべて保管する専用保守ツール(DST)が呼び出されます。その時点で、標準ラベル付きテープ・ボリュームをテープ装置に入れなければなりません。必要に応じて追加ボリュームが要求されます。ハードウェア・データ圧縮が使用されるのは、テープ装置でサポートされている場合です。システム記憶域保管機能が完了した後に、初期プログラム・ロード(IPL)が行われます。

記憶域保管操作後のIPL時に、完了メッセージがシステム操作員のメッセージ待ち行列に送られます。ライブラリーQSYS内のデータ域QSAVSTGについてのヒストリー情報は、システム記憶域データが保管された時点の日付および時刻で更新されます。このデータ域中の情報を表示するためには、DETAIL(*FULL)を指定したオブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用してください。

記憶域復元操作は、DSTメニューで適切なオプションを使用して実行します。記憶域復元操作後のIPL時に、完了メッセージがシステム操作員のメッセージ待ち行列に送られ、データ域QSAVSTG中の最終復元日付および時刻ヒストリー情報が現行日付および時刻を用いて更新されます。さらに、データ域QSAVSTGのデータ部分はシステム記憶域復元操作で使用された記憶域保管テープの日付を用いて更新されます。

注: 媒体エラーが起これると、保管操作は最後のテープ・ボリュームから開始されることになるので、このコマンドを使用するのは小さいシステムの場合だけにすることをお奨めします。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
- システムは他のジョブを実行することができません。SBS(*ALL)を指定したサブシステム終了(ENDSBS)を実行するか、あるいはシステム終了(ENDSYS)コマンドを実行して、SAVSTGコマンドを実行中のジョブを除く他のすべてのジョブを終了してください。
- 導入用に使用するためにこのコマンドを使用して作成するテープは、現行の代替IPL装置によってサポートされている密度で初期設定しなければなりません。これを行わない場合には、導入を始める前に、現行IPLテープを、作成するSAVSTGテープの密度をサポートしているテープ装置用に変更しなければなりません。
- SAVSTGコマンドを使用して作成するテープは、自動導入に使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	テープ装置	名前	必須, 定位置 1
EXPDATE	ファイル満了日	日付, <u>*PERM</u>	オプション
CLEAR	消去	<u>*NONE</u> , *ALL	オプション

[トップ](#)

テープ装置 (DEV)

記憶域の保管操作に使用されるテープ装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 使用するテープ装置の名前を指定します。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

*PERM

テープ・ファイルが永続的に保護されます。

日付 テープ・ファイルに対する保護が終了する日付を指定してください。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

消去 (CLEAR)

保管操作中发现した未消去のテープを自動的に消去するかどうかを指定します。未消去のテープとは、満了日が保管操作の日付より後のファイル (EXPDATE(*PERM)) を使用して永続的に保護されるファイルを含む) が入っているテープです。

注: このパラメーターはテープの初期設定を制御するものではありません。保管操作を実行するために使用されるテープは保管コマンドを実行する前に標準ラベル形式に初期設定しておく必要があります。テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用して、NEWVOLパラメーターに値を指定し、テープを標準ラベル形式に初期設定することができます。保管操作時に初期設定されていないテープ・ボリュームが見つかった場合には、照会メッセージが送られ、操作員は保管操作によってテープ・ボリュームを初期設定することができます。

*NONE

保管操作中に消去されていないテープがあった時に、このテープは自動的に消去されません。消去されていないテープのために保管操作を進めることができない場合には、操作員に照会メッセージが送られ、操作員は保管操作を終了するか、あるいは操作を続行できるよう選択されたテープの消去を指定することができます。

*ALL 保管操作中に消去されていないテープがあった時に、これらのテープはすべて自動的に消去されます。

[トップ](#)

例

例1:満了日の指定

```
SAVSTG  DEV(TAP01)  EXPDATE(122290)  CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、システム記憶域をTAP01テープ装置に入れられたテープ上で保管します。消去されていない各テープが自動的に消去されます。書き込まれたテープ・ファイルは保護され、1990年12月22日までは一時変更できません。

例2:システム記憶域の保管

```
SAVSTG  DEV(TAP02)
```

システム記憶域はテープ装置TAP02で保管されます。CLEARが指定されていないので、保管操作中に消去されていないテープが検出されると、照会メッセージが操作員に送られます。操作員は、保管操作を終了するか、あるいは操作を続行できるように、現在選択されているテープが消去されるよう指定します。EXPDATEも指定されておらず、書き込まれているファイルは永続的に保護されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF376A

システムが手操作モードになってはならない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3785

終了していないサブシステムがある。

[トップ](#)

システム保管 (SAVSYS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム保管(SAVSYS)コマンドは、ライセンス内部コードおよびQSYSライブラリーのコピーをオペレーティング・システムの導入と互換性のある形式で保管します。他のライブラリーからのオブジェクトは保管しません。また、機密保護データ保管(SAVSECDTA) コマンドや構成保管(SAVCFG)コマンドを使用して保管することができる機密保護オブジェクトや構成オブジェクトも保管します。

システム・データをオフライン記憶域に保管するために、システムはオブジェクトのコピーを媒体に書き込みます。システム上のライブラリーおよびオブジェクトは影響を受けません。このコマンドは、これらのオブジェクトによって占有されたスペースを解放するためには使用できません。QSYSのデータ域QSAVUSRPRFのヒストリー情報は、日付、時間、およびユーザー・プロファイルが保管された場所によって更新されます。QSYSのデータ域QSAVSYSのヒストリー情報は、日付、時間、およびシステムが保管された場所によって更新されます。QSYSのデータ域QSAVCFGのヒストリー情報は、日付、時間、および構成オブジェクトが保管された場所によって更新されます。個々のオブジェクトのヒストリー情報は更新されません。これらのデータ域に情報を表示するには、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを実行し、DETAIL(*FULL)を指定してください。ユーザー・プロファイルが保管されるロケーションのQSAVUSRPRFの表示から情報を保管します。

このコマンドを使用する場合には、システム上で初期プログラム・ロード(IPL)装置として定義されている装置を使用することが重要です。IPL装置は、システムの導入時にサービス技術員によって定義されています。このコマンドの使用時にIPL装置を使用しないと、SAVSYS媒体を使用してシステムを復元することができません（密度または媒体タイプが非互換である場合）。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
2. SAVSYSコマンドを指定するためには、すべてのサブシステムが非活動状態でなければなりません。サブシステムを非活動状態にするためには、システム終了(ENDSYS)またはサブシステム終了(ENDSBS)コマンドを使用することができます。ENDSYSまたはENDSBSコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。
3. このコマンドを使用して作成され、導入のために使用されるテープは、現行IPL テープ装置でサポートされている密度で初期設定しなければなりません。これを行わない場合には、導入を開始する前に現行IPLテープを、作成されたSAVSYSテープの密度をサポートするテープ装置用に変更しなければなりません。
4. SAVSYSコマンドを使用して作成されたテープは、自動導入には使用しないでください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	単一値: <u>*MOUNTED</u> その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプションル、定位置 2
EXPDATE	ファイル満了日	日付, <u>*PERM</u>	オプションル
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプションル
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	<u>*YES</u> , *NO	オプションル
OMIT	除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *CFG, *SECDTA	オプションル
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプションル
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプションル
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
ASPDEV	ASP装置	名前, <u>*ALLAVL</u> , *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプションル
CLEAR	消去	<u>*NONE</u> , *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプションル
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプションル
COMPACT	データ短縮	<u>*DEV</u> , *NO	オプションル

トップ

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていないなければなりません。

これは必須パラメーターです。

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

*PERM

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複製できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

注: ファイルがすべて最適ブロック・サイズを用いて保管されるわけではありません。

[トップ](#)

除外 (OMIT)

システム保管操作から除外するデータを指定します。

単一値

***NONE**

機密保護データおよび構成データのすべてがシステム保管操作に含まれます。

その他の値 (最大2個指定可能)

***CFG** 構成データのすべてがシステム保管操作から除外されます。SAVCFG (構成保管) コマンドを使用して、構成オブジェクト情報だけを保管することができます。

***SECDTA**

機密保護データのすべてがシステム保管操作から除外されます。SAVSECDTA (機密保護データ保管) コマンドを使用して、システム機密保護データだけを保管することができます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名 QSRSAVでQSYS内のQASAVOBJを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

保管する専用認可が入っている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

***ALLAVL**

システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),および使用可能なすべての独立ASPから専用認可が保管されます。

* システムASP,すべての基本ユーザーASP,さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPから専用認可が保管されます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPから専用認可が保管されます。

***CURASGRP**

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPから専用認可が保管されます。

名前 保管する専用認可が入っているASP装置名を指定します。

[トップ](#)

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。活動状態データを消去すると、すべてのファイルがボリュームから除去されます。光ディスク媒体上の活動状態データを置き換えると最初のボリュームが初期化され、最初のボリュームより後のボリュームでこの操作によって作成された光ディスク・ファイルだけを置き換えます。

注:

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

媒体は自動的に消去されません。保管操作の最初のボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作の最初のボリュームより後に活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了、テープの消去、または光ディスク・ファイルの置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

***AFTER**

最初のボリュームの後ですべての媒体は自動的に消去されます。保管操作の最初のテープに活動データがある場合には、照会メッセージが送信され、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。最初の光ディスク・ボリュームが初期化されます。その他の光ディスク・ボリュームは初期化されません。テープは***ALL**値と同じ方法で消去されます。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: ***DEV**がこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに***YES**が指定され、**COMPACT**パラメーターに***DEV**が指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVがデータ圧縮 (DTACPR)パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

トップ

例

例1:自動的に消去されるテープ

```
SAVSYS  DEV(TAP01)  CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、ライセンス内部コード、システム・オブジェクト、すべてのユーザー・プロファイル（オブジェクトに対する専用認可を含む）と、すべての回線、制御装置、および装置記述を保管します。それらはTAP01テープ装置に入れられたテープに保管されます。消去されていない各テープは、検出された時に自動的に消去され、保管操作は操作員の介入なしに続行されます。

例2:記憶容量を超えた場合に操作員が受け取るメッセージ

```
SAVSYS  DEV(TAP01)  VOL(ABCDE)
```


システム・データは、ABCDEというラベルのデータ・ボリュームから順にTAP01テープ装置で保管されます。保管操作で1つのテープの記憶容量を超えた場合には、別のボリュームをTAP01テープ装置に入れることを要求するメッセージが操作員に対して表示されます。

例3:交互順序での2つのテープ装置へのデータの保管

SAVSYS DEV(TAP01 TAP02)

システム・データは、テープ装置TAP01およびTAP02に交互順序で保管されます。保管操作で2つのテープの記憶容量を超えた場合には、別のボリュームをTAP01テープ装置に入れることを要求するメッセージが操作員に対して表示されます。システムの保管操作が完了すると、テープは巻き戻されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF3703

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF372B

すべてのオブジェクトが保管されたわけではない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3772

SAVSYSは完了した。1つまたは複数のオブジェクトが保管されていません。

CPF3785

終了していないサブシステムがある。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3797

ライブラリー&3からオブジェクトが保管されませんでした。保管の限界を超えました。

CPF3798

導入オブジェクト&2 &1が&3に見つからない。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF3873

ライセンス・プログラム&1オプション&2リリース&4は保管されなかった。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A4

ASP装置&1は正しくありません。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

トップ

システム情報の保管 (SAVSYSINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム情報保管(SAVSYSINF)コマンドはシステム保管(SAVSYS)コマンドによって保管されるシステム・データおよびオブジェクトのサブセットを保管します。

SAVSYSINFは、SAVSYSコマンドの置き換えとしてはみなされず、システム・アップグレードまたはマイグレーションには使用されません。

QSYSから保管されるオブジェクトには、以下のものがあります。

- *JOB
- *JOBQ
- *EDTD
- *JRN
- *SBSD
- *CLS
- *MSGQ
- *TBL
- *IGCTBL
- *DTAARA
- 最後のSAVSYS以降に変更された*CMDオブジェクト
- 最後のSAVSYS以降に変更された*MSGFオブジェクト

保管される追加項目には、以下のものがあります。

- システム応答リスト
- サービス属性
- 環境変数
- 特定のシステム値
- ネットワーク属性
- 最後のSAVSYS以降に適用されたPTF

幾つかの項目は、SAVSYSINFコマンドの一部として保管されません。

- ライセンス内部コード
- QSYSライブラリー
- 機密保護オブジェクト(SAVSECDTAコマンドを使用)
- 構成オブジェクト(SAVCFGコマンドを使用)
- ユーザー・プロファイル(SAVSECDTAコマンドを使用)
- 日時と関連したシステム値

- 変更できないシステム値。変更できるシステム値については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)を参照してください。
- QPWDVLV (パスワード・レベル) システム値

注：SAVSYSINFコマンドは、オブジェクトの保管用に幾つかの保管コマンドを出します。パラメーターは、すべての保管コマンドに使用されることもされない場合もあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***SAVF**

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

***MOUNTED**

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注：

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

*PERM

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注：このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。消去 (CLEAR)パラメーターで*ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注：装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

トップ

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複製できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

トップ

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注：*AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

[トップ](#)

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、**装置 (DEV)**パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVが**データ圧縮 (DTACPR)**パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (**OUTPUT**)パラメーターに***OUTFILE**が指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名 QRSRAVでQSYS内のQASAVOBJを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (**OUTPUT**)パラメーターに***OUTFILE**が指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

[トップ](#)

例

例1:自動的に消去されるテープ

```
SAVSYSINF DEV(TAP01) CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、システム情報をTAP01テープ装置に入れられたテープ上で保管します。消去されていない各テープは、検出された時に自動的に消去され、保管操作は操作員の介入なしに続行されます。

例2:自動的に消去される保管ファイルおよびファイルに生成される出力

```
SAVSYSINF DEV(*SAVF) SAVF(QGPL/SAVF) CLEAR(*ALL)
OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(QGPL/OUTPUT)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中のSAVFという名前の保管ファイルにシステム情報を保管します。この保管ファイルは、自動的に消去されます。保管されたものについての情報は、ライブラリーQGPL中のOUTPUTという名前のファイルの最初のメンバーに書き込まれます。このファイルおよびメンバーは、存在しない場合には作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF38A7

SAVSYSINFが完了しました。1つまたは複数のオブジェクトが保管されていません。

CPD37AD

PTF &1-&2 &3の保管ファイルが見つからない。

[トップ](#)

データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース・ジョブ投入(SBMDBJOB)コマンドによって、ジョブをバッチ・ジョブとして実行できるようにジョブ待ち行列に投入することができます。入力ストリームは、物理データベース・ファイルから、あるいは単一レコード様式を持つ論理データベース・ファイルから読み取られます。このコマンドでは、このデータベース・ファイルとそのメンバーの名前、使用されるジョブ待ち行列の名前、および投入されるジョブが投入ジョブ処理(WRKSBMJOB)コマンドによって表示できるかどうかを指定することができます。

データベース・ジョブ投入操作はファイルを一度読み取り、ファイルの終わりを読み取った場合、あるいは入力終了(ENDINP)コマンドを見つけた時点で終了します。ENDINPコマンド(区切り文字)は、省略時の終了文字(データ(DATA)コマンドのENDCHARパラメーターに指定されたもの)ではない文字で終わるインライン・ファイルの中にある場合は認識されません。SBMDBJOB操作は、システム要求メニューから要求を取り消すか、あるいは処理を実行中のジョブを取り消すことによって取り消すことができます。

データベース読み取りプログラム開始(STRDBRDR)コマンドによって開始されるスプール読み取りプログラムとは対照的に、SBMDBJOBコマンドは機能要求と同じ処理で作動し、入力ストリームに対する構文検査は行いません。

制約事項: 指定のデータベース・ファイルは、単一フィールド・レコードから成っていないとならず、到着順アクセス・パスが必要です。そうでない場合には、標準データベース・ソース・ファイルとしなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 2
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前, QBATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DSPSBMJOB	投入ジョブ・リストに表示	*YES, *NO	オプション

トップ

データベース・ファイル (FILE)

入力ストリームを読み取るデータベース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データベース・ファイル

名前 読み取りたい入力ストリームが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

読み取られる入力ストリームが入っている指定ファイル中のメンバーを指定します。

***FIRST**

メンバー名は指定しません。ファイルの最初のメンバーが使用されます。

名前 読み取る入力ストリームが入っているメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

ジョブ項目が入れられるジョブ待ち行列を指定します。入力ストリーム中でバッチ・ジョブ(BCHJOB)コマンドにJOBQ(*RDR)が指定されている各ジョブについて、この待ち行列にジョブ項目が入れられます。

BCHJOBコマンドに*RDRが指定されていない場合には、BCHJOBコマンドまたはジョブ記述に指定されたジョブ待ち行列が使用されます。(入力ストリームの各ジョブでジョブ待ち行列が異なることがあります。)

このパラメーターは、既存のネットワーク・ジョブ項目または後続のネットワーク・ジョブ項目変更(CHGNETJOBE)コマンドにACTION(*SUBMIT)が指定されている場合にのみ有効です。

注: 読み取り中のジョブのジョブ記述で識別されるユーザーと、データベース・ジョブ投入(SBMDBJOB)コマンドを処理しているユーザーの両方がジョブを受け取るジョブ待ち行列を認可されていない場合には、ジョブは終了し、診断メッセージがジョブ・ログに入れられます。入力ストリームは、次のジョブから処理を続行します。どちらのユーザーもジョブ待ち行列に対して認可されている場合には、ジョブはエラーなしに実行されます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

QBATCH

ジョブ項目はQBATCHジョブ待ち行列に入れられ、これは省略時のジョブ待ち行列です。これは、

バッチ・ジョブ(BCHJOB)コマンドのジョブ待ち行列 (JOBQ)パラメーターに*RDRが指定された場合に起こります。バッチ・ジョブ(BCHJOB)コマンドは、入力ストリーム自身内に入っています。

名前 入力ストリームの各ジョブが送られるジョブ待ち行列の名前を指定してください。これは、バッチ・ジョブ(BCHJOB)コマンドのJOBQパラメーターに*RDRが指定された場合に起こります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

投入ジョブ・リストに表示 (DSPSBMJOB)

投入したジョブを、投入ジョブ画面上に表示するかどうかを指定します。ここに*YESを指定した場合には、投入ジョブ処理(WRKSBMJOB)コマンドを使用した時に、これらの投入されたジョブが表示されます。

***YES** このジョブは、投入ジョブ処理(WRKSBMJOB)コマンドによって表示することができます。

***NO** このジョブは、投入ジョブ処理(WRKSBMJOB)コマンドによって生成されるどの画面上にも表示されません。

トップ

例

SBMDBJOB FILE(QGPL/BILLING)

このコマンドは、QGPLライブラリー中のBILLINGという名前のデータベース・ファイルからの入力データを使用してジョブを投入します。BILLINGファイルの最初のメンバーに、処理する入力ストリームが入っています。省略時のシステム提供ジョブ待ち行列QBATCHが使用されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1751

ジョブ&3/&2/&1の処理中にエラーが起こった。

CPF1754

ライブラリー&2のファイル&1がデータベース・ファイルまたはDDMファイルでない。

CPF1760

ジョブ投入コマンドが使用できません。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3363

ライブラリー&2のメッセージ待ち行列&1が見つからなかった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

STATUS メッセージ*CPF1762**

ジョブ&3/&2/&1を読み取り中。

[トップ](#)

金融機関ジョブ投入 (SBMFNCJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

金融機関ジョブ投入(SBMFNCJOB)コマンドは、金融機関の適用業務プログラムを4701または4702制御装置の適用業務プログラムと通信させるバッチ・ジョブを投入します。

SBMFNCJOBコマンドは、次の場合だけ使用してください。

- 4701または4702制御装置との通信
- 装置テーブルおよびプログラム・テーブルが、装置テーブル処理(WRKDEVTBL)コマンドおよびプログラム・テーブル処理(WRKPGMTBL)コマンドを使用して定義されています。ユーザー・テーブル処理(WRKUSRTBL)コマンドを使用したユーザー・テーブルの定義は任意選択です。
- ユーザーの4701または4702制御装置適用業務プログラムは、最初にデータ（トランザクション）を送信し、応答を待ちます。
- ユーザーの4701または4702制御装置適用業務プログラムは、適切な形式でデータを渡します。

制約事項：このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVTBL	装置テーブル	名前	必須, 定位置 1
PGMTBL	プログラム・テーブル	名前	必須, 定位置 2
USRTBL	ユーザー・テーブル	名前, *NONE	オプション, 定位置 3
JOB	ジョブ名	名前, QFNCJOB	オプション
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QFNC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *WRKSTN, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

装置テーブル (DEVTBL)

金融機関ジョブが、制御する4704または3624装置を決定するために使用する装置テーブルの名前を指定します。これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

プログラム・テーブル (PGMTBL)

金融機関ジョブが、金融機関トランザクションを処理するユーザー・プログラム名を、プログラム識別コード（金融機関トランザクションのデータ・ストリームで送られるもの）によって決定するために使用するプログラム・テーブルの名前を指定します。これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ユーザー・テーブル (USRTBL)

金融機関サインオンが受け取られた時に、有効なユーザーを検査するために金融機関ジョブが使用するユーザー・テーブルの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

ユーザー識別コードは検査されません。

ユーザー・テーブル名

4700装置用のユーザーIDを定義するユーザー・テーブルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

投入される金融機関サブシステムのジョブに関連するジョブ名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

QFNCJOB

QFNCJOBというジョブ名で投入されます。

ジョブ名

投入される金融機関サブシステムのジョブに関連するユーザー定義のジョブ名を指定します。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

金融機関ジョブで使用されるジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*QFNC

投入される金融機関サブシステムのジョブでは、ジョブ記述QFNCを使用します。

ジョブ記述名

金融機関ジョブで使用されるジョブ記述の名前およびライブラリーを指定してください。(ライブラリー名が指定されていない場合には、ジョブ記述は、金融機関ジョブ投入(SBMFNCJOB)コマンドが入力されたジョブで使用するライブラリー・リストから検索されます。)

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL**

ライブラリー・リストを使用して、金融機関ジョブを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、金融機関ジョブを見つけます。ジョブのライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

金融機関ジョブが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

金融機関ジョブの実行中にメッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

WRKSTN

金融機関サブシステムのメッセージは、金融機関サブシステムのジョブが投入されたワークステーションのメッセージ待ち行列に送られます。

***NONE**

金融機関サブシステムのメッセージは、メッセージ待ち行列に送られません。

メッセージ待ち行列名

メッセージが送られるユーザー定義のメッセージ待ち行列の名前およびライブラリーを指定してください。(ライブラリー名が指定されない場合には、金融機関ジョブ投入(SBMFNCJOB)コマンドを出しているジョブのライブラリー・リストを使用して、待ち行列が検索されます。)

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用してメッセージ待ち行列の名前を検索します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、メッセージ待ち行列の名前を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されません。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列の名前が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

例1:獲得する装置と通信するバッチ・ジョブの投入

```
SBMFNCJOB  DEVTBL(DEVTBL1)  PGMTBL(PGMTBL1)  USRTBL(USRTBL1)
```

このコマンドは、バッチ・ジョブQFNCJOBを投入します。ジョブは装置テーブルDEVTBL1から獲得するすべての装置と通信し、USRTBL1でユーザーIDの見つかったユーザーが装置にサインオンできます。PGMTBL1においてアプリケーション・プログラムを呼び出す必要がある金融機関装置によって送信されたそれぞれのトランザクションが判別によって処理されてから、そのプログラムを呼び出します。

この例の金融機関によって使用されるジョブ記述はQFNCです。金融機関ジョブの結果として送信されたメッセージが、ジョブを投入したワークステーションのメッセージ待ち行列に送信されます。

例2:検査されないユーザーID

```
SBMFNCJOB  DEVTBL(DEVTBL2)  PGMTBL(PGMTBL2)  
           JOB(CTFJOB)  JOB(CTFJOB)  MSGQ(*NONE)
```

このコマンドは、バッチ・ジョブCTFJOBを投入します。CTFJOBはジョブ記述CTFJOBで実行され、実行中にワークステーション・メッセージ待ち行列にメッセージを送信しません。ユーザーIDの検査は金融機関ジョブによって実行されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8382

金融機関ジョブを処理することができない。

[トップ](#)

ジョブ投入 (SBMJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ投入 (SBMJOB)コマンドを使用すれば、実行中のジョブが別のジョブをジョブ待ち行列に投入して、後からバッチ・ジョブとして実行できるようにすることができます。要求データの1つの要素だけを新しいジョブのメッセージ待ち行列に入れることができます。ジョブに使用するルーティング項目がCLコマンド処理プログラム（たとえば、IBM提供のQCMDプログラム）を指定している場合には、要求データはCLコマンドであってもかまいません。

注: SBJOBコマンドによって開始されたジョブは、このジョブを投入するジョブの会計コード (ACGCDE)を使用します。投入されたジョブのジョブ記述(JOBD)およびユーザーのユーザー・プロファイル(USRPRF)のACGCDE指定は、いずれも無視されます。

制約事項:

1. SBJOBコマンドを出すユーザーは、以下の権限を必要とします。

- ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限。
- 実行するコマンド (CMD)パラメーターに指定されたコマンドに対する使用(*USE)権限と、そのコマンドが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ記述 (JOBD)パラメーターに指定されたジョブ記述に対する使用(*USE)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ待ち行列 (JOBQ)パラメーターに指定されたジョブ待ち行列に対する使用(*USE)権限と、そのジョブ待ち行列が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- メッセージ待ち行列 (MSGQ)パラメーターに指定したメッセージ待ち行列に対する使用(*USE)権限と追加(*ADD)権限、およびそのメッセージ待ち行列が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 投入 (SBMFOR)パラメーターを使用するためのジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限。

2. 投入されたジョブのユーザーは、以下の権限を必要とします。

- ジョブ記述 (JOBD)パラメーターに指定されたジョブ記述に対する使用(*USE)権限。
- 出力待ち行列 (OUTQ)パラメーターに指定された出力待ち行列に対する読み取り(*READ)権限と、投入したジョブのネーム・スペースにあり、その出力待ち行列が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- システム・ライブラリー・リスト (SYSLIBL)パラメーターに指定されたすべてのライブラリーに対する使用(*USE)権限。
- 現行ライブラリー (CURLIB)パラメーターに指定されたライブラリーに対する使用(*USE)権限。
- 初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)パラメーターに指定されたすべてのライブラリーに対する使用(*USE)権限。
- 初期ASPグループ (INLASPGRP)パラメーターに指定されたすべての補助記憶域プール(ASP)装置記述に対する使用(*USE)権限。

- ・ 分類順序 (SRTSEQ)パラメーターに指定された分類順序テーブルに対する使用(*USE)権限と、投入したジョブのネーム・スペースにあり、その分類順序テーブルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。ジョブ通知出口点がジョブ投入の実行時にDDMデータ待ち行列にメッセージを送ることを登録されている場合には、SBMJOBコマンドがマルチスレッド・ジョブで出されてもメッセージは送られません。ジョブ通知機能の詳細については、API 解説(英文)の実行管理機能についての章でジョブ通知出口点を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	実行するコマンド	コマンド・ストリング	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>*JOB</u>	オプション, 位置 1
JOB	ジョブ記述	単一値: <u>*USRPRF</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: <u>*JOB</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 4
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQでの)	1-9, <u>*JOB</u>	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	1-9, <u>*JOB</u>	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, <u>*CURRENT</u> , *USRPRF, *SYSVAL, *JOB	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: <u>*CURRENT</u> , *USRPRF, *DEV, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
USER	ユーザー	名前, <u>*CURRENT</u> , *JOB	オプション, 位置 3
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, <u>*CURRENT</u> , *JOB, *SYSVAL, *BLANK	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, <u>QCMTDB</u> , *JOB, *RQSDTA	オプション
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, <u>*CMD</u> , *JOB, *NONE, *RTGDTA	オプション
SYSLIBL	システム・ライブラリー・リスト	<u>*CURRENT</u> , *SYSVAL	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, <u>*CURRENT</u> , *USRPRF, *CRTDFT	オプション
INLLIBL	初期ライブラリー・リスト	単一値: <u>*CURRENT</u> , *JOB, *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 250 回の繰り返し): 名前	オプション
INLASGRP	初期ASPグループ	名前, <u>*CURRENT</u> , *JOB, *NONE	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, <u>*JOB</u>	
	要素 2: 重大度	0-99, <u>*JOB</u>	
	要素 3: テキスト	<u>*JOB</u> , *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CL プログラム・コマンドのログ	<u>*JOB</u> , *NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LOGOUTPUT	ジョブ・ログ出力	<u>*JOB</u> D, *SYSVAL, *JOBLOGSVR, *JOBEND, *PND	オプション
JOBMSGQMX	ジョブ・メッセージ待ち行列 最大サイズ	2-64, <u>*JOB</u> D, *SYSVAL	オプション
JOBMSGQFL	ジョブ・メッセージ待ち行列 満杯処置	<u>*JOB</u> D, *SYSVAL, *NOWRAP, *WRAP, *PRTWRAP	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージ応答	<u>*JOB</u> D, *RQD, *DFT, *SYSRPLY	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	<u>*JOB</u> D, *NO, *YES	オプション
SCDDATE	スケジュール日	日付, <u>*CURRENT</u> , *MONTHSTR, *MONTHEND, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション
SCDTIME	スケジュール時刻	時刻, <u>*CURRENT</u>	オプション
DATE	ジョブ日付	日付, <u>*JOB</u> D, *SYSVAL	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, <u>*JOB</u> D	オプション
DSPSBMJOB	WRKSBMJOBによる表示可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
SBMFOR	投入	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 投入	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*USRPRF</u> , *WRKSTN, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SRTSEQ	分類順序	単一値: <u>*CURRENT</u> , *USRPRF, *SYSVAL, *HEX, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, <u>*CURRENT</u> , *USRPRF, *SYSVAL	オプション
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, <u>*CURRENT</u> , *USRPRF, *SYSVAL	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, <u>*CURRENT</u> , *USRPRF, *SYSVAL, *HEX	オプション
CPYENVVAR	環境変数コピー	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ALWMLTHD	マルチスレッド使用可能	<u>*JOB</u> D, *NO, *YES	オプション
SPLFACN	スプール・ファイル・アクション	<u>*CURRENT</u> , *JOB, *SYSVAL, *KEEP, *DETACH	オプション

トップ

実行するコマンド (CMD)

このバッチ・ジョブが開始される時に使用されるルーティング・プログラムがIBM提供の省略時のルーティング・プログラム(QCMD)である場合に、バッチ・ジョブで実行されるコマンドを指定します。このコマンドは要求データ用で使用されるので、このパラメーターは、**要求データまたはコマンド (RQSDTA)**パラメーターと一緒に使用できません。

コマンド・ストリング

バッチ・ジョブで実行されるコマンドを指定してください。このコマンドは20000文字より長くすることはできません。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

このジョブがシステムによって処理される時にこのジョブと関連づけられる名前を指定します。

*JOBID

このジョブで使用されるジョブ記述の単純名は、このジョブの名前です。

名前 システムによる処理中に使用されるジョブの単純名を指定します。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

このジョブとともに使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

*USRPRF

投入済みジョブの初期実行のもととなるユーザー・プロファイルにあるジョブ記述は、投入済みジョブのジョブ記述として使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブで使用するジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブが入れられるジョブ待ち行列を指定します。

単一値

*JOBID

投入されたジョブは、指定されたジョブ記述に名前のあるジョブ待ち行列に入れられます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)

ジョブ待ち行列のスケジュール優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

*JOBQ

ジョブ記述で指定されたスケジューリング優先順位が、このジョブに使用されます。

1から9 ジョブのスケジューリング優先順位を指定します。

[トップ](#)

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

*JOBQ

ジョブ記述で指定された出力優先順位が、このジョブに使用されます。

1から9 投入されたジョブの出力ファイルの優先順位を指定してください。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時の印刷装置の修飾名を指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでファイルをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの出力待ち行列 (OUTQ)パラメーターに省略時の値が指定されているものとみなします。

*CURRENT

現在実行中のジョブによって使用されているものと同じ印刷装置が、投入済みのジョブで使用されます。

*USRPRF

投入されたジョブが最初に実行されるユーザー・プロファイルに指定されている印刷装置が、このジョブの印刷装置として使用されます。印刷装置名は、このコマンドの実行時にプロファイルから取り出されます。

*SYSVAL

このコマンドの実行時にシステム値QPRTDEVに指定されている印刷装置が、投入されたジョブ用として使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されている印刷装置が、投入されたジョブ用として使用されます。

名前 この投入済みジョブに使用する印刷装置の名前を指定してください。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

OUTQ(*JOB)を指定するスプール・ファイルに使用される出力待ち行列の修飾名を指定します。このパラメーターが適用されるのは、OUTQパラメーターに*JOBが指定されている印刷装置ファイルに対してだけです。

単一値

*CURRENT

現在実行中のジョブによって使用される出力待ち行列を、投入済みのジョブについて使用します。

*USRPRF

投入されたジョブが初めて実行される時のユーザー・プロファイルにある出力待ち行列が、投入されたジョブの出力待ち行列として使用されます。コマンドの実行時に、プロファイルからこの出力待ち行列名が取り出されます。

***DEV** 印刷装置ファイルの**装置 (DEV)**パラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。この出力待ち行列の名前は印刷装置と同じです。印刷装置ファイルのDEVパラメーターは、印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF)、印刷装置ファイル変更 (CHGPRTF)、または印刷装置ファイル一時変更 (OVRPRTF)コマンドによって決定されます。

注: これは、印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに省略時の値が指定されていることを前提としています。

*JOB

投入済みジョブとともに使用されるジョブ記述の指定の出力待ち行列が、ジョブの省略時の出力待ち行列です。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 投入済みジョブによって省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

投入されるジョブのユーザー・プロファイルの名前を指定します。ジョブ記述に*RQDが指定されている場合は、*JOBDDを指定することはできません。代わりに、*CURRENTまたはユーザー名を指定しなければなりません。

注:次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QDBSHR
- QDFTOWN
- QDOC
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QRJE
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS
- QTSTRQS

***CURRENT**

現在実行中のジョブが使用しているのと同じユーザー・プロファイルを、投入済みジョブについても使用します。

***JOBDD**

指定されたジョブ記述で指名されているユーザー・プロファイルを、投入されるジョブに使用します。

名前 投入されるジョブで使用しているユーザー・プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページの下部および分離ページに印刷されるテキストを指定します。

***CURRENT**

投入済みジョブと同じ印刷テキストが使用されます。

***JOBDD**

ジョブ記述にある値が、このジョブに使用されます。

*SYSVAL

システム値QPRTTXTが使用されます。

*BLANK

テキストは印刷されません。

文字値 各ページの最後に印刷する文字ストリングを指定してください。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力することができます。

トップ

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの次のルーティング・ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。この経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決めるために使用されます。

QCMDB

IBM提供のサブシステムが、IBM提供の制御言語処理プログラムQCMDにバッチ・ジョブを経路指定するために使用するルーティング・データが使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されているルーティング・データが使用されます。

*RQSDTA

このコマンドの**要求データまたはコマンド (RQSDTA)**パラメーターに指定された要求データの最初の80文字が、ジョブのルーティング・データとして使用されます。

文字値 ジョブを開始するためのルーティング・データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

トップ

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブのメッセージ待ち行列に最後の項目として入れられる要求データを指定します。この要求データは実行するCLコマンドまたは別のプログラムによって使用される文字ストリングとすることができます。

***CMD** 実行するコマンド (CMD)パラメーターからの入力が、このジョブのメッセージ待ち行列に入れます。

*JOB

このジョブで使用するジョブ記述で指定されている要求データは、このジョブのメッセージ待ち行列に入ります。

*NONE

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

*RTGDTA

このコマンドの**経路指定データ (RTGDTA)**パラメーターに指定されたルーティング・データが、最後の項目としてジョブのメッセージ待ち行列に入れられます。

文字値 投入されたジョブのメッセージ待ち行列に最後の項目として入れられる文字ストリングを指定します。最大3000文字まで入力できます（必要な場合にはアポストロフィで囲む）。

システム・ライブラリー・リスト (SYSLIBL)

投入済みジョブによって使用される初期ライブラリー・リストのシステム部分を指定します。

*CURRENT

現在実行中のスレッドによって使用されている同じシステム・ライブラリー・リストが、投入済みジョブに使用されます。

*SYSVAL

システムの省略時システム・ライブラリー・リストが、ジョブによって使用されます。このリストには、ジョブの開始時にシステム値QSYSLIBLに指定されたライブラリー名が入っています。

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

投入されたジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

*CURRENT

現在実行中のスレッドによって使用されている現行ライブラリーが、投入済みジョブに使用されます。

*USRPRF

投入済みジョブが最初に実行されるユーザー・プロファイルの現行ライブラリーは、投入済みジョブの現行ライブラリーとして使用されます。

*CRTDFT

投入されたジョブ用の現行ライブラリーはありません。現行ライブラリーにオブジェクトが作成される場合には、QGPLが省略時の現行ライブラリーとして使用されます。

名前 投入済みジョブの現行ライブラリーとして使用されるライブラリーを指定してください。

トップ

初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオブジェクト名の検索に使用されるライブラリー・リストの初期ユーザー部分を指定します。

注: ライブラリー・リスト内でのライブラリー名の重複は許されません。

単一値

*CURRENT

現在実行されているスレッドで使用中のライブラリー・リストが、投入されたジョブに使用されます。

*JOB

このジョブとともに使用するジョブ記述にあるライブラリー・リストが、このジョブのライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

*SYSVAL

システムの省略時ユーザー・ライブラリー・リストが、このジョブで使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLに指定されていたライブラリー名が入っています。

*NONE

初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空です。

その他の値 (最大250個指定可能)

名前 ライブラリー・リストのユーザー部分であり、このジョブで使用される1つまたは複数のライブラリーの名前を指定してください。これらのライブラリーの検索は、リストされている順序で行われます。

[トップ](#)

初期ASPグループ (INLASPGRP)

投入されたジョブの初期スレッドに、補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドは、ASPグループの設定 (SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更できます。ASPグループがスレッドと関連付けられた場合は、それらのASPグループの独立ASP中のすべてのライブラリーがアクセス可能となり、これらのライブラリー中のオブジェクトは正規のライブラリー修飾オブジェクト名の構文を使用して参照することができます。指定したASPグループの独立ASPの中のライブラリーと、システムASP (ASP番号1)と基本ユーザーASP (ASP番号2から32)の中のライブラリーとともに、スレッドのライブラリー名スペースを形成します。

*CURRENT

現行スレッドのASPグループ名が投入されたジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されている初期ASPグループ名が、投入されたジョブに使用されます。

*NONE

投入されたジョブの初期スレッドがASPグループなしで開始されることを指定します。ライブラリー・ネームスペースには、どのASPグループからのライブラリーも入れられません。ライブラリー・ネーム・スペースに入れられるのは、システムASPおよび基本ユーザーASPのライブラリーだけです。

名前 投入されたジョブの初期スレッドに設定されるASPグループの名前を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASP装置の名前です。このASPグループ中のすべてのASPからのすべてのライブラリーがライブラリー・ネーム・スペースに入れられます。

[トップ](#)

メッセージのロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用されるメッセージのロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ (またはロギング) レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。

要素1: レベル

*JOB

ジョブ記述のメッセージのロギングで指定された値が、このジョブに使用されます。

0から4 このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定してください。使用できるロギング・レベルは次の通りです。

0 メッセージは記録されません。

1 ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られる、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージが記録されます。これには、ジョブ開始、ジョブ終了、およびジョブ完了状況の指示が含まれます。

2 次の情報が記録されます。

- ロギング・レベル1の情報
- このメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度コードの高レベル・メッセージを出す結果となる要求メッセージです。要求メッセージと、関連したすべてのメッセージの両方が記録されます。

注: 高レベル・メッセージとは、要求メッセージを受け取るプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージのことです。たとえば、QCMDは、要求メッセージを受け取るIBM提供の要求処理プログラムです。

3 次の情報が記録されます。

- ロギング・レベル1と2の情報
- すべての要求メッセージ
- CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。

4 次の情報が記録されます。

- すべての要求メッセージと、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージ (トレース・メッセージを含む)。
- CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。

要素2: 重大度

*JOB

ジョブ記述のメッセージのロギングで指定された値が、このジョブに使用されます。

0から99

ジョブ・ログに記録されるエラー・メッセージを決定するために、ロギング・レベルと一緒に使用されるメッセージ重大度を指定してください。

要素3: テキスト

*JOB

ジョブ記述のメッセージのロギングで指定された値が、このジョブに使用されます。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き出されます。

***SECLVL**

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプ(原因と回復)の両方がジョブ・ログに書き出されます。

***NOLIST**

ジョブが異常終了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合 (ジ

ジョブ終了コードが20以上である場合)には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに表示されるメッセージには、メッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方が含まれています。

トップ

CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムの中で実行されるコマンドがそのCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。制御言語(CL)プログラム作成(CRTCLPGM)コマンドで**メッセージのロギング (LOG)**パラメーターに対して*JOBが指定された場合には、**CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)**パラメーターで設定されたフラグが使用されます。**メッセージのロギング (LOG)**パラメーターに対するその他の値は**CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)**パラメーターを一時変更します。コマンドは要求通りの仕方です記録されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

*NO CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されません。

*YES CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されます。

トップ

ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)

ジョブの完了時にジョブ・ログが作成される方法を指定します。これは、メッセージ待ち行列がフルであり、ジョブ・メッセージ待ち行列フル・アクションが*PRTWRAPを指定する時に作成されたジョブ・ログに影響しません。ジョブ・メッセージ待ち行列のメッセージはスプール・ファイルに書き込まれます。ジョブ・ログのメッセージがデータベース・ファイルに書き込まれることを指定するジョブでジョブ・ログ出力の制御(QMHCTLJL) APIが使用されない限り、このスプール・ファイルからジョブ・ログを印刷できます。

ジョブ・ログ出力値は、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で変更できます。ジョブのジョブ・ログ出力値を変更するには、ジョブの変更(QWTCHGJB) APIまたはジョブの変更(CHGJOB)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で表示できます。ジョブ・ログを表示するには、ジョブ・ログの表示(DSPJOBLOG)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブが完了して、ジョブ・ログがまだ作成または除去されていない時に除去できます。ジョブ・ログを除去するには、保留ジョブ・ログの除去(QWTRMVJL) APIまたはジョブの終了(ENDJOB)コマンドを使用してください。

*JOB

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

*SYSVAL

システム値QLOGOUTPUTに指定された値が使用されます。

*JOBLOGSVR

ジョブ・ログは、ジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。ジョブ・ログ・サーバーの詳細については、ジョブ・ログ・サーバーの開始(STRLOGSVR)コマンドを参照してください。

***JOBEND**

ジョブ・ログは、ジョブそのものによって作成されます。ジョブがその固有のジョブ・ログを作成できない場合は、ジョブ・ログはジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。たとえば、システムがシステムの電源遮断(PWRDWN SYS)コマンドを処理している時には、ジョブはその固有のジョブ・ログを作成しません。

***PND** ジョブ・ログは作成されません。ジョブ・ログは除去されるまで保留で残されます。

[トップ](#)

ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを指定します。

***JOB**

ジョブ記述に指定された値がジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを決定します。

***SYSVAL**

ジョブが開始された時点でのシステム値QJOBMSGQMXの値が、ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズとして使用されます。

2から64

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ（メガバイト数）を指定します。

[トップ](#)

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時に取る処置を指定します。

***JOB**

ジョブ記述に指定された値が取られる処置を決定します。

***SYSVAL**

QJOBMSGQFLシステム値に指定された値が使用されます。

***NOWRAP**

いっぱいになった時にメッセージ待ち行列は折り返しません。この処置でジョブが終了します。

***WRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、メッセージ待ち行列の始めに折り返し、再びメッセージが入れ始められます。

***PRTWRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、ジョブ・メッセージ待ち行列を折り返し、折り返しのためにオーバーレイされることになるメッセージを印刷します。

[トップ](#)

照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージに対する応答方法を指定します。ジョブ記述から照会メッセージ応答制御が行われないこと、すべての照会メッセージに回答が必要であること、省略時の回答が出されること、あるいは事前定義照会メッセージが送られるたびにシステム応答リストで一致する回答が調べられることを指定することができます。

***JOB**

このジョブとともに使用されるジョブ記述で指定された照会メッセージ応答制御が使用されます。

***RQD** 照会メッセージの受信者は、このコマンドの実行中に生じるすべての照会メッセージに対して、回答が必要です。

***DFT** 省略時のメッセージ応答が、このコマンドの実行中に出される照会メッセージについて使用されません。

***SYSRPYL**

このジョブの実行の結果として出される照会メッセージの項目で、照会メッセージのIDおよびメッセージ・データと一致するメッセージIDおよび比較データをもっているものがあるかどうかを調べるために、システム応答リストが検査されます。一致するものがある場合には、その項目の応答値が使用されます。そのメッセージに項目が存在していない場合には、回答が必要です。

トップ

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

ジョブ待ち行列に入れる時にこのジョブを保留するかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列上に入れられたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドによって解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドによって終了するまで、保留されています。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値によって、ジョブがジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかが決まります。

***NO** ジョブは、ジョブ待ち行列に入った時点で保留されません。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると保留状態になり、保留解除されるか終了されるまで保留されます。

トップ

スケジュール日 (SCDDATE)

スケジュールされたジョブがジョブ待ち行列に投入されて実行のために適格となる日付を指定します。

システムまたはジョブが年間通算日形式を使用するように構成されている場合には、システムまたはジョブが年間通算日形式を使用しない場合の時のように、*MONTHSTRおよび*MONTHENDが計算されます。

***CURRENT**

投入されたジョブは現行日付で実行に適格となります。

***MONTHSTR**

投入されたジョブは月の最初の日付に実行に適格となります。今日が月の最初の日付であり、

SCDTIMEパラメーターに指定した時刻を過ぎていない場合には、ジョブは今日実行に適格となります。そうでない場合には、ジョブは次の月の最初の日に適格となります。

*MONTHEND

投入されたジョブは月の最後の日付に実行に適格となります。今日が月の最後の日付であり、SCDTIMEパラメーターに指定した時刻を過ぎていない場合には、ジョブは今日実行に適格となります。そうでなく、今日が月の最後の日であり、SCDTIMEパラメーターに指定した時刻を過ぎている場合には、ジョブは次の月の最後の日に適格となります。

*MON ジョブは、月曜日に実行適格となります。

*TUE ジョブは、火曜日に実行適格となります。

*WED ジョブは、水曜日に実行適格となります。

*THU ジョブは、木曜日に実行適格となります。

*FRI ジョブは、金曜日に実行適格となります。

*SAT ジョブは、土曜日に実行適格となります。

*SUN ジョブは、日曜日に実行適格となります。

日付 区切り記号付きまたは区切り記号なしのジョブ日付の形式で日付を指定してください。

[トップ](#)

スケジュール時刻 (SCDTIME)

ジョブが実行適格となるスケジュール日付の時刻を指定します。

注: この時刻は秒で指定することができますが、システムへのロードにより、投入されたジョブの実行が適格となる正確な時刻が影響されることがあります。

ジョブ待ち行列上に同じSCDDATEおよびSCDTIMEが現れるジョブ項目の順序は、それらが到着した順序と異なる場合があります。同様に、これらのジョブは、入力された順序と異なる順序でジョブ待ち行列から取り出されて処理される場合があります。ジョブが正確に同一時刻に開始されるようにスケジュールされている場合には、ジョブが順次に入力または処理されるとは見なさないようにしてください。

*CURRENT

ジョブは現在の時刻に投入されます。

時刻 ジョブを開始したい時刻を指定してください。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のSTRING(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH** =時、**MM** =分、**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のSTRINGを指定します。このコマンドをコマンド行から入力する場合には、このSTRINGをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

[トップ](#)

ジョブ日付 (DATE)

ジョブの開始時にジョブに割り当てられる日付を指定します。

*JOB

ジョブ記述に指定されている日付がジョブ日付となります。

*SYSVAL

ジョブの開始時のシステム値QDATEの値がジョブ日付となります。

日付 ジョブの開始時にジョブ日付として使用される値を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ群について各スイッチの最初の設定値を指定します。これらのスイッチはCLプログラムの中で設定またはテストすることができ、これらのスイッチを使用してプログラムの流れを制御することができます。8桁の文字ストリングには0（オフ）と1（オン）しか指定することができません。

*JOB

ジョブ記述に指定されている値が、ジョブのスイッチの最初の設定値となります。

文字値 投入済みジョブの最初のスイッチの設定値として、0および1からなる8個のスイッチの組み合わせを指定します。

[トップ](#)

WRKSBMJOBによる表示可能 (DSPSBMJOB)

投入するジョブを投入されたジョブの処理パネルに表示できるようにするかどうかを指定します。投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB)コマンドの投入されたジョブ (SBMFROM)パラメーターによって指定されたタイプの投入ジョブを表示することができます (ただし、ジョブがこのパラメーターによって妨げられない場合)。

***YES** このジョブは、WRKSBMJOBコマンドによって表示することができます。

***NO** このジョブは、WRKSBMJOBコマンドが生成するどの画面にも表示されません。

[トップ](#)

投入 (SBMFOR)

投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB)コマンドの投入されたジョブ (SBMFROM)パラメーターで使用するジョブ名を指定します。

単一値

*CURRENT

現在活動中のジョブの名前が使用されます。

修飾子1: 投入

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

ジョブ番号を指定してください。

注: このパラメーターを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

投入されたジョブが正常または異常のいずれかで実行を完了した時に完了メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報が考えられる原因を指定します。

単一値

*USRPRF

送信者のユーザー・プロファイルに指定されているメッセージ待ち行列に、完了メッセージが送られます。

*WRKSTN

ジョブの投入を行ったワークステーションのワークステーション・メッセージ待ち行列に完了メッセージが送られます。ジョブがバッチ・ジョブによって投入された場合には、完了メッセージは送られません。

*NONE

完了メッセージは送られません。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 完了メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

分類順序 (SRTSEQ)

このジョブのストリング比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

単一値

***CURRENT**

現在実行中のジョブに指定された分類テーブルが使用されます。

***USRPRF**

投入済みジョブが初めて実行される時のユーザー・プロファイルに指定された分類テーブルが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ユーザー (USER)**パラメーターで指定されます。

***SYSVAL**

システム値QSRTSEQが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。

***LANGIDUNQ**

固有の重み分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

共用の重み分類テーブルが使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されます。

名前 分類順序テーブルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

このジョブと関連した言語IDを指定します。言語IDが使用されるのは、**分類順序 (SRTSEQ)**パラメーターに***LANGIDUNQ**または***LANGIDSHR**が指定されている時です。ジョブの**CCSID**が65535である場合には、このパラメーターを使用して、ジョブの省略時の値**CCSID (DFTCCSID)**も判別します。

***CURRENT**

現在実行中のジョブに指定された言語IDが使用されます。

***USRPRF**

投入済みジョブが実行されているユーザー・プロファイルに指定された言語IDが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ユーザー (USER)**パラメーターで指定されます。

***SYSVAL**

システム値QLANGIDが使用されます。

文字値 ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

国別または地域ID (CNTRYID)

ジョブによって使用される国別または地域別のID (ID)を指定します。

*CURRENT

現在実行中のジョブに指定された国別または地域別IDが使用されます。

*USRPRF

投入済みジョブが実行するユーザー・プロファイルに指定された国別または地域別のIDが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ユーザー (USER)**パラメーターで指定されます。

*SYSVAL

システム値QCNTYIDが使用されます。

文字値 ジョブが使用する国別または地域別IDを指定してください。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

投入済みジョブに使用されるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

*CURRENT

現在実行中のジョブに指定されたCCSIDが使用されます。

*USRPRF

投入済みジョブが初めて実行される時のユーザー・プロファイルに指定されたCCSIDが使用されます。

*SYSVAL

ジョブが開始された時点でシステム値QCCSIDに指定されたCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。

1から65535

CCSIDを指定してください。

トップ

環境変数コピー (CPYENVVAR)

ジョブ投入からの環境変数を新しいジョブにコピーするかどうかを指定します。

***NO** 環境変数はコピーされません。

***YES** 環境変数はコピーされます。

トップ

マルチスレッド使用可能 (ALWMLTTHD)

ジョブを複数のユーザー・スレッドで実行できるかどうかを指定します。この属性によって、オペレーティング・システムがジョブの中でシステム・スレッドを作成することが妨げられることはありません。ジョブ投入後にこの属性を変更することはできません。

*JOB

ジョブ記述に指定された値は、ジョブを複数のユーザー・スレッドで実行できるかどうかを決定します。

***NO** ジョブを複数のユーザー・スレッドで実行することはできません。

***YES** ジョブを複数のユーザー・スレッドで実行することができます。

[トップ](#)

スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)

ジョブの終了後にジョブ・インターフェースを介してスプール・ファイルにアクセスするかどうかを指定します。スプール・ファイルをジョブとともに保管することによって、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB)などのジョブ・コマンドをスプール・ファイルで処理することができます。ジョブからスプール・ファイルを切り離すと、ジョブの終了時にジョブ構造のリサイクルが可能になるためにシステム資源の使用が削減されます。

*CURRENT

現行ジョブからの値が投入されたジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述の中の値が使用されます。

*SYSVAL

システム値QSPLFACNに指定された値が使用されます。

*KEEP

ジョブが終了すると、ジョブのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に存在していれば、スプール・ファイルはジョブと一緒に保存され、ジョブの状況はジョブが完了したことを示すように更新されます。ジョブの残りのスプール・ファイルがすべて独立ASP (ASP 33から255)に入っていると、それらのスプール・ファイルはジョブから切り離され、ジョブはシステムから除去されます。

*DETACH

ジョブが終了すると、スプール・ファイルはジョブから切り離されて、そのジョブはシステムから除去されます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブを投入する

```
SBMJOB JOB(SPECIAL) JOB(MYLIB/MYJOB) CMD(CALL MYPROG)
```


このコマンドにより、SPECIALという前のジョブが投入されます。ジョブの属性の大部分は、このコマンドを除き、ジョブ記述MYJOBまたは現在実行中のジョブから取られます。CALLコマンドは、プログラムMYPROGを呼び出して後で実行できるように、投入されたジョブのメッセージ待ち行列に入れられます。

例2:ジョブを投入する

```
SBMJOB JOB(PAYROLL) JOBD(PAYROLL) INQMSGRPY(*RQD)
```

このコマンドは、PAYROLLという名前のジョブをシステムに投入します。このジョブのために必要なすべての情報（ジョブ待ち行列やルーティング・データなどで、照会メッセージ制御値ではない）はジョブ記述PAYROLL、すなわち現在実行中のジョブに含まれています。このジョブ記述を見つけるために、このコマンドを出すジョブに有効なライブラリー・リストが使用されます。このジョブの実行中に送られるすべての照会メッセージは、応答する照会メッセージの受け取り先を必要とします。

例3:ジョブ待ち行列に投入する

```
SBMJOB JOBD(*USRPRF) JOB(COPY12) JOBQ(NIGHTQ)  
CMD(CPYF FILEA FILEB)
```

このコマンドは、投入ジョブのユーザー・プロファイルにあるジョブ記述を使用するジョブCOPY12を、ジョブ待ち行列NIGHTQに投入します。CMDパラメーターは、ジョブの実行に必要なCLコマンドを提供します。このようなコマンドは、システムが無人である夜間にファイルをコピーするために使用されることがあります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF133A

IPL中にSBMJOBは使用できない。

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

CPF1651

ソート順序テーブルがアクセスされていない。

[トップ](#)

ネットワーク・ジョブ投入 (SBMNETJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ジョブ投入(SBMNETJOB)コマンドは、SNADSネットワーク中の別のユーザーに、入力ストリームを送ります。(入力ストリームは、これをファイル、投入、または拒否することのできる別のユーザーに送られます。)入力ストリームが到着したら、その配置はジョブ処置(JOBACN)ネットワーク属性によって管理されます。JOBACNの値が*SEARCHである場合には、受信システムのネットワーク・ジョブ・テーブルの中の項目を使用して、取るべき処置が決定されます。受信システムにおいて、ジョブは直ちに投入されるか、受信ユーザーによって配置別にファイルされるか、あるいは拒否されます。

入力ストリームが宛先システムに到着すると、入力ストリームの発信元だけでなく入力ストリームの送信先にも、入力ストリームが到着したことを告げるメッセージが送られます。このコマンドは、バッチ入力ストリームをリモート・システムのユーザーに送信する場合にしか使用することができません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、ユーザーは、投入されるファイルおよびそのファイルが入っているライブラリーに対してオブジェクト操作権限および読み取り権限をもっていなければなりません。
2. このコマンドを使用するためには、ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。(システム配布ディレクトリーへの登録については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。)
3. 受信側システムのジョブ処置(JOBACN)ネットワーク属性が*SEARCHに設定されている場合には、受信側システムのネットワーク・ジョブ・テーブルにユーザーの項目がなければなりません。このテーブル内の項目は、受信側システムでジョブを投入する権限がユーザーにあるかどうかを確認するために使用される、受信側システムのユーザー・プロファイルを指定します。受信側システムのユーザー・プロファイルは、ジョブ待ち行列を使用する権限をもち、入力ストリーム内のJOBコマンドによって指定されたジョブ記述に対してオブジェクト操作権をもっていなければなりません。
4. 投入されるファイルに入れることができるデータの最大量は、約20億バイトです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOUSRID	ユーザー識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
PTY	送信優先順位	*NORMAL, *HIGH	オプション

トップ

ファイル (FILE)

送信する入カストリームが入っている物理ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

ユーザー識別コード (TOUSRID)

入カストリームの投入先の1人または複数ユーザーの2つの部分からなるユーザーID,あるいはファイルの送信先の1人または複数のユーザーの2つの部分からなるユーザーIDが入っている1つまたは複数の配布リストの名前を指定します。ユーザーIDと配布リストの両方を組み合わせて、同じコマンド上に指定することができます。各ユーザーIDまたは配布リストは2つの部分からなる名前として指定され、両方の部分が必須です。

注:

1. 使用されているワークステーションのタイプにより、ユーザーIDの内部値は、ディレクトリー項目表示 (DSPDIRE)コマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。TOUSRIDパラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ユーザーID値の規則に適合していない場合や、登録されたどのユーザーの内部値とも一致していない場合には、エラーが報告されることがあります。
2. このパラメーターまたは配布リストに指定されているユーザーは、リモート・ユーザーでなければなりません。SBMNETJOBコマンドは、入カストリームをローカル・ユーザーに送信するためには使用できません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

メンバー (MBR)

ファイルから送信するメンバーを指定します。

***FIRST**

ファイル内の（作成順で）最初のメンバーが投入されます。

メンバー名

投入するファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

送信優先順位 (PTY)

入カストリームがSNADSネットワークを介して経路指定される時に、入カストリームに使用される待ち行列優先順位を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NORMAL**

入カストリームは、ほとんどのデータ通信に使用されるデータ低のサービス・レベル優先順位で送信されます。AS/400システムでは、データ低の配布は経路指定用に指定された通常優先順位配布待ち行列上に入れられます。

***HIGH**

入カストリームは、高優先順位データ通信に使用されるデータ高のサービス・レベル優先順位で送信されます。AS/400システムでは、データ高の配布は経路指定用に指定されたデータ高配布待ち行列上に入れられます。

[トップ](#)

例

```
SBMNETJOB FILE(PAYROLL) TOUSRID(PAYROLL SYSTEM1)
          MBR(WEEKLY)
```

このコマンドは、ファイルPAYROLLのメンバーWEEKLYに入っている入カストリームをユーザーID PAYROLL SYSTEM1に送ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF8058

ファイル&1はスプール・ファイルである。

CPF8063

必要な資源を割り当てることができない。

CPF8065

&2のメンバー&3の入カストリーム&1はどのユーザーにも送られなかった。

CPF8066

このコマンドの一つ以上のユーザー識別コードが正しくない。

CPF8068

送信するファイルの処理中にエラーが検出された。

CPF8072

送信するオブジェクトが最大サイズの2GBより大きい。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

[トップ](#)

NWSコマンドの投入 (SBMNWSCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー・コマンド投入(SBMNWSCMD)コマンドは、指定のサーバーで実行されるコマンドを投入します。SVRTYPE(*WINDOWS)または(*WINDOWSNT)の場合には、コマンド出力は、CMDSTDOUTパラメーターによって指定された通りに送られます。その他のすべてのタイプの場合には、コマンド出力はコマンドを発行したジョブのジョブ・ログに送られます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	文字値, *NOLOGCMD	必須, 定位置 1
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 2
NOLOGCMD	コマンド (ログに記録されない)	文字値	オプション
SVRTYPE	サーバー・タイプ	*NWSUSRA, *NWSA, *WINDOWS, *NETWARE, *WINDOWSNT	オプション
CMDTYPE	コマンド・タイプ	*SVRTYPE, *WINDOWS, *NETWARE, *WINDOWSNT	オプション
LODUSRPRF	ユーザー・プロファイルのロード	*YES, *NO	オプション
AUTDMN	認証ドメイン	文字値, *PRIMARY, *LOCAL	オプション
CMDSTDOUT	コマンド標準出力	パス名, *JOBLOG, *PRINT	オプション
CVTSTDOUT	標準出力の変換	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

コマンド (CMD)

ネットワーク・サーバーに投入されるコマンドを指定します。このパラメーターに指定されたコマンド・ストリングの構文は検査されません。

*NOLOGCMD

ユーザーがジョブ・ログに記録されないコマンド・ストリングを投入したいことを指定します。これは、コマンド・ストリングにパスワードなどの重要なデータが含まれる場合に有用です。
*NOLOGCMDを指定した場合には、NOLOGCMDパラメーターにコマンド・ストリングを入力しなければなりません。

コマンド

ネットワーク・サーバーに投入されるコマンド・ストリング。このコマンド・ストリングはジョブ・ログに示されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

コマンドの投入先のサーバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

コマンド (ログに記録されない) (NOLOGCMD)

ネットワーク・サーバーに投入されるコマンド・ストリングを指定します。このコマンド・ストリングはジョブ・ログにエコーされません。パスワードなどの重要なデータの入っているコマンドを投入するためには、このパラメーターを使用してください。CMD(*NOLOGCMD)を指定した場合にはこのパラメーターは必要であり、またその場合にしか使用することはできません。

注: コマンドはサーバーで実行されるので、このオプションが存在していても、サーバーがコマンド・ストリングを出力データの一部として戻す妨げにはなりません。したがって、この場合であっても、コマンドによっては、ジョブ・ログまたはスプール・ファイルに戻されて表示されるものがあります。

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

コマンドを送信する先のサーバーのタイプを指定します。

*NWSUSRA

SBMNWSCMDを実行するユーザー・プロファイルのネットワーク・サーバー属性(CHGNWSUSRA コマンド) に指定されているサーバー・タイプが使用されます。

*NWSA

ネットワーク・サーバー属性(CHGNWSAコマンド) に指定されているサーバー・タイプが使用されます。

*WINDOWSまたは*WINDOWSNT

サーバー・タイプはWINDOWSです。WINDOWSコマンドだけが、ローカルWINDOWSサーバーで実行されます。

注: *WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

*NETWARE

サーバー・タイプはNETWAREです。NETWAREコマンドはNETWAREサーバーあてにしか送信できません。

[トップ](#)

コマンド・タイプ (CMDTYPE)

CMDパラメーターに指定するコマンド・ストリングのタイプを指定します。コマンド・ストリングで実行の必要がある処理のタイプを判別するために、システムがこれを使用します。

注: このパラメーターは無視されます。

***SVRTYPE**

コマンド・ストリングは、SVRTYPEパラメーターに指定されたサーバーのタイプに基づいて処理されます。サーバーがNETWAREサーバーの場合には、コマンド・ストリングはNETWAREコマンドであるとみなされます。サーバーが*WINDOWSまたは*WINDOWSNTサーバーである場合には、コマンド・ストリングはWINDOWSコマンドであるとみなされます。

***WINDOWSまたは*WINDOWSNT**

コマンド・ストリングはWINDOWSコマンドです。

注: *WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

***NETWARE**

コマンド・ストリングはNETWAREコマンドです。

トップ

ユーザー・プロファイルのロード (LODUSRPRF)

リモート・サーバー上のユーザー・プロファイルをログイン環境の一部としてロードするかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、SVRTYPE(*WINDOWS)または(*WINDOWSNT)が指定されている場合だけです。

***YES** ユーザー・プロファイルをロードします。

***NO** ユーザー・プロファイルをロードしません。

トップ

認証ドメイン (AUTDMN)

ユーザーが認証されているWINDOWSドメインを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、SVRTYPE(*WINDOWS)または(*WINDOWSNT)が指定されている場合だけです。

***PRIMARY**

ユーザーはサーバーの1次ドメインで認証されています。

***LOCAL**

ユーザーはローカル・サーバーで認証されています。

'ドメイン名'

ユーザーが認証されているドメイン名を指定します。

トップ

コマンド標準出力 (CMDSTDOUT)

コマンドから戻された標準出力を保管する場所（存在している場合）を指定します。標準出力は、このコマンドを発行したジョブのジョブ・ログに書き出すことができ、スプール・ファイルに書き出すことができ、あるいはファイルに書き出すことができます。コマンドから戻された標準エラーは、常に、このコマンドを発行したジョブのジョブ・ログに向けられます（存在している場合）。

注: このパラメーターが有効なのは、SVRTYPE(*WINDOWS)または(*WINDOWSNT)が指定されている場合だけです。

***JOBLOG**

ネットワーク・サーバー・コマンドの標準出力は、このコマンドを発行するジョブのジョブ・ログに指示されます。ジョブ・ログは、ネットワーク・サーバー・コマンドの標準エラー出力と共有されます。この両方は、コマンドが標準出力および標準エラー情報を書き込む順序によって、ジョブ・ログ中で混じることがあります。

***PRINT**

ネットワーク・サーバー・コマンドの標準出力はスプール・ファイルに送られます。CVTSTDOUT(*YES)が指定されている場合には、ある種の制御文字（行送りおよびキャリッジ・リターンなど）は改行に変換され、その他の表示不能制御文字（強調表示および下線など）は空白に変換されます。

'ストリーム・ファイル・パス名'

ネットワーク・サーバー・コマンドの標準出力を指示する先のストリーム・ファイルのパス名を指定します。指定するパスは存在している必要があります。ストリーム・ファイルが存在していない場合には、それが作成されます。ストリーム・ファイルが存在している場合には、すべてのデータがオーバーレイされます。パス名の詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

トップ

標準出力の変換 (CVTSTDOUT)

標準出力を、サーバーのコード・セットからコマンドを投入したI5/OSユーザー・プロファイルのCCSIDに変換するかどうかを指定します。バイナリー出力の場合には、CVTSTDOUT(*NO)を指定する必要があります。

注: このパラメーターが有効なのは、CMDSTDOUT(*PRINT)またはCMDSTDOUT（ストリーム・ファイル・パス名）が指定された場合だけです。

***YES** 出力は、サーバーのコード・セットからコマンドを投入したI5/OSユーザー・プロファイルのCCSIDに変換されます。

***NO** 出力はサーバーのコード・セットから変換されません。

トップ

例

例1: WINDOWSコマンドの投入

```
SBMNWSCMD  CMD('NET CONFIG SERVER')  SERVER(WINSVR)
            CMDSTDOUT(*JOBLOG)
```

このコマンドは、WINDOWSサーバーWINSVR上にWINDOWSサーバー・サービス設定値を表示します。コマンドからの標準出力がIS/OSに戻され、ジョブ・ログに送られます。

例2: NETWAREコマンドの投入

```
SBMNWSCMD  CMD('CONFIG')  SERVER(NTW01)  SVRTYPE(*NETWARE)
```

このコマンドは、NTW01という名前のサーバー上で実行するNETWARE CONFIGコマンドを投入します。出力がジョブ・ログに戻されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA43F

ネットワーク・サーバー・コマンドが投入されなかった。

CPFA46C

サーバー&1でコマンド処理を完了することができない。

CPFA46F

ネットワーク・サーバー記述&1が見つからない。

[トップ](#)

リモート・コマンド投入 (SBMRMTCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・コマンド投入(SBMRMTCMD)コマンドは、DDMファイルによって指定されたターゲット・システムで実行されるように、分散データ管理機能(DDM)を介してCLコマンドを送り出します。DDMファイルは、使用される通信回線を決定し、投入されたコマンドを受け取るターゲット・システムを間接的に識別します。

このコマンドは、SBMRMTCMDコマンド言語をサポートするリモート・システムにCLコマンドを送り出すだけです。CLコマンドでないコマンドを別のタイプのシステムに送り出すことはできません(たとえば、OCLコマンドは、ターゲット・システム/36に送り出すことはできません)。

このコマンドの主な目的は、ソース・システムのユーザーまたはプログラムが、ターゲット・システムにあるファイルについて、ファイル管理操作およびファイル認可操作を行なうことができるようにすることです。

- 物理ファイル、論理ファイル、装置ファイル、あるいはソース・ファイルの作成または削除。
- リモート・ファイルに対するオブジェクト権限の認可または取り消し。
- ファイルまたはその他のオブジェクトの検査、名前変更、または移動。
- ファイルまたはその他のオブジェクトの保管または復元。

制約事項:

- ターゲット・システムでのファイル処理は、ソース・システムでの処理から独立した形で行なわれません。したがって、特定の反復レベルまたは要求レベルにより左右されるコマンドは、意図した通りに働かないことがあります。
- 投入されたコマンドによって生成された出力(スプール・ファイルなど)は、ターゲット・システムだけに存在しています。出力は、ソース・システムに戻されません。したがって、出力結果がターゲット・システムに残ったままであるので、プログラムの保守のために使用される表示コマンドを送らないでください。
- ターゲット・システムのエラーによって出される即時メッセージは、ターゲット・システムに保管されないため、変換は行なわれません。すなわち、即時メッセージのテキストは、ソース・システムに直接送られて表示されます。リモート・システムで生成される他のすべてのタイプのメッセージのメッセージ識別コードがソース・システムに送り戻されます。そのメッセージ識別コードに対応してソース・システムに存在するメッセージ・テキストは、ソース・システムで同じエラーが起こった場合と同様に表示されます。
- ターゲット・システムは、投入された1つのコマンドの実行中に生成されたメッセージを、最高10個までソース・システムに送ることができます。10個を越えるメッセージが生成された場合には、ターゲット・システムのターゲット・ジョブに関するメッセージがジョブ・ログに残っていることを示す追加の通知メッセージが送られます。これらのメッセージの1つがエスケープメッセージである場合には、まずその他のタイプの最初の9つのメッセージが送られ、その後通知メッセージとエスケープ・メッセージが続きます。
- マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドはスレッドセーフではなく、*SNAタイプのDDMファイルに対して正常に実行されません。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	実行するコマンド	文字値	必須, 定位置 1
DDMFILE	DDMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: DDMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

実行するコマンド (CMD)

ターゲット・システムで実行されるコマンドを表わすために、最大2000桁までの文字ストリングを指定します。このコマンドは、ターゲット・システムのバッチ環境と対話式環境の両方で使用できるものでなければなりません。組み込みブランクまたは特殊文字がコマンドに入っている場合には、そのコマンドはアポストロフィで囲まなければなりません。コマンドは、ターゲット・システムの構文を使用するものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

注: 通常の規則によれば、ローカル・システムでは、引用符で囲まれたストリングの中のアポストロフィは対にしなければなりません。同じストリングをリモート・システムに投入する時には、その対のアポストロフィをさらに2重に（すなわち4重に）しなければなりません。これは、引用符付きのストリングの中でさらに引用符付きのストリングをコーディングするために必要です。

トップ

DDMファイル (DDMFILE)

コマンドをターゲット・システムに投入するために使用される分散データ管理機能(DDM)ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このDDMファイルは、ターゲット・システムを表わすリモート・ロケーションを決定するために使用されるだけです。DDMファイルに関連したリモート・ファイル名は、このコマンドによって無視されます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

例

例1: ファイルの削除

```
SBMRMTCMD  CMD('DLTF LIBX/FRED')  DDMFILE(DENVER)
```

このコマンドは、DENVERの名前のDDMファイルと関連した、ターゲット・システム上のライブラリーLIBX中のFREDの名前のファイルを削除します。

例2: 物理ファイルの作成

```
SBMRMTCMD  CMD('CRTPF SALES/CAR  QGPL/QDDSSRC MASTER')
            DDMFILE(DENVER)
```

このコマンドは、ソース・ファイルQDDSSRCのデータ記述仕様(DDS)およびQGPLライブラリー中のMASTERの名前のソース・ファイルを使用して、ライブラリーSALESに物理ファイルCARを作成します。このDDSは、ターゲット・ジョブのライブラリー・リストのDENVERの名前のDDMファイルで識別されるターゲット・システムに事前に存在しなければなりません。

例3: テキスト記述の変更

```
SBMRMTCMD  CMD('CHGDDMF FILE(LIBX/STANLEY)
            TEXT('DON''''T FORGET TO PAIR APOSTROPHES.'))
            DDMFILE(SMITH)
```

このコマンドは、STANLEYの名前のDDMファイルの記述中のテキストを変更して、それをライブラリーLIBXに保管します。投入されるコマンドでは、単一のアポストロフィがその外側に必要である(CMDパラメーターの場合)ので、ローカル・システム処理のTEXTパラメーターに通常必要な単一アポストロフィまたは2重アポストロフィは、リモート・システム処理では二重にしなければなりません。上記のようなコーディングでも、リモート・システムでテキストを表示または印刷する時には、単一アポストロフィで示されません。

例4: DDMファイルの作成

```
SBMRMTCMD  CMD('CRTDDMF FILE(SALES/MONTHLY)
            RMTFILE(*NONSTD ' 'CAR.SALES(JULY) ' '
            RMTLOCNAME(DALLAS) ' '
            DDMFILE(CHICAGO)
```

このコマンドは、(CHICAGOの名前のDDMファイルの情報で識別されるターゲット・システム上に)MONTHLYの名前の別のDDMファイルを作成します。新規のDDMファイルは、CHICAGOシステムのSALESの名前のライブラリー中に保管されます。CHICAGOシステム上の新規DDMファイルを使用して、DALLASの名前の別のシステム上のファイルおよびメンバーにアクセスします。アクセスされるファイルはSALES/CARの名前が付けられ、ファイル中のメンバー名はJULYです。

このCRTDDMFコマンド・ストリングには3セットの単一アポストロフィが含まれています。投入されるコマンド全体を囲む1セットと、RMTFILEパラメーター中に命名されたファイルおよびメンバーを囲む2重のセットです。これは、メンバー名を囲むために括弧が必要であるために、IS/OSファイル・メンバー名をSBMRMTCMDコマンドに指定する方法を示しています。

例5: ライブラリー・リストの一部の置き換え

```
SBMRMTCMD  CMD('RPLLIBL  LIBL(QGPL QTEMP SALES EVANS) '
            DDMFILE(EVANS)
```

このコマンドは、EVANSの名前DDMファイルと関連したターゲット・ジョブで使用されているライブラリー・リストのユーザー部分を置き換えます。これは、このSBMRMTCMDコマンドを投入するソース・ジョブで使用されています。そのソース・ジョブでは、同じ装置およびモードを指定するその他のオープンDDMファイルがある場合には、それらに対してもこのライブラリー・リストが使用されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9164

ターゲット・システムがSBMRMTCMDをサポートしていない。

CPF9165

ライブラリー&2のファイル&1がDDMファイルでない。

CPF917A

分散ファイルでエラーが起こった。

CPF917B

ターゲット・システム&3は使用できない。

CPF9172

SBMRMTCMDコマンドが異常終了した。

CPF9174

ターゲット・システムにおいてユーザー出口プログラムへの呼び出しでエラー。

CPF9175

ユーザー出口プログラムの処理中にエラー。

CPF9177

ユーザー出口プログラムが正常に完了しなかった。

CPF9178

SBMRMTCMDで指定したコマンドの処理が正常に行なわれなかった。

CPF9182

DDM通信を開始することができない。

トップ

選択 (SELECT)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

選択(SELECT)コマンドは、コマンド・グループの条件付き処理を可能にする制御構造を開始します。選択グループは選択終了(ENDSELECT)コマンドで終了し、1つ以上のWHENコマンドおよびオプションのOTHERWISEコマンドを含んでいなければなりません。

SELECTコマンドを入力すると、最初のWHENコマンドに指定された条件が評価されます。条件が真であれば、THENパラメーターに指定されたコマンドが実行されます。このコマンドまたはコマンドのグループが処理されると、対応するENDSELECTコマンドに制御が渡されます。SELECTグループ内では、ただ1つのWHENまたはオプションのOTHERWISEが処理されます。

最初のWHEN条件が真でないと、後続のWHENコマンドが指定された順に評価されます。すべてのWHENコマンド条件が真でないと、OTHERWISEコマンドに指定されたコマンドに制御が渡されます(OTHERWISEが指定されている場合)。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- ネストされたSELECTコマンドのレベルは、最大で25まで可能です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

```
DCL  VAR(&INT)  TYPE(*INT)  LEN(4)
:
SELECT
  WHEN  COND(&INT *LT 0)  THEN(DO)
  :      (CLコマンドのグループ)
ENDDO
  WHEN  COND(&INT *EQ 0)  /*ゼロの時は何もしない*/
  WHEN  COND(&INT *GT 0)  THEN(CHGVAR &INT (&INT - 1)
ENDSELECT
```

SELECTコマンドは、WHENコマンドの条件を、WHENコマンドの検出順に評価します。CONDパラメーターが真値になると、THENパラメーターに指定されたコマンドが処理されます。THENパラメーターにあるコマンドの処理が完了すると、ENDSELECTコマンドの次にあるコマンドに制御権が移ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ASPグループの設定 (SETASPGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

補助記憶域プール・グループ設定(SETASPGRP)コマンドは、現行スレッドに補助記憶域プール(ASP)グループを設定します。さらに、このコマンドによって現行スレッドのライブラリー・リスト中のライブラリーを変更することができます。ASPグループがすでに設定されている場合には、このコマンドは現行スレッドから古いASPグループを除去してから、指定されたASPグループを現行スレッドに設定します。指定したASPグループを現行スレッドに設定した後は、そのASPグループの独立ASPの中のすべてのライブラリーにアクセスできるようになり、それらのライブラリーの中のオブジェクトは、通常のライブラリー修飾オブジェクト名構文を使用して参照することができます。指定したASPグループの独立ASPの中のライブラリーと、システムASP (ASP番号1)と基本ユーザーASP (ASP番号2から32)の中のライブラリーはともに、スレッドのライブラリー名スペースを形成します。ライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーは新規のライブラリー名スペースの中に入っていないなければなりません。そうでなければ、ライブラリー・リストを変更したり、新規のASPを設定することができません。

制約事項:

- ライブラリー名スペースおよびライブラリー・リストを変更するためには、ASPグループのすべてのASP装置記述およびライブラリー・リスト中の指定したすべてのライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。ASP装置記述またはライブラリーの1つに対する権限がない場合には、ASPグループは設定されず、ライブラリー・リストは変更されません。
- **ASPグループ (ASPGRP)**または**現行スレッドのライブラリー (USRLIBL)**パラメーターに*CURUSRが指定された時は、ユーザー・プロファイルにリストされているジョブ記述に対する読み取り(*READ)権限、およびそのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- 以下のものの中では、SETASPGRPコマンドを使用することはできません。
 - システム・ジョブQPFRADJ, QJOBSCD, QSYSARB, QSYSARB3, QSYSARB4,およびQLUS。
 - すべてのサブシステム・モニター・ジョブ。
 - 初期ネーム・スペースが確立された後のDDM, DRDA,データベース・ホスト・サーバー, およびSQLサーバー・ジョブ。
 - ジャーナル項目受信(RCVJRNE)およびジャーナル・レシーバー削除(DLTJRNRCV)コマンド出口プログラム。
 - MANAGEMENT CENTRAL REGISTERED INVENTORY GATHERING SERVICE (RIGS)出口プログラム (出口点QIBM_QYIV_INVGTRSRV)。
 - データベース入出力操作の一部として実行されるトリガーまたはフォーマット選択プログラム。
 - アテンション・プログラム(SETATNPGMコマンドのPGMパラメーター)。
 - 中断処理プログラム(CHGMSGQコマンドのPGMパラメーター)。
 - プログラム開発管理機能(PDM)。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASPGRP	ASPグループ	名前, *CURUSR, *NONE	必須, 定位置 1
SYSLIBL	システム・ライブラリー・リスト	*CURSYSBAS, *SYSVAL	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *CURSYSBAS, *CURUSR, *CRTDFT	オプション
USRLIBL	現行スレッドのライブラリー	単一値: *CURSYSBAS, *CURUSR, *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 250 回の繰り返し): 名前	オプション

トップ

ASPグループ (ASPGRP)

現行スレッドに設定する補助記憶域プール(ASP)グループの名前を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASP装置の名前です。

これは必須パラメーターです。

*CURUSR

ASPグループは、スレッドが現在実行されているユーザー・プロファイルの省略時のジョブ記述中の初期ASPグループ (INLASPGRP)に定義されている値に設定されます。

*NONE

ASPグループをもたない現行スレッドの場合に指定します。ライブラリー・ネームスペースには、どのASPグループからのライブラリーも入れられません。ライブラリー・ネーム・スペースに入れられるのは、システムASPおよび基本ユーザーASPのライブラリーだけです。

名前 現行スレッドに設定するASPグループ中の1次ASPの名前を指定してください。このASPグループ中のすべてのASPからのすべてのライブラリーがライブラリー・ネーム・スペースに入れられます。

トップ

システム・ライブラリー・リスト (SYSLIBL)

コマンドが入力されるスレッドのライブラリー・リストのシステム部分を指定します。

*CURSYSBAS

システムASP (ASP番号1)または任意の構成済み基本ユーザーASP (ASP番号2から32)の中にある現行スレッドのライブラリー・リストのシステム部分の中のライブラリーが、ライブラリー・リストの新規のシステム部分として使用されます。

*SYSVAL

現行スレッドのライブラリー・リストのシステム部分は、システム値QSYSLIBLの現行値から設定されます。

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

スレッドのライブラリー・リストの現行ライブラリー項目に使用されるライブラリーを指定します。

*CURUSRまたはライブラリー名が指定されていて、新規のライブラリー名スペースの中にライブラリーが見つからない場合には、エラー・メッセージが送信され、ライブラリー・リストとASPグループは変更されません。

*CURSYSBAS

ライブラリーがシステムASP (ASP番号1)または任意の構成済み基本ユーザーASP (ASP番号2から32)の中に見つかった場合には、ライブラリー・リストの現行ライブラリー項目の中のライブラリー名が新規の現行ライブラリーとして使用されます。現行項目の中のライブラリー名がシステムASPまたは任意の基本ユーザーASPの中に見つからない場合には、ライブラリー・リストから現行ライブラリー項目が除去されます。

*CURUSR

現行ライブラリーは、そのもとでスレッドが現在実行中であるユーザー・プロファイルの**現行ライブラリー (CURLIB)**属性に定義された値に設定されます。

*CRTDFT

現行ライブラリー項目からすべての名前を除去するように、ライブラリー・リストを変更します。ライブラリー名に*CURLIBが指定されてオブジェクトが作成されている場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

名前 ライブラリー・リスト中の現行ライブラリー項目を置き換えるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

現行スレッドのライブラリー (USRLIBL)

ライブラリー・リストのユーザー部分に配置されるライブラリーを指定します。*CURUSRまたはライブラリー名のリストが指定されていて、新規のライブラリー名スペースの中にこれらのライブラリーのどれも見つからない場合には、エラー・メッセージが送信され、ライブラリー・リストとASPグループは変更されません。

単一値

*CURSYSBAS

システムASP (ASP番号1)または任意の構成済み基本ユーザーASP (ASP番号2から32)の中にある現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分の中のライブラリーが、ライブラリー・リストの新規のユーザー部分として使用されます。

*CURUSR

スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分は、スレッドが現在実行されているユーザー・プロファイルの省略時のジョブ記述の中の**初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)**に定義されている値に設定されます。

*SYSVAL

ライブラリー・リストのユーザー部分はシステム値QUSRLIBLの現行値から設定されます。

*NONE

すべてのライブラリー名を除去するように、ライブラリー・リストのユーザー部分を変更します。

その他の値 (最大250個指定可能)

名前 ライブラリー・リストのユーザー部分として使用するライブラリーの名前を、それらが検索される順序で指定してください。

[トップ](#)

例

例1:新しいASPグループを設定する

```
SETASPGRP ASPGRP(WAREHOUSE1) SYSLIBL(*SYSVAL) CURLIB(*CURUSR)
           USRLIBL(*CURSYSBAS)
```

このコマンドは、このコマンドが実行されるスレッドの補助記憶域プール(ASP)グループをWAREHOUSE1に設定します。そうすると、スレッドのライブラリー名スペースは、WAREHOUSE1という名前の独立ASP装置によって識別されるASPグループ内の独立ASPにあるすべてのライブラリーを組み込むように変更されます。ライブラリー・リストのシステム部分は、システム値QSYSLIBLから設定されます。ライブラリー・リストの現行ライブラリー項目は、スレッドが現在実行中であるユーザー・プロファイルに定義されている現行ライブラリー値から設定されます。ライブラリー・リストのユーザー部分は、ライブラリー・リストの現行ユーザー部分を使用し、システムASPまたは構成済み基本ユーザーASPに見つからないライブラリーを除去して、設定されます。

例2:どのASPグループにも設定しない

```
SETASPGRP ASPGRP(*NONE) SYSLIBL(*CURSYSBAS) CURLIB(*CRTDFT)
           USRLIBL(*NONE)
```

このコマンドは、このコマンドが実行されるスレッドのASPグループを除去します。そうすると、スレッドのライブラリー名スペースは、システムASP (ASP番号1)および基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に入っているライブラリーのみを組み込むように変更されます。ライブラリー・リストのシステム部分は、ライブラリー・リストの現行システム部分を使用し、システムASPまたは構成済み基本ユーザーASPに見つからないライブラリーを除去して、設定されます。ライブラリー・リストの現行ライブラリー項目は空になるように変更されます。そうすると、ライブラリーQGPLが現行ライブラリーとして使用されるようになります。ライブラリー・リストのユーザー部分は空になるように変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPFB8E9

ASPグループ&1はスレッド&2に対して設定されません。

[トップ](#)

アテンション・プログラムのセット (SETATNPGM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アテンション・プログラムのセット (SETATNPGM)コマンドは、ATTNキーが押された時に呼び出されるプログラムを設定します。他にもプログラムが呼び出される場合には、設定値は、この反復レベルおよびこれより低いレベルで有効ですが、ジョブがこの反復レベルから前のレベルに戻された場合には、設定値は無効となります。ATTNキー処理プログラムの状況がオンになっている場合には、ATTNキーを押すと、指定したプログラムが呼び出されます。ATTNキー処理プログラムが呼び出される時には、このプログラムにパラメーターは渡されません。アテンション処理プログラムは、SETATNPGMコマンドを出したプログラムと同じジョブ属性権限、一時変更権限、およびグループ権限をもつ同じ処理の中で実行されます。ただし、プログラム借用権限は含まれません。プログラム処理のアテンションは独立の補助記憶域プール(ASP)中に入れてはいけません。これは、システムASPまたは基本ユーザーASP中に常駐しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	単一値: *CURRENT, *PRVINVLVL その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SET	アテンション・キーのセット	*ON, *OFF	オプション, 定位置 2

トップ

プログラム (PGM)

この反復レベルでATTNキー処理プログラムとなるプログラムの修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*CURRENT

現在使用されているATTNキー処理プログラムのプログラム名が、このパラメーターの値として使用されます。

*PRVINVLVL

前の反復レベルで有効となっているATTNキー処理プログラムは、この反復レベルでのATTNキー処理プログラムとして復元されます。この特殊値を指定した場合には、前の反復レベルのSET状況も

復元されるため、**アテンション・キーのセット (SET)**パラメーターを使用することはできません。このオプションは、プログラムがアテンション・プログラムを指定しており、前のレベルに戻りたい時に使用されます。

修飾子1: プログラム

名前 ATTNキー処理プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 アテンション・プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

アテンション・キーのセット (SET)

ATTNキーが押された時に、**プログラム (PGM)**パラメーターに示されているATTNキー処理プログラムを呼び出すかどうかを指定します。このパラメーターは、PGMパラメーターに***PRVINVLVL**が指定されている場合には使用できません。

***ON** **プログラム (PGM)**パラメーターで指定されているATTNキー処理プログラムは、ATTNキーが押された時点で呼び出されます。

***OFF** **プログラム (PGM)**パラメーターで指定されているATTNキー処理プログラムは、ATTNキーが押された時点では呼び出されません。

トップ

例

例1: ATTNキー・ハンドラーを設定する

```
SETATNPGM PGM(QGPL/ATTN) SET(*ON)
```

このコマンドにより、プログラムQGPL/ATTNがATTNキー・ハンドラーになります。SET(*ON)が指定されているので、ATTNキーが押されるとプログラムが呼び出されます。

例2:アテンション・キーをオフにする

```
SETATNPGM PGM(*CURRENT) SET(*OFF)
```

現在のアテンション処理プログラムは、その状況がSET(*OFF)に変更されています。状況がSET(*OFF)なので、ATTNキーが押されても、アテンション処理プログラムは呼び出されません。

例3:前の反復レベル・サポート

```
SETATNPGM PGM(*PRVINVLVL)
```


前の反復レベルで有効であったアテンション処理プログラムおよび状況が、この反復レベルに復元されません。どのアテンション・ハンドラーも有効でないと、このコマンドが実行された後でATTNキーが押されても、何も行われません。

例4:システム要求キーをエミュレートする

```
SETATNPGM PGM(QWSSYSRQ)
```

ATTNキーが押されると、システム提供プログラムQWSSYSRQが呼び出されます。このシステム・プログラムにより、ATTNキーは、ATTNキーが押された時にシステム要求メニューを表示することによって、システム要求キーとして働くことができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1318

&2のアテンション・キー・プログラム&1はセットされなかった。

[トップ](#)

カスタマイズ・データ設定 (SETCSTDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

カスタマイズ・データ設定(SETCSTDTA)コマンドを使用して、グラフィカル操作をサポートするために、作業域の内容およびマウスのダブルクリック処置値などのデータをカスタマイズするための情報をコピーおよび削除することができます。

このコマンドを使用して、管理担当者は、指定のユーザー・プロファイルから情報を検索、および他のユーザー・プロファイルへそれをコピーすることによって、ユーザーをセットアップすることができます。また、管理担当者は、指定のユーザーのカスタマイズされた値を除去したり、カスタマイズされた値を指定のユーザー・プロファイルからのデータで置き換えることを選択することもできます。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

エラー・メッセージ: SETCSTDTA

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

GUI0085

&1にカスタマイズ・データがありません。

GUI0087

一部のユーザー・プロファイルで、カスタマイズ・データが正常にコピーされていません。

GUI0091

一部のユーザー・プロファイルで、カスタマイズ・データが正常に削除されませんでした。

GUI0117

&1は、サブセット・キーとしては正しくありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	値 (最大 300 回の繰り返し): 単純名	必須, 定位置 1
VALUE	使用するカスタマイズ・データ	単純名, *NONE	必須, 定位置 2
REPLACE	カスタマイズ・データ置き換え	*NO, *YES	オプション, 定位置 3

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

カスタマイズされた値を、設定または再び設定し直すオプションで除去するユーザー・プロファイルの名前を指定します。最大300のユーザー・プロファイルを指定することができます。

このパラメーターには複数個の値を入力することができます。入力画面が表示されており、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、"続く場合には+"の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

これは必須パラメーターです。

使用するカスタマイズ・データ (VALUE)

ユーザー・プロファイルプロンプト (USRPRFパラメーター) で指定されたユーザー・プロファイルを設定するための、カスタマイズ・データ値を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

カスタマイズ・データはユーザー・プロファイルから除去され、カスタマイズ値は設定されません。

ユーザー・プロファイル

カスタマイズ値データがそこからコピーおよび設定されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

カスタマイズ・データ置き換え (REPLACE)

ユーザー・プロファイルプロンプト (USRPRFパラメーター) で指定されたユーザー・プロファイルにカスタマイズ・データがある場合には、既存のカスタマイズ・データを置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 既存のカスタマイズ・データは置き換えられません。例外メッセージが出されます。

***YES** 既存のカスタマイズ・データは、使用するカスタマイズ・データプロンプト (VALUEパラメーター) で指定されたユーザー・プロファイルのカスタマイズ・データで置き換えられます。

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

GUI0085

&1にカスタマイズ・データがありません。

GUI0087

一部のユーザー・プロファイルで、カスタマイズ・データが正常にコピーされていません。

GUI0091

一部のユーザー・プロファイルで、カスタマイズ・データが正常に削除されませんでした。

GUI0117

&1は、サブセット・キーとしては正しくありません。

[トップ](#)

キーボード・マップのセット (SETKBDMAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

キーボード・マップ設定(SETKBDMAP)コマンドを使用すると、ユーザーはシステムによるPA（プログラム・アテンション）キーおよびPF（プログラム機能）キーの省略時の割り当てを一時変更することができます。

このコマンドは、指定されたF-PFマップを、コマンドを入力した装置に（3270 表示装置の場合）、あるいは指定された3270表示装置の権限がユーザーにある場合にはその装置に変更します。ユーザー割り当て可能キーボード・マッピングの詳細は、REMOTE WORK STATION SUPPORT (SC41-5402)ブックにあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前, <u>*REQUESTER</u>	オプションル、定位置 1
PF1	PF1キーの値	<u>*HELP</u> , *ATTN, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションル
PF2	PF2キーの値	*ATTN, *HELP, <u>*HLP3270</u> , *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションル
PF3	PF3キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, <u>*CLEAR</u> , *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションル
PF4	PF4キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, <u>*PRINT</u> , *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションル
PF5	PF5キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, <u>*DSPATR</u> , *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションル

キーワード	記述	選択項目	注
PF6	PF6キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF7	PF7キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF8	PF8キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF9	PF9キーの値	*NONE, *ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF10	PF10キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF11	PF11キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF12	PF12キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF13	PF13キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF14	PF14キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PF15	PF15キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	注
PF16	PF16キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PF17	PF17キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PF18	PF18キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PF19	PF19キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PF20	PF20キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PF21	PF21キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PF22	PF22キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PF23	PF23キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PF24	PF24キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA1PF1	PA1-PF1キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PA1PF2	PA1-PF2キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF3	PA1-PF3キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF4	PA1-PF4キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF5	PA1-PF5キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF6	PA1-PF6キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF7	PA1-PF7キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF8	PA1-PF8キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF9	PA1-PF9キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF10	PA1-PF10キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル
PA1PF11	PA1-PF11キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	注
PA1PF12	PA1-PF12キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF1	PA2-PF1キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF2	PA2-PF2キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF3	PA2-PF3キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF4	PA2-PF4キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF5	PA2-PF5キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF6	PA2-PF6キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF7	PA2-PF7キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF8	PA2-PF8キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF9	PA2-PF9キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PA2PF10	PA2-PF10キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF11	PA2-PF11キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション
PA2PF12	PA2-PF12キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12	オプション

トップ

装置 (DEV)

このキーボード・マッピング機能を割り当てる有効な3270表示装置を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*REQUESTER

このマッピングは、コマンドが入力された装置に割り当てられます。

装置名 新しいキーボード・マッピングを適用する装置の名前を指定します。指定する装置に対して割り振り権限をもっていなければなりません。

トップ

PF1キーの値 (PF1)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

***DSPATR**
組み込み表示属性

***TEST**
テスト要求

***DOWN**
前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**
割り当てなし

***RESET**
エラー・リセット

***SYSREQ**
システム要求

***BCKSPC**
レコード後退

***ATTN**
アテンション

***F1-*F24**
F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF2キーの値 (PF2)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

F1-F24****

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF3キーの値 (PF3)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF4キーの値 (PF4)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF5キーの値 (PF5)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF6キーの値 (PF6)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF7キーの値 (PF7)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF8キーの値 (PF8)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

[トップ](#)

PF9キーの値 (PF9)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF10キーの値 (PF10)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF11キーの値 (PF11)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-***F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした**3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて**、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF12キーの値 (PF12)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF13キーの値 (PF13)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF14キーの値 (PF14)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF15キーの値 (PF15)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF16キーの値 (PF16)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

[トップ](#)

PF17キーの値 (PF17)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF18キーの値 (PF18)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF19キーの値 (PF19)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-***F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした**3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて**、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF20キーの値 (PF20)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF21キーの値 (PF21)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF22キーの値 (PF22)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF23キーの値 (PF23)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PF24キーの値 (PF24)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

[トップ](#)

PA1-PF1キーの値 (PA1PF1)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA1-PF2キーの値 (PA1PF2)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA1-PF3キーの値 (PA1PF3)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA1-PF4キーの値 (PA1PF4)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA1-PF5キーの値 (PA1PF5)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA1-PF6キーの値 (PA1PF6)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA1-PF7キーの値 (PA1PF7)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA1-PF8キーの値 (PA1PF8)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

[トップ](#)

PA1-PF9キーの値 (PA1PF9)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA1-PF10キーの値 (PA1PF10)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA1-PF11キーの値 (PA1PF11)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-***F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした**3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて**、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA1-PF12キーの値 (PA1PF12)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA2-PF1キーの値 (PA2PF1)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA2-PF2キーの値 (PA2PF2)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA2-PF3キーの値 (PA2PF3)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-*F24

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA2-PF4キーの値 (PA2PF4)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

[トップ](#)

PA2-PF5キーの値 (PA2PF5)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA2-PF6キーの値 (PA2PF6)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA2-PF7キーの値 (PA2PF7)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA2-PF8キーの値 (PA2PF8)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA2-PF9キーの値 (PA2PF9)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA2-PF10キーの値 (PA2PF10)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA2-PF11キーの値 (PA2PF11)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-*F24

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

トップ

PA2-PF12キーの値 (PA2PF12)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

[トップ](#)

例

```
SETKBDMAP PF1(*F1) PF2(*F2) PF3(*F3)
           PF4(*F4) PF5(*HLP3270) PF9(*HELP)
```

本来、このコマンドは、5250 CFキーF1, F2, F3, F4を頻繁に使用するアプリケーション用に、キーボードを再割り当てします。他のPFキー・シーケンスはすべて、コマンド・プロンプトに示された省略時の値に設定されます。上記のコマンドはアプリケーションを開始したプログラム中で開始されます（アプリケーションの実行のために表示装置を調整します）。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8701

指定された装置&1が3270装置タイプでない。

CPF8702

&1機能キーが正しく定義されていない。

CPF8703

装置&1の準備ができていない。

オブジェクト・アクセスのセット (SETOBJACC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

オブジェクトを主記憶域プールに移入するか、あるいはオブジェクトをすべての主記憶域プールから除去することによって、オブジェクト・アクセス設定(SETOBJACC) コマンドがオブジェクトへのアクセスの速度を一時的に変更します。使用可能なスペースを持っていて、これと関連したジョブを持っていないオブジェクト用のプールを選択することによって、オブジェクトを主記憶域に常駐したままにすることができます。このコマンドを反復して使用することにより、一組のオブジェクトが主記憶域プールに常駐することになります。

制約事項:

- 主記憶域プールに入れられるか、または主記憶域プールから消去されるすべてのオブジェクトに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*FILE, *PGM	オプション, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
POOL	記憶域プール	要素リスト	オプション、位置 3
	要素 1: 共用プールまたはサブシステム名	名前, *JOB, *BASE, *SHRPOOL1, *SHRPOOL2, *SHRPOOL3, *SHRPOOL4, *SHRPOOL5, *SHRPOOL6, *SHRPOOL7, *SHRPOOL8, *SHRPOOL9, *SHRPOOL10, *SHRPOOL11, *SHRPOOL12, *SHRPOOL13, *SHRPOOL14, *SHRPOOL15, *SHRPOOL16, *SHRPOOL17, *SHRPOOL18, *SHRPOOL19, *SHRPOOL20, *SHRPOOL21, *SHRPOOL22, *SHRPOOL23, *SHRPOOL24, *SHRPOOL25, *SHRPOOL26, *SHRPOOL27, *SHRPOOL28, *SHRPOOL29, *SHRPOOL30, *SHRPOOL31, *SHRPOOL32, *SHRPOOL33, *SHRPOOL34, *SHRPOOL35, *SHRPOOL36, *SHRPOOL37, *SHRPOOL38, *SHRPOOL39, *SHRPOOL40, *SHRPOOL41, *SHRPOOL42, *SHRPOOL43, *SHRPOOL44, *SHRPOOL45, *SHRPOOL46, *SHRPOOL47, *SHRPOOL48, *SHRPOOL49, *SHRPOOL50, *SHRPOOL51, *SHRPOOL52, *SHRPOOL53, *SHRPOOL54, *SHRPOOL55, *SHRPOOL56, *SHRPOOL57, *SHRPOOL58, *SHRPOOL59, *SHRPOOL60, *PURGE	
	要素 2: プール識別コード	1-10	
MBR	メンバー	名前, <u>*FIRST</u>	オプション
MBRDATA	メンバー・データ	<u>*BOTH</u> , *ACCPH, *DATA	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

主記憶域へ移入または主記憶域から削除するオブジェクトの修飾名を指定します。

指定されたオブジェクトの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムのすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXMX
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSCR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

オブジェクト名

オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

主記憶域へ移入または主記憶域から削除するオブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FILE** オブジェクトはファイルです。

***PGM** オブジェクトはプログラムです。

[トップ](#)

記憶域プール (POOL)

オブジェクトを主記憶域へ移入するかあるいは主記憶域から削除するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** オブジェクトはジョブと関連したプールに移入されます。

***BASE**

オブジェクトは基本プールに移入されます。

***SHRPOOLN**

オブジェクトは汎用共用プールに移入されます。有効な値の範囲は1から10です。

***PURGE**

オブジェクトはすべてのプールから除去されます。要素1:サブシステム

サブシステム

サブシステム名を指定してください。要素2:プールID

プールID

サブシステム・プールIDを指定してください。

***PURGE**

オブジェクトはすべてのプールから除去されます。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

主記憶域へ移入または主記憶域から削除するデータベース・ファイル・メンバーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

最初のメンバーが選択されます。

ファイル・メンバー名

メンバー名を指定してください。

[トップ](#)

メンバー・データ (MBRDATA)

主記憶域へ移入または主記憶域から削除するメンバー・データを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***BOTH**

オブジェクトのすべての部分が選択されます。

***ACCPH**

ファイル・メンバーのアクセス・パスが選択されます。

***DATA**

ファイル・メンバーのデータが選択されます。

[トップ](#)

例

```
SETOBJACC OBJ(OBJA) OBJTYPE(*PGM) POOL(*JOB)
```

このコマンドは、コマンドが実行されるジョブと関連したプールにOBJAという名前のプログラムを移動させます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1858

指定されたプールが存在しない。

CPF1859

アクセス・パスの使用が要求されたが、存在しない。

CPF9855

ライブラリー&3のファイル&1にメンバーがない。

[トップ](#)

プログラム情報セット (SETPGMINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム情報セット(SETPGMINF)コマンドは、アプリケーションのすべてのプログラム・オブジェクトを関連づけるために、拡張プログラム・モデル(EPM)言語といっしょに使用されます。SETPGMINFコマンドは、ROOTPGM, SUBPGM,およびLIBFILEパラメーターに指定された情報に基づいて、アプリケーション環境を定義します。C/400*, FORTRAN/400* ,およびPASCALの各言語が拡張プログラム・モデル内で稼動します。

他のEPMプログラムの外部記号を参照するEPMプログラムは、SETPGMINFコマンドに指定しなければなりません。外部記号は他のコンパイル単位または外部記憶域の呼び出しです。プログラムが1つだけのコンパイル単位から構成されている場合、あるいはプログラムが1つだけの非EPMプログラムを呼び出す場合には、このコマンドを使用する必要がありません。ROOTPGMおよびSUBPGMパラメーターに指定したプログラムが正常にコンパイルされていない場合には、SETPGMINFも正常に行なわれません。

エラー・メッセージ: SETPGMINF

*ESCAPE メッセージ

PSE4017

SETPGMINFコマンドでエラーが起こった。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ROOTPGM	ルート・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ルート・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SUBPGM	サブプログラム	値 (最大 200 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LIBFILE	ライブラリー情報ファイル	値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *SAME, *NONE, *PASLIB, *FTNLIB, *CLIB	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LISTDETAIL	詳細のリスト	*NONE, *BASIC, *FULL	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, <u>QSYSPRT</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
RUNATTR	実行属性	要素リスト	オプション
	要素 1: 最大の非重大エラー	0-100, 20 , *NOMAX	
	要素 2: 重大エラーの重大度	0-40, 40	
	要素 3: 外部型検査	* YES , *NO	
	要素 4: 計算属性	* LANG , *ALL, *NONE	
PFROPT	パフォーマンス・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: アクセス・グループ 記憶域	* NONE , *ALL	
HEAPSIZE	ヒープ空間の初期サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 動的記憶域ヒープ	1024-16777216, 16000 , *NONE	
	要素 2: 静的記憶域ヒープ	1024-16777216, 32000	
STACKSIZE	自動記憶域の初期サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1:	1024-16777216, 16000	
SSNATTR	セッション・ファイル属性	要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル・サイズ	8192-16000000, 32000	
	要素 2: バッファ・サイズ	80-1024, 160	
DBGOPT	デバッグ・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: デバッグ初期設定	* ON , *OFF	

トップ

ルート・プログラム (ROOTPGM)

EPM実行時環境の作成に必要な環境定義が入るプログラムの名前を指定します。このプログラムは省略時の入口点またはルート・プログラムと呼ばれ、外部記号への参照を含みます。Cでは、省略時の入口点は通常、MAIN()関数を含むプログラムです。PASCALでは、プログラム単位の主要開始ブロックを省略時の入口点として定義します。FORTRANでは、主プログラム（PROGRAMステートメントで定義されるプログラム）を省略時の入口点として定義します。*CHANGE権限が必要です。

ROOTPGMは必須パラメーターです。

プログラム名

省略時の入口点を含むEPMプログラム・オブジェクトの名前です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムはライブラリー・リストでルート・プログラム・オブジェクトを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ルート・プログラム・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

サブプログラム (SUBPGM)

アプリケーションの実行時環境に入れたいすべてのプログラム・オブジェクトのリストを指定します。これらのプログラムは、EPMまたは非EPMプログラム・オブジェクトとすることができます。

最大200のプログラム・オブジェクトをSUBPGMパラメーターに指定することができます。SETPGMINFコマンドをネストする場合には、1つのアプリケーションに対して200以上の関連プログラム・オブジェクトを指定することができます。

プログラム名

プログラム・オブジェクトの名前を入力してください。1つのSETPGMINFコマンドに最大200のプログラム・オブジェクトを指定することができます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムはプログラム・オブジェクトを含むライブラリーのライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーの名前が使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラム・オブジェクトを入れるライブラリーの名前を入力します。

これらのSUBPGMは、SETPGMINFコマンドを指定する時に使用されるライブラリー仕様にしたがって、実行時に検索されます。特定のライブラリーを指定するか、あるいは*CURLIBを使用した場合には、その特定のライブラリーだけがプログラム・オブジェクトを見つけるために検索されます。現行ライブラリーとして指定されていたライブラリーが、SETPGMINFコマンドを出してからプログラムを実行するまでの間に変わった場合には、すべてのプログラム・オブジェクトが見つかるとはかぎらず、また、エラー・メッセージを受け取ることになります。

トップ

ライブラリー情報ファイル (LIBFILE)

ROOTPGMおよびSUBPGMパラメーターで識別されたすべてのプログラム・オブジェクトが処理された後で未処理の外部参照を分析解決するために使用される情報が入っているライブラリー情報ファイルを指定します。ライブラリー情報ファイルは指定された順に検索されます。

弊社提供のライブラリー情報ファイルがいくつかあります。これらのファイルにはEPM言語ライブラリー機能が入っています。

プログラム情報検索(EXTPGMINF)コマンドによって、ユーザー独自のライブラリー情報ファイルの作成および更新を行なうことができます。

*SAME

最後の環境定義で使用したのと同じライブラリー情報ファイルを使用してください。これが最初の環境定義である場合には、ROOTPGMパラメーターで指定された言語オブジェクトの実行時ライブラリー・ファイルが使用されます。たとえば、C/400コンパイラーを使用してROOTPGMをコンパイルしている場合には、省略時のライブラリー情報ファイルは*CLIBです。

*NONE

ライブラリー情報ファイルは使用されません。

***PASLIB**

PASCAL実行時ライブラリー情報ファイルが使用されます。

***CLIB** C/400実行時ライブラリー情報ファイルが使用されます。

***FTNLIB**

FORTRAN/400実行時ライブラリー情報ファイルが使用されます。

ファイル名

ライブラリー情報ファイルの名前を入力してください。このライブラリー情報ファイルは存在していなければなりません。ライブラリー情報ファイルを作成するためには、EXTPGMINFコマンドを使用してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムは指定したライブラリー情報ファイルをライブラリー・リストで検索します。

***CURLIB**

ライブラリー情報ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ライブラリー情報ファイルが入っているライブラリーの名前を入力します。

[トップ](#)

詳細のリスト (LISTDETAIL)

SETPGMINFリストを作成するかどうかを指定します。このリストは、ROOTPGMパラメーターに指定されたプログラムと同じ名前となり、PRTFILEパラメーターに指定したライブラリーおよびファイルに宛先指定されます。

LISTDETAILパラメーターでリスト(*BASICまたは*FULL)を要求しなければ、PRTFILEパラメーターは表示されません。

***NONE**

リストは作成されません。

***BASIC**

ROOTPGMおよびSUBPGMパラメーターで指定されたプログラムから生じるすべての記号参照および定義を含むリストが作成されます。

***FULL**

アプリケーション全体のすべての記号参照および定義を含むリストが作成されます。このリストには、LIBFILEパラメーターで指定されたすべてのプログラムの記号参照および定義で、アプリケーションでは明示的に参照されていないものが含まれます。

[トップ](#)

印刷ファイル (PRTFILE)

SETPGMINFリストが送られる印刷出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルは最小132桁の長さがなければなりません。132桁より小さいレコード長のファイルを指定した場合には、情報が失われる場合があります。

LISTDETAILパラメーターの省略時の値を*BASICまたは*FULLに変更しないかぎり、このパラメーターはプロンプト画面に現われません。

QSYSPRT

SETPGMINFリストはファイルQSYSPRTに入れられます。

ファイル名

SETPGMINFリストが入れられるファイルの名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーの名前が使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが保管されているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

実行属性 (RUNATTR)

処理が終了する前に重大でないエラーのカウンターが増加する回数、および実行時に重大エラーとして解釈されるメッセージ重大度レベルを指定します。重大エラーとは、アプリケーション・プログラムの実行を停止するエラーのことです。また、プログラムの実行時に外部型検査を行なうかどうかを指定することもできます。計算属性フィールドにより、実行時環境での浮動小数点演算を制御する属性を設定することができます。

2 0 アプリケーション・プログラムの処理が終了する前に、重大でないエラーのカウンターが最大20回まで増加されます。

***NOMAX**

重大でないエラーのカウンターに制限がなく、アプリケーション・プログラムの処理を停止することはありません。

カウンター数

処理を終了する前に許される非重大エラー数です。

4 0 重大度レベルが40以上のメッセージは、重大エラーとして解釈されます。

重大度レベル

重大エラーとして解釈されるメッセージ重大度レベルです。重大度レベルを0と指定した場合には、どんなエラーが起こっても、アプリケーションの実行は停止されます。

***YES** 外部型検査がプログラムの実行時に実行されます。

***NO** 外部型検査はプログラムの実行時に実行されません。エラー検査の結果として起こった警告メッセージは、プログラムの実行時には出されません。

***LANG**

EPM言語の意味規則にしたがって計算属性が設定されます。

***ALL** 浮動小数点の例外は使用禁止となるか、あるいはマスクされます。

***NONE**

浮動小数点の例外が使用可能となるか、あるいはマスクが取られます。

パフォーマンス・オプション (PFROPT)

静的、自動的、および動的プログラム変数に割り振られたスペースが処理アクセス・グループの一部であるかどうかを指定します。

*NONE

作成される記憶域スペースは、処理アクセス・グループ(PAG)の一部ではありません。

***ALL** 作成される記憶域スペースは、処理アクセス・グループ(PAG)の一部です。このオプションによって、制限されたプログラム可変記憶域を使用するプログラムのパフォーマンスを改善することができます。これは非専用システムで実行されます。PAGの表示および分析に使用できるパフォーマンス測定ツールおよびCLコマンドの情報は、ライセンス・プログラム仕様書：IBM AS/400 パフォーマンス測定ツール(GC88-5121)で調べることができます。

トップ

ヒープ空間の初期サイズ (HEAPSIZE)

動的および静的記憶域ヒープのヒープ・スペースの 初期 サイズを指定します。指定したヒープ・サイズはアプリケーションが進行するにしたがって拡張されます。

動的記憶域ヒープは、C/400メモリー・ルーチン(MALLOC, CALLOC, REALLOC)またはPASCALのNEWプロシージャを使用してアプリケーション・プログラムに割り振られた記憶域から構成されています。

静的記憶域ヒープは、静的変数および外部静的変数を使用してアプリケーション・プログラムに割り振られた記憶域から構成されています。

16000 動的記憶域ヒープの初期サイズは16000バイトです。

*NONE

初期動的記憶域は割り振られません。*NONEを使用するのは、アプリケーションでEPMメモリー管理機能を使用しない場合だけにしてください。*NONEを指定して、メモリー機能のどれかを使用した場合には、ポインター例外が出され、アプリケーションは処理を停止します。

動的記憶域サイズ

動的記憶域ヒープの初期サイズを入力してください。初期サイズは1024 - 16777216バイトとすることができます。

32000 静的記憶域ヒープの初期サイズは32000バイトです。

静的記憶域サイズ

静的記憶域ヒープの初期サイズを入力してください。初期サイズは1024 - 16777216バイトとすることができます。静的変数をアプリケーションで広範囲にわたって使用する場合には、省略時の値より大きい記憶域ヒープを指定すれば、パフォーマンスを向上させることができます。

トップ

自動記憶域の初期サイズ (STACKSIZE)

自動記憶域スタックの初期サイズを指定します。指定したスタック・サイズは、アプリケーション・プログラムが進行するにしたがって拡張されます。

自動記憶域スタックは、自動変数を使用してアプリケーション・プログラムに割り振られた記憶域から構成されています。

16000 自動記憶域スタックの初期サイズは16000バイトです。

自動記憶域サイズ

自動記憶域スタックの初期サイズを入力してください。初期サイズは1024 - 16777216バイトとすることができます。アプリケーションで再帰呼び出しの回数が多い場合には、スタックの初期サイズを増やす必要があります。

[トップ](#)

セッション・ファイル属性 (SSNATTR)

ファイルおよびバッファ・サイズのファイル・セッション属性を指定します。

32000 ファイルの省略時のサイズは32000バイトです。

ファイル・サイズ

8192 - 16000000バイトのファイル・サイズの値を指定してください。ファイルが指定したサイズを越えた場合には、上部の情報が画面から消えます。この情報は失われます。

160 バッファの省略時のサイズは160バイトです。

バッファ・サイズ

80 - 1024バイトのバッファ・サイズの値を指定してください。

[トップ](#)

デバッグ・オプション (DBGOPT)

サーバー・デバッグ・モードが活動状態である場合に、実行時に拡張プログラム・モデル(EPM)デバッグ・ツールを使用することを指定します。サーバー・デバッグ・モードを活動状態にするには、STRDBGコマンドを入力します。

***ON** サーバー・デバッグ・モードが活動状態である場合には、実行時にEPMデバッグが開始されます。

***OFF** 実行時にEPMデバッグは開始されません。サーバー・デバッグを使用してプログラムをデバッグすることができますが、EPM言語の変数名、ステートメント番号、およびデバッグ・コマンドを使用することはできません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PSE4017

SETPGMINFコマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

テープ・カテゴリ設定 (SETTAPCGY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドは、指定した媒体ライブラリー装置中のテープ装置のカテゴリを設定します。システムは、カートリッジ順序(CTGORDER)パラメーターに指定された順序で指定されたカテゴリからカートリッジを自動的にロードします。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*MOUNTED, *DEMOUNTED, *ASSIGN, *RELEASE	必須, 定位置 2
CGY	カテゴリ	単一値: *SHARE400 その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カテゴリ名	文字値, *NOSHARE, *IPL, *NL, *CNV	
	要素 2: カテゴリ・システム	文字値, *CURRENT	
CTGORDER	カートリッジ順序	*SEQ, *NEXTAVAIL	オプション
TGTCGY	宛先カテゴリ	単一値: *SHARE400 その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カテゴリ名	文字値, *CGY, *NOSHARE, *IPL, *NL	
	要素 2: カテゴリ・システム	文字値, *CURRENT	
MNTID	取り付け識別コード	名前, *NONE	オプション

[トップ](#)

ライブラリー装置 (DEV)

カテゴリが設定される媒体ライブラリー装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

指定した媒体ライブラリー装置に設定されるオプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

*MOUNTED

CGYパラメーターに指定したカテゴリーは装てんされていると見なされ、VOL(*MOUNTED)の指定された操作はすべて装てんされているカテゴリーのテープ・カートリッジを使用します。

*DEMOUNTED

CGYパラメーターに指定したカテゴリーはもう装てんされていません。媒体ライブラリー装置にはVOL(*MOUNTED)を使用することはできません。

*ASSIGN

MNTIDパラメーターに指定された取り付けカテゴリー・セッションは、SETTAPCGYコマンドを出してジョブに割り当てられます。割り当てている取り付けカテゴリー・セッションは、事前に取り付けられて、解放されていない必要があります。

*RELEASE

SETTAPCGYコマンドを出してジョブに割り当てた取り付けカテゴリー・セッションは解放されて、別のジョブへの割り当てに使用することができます。

トップ

カテゴリー (CGY)

装てんされるカテゴリーを指定します。

単一値

*SHARE400

カートリッジIDは、ライブラリー装置に接続されているすべてのISERIESシステムで共用することができます。カートリッジIDは、CTGORDERパラメーターに指定した順序で装てんされます。

要素1: カテゴリー名

*NOSHARE

カートリッジIDは、同じ装置に接続されている他のシステムと共用することはできません。カートリッジIDは、CTGORDERパラメーターに指定した順序で装てんされます。

***IPL** カートリッジIDは、システムの代替初期プログラム・ロード(IPL)に使用することができます。カートリッジIDは、CTGORDERパラメーターに指定した順序で装てんされます。

***NL** カートリッジは、ラベルなしテープとして使用されます。カートリッジIDは、CTGORDERパラメーターに指定した順序で装てんされます。

***CNV** 特殊なコンビニエンス・カテゴリーのカートリッジIDが使用されます。カートリッジIDは、CTGORDERパラメーターに指定した順序で装てんされます。

文字値 ユーザー定義のカテゴリーの名前を指定してください。指定したカテゴリー中のカートリッジIDは、CTGORDERパラメーターに指定した順序で装てんされます。

要素2: カテゴリー・システム

このパラメーターの2番目の部分は、カテゴリが属するシステムの名前を指定します。システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの保留中システム名フィールドから取られます。保留中システム名がない場合には、現行システム名属性が使用されます。

*****注意*****

システム名が変わった場合には、変更前にそのシステム名の属性を持っていたライブラリー装置のテープ・カートリッジは有効でなくなります。

***CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステムに属するカテゴリ。

文字値 このカテゴリが属するシステムの名前を指定してください。

[トップ](#)

カートリッジ順序 (CTGORDER)

カートリッジが装てんされる順序を指定します。

***SEQ** カートリッジは、指定したカテゴリで追加または変更された順序で装てんされます。順序で次のカートリッジが使用可能でない場合には、操作が終了します。

***NEXTAVAIL**

カートリッジは順次に装てんされますが、この順序のカートリッジが使用可能でない場合に次に使用可能なカートリッジが使用されます。

[トップ](#)

宛先カテゴリ (TGTCGY)

テープ・カートリッジを使用してから変更する先のカテゴリを指定します。スクラッチ・カテゴリが保管操作時に使用されるようにセットされていると、このパラメーターが役立つ可能性があります。各カートリッジは、使用された後で、自動的に指定のカテゴリに変更されます。

単一値

***SHARE400**

カートリッジIDは、*SHARE400カテゴリに変更されます。

要素1: カテゴリ名

***CGY** カートリッジは、CGYパラメーターに指定したカテゴリに残ります。

***NOSHARE**

カートリッジIDは、*NOSHAREカテゴリに変更されます。

***IPL** カートリッジIDは、*IPLカテゴリに変更されます。

***NL** カートリッジIDは、*NLカテゴリに変更されます。

文字値 ユーザー定義のカテゴリの名前を指定してください。カートリッジIDは、指定したユーザー定義カテゴリに変更されます。

要素2: カテゴリ・システム

このパラメーターの2番目の部分は、ターゲット・カテゴリが所属するシステムの名前を指定します。システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの保留中システム名フィールドから取られます。保留中システム名がない場合には、現行システム名属性が使用されます。

*****注意*****

システム名が変わった場合には、変更前にそのシステム名の属性を持っていたライブラリー装置のテープ・カートリッジは有効でなくなります。

***CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステムが使用されます。

文字値 カテゴリが所属するシステムの名前を指定してください。

[トップ](#)

取り付け識別コード (MNTID)

取り付けカテゴリ・セッションを通知するIDを指定します。このパラメーターが有効なのは、OPTION(*MOUNTED)またはOPTION(*ASSIGN)が指定された場合だけです。

***NONE**

この取り付けカテゴリ・セッションはどのジョブにも割り当てられず、*MOUNTEDのボリュームIDの媒体ライブラリーにコマンドを出す最初のジョブで使用されます。取り付けID *NONEはOPTION(*ASSIGN)と一緒に指定することはできません。

名前 取り付けカテゴリ・セッションを識別するための固有の名前を指定します。このカテゴリの取り付け時に、この取り付けIDで知られる取り付けカテゴリ・セッションが作成されて、割り当てられます。その後、そのセッションを別のジョブに割り当てる時に、このIDが使用されます。このカテゴリの取り外しの時に、この取り付けIDで知られるセッションが削除されます。その後、別のカテゴリを媒体ライブラリーに取り付ける時に、この取り付けIDを再使用することができます。

[トップ](#)

例

例1:マウントIDを指定しないでマウントされたカテゴリの使用

```
SETTAPCGY  MLB(LIB01) OPTION(*MOUNTED) CGY(*NOSHARE *CURRENT)
            CTGORDER(*SEQ)  TGTCGY(*IPL)
```

このコマンドは、現在このコマンドを実行しているシステム上の媒体ライブラリー装置LIB01の資源についてテープ・カテゴリを*NOSHAREに設定します。使用される各カートリッジは*IPLカテゴリに変更されます。カートリッジが使用される順序は、それらがカテゴリ内で追加または変更された時の順序とまったく同じです。各カートリッジが使用されて、資源からアンロードされると、システムは、自動的に次の順次カートリッジを*NOSHAREカテゴリから選択して、ロードします。

例2:マウントIDを指定してマウントされたカテゴリの使用

このコマンドは、現在このコマンドを実行しているシステム上の媒体ライブラリー装置LIB01の資源についてテープ・カテゴリを*NOSHAREに設定します。マウントされたカテゴリ・セッションは、マウントID DAILYによって識別されます。使用される各カートリッジはDAILY1カテゴリに変更されます。カートリッジが使用される順序は、それらがカテゴリ内で追加または変更された時の順序とまったく同じで

す。各カートリッジが使用されて、資源からアンロードされると、システムは、自動的に次の順次カートリッジを*NOSHAREカテゴリから選択して、ロードします。

例3:カテゴリ・セッションの解放

```
SETTAPCGY  MLB(LIB01)  OPTION(*RELEASE)
```

このコマンドは、コマンドを出したジョブに割り当てられているカテゴリ・セッションを解放します。カテゴリは、まだ媒体ライブラリ装置LIB01の資源に設定されているので、別のジョブへの割り当てに使用することができます。

例4:カテゴリ・セッションの割り当て

```
SETTAPCGY  MLB(LIB01)  OPTION(*ASSIGN)  MNTID(DAILY)
```

このコマンドは、マウントID DAILYによって識別される、マウントされたカテゴリ・セッションをこのコマンドを出したジョブに割り当てます。

例5:マウントされたカテゴリの取り外し

```
SETTAPCGY  MLB(LIB01)  OPTION(*DEMOUNTED)
```

このコマンドは、マウントされたカテゴリを媒体ライブラリ装置LIB01の資源から取り外します。マウントID DAILYは、別のマウントされたカテゴリ・セッションの名前を指定するために使用できるようになります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6711

コマンドは使用できない。

CPF6712

カテゴリ&4が取り付けられていません。

CPF6713

カテゴリは取り外されません。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリ装置でない。

CPF67A6

カテゴリが存在していない。

CPF67AD

カテゴリは割り当てられません。

CPF67AE

カテゴリは解放されません。

CPF67E4

ライブラリ装置機能が正常に行なわれなかった。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

アップグレード環境の設定 (SETUPGENV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アップグレード環境設定(SETUPGENV)コマンドは、ユーザーがアップグレードの計画と実行を容易に行なえるようにするために必要な情報の入力を、ユーザーに促します。収集された情報はライブラリー QUPGRADEに記憶されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
UPGENV	アップグレード環境	文字値, *NEW, *UPGENVID	必須, 定位置 1
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値	オプション, 定位置 2
TGTPRC	ターゲット・プロセッサ	文字値, *DFT	オプション, 定位置 3
MERGE	アドバンスト/36との併用	*NO, *YES	オプション, 定位置 4
UPGENVID	アップグレード環境識別コード	名前, *SRLNBR	オプション, 定位置 5

[トップ](#)

アップグレード環境 (UPGENV)

新しいアップグレード環境が作成されるか、あるいはユーザーが既存の環境を処理したいかを指定します。

***NEW** 新しいアップグレード環境が作成されることを指定します。

***UPGENVID**

ユーザーが既存のアップグレード環境を処理したいことを指定します。既存のアップグレード環境の識別コードは、アップグレード環境識別コード・フィールドに指定されます。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

ユーザーがアップグレードしようとしているターゲット・リリースを指定します。このフィールドは、アップグレード環境(UPGENV)値が*NEWの時だけ有効です。

ターゲット・リリース

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定してください。有効値は現行バージョン, リリース, およびモディフィケーション・レベルによって異なり, 各新規リリースで変更されます。

ターゲット・プロセッサ (TGTPRC)

ユーザーのターゲット・システムに対して必要なISERIESプロセッサのフィーチャー・コードを指定してください。このフィールドは、アップグレード環境(UPGENV)値が*NEWの時だけ有効です。

リストされているプロセッサは、ソースISERIESシステムをアップグレードする際に有効なターゲット・プロセッサです。その他の有効なプロセッサを入力することもできますが、そのアップグレードはサポートされていないアップグレードであると指摘されます。

***DFT** ソース・システムのパフォーマンスと同様のパフォーマンスを提供するのに必要な最小のプロセッサを指定します。

ターゲット・プロセッサ

ターゲット・プロセッサのフィーチャー・コード（4桁）を指定します。有効な値は、ソース・リリースとターゲット・リリースによって決まります。

アドバンスト/36との併用 (MERGE)

システム/36のオペレーティング・システム(SSP)がターゲット・システム上でゲストとして実行されるかどうかを示します。このフィールドは、アップグレード環境(UPGENV)値が*NEWの時だけ有効です。

***NO** このシステムはシステム/36と併用されないことを示します。

***YES** このシステムはシステム/36と併用されることを示します。

アップグレード環境識別コード (UPGENVID)

アップグレード環境と対応する識別コードを指定します。アップグレードの発注を計画している段階で、複数のアップグレード環境を開発することができます。各環境はそれぞれ異なる値とアップグレード方式を使用できるので、ユーザーおよびユーザーの業務にとってどのアップグレード方式およびアプローチが最良であるかを決めるのに役立ちます。アップグレード準備およびアップグレードに使用されるアップグレード環境は1つだけです。

*SRLNBR

アップグレード環境の省略時名を指定します。この環境のアップグレード環境識別コードは、このシステムの製造番号の頭に英字'Q'を付加したもの（たとえばQ0100A12など）になります。

アップグレード環境識別コード

アップグレード環境識別コードとして名前（文字）を指定します。

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

サインオフ (SIGNOFF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サインオフ (SIGNOFF) コマンドは、対話式ジョブを終了するか、またはグループ内のすべてのジョブを終了させます。このコマンドは、ワークステーションでサインオフする時に入力します。

制約事項:

1. このコマンドは対話式ジョブの場合にだけ有効です。
2. SIGNOFF コマンドが CL プログラムで出された場合には、その CL プログラム中の後続のコマンドはすべて回されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LOG	ジョブ・ログ	<u>*NOLIST</u> , *LIST	オプション、位置 1
DROP	回線切断	<u>*DEV</u> D, *YES, *NO	オプション、位置 2
ENDCNN	接続の終了	<u>*NO</u> , *YES	オプション、位置 3

トップ

ジョブ・ログ (LOG)

この対話式ジョブのジョブ・ログを削除するか、あるいは印刷のためにジョブのスパール出力に含めるかを指定します。この項目は、ジョブ自体に指定されたログ値に優先します。

*NOLIST

すでにジョブによって表示されたジョブ・ログ中の情報は、不要になり、削除されます。

***LIST** ジョブ・ログは、ジョブの残りのスパール出力があればそれと一緒に印刷のためにスパールされます。

トップ

回線切断 (DROP)

交換回線の場合にだけ、同じ回線にサインオンされたワークステーションが他にない場合に、ワークステーションに接続された交換回線が切り離される（切断される）かどうかを指定します。ワークステーションが非交換回線に接続されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***DEV**

ワークステーションの装置記述の**回線切断 (DROP)**パラメーターに指定された値と見なされます。

***YES** 同じ回線上でサインオンしているワークステーションが他になければ、ジョブが終了した時点で交換回線が切断されます。

***NO** ジョブが終了しても、交換回線は切断されません。

トップ

接続の終了 (ENDCNN)

現行システムへの接続を終了するかどうかを指定します。接続の終了によってユーザーは、ターゲット・システムのサインオン画面をう回して、ソース・システムに戻ることができます。このオプションをサポートしない通信機能の場合には、このパラメーターは無視されます。

***NO** 接続は終了しません。ターゲット・システムのサインオン画面が表示されます。

***YES** 接続が終了し、ユーザーはソース・システムへ戻されます。ターゲット・システムからは、サインオン画面またはエラー・メッセージは表示されません。

トップ

例

例1:対話式ジョブのサインオフおよび終了

SIGNOFF

このコマンドは、ワークステーションのユーザーをサインオフし、対話式ジョブを終了します。交換回線は、このワークステーションの装置記述に指定され、この回線上で活動状態の他のワークステーションがない場合のみ除去されます。ジョブの開始および停止回数を示すジョブ終了メッセージがそのジョブのログに書き込まれます。

例2:ジョブ・ログの印刷

SIGNOFF LOG(*LIST) DROP(*NO)

このコマンドは、対話式ジョブを終了しますが、交換回線は解放されません。ジョブ・ログはジョブのスペール出力を使用して印刷されます。

例3:接続のサインオフおよび終了

SIGNOFF ENDCNN(*YES)

このコマンドは、接続を終了し、ユーザーをソース・システムに転送し戻します。

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

コマンドの選択 (SLTCMD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンドの選択(SLTCMD)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからのコマンドのリストを表示することができます。「コマンドの選択」画面から、プロンプトを出すコマンドを選択することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているコマンドだけが、画面に表示されます。
- リストされたコマンドのプロンプトを出すには、そのコマンドに対する*USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

コマンド (CMD)

「コマンドの選択」画面に表示するコマンドを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ待ち行列

***ALL** すべてのコマンドが表示されます。

総称名 表示するコマンドの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのコマンドが表示されます。

名前 表示するコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

```
SLTCMD  CMD(QSYS/*ALL)
```

このコマンドは、ライブラリーQSYS内のコマンドのすべてのリストを表示します。コマンドのプロンプトを出して実行するオプションが使用可能です。

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

中断メッセージ送信 (SNDBRKMSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

中断メッセージ送信(SNDBRKMSG)コマンドは、即時メッセージを1つまたは複数のワークステーション・メッセージ待ち行列に送るために使用されます。即時メッセージとは、事前定義でなく、メッセージ・ファイルに記憶されていないメッセージのことです。このコマンドによって、即時メッセージは常に中断モードで転送されます。メッセージを受け取ると、メッセージ待ち行列の転送モード、重大度、および中断処理プログラムの設定にかかわらず、そのメッセージ用のDSPMSG画面が表示されます。ただし、BRKMSGジョブ属性により、場合によってはメッセージを表示できないことがあります。このコマンドは主として、システム操作員が使用することを意図したものです。

制約事項:

1. このコマンドは、ワークステーション・メッセージ待ち行列に中断メッセージを送るためにしか使用できません。
2. このコマンドは、複数のワークステーションに照会メッセージ(MSGTYPE(INQ)によって指定)を送ることはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSG	メッセージ・テキスト	文字値	必須, 定位置 1
TOMSGQ	TO ワークステーション MSG待ち行列	単一値: *ALLWS その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TO ワークステーション MSG待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*INFO, *INQ	オプション, 定位置 3
RPYMSGQ	応答を受けるメッセージ待ち 行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 応答を受けるメッ セージ待ち行列	名前, <u>QSYSOPR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *HEX, *JOB	オプション

[トップ](#)

メッセージ・テキスト (MSG)

送信したい即時メッセージを指定します。テキストに空白または他の特殊文字が入っている場合には、テキストをアポストロフィで囲まなければなりません。最大512文字まで指定することができます。

コード化文字セットID (CCSID)に関する考慮事項

MSGパラメーターに指定されたテキストは、コード化文字セットIDがCCSIDパラメーターに指定されない限り、このコマンドを実行中のジョブのCCSIDに入っているとみなされます。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバルゼーション」トピックを参照してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

TO ワークステーション MSG待ち行列 (TOMSGQ)

中断メッセージが送られる1つ以上のワークステーション・メッセージ待ち行列を指定します。指定できるのはワークステーション・メッセージ待ち行列の名前だけで、ライブラリー値には*LIBLまたはQSYSしか指定することができません。

単一値

*ALLWS

中断メッセージは、すべてのワークステーションおよびパーソナル・コンピューターのメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ・タイプ (MSGTYPE)パラメーターに*INQを指定した場合には、*ALLWSを指定することはできません。

修飾子1: TO ワークステーション MSG待ち行列

メッセージ待ち行列名

中断メッセージが送られる先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

メッセージ・タイプ (MSGTYPE)

中断モードで送られるメッセージのタイプを指定します。指定できるのは、通知または照会メッセージ・タイプだけです。照会メッセージには応答が必要な場合もあります。

***INFO** 通知専用メッセージが中断モードで送られます。

***INQ** 照会メッセージが中断モードで送られます。メッセージを受け取るワークステーションでは、それに応答することが必要です。1つだけのコマンドで照会メッセージを複数の待ち行列に送ることはできません。

トップ

応答を受けるメッセージ待ち行列 (RPYMSGQ)

照会メッセージが送られる場合に限り、ワークステーション・ユーザーの応答が送られる先のメッセージ待ち行列を指定します。

修飾子1: 応答を受けるメッセージ待ち行列

QSYSOPR

中断メッセージに対する応答は、システム操作員のメッセージ待ち行列QSYSOPR に送られます。

メッセージ待ち行列名

中断メッセージに対する応答の送信先になるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。指定できるのは、ユーザーまたはワークステーション・メッセージ待ち行列だけです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

指定されたメッセージ・テキストが入っているコード化文字セットID (CCSID)を指定します。MSGパラメーターによって指定されたテキストは、このパラメーターによって指定されたCCSIDに入っているとみなされます。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバル化」トピックを参照してください。

***JOB** メッセージ・テキストは、このコマンドを実行するジョブのCCSIDに入っているとみなされます。

***HEX** メッセージ・テキストは変換されません。CCSID 65535が使用されます。

コード化文字セットID

メッセージ・テキストの前提とする有効なCCSIDを指定してください。有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバル化」情報を参照してください。このコマンドはCCSIDの妥当性検査を行います。

トップ

例

例1:メッセージの送信

```
SNDBRKMSG MSG('INVENTORY APPLICATION SHUTS DOWN AT 4:00 PM.')
```

このコマンドは、「INVENTORY APPLICATION SHUTS DOWN AT 4:00 PM.」というメッセージをすべてのワークステーション・メッセージ待ち行列に送ります。ワークステーションがサインオンされている場合には、それらのメッセージ待ち行列の転送属性の設定にかかわらず、メッセージは中断モードで転送されます。サインオンされていないそれらのワークステーションのワークステーション・メッセージ待ち行列にも、メッセージが追加されます。

例2:即時メッセージの送信

```
SNDBRKMSG MSG('YOUR PRINTED OUTPUT IS READY.')
```

```
TOMSGQ(GEORGENSGQ)
```

この例は、即時メッセージをワークステーション・ユーザーに送るための、システム操作員によるSNDBRKMSGコマンドの典型的な使用を示しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2428

メッセージ待ち行列パラメーターが正しくありません。

CPF2469

メッセージ&1の送信中に、エラーが起こった。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

配布送信 (SNDDST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布送信(SNDDST)コマンドにより、ユーザー、ユーザーのリスト、または配布リストに配布を送ることができます。

制約事項:

- 他のユーザーに代わって作業をしている場合には、ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドを通じてそのユーザーの代わりに作業をする許可が与えられていなければなりません。
- システム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
- 他のユーザーに代わって作業をしている場合には、個人用配布は要求できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	送信する情報	*MSG, *DOC, *FILE, *IDP, *DSTID, *LMSG	必須, 定位置 1
TOUSRID	宛先	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
	要素 3: 宛先タイプ	*PRI, *CC, *BCC	
TOINET	インターネット宛先	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: IPアドレス	文字値, *NONE	
	要素 2: 宛先タイプ	*PRI, *CC, *BCC	
DSTD	記述	文字値	オプション, 定位置 3
MSG	メッセージ	文字値, *NONE, *DSTIDMSG	オプション
LONGMSG	長いメッセージ	文字値, *NONE	オプション
CFMDEL	配布確認	*NO, *YES	オプション
SENSITIV	機密性	*NONE, *PRIVATE, *PERSONAL, *CONFIDENTIAL	オプション
PERSONAL	個人	*NO, *YES	オプション
IMPORTANCE	内容の重要性	*NORMAL, *LOW, *HIGH	オプション
PTY	優先順位	*NORMAL, *HIGH, *LOW	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
DOCFILE	文書ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 文書ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DOCMBR	文書メンバー	名前, *FIRST	オプション
DOCTYPE	文書タイプ	2-65535, *DFT, *FFT, *RFT	オプション
SNDFMT	送信形式	*NOCHG, *NOTE, *FINALFORM	オプション
SYSCOD	システム・コード	文字値, *DFT	オプション
DOCCHRID	文書文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DSTID	配布識別コード	文字値, *NONE	オプション
DSTIDEXN	配布IDエクステンション	0-99, *NONE	オプション
DOC	文書	文字値, *DOCID	オプション
FLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
IDPFILE	プロファイル・ファイル	単一値: *NONE, *DOCFILE, *DSTIDIDP その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロファイル・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
IDPMBR	プロファイル・メンバー	名前, *FIRST	オプション
DOCD	文書記述	文字値, *DFT, *DSTD	オプション
AUTHOR	作成者	単一値: *NONE, *USRID その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
DOCCLS	文書クラス	文字値, *NONE	オプション
KWD	キーワード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SUBJECT	主題	単一値: *NONE, *DOCD その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
DOCDATE	文書日付	日付, *NONE, *CURRENT	オプション
FILCAB	ファイル・キャビネット位置	文字値, *NONE	オプション
CPYLST	リスト・コピー	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
EXPDATE	満了日	日付, *NONE	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *NONE, *CURRENT	オプション
REFERENCE	参照	文字値, *NONE	オプション
ACTDATE	処置期日	日付, *NONE, *CURRENT	オプション
RPYDATE	要求された応答	要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付, *NONE, *CURRENT, *ANY	
	要素 2: 時刻	時刻, *ENDOFDAY	
STATUS	文書状況	文字値, *NONE	オプション
CMPDATE	完了日	日付, *NONE, *CURRENT	オプション
PROJECT	プロジェクト	文字値, *NONE	オプション
DOCLANGID	言語識別コード	文字値, *JOB	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DOCNTRYID	国別または地域ID	文字値, *JOB	オプション
ALWALTRCP	代替宛先可能	*YES , *NO	オプション
DISCLOSE	宛先の開示	*YES , *NO	オプション
ALWX400CNV	X.400変換可能	*YES , *NO	オプション
AUTUSR	ユーザーの認可	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DSTEXPDATE	配布満了標識	要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付, *NONE	
	要素 2: 時刻	時刻, *ENDOFDAY	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

送信する情報 (TYPE)

送信する情報のタイプおよびこのコマンドで有効なパラメーターを指定します。

***MSG** メッセージプロンプト(MSGパラメーター) で指定されたメッセージだけが送られます。

***DOC** 文書プロンプト(DOCパラメーター) または文書識別コードプロンプト(DOCIDパラメーター) で指定された文書が送られます。ユーザーは、文書に対して権限がなければ、文書を送ることはできません。

***FILE** 文書ファイルプロンプト(DOCFILEパラメーター) および文書メンバープロンプト(DOCMBRパラメーター) で指定されたデータベース・ファイルが送られます。データベース・ファイルは変更なしで送られます。ユーザーは、データベース・ファイルに対して権限がなければ、データベース・ファイルを送ることはできません。

***IDP** 送信される交換文書プロファイル(IDP)は、プロファイル・ファイルプロンプト(IDPFILEパラメーター) およびプロファイル・メンバープロンプト(IDPMBRパラメーター) で指定されるか、あるいはこのコマンドによって作成される文書プロファイルで指定されます。

***DSTID**

配布IDによって識別されるメール項目が配布されます。配布IDは配布文書名と呼ばれます。

***LMSG**

長いメッセージプロンプト(LONGMSGパラメーター) に指定されたテキストが最終形式テキスト文書(FFTDCA)ノートとして送信されます。LONGMSGでは最高5000文字を使用することができ、これはおよそテキストの1ページです。「明細」パラメーター(件名、参照、作成者、期日など)はTYPE(*LMSG)によってサポートされます。TYPE(*LMSG)では、TOINTNETパラメーターもサポートされます。

トップ

宛先 (TOUSRID)

次の1つを指定してください。

- 配布の送信先となるユーザー（ゼロ人以上）のユーザーIDおよびアドレス
- 配布の送信先となるユーザー(1人以上)のユーザーIDおよびアドレスが入っている配布リスト（ゼロ個以上）の配布リスト名。

同じコマンドで、ユーザーIDと配布リストの組み合わせを使用することができます。最大300個までユーザーIDおよびアドレスを指定することができます。

TOUSRIDパラメーターにユーザーIDおよびアドレスが指定されていない場合には、TOINTNETパラメーターにインターネット・アドレスを指定しなければなりません。

指定できるユーザーIDまたはリストIDの値は次の通りです。

ユーザーID

配布が送られるユーザーのユーザーIDを指定してください。

リストID

配布が送られるユーザーの配布リストを指定してください。

指定できるユーザー・アドレスまたはリスト修飾子の値は次の通りです。

ユーザー・アドレス

配布が送られるユーザー（要素1で指定された）のユーザー・アドレスを指定してください。

リスト修飾子

配布が送られるユーザー（要素1で指定された）の配布リスト修飾子を指定してください。

考えられる宛先タイプの値は次の通りです。

***PRI** ユーザーまたは配布リストは、配布の1次宛先です。

***CC** ユーザーまたは配布リストは、1次宛先に送られる配布のコピーを受け取ります。ただし、このコピー宛先は、配布の上では配布の受取人として識別されません。

***BCC** ユーザーまたは配布リストは配布のコピーを受け取ります。ただし、このコピー宛先は、配布の上では配布の受取人として識別されません。

トップ

インターネット宛先 (TOINTNET)

配布が送信される先の1つまたは複数のユーザーのインターネット・アドレスを指定します。

TOINTNET(*NONE)が指定された場合には、TOUSRIDパラメーターに少なくとも1つのユーザーIDおよびアドレスを指定しなければなりません。インターネット・アドレスは300まで指定することができます。

TYPEキーワードが*MSGの時には、TOINTNETパラメーターは使用できません。

*NONE

インターネット・アドレスは指定されません。これは単一値です。

文字値 配布が送信される先の個人または組織のインターネット・アドレスを指定してください。各アドレスに253桁まで指定することができます。

考えられる宛先タイプの値は次の通りです。

***PRI** インターネット・アドレスは、配布の1次宛先です。

***CC** インターネット・アドレスが、1次宛先に送信された配布のコピーを受信します。

***BCC** インターネット・アドレスは、配布のコピーを受信します。ただし、このコピー宛先は、配布の上では配布の受取人として識別されません。

トップ

記述 (DSTD)

配布の記述を指定します。最大44文字を指定することができます。このパラメーターは必須であり、空白文字で始めたり、すべての空白文字にしたりすることはできません。

トップ

メッセージ (MSG)

配布と一緒に短いメッセージを送るかどうかを指定します。

***NONE**

メッセージは送られません。

***DSTIDMSG**

配布識別コードプロンプト (DSTIDパラメーター) で指定された配布文書の中のメッセージが配布と一緒に送られます。

メッセージ・テキスト

ユーザーに送るメッセージ (最大256文字) を指定してください。

トップ

メッセージ (LONGMSG)

最終形式テキスト文書(FFTDCA)として宛先に送信するテキストを指定してください。

***NONE**

テキストは送信されません。これが省略時の値であり、TYPEが*LMSGでない場合に必要です。

長メッセージ・テキスト

宛先に送信するテキスト (最大5000文字) を指定してください。テキストは、最終形式テキスト文書(FFTDCA)に入れられて、ノートとして送信されます。

テキストは、次の制御を使用してテキスト内で様式設定されていなければなりません。

- :N -新しい行になります (改行)。
- :P -新しい段落になります。新しい行および空白行。(改行および要求された改行)

文書はインチ当たり10文字でセットアップされ、フォントIDは11、左マージンは1桁目、および右マージンは75桁目になります。新しい行の開始に:Nが使用されない場合には、テキストは右マージンを過ぎて右側に続き、一部のEメール・クライアントには表示不能になります。空白はテキストから除去されませんが、字下げおよび位置合わせに適した位置に残されます。余分なテキスト (たとえば、宛先リスト、日付/時刻、件名、または送信元) は文書に入れられません。

プログラマーに対する技術上の注記：上記の制御では十分でない場合に様式設定をさらに制御するために、任意のFFTDCA制御(16進数) をテキストに挿入することができます。

トップ

配布確認 (CFMDEL)

各受信者が配布を受け取った時に、送信元が配布確認の通知を受けるかどうかを指定します。配布の確認を要求しない場合であっても、正しくないユーザーID、システム障害、または経路指定障害が原因で配布が届けられなかった場合には、送信元は通知を受けます。配布の確認を要求した場合には、受信者が配布に備えて別のコマンドを受信、削除、または実行した時に、送信元は通知を受けます。この通知を受けるためには、送信元は着信または発信プロンプト(OPTIONパラメーター) に*OUT を指定した配布QUERY(QRYDST)コマンドを使用しなければなりません。

***NO** 配布確認は要求されません。

***YES** 配布確認は要求されます。

トップ

機密性 (SENSITIV)

X.400標準によって定義された機密性のレベルを指定します。通常、個人用、私用、および会社機密の4レベルがあります。他のユーザーの代わりに作業しているユーザーは私用文書を見ることはできません。

***NONE**

この配布には、機密上の制限はありません。

***PERSONAL**

この配布は、個人あてに送られます。

***PRIVATE**

この配布には、受取人本人しかアクセスしてはならない情報が入っています。

***CONFIDENTIAL**

この配布には、会社の規定に従って取り扱わなければならない情報が入っています。

トップ

個人 (PERSONAL)

文書配布が私用であるかどうかを指定します。このパラメーターはSENSITIVで置き換えられますが、今まで通りPERSONALパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、でき得る限りSENSITIVパラメーターを使用してください。

PERSONAL(*YES)を使用する場合には、SENSITIVパラメーターを省略するか、あるいはこれを値SENSITIV(*NONE)と一緒に使用しなければなりません。このパラメーターを指定しないでコマンドのプロンプトが出された場合には、このパラメーターは表示されません。

***NO** 機密でない配布にアクセスできるのは、その所有者か、あるいはその配布文書に対して認可されて

いるユーザーだけです。この配布にアクセスできる他のユーザーの処理を代行する権限が与えられたユーザーは、機密でない文書にアクセスすることができます。この値はSENSITIV(*NONE)にマップされます。

- *YES** 私用配布文書にアクセスできるのはその所有者だけです。この配布文書にアクセスできる他のユーザーの処理を代行する権限が与えられたユーザーは、配布にアクセスすることができません。この値はSENSITIV(*PRIVATE)にマップされます。

[トップ](#)

内容の重要性 (IMPORTANCE)

重要度として低い、通常、または高いを指定してください。これは、配布の内容の重要度を宛先に指示するものです。これは、配布が送られた速度と関係のある優先順位とは異なります。

***NORMAL**

重要度が通常である配布。

***HIGH**

非常に重要な配布。

- *LOW** 重要度が低い配布。

[トップ](#)

優先順位 (PTY)

低優先順位、通常優先順位、または高優先順位のいずれを使用して配布が送られるかを指定します。リモート受信者に配布が送られる場合には、使用される「SNADSネクスト・システム待ち行列」は優先順位によって決められます。通常優先順位配布の場合には、通常ネクスト・システム待ち行列が使用されます。低優先順位配布の場合には、通常ネクスト・システム待ち行列内で使用可能な最低優先順位をもつ通常ネクスト・システム待ち行列が使用されます。高優先順位では、優先順位ネクスト・システム待ち行列が使用されます。低優先順位、高優先順位、および通常優先順位の間相違は、構成配布サービス(CFGDSTSRV)コマンドにユーザーが指定した情報に依存します。他のオフィス・システム・ノードによる優先順位配布の取り扱いはそれぞれ異なる場合がありますが、一般的には、経路の選択があれば、高い優先順位の配布がより速い経路を取ります。ローカル受信者に配布が送られる場合には、受信者に配布を通知するために受信者のメッセージ待ち行列にメッセージを送信するかどうかは優先順位によって決められます。通常配布の場合には、メッセージは送信されません。

***NORMAL**

通常の優先順位が使用されます。

***HIGH**

高優先順位が使用されます。

- *LOW** 低優先順位が使用されます。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連付けるかどうかを指定します。

***CURRENT**

自分自身で要求を実行します。

ユーザーID

別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

ユーザーIDアドレス

別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

文書ファイル (DOCFILE)

データベース・ファイルの名前および文書データが入っているライブラリーの名前を指定します。データベース・ファイルは、ユーザー定義ファイルであるか、あるいは配布受信(RCVDST)コマンドまたは文書検索(RTVDOC)コマンドのいずれかに指定されている出力ファイルです。出力ファイルが指定されている場合には、文書データ・レコードのデータ部分だけが出力ファイルから読み取られます。文書データ・レコードから接頭部が除去されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブのライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

データベース・ファイル名

文書データが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書メンバー (DOCMBR)

使用する文書データベース・ファイル・メンバーを指定します。

***FIRST**

データベース・ファイルに作成された最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書タイプ (DOCTYPE)

使用する文書のタイプを指定します。このIDは、データ・ストリームを正しく処理できるかどうかを調べるためにシステムによって使用されます。

***DFT** システムが、データのソース仕様に基づいて適切な文書タイプIDを作成します。

***FFT** 文書は最終形式テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討され、印刷することを目的としたものですが、編集は行われません。

***RFT** 文書は変更可能テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討、印刷、および編集することができます。

文書タイプ番号

2から65,535の範囲の文書タイプIDの値を指定してください。2から32,767の番号は、IBM文書交換アーキテクチャーでこれらを登録することによって制御され、IBM定義の文書タイプで使用されます。32,768から65,535の範囲の番号は、IBMとしては登録されず、IBM定義以外の文書タイプで使用することができます。これらの文書タイプの意味は、システム・コードプロンプト(SYSCODパラメーター)でシステム・コードの値を定義することによって決定しなければなりません。

[トップ](#)

送信形式 (SNDFMT)

ユーザーは送信する文書の様式を指定することができます。

***NOCHG**

文書は現行様式で送られます。

***NOTE**

文書は最終形式テキスト文書内容アーキテクチャー(FFTDCA)データ・ストリームに入れて注釈として送られます。

***FINALFORM**

文書はFFTDCAに入れて送られます。

[トップ](#)

システム・コード (SYSCOD)

使用される文書タイプを固有に識別することを容易にするために、文書タイププロンプト(DOCTYPEパラメーター)に指定される値とともに使用されるテキストを指定します。文書を編集、表示、印刷、または変更する文書データ・ストリームおよび処理要件は、データ・ストリームの受信者が決定します。

***DFT** システムが省略時のシステム・コードを提供します。文書タイププロンプト(DOCTYPEパラメーター)に指定した値が2から32,767の範囲の数値である場合には、省略時の値は'IBM AS/400 CL'で、メッセージCPX9026から検索されます。文書タイププロンプト(DOCTYPEパラメーター)に指定した値が32,768から65,535の範囲の数値である場合には、システム・コードを指定しなければなりません。

システム・コード

送信する文書のタイプを固有に識別するテキストを指定してください。最大13文字を指定することができます。

文書文字識別コード (DOCCHRID)

使用中の文書データの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDは、文書データの作成で使用した表示装置と関連しています。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起きます。

図形文字セットコード・ページ

配布するデータの作成に使用する図形文字セットおよびコード・ページ値を指定してください。

注: 両部分ともその長さは最大5桁とすることができます。

配布識別コード (DSTID)

配布の固有の配布IDを指定します。配布IDは、配布の生成時にシステムによって割り当てられます。配布IDは配布QUERY(QRYDST) コマンドを使用して見つけることができます。IDは配布送信(SNDDST)コマンドからも戻されます。

*NONE

配布IDは使用されません。

配布ID

送信元ユーザーIDの後半部分 (右側に埋め込みをした8桁) , 送信元ユーザーIDの前半部分 (右側に埋め込みをした8桁) , および先行ゼロを含めて4桁のゾーン順序番号の3つの部分から構成される配布IDを指定してください。たとえば、'NEWYORK SMITH 0204'などです。送信する情報プロンプト(TYPEパラメーター) に*DSTIDを指定した場合には、このパラメーターが必須です。

配布IDエクステンション (DSTIDEXN)

配布識別コードプロンプト(DSTIDパラメーター) で指定された配布IDのエクステンション (ある場合) を指定します。このエクステンションは重複した配布を固有に識別します。この2桁のエクステンションは、重複した配布を固有に識別する00から99の範囲の値です。着信配布の場合には、このエクステンションは01から99の範囲の値です。配布確認の配布の場合には、このエクステンションは00でなければなりません。

*NONE

重複した配布はありません。*NONEは01のエクステンションと同等です。

配布IDエクステンション

配布と関連したエクステンションを指定してください。これは重複した配布を固有に識別するために使用されます。

[トップ](#)

文書 (DOC)

送信する文書の名前を指定します。

文書名 送信する文書のユーザー割り当て名（最大10文字）を指定してください。

*DOCID

送信する文書はライブラリー割り当て文書名によって識別されます。

[トップ](#)

フォルダー中 (FLR)

送信する文書が入っているフォルダーの名前を指定します。これは、フォルダーの作成時にフォルダーに与えられるユーザー割り当て名です。文書プロンプト(DOCパラメーター)で文書名を指定する場合には、*DOCIDを指定してはなりません。

*NONE

文書はフォルダーに入っていません。

フォルダー名

送信する文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。送信する文書が入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。

[トップ](#)

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSSNSNSNSN

ここで

YYYY =年
MM =月
DD =日
HH =時

MN =分
SS =秒
HS = 100分の1秒
SNSNSNSN =システム名

***NONE**

文書が文書プロンプト(DOCパラメーター) によって識別される時には、ライブラリー割り当て文書名は必要ありません。

ライブラリー割り当て文書名

送信する文書のライブラリー割り当て名を指定してください。

[トップ](#)

プロフィール・ファイル (IDPFILE)

文書プロフィール情報がどこにあるかを指定します。このパラメーターを指定した場合には、**プロフィール・メンバープロンプト(IDPMBRパラメーター)** より後の残りのパラメーター (**コマンド文字識別コードプロンプト(CMDCHRID)**パラメーターおよび**文書文字識別コードプロンプト(DOCCHRID)**パラメーターを除く) は無視されます。

***NONE**

交換文書プロフィール(IDP)がこのコマンドの他のパラメーターによって指定されます。IDP情報が入っているデータベース・ファイルはありません。***NONE**を指定する場合には、**プロフィール・メンバープロンプト(IDPMBRパラメーター)** は無視されます。

***DSTIDIP**

配布文書と関連したIDP情報が使用されます。**プロフィール・メンバープロンプト(IDPMBRパラメーター)** は無視されます。これは、**TYPE(*DSTID)**を指定した時にだけ有効です。

***DOCFILE**

プロフィール情報は、文書に対して指定されたデータベース・ファイルにも入っています。***DOCFILE**を指定した場合には、文書プロフィール情報として**文書ファイルプロンプト(DOCFILEパラメーター)** および**文書メンバープロンプト(DOCMBRパラメーター)** が使用されます。

データベース・ファイル名

IDPが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。文書プロフィール・データベース・ファイルは、ユーザー定義ファイルとするか、あるいは配布受信(RCVDST)コマンドまたは文書検索(RTVDOC)コマンドに指定された出力ファイルとすることができます。ユーザー定義のファイルを指定する場合には、そのファイルの形式は、RCVDSTまたはRTVDOCで作成される出力ファイルと同じでなければなりません。出力ファイルを指定した場合には、文書プロフィール・レコードのデータ部分だけが出力ファイルから読み取られます。文書プロフィール・レコードから接頭部が取り除かれます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブのライブラリーとして現行ライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

プロファイル・メンバー (IDPMBR)

使用する交換文書ファイル・メンバー名を指定します。このパラメーターは、**プロファイル・ファイル**プロンプト(IDPFILEパラメーター)にもデータベース・ファイル名を指定した時にだけ使用されます。

***FIRST**

データベース・ファイルに作成された最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

トップ

文書記述 (DOCD)

配布する文書の記述を指定します。この情報は文書交換アーキテクチャー(IDP)文書名フィールドに入っています。

***DFT** システムが文書記述を生成します。データベース・ファイルの場合には、省略時の形式はライブラリー名/ファイル名/メンバー名です。ハードコピー文書の記述の場合には、省略時の値は配布記述です。配布文書の記述の場合には、省略時の値は配布と関連した文書記述です。

***DSTD**

記述プロンプト(DSTDパラメーター)に指定されている配布記述が文書記述に使用されます。

文書記述

文書の記述を指定してください。最大44文字を指定することができます。

トップ

作成者 (AUTHOR)

文書の作成者（複数の場合もある）を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

***NONE**

文書の作成者は識別されません。

***USRID**

ユーザー識別コードプロンプト(USRIDパラメーター)で指定されたユーザーIDおよびアドレスが作成者の名前として使用されます。

文書作成者名

作成者（複数の場合もある）の名前を指定してください。最大50人の作成者を指定することができます。

トップ

文書クラス (DOCCLS)

MEMO, FORM,またはSHEETなど, この文書と関連したクラスを指定します。

*NONE

文書にクラスは割り当てられません。

文書クラス

文書クラスを指定してください。最大16文字を指定することができます。

[トップ](#)

キーワード (KWD)

文書を記述するキーワードを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

*NONE

この文書にキーワードは定義されません。

文書キーワード

文書を記述するキーワードを指定してください。最大50個のキーワードを指定することができます。各キーワードは, 最大60桁とすることができます。

[トップ](#)

主題 (SUBJECT)

文書の件名 (複数の場合もある) を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

*NONE

文書の件名は定義されません。

*DOCD

文書記述が文書の件名として使用されます。

文書件名

文書の件名 (複数の場合もある) を指定してください。最大50個の件名を指定することができます。各件名は最大60文字のテキストとすることができます。

[トップ](#)

文書日付 (DOCDATE)

ユーザーが文書に割り当てる必要のある日付を指定します。

*NONE

文書に日付は割り当てられません。

*CURRENT

システムが文書に現在のシステム日付を割り当てます。

文書日付

文書日付を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)

文書の位置を指定します。このパラメーターは印刷文書の位置を記述するためのものです。印刷文書を参照する交換文書プロファイル(IDP)が配布されます。送信する情報プロンプト(TYPEパラメーター)に*IDPを指定して、プロファイル・ファイルプロンプト(IDPFILEパラメーター)に*NONEを指定した場合には、このパラメーターは必須です。

*NONE

この文書のファイリング・キャビネット参照は定義されません。

ファイリング・キャビネット参照

印刷文書がどこにあるかを記述するテキストを指定してください。最大60文字を指定することができます。

[トップ](#)

リスト・コピー (CPYLST)

この文書を受け取るユーザーの名前を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

*NONE

この文書のコピー・リストは組み込まれません。

宛先リスト

文書を受け取るユーザーの名前を指定してください。最大50個の名前を指定することができます。各名前は最大60文字とすることができます。

[トップ](#)

満了日 (EXPDATE)

文書が不要となる日付を指定します。

*NONE

文書の満了日は指定されません。

満了日 文書満了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

文書が作成された日付を指定します。

*NONE

文書の作成日は指定されません。

***CURRENT**

文書が作成された日付として現在のシステム日付が使用されます。

作成日 文書作成日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

参照 (REFERENCE)

文書と関連した参照を指定します。

*NONE

この文書配布の参照フィールドは組み込まれません。

参照 文書と関連した参照を記述するテキストを指定してください。最大60文字を使用することができます。

[トップ](#)

処置期日 (ACTDATE)

要求された処置の期日を指定します。処置期日が指定されないで、応答要求日付が指定された場合には、処置期日は応答要求日付から設定されます。

*NONE

処置期日は指定されません。

***CURRENT**

現在の日付が使用されます。

処置期日

処置期日として使用する値を指定してください。日付は、システム値QDATFMTによって指定された形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

要求された応答 (RPYDATE)

配布への応答が要求される日付および時刻を指定します。これは1次宛先にのみ適用されます。

指定できる応答日付の値は次の通りです。

*NONE

応答は不要です。

***CURRENT**

現在の日付が使用されます。時刻は省略時の値として*ENDOFDAYが使用され、23:59:59に設定されます。

***ANY** 応答は要求されますが、日付および時刻は指定されません。

応答日付

応答要求日付として使用する値を指定してください。日付は、システム値QDATFMTによって指定された形式で指定しなければなりません。

指定できる応答時刻の値は次の通りです。

***ENDOFDAY**

応答は指定された日付の終わりまでに要求されます。時刻は23:59:59に設定されます。

応答時刻

応答要求時刻として使用する値を指定してください。

この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。HHに有効な値の範囲は00から23です。MMおよびSSに有効な値の範囲は00から59です。

時刻区切り記号を付ける場合には、5または8桁のストリング(時および分、または時、分、および秒)を指定してください。システム値QTIMSEMで指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。コマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲んで入力しなければなりません。ジョブで使用した区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、コマンドは正常に実行されません。HHに有効な値の範囲は00から23です。MMおよびSSに有効な値の範囲は00から59です。

トップ

文書状況 (STATUS)

文書のユーザー定義状況を指定します。状況の例は、処理中、承認保留、または廃棄などです。

***NONE**

この文書には状況は組み込まれません。

文書の状況

文書の状況を記述するテキストを指定してください。最大20文字を指定することができます。

トップ

完了日 (CMPDATE)

要求された処置が完了する日付を指定します。

***NONE**

完了日は組み込まれません。

***CURRENT**

現在のシステム日付が完了日として使用されます。

完了日 処置完了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

トップ

プロジェクト (PROJECT)

文書と関連したプロジェクトを指定します。

*NONE

プロジェクト・フィールド情報はこの文書に組み込まれません。

プロジェクト

文書のプロジェクトを記述するテキストを指定します。最大10文字を指定することができます。

[トップ](#)

言語識別コード (DOCLANGID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる言語IDを指定します。

注: プロファイル・ファイルプロンプト(IDPFILEパラメーター) が指定された場合、あるいは*MSGまたは*DOCが送信する情報プロンプト(TYPEパラメーター) に指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された言語IDが使用されます。

言語ID

言語IDを指定してください。有効なIDのリストを表示するためには、言語識別コードプロンプト(DOCLANGIDパラメーター) からF4キーを押してください。

[トップ](#)

国別または地域ID (DOCCNTRYID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる国別または地域のIDを指定します。

注: プロファイル・ファイルプロンプト(IDPFILEパラメーター) が指定された場合、あるいは*MSGまたは*DOCが送信する情報プロンプト(TYPEパラメーター) に指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された国別または地域のIDが使用されます。

国別または地域のID

国別または地域IDを指定します。有効なIDのリストを表示するためには、国別または地域IDプロンプト(DOCCNTRYIDパラメーター) からF4 キーを押してください。

[トップ](#)

代替宛先可能 (ALWALTRCP)

配布を代替宛先に転送できるかどうか（これは受信システムによって決められる）を指定してください。この機能はX.400ネットワーク・システムによってのみ使用されます。この機能により、ある種のメールを特定のユーザーに送ることができます。

このフィールドの省略時の値は*YESです。ユーザーは機密性フィールドを私用に変更することはあるが、代替宛先フィールドをNOに変更することはないので、私用項目を代替宛先に送ることができます。この状態ではエラー・メッセージは生成されません。

***YES** 配布を代替宛先に転送できることを指定します。

***NO** 配布を代替宛先に転送できないことを指定します。

トップ

宛先の開示 (DISCLOSE)

各宛先が他の宛先のリストを入手するかどうかを指定します。

***YES** 宛先を開示する。

***NO** 宛先を開示しない。

トップ

X.400変換可能 (ALWX400CNV)

投入する配布に対してX.400変換を許可するかどうかを指定します。場合によっては、エンド・ユーザーが宛先の能力を知っていて、配布を変換しないように指示することもできます。変換が行なわれるかどうかを定義できるのはシステム管理担当者です。このフィールドにより、ユーザーは各メッセージごとにこの設定を一時変更することができます。たとえば、ゲートウェイが変換を許可していても、ユーザーは変換の禁止を指定することができます。この方がゲートウェイの設定より優先します。したがって、配布は変換されないこととなります。

注: このフィールドはX.400サポートの場合にのみ有効です。このフィールドは、RFTからFFTDCAへの変換のようなAS/400データ・ストリーム変換には影響しません。

***YES** 受信システムは配布に対して変換を実行することができます。

***NO** 受信システムによる配布の変換は許可されません。

トップ

ユーザーの認可 (AUTUSR)

配布の内容を認可したユーザーのユーザーIDおよびアドレスを指定します。認可元のユーザーは配布のコピーを受け取ります。

***NONE**
認可するユーザーはありません。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

ユーザーID

配布が認可されるユーザーのユーザーIDを指定してください。

指定できるユーザー・アドレスの値は次の通りです。

ユーザー・アドレス

配布が認可されるユーザーのユーザー・アドレスを指定してください。

トップ

配布満了標識 (DSTEXPDATE)

メール・ログ内に配布が必要でなくなる日付および時刻を指定します。

指定できる配布満了日の値は次の通りです。

*NONE

配布に満了日はありません。

配布満了日

配布で満了日として使用する値を指定してください。日付の形式はシステム値QDATFMT で指定された形式でなければなりません。

指定できる配布満了時刻の値は次の通りです。

*ENDOFDAY

満了時刻は指定された日付の終わりまでに要求されます。時刻は23:59:59に設定されます。

配布満了時刻

満了時刻として使用する値を指定してください。

時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで、指定することができます。

時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。HHに有効な値の範囲は00から23です。MMおよびSSに有効な値の範囲は00から59です。

時刻区切り記号を付ける場合には、5または8桁のストリング（時および分、または時、分、および秒）を指定してください。システム値QTIMSEMで指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。コマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブで使用した区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、コマンドは正常に実行されません。HHに有効な値の範囲は00から23です。MMおよびSSに有効な値の範囲は00から59です。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

場合によって、データは他のIBM OFFICEVISION/400プロダクトと交換可能なコード・ページおよび文字セットに変換されます。交換可能な文字セットおよびコード・ページは'697 500'です。ただし、例外として、**ユーザー識別コード**プロンプト(USRIDパラメーター)、**宛先**プロンプト(TOUSRIDパラメーター)、および**配布識別コード**プロンプト(DSTIDパラメーター)の場合は'930 500'です。また、場合によっては、コード・ページおよび文字セットはフィールドに結合され、受信端末がフィールドを正しく印刷および表示できるようにそのフィールドと一緒に送られます。

次のパラメーターが変換されます。

- 宛先 (TOUSRID)
- インターネット宛先 (TOINTNET)
- ユーザー識別コード (USRID)
- 配布識別コード (DSTID)

- 文書システム・コード (SYSCOD)
- メッセージ (MSG)
- 記述 (DSTD)

コード・ページおよび文字セットは、次のパラメーターに付加されます。

- 長いメッセージ (LONGMSG)
- 文書記述 (DOCD)
- 作成者 (AUTHOR)
- 文書クラス (DOCCLS)
- キーワード (KWD)
- 主題 (SUBJECT)
- ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)
- リスト・コピー (CPYLST)
- 参照 (REFERENCE)
- 文書状況 (STATUS)
- プロジェクト (PROJECT)

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

トップ

例

例1:別のユーザーのための配布の送信

```
SNDDST  TYPE(*FILE)  TOUSRID((JACKSON RCH38DB))
         DOCTYPE(20000) SYSCOD(BRANDX)
         DOCFILE(DEPT46ELIB/XTEXT)  DOCMBR(GOLD1IPFS)
         PTY(*HIGH)  USRID(JACOBSON RCH38NBS)
         DSTD('IPFS FOR GOLD1 PROJECT') CFMDEL(*YES)
         MSG('更新セクション1.2.4。最終印刷の戻り')
```

このコマンドは、JACOBSONの代行処理を許可されている誰か（秘書など）が送信しようとする配布を送信します。送信しようとする文書は、BRANDXテキスト・プロセッサももっている別のユーザーに送信される BRANDXテキスト文書です。

例2:メール・ログ項目の送信

```
SNDDST  TYPE(*DSTID)  DSTID('NEWYORK SMITH 0204')
         DSTIDEXN(02)  TOUSRID((JACKSON RCH38DB))
         MSG(*DSTIDMSG) CFMDEL(*YES)
```

このコマンドは、アドレスRCH38DBのユーザーJACKSONに配布される配布文書名**NEWYORK SMITH 0204**で識別されるメール・ログ項目を送信します。配布文書中のメッセージはその配布とともに配布されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A87

文書名&2が正しくない。

CPF8A97

フォルダー名&1が正しくない。

CPF89AA

送信様式(SNDFMT)の*FINALFORMはタイプ(TYPE)が*DOCのものにだけ有効である。

CPF89AB

送信様式(SNDFMT)に*NOCHGがある場合にだけタイプ(TYPE)に*IDPまたは*MSGを指定してください。

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF901A

配布送信要求が正常に実行されなかった。

CPF903D

指定された文書識別コードが正しくない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

配布待ち行列の送信 (SNDDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列送信(SNDDSTQ)コマンドを使用して、次のことを実行します。

- 配布待ち行列は手操作で開始されるが操作員は不要として構成されている時に、配布待ち行列項目を送信する。
- 配布待ち行列スケジューリング属性を上書きし、待ち行列項目の送信を即時に開始する。
- 異常終了したSNADS送信機能ジョブを再始動する。

SNDDSTQコマンドは、主としてバッチCLプログラム内で使用するためのものです。SNDDSTQコマンドによって、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドのメイン・リスト・パネルのオプション2（配布待ち行列の送信）と同じ機能が使用可能になります。SNDDSTQコマンドでは、対話式ではなく、バッチ・ジョブから機能を開始することができます。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、（ワークステーションに使用される言語によって）配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト（DSTQパラメーター）に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない（大／小文字の相違を無視して）場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1
PTY	優先順位	*NORMAL, *HIGH	必須, 定位置 2

トップ

配布待ち行列 (DSTQ)

送信する配布待ち行列の名前を指定します。この待ち行列は、前に、配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドまたは配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して構成されているものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

優先順位 (PTY)

指定された待ち行列の通常優先順位部分が送信されるか、高優先順位部分が送信されるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NORMAL

通常優先順位待ち行列は、サービス・レベルがデータ低の配布用です。

*HIGH

高優先順位待ち行列は、サービス・レベルが高速、状況、またはデータ高の配布用です。

注: この値は、SYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)タイプの配布待ち行列には正しくありません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

例1: 通常の優先順位の配布の送信

```
SNDDSTQ DSTQ(CHICAGO) PTY(*NORMAL)
```

このコマンドは、CHICAGO配布待ち行列の通常の優先順位部分から配布を送信します。

例2: 高優先順位の配布の送信

```
SNDDSTQ DSTQ(ATLANTA) PTY(*HIGH)
```

このコマンドは、ATLANTA配布待ち行列の優先順位の高い部分から配布を送信します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名/グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF881C

*SVDS配布待ち行列&1に高優先順位待ち行列を使用することはできない。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8816

QSNADS通信サブシステムが活動していない。

CPF8817

配布待ち行列が保留中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ファイル送信 (SNDF)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ファイル送し(SNDF)コマンドは、対話式処理のユーザーが使用している表示装置にレコードを送るために、CLプロシージャで使用されます。装置は、コンソールを含めてどのような表示装置であってもかまいません。コマンドは、プログラムのCL変数から、指定されたレコード形式でその装置の装置ファイルにデータを送信します。これらの変数は、CLソース・プログラムがコンパイルされて、ファイル宣言(DCLF)コマンドがそのソースの一部として処理された時に、このプログラムで自動的に宣言されています(レコード様式の各ファイルについて1つ)。

DCLFコマンドに指定されたレコード様式の中で、各SNDFコマンドに指定できるレコード様式は1つだけです。装置ファイルがオープンされていない場合には、このコマンドによってオープンされます。このコマンドに指定されたファイルおよびレコード様式は、ファイルのオープン前にそれを入力した場合には、表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンドによって一時変更することができますが、一時変更しているレコード様式のフィールドがそのプログラムに宣言されたCL変数と対応していなければならないことに注意してください。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- コマンドを使用できるのは、表示装置ファイルの場合だけです。
- データベース・ファイルでは、このコマンドを使用することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	表示装置	名前, <u>*FILE</u>	オプションル, 位置 1
RCDFMT	レコード様式	名前, <u>*FILE</u>	オプションル, 位置 2
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, <u>*NONE</u>	オプションル

[トップ](#)

表示装置 (DEV)

指定されたレコード様式に該当するCL変数内のデータの送り先である表示装置の名前を指定します。

***FILE** プログラムのデータは、DCLFコマンドのFILEパラメーターに宣言された装置ファイルと関連した装置に送られます。装置ファイルに複数の装置名が指定されている場合には、*FILEを指定することはできません。

名前 装置の名前、またはプログラムのデータの送り先である装置の名前が入っているCL変数の名前を指定してください。

トップ

レコード様式 (RCDFMT)

ファイルにデータを送るために使用するレコード様式の名前を指定します。この様式には、レコード中のすべてのフィールドが入っています。装置ファイルに複数のレコード様式名がある場合には、このパラメーターは、レコード様式名でコーディングしなければなりません。これが複数ある場合には、*FILEをコーディングすることはできません。レコード様式にINVITE DDSキーワードが入っている（オプションがオン）場合には、SNDFは、SNDRCVF WAIT(*NO)がコーディングされているかのように機能します。

***FILE** 装置ファイルのレコード様式は1つしかありません。したがって、プログラムのデータはそのレコード様式でファイルに送られます。

名前 プログラムのデータをファイルに送る時のレコード様式の名前を指定してください。レコード様式名に、CL変数を使用することはできません。

トップ

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

同じCLプロシージャー内の先行するファイル宣言(DCLF)コマンドで宣言したオープン・ファイルIDを指定します。このパラメーター値にCL変数を指定することはできません。

***NONE**

オープン・ファイルIDは指定されていません。このコマンドは、OPNIDパラメーターに*NONEを指定したDCLFコマンドと関連したファイルを使用します。オープン・ファイルIDとして*NONEが指定されているCLプロシージャーでは1つのファイルしか宣言できません。

単純名 同じCLプロシージャー内の先行するDCLFコマンドのOPNIDパラメーター値と一致する名前を指定してください。

トップ

例

例1:レコード様式が1つである表示装置ファイルの使用

```
DCLF FILE(MENU1)
  :
SNDF
```

装置ファイルMENU1のレコード様式は、このファイルに指定された装置に送られます。このファイルのレコード様式は1つだけです。

例2:レコード様式が複数ある表示装置ファイルの使用

```
DCLF FILE(SCREEN1) RCDFMT(REC1 REC2)
:
SNDF DEV(DISP3) RCDFMT(REC1)
```

SCREEN1という名前の装置ファイルにより、DISP3という名前の表示装置がCLプロシージャーから送られてきたデータを表示します。データは、REC1レコード様式によって指定された形式で表示されます。

例3:オープン・ファイルIDの使用

```
DCLF FILE(SCREEN1) RCDFMT(REC1 REC2) OPNID(OUTDSP1)
DCLF FILE(SCREEN2) RCDFMT(REC3 REC4) OPNID(OUTDSP2)
:
SNDF DEV(*FILE) RCDFMT(REC2) OPNID(OUTDSP1)
```

SCREEN1という名前の装置ファイルを使用して、同じ装置ファイルに指定された表示装置にデータを送ります。データは、レコード様式REC2によって指定された形式でユーザーに提示されます。SNDFコマンドに指定されたオープン・ファイルIDが表示装置ファイルSCREEN1に対するDCLFコマンドに指定されたオープン・ファイルIDと一致するので、SNDFコマンドは表示装置ファイルSCREEN1と関連付けられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0859

ファイル一時変更により入出力バッファー・サイズを超えた。

CPF0861

ライブラリー&2のファイル&1が表示装置ファイルでない。

CPF0864

&2のファイル&1でファイルの終わりが検出された。

CPF0883

ファイル&1のDEVパラメーターの*FILEが正しくない。

CPF0887

前の入力要求のデータが使用可能である。

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

CPF5068

プログラム装置&4がライブラリー&3のファイル&2に見つからない。

CPF5070

ライブラリー&3のファイル&2には獲得済みプログラム装置がない。

[トップ](#)

ジャーナル項目送信 (SNDJRNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル項目送信(SNDJRNE)コマンドは、単一のジャーナル項目を特定のジャーナルに書き出すために使用されます。この項目には任意の情報を含めることができます。ユーザーは、ジャーナル項目に項目タイプを割り当て、また、ジャーナル項目を指定のジャーナル処理済みオブジェクトと関連付けることができます。

ジャーナルが現在*STANDBYの状態の場合には、OVRSTATE(*STANDBY)が指定されない限り、ジャーナル項目は保管されません。

この項目のジャーナル・コードはUで、これはユーザー指定のジャーナル項目を示します。

注: ジャーナル項目送信(QJOSJRNE)アプリケーション・プログラミング・インターフェース(API)を使用して、特定のジャーナルにユーザー指定のジャーナル項目を書き込むこともできます。このAPIを使用することによってパフォーマンスが向上することがあり、このコマンドでは使用できない追加の機能を提供することができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) を参照してください。

制約事項:

- ファイル以外のオブジェクトを指定する場合は、指定のジャーナルに現在ジャーナル処理されていない必要があります。

ファイル・オブジェクトを指定する場合には、現在指定されたジャーナルにジャーナル処理されているか、あるいは指定されたジャーナルに最後にジャーナル処理されていない必要があります。

- 指定のジャーナルはリモート・ジャーナルにできません。
- 指定のジャーナルは*INACTIVEのジャーナル状態にはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TYPE	ジャーナル項目タイプ	文字値, <u>00</u>	オプション, 定位置 2
ENTDTA	入力データ	文字値, *BLANK	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ジャーナルされた物理ファイル	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 物理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
	要素 2: メンバー	名前, <u>*FIRST</u> , <u>*NONE</u>	
OBJ	オブジェクト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	<u>*FILE</u> , <u>*DTAARA</u> , <u>*DTAQ</u>	
要素 3: メンバー	名前, <u>*FIRST</u> , <u>*NONE</u>		
OBJPATH	オブジェクト	パス名, <u>*NONE</u>	オプション
OBJFID	ファイル識別コード	16 進値, <u>*NONE</u>	オプション
FORCE	強制ジャーナル項目	<u>*NO</u> , <u>*YES</u>	オプション
OVRSTATE	ジャーナル状態の指定変更	<u>*NONE</u> , <u>*STANDBY</u>	オプション

トップ

ジャーナル (JRN)

新規ジャーナル項目を入れるジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

新規ジャーナル項目を入れるジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジャーナル項目タイプ (TYPE)

このジャーナル項目のタイプを指定します。

00 ジャーナル項目タイプは'00'(16進数F0F0)です。

項目タイプ

ジャーナル項目タイプに使用される2文字の値または16進数値を指定します。この値は16進数のC000以上でなければなりません。

文字を表さない16進数値を指定した場合には、その値はDSPJRN画面または印刷出力に示されません。

[トップ](#)

入力データ (ENTDTA)

ジャーナル項目の可変部分に入れられるユーザー指定データを指定します。

***BLANK**

ジャーナル項目にはユーザー指定データは入れられません。

'項目特定データ'

最大44文字までをアポストロフィで囲んで指定します。

[トップ](#)

ジャーナルされた物理ファイル (FILE)

この項目が関連付けられるデータベース物理ファイルおよびメンバーを指定します。

このパラメーターが指定されている場合には、パラメーターOBJ、OBJPATH,またはOBJFIDは指定できません。

単一値

***NONE**

この項目と対応した物理ファイルはありません。

要素1: 物理ファイル

修飾子1: 物理ファイル

ファイル名

この項目が関連付けられる物理ファイル名を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

項目はファイルの最初のメンバーに関連付けられます。

***NONE**

項目はファイルのメンバーとではなく、ファイルと関連付けられます。

メンバー名

この項目が関連付けられる物理ファイル・メンバー名を指定します。

トップ

オブジェクト (OBJ)

この項目が関連付けられるオブジェクトを指定します。

このパラメーターが指定されている場合には、パラメーターFILE, OBJPATH,またはOBJFIDは指定できません。

単一値

***NONE**

この項目には関連オブジェクトはありません。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

オブジェクト名

この項目を関連付けるオブジェクト名を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

***FILE** 項目はデータベース・ファイルまたはデータベース・ファイル・メンバーと関連付けられます。

***DTAARA**

項目はデータ域と関連付けられます。

***DTAQ**

項目はデータ待ち行列と関連付けられます。

要素3: メンバー

***FIRST**

項目はファイルの最初のメンバーに関連付けられます。

***NONE**

項目はファイルのメンバーとではなく、ファイルと関連付けられます。

メンバー名

この項目が関連付けられる物理ファイル・メンバー名を指定します。

注: 指定のオブジェクト・タイプが*FILEではない場合は、メンバー名値は無視されます。

トップ

オブジェクト (OBJPATH)

この項目が関連付けられるパス修飾オブジェクト名を指定します。「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに入っていて、タイプが*STMF, *DIR,または*SYMLNKのオブジェクトを識別するパス名を持つオブジェクトだけがサポートされます。

このパラメーターが指定されている場合には、パラメーターFILE, OBJ,またはOBJFIDは指定できません。

***NONE**

この項目には関連オブジェクトはありません。

パス名 この項目を関連付けるオブジェクト名を指定します。

パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。パス名が波形記号文字で始まっている場合には、そのパスは該当するホーム・ディレクトリーに相対するものとみなされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

トップ

ファイル識別コード (OBJFID)

項目を関連付けるファイルID (FID)を指定します。FIDは統合ファイル・システム関連オブジェクトと関連付けられている固有のIDです。このフィールドは16進形式で入力されます。「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに入っていて、FIDがタイプ*STMF, *DIR,または*SYMLNKのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされます。

このパラメーターが指定されている場合には、パラメーターFILE, OBJ,またはOBJPATHは指定できません。

***NONE**

この項目には関連オブジェクトはありません。

ファイルID

この項目が関連付けられるオブジェクトのFIDを指定します。

トップ

強制ジャーナル項目 (FORCE)

ユーザー項目を書き込んだ後で、ジャーナル・レシーバーが補助記憶域に強制的に入れられるかどうかを指定します。

***NO** ジャーナル・レシーバーは補助記憶装置に強制的に入れられません。

***YES** ジャーナル・レシーバーが補助記憶装置に強制的に入れられます。

トップ

ジャーナル状態の指定変更 (OVRSTATE)

ジャーナル項目がジャーナルの現在の状態を指定変更して保管されるかどうかを指定します。

***NONE**

ジャーナルの状態値はどれも指定変更されません。すなわち、

- ジャーナル項目は、ジャーナルの状態が*ACTIVEなら保管されます。
- ジャーナル項目は、ジャーナルの状態が*STANDBYなら保管されず、エラーは送られません。

***STANDBY**

ジャーナル項目は、ジャーナルの状態が*STANDBYでも保管されます。

トップ

例

例1:補助記憶域へのジャーナル・レシーバーの強制操作

```
SNDJRNE  JRN(JRNLA)  TYPE(AB)  ENTDTA('PROGRAM COMPLETE')
          FILE(MYLIB/ORDERENT MBR1)  FORCE(*YES)
```

ジャーナルが現在*ACTIVEのジャーナル状態であると、このコマンドは、ジャーナル項目データ 'PROGRAM COMPLETE' を持つタイプAB (16進数C1C2)のジャーナル項目を、ライブラリー検索リストを使用して見つかった時に、ジャーナルJRNLAに接続されている現行ジャーナル・レシーバーに入れます。この項目は、ライブラリーMYLIBのファイルORDERENTのメンバーMBR1と関連付けられます。ジャーナル・レシーバーは、項目が入れられた後で、強制的に補助記憶域に送られます。

例2:ジャーナル項目の送信

```
SNDJRNE  JRN(JRNLA)  TYPE(X'C1F1')  OVRSTATE(*STANDBY)
```

ジャーナルが現在*STANDBYまたは*ACTIVEのジャーナル状態であると、このコマンドはライブラリー検索リストを使用して見つかったジャーナルJRNLAに接続された現行のジャーナル・レシーバーに、ジャーナル項目データを持たないタイプ'A1' (HEX C1F1)のジャーナル項目を入れます。項目は、どの物理ファイル・メンバーとも関連付けられません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7004

最大数のオブジェクトがジャーナル&1にジャーナル処理された。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF7035

&2のオブジェクト&1はすでにジャーナル処理用に認識されている。

CPF7037

オブジェクトがジャーナル&3にジャーナル処理されなかった。

CPF70EF

一緒に使用できないパラメーターである。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

[トップ](#)

メッセージ送信 (SENDMSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ送信(SENDMSG)コマンドは、表示装置から1つまたは複数のメッセージ待ち行列に即時メッセージを送るために、表示装置ユーザーによって使用されます。(即時メッセージとは、事前定義でなく、メッセージ・ファイルに記憶されていないメッセージのことです。)メッセージは、システム操作員、他の表示装置ユーザー、ユーザーのメッセージ待ち行列、現在活動中のすべてのユーザーのメッセージ待ち行列、またはシステムのヒストリー・ログ(QHST)に送ることができます。送信元はメッセージの受信者に応答を要求することができます。このコマンドの1次ユーザーは表示装置ユーザーおよびシステム操作員です。

制約事項:

1. メッセージ待ち行列に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および追加(*ADD)権限が必要です。
2. 指定したメッセージ待ち行列に対する使用(*USE)権限、およびそれらの待ち行列が入っているライブラリーに対する*USE権限が必要です。
3. SENDMSGコマンドでは、第1レベル・メッセージ・テキストが512桁以内であるメッセージしか送れません。
4. このコマンドは、(MSGTYPE(*INQ)によって指定された)照会メッセージを1つのメッセージ待ち行列または2つのメッセージ待ち行列(どちらか一方が*HSTLOGの場合)にしか送れません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSG	メッセージ・テキスト	文字値	必須, 定位置 1
TOUSR	TOユーザー・プロファイル	名前, *SYSOPR, *ALLACT, *REQUESTER	オプション, 定位置 3
TOMSGQ	TOメッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: TOメッセージ待ち行列	名前, *HSTLOG	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*INFO, *INQ	オプション, 定位置 4
RPYMSGQ	応答を受けるメッセージ待ち行列	単一値: *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 応答を受けるメッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *HEX, *JOB	オプション

トップ

メッセージ・テキスト (MSG)

送信したい即時メッセージを指定します。テキストに空白または他の特殊文字が入っている場合には、テキストをアポストロフィで囲まなければなりません。最大512文字まで指定することができます。

コード化文字セットID (CCSID)に関する考慮事項

MSGパラメーターに指定されたテキストは、コード化文字セットIDがCCSIDパラメーターに指定されない限り、このコマンドを実行中のジョブのCCSIDに入っているとみなされます。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックを参照してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

TOユーザー・プロファイル (TOUSR)

メッセージは、このパラメーターで指定したユーザーのユーザー・プロファイル中で指定されているメッセージ待ち行列に送られることを指定します。TOメッセージ待ち行列 (TOMSGQ)パラメーターに値が指定されている場合には、このパラメーターを使用することはできません。

このパラメーターか TOメッセージ待ち行列 (TOMSGQ)パラメーターのどちらかが必要とされます。

ユーザー・プロファイル名

メッセージが送られる先のユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。

*SYSOPR

メッセージがシステム操作員メッセージ待ち行列QSYS/QSYSOPRに送られます。QSYSOPRに送られたメッセージは、自動的にそのメッセージのコピーがQHSTに送られます。

*REQUESTER

メッセージは、対話式ジョブの場合はユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に、バッチ・ジョブの場合はシステム操作員のメッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

*ALLACT

メッセージのコピーが、対話式ジョブを現在実行中の各ユーザー・プロファイルのユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に送られます。照会メッセージで*ALLACTを指定することはできません。

トップ

TOメッセージ待ち行列 (TOMSGQ)

通知メッセージが送られる先の1から50個のメッセージ待ち行列を指定します。照会メッセージの場合には、1つのメッセージ待ち行列を指定するか、2つのメッセージ待ち行列（一方が*HSTLOGの場合）を指定することができます。TOユーザー・プロファイル (TOUSR)パラメーターに値が指定されている場合には、このパラメーターを使用することはできません。

このパラメーターか **TOユーザー・プロフィール (TOUSR)**パラメーターのどちらかが必要とされます。

単一値

***SYSOPR**

メッセージがシステム操作員メッセージ待ち行列QSYS/QSYSOPRに送られます。QSYSOPRに送られたメッセージは、自動的にそのメッセージのコピーがQHSTに送られます。

修飾子1: TOメッセージ待ち行列

***HSTLOG**

メッセージはシステムのヒストリー・ログ・メッセージ待ち行列QSYS/QHSTに送られます。

*HSTLOGが複数回指定されても、QSYS/QHSTに送られるメッセージは1つだけです。

*HSTLOGがQSYSOPRとともに指定されても、ただ1つのメッセージがQSYS/QHST に送られます。

メッセージ待ち行列名

メッセージが送られる先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

メッセージ・タイプ (MSGTYPE)

送られるメッセージのタイプを指定します。指定できるのは、通知または照会メッセージだけです。

***INFO** 通知メッセージが送られます。

***INQ** 照会メッセージが送られます。このメッセージを受け取ったメッセージ待ち行列はこのメッセージに回答することができます。照会メッセージは一度に1つのメッセージ待ち行列にしか送られないか、あるいは値が*HSTLOGであれば、TOMSGQに待ち行列をもう1つ指定することができます。

[トップ](#)

応答を受けるメッセージ待ち行列 (RPYMSGQ)

照会メッセージが送られる場合に限り、応答が送られる先のメッセージ待ち行列を指定します。

単一値

***WRKSTN**

メッセージに対する応答は、送信元の表示装置に対応した表示装置メッセージ待ち行列に送られます。

注: この値はバッチ・ジョブの場合には指定することはできません。

修飾子1: 応答を受けるメッセージ待ち行列

メッセージ待ち行列名

応答が送られる先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。指定できるのはユーザー・メッセージ待ち行列、表示装置メッセージ待ち行列、またはシステム操作員メッセージ待ち行列だけです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

指定されたメッセージ・テキストが入っているコード化文字セットID (CCSID)を指定します。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックを参照してください。

***JOB** メッセージ・テキストは、このコマンドを実行するジョブのCCSIDに入っているとみなされます。

***HEX** メッセージ・テキストは変換されません。CCSID 65535が使用されます。

コード化文字セットID

メッセージ・テキストの前提とする有効なCCSIDを指定してください。有効な値の範囲は1から65535です。このコマンドはCCSIDの妥当性検査を行います。

トップ

例

例1:ユーザー・メッセージ待ち行列へのメッセージの送信

```
SNDDMSG  MSG('DO YOU WANT TO UPDATE INV NOW?') TOUSR(JONES)
          MSGTYPE(*INQ) RPYMSGQ(SMITH)
```

このコマンドは、メッセージをユーザー・メッセージ待ち行列JONESに送ります。メッセージへの応答がある場合には、その応答はメッセージ待ち行列SMITHに送られます。

例2:システムの活動記録ログへのメッセージの送信

```
SNDDMSG  MSG('ERRORS ON PAYROLL COST ME 1 HOUR OF RUN TIME.')
          TOMSGQ(QHST)
```

このコマンドは、通知メッセージを、同じ名前のログのメッセージ待ち行列を通じてシステムの活動記録ログQHSTに送るために、システム操作員によって使用されます。

例3:システム操作員へのメッセージの送信

```
SNDMSG MSG('PLEASE MAKE 2 COPIES OF FILE LABORSTAT.')
```

```
TOMSGQ(QSYSOPR)
```

このコマンドは、表示装置ユーザーによるSNDMSGコマンドの典型的な使用を示しています。ユーザーは、メッセージをシステム操作員に送っています。

例4:応答を必要とするメッセージの送信

```
SNDMSG MSG('HOW LONG WILL THE SYSTEM BE UP TODAY?')
```

```
TOMSGQ(*SYSOPR) MSGTYPE(*INQ)
```

このコマンドは、照会メッセージをシステム操作員に送ります。このメッセージは応答を必要とします。システム操作員は、DSPMSGコマンドを使用してメッセージを表示し、その画面に応答を入力します。応答は、次に、表示装置ユーザーのワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。表示装置ユーザーは、応答を表示するために別のDSPMSGコマンドを入力します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2428

メッセージ待ち行列パラメーターが正しくありません。

CPF2433

システム・ログ・メッセージ待ち行列&1にこの機能を使用することはできない。

CPF2469

メッセージ&1の送信中に、エラーが起こった。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2488

バッチ・ジョブには応答メッセージ待ち行列*WRKSTNは正しくない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

トップ

ネットワーク・ファイル送信 (SNDNETF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル送信(SNDNETF)コマンドは、保管ファイルまたは物理データベース・ファイルのメンバーを、SNADSネットワークを通じて、ローカル・システムまたはリモート・システムの別のユーザーに送信します。このコマンドは次の場合に使用することができます。

- データ・ファイルをユーザーに送信します。
- ソース・ファイルをユーザーに送信します。ソース順序情報は送信されるファイルの中に残されます。
- 保管ファイルに記憶されているその他のオブジェクト・タイプをユーザーに送信します。

ファイルが宛先に到着すると、ファイルの宛先および送信元の両方に通知メッセージが送信されます。

ソース物理ファイルが送信される時には、レコードの1から12桁目のソース順序番号および変更日がファイルと一緒に送信されます。これらは、ファイルがソース物理ファイルに受信された場合には保存され、ファイルが非ソース物理ファイルに受信された場合には切り捨てられます。もともと非ソース物理ファイルであったファイルがソース物理ファイルに受信されると、ソース順序番号が作成され、レコードの前に入れられます。

注: AS/400システムで作成された保管ファイルをシステム/38に配布することはできませんが、システム/38で作成された保管ファイルをAS/400システムに配布することは **できます**。

このコマンドは、ファイルの内容に関していかなるCCSID変換も実行しません。ただし、受信側と発信元の両方のユーザーIDおよびアドレスを、現行ジョブCCSIDから各国間共通文字セット697/500に変換します。

制約事項:

1. ユーザーは、システム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
2. SNDNETFコマンドを使用して送信できるファイルの最大サイズは、約20億バイトです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOUSRID	ユーザー識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須、定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション、定位置 3
TOTYPE	受け入れファイル・タイプ	*FROMFILE, *DATA	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CLASS	VM/MVSクラス	<u>A</u> , B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
FORMAT	送信様式	<u>*V</u> , *F, *U	オプション
PTY	送信優先順位	<u>*NORMAL</u> , *HIGH	オプション

トップ

ファイル (FILE)

送信するファイルの名前およびライブラリーを指定します。送信するファイルには物理ファイルまたは保管ファイルのどちらでも指定することができますが、論理ファイルおよび装置ファイルを指定することはできません。指定されたファイルの一時変更は無視されます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

ユーザー識別コード (TOUSRID)

ファイル送信先の1つまたは複数のユーザーの2つの部分から成るユーザーID を指定するか、あるいはファイル送信先の1つまたは複数のユーザーのユーザーIDが入った1つまたは複数の配布リストの名前を指定します。ユーザーIDと配布リストの両方を組み合わせて同じコマンドに指定することができます。各ユーザーIDまたは配布リストは2つの部分からなる名前として指定され、両方の部分が必須です。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

メンバー (MBR)

ファイルから送信するメンバーを指定します。ファイルが保管ファイルの場合には、メンバー名を指定することはできません。

*FIRST

ファイル内の（作成順で）最初のメンバーが投入されます。

メンバー名

送信するファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

受け入れファイル・タイプ (TOTYPE)

ソース・ファイルを送信する時に、順序番号および日付フィールドをファイルの送信コピーから除去するかどうかを指定します。ソース・ファイルは変更されません。また、このパラメーターは非ソース・ファイルには使用できません。

考えられる値は次の通りです。

***FROMFILE**

ファイルの送信時に、ソース・ファイルのファイル・タイプが使用されます。送信ファイルは変更されません。

***DATA**

ファイルは非ソース・ファイルとして送信されます。送信コピーは、順序番号および日付フィールドなしで送信されます。

[トップ](#)

VM/MVSクラス (CLASS)

VMホスト・システムまたはMVSホスト・システムに送信される配布のVM/MVS SYSOUTクラスを指定します。

考えられる値は次の通りです。

A クラスはAです。

BからZ, 0から9

配布クラスを指定してください。有効な値の範囲はBからZおよび0から9です。

[トップ](#)

送信様式 (FORMAT)

送信されるネットワーク・ファイルのレコード様式を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***V** ファイルは、各レコードから後書きブランクが除去される可変長レコードを使用して送信されます。

***F** ファイルは、レコードから除去される後書きブランクのない固定長レコードとして送信されます。この値の指定は、システム/370に送信されるネットワーク・ファイルにだけ影響します。ファイルを別のAS/400システムに送信する場合には、この値は望ましくありません。

***U** ファイルに空値可能フィールドが入っている場合に、この値を指定すると、SNDNETFによってファイルの送信が可能になるとともに、どのフィールドが空値可能フィールドであるかを示すマップ

ング情報の送信も可能になります。FORMATに対するこの値は、OS/400リリースVRM420以降が導入されている別のAS/400にファイルが送信された時に、所要の結果かのみを生成します。

注: FORMAT(*F)を指定すると、ネットワーク・ファイルの送信時に必要な記憶域と時間が増える可能性があります。また、FORMAT(*U)を指定すると、受信システムがファイルを正しく受信するためには、送信するファイルと同じフィールド・マッピングでデータベース・ファイルを作成しなければなりません。

[トップ](#)

送信優先順位 (PTY)

ファイルがSNADSネットワークを介して経路指定される時にこのファイルに使用される待ち行列優先順位を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NORMAL**

ファイルは、ほとんどのデータ通信に使用されるデータ低のサービス・レベル優先順位で送信されます。AS/400システムでは、データ低の配布は経路指定用に指定された通常優先順位配布待ち行列上に入れられます。

***HIGH**

ファイルは、高優先順位データ通信に使用されるデータ高のサービス・レベル優先順位で送信されます。AS/400システムでは、データ高の配布は経路指定用に指定されたデータ高配布待ち行列上に入れられます。

[トップ](#)

例

例1:メンバーの送信

```
SNDNETF TOUSRID((JONES SYSTEM1)) FILE(EMPLOYEE) MBR(PGMR)
```

このコマンドは、ファイルEMPLOYEEのメンバーPGMRをユーザーID (JONES SYSTEM1)でネットワークに識別されたユーザーに送ります。ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

例2:非ソース・ファイルの送信

```
SNDNETF TOUSRID((JONES SYSTEM2)) FILE(EMPLOYEE) MBR(PGMR)
TOTOPE(*DATA)
```

このコマンドは、ファイルEMPLOYEEのメンバーPGMRを、ユーザーID (JONES SYSTEM2)でネットワークに識別されたユーザーに送ります。ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。このファイルは、順序番号および日付フィールドを除去して、非ソース・ファイルとして送信されようとしています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8057

&2のファイル&1は物理ファイルでも保管ファイルでもない。

CPF8058

ファイル&1はスプール・ファイルである。

CPF8059

保管ファイルの場合はメンバー名を使用することはできない。

CPF8063

必要な資源を割り当てることができない。

CPF8064

&2のファイル&1のメンバー&3はどのユーザーにも送られなかった。

CPF8066

このコマンドの一つ以上のユーザー識別コードが正しくない。

CPF8068

送信するファイルの処理中にエラーが検出された。

CPF8072

送信するオブジェクトが最大サイズの2GBより大きい。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

[トップ](#)

ネットワーク・メッセージ送信 (SNDNETMSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・メッセージ送信(SNDNETMSG)コマンドはメッセージをローカルの別のユーザーに、または SNADS ネットワークを介してリモート・システムに、送信します。

このメッセージは、受信システム上の宛先に定義されているメッセージ待ち行列に通知メッセージとして送信されます。

注: 宛先には、そのユーザー・プロファイル内に有効なメッセージ待ち行列が指定されていなければなりません。SNDNETMSG コマンドによって送信されたメッセージは、ユーザー・プロファイルの中で宛先にメッセージ待ち行列が指定されていなければ、拒否されます。ネットワーク属性に指定されているメッセージ待ち行列は使用されません。メッセージを送信および受信する際のメッセージ待ち行列の指定方法に関する詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CL」情報にあります。

このコマンドはメッセージのCCSID変換を実行しません。ただし、ジョブCCSIDを受信システムに送信します。必要があれば、メッセージは受信時に変換されます。受信側と発信元の両方のユーザーIDおよびアドレスを、現行ジョブCCSIDから各国間共通文字セット697/500に変換します。

制約事項: ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。システム配布ディレクトリーの説明は、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSG	メッセージ・テキスト	文字値	必須, 定位置 1
TOUSRID	ユーザー識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	

トップ

メッセージ・テキスト (MSG)

送信される即時メッセージのメッセージ・テキストを指定します。即時メッセージはメッセージ・ファイルに記憶されていないメッセージです。テキストに空白または特殊文字が入っている場合には、テキストをアポストロフィで囲まなければなりません。最大長で256文字を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

ユーザー識別コード (TOUSRID)

メッセージ送信先ユーザーの1つまたは複数のユーザーID,またはユーザーIDが入っている1つまたは複数の配布リストの名前を指定します。

ユーザーIDと配布リストの両方を組み合わせて、同じコマンド上に指定することができます。各ユーザーIDまたは配布リストは2つの部分からなる名前として指定され、両方の部分が必須です。最大50個のユーザーIDを指定することができます。

注: 使用されているワークステーションのタイプにより、ユーザーIDの内部値は、ディレクトリー項目表示 (DSPDIRE)コマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。TOUSRIDパラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ユーザーID値の規則に適合していない場合や、登録されたどのユーザーの内部値とも一致していない場合には、エラーが報告されることがあります。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

例

```
SNDNETMSG MSG('売掛管理ファイルを更新中。')
           TOUSRID((SMITH SYSTEM2))
```

このコマンドは、MSGパラメーターで指定されたメッセージを、ユーザー ID (SMITH SYSTEM2)でネットワークに識別されたユーザーに送ります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8063

必要な資源を割り当てることができない。

CPF8066

このコマンドの一つ以上のユーザー識別コードが正しくない。

CPF8069

メッセージはどのユーザーにも送られなかった。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ネットワーク・スプール・ファイルの送信 (SNDNETSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・スプール・ファイル送信(SNDNETSPLF)コマンドは、スプール・ファイルをローカル・システムまたはSNADSネットワーク上のリモート・システムの別のユーザーに送ります。このスプール・ファイルは、スプール・ファイルが送られるユーザーのユーザー・プロファイルに指定された出力待ち行列に入れます。

ファイルが宛先システムに到着すると、宛先および送信元の両方のユーザーに、スプール・ファイルの到着を知らせるメッセージが送信されます。

このコマンドは、ファイルの内容に関していかなるCCSID変換も実行しません。ただし、受信側と発信元の両方のユーザーIDおよびアドレスを、現行ジョブCCSIDから各国間共通文字セット697/500に変換します。

制約事項:

- このコマンドを実行するためには、ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。送信側は、同じシステムのユーザーに送信する時には、受信出力待ち行列に対して読み取り、追加、および削除権限をもっていなければなりません。
- 次の1つが当てはまらなければなりません。
 - 要求元がファイルの作成者である。
 - 要求元がファイルの存在する出力待ち行列に対して*READ権限をもち、CRTOUTQ コマンドにDSPDTA(*YES)が指定されている。
 - 要求元が*SPLCTL特殊権限をもっている。
 - 要求元が*JOBCTL特殊権限をもち、ファイルの存在する出力待ち行列にCRTOUTQ コマンドでOPRCTL(*YES)が指定されている。
 - 出力待ち行列にCRTOUTQコマンドでDSPDTA(*YES)が指定されている。
 - 要求元がファイルの存在する出力待ち行列に対して所有者権限をもち、その待ち行列にCRTOUTQコマンドで指定したAUTCHK(*OWNER)およびDSPDTA(*YES)またはDSPDTA(*NO)がある。
 - 要求元がファイルの存在する出力待ち行列に対して*READ, *ADD,および*DELETE 権限をもち、その待ち行列にCRTOUTQコマンドでAUTCHK(*DTAAUT)およびDSPDTA(*YES)またはDSPDTA(*NO)が指定されている。
- バージョン1リリース3モディフィケーション0 (V1R3)より前のリリースにスプール・ファイルを送信する時には、DTAFMT(*RCDDATA)を使用しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
TOUSRID	ユーザー識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY , *LAST, *ANY	オプション, 定位置 4
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY , *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY , *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY , *LAST	
DTAFMT	データ形式	*RCDDATA , *ALLDATA	オプション
CLASS	VM/MVSクラス	A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
PTY	送信優先順位	*NORMAL , *HIGH	オプション

トップ

スプール・ファイル (FILE)

指定したユーザーに送信するスプール・ファイルの名前を指定します。ファイル名は、そのスプール出力ファイルを作成するためにプログラムによって使用された装置ファイルの名前です。

これは必須パラメーターです。

トップ

ユーザー識別コード (TOUSRID)

ファイル送信先の1つまたは複数のユーザーの2つの部分から成るユーザーID を指定するか、あるいはファイル送信先の1つまたは複数のユーザーのユーザーIDが入った1つまたは複数の配布リストの名前を指定します。ユーザーIDと配布リストの両方を組み合わせて同じコマンドに指定することができます。各ユーザーIDまたは配布リストは2つの部分からなる名前として指定され、両方の部分が必須です。配布リスト内のユーザーは、リモートまたはローカルのいずれかとすることができます。

注: 使用されているワークステーションのタイプにより、ユーザーIDの内部値は、DSPDIREコマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。TOUSRIDパラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ユーザーID値の規則に適合していない場合や、登録されたどのユーザーの内部値とも一致していない場合には、エラーが報告されることがあります。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

ジョブ名 (JOB)

データ・レコードを送信したいスプール出力ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

* このコマンドを出したジョブが、スプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾ジョブ名

スプール・ファイルを作成したジョブの修飾名を指定します。ジョブの修飾名を指定しない場合は、システムに現在あるすべてのジョブで単純ジョブ名が検索されます。

トップ

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

ジョブの中から、データ・レコードを送信するスプール出力ファイルの番号を指定します。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST

指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

*ANY 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

指定したファイル名をもつスプール・ファイルのなかで、そのデータ・レコードを送信するものの番号を指定してください。

トップ

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決断するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにするには、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

[トップ](#)

データ形式 (DTAFMT)

スプール・ファイルを送信する形式を指定します。このパラメーターは、スプール印刷にだけ適用することができます。ディスクット・ファイルの場合には、無視されます。

データ形式プロンプト'DTAFMTパラメーター) に*RCDDATAが指定されている場合には、このコマンドを使用して、特殊な装置要件が入っているスプール・ファイルを送ることはできません。

注: 装置要件はスプール・ファイルの属性の一部としてリストされます。装置要件を表示するためには、WRKSPLFAコマンドを使用するか、あるいはWRKSPLFコマンドで属性オプションを使用してください。装

置要件のどれかがファイルの属性である場合（画面上の任意の装置要件が‘Y’となっている場合）には、スプール・ファイルを送ることはできません。DTAFMT(*ALLDATA)を指定するか、あるいはスプール・ファイル・コピー(CPYSPLF)コマンドを使用してスプール・ファイルをデータベース・ファイルにコピーしてから、ネットワーク・ファイル送信(SNDNETF)コマンドを使用してファイルをデータ・ファイルとして送ってください。

データ形式プロンプト（DTAFMTパラメーター）に*RCDDATAが指定されている場合には、スプール・ファイルの次の属性が保持されます。

- ファイル名
- コピー数
- 1インチ当たりの文字数
- 用紙入れ
- 用紙タイプ
- 漢字データ標識
- 1インチ当たりの行数
- ページの長さ
- ページ幅
- ページ回転
- フォント名
- 印刷テキスト
- ディスケット・ラベル
- ディスケットの作成および満了日
- ディスケット・コード・タイプ
- ディスケット交換タイプ

考えられる値は次の通りです。

***RCDDATA**

スプール・ファイルは既存の低機能形式で送信されます。この形式は拡張機能をサポートしないので、この形式で送信されるデータから除去される機能もあります。スプール・ファイルをシステム/36,システム/38,またはシステム/370に送信する場合には、この形式を使用してください。

***ALLDATA**

スプール・ファイルは、その属性を失うことなく存在するままに送信されます。また、受信システムでのファイルの再作成に必要なすべてのスプール・ファイル属性も送信されます。AS/400システムのバージョン1,リリース3,モディフィケーション・レベル0またはそれ以降のリリースにスプール・ファイルを送るためには、*ALLDATA 値を使用してください。

注:

1. ファイルが受信システムで印刷される場合には、ソース・システムで印刷する場合と同じタイプの印刷装置で印刷しなければなりません。
2. 高機能印刷(AFP)資源を必要とするスプール・ファイルは、受信システムでは違って印刷される場合があります。スプール・ファイルが同じように印刷されるようにするためには、次のようにしなければなりません。
 - このコマンドを使って同じシステムのユーザーにファイルを送信する前に、弊社提供以外のAFP資源を含むライブラリーがライブラリー・リストにあることを確認する。

- このコマンドを使って別のユーザーまたはシステムにファイルを送信する前に、弊社提供以外のAFP資源を含むライブラリーが、スプール・ファイルを受信するユーザーの初期ライブラリー・リストにあることを確認する。
3. *LINE, *AFPDS,および*AFPDSLIN印刷装置タイプ装置ファイルをシステム370 に送信するためには、この形式を使用する。

トップ

VM/MVSクラス (CLASS)

VMホスト・システムまたはMVSホスト・システムに送信される配布のVM/MVS SYSOUTクラスを指定します。

考えられる値は次の通りです。

A クラスはAです。

BからZ, 0から9

配布クラスを指定してください。有効な値の範囲はBからZおよび0から9です。

トップ

送信優先順位 (PTY)

SNADSネットワークを介して経路指定する時に、このスプール・ファイルに対して使用する待ち行列上の優先順位を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NORMAL**

スプール・ファイルはデータ低のサービス・レベル優先順位で送信され、これはほとんどのデータ通信量に対して使用されます。AS/400システムでは、データ低の配布は経路指定用に指定された通常優先順位配布待ち行列上に入れられます。

***HIGH**

スプール・ファイルはデータ高のサービス・レベル優先順位で送信され、これは高優先順位データ通信量に対して使用されます。AS/400システムでは、データ高の配布は経路指定用に指定されたデータ高配布待ち行列上に入れられます。

トップ

例

例1:スプール・ファイルの送信

```
SNDNETSPLF FILE(QPRINT) TOUSRID((JDE SYS1))
            JOB(142857/PAPER/PRINT)
            SPLNBR(*LAST) DTAFMT(*ALLDATA)
```

このコマンドは、ジョブ142857/PAPER/PRINTからのスプール・ファイルQPRINTの最後の（最近作成された）コピーをユーザーID (JDE SYS1)をもつユーザーに送ります。すべてのスプール・ファイル機能が送信されます。

例2:印刷属性の送信

```
SNDNETSPLF DTAFMT(*RCDDATA)
```

このコマンドは、印刷属性の制限付きセットを送信します。

例3:印刷属性のすべての送信

```
SNDNETSPLF DTAFMT(*ALLDATA)
```

このコマンドは、印刷属性をすべて送信します。*ALLDATAが有効なのは、あるISERIESシステムが別のISERIESシステムに送信する場合だけです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3205

ファイルは作成されなかった。

CPF3207

メンバーは追加されなかった。エラーが起こっています。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3429

ファイル&1番号&7を表示、コピー、または送信することができない。

CPF3482

コピー要求は正常に実行されなかった。スプール・ファイル&1はオープンされています。

CPF3486

CHLVALパラメーターの値が正しくない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF3493

ファイル&1に対してCTLCHARパラメーターが正しくない。

CPF3499

ファイル&1のレコードが割り当てられたすべてのチャンネル値に先行する。

CPF8055

スプール・ファイルに特殊な装置要件が入っている。ファイルは送られませんでした。

CPF8063

必要な資源を割り当てることができない。

CPF8066

このコマンドの一つ以上のユーザー識別コードが正しくない。

CPF8067

ファイル&1はどのユーザーにも送られなかった。

CPF8068

送信するファイルの処理中にエラーが検出された。

CPF8072

送信するオブジェクトが最大サイズの2GBより大きい。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

[トップ](#)

プログラム・メッセージ送信 (SNDPGMMSG)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム・メッセージ送信(SNDPGMMSG)コマンドは、指定されたメッセージ待ち行列または呼び出しメッセージ待ち行列にメッセージを送ります。呼び出しメッセージ待ち行列は*EXT外部メッセージ待ち行列、または呼び出しスタック項目と関連したメッセージ待ち行列とすることができます。プログラムまたはプロシージャが呼び出されるたびに、新しいメッセージ待ち行列がその呼び出しスタック項目と関連付けられます。メッセージ待ち行列はその関連プログラムまたはプロシージャの名前で識別されます。

プログラムは、それ自身のメッセージ待ち行列、または別の呼び出しスタック項目と関連しているメッセージ待ち行列にメッセージを送ることができます。

このコマンドは例外および非例外メッセージの両方を送ることができます。

制約事項:

1. SNDPGMMSGコマンドにより、最大512桁のメッセージを送ることができます。ただし、メッセージが対話式ジョブの*EXTメッセージ待ち行列に送られた場合には、プログラム・メッセージの表示画面に76桁しか表示されません。メッセージがユーザー、ワークステーション、またはシステム操作員のメッセージ待ち行列に送られた場合には、メッセージ表示(DSPMSG)コマンドを使って、512桁全部を表示することができます。
2. このコマンドは、(MSGTYPE(*INQ)によって指定された) 照会メッセージを1つのメッセージ待ち行列または2つの非プログラム・メッセージ待ち行列（どちらか一方が*HSTLOGの場合）にしか送れません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSG	メッセージ・テキストまたは	文字値	オプション、位置 1
MSGID	メッセージ識別コード	名前	オプション、位置 2
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 3
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGDTA	メッセージ・データ・フィールドの値	文字値, *NONE	オプション、位置 4

キーワード	記述	選択項目	注
TOPGMQ	呼出スタック項目メッセージ待ち行列	単一値: *EXT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 関係	*PRV, *SAME	
	要素 2: 呼出スタック項目識別コード	要素リスト	
	要素 1: 呼び出しスタック項目	文字値, _	
	要素 2: モジュール	名前, *NONE	
	要素 3: バインド済みプログラム	名前, *NONE	
TOMSGQ	非PGMメッセージ待ち行列へ送信	単一値: *TOPGMQ, *SYSOPR その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 非PGMメッセージ待ち行列へ送信	名前, *HSTLOG	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOUSR	TOユーザー・プロファイル	名前, *SYSOPR, *ALLACT, *REQUESTER	オプション
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*INFO, *INQ, *RQS, *COMP, *DIAG, *NOTIFY, *ESCAPE, *STATUS	オプション
RPYMSGQ	応答を受けるメッセージ待ち行列	単一値: *PGMQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 応答を受けるメッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
KEYVAR	KEYVARのCL変数 (4)	文字値	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *HEX, *JOB	オプション

トップ

メッセージ・テキストまたは (MSG)

送信されるメッセージ・テキストを指定します。最大3000文字を指定することができます。あるいは、対話式ジョブでこのコマンドのプロンプトを出す場合には、最大512文字を指定することができます。特殊文字（ブランクを含む）を使用する場合には、ストリング全体をアポストロフィで囲まなければなりません。このパラメーターを指定した場合には、**メッセージ識別コード (MSGID)**パラメーターに値を指定することはできず、また、**メッセージ・タイプ (MSGTYPE)**パラメーターに*ESCAPE, *NOTIFY,または*STATUSを指定することはできません。このパラメーターを指定した場合には、**メッセージ・ファイル (MSGF)**パラメーターまたは **メッセージ・データ・フィールドの値 (MSGDTA)**パラメーターに値を指定することはできません。これらのタイプは、メッセージIDの指定も必要とするからです。

コード化文字セットID (CCSID)に関する考慮事項

MSGパラメーターに指定されたテキストは、コード化文字セットIDがCCSIDパラメーターに指定されない限り、このコマンドを実行中のジョブのCCSIDに入っているとみなされます。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバルゼーション」トピックを参照してください。

トップ

メッセージ識別コード (MSGID)

その事前定義メッセージがプログラムによってメッセージ待ち行列に送られるメッセージ記述のメッセージIDを指定します。このパラメーターを指定した場合には、**メッセージ・テキスト**または **(MSG)**パラメーターに値を指定することはできません。

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

送信される事前定義メッセージが入っているメッセージ・ファイルを指定します。**メッセージ識別コード (MSGID)**パラメーターに値を指定した場合には、このパラメーターは必須です。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 送信される事前定義メッセージが入っているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、**QGPL**が使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

メッセージ・データ・フィールドの値 (MSGDTA)

定義済みメッセージ内でメッセージ・データ・フィールドとして使用される1つまたは複数の置き換え値を含む文字ストリング、または文字ストリングを含むCL変数を指定します。置き換え値は、メッセージの定義時にメッセージ・テキストの中で定義された置換変数に代わります。

***NONE**

指定されたメッセージの中で使用されるプログラム提供の置換変数はありません。

文字ストリング

プログラムによって送られる指定された定義済みメッセージの中で置き換え値を指定する文字ストリングを指定するか、文字ストリングを含むCL変数の名前を指定してください。

コード化文字セットID (CCSID)に関する考慮事項

CCHAR**タイプ・フィールドと対応する**MSGDTA**パラメーターに指定されたテキストは、コード化文字セットIDが**CCSID**パラメーターに指定されない限り、このコマンドを実行中のジョブの**CCSID**に入っているとみなされます。**MSGDTA**パラメーターに指定された他のすべてのテキストは65535であるとみなされ、変換されません。メッセージ・ハンドラーとそれによる**CCSID**の使用の詳細については、**ISERIES INFORMATION CENTER** ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックを参照してください。CCHAR**タイプ・フィールドの詳細については、メッセージ記述追加 (**ADDMSGD**)コマンドを参照してください。

呼出スタック項目メッセージ待行列 (TOPGMQ)

指定したメッセージが送られる先の呼び出しメッセージ待行列を指定します。このメッセージ待行列は *EXT外部待ち行列または、呼び出しスタック項目と関連した呼び出しメッセージ待行列とすることができます。

単一値

***EXT** メッセージはジョブの外部メッセージ待行列に送られます。外部メッセージ待行列は、表示装置ユーザーなどの、ジョブの外部要求元と通信するために使用されます。*EXTに送られる*INQメッセージは、省略時の応答が送られるまでに、24時間待機します。

この待ち行列に送られるメッセージの長さは512桁とすることができますが、プログラム・メッセージ画面に表示されるのはテキストの76桁だけです。

要素1: 関係

2つのパラメーター要素が、メッセージが除去される呼び出しスタック項目メッセージ待行列を指定するために使用されます。最初の要素は、メッセージ待行列が2番目の要素によって識別されるプログラムまたはプロシージャと関連付けられるか、あるいはプログラムまたはプロシージャの呼び出し側と関連付けられるかを指定します。

***PRV** メッセージは、このパラメーターの2番目の値によって識別されるメッセージ待行列の直前にある呼び出しスタック項目のメッセージ待行列に送られます。ただし、2番目の要素によって識別されるものの直前のメッセージ待行列が統合化言語環境(ILE)プログラム入りロプロシージャ(PEP)用のものである場合には、メッセージはスタック中のPEPメッセージ待行列の前にあるメッセージ待行列に送られます。

*SAME

メッセージは、このパラメーターの2番目の要素によって識別される呼び出しスタック項目のメッセージ待行列に送られます。

要素2: 呼出スタック項目識別コード

このパラメーターの2番目の要素には3個の要素があります。要素1はOPMプログラム名、ILEプロシージャ名、または特殊値を指定します。要素2は、要素1に指定された値の修飾子として使用されるILEモジュール名を指定します。要素3は、要素1に指定されたものに依じて、OPMプログラム名、ILEプログラム名、あるいはサービス・プログラム名のいずれかを指定することができます。要素3は要素1に指定されたものの修飾子としても使用されます。

要素1: 呼び出しスタック項目

***** このコマンドを実行するOPMプログラムまたはILEプロシージャを指定します。

名前 呼び出しスタック項目の識別に使用されるOPMプログラムまたはILEプロシージャの名前を指定してください。

この要素がOPMプログラムを識別する場合には、最大10文字の名前を指定することができます。この要素がILEプロシージャを識別する場合には、最大256文字の名前を指定することができます。

各プロシージャー名をコロン(:)で区切って、ネストされたプロシージャー名を指定することができます。ネストされたプロシージャー名を指定する時には、まず一番外側のプロシージャー名を識別し、続いてその中に含まれるプロシージャーを識別します。一番内側のプロシージャー名は、ストリング中で最後に識別します。

名前の先頭に3個のより小記号(<<<)を置くか、あるいは名前の終りに3個のより大記号(>>>)を置くことによって、プログラムまたはプロシージャーの部分名を指定することができます。より大記号とより小記号の両方を使用する場合には、プログラムは、指定するプログラム名またはプロシージャー名を250文字に制限します。

システムは、指定されたプログラム名またはプロシージャー名の中から、最後に呼び出されたプログラムまたはプロシージャーを検索します。

部分プログラム名または部分プロシージャー名を検索する場合：

- プログラム名またはプロシージャー名の最初にだけ指定されたより小(<<<)記号は切り捨てられ、残りの文字ストリングが右寄せにされます。指定されたストリングの残りの文字が呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャーと比較されます。比較はプログラム名またはプロシージャー名の終わりの桁から始まって逆順に行われます。
- プログラム名またはプロシージャー名の最後にだけ指定されたより大(>>>)記号は切り捨てられます。指定されたストリングの残りの文字が呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャーと比較されます。比較はプログラム名またはプロシージャー名の最初の桁から始まります。
- プログラム名またはプロシージャー名により小記号(<<<)とより大記号(>>>)の両方が指定されている時には、その両方が切り捨てられます。残りの文字が使用され、指定したストリング全体の長さが走査され、呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャーと比較されます。

要素2: モジュール

*NONE

ILEモジュール修飾子は指定されません。

名前 メッセージ待ち行列の識別に使用されるILEモジュール名を指定します。

要素3: プログラム

*NONE

プログラム修飾子は指定されません。

名前 メッセージ待ち行列の識別に使用されるプログラム名を指定します。

プロシージャー名だけでは正しいプロシージャーを識別することはできません。1つのジョブで、同じ名前を持ついくつかの異なるプロシージャーが実行されることがあります。プロシージャーをさらに詳しく識別するために、指定する名前をモジュール名で修飾するか、あるいはモジュール名と結合プログラム名の両方で修飾することができます。このパラメーターの2番目の要素の最初の修飾子には、次の特殊値を指定することができます。

*CTLBDY

最も新しい制御境界にある呼び出しスタック項目を指定します。この項目は、SNDPGMMMSGコマンドを実行しているCLプログラムと同じ活動化グループで実行されることとなります。呼び出しスタック上のすべてのプログラムがOPMプログラムである場合には、制御境界は存在しないことに注意してください。

*PGMBDY

SNDPGMMMSGコマンドを使用しているプログラムか名前がこのパラメーターの修飾子3に指定されているプログラムのいずれかのプログラム境界を指定します。修飾子3に名前が指定されていない場合には、プログラムはこのプログラムを使用している方のプログラムとみなされます。

プログラムが指定しようとしているILEプログラムである場合には、この特殊値はそのプログラムのプログラム入りロプロシージャー(PEP)の呼び出しスタック項目を識別します(このプログラムが動的呼び出しによって呼び出されたものである場合)。プログラムがプロシージャー・ポインターによって呼び出されたものである場合には、この特殊値はポイントされたプロシージャーの呼び出しスタック項目を識別します。プログラムが指定しようとしているILEサービス・プログラムである場合には、この特殊値はそのサービス・プログラム内で呼び出された最初のプロシージャーの呼び出しスタック項目を識別します。

指定しようとするプログラムがOPMプログラムである場合には、この特殊値は項目1の特殊値*またはプログラム名を指定するのと同じ効果を持ちます。違いがあるのは、OPMプログラムが自分自身を反復して呼び出した場合です。この場合には、この特殊値は、特殊値*またはプログラム名が使用された場合と同様に、現行反復レベルではなく最初の反復レベルを識別します。

*PGMNAME

呼び出しスタック項目がプログラム名(および任意選択でモジュール名)を使用することによってのみ識別されることを指定します。この特殊値を使用する場合には、修飾子3はILEプログラム、サービス・プログラム名、またはOPMプログラム名を指定していなければなりません。修飾子2には特殊値*NONEかILEモジュール名のいずれかを含めることができます。

この特殊値は、指定されたILEプログラムまたはサービス・プログラムの一部である最も新しく呼び出されたプロシージャーにメッセージを送るために使用されます。この特殊値を使用する時には、プロシージャー名を明示的に指定する必要はありません。モジュールも指定する場合には、この特殊値は、識別されたプログラムおよび識別されたモジュールの両方の部分である最も新しく呼び出されたプロシージャーにメッセージを送るために使用されます。

この特殊値はOPMプログラムにメッセージを送る場合にも使用することができます。この場合には、この特殊値を使用し、項目3にOPMプログラム名を指定することは、そのプログラム名をこの項目1に指定することと全く同じ効果があります。OPMプログラムへの送信のためにこの特殊値を使用する場合には、モジュール名を*NONEとして指定しなければならないことに注意してください。

トップ

非PGMメッセージ待ち行列へ送信 (TOMSGQ)

通知メッセージの送り先である最大50個の非プログラム・メッセージ待ち行列を指定します。照会メッセージの場合には、1つのメッセージ待ち行列を指定するか、2つのメッセージ待ち行列(一方が*HSTLOGの場合)を指定することができます。TOユーザー・プロファイル(TOUSR)パラメーターに値が指定されている場合には、このパラメーターを使用することはできません。

単一値

***TOPGMQ**

メッセージは、呼出スタック項目メッセージ待行列 (TOPGMQ)パラメーターに指定された呼び出しメッセージ待行列にだけ送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ (ライブラリーQSYSのメッセージ待行列QSYSOPR)に送られます。ライブラリーQSYSのメッセージ待行列QSYSOPRに送られたメッセージについては、すべて自動的にそのメッセージのコピーがライブラリーQSYSのQHST (ヒストリー・ログ) メッセージ待行列に送られます。

修飾子1: 非PGMメッセージ待行列へ送信

***HSTLOG**

メッセージは、システムのヒストリー・ログ (ライブラリーQSYSのメッセージ待行列QHST)に送られます。*HSTLOGが複数回指定されても、システムのヒストリー・ログに送られるメッセージは1つだけです。*HSTLOGがメッセージ待行列QSYSOPRとともに指定されても、システムのヒストリー・ログに送られるメッセージは1つだけです。

名前 メッセージが送られる先のメッセージ待行列の名前を指定してください。最大15個のメッセージ待行列を指定することができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

TOユーザー・プロファイル (TOUSR)

メッセージは、このパラメーターで指定したユーザーのユーザー・プロファイル中で指定されているメッセージ待行列に送られることを指定します。非PGMメッセージ待行列へ送信 (TOMSGQ)パラメーターまたは呼出スタック項目メッセージ待行列 (TOPGMQ)パラメーターに値が指定されている場合には、このパラメーターを使用することはできません。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員 (ライブラリーQSYSのメッセージ待行列QSYSOPR)に送られます。ライブラリーQSYSのメッセージ待行列QSYSOPRに送られたメッセージについては、すべて自動的にそのメッセージのコピーがライブラリーQSYSのQHST (ヒストリー・ログ) メッセージ待行列に送られます。

***REQUESTER**

メッセージは、対話式ジョブの場合はユーザー・プロファイル・メッセージ待行列に送られ、バッチ・ジョブの場合はシステム操作員のメッセージ待行列 (ライブラリーQSYSのQSYSOPR)に送られます。

*ALLACT

メッセージのコピーが、対話式ジョブを現在実行中の各ユーザー・プロファイルのユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に送られます。照会メッセージで*ALLACTを指定することはできません。

名前 メッセージが送られる先のユーザーのユーザー・プロファイル名を指定してください。

トップ

メッセージ・タイプ (MSGTYPE)

このメッセージがこのプログラムによって送られる時にどのメッセージ・タイプを割り当てるかを指定します。

注:

1. 照会メッセージを送ることができるのは、外部待ち行列かTOUSRまたはTOMSGQパラメーターに名前が指定されたメッセージ待ち行列のいずれかだけです。TOMSGQパラメーターを使って照会メッセージを送る時には、その値は*HSTLOGであれば、待ち行列をもう1つ指定することができます。
2. 完了、診断、エスケープ、通知、および状況メッセージは、呼び出しメッセージ待ち行列に対してだけ送ることができます。
3. エスケープ・メッセージを外部メッセージ待ち行列に送ることはできません。

***INFO** メッセージは通知メッセージとして送られます。

***INQ** メッセージは照会メッセージとして送られます。

*COMP

完了メッセージは呼び出しメッセージ待ち行列に送られます。処理の状況を指示する完了メッセージは正常に実行されました。

*DIAG

診断メッセージは呼び出しメッセージ待ち行列に送られます。このプログラムによってエラー検出についての情報が診断メッセージに提供されます。エラーは送り先、または実行中に要求した機能の間に起こったそれらのどちらかです。また、メッセージ待ち行列に診断メッセージがあることを受信プログラムまたはプロシージャに知らせるために、エスケープまたは通知メッセージも送られるはずですが。

*NOTIFY

通知例外メッセージは呼び出しメッセージ待ち行列に送られます。通知メッセージの記述は訂正処置による条件について送り出しプログラムを実行させる前でなければなりません。応答メッセージは送信済みプログラムのうしろに送られます。後に訂正処置、実行中に再開される送信済みプログラム、およびメッセージ待ち行列から応答メッセージに受信されます。

*ESCAPE

エスケープ例外メッセージは呼び出しメッセージ待ち行列に送られます。エスケープ・メッセージの記述は回復不能なエラー状態です。この送信されているプログラムは実行に継続されません。

***RQS** 要求メッセージは呼び出しメッセージ待ち行列に送られます。要求メッセージに認可される装置ファイルから受信する要求データは別のプログラムまたはプロシージャにこのプログラムから渡されます。要求を送るためには、MSGパラメーターによって指定された、即時メッセージを、使用しなければなりません。

*STATUS

状況例外メッセージは呼び出しメッセージ待ち行列に送られます。状況メッセージは、送信元プログラムによって実行される作業の状況を説明します。MSGDTAパラメーター中のメッセージ・データの最初の28文字は、メッセージのモニター（メッセージ・モニター(MONMSG)コマンドによって確立される）用の比較データとして使用されます。状況例外メッセージがモニターされていない場合には、制御は送信元プログラムに戻されます。状況メッセージが対話式ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られた場合には、そのメッセージは24行目に表示され、処理は続行されますが、応答は必要ありません。

注: **メッセージ・テキスト**または **(MSG)**パラメーターが指定されている場合には、この値を指定することはできません。

トップ

応答を受けるメッセージ待ち行列 (RPYMSGQ)

照会および通知メッセージの場合に限り、応答メッセージが送られる先の呼び出しメッセージ待ち行列または非プログラム・メッセージ待ち行列を指定します。

単一値

*PGMQ

照会または通知メッセージに対する応答は、プログラムまたはこのコマンドが使用されているプログラマーの呼び出しスタック項目に関連したメッセージ待ち行列に送られます。

修飾子1: 応答を受けるメッセージ待ち行列

名前 応答が送られる先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

KEYVARのCL変数 (4) (KEYVAR)

このコマンドを含むプログラムが送り出したメッセージを識別するメッセージ参照キーが入っている、CL文字変数の名前（ある場合）を指定します。メッセージ参照キーは、メッセージが送られた時にシステムによって割り当てられ、ここで指定する変数に入れられます。

メッセージが呼び出しスタック項目に関連したメッセージ待ち行列に送られる場合には、KEYVARはそのメッセージ待ち行列(**呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (TOPGMQ)**パラメーターに指定されます)を参照します。**メッセージ・タイプ (MSGTYPE)**パラメーターに*INQまたは*NOTIFYが指定されている場合に

は、KEYVARは応答を受けるメッセージ待ち行列 (RPYMSGQ)パラメーターに指定されたメッセージ待ち行列を参照します。その他の場合にはすべて、KEYVARはTOPGMQパラメーターに指定されているメッセージ待ち行列を参照します。

いずれのタイプのメッセージにも、プログラム・メッセージ待ち行列に送られる時には、キーを割り当てることができます。それ以外のメッセージ待ち行列に送られるメッセージの場合には、照会(*INQ)メッセージについてのみメッセージ参照キーを使用することができます。プログラム待ち行列以外の待ち行列に別のタイプのメッセージが送られる場合には、メッセージ・キーを使用することはできず、KEYVARにブランクが戻されます。

変数は、長さが4文字の文字変数でなければなりません。KEYVARが指定されていなくて、応答が必要な場合には、プログラムによってFIFO（先入れ先出し）順で受信することができます。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

指定されたメッセージまたはメッセージ・データのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。メッセージIDが指定された場合には、*CCHARタイプ・フィールドと対応するMSGDTA（メッセージ・データ）パラメーターによって指定されたテキストが、CCSIDパラメーターによって指定されたCCSIDになっているとみなされます。*CCHARタイプ・フィールドと対応していない指定されたデータは65535 であるとみなされて、変換されません。*CCHARタイプ・フィールドの詳細については、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドを参照してください。

メッセージIDが指定されない場合には、MSG（メッセージ）パラメーターによって指定されたテキストは、CCSIDパラメーターによって指定されたCCSIDになっているとみなされます。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックを参照してください。

***JOB** メッセージ・データまたは即時テキストは、このコマンドを実行するジョブのCCSIDに入っているとみなされます。

***HEX** メッセージ・データまたは即時テキストは変換されません。CCSID 65535が使用されます。

コード化文字セットID

メッセージまたはメッセージ・データが入っていると考えられる有効なCCSIDを指定してください。有効な値の範囲は1から65535です。このコマンドはCCSIDの妥当性検査を行います。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」情報を参照してください。

トップ

例

例1:置き換え値の指定

```
SNDPGMMSG MSGID(UIN0023) MSGF(INV) MSGDTA('50 100')
TOPGMQ(*EXT)
```

このコマンドは、メッセージ・ファイルINVに保管されている、UIN0023として識別されたメッセージをジョブの外部メッセージ待ち行列に送ります（表示装置では、「プログラム・メッセージ表示」によってメッセージが表示されます）。MSGDTAパラメーターによって指定された2つの置き換え値を含むデータがメッセージと一緒に送られます。そして、このデータは、メッセージ・ファイルでメッセージUIN0023がどのように定義されているかに応じて、メッセージが受け取られる時に置き換え値として使用したり、あるいはダンプを取るデータとして使用することができます。変数&1および&2がそれぞれ3文字の長さの文字変数としてメッセージ・ファイルに定義され、メッセージUIN0023の第1レベル・メッセージ・テキストは「REQUESTED ITEM DECREASED BY &1; CURRENT BALANCE &2.」であったとします。送られるメッセージは「REQUESTED ITEM DECREASED BY 50; CURRENT BALANCE 100.」となります。

例2:照会メッセージの送信

```
SNDPGMMMSG MSG('MOUNT CHECKS IN PRINTER BEFORE CONTINUING')
MSGTYPE(*INQ) TOMSGQ(*SYSOPR)
```

このコマンドは、照会メッセージをシステム操作員に送ります。操作員は、DSPMSGコマンドを使用することによって、送られたメッセージを調べ、その表示装置で直接メッセージに応答します。プログラムでは、操作員の応答を受け入れるためにメッセージ受信(RCVMSG)コマンドが使用されます。

例3:エスケープ・メッセージの送信

```
SNDPGMMMSG MSGID(USR0001) MSGF(USRMSGR) TOPGMQ(*PRV *)
MSGTYPE(*ESCAPE)
```

このコマンドは、異常終了の原因となる可能性があるメッセージがプログラムまたはプロシーチャーの呼び出し側にどのように送られるかの例です。メッセージUSR0001は、無効なコードが渡されたこと（数値が必要な場合の非数値など）を示している場合があります。送られているメッセージはエスケープ・メッセージであるので、そのメッセージを送っているプログラムまたはプロシーチャーを再開することはできません。値*PRVおよび*はTOPGMQパラメーターでは省略時の値であるため、このコマンドにコーディングする必要はありませんでした。

例4: ILEプロシーチャーへのエスケープ・メッセージの送信

```
SNDPGMMMSG MSGID(USR0001) MSGF(USRMSGR)
TOPGMQ(*SAME ACCOUNT_FINAL_TOTALS)
MSGTYPE(*ESCAPE)
```

このコマンドは、メッセージをILEプロシーチャーに送ります。この例では、呼び出しスタック項目識別コードが10文字を超えています。修飾子は指定されていないので、プロシーチャーの検索では、そのプロシーチャーに関連した実際のモジュール名および結合プログラム名は使用されません。要素1に*SAMEが指定されているため、このエスケープ例外メッセージはACCOUNT_FINAL_TOTALSと関連付けられたメッセージ待ち行列に送られます。

例5:修飾子を使用したエスケープ・メッセージの送信

```
SNDPGMMMSG MSGID(USR0001) MSGF(USRMSGR)
TOPGMQ(*PRV FIRST_QTR_SUMMARY SUMQTRS REPORTS)
MSGTYPE(*ESCAPE)
```

このコマンドは、エスケープ例外メッセージをプロシーチャーFIRST_QTR_SYMMARYの呼び出し側に送ります。プロシーチャーは、モジュール名SUMQTRSおよび結合プログラム名REPORTSによって修飾されています。このエスケープ例外メッセージは、送信プログラムを中断し、その送信プログラムは再開されません。

例6:部分プロシーチャー名を使用した完了メッセージの送信

```
SNDPGMMSG  MSGID(USR0001) MSGF(USRMSGR)
            TOPGMQ(*SAME 'MANAGE_SALES>>>') MSGTYPE(*COMP)
```

このコマンドは、名前がMANAGE_SALESで始まる最新のプロシージャーに、完了メッセージを送ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF24CB

*PGMNAMEにはプログラム名の指定が必要である。

CPF2409

指定のメッセージ・タイプは指定したプログラム・メッセージ待ち行列では正しくない。

CPF2428

メッセージ待ち行列パラメーターが正しくありません。

CPF2453

応答待ち行列が、送信元のプログラム・メッセージ待ち行列ではない。

CPF2469

メッセージ&1の送信中に、エラーが起こった。

CPF247A

呼び出しスタックの項目が見つからなかった。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF2524

理由コード&1のために例外処理プログラムを使用することができない。

CPF2550

削除されたプログラムまたはプロシージャーに例外メッセージが送られた。

CPF2702

装置記述&1が見つかりません。

CPF7C08

サポート・ネットワークと接続されない。

CPF8C0C

問題レコード&1の内容が正しくない。

CPF8C0E

ライブラリーQGPLが見つからない。

CPF8C01

IBMサービス・システムに接続することができない。1つのセッションが許されます。

CPF8C07

パラメーターが正しくない。

CPF8C08

制御点名に*SELECTを指定することはできない。

CPF8C09

&1はサービス提供元として定義されていない。

CPF8C16

要求の処理中にエラーが起こった。

CPF8C17

サインオンが正常に行なわれなかった。

CPF8C18

保守サポート・ネットワークと接続されない。

CPF8C19

リモート・サポート適用業務が正常に実行されなかった。

CPF8C2A

IBMサービス・システムに接続することができない。

CPF8C24

要求の処理中にエラーが起こった。

CPF8C27

代替ロード装置が見つからない。

CPF8C32

PTFの発注を処理することができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

PTFオーダーの送信 (SNDPTFORD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正発注送信(SNDPTFORD)コマンドを使用して、次の発注を準備することができます。

- 個別PTF
- 累積PTFパッケージ
- PTFグループ
- 使用可能なPTFの要約情報
- 予防保守計画(PSP)情報

制約事項:

1. このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QSRVおよびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用認可があります。

2. IMGDIRパラメーターには次の制約事項が適用されます。

- パス内の各ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
- 光ディスク・イメージを含むディレクトリーに対する*WX権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PTFID	PTF記述	値 (最大 20 回の繰り返し); 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: PTF識別コード	文字値, *CUMPKG, *HIPERGRP, *DB2GRP, *BRSGRP, *JVAGRP, *HTTPGRP, *PFRGRP	
	要素 2: プロダクト	文字値, <u>*ONLYPRD</u>	
	要素 3: リリース	文字値, <u>*ONLYRLS</u>	
PTFPART	PTF部品	<u>*ALL</u> , *CVRLTR	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, <u>*IBMSRV</u> , *SELECT	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	オプション
DELIVERY	配布方式	<u>*LINKONLY</u> , *ANY	オプション
DLVRYFMT	配信形式	<u>*SAVE</u> , *IMAGE	オプション
ORDER	オーダー	<u>*REQUIRED</u> , *PTFID	オプション
REORDER	追加オーダー	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CHKPTF	PTFの検査	<u>*NO</u> , *YES	オプション
IMGDIR	イメージ・ディレクトリー	パス名, <u>*DFT</u>	オプション
IMGPFX	イメージ・プレフィックス	文字値, <u>*DFT</u>	オプション

PTF識別コード (PTFID)

配列するPTFのリストを指定します。

要素1: PTF識別コード

*CUMPKG

システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリースに対する最新レベルの累積PTFパッケージ(SF99VRM)を発注します。HIPERおよびDB2 UNIVERSAL DATABASE (UDB)グループのPTFは、この発注によって自動的に要求されます。他のPTF IDまたは特殊値と一緒に発注することはできません。

*HIPERGRP

システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリースに対する最新レベルのHIPER PTFグループを発注します。

*DB2GRP

システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリースに対する最新レベルのDB2 UDB PTFグループを発注します。

*BRSGRP

システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリースに対する最新レベルのBACKUP RECOVERY SOLUTIONS PTFグループを発注します。

*HTTPGRP

システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリースに対する最新レベルのIBM HTTP SERVER PTFグループを発注します。

*JVAGRP

システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリースに対する最新レベルのJAVA PTFグループを発注します。

*PFRGRP

システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリースに対する最新レベルのPERFORMANCE TOOLS PTFグループを発注します。

文字値 PTF IDを指定してください。一部のPTFは、個別に発注するか、あるいは同じ接頭部を持つPTFのリストに入れて、一般リストの一部としてではなく発注しなければなりません。

累積PTFパッケージは形式SF99VRMを使用してソース・テーブルされ、予防サービス計画(PSP)形式はSF98VRMです。ここで、VRMはバージョン-リリース-モディフィケーションです。

要素2: プロダクト

*ONLYPRD

PTF IDはただ1つのプロダクトと関連しています。

注: この値およびORDER(*REQUIRED)が指定された場合には、そのプロダクトがユーザーのシステム上で導入またはサポートされている場合にだけ前提が送られます。

文字値 PTFが関連するプロダクトの7文字のプロダクトIDを指定してください。PTF IDが複数のプロダクトと関連している場合には、そのPTF発注は指定したプロダクトに限定されます。

要素3: リリース

***ONLYRLS**

PTF IDがただ1つのリリースと関連しています。

注: この値およびORDER(*REQUIRED)が指定された場合には、そのプロダクトがユーザーのシステム上で導入またはサポートされている場合にだけ前提が送られます。

文字値 6文字のリリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、およびMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

トップ

PTF部品 (PTFPART)

PTFまたはカバー・レターを発注中であるかどうかを指定します。

***ALL** PTFおよびカバー・レターは発注済みです。

***CVRLTR**

カバー・レターだけが発注済みです。

トップ

リモート制御点 (RMTCPNAME)

サービス要求の送り先のサービス提供元のリモート制御点を指定します。

***IBMSRV**

サービス要求は弊社保守サポートに送られます。

***SELECT**

サービス提供元のリストが表示されるので、ユーザーはサービス要求の宛先を選択することができます。

通信名 リモート制御点の名前を指定してください。

トップ

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

サービス提供元のネットワークのリモート名IDを指定します。

***NETATR**

サービス提供元はローカル・ネットワーク内にあります。

通信名 要求の送り先のサービス提供元のネットワーク名を指定します。

トップ

配布方式 (DELIVERY)

PTFの配布方法を指定します。

***LINKONLY**

PTFはエレクトロニック支援サービス・リンクによってのみ配布されます。サービス・リンクを使用するにはPTFが大きすぎる場合には、コマンドは失敗します。

***ANY** PTFは使用可能なすべての方法によって配布されます。大部分のPTFに、サービス・リンクが使用されます。PTFがサービス・リンクには大きすぎる場合には、選択された媒体に入れて送られます。

[トップ](#)

配信形式 (DLVRYFMT)

配布PTFの形式を指定します。

***SAVF**

PTFは、エレクトロニック支援サービス・リンクを通じて、保管ファイルとして配布されます。

***IMAGE**

PTFは、エレクトロニック支援サービス・リンクを通じて、光ディスク・イメージ・ファイルとして配布されます。光ディスク・イメージ・ファイルにはPTFとカバー・レターが含まれます。この光ディスク・イメージ・ファイルは、IMGDIRパラメーターによって指定したディレクトリーに保管されます。

[トップ](#)

オーダー (ORDER)

要求している修正のレベルを指定します。

***REQUIRED**

発注済みPTFおよびその要件が要求されています。

***PTFID**

特定の発注済みPTFは要求されているPTFです。前提PTFは送られません。

[トップ](#)

追加オーダー (REORDER)

現在ロード済み、適用済み、または発注中のPTFを再び発注する必要があるかどうかを指定します。

***NO** すでにロード済み、適用済み、または発注中のPTFは再発注されません。

***YES** すでにロード済み、適用済み、または発注中のPTFが再発注されます。

注: *SAVF配布形式が指定され、保管ファイルがシステム上で使用可能な場合には、PTFは再発注されません。

[トップ](#)

PTFの検査 (CHKPTF)

PTFプロダクトが導入またはサポートされているかどうかに基づいてPTFが発注されたかどうかを判別するために、サービス要求元システムの検査が実行されるかどうかを指定します。

- *NO** PTFプロダクトがサービス要求元で導入またはサポートされていない場合であっても、PTF ID (PTFID)パラメーターに指定されたPTFが発注されます。
- *YES** PTFプロダクトがサービス要求元で導入またはサポートされている場合にだけ、PTF ID (PTFID)パラメーターに指定されたPTFが発注されます。

トップ

イメージ・ディレクトリー (IMGDIR)

光ディスク・イメージ・ファイルが保管されるディレクトリーを指定します。

- *DFT** 光ディスク・イメージ・ファイルは/QIBM/USERDATA/OS/SERVICE/ECSディレクトリーに保管されます。

パス名 既存のディレクトリーを指定してください。パス名の指定に関する詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter))のCL参照情報にある「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

イメージ・プレフィックス (IMGPFX)

光ディスク・イメージ・ファイル名の接頭部を指定します。

- *DFT** ファイルはサービス・プロバイダーによって命名されます。

文字値 保管中の光ディスク・イメージに命名する時に使用される接頭部を指定してください。1回の発注で複数のイメージが受け取られる場合は、ファイルがイメージ名の数値接尾部によって固有に識別されます。ファイル名の指定に関する詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「CL概念と参照」のトピック中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

例

例1: PTF番号のみによるPTFの発注送信

```
SNDPTFORD PTFID((SI12345) (SI12346))
```

このコマンドは、PTF番号SI12345およびSI12346の要求を送信します。

例2: プロダクトおよびリリースによるPTFの発注送信

```
SNDPTFORD PTFID((SI12345 5722SS1 V5R3M0))  
          DELIVERY(*ANY) ORDER(*REQUIRED)
```

このコマンドは、オペレーティング・システム・プロダクトのバージョン5リリース1モディフィケーション0 (5722SS1)に対するPTFの要求を送信します。PTFは使用可能なすべての方法によって配布することが可能です。必要条件がPTFとともに送信されます。

例3:最新の累積PTFの発注送信

```
SNDPTFORD PTFID((*CUMPKG))
```

このコマンドは、システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリース・レベルに対する最新のPTF累積パッケージが送信されるよう要求します。

例4: PTFグループの発注送信

```
SNDPTFORD PTFID((SF99893))
```

このコマンドは、PTFグループ番号SF99893の要求を送信します。

例5: *IMAGE配布形式でのDB2 UDBグループの発注送信

```
SNDPTFORD PTFID((*DB2GRP)) DELIVERY(*LINKONLY)  
          DLVRYFMT(*IMAGE)
```

このコマンドは、システムに導入済みのオペレーティング・システムのリリースに対する最新レベルのDB2 UDB PTFグループの要求を送信します。このPTFグループは、/QIBM/USERDATA/OS/SERVICE/ECSディレクトリー内部の光ディスク・イメージ・ファイルに保管されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2702

装置記述&1が見つかりません。

CPF7C08

サポート・ネットワークと接続されない。

CPF8C0C

問題レコード&1の内容が正しくない。

CPF8C0E

ライブラリーQGPLが見つからない。

CPF8C01

IBMサービス・システムに接続することができない。1つのセッションが許されます。

CPF8C07

パラメーターが正しくない。

CPF8C08

制御点名に*SELECTを指定することはできない。

CPF8C09

&1はサービス提供元として定義されていない。

CPF8C16

要求の処理中にエラーが起こった。

CPF8C17

サインオンが正常に行なわれなかった。

CPF8C18

保守サポート・ネットワークと接続されない。

CPF8C19

リモート・サポート適用業務が正常に実行されなかった。

CPF8C2A

IBMサービス・システムに接続することができない。

CPF8C24

要求の処理中にエラーが起こった。

CPF8C27

代替ロード装置が見つからない。

CPF8C32

PTFの発注を処理することができない。

CPF8C99

PTF &2-&1 &3が発注されていない。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ファイル送信/受信 (SNDRCVF)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ファイル送し/受け取り(SNDRCVF)コマンドは、ユーザーが対話式に使用している装置との間でデータを受け渡しするためにCLプロシージャーによって使用されます。データは、SNDRCVFコマンドが使用されたプログラムとそのコマンドによって識別される表示装置との間で受け渡しされます。データの受け渡しは、プログラム中で宣言された表示装置ファイルを使用して行われます。(プログラムのコンパイルに使用される、ソースに含まれるファイル宣言(DCLF)コマンドは、ファイルを宣言するために使用されています。)送し/受け取りの各操作のデータは、このコマンドのRCDFMTパラメーターによって識別された形式で1つのレコードとして受け渡しされます(この形式はデータ記述仕様(DDS)に定義される)。データを渡すために、レコード様式の各フィールドで1つのCL変数を使用されます。使用されるCL変数(DDS標識も含む)は暗黙に宣言されます。

DCLFコマンドに指定されたレコード様式の中で、各SNDRCVFコマンドに指定できるレコード様式は1つだけです。装置ファイルがオープンされていない場合には、このコマンドによってオープンされます。このコマンドに指定されたファイルおよびレコード様式は、ファイルのオープン前にそれを入力した場合には、表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンドによって一時変更することができますが、一時変更しているレコード様式のフィールドがそのプログラムに宣言されたCL変数と対応していなければならないことに注意してください。

制約事項:このコマンドは、CLプロシージャー内で表示装置ファイルに対してのみ有効です。データベース・ファイルでは、これを使用することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	表示装置	名前, <u>*FILE</u>	オプション, 位置 1
RCDFMT	レコード様式	名前, <u>*FILE</u>	オプション, 位置 2
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, <u>*NONE</u>	オプション
WAIT	待機	<u>*YES</u> , *NO	オプション

トップ

表示装置 (DEV)

表示装置の名前を指定します。この表示装置にCLプログラムのデータが送られ、この表示装置からユーザーのデータを受け取ります。このパラメーターにCL変数を指定することにより、コマンドを変更せずに装置名だけを変えることができます。

***FILE** データは、装置ファイル (DCLFコマンドのFILEパラメーターで宣言された装置ファイル) に対応する装置との間でやりとりされます。装置ファイルに複数の装置名が指定されている場合には、*FILEを指定することはできません。

名前 装置の名前を指定するか、あるいは、CLプロシージャーがデータのやりとりをする相手の装置の名前が入っているCL変数の名前を指定してください。CL変数名がこのパラメーターで使用された場合には、このプログラムで複数の装置からデータを受け取るためのSNDRCVFコマンドは、1つしか必要ではありません。

トップ

レコード様式 (RCDFMT)

CLプロシージャーとユーザーとの間でのデータのやりとりに使用するレコード様式の名前を指定します。この様式には、レコード中のすべてのフィールドが入っています。装置ファイルに複数のレコード様式がある場合には、このパラメーターをレコード様式名でコーディングする必要があります。これが複数ある場合には、*FILEをコーディングすることはできません。SNDRCVFはINVITE DDSキーワードを無視します。

***FILE** 装置ファイルの中にはレコード様式は1つしかありません。ユーザーとの間のデータのやりとりにはその様式が使用されます。

名前 データがユーザーとの間で受け渡しされる時のレコード様式の名前を指定します。レコード様式名に、CL変数を使用することはできません。

トップ

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

同じCLプロシージャー内の先行するファイル宣言(DCLF)コマンドで宣言したオープン・ファイルIDを指定します。このパラメーター値にCL変数を指定することはできません。

***NONE**

オープン・ファイルIDは指定されていません。このコマンドは、OPNIDパラメーターに*NONEを指定したDCLFコマンドと関連したファイルを使用します。オープン・ファイルIDとして*NONEが指定されているCLプロシージャーでは1つのファイルしか宣言できません。

単純名 同じCLプロシージャー内の先行するDCLFコマンドのOPNIDパラメーター値と一致する名前を指定してください。

トップ

待機 (WAIT)

CLプロシージャがユーザーの装置からデータの受け取りを待機するか、あるいはこのSNDRCVFコマンドの後に続くコマンドの処理で続行するかを指定します。WAIT(*NO)が指定された場合には、入力操作を完了するために、プログラムは後でWAITコマンドをプログラム中で出す必要があります。

注: CL変数はこのパラメーターにコーディングすることはできません。

- *YES** プログラムは、装置からの入力操作が完了するまで待ちます。それまでは後続のコマンドは処理されません。
- *NO** プログラムは、入力データを待たずに、プログラムの中にWAITコマンドが出てくるまで、後続のコマンドを処理します。

トップ

例

例1:レコード様式が1つである表示装置ファイルの使用

```
DCLF FILE(MENU1)
:
SNDRCVF
```

このコマンドは、装置ファイルMENU1を経由して、ユーザー・データのやり取りを行います。このファイルにはレコード様式が1つしかありません。使用される装置は、このファイルに指定されているものです。

例2:レコード様式が複数ある表示装置ファイルの使用

```
DCLF FILE(SCR) RCDFMT(REC8)
:
SNDRCVF RCDFMT(REC8)
```

CLプロシージャは、ユーザーにデータを送り、装置ファイル(DEVが指定されていないので、*FILEが指定されているとみなされます)に指定された装置を使用しているユーザーのデータを受け取ります。データは、SCRという名前の装置ファイルにあるREC8レコード様式によって指定された形式で渡されます。CLプロシージャは、続行する前にユーザー・データを待機します。

例3:装置名にCL変数を使用

```
DCLF FILE(DF1) RCDFMT(REC8)
:
SNDRCVF DEV(&DN) RCDFMT(REC8) WAIT(*NO)
:
WAIT DEV(&DN)
```

このコマンドは、DF1という名前の装置ファイルを経由して、ユーザー・データのやり取りを行います。CLプロシージャは、レコード様式REC8を使用して、自身と変数&DNに指定された装置にいるユーザーとの間でデータの受け渡しを行います。応答が戻ってくるのを待ちません。プロシージャが複数の装置とデータをやり取りする場合は、同じSNDRCVFコマンドを使用することができます。DEVパラメーターに&DNによって指定された装置のみを変更する必要があります。すべての装置が応答するように、各装置に対するWAITコマンドは、プロシージャの後の方で出す必要があります。

例4:オープン・ファイルIDの使用

```
DCLF FILE(SCREEN1) RCDFMT(REC1 REC2) OPNID(OUTDSP1)
DCLF FILE(SCREEN2) RCDFMT(REC3 REC4) OPNID(OUTDSP2)
:
SNDRCVF DEV(*FILE) RCDFMT(REC2) OPNID(OUTDSP1) WAIT(*YES)
```

SCREEN1という名前の装置ファイルを使用して、同じ装置ファイルに指定された表示装置にデータを送り、入力を待ちます。データは、レコード様式REC2によって指定された形式でユーザーに提示されます。SNDRCVFコマンドに指定されたオープン・ファイルIDが表示装置ファイルSCREEN1に対するDCLFコマンドに指定されたオープン・ファイルIDと一致するので、SNDRCVFコマンドは表示装置ファイルSCREEN1と関連付けられます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0859

ファイル一時変更により入出力バッファー・サイズを超えた。

CPF0861

ライブラリー&2のファイル&1が表示装置ファイルでない。

CPF0863

1 0進CL変数に2進データの値が大きすぎる。

CPF0864

&2のファイル&1でファイルの終わりが検出された。

CPF0883

ファイル&1のDEVパラメーターの*FILEが正しくない。

CPF0886

レコードに正しくないデータ・フィールドが入っている。

CPF0887

前の入力要求のデータが使用可能である。

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

CPF5068

プログラム装置&4がライブラリー&3のファイル&2に見つからない。

CPF5070

ライブラリー&3のファイル&2には獲得済みプログラム装置がない。

トップ

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan